多賀城市文化財調査報告書第 146 集

新田・山王・高崎・西沢遺跡ほか

―震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ―

令和３年３月

多賀城市教育委員会

序　文

東北地方の太平洋沿岸部に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、１０年の歳月が経過しました。有史以来､国内最大といわれる巨大地震により、本市において内陸部で多くの家屋が損壊したほか、高さ４ｍにも達する津波により、沿岸部の住宅地や工場地帯が壊滅的な被害を受けました。

このような緊急事態に際し、職員一同、市民生活の早急な復旧・復興を目指す一方で、周知の埋蔵文化財包蔵地が市域の４分の１を超える本市においては、発掘調査をいかに円滑に進めていくかが大きな課題となっておりました。

幸いにも、文化財に対する市民の皆様の御理解と、友好都市である奈良市をはじめ、宮城県、山形県、神奈川県、印西市、府中市から専門職員の派遣をいただき、１０年間にわたる震災復興に伴う発掘調査を滞ることなく実施することができました。１０年間で実施した調査は１１４件にもおよびますが、復興最優先で取組むことはもちろんのこと、貴重な文化財を後世に伝えていくという責務のもと、適切に記録保存を図ってまいりました。

本書は、平成２９年度に刊行した「震災復興関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ」に後続するものであり、報告書Ⅰに未収録であった調査及び平成２９年度以降に実施した調査を合わせた７０件の調査成果を収録しています。この中には、古代多賀城南面に施行された方格地割の調査や、中世館跡に伴う大規模な区画施設の調査など、本市の歴史を解明する上で貴重な成果も多く含まれております。

本報告書が、文化財に対する皆様の御理解の一助になるとともに、本市のみならず東北地方の歴史を研究する際に永く活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本市の復旧・復興に際して御支援をいただきました関係機関、発掘調査に対して御理解と御協力を賜りました地権者の皆様をはじめ、関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

令和３年３月

多賀城市教育委員会
教育長　麻生川 敦

例　言

1　本書は、復興庁が交付した「東日本大震災復興交付金」により、多賀城市教育委員会が行った埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　本書は、新田遺跡、山王遺跡、市川橋遺跡、西沢遺跡、高崎遺跡、高崎古墳群、小沢原遺跡、野田遺跡、八幡館跡、八幡沖遺跡、東原遺跡、大代遺跡、大代囲貝塚、西原遺跡、大日南遺跡の、合わせて 70 件の内、遺構・遺物が発見された 39 件の発掘調査成果をまとめている。遺構・遺物が発見されなかった調査については、第Ⅰ章　調査一覧にのみ掲載とする。
3　記載されている発掘調査は、2011 年３月 11 日の東日本大震災を原因としたものであり、復興事業に伴う埋蔵文化財の取り扱い規定に基づき、原則として、遺構確認面の第一面の確認調査で留めている。
4　遺構の名称は、各遺跡、第１次調査からの通し番号である。
5　平成 14 年４月１日の測量法の改正に従い、本書では緯経度の基準を世界測地系で表示している。
6　土色は、『新版標準土色帖』（小山・竹原　1996）を参考にした。
7　第Ⅱ～Ⅺ章までの執筆は、調査担当者の遺構調書に従い、表１のとおり菅原哲文･武田健市が行った。また、第Ⅰ章については、『多賀城市文化財調査報告書第 137 集　新田・山王遺跡ほか―震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅰ―』の第Ⅰ章に掲載されなかった遺跡のみ取り扱い、それ以外の重複する部分については第 137 集を参照のこと。
8　遺物の写真撮影は有限会社　仙台写真工房に委託した。本書の編集は、菅原哲文が行った。
9　調査に関する諸記録及び出土遺物は、全て多賀城市教育委員会が保管している。

目　次

Ⅰ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 1
Ⅱ　新田遺跡の調査…… 3
Ⅲ　山王遺跡の調査…… 31
Ⅳ　市川橋遺跡の調査…… 130
Ⅴ　高崎遺跡の調査…… 146
Ⅵ　高崎古墳群の調査…… 184
Ⅶ　大日南遺跡の調査…… 185
Ⅷ　西沢遺跡の調査…… 189
Ⅸ　八幡館跡の調査…… 249
Ⅹ　八幡沖遺跡の調査…… 267
Ⅺ　大代囲洞窟の調査…… 286
Ⅻ　図版…… 289

調査要項

1　調 査 主 体　多賀城市教育委員会
教育長　菊地昭吾（～平成 28 年９月 30 日）
教育長　小畑幸彦（平成 28 年 10 月１日～令和元年９月 30 日）
教育長　麻生川 敦（令和元年 10 月１日～）

2　調 査 担 当　多賀城市埋蔵文化財調査センター
所　長　鈴木典男（平成 23 年 11 月１～平成 26 年３月 31 日）
所　長　板橋秀徳（平成 26 年４月１日～平成 30 年３月 31 日）
所　長　佐藤良彦（平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日）
所　長　伊藤文昭（平成 31 年４月１日～）

3　調査担当者　多賀城市埋蔵文化財調査センター
主　幹　武田健市（～ H31.3）
副主幹　島田敬（～ H28.4）　相澤清利（～ H28.10）　千葉孝弥（H30.4 ～ ）
赤澤靖章（H31.4 ～）　齋藤健（R2.4 ～）　菅原哲文（R2.4 ～）
村松稔
研究員　小原一成（～ H27.3）　石川俊英（～ H30.3）　熊谷満（H27.4 ～ H29.12）
畠山未津留（H27.4 ～ H31.3）　大木丈夫（H31.4 ～）　大場正善（R2.4 ～）
技　師　小原駿平（H28.4 ～）　佐藤純平（H31.4 ～）
調査員　高橋純平（H23.7 ～ H27.3）　板垣泰之（H24.4 ～ H26.8）
村上詩乃（H25.4 ～ H29.3）　城口貴彰（H25.7 ～ H27.3）
茂泉光雄（H27.4 ～ H30.10）　鈴木隆政（H30.4 ～ H31.2）
名取健一（H30.4 ～ R2.3）　李スルチョロン（H30.11 ～ R 元 .12）
佐藤則之（H31.4 ～）　桑折肇（R2.2 ～）
自治法派遣職員　奈 良 市　宮﨑正裕（H25.4 ～ H26.3）中島和彦（H26.4 ～ H27.3）
印 西 市　杉山祐一（H31.4 ～ R2.3）
神奈川県　関健吾（H28.4 ～ R2.3）

4　整理従事者　阿部麻衣子　有路尚子　石垣玲子　内海美由紀　浦山紀以子　奥田美雪　加藤京子
川名直子　菊池あかね　小泉絢子　佐々木直美　佐々木宣子　佐藤里美　佐藤ゆかり
髙橋明子　滝野とし子　千葉貴久江　千葉郁美　長瀬真貴子　秦千尋　堀川紀子
宮城ひとみ　村上和惠

凡　例

1　本書で使用した遺構の略称は、次のとおりである。
ＳＡ：柱列跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＤ：溝跡　　ＳＥ：井戸跡　　ＳＫ：土坑　　Ｐ：柱穴
ＳＩ：竪穴建物跡

2　奈良･平安時代の土器の分類記号は「市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ」（多賀城市教育委員会　2003）に従った。

3　本文中の「灰白色火山灰」の年代については、伐採年代が 907 年とされた秋田県払田柵跡外郭線Ｃ期存続中に降灰し、承平４年（934 年）閏正月 15 日に焼失した陸奥国分寺七重塔の焼土層に覆われていることから､907 ～ 934 年の間とする考えと､『扶桑略記』延喜 15 年（915 年）７月 13 日条にある「出羽国言上雨灰高二寸諸郷桑枯損之由」の記事に結びつけ 915 年とする考えがある（町田洋「火山灰とテフラ」『日本第四紀地図』1987、阿子島功･壇原徹「東北地方、10 Ｃ頃の降下火山灰について」『中山久夫教授退官記念地質学論文集』1991)。本書ではこれらの研究成果を基に、灰白色火山灰を 10 世紀前葉に降下したものとする。

表１　調査地一覧

※　震災復興関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ掲載

	遺跡・調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査担当者	執筆
新田遺跡						
1	新田遺跡第 84 次	新田字西後 13 － 1 、14 － 1	平成 24 年 2 月 28 日 ～ 3 月 14 日	52 ㎡	石川	武田
2	新田遺跡第 93 次	山王字西町浦５－６	平成 25 年 2 月 13 日 ～ 2 月 28 日	78 ㎡	村松	武田
3	新田遺跡第 94 次	新田字新後 143 － 26、17 － 1 17 － 2 、19 － 1 、４外	平成 25 年 3 月 5 日 ～ 3 月 26 日	190 ㎡	村松	武田
4	新田遺跡第 99 次	山王字南寿福寺 51 － 6	平成 26 年 7 月 30 日 ～ 8 月 7 日	62 ㎡	武田	武田
5	新田遺跡第 116 次	新田字上 95 － 2 、96 － 2	平成 29 年 1 月 27 日	83 ㎡	武田 村松	※
6	新田遺跡第 118 次	新田字南安楽寺 60 － 1	平成 29 年 4 月 10 日～ 4 月 14 日	55 ㎡	石川 熊谷	—
7	新田遺跡第 134 次	新田字西後１－７、１－５	令和元年 5 月 20 日	44 ㎡	佐藤（純）	関
8	新田遺跡第 137 次	南宮字庚申 292、293 － 1 、293 － 2	令和元年９月１２日～ ９月２１日	49 ㎡	千葉	—
9	新田遺跡第 139 次	新田字後 103 － 1 、103 － 11	令和元年 10 月 28 日 ～ 11 月 16 日	54 ㎡	赤澤	赤澤
10	新田遺跡第 142 次	山王字南寿福寺 1 － 1	令和２年４月８日～ ５月１日	112 ㎡	菅原	菅原
11	新田遺跡第 148 次	山王字北寿福寺 48 － 24	令和２年 10 月６日～ 10 月 23 日	69 ㎡	齋藤 大木	大木
山王遺跡						
12	山王遺跡第 107 次	山王字西町浦 92 － 1 、89 － 9	平成 24 年 6 月 12 日 ～ 6 月 14 日	27 ㎡	村松	—
13	山王遺跡第 112 次	山王字中山王 44 － 2	平成 24 年 9 月 13 日 ～ 10 月 12 日	47 ㎡	村松 畠山 髙橋	小　原（駿）
14	山王遺跡第 119 次	山王字掃下し２－１、２－９、２－ 10 の各一部	平成 24 年 10 月 26 日 ～ 11 月 28 日	303 ㎡	村松 畠山 髙橋	小　原（駿）
15	山王遺跡第 123 次	山王字前田 28 － 3 ・29、山王字山王四区 177 － 1 、178 － 1	平成 25 年 1 月 16 日～ 2 月 27 日	97 ㎡	村松	小　原（駿）
16	山王遺跡第 125 次	山王字山王一区１の一部	平成 25 年 3 月 7 日 ～ 3 月 19 日	123 ㎡	村松 畠山 髙橋	小　原（駿）
17	山王遺跡第 135 次	山王字山王三区 56 － 6	平成 25 年 10 月 1 日 ～ 12 月 4 日	36.7 ㎡	武田 村上	武田
18	山王遺跡第 140 次	山王字西町浦 34 － 16	平成 26 年 1 月 15 日 ～ 1 月 17 日	7 ㎡	武田 城口	—
19	山王遺跡第 141 次	山王字山王四区 185 － 8	平成 26 年 2 月 4 日 ～ 2 月 27 日	45 ㎡	村松 髙橋	小　原（駿）
20	山王遺跡第 142 次	山王字山王四区 92 － 1 他	平成 26 年 4 月 18 日～ 9 月 9 日	570 ㎡	中島 高橋 村上 城口	武田

	遺跡・調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査担当者	執筆
21	山王遺跡第 146 次	山王字伊勢 70 番外 11 筆	平成 26 年 10 月 29 日～平成 27 年 1 月 14 日	226 ㎡	武田	
22	山王遺跡第 148 次	山王字西町浦 34 － 77	平成 27 年 5 月 18 日～6 月 1 日	28 ㎡	武田	
23	山王遺跡第 149 次	南宮字町 28 － 1	平成 27 年 7 月 15 ～7 月 31 日	53 ㎡	浦山	佐　藤（純）
24	山王遺跡第 158 次	山王字北寿福寺 76 － 11	平成 28 年 2 月 26 日	9 ㎡	武田	—
25	山王遺跡第 159 次	南宮字町 56	平成 28 年 2 月 29 日～3 月 17 日	88 ㎡	熊谷	佐　藤（純）
26	山王遺跡第 162 次	山王字山王一区 16	平成 28 年 5 月 16 日～6 月 15 日	144 ㎡	相沢小原（駿）	小　原（駿）
27	山王遺跡第 168 次	山王字山王四区 89 － 10、91 － 9	平成 28 年 9 月 6 日～11 月 28 日	168 ㎡	村松石川	小　原（駿）
28	山王遺跡第 193 次	南宮字町 52 の一部	平成 29 年 8 月 18 日～9 月 1 日	180 ㎡	村松	小　原（一）
29	山王遺跡第 194 次	南宮字町 22 － 2	平成 29 年 10 月 31 日～11 月 21 日	90 ㎡	村松	小　原（一）
30	山王遺跡第 210 次	南宮字町 180、西町浦 89 － 5	平成 31 年 5 月 7 日～5 月 23 日	78 ㎡	大木	大木
市川橋遺跡						
31	市川橋遺跡第 83 次	城南 2 丁目 11 － 2	平成 24 年 3 月 1 日～3 月 13 日	31 ㎡	島田	武田
32	市川橋遺跡第 85 次	城南 2 丁目 2 － 6	平成 24 年 4 月 25 日～5 月 26 日	96 ㎡	村松	武田
33	市川橋遺跡第 87 次	城南 2 丁目 19 － 7、19 － 8	平成 24 年 12 月 13 日～12 月 17 日	16 ㎡	村松	—
34	市川橋遺跡第 88 次	城南 1 丁目 8 － 3	平成 26 年 2 月 13 日～2 月 27 日	60 ㎡	武田	武田
35	市川橋遺跡第 89 次	城南 2 丁目 17 － 1 ・20	平成 26 年 9 月 18 日～10 月 10 日	16 ㎡	石川	武田
36	市川橋遺跡第 90 次	城南 1 丁目 13 － 4	平成 27 年 8 月 31 日～9 月 1 日	4 ㎡	石川	—
37	市川橋遺跡第 99 次	城南 2 丁目 16 － 1、16 － 2、16 － 3、16 － 4、16 － 5	令和 2 年 6 月 9 日～6 月 26 日	137 ㎡	大木大場	—
高崎遺跡						
38	高崎遺跡第 92 次	留ヶ谷 1 丁目 22 － 18	平成 24 年 2 月 16 日	4 ㎡	相沢	小　原（駿）
39	高崎遺跡第 94 次	高崎 2 丁目 181 － 3 の一部	平成 24 年 9 月 5 日	16 ㎡	村松	—
40	高崎遺跡第 95 次	高崎 1 丁目 95 － 3、132 － 27 の一部	平成 24 年 9 月 14 日	16 ㎡	村松	—
41	高崎遺跡第 96 次	高崎 2 丁目 35 － 1、35 － 2、36 － 2、42 － 2	平成 25 年 6 月 20 日～9 月 20 日	900 ㎡	宮崎	菅原
42	高崎遺跡第 107 次	高崎 2 丁目 81 － 10 ・32	平成 27 年 2 月 3 日～2 月 5 日	10 ㎡	武田村上	—

	遺跡・調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査担当者	執筆
43	高崎遺跡第 108 次	留ケ谷１丁目 106 －６	平成 27 年 7 月 7 日～7 月 12 日	33 ㎡	相沢 小原（駿）	
44	高崎遺跡第 113 次	高崎２丁目 296 －５	平成 30 年 2 月 22 日	8 ㎡	石川	
45	高崎遺跡第 115 次	高崎２丁目 63 －２	平成 30 年 9 月 27 日	1 ㎡	村松	
46	高崎遺跡第 123 次	高崎２丁目 87 －５、88 －８	令和 2 年 2 月 26 日	10 ㎡	大木	
高崎古墳群						
47	高崎古墳群第 13 次	高崎 2 丁目 232、234 － 1 、234 －６、230 －３、230 －９	令和元年 7 月 2 日～9 月 30 日	192 ㎡	千葉	武田
大日南遺跡						
48	大日南遺跡第 12 次	高橋４丁目 20 －８、20 － 29	平成 26 年 4 月 10 日～4 月 24 日	63 ㎡	武田	武田
49	大日南遺跡第 16 次	高橋４丁目 18 －７	令和元年 5 月 20 日	8 ㎡	杉山	—
西沢遺跡						
50	西沢遺跡第 31 次	浮島字沢前 20、20 －１の各一部、20 － 10	平成 29 年 8 月 22 日	12 ㎡	石川	—
51	西沢遺跡第 36 次	市川字伊保石 55、浮島字西沢 60 －１の一部	平成 30 年 7 月 24 日～8 月 1 日	350 ㎡	村松	—
52	西沢遺跡第 37 次	市川字伊保石 55、浮島字西沢 60 －１の一部	令和元年 6 月 13 日～令和 2 年 2 月 26 日	2500 ㎡	佐藤（純） 李 赤澤	菅原
八幡館跡						
53	八幡館跡第７次	八幡 371、372 －１の各一部	平成 25 年 4 月 10 日～6 月 13 日	175 ㎡	宮崎 板垣	武田
八幡沖遺跡						
54	八幡沖遺跡第６次	明月１丁目 32・34 番地内	平成 24 年 7 月 3 日～8 月 18 日	156 ㎡	武田 石川	小 原（—）
55	八幡沖遺跡第８次	宮内１丁目地内	平成 26 年 12 月 2 日～12 月 19 日	1062 ㎡	村松	—
56	八幡沖遺跡第 10 次	宮内１丁目地内	平成 27 年 3 月 10 日～3 月 13 日	7 ㎡	村松	小 原（—）
57	八幡沖遺跡第 11 次	宮内１丁目地内	平成 26 年 5 月 8 日～平成 27 年 6 月 30 日	789 ㎡	村松	
58	八幡沖遺跡第 12 次	宮内１丁目地内	平成 27 年 9 月 28 日～10 月 1 日	100 ㎡	村松	小 原（—）
59	八幡沖遺跡第 14 次	宮内１丁目 178 －１の一部（仮換地）２Ｂ－２Ｌ	平成 28 年 6 月 9 日～6 月 19 日	180 ㎡	熊谷	小 原（—）

	遺跡・調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査担当者	執筆
60	八幡沖遺跡第15次	宮内１丁目112－３、114－１、114－３、115－１、116－１（１B　２－11）	平成28年10月18日～11月9日	586㎡	熊谷	小　原(一)
61	八幡沖遺跡第16次	宮内１丁目地内	平成28年11月28日～11月30日	160㎡	熊谷	―
62	八幡沖遺跡第17次	宮内１丁目70－１・２・４、71－２・３、147－２、150	平成29年6月26日～6月28日	18㎡	石川	小　原(一)
大代囲洞窟						
63	大代囲洞窟第２次	大代５丁目81－４	平成26年5月14日～5月20日	52㎡	小原(一)	小　原(一)
大代遺跡						
64	大代遺跡第３次	大代６丁目４－１	平成27年10月20日	25㎡	熊谷	―
65	大代遺跡第４次	大代６丁目	平成29年12月19日	30㎡	武田	―
66	大代遺跡第５次	大代６丁目27－２、27－４の一部、27－５の一部	令和2年10月14日～10月21日	50㎡	菅原	―
東原遺跡						
67	東原遺跡第１次	栄３丁目185	平成27年10月28日	25㎡	熊谷	―
68	東原遺跡第２次	栄３丁目13－１の一部	令和2年7月1日～7月2日	50㎡	菅原	―
野田遺跡						
69	野田遺跡第５次	留ヶ谷２丁目14－２	平成27年1月28日	6㎡	武田	―
西原遺跡						
70	西原遺跡第３次	大代１丁目125－20、125－42	平成25年4月12日	18㎡	武田	―

Ⅰ　遺跡の地理的・歴史的環境

多賀城市は、宮城県の中央やや北寄りに位置し、南西側で仙台市、北西側で利府町、北東側で塩竈市、南東側で七ヶ浜町と接している。地形的には、多賀城市中央部を北西から南東方向に貫流する砂押川を境に、東側の丘陵部と西側の沖積地に二分される。丘陵部は、松島・塩釜方面から延びる低丘陵であり、沖積地は、仙台平野の北東部に相当する。仙台市岩切方面から東に向かう県道泉・塩釜線沿いには、標高５～６ｍの微高地が延びており、その北側には低湿地が広がっている。一方、南側には大小の微高地や低湿地、旧河道があり、海岸に近い場所には、浜堤列が確認できる。

市川橋遺跡は、標高２～３ｍの沖積地に立地し、その範囲は東西約 1.4 ㎞、南北約 1.6 ㎞である。多賀城南面の広い範囲を占めており、山王遺跡と同様に古代の方格地割に基づくまち並みが形成されている。

高崎古墳群は、北西側に張り出す低丘陵の先端付近に立地し、その範囲は東西約 120 ｍ、南北約 140 ｍである。現在確認できる古墳は１基のみである。

高崎遺跡は、低丘陵の西端部に立地し、その範囲は東西約 1.3 ㎞、南北約１㎞である。これまで、古墳時代から近世までの遺構・遺物が発見されている。古代では、多賀城廃寺跡の西側で約 60 軒の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、井戸跡などが発見されている。また、井戸尻地区では大量の灯明皿が一括廃棄された状況で発見され、周辺で万灯会のような仏教儀式が執り行われていたと考えられている。

八幡館跡は、標高６～ 13 ｍの低丘陵に位置し、その範囲は東西約 300 ｍ、南北約 250 ｍである。これまでの調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡、中世城館に伴う空堀や溝跡等を発見している。

西沢遺跡は、松島丘陵から塩釜方面に向かって張り出した低丘陵上の南西端部に位置し、東西約 450 ｍ、南北約 700 ｍの範囲を占めている。これまでの調査では、平安時代の竪穴建物跡や鍛冶工房跡、土器埋設遺構などを発見した他、中世では掘立柱建物跡群や区画溝も発見している。

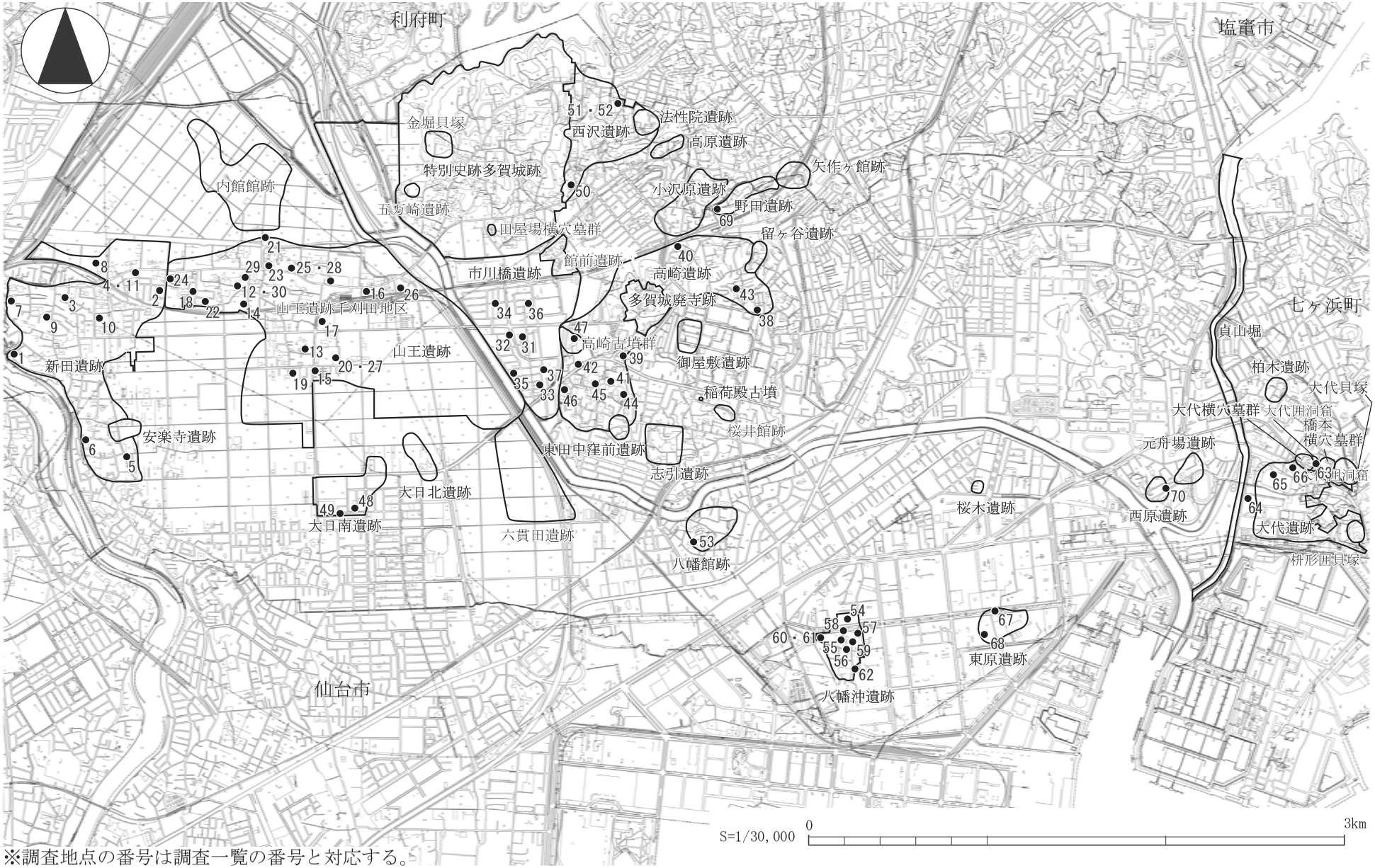
八幡沖遺跡は、市南端部に位置し、海岸線まで約 2.5 ㎞の浜堤上に立地している。その範囲は東西約 280 ｍ、南北約 380 ｍである。これまでの調査では、古墳時代後期の土器埋設遺構の他、古代の四面庇付掘立柱建物跡や土器一括廃棄土壙、中世の井戸跡や区画溝等を発見している。

大日南遺跡は、標高３ｍの沖積地に立地している。これまでの調査で、15・16 世紀を中心とする武士の屋敷跡を発見しており、新田遺跡と同様に留守氏との関連が示唆されている。

小沢原遺跡は、多賀城市北部の標高 10 ～ 23 ｍの低丘陵に立地し、その範囲は東西・南北ともに約 400 ｍである。これまでの発掘調査では、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝、土器埋設遺構などいずれも平安時代を中心とした遺構・遺物を発見している。

野田遺跡は、多賀城市北部の標高 10 ～ 23 ｍの低丘陵に立地し、その範囲は東西 400 ｍ、南北 90 ｍである。これまでの調査では、古代の竪穴建物跡、溝跡、土壙を発見している。

西原遺跡は、砂押側左岸の後背湿地上に立地しており、その範囲は東西、南北共に約 130 ｍである。過去には宮城県文化財保護課の分布調査が行われ、その際に少量の土師器が散布していたことから遺跡として登録されたが、これまでの調査において遺構・遺物は発見していない。



※調査地点の番号は調査一覧の番号と対応する。

図１　復興事業に伴う発掘調査箇所

新田遺跡
93次調査
99次調査
148次調査
137次調査
142次調査
94次調査
139次調査
北寿福寺
北寿福寺中公園
北寿福寺2号公園
北寿福寺3号公園
南寿福寺公園
新田後公園
新田後2号公園
東北本線
S=1/3,000
0
50
100m
本書掲載調査区
過去の調査区

新田遺跡調査区位置図

新田遺跡第 93 次調査

1　要項

調 査 地　山王字西町浦５－２

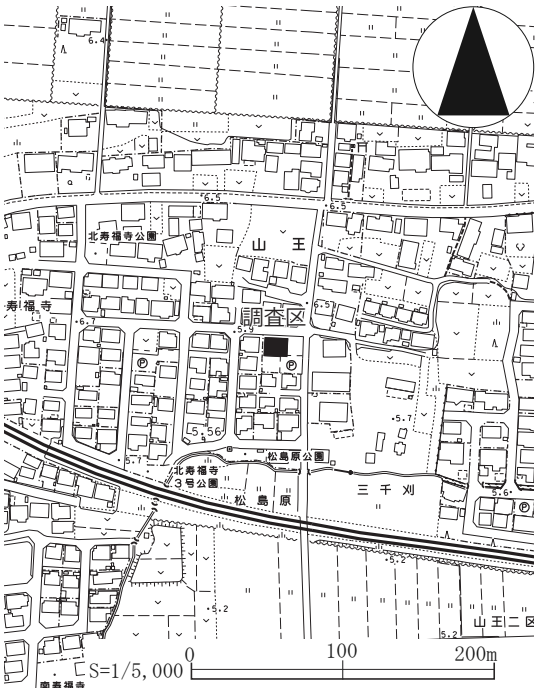
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 25 年２月 13 日～２月 28 日

対象面積　646.74 ㎡

調査面積　84.9 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

2/13　重機による表土掘削

2/14　調査器材搬入、遺構検出作業開始（～ 2/22）

2/20　写真撮影準備

2/21　調査区全景写真撮影

2/22　平面・断面図作成、測量基準点移動（～ 2/27）

2/28　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（1）層序（第３図）

Ⅰ　層：現代の盛土であり、厚さは約 60 ㎝である。

Ⅱ 1 層：西壁付近で確認できる褐色シルト（10YR4/4）であり、厚さは２～ 12 ㎝である。

Ⅱ 2 層：西壁付近で確認できる灰黄褐色シルト（10YR4/2）であり、厚さは 15 ～ 22 ㎝である。

Ⅲ　層：炭化物が混入する黒褐色シルト（10YR2/2）である。表土掘削時に大部分を重機で掘り下げているが、調査区壁面でみると全域に分布していたことが明らかである。厚さは５～ 30 ㎝であり、本調査ではＳＤ 2233 の検出面となっている。

Ⅳ　層：灰黄褐色シルト（10YR4/2）であり、厚さは 10 ～ 20 ㎝である。古代の遺構検出面である。

Ⅴ　層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）であり、厚さは約 10 ㎝である。

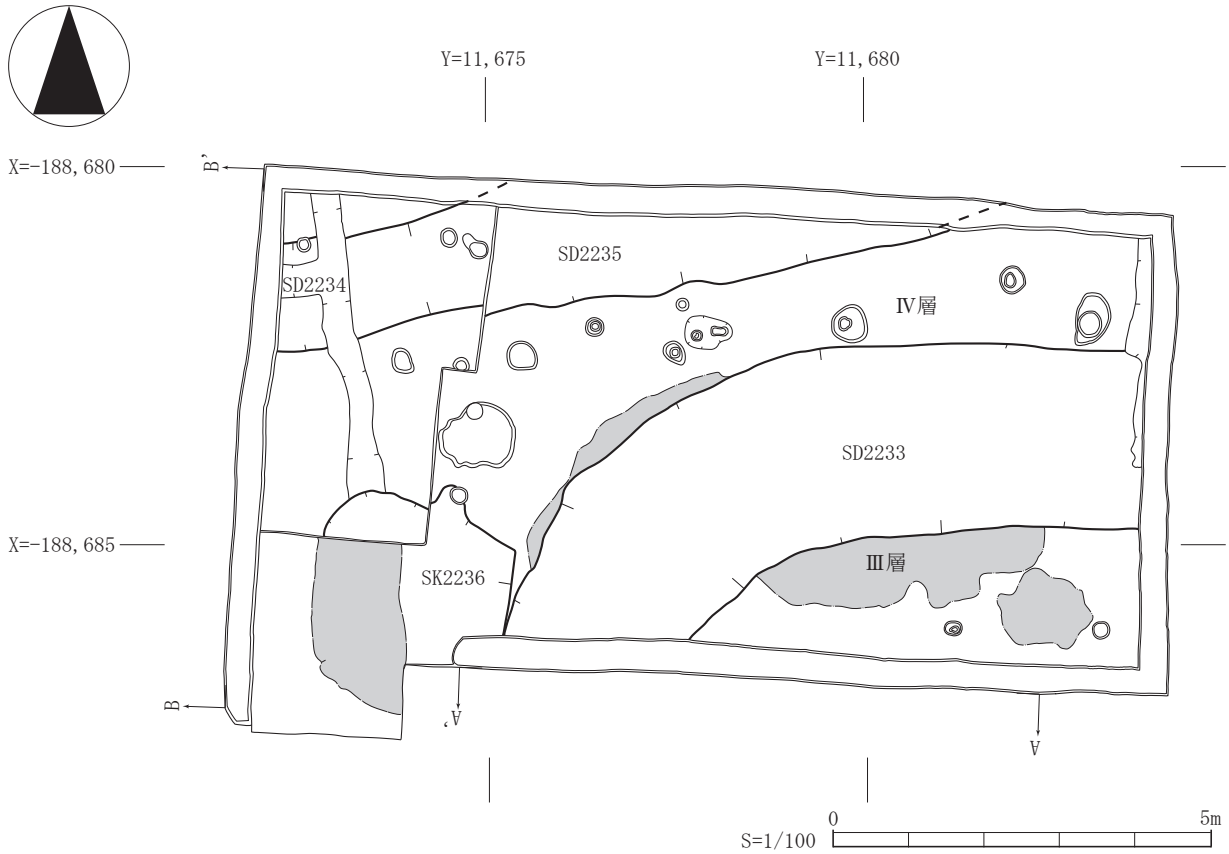
Ⅵ　層：灰黄褐色粘質土（10YR4/2）である。南壁でみると西側から東側に向かって落ち込んでいることから、河川埋土の可能性がある。

Ⅶ　層：にぶい黄橙色粘質土（10YR6/3）である。

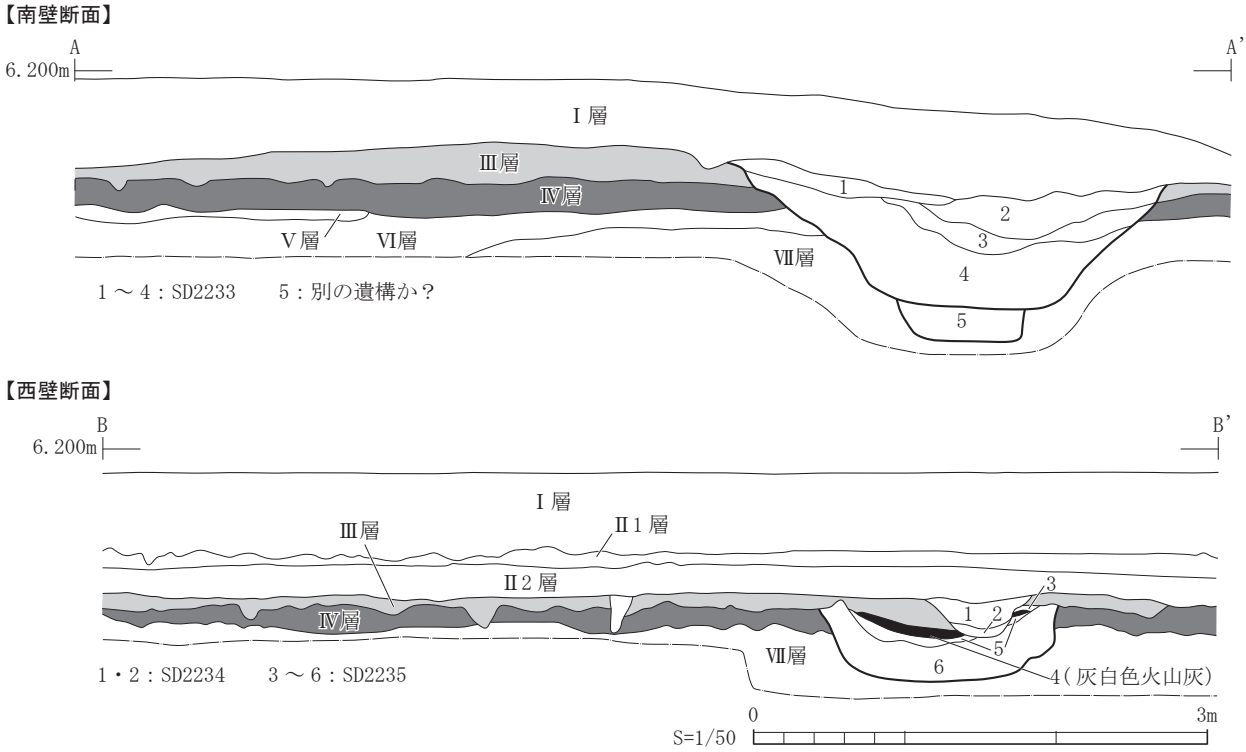
（2）発見遺構と遺物

ＳＤ 2235 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区北側のⅣ層上面で発見した、東西方向の溝跡である。



第２図　遺構平面図



第３図　調査区壁面断面図

【重複】ＳＤ 2234 と重複し、それよりも古い。

【方向・規模】方向は、西で約 12 度南に偏している。規模は、全長 10.2 m以上、上幅約 1.6 m、下幅 1.1 m、深さ 50 ㎝である。

【壁・底面】調査区西壁でみると、壁はおよそ垂直に立ち上がっている。底面はやや丸みを帯びて窪んでおり、断面は箱堀状を呈している。

【埋土】調査区西壁で４層に細分できる（第３図【西壁断面】３～６）。３層は褐灰色粘質土（10YR4/1）、４層が灰白色火山灰層（10YR8/2）、５層が赤灰色粘土（2.5YR4/1）、６層が灰黄褐色土（10YR4/2）であり、このうち６層にはⅦ層に起因する径５㎝程度のブロックが混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】埋土上位（第３図４層）に灰白色火山灰が自然堆積していることから、10 世紀前葉以前に掘削されたことが明らかである。

ＳＫ 2236 土壙（第２図）

【位置】調査区南西部のⅣ層上面で発見した土坑である。

【重複】他の遺構との重複はない（註）。

【平面形・規模】平面形は南北にやや長い方形を基調としており、北辺中央部に突出部が認められる。規模は長軸 3.1 m、短軸 2.6 mである。

【壁・底面】未掘のため不明である。

【遺物】出土していない。

【年代】不明

ＳＤ 2233 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区中央部から南側のⅢ層上面で発見した、調査区東側－南側に湾曲する溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない（註）。

【方向・規模】東西方向は、概ね東西発掘基準線に沿っている。規模は、全長 8.5 m以上、調査区南壁でみると、上幅 2.8 m、下幅 1.1 m、深さ約１mである。

【壁・底面】壁は急角度で立ち上がっている。底面は平坦である。

【埋土】調査区南壁で４層に細分することができる（第３図【調査区南壁断面】１～４）。１層はオリーブ褐色シルト（2.5YR4/3）、２層は灰黄褐色シルト（10YR4/2）、３層は褐灰色シルト（10YR4/1）、４層は褐灰色粘土（10YR4/1）が主体である。このうち、２層には白色土及び黒色土が斑状に混入しているほか、３層には砂粒が薄層状に認められる。

【遺物】出土していない。

新田遺跡第 94 次調査

１　要項

調 査 地　新田字後 143 － 26 ほか

調査原因　共同住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 25 年３月５日～３月 26 日

対象面積　2,245.05 ㎡

調査面積　213.48 ㎡

第１図　調査区位置図

２　調査経過

3/5　重機による表土掘削、調査器材搬入

3/6　調査区内の環境整備、遺構検出作業開始
以後、遺構検出作業及び写真撮影順次実施

3/19　平面・断面図作成開始（～ 3/21）

3/22　調査器材搬出

3/26　重機による調査区埋戻し（調査終了）

３　調査成果

（１）層序（第２図）

Ⅰ　層：現代の盛土であり、厚さは約１ｍである。

Ⅱ１層：褐灰色シルト（10YR2/1）であり、厚さ最大 40 ㎝である。近世の陶磁器が混入している。

Ⅱ２層：褐灰色シルト（10YR2/1）であり、黄橙色砂質土（10YR5/4）が多量に混入している。厚さは 10 ～ 25 ㎝である。

Ⅲ　層:にぶい黄橙色シルト（10YR5/4）であり、厚さは 20 ～ 30 ㎝である。本地区の最終遺構検出面（地山）である。

Ⅳ　層：にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）であり、厚さは 30 ㎝以上である。

（２）発見遺構と遺物

Ⅲ層上面で、柱列跡３条、小溝群をはじめとする溝跡などを発見した。

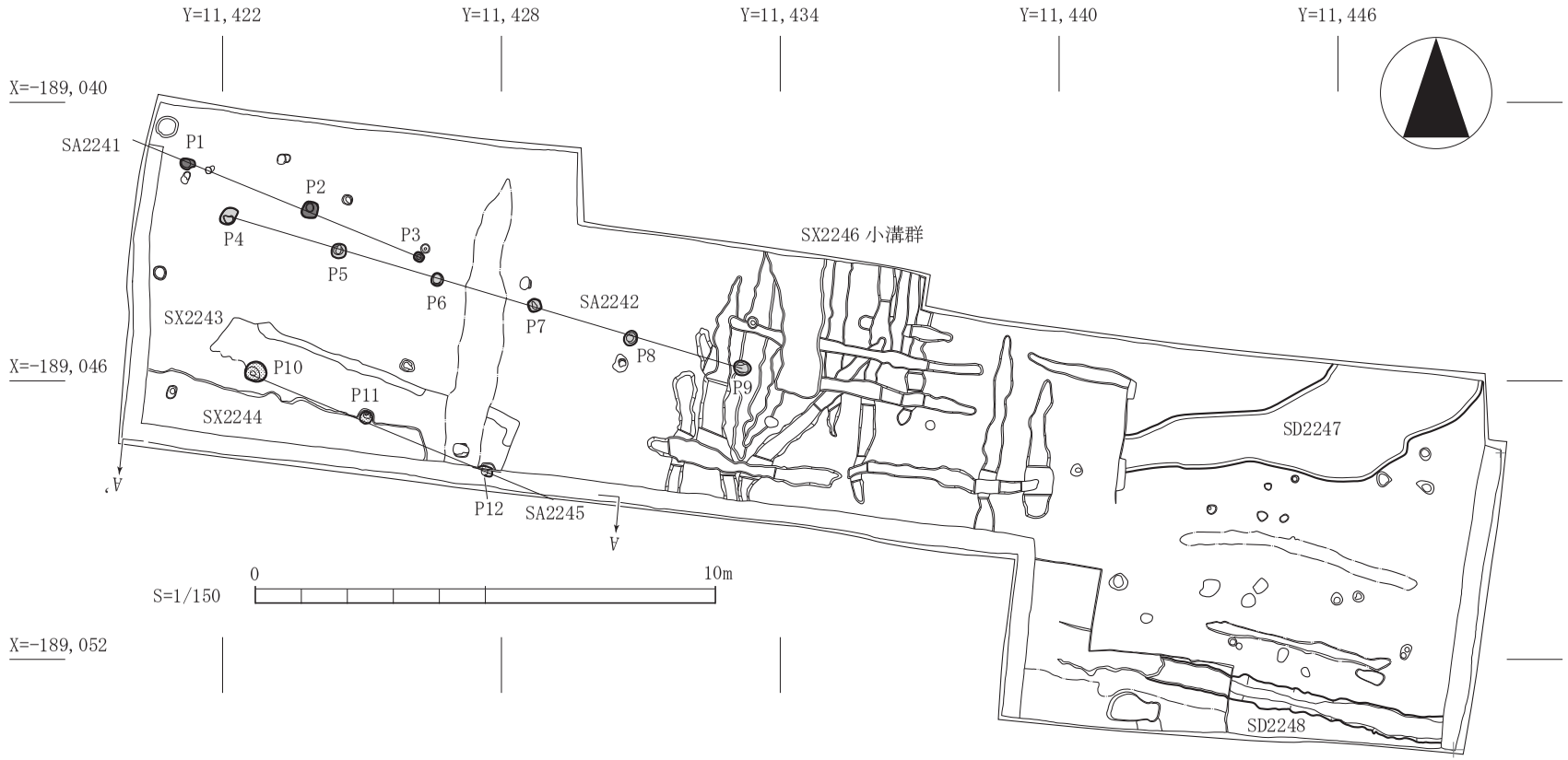
ＳＡ 2241 柱列跡（第２図）

【位置】調査区北西側で発見した３基の柱穴（Ｐ１～３）より推測した、東西２間以上の柱列跡である。

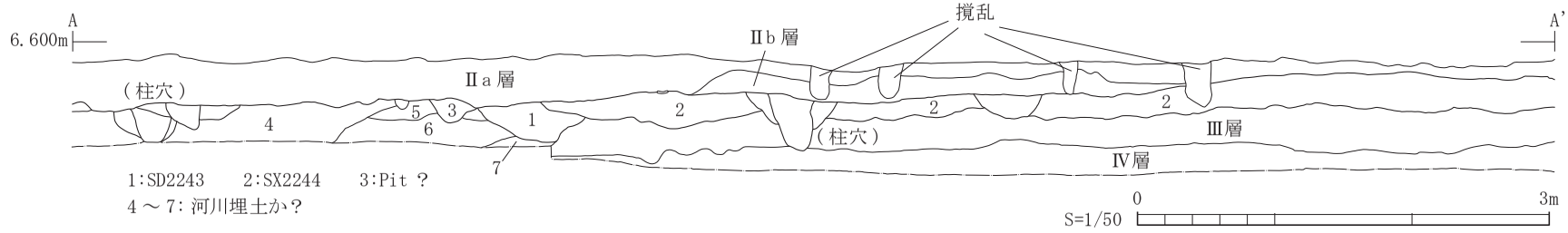
【柱痕跡・抜取り穴の有無】Ｐ２で抜取り穴を確認した。

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向･規模】方向は、西で約 22 度北に偏している。規模は、全長 5.2 ｍ以上、柱間は西から約 2.9 ｍ、約 2.3 ｍである。



【南壁西側断面】



第２図　遺構平面・断面図

【掘方・規模】いずれも不整形である。規模は、Ｐ１が長軸32㎝、短軸24㎝で、埋土は黄褐色砂質土(10YR5/8)である。Ｐ２は長軸37㎝、短軸34㎝で、埋土はオリーブ色土（5Y5/4）に暗オリーブ色ブロックが少量混入している。Ｐ３は長軸21㎝、短軸18㎝で、埋土は黒褐色砂質土（10YR3/2）に黄褐色砂質土（2.5Y5/4）ブロックが多く混入している。
【遺物】出土していない。

ＳＡ2242柱列跡（第２図）
【位置】調査区西側中央部で発見した、東西５間（Ｐ４～９）以上の柱列跡である。
【柱痕跡・抜取り穴の有無】全ての柱穴で抜取り穴を確認した。
【重複】ＳＸ2246小溝群と重複し、それより新しい。
【方向・規模】方向は、西で約16度北に偏している。規模は、全長約11.5ｍ以上、柱間は西から約2.5ｍ、約2.1ｍ、約2.1ｍ、約2.1ｍ、約2.5ｍである。
【掘方・規模】いずれも不整形である。規模はＰ４で測ると、長軸40㎝、短軸29㎝である。埋土はオリーブ色砂質土（5Y5/4）であり、暗オリーブ灰色土ブロックが多く混入している。
【遺物】出土していない。

ＳＡ2245柱列跡（第２図）
【位置】調査区北西部で発見した。３基の柱穴（Ｐ10～12）から推測した東西２間以上の柱列跡である。
【柱痕跡・抜取り穴の有無】全ての柱穴で抜取り穴を確認した。
【重複】ＳＸ2243、ＳＸ2244と重複し、それらより新しい。
【方向・規模】方向は、西で約23度北に偏している。規模は、全長5.5ｍ以上、柱間は西から約2.6ｍ、約2.9ｍである。
【掘方・規模】いずれも不整形である。規模はＰ10で測ると、長軸45㎝、短軸42㎝である。埋土は黒褐色土（10YR3/2）であり、褐灰色ブロックが多く混入している。。
【遺物】出土していない。

写真図版

調査区全景（東から）

調査区全景（西から）

新田遺跡第 99 次調査

1　要項

調 査 地　山王字南寿福寺 51 － 6

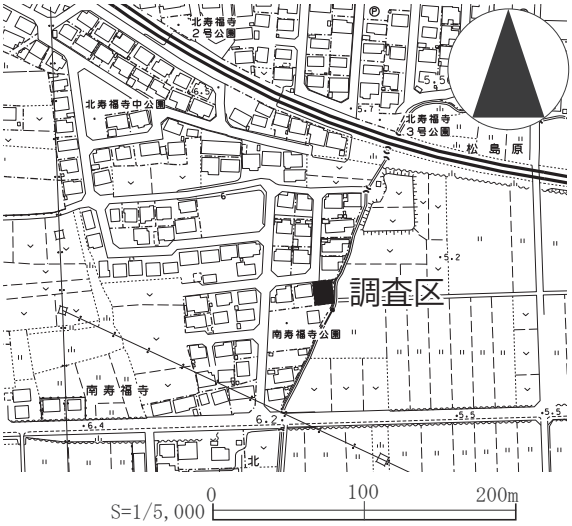
調査原因　個人住宅建築

調査担当　武田健市

調査期間　平成 26 年 7 月 30 日～ 8 月 7 日

対象面積　105 ㎡

調査面積　62 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

7/30　重機による表土掘削

　　排水用側溝設置など環境整備

8/2　遺構検出作業、黒褐色土（Ⅲ層）上面で溝跡確認

8/5　測量基準点移動、平面図及び調査区壁面の断面図作成、調査器材搬出

8/7　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

本調査では、黒褐色砂質土（Ⅲ層）上面で溝跡・土壙、Ⅳ層上面で溝跡を発見した。

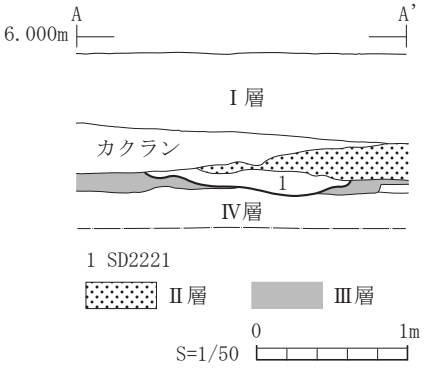
（1）層序（第 2 図）

Ⅰ層　現代の盛土であり、厚さは約 80 ㎝である。

Ⅱ層　黒褐色砂質土（10YR3/2）であり、厚さは北東隅で測ると約 20 ㎝である。確認した標高値や土色の様子から、寿福寺地区をはじめとする新田遺跡や、同じ沖積地上に位置する山王遺跡で確認される 14 世紀後半頃の堆積層（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1990 ほか）と同一のものである。

Ⅲ層　褐色砂質土（10YR4/4）及び黒褐色粘質土（10YR2/2）が多量に混入する、黒褐色砂質土（10YR3/2）である。厚さは北東隅で測ると約 10 ㎝であり、ＳＤ 2221・2222、ＳＫ 2220 の検出面である。

Ⅳ層　褐灰色粘土（10Y5/1）がわずかに混入する褐色砂質土（10YR4/4）であり、ＳＤ 2223 の検出面である。



第 2 図　調査区北東部断面図

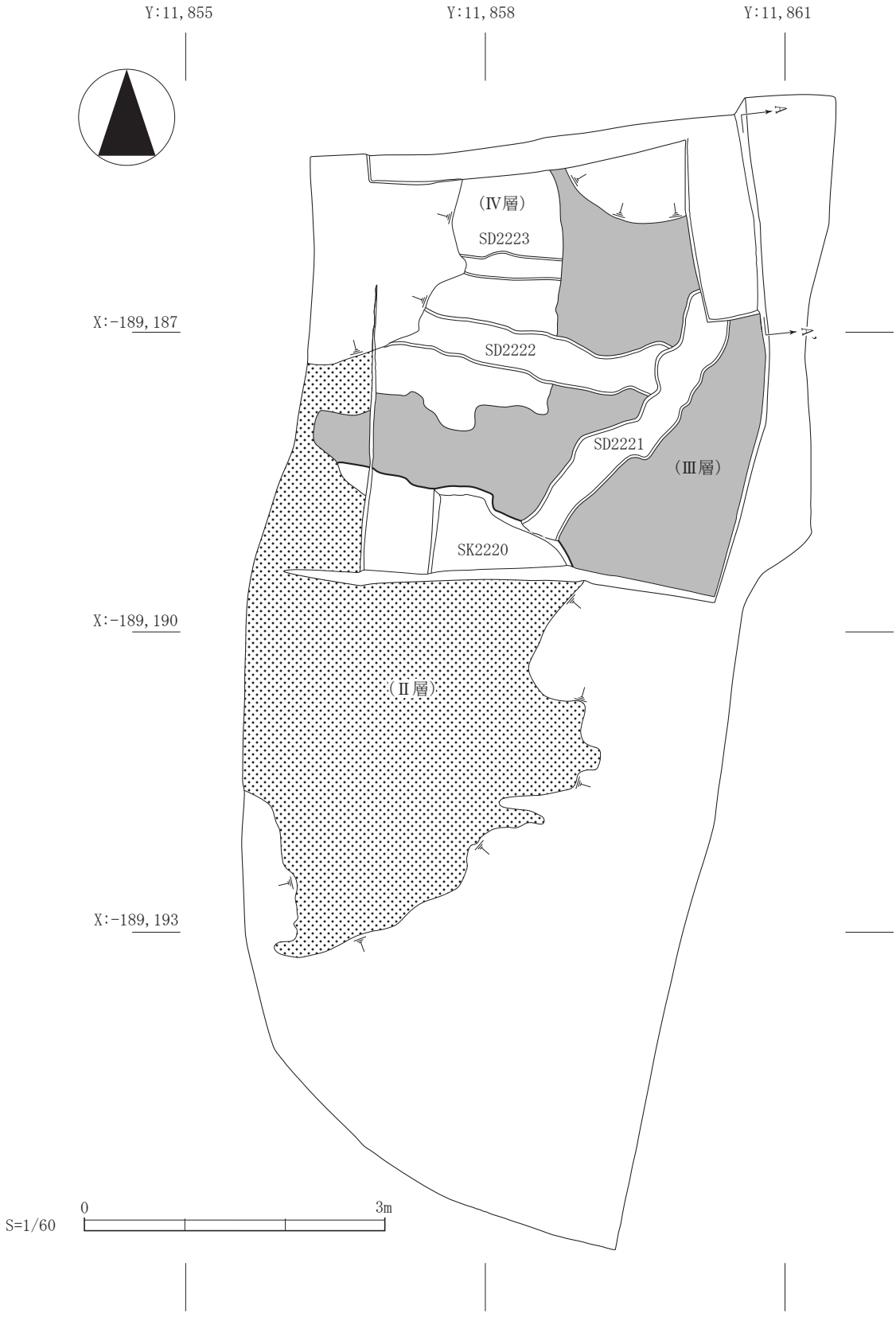
（2）発見遺構と遺物

本調査区では、Ⅲ層及びⅣ層上面で溝跡を発見した。

【Ⅳ層上面】

ＳＤ 2223 溝跡（第 3 図）

【位置】調査区北半部で発見した、東西方向の溝跡である。


Y:11,855
Y:11,858
Y:11,861
X:-189,187
X:-189,190
X:-189,193
A
A'
(Ⅳ層)
SD2223
SD2222
SD2221
(Ⅲ層)
SK2220
(Ⅱ層)
0
3m
S=1/60

第３図　遺構平面図

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向】東で約３度南に偏している。

【規模】長さ１ｍ以上、上幅は約 20 ㎝である。

【埋土】黒褐色砂質土（10YR3/2）であり、黄褐色砂質土（10YR4/4）が多量に混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】ＳＤ 2223 は、14 世紀後半頃の堆積層であるⅡ層よりも古いⅢ層に覆われていることから、それ以前のものである。

【Ⅲ層上面】

ＳＤ 2221 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区北半部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2222、ＳＫ 2220 と重複し、ＳＫ 2220 よりも古く、ＳＤ 2222 よりも新しい。

【方向・規模】方向は、北で約 40 度東に偏している。規模は、長さ３ｍ以上、上幅 35 ～ 50 ㎝である。

【埋土】黄灰色粘質土（2.5Y5/1）であり、僅かに明黄褐色粘質土（2.5Y6/6）が混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】Ⅲ層上面を覆うⅡ層（黒褐色砂質土）が 14 世紀後半頃の堆積層であることから、それ以前のものである。

ＳＫ 2220 土壙（第３図）

【位置】調査区中央部で発見した。周辺地区で確認されている区画溝北東端部の可能性もあるが、ここでは土壙と判断した。

【重複】ＳＤ 2221 と重複し、それよりも新しい。

【規模】東西 2.4 ｍ以上、南北 0.9 ｍ以上である。

【埋土】黄灰色粘質土（2.5Y5/1）であり、明黄褐色粘質土（2.5Y6/6）及び黒褐色粘質土（10YR2/2）が多量に混入している。

【壁・底面】埋土掘下げは行っていないことから明らかでない。

【遺物】出土していない。

【年代】Ⅲ層上面を覆うⅡ層（黒褐色砂質土）が 14 世紀後半頃の堆積層であることから、それ以前のものである。

（参考文献）

多賀城市埋蔵文化財調査センター『新田遺跡　第４・11 次調査』多賀城市文化財調査報告書第 23 集 1990

多賀城市教育委員会『多賀城市内の遺跡２　平成 21 年度発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第 99 集 2010

写真図版

調査区全景（西側から）

新田遺跡第 139 次調査

1　要項

調 査 地　新田字後 103 － 1 ほか

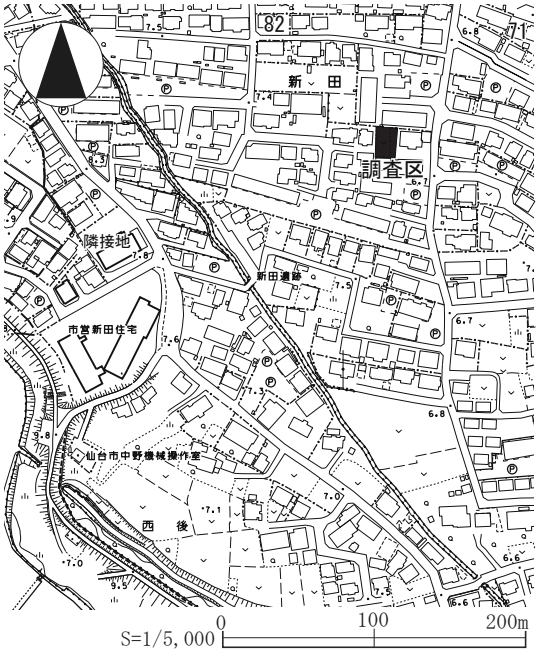
調査原因　個人住宅建築

調査担当　赤澤　靖章

調査期間　令和元年 10 月 28 日～ 11 月 15 日

対象面積　681.36 ㎡

調査面積　54 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

10/28　重機による表土掘削

遺構検出作業及び個別遺構写真撮影

遺構平面・断面図作成（～ 11/8）

11/15・16　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（1）層序

Ⅰ１層：現代の盛土であり、山砂を多く含む。厚さは20 ～ 40㎝ある。

Ⅰ２層：にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）で、現代の水田耕作土である。厚さは20 ～ 30㎝である。土師器甕、須恵器坏（Ⅰ類）が出土している。

Ⅱ　層：褐色土（7.5YR4/3）である。厚さは約20㎝である。

Ⅲ１層：にぶい黄褐色土（10YR5/4）である。上面が古代と考えられる遺構検出面である。厚さは5 ～ 20㎝である。土師器甕、須恵器坏（Ⅱ類）が出土している。

Ⅲ２層：褐色土（10YR4/4）である。厚さは約10㎝で、調査区西側では確認されていない。

Ⅳ　層：黒褐色粘土（10YR3/2）である。

（2）発見遺構と遺物

ＳＸ2207小溝群（第２・３図）

【位置】調査区全面で検出した小溝群である。

【変遷】小溝同士の重複及び方向・位置関係から、２時期の変遷（Ａ群→Ｂ群）を確認した。

Ａ群

【方向・規模】東西方向の一群である。２条検出しており、東で約９度北に偏している。長さは最も長いもので3.3ｍ以上、上幅20 ～ 33㎝、深さ６㎝である。溝同士の間隔は、約1.8ｍである。

【埋土】いずれも、暗褐色土（10YR3/3）の単層である。

【遺物】出土していない。

B群

【方向・規模】南北方向である。４条検出し北で西に31度偏している。長さは最も長いもので1.7m以上、上幅32 ～ 45cm、深さ５～ 20cmである。

【埋土】いずれも、暗褐色土（10YR3/3）の単層である。

【間隔】1.6 ～ 2.5mである。

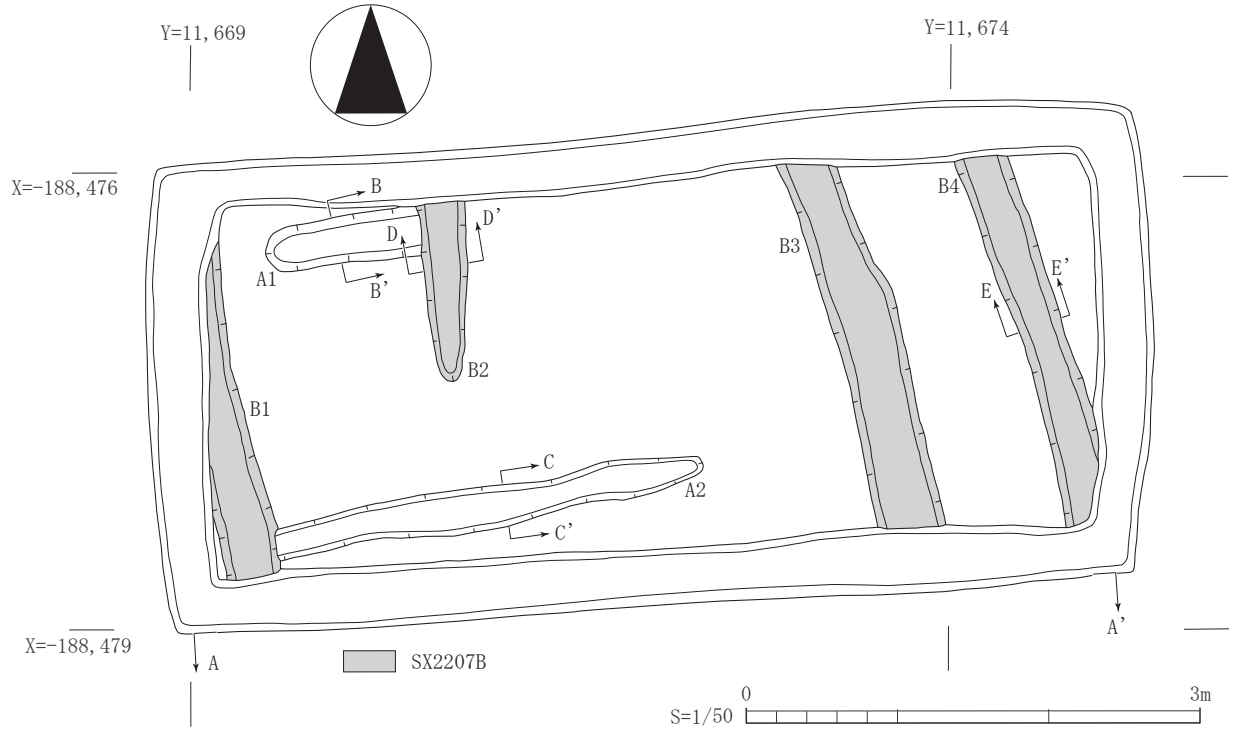
【遺物】土師器甕、須恵器坏が出土している。

３　まとめ

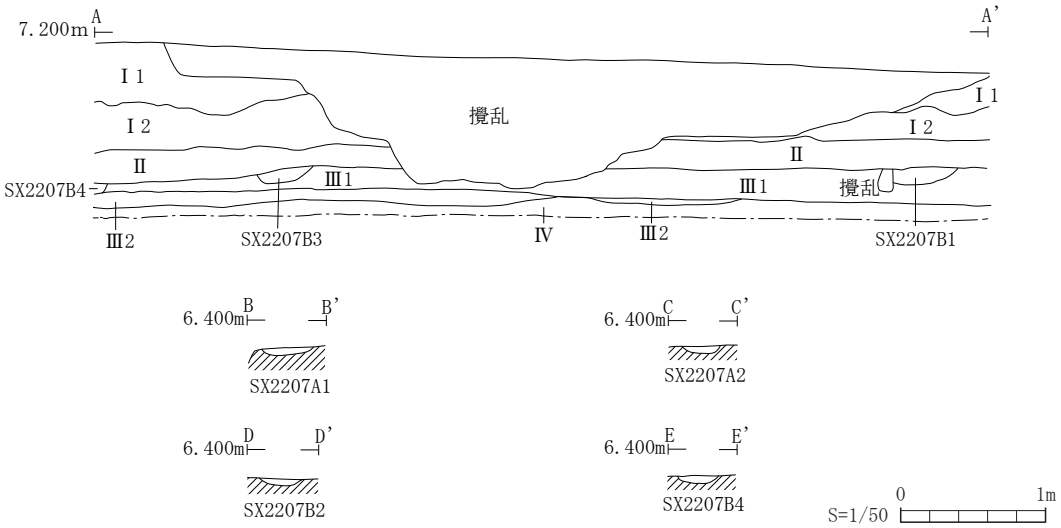
今回の調査では、Ⅲ１層上面で小溝群を検出した。遺物は土師器甕、須恵器坏がわずかに出土した。

隣接地で行われた新田遺跡第９次調査（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1989）、13次調査（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1994）では、古代の時期とする南北方向と東西方向とからなる小溝群が報告されている。このことから、本調査で発見された小溝群も古代に属するものと推定される。

（参考文献）
多賀城市埋蔵文化財調査センター『年報３ 昭和63年度』多賀城市文化財調査報告書第20集 1989
多賀城市埋蔵文化財調査センター『多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 第７号』1994



第２図　遺構平面図



第３図　調査区南壁・ＳＸ2207小溝群断面図

写真図版

ＳX2207小溝群検出（南から）

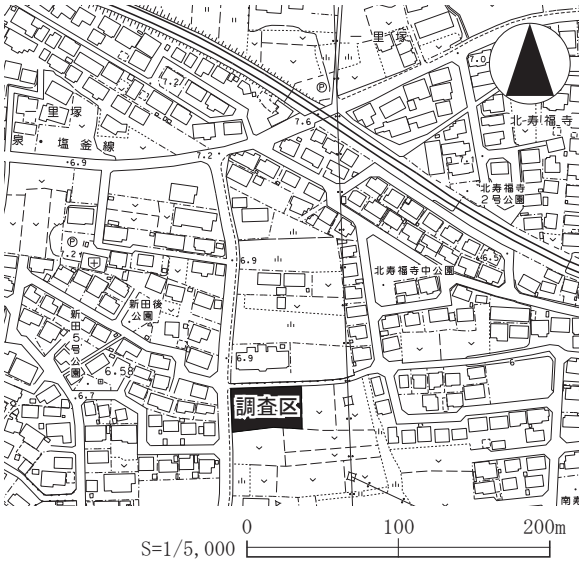
ＳX2207小溝群完掘状況（南から）

調査区南壁断面（北から）

新田遺跡第142次調査

１　要項

調 査 地　　山王字南寿福寺１－１
調査原因　　宅地造成
調査担当　　村松稔・菅原哲文
調査期間　　令和２年４月８日～令和２年５月１日
対象面積　　1342.46㎡
調査面積　　112㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

4/8　重機による表土掘削（～ 4/10）
4/9　ユニットハウス設置、器材搬入
4/10　遺構検出作業、各遺構の写真撮影、遺構平面・断面図作成、全景写真撮影（～ 4/28）
4/30　調査区埋め戻し、器材搬出（～ 5/1）（調査終了）

３　調査成果

（１）層序（第３・４図）

今回の調査で確認した層序は以下の通りである。

Ⅰａ層　現代の盛土。暗灰黄色（2.5Y5/2）砂礫層。厚さは、20 ～ 40cm。

Ⅰｂ層　現代の盛土。灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト。厚さは約15 ～ 30cmである。

Ⅱａ層　黒褐色（10YR3/1）シルトで、しまり強い、粘性弱い。旧表土と考えられる。厚さは約15 ～ 25cmである。

Ⅱｂ層　黒褐色（10YR3/2）砂で、しまり強い、粘性弱い。旧表土と考えられる。厚さは、約10 ～ 20cmである。調査区中央部に確認される。

Ⅲ層　黒褐色（10YR3/2）砂で、しまり強い、粘性弱い。下層に酸化鉄を多く含む。厚さは、約20 ～ 40cmである。奈良・平安時代の土師器などの遺物が少量出土。ＳＤ2208や柱穴群などが上面で検出された。

Ⅳ層　灰黄褐色（10YR4/2）砂で、しまりやや強い、粘性やや弱い。黒褐色シルトブロック（直径10 ～ 20mm）を１％含む。厚さは、10 ～ 20cmである。

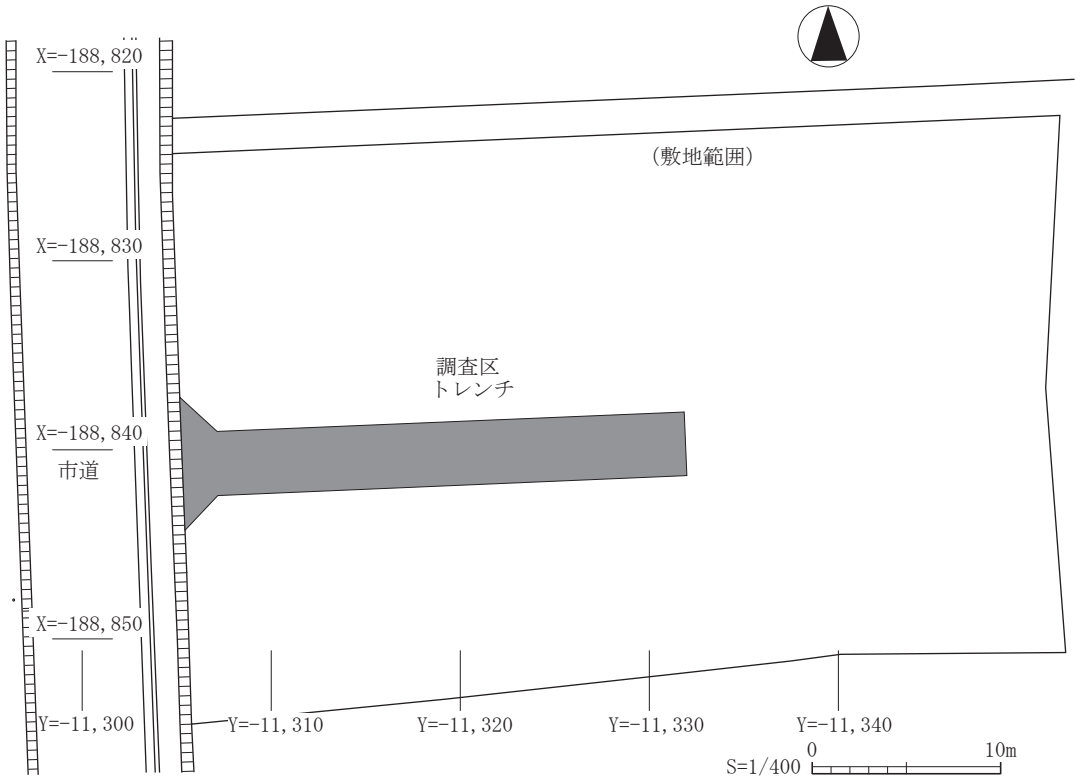
Ⅴ層　黒色（10YR2/1）シルトで、しまり強い、粘性やや強い。酸化鉄を少量含む。厚さは、10 ～～ 20cmである。上面でＳＤ2209が検出された。

Ⅵ層　灰黄褐色（10YR5/1）粘質シルトで、しまり強い、粘性やや強い。酸化鉄を含む。厚さは、10 ～～ 20cmである。

Ⅶ層　黒褐色（10YR2/2）シルトで、しまりやや強い、粘性中程度。厚さは約10cm。

Ⅷ層　灰黄褐色（2.5Y6/2）砂で、しまり強い。厚さは約15cm以上。

Ⅸ層　明緑灰色（10GY7/1）砂、しまり中程度。層厚は不明。



第２図　調査区配置図

（２）発見遺構と遺物

Ⅳ層上面で溝跡１条（ＳＤ2208)、柱穴４基（ＳＰ１～４）を確認した。Ⅴ層上面で溝跡１条（ＳＤ2209）を確認した。溝跡は完掘していないが、断面観察のため北側壁面で遺構の断ち割りを行った。柱穴は完掘している。遺物は、奈良・平安時代の須恵器・土師器、中世陶器が天箱１箱分出土している。

ＳＤ2208溝跡（第３図）

【位置】調査区西端のⅣ層上面で検出され、南北方向に伸びる溝跡である。

【重複】重複は無い。

【方向・規模】方向はほぼ南北方向で、南で西に12度偏している。検出した長さは2.4ｍで、北側・南側・西側は調査区外に延びる。上幅は3.2ｍ以上、下幅は2.0ｍ以上である。深さは1.0ｍである。

【埋土】６層に区分することができる。１層は暗褐色砂質シルト、２層は灰黄褐シルト、３層は褐灰色シルト、４層は黒褐色砂質シルト、５層は黒褐色砂、６層は黒色粘質シルトである。

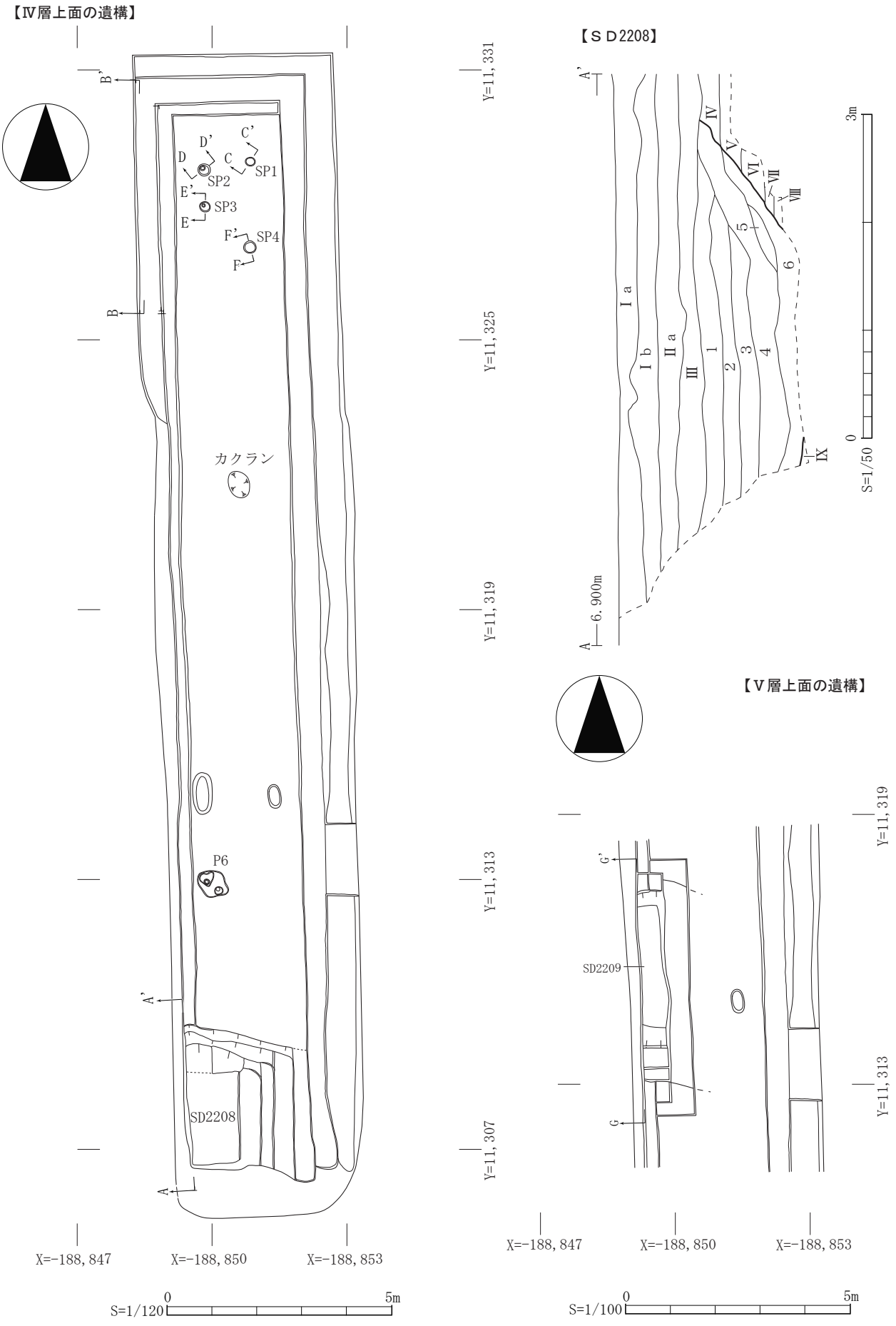
【遺物】埋土１層より中世陶器甕と考えられる体部破片が出土している。埋土１、２、４層より須恵器甕の体部破片が出土している。

柱穴（第３・４図）

現表土下約80ｃｍ（標高5.8ｍ）のⅣ層上面で、ピット４基を検出した。

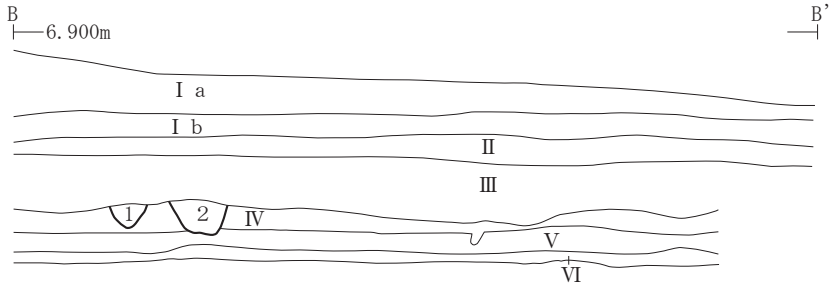
Ｐ１は、調査区東端南側に位置する。平面形は円形で、掘り方の規模は長軸が約24ｃｍ、短軸約20ｃｍ、深さは約35ｃｍである。柱痕が確認され、直径は約12ｃｍである。掘り方部分は底面が平らで、壁は急に立ち上がる。埋土は３層で、１層は柱痕跡、２、３層は掘り方埋土である。遺物は出土していない。

Ｐ２は調査区東端北側に位置する。平面形は円形である。掘り方の規模は、直径約30ｃｍ、深さは約32ｃｍ

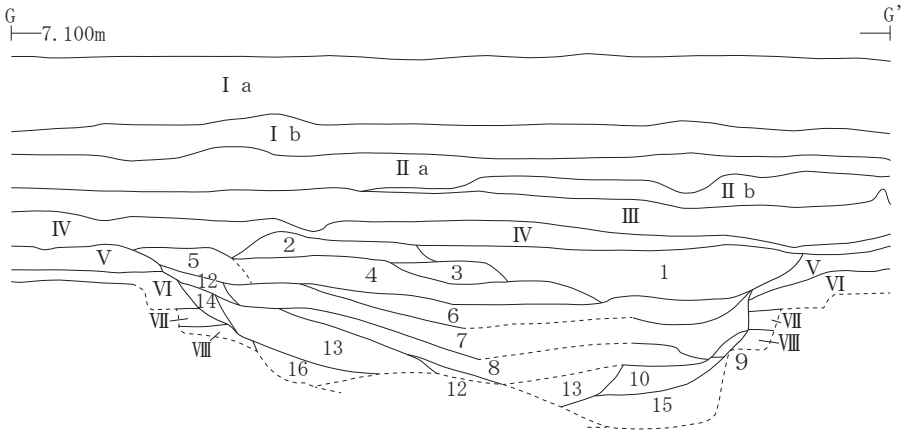


第３図　Ⅳ層上面遺構平面図・Ⅴ層上面遺構平面図・ＳＤ2208断面図

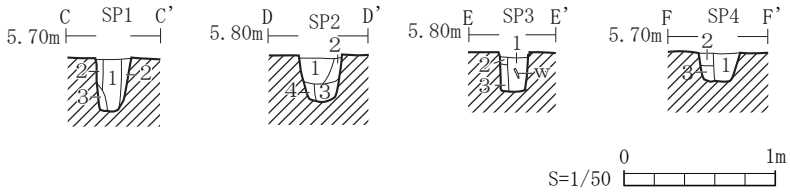
【調査区北東壁】



【ＳＤ2209】



【Ｐ１～４】



第４図　調査区北東壁・ＳＤ2209・Ｐ１～４断面図

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	SD2208	１層	暗褐色（10YR3/3）	砂質シルト	締まり　強　粘性　やや弱　灰褐色砂砂ブロック（直径10～20mm）を３％含む。
2	SD2208	２層	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	締まり　強　粘性　中　酸化鉄を含む。
3	SD2208	３層	褐灰色（10YR4/1）	シルト	締まり　強　粘性　中　酸化鉄を層の下部に含む。
4	SD2208	４層	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	締まり　強　粘性　中　にぶい黄褐色シルトブロック（直径５～10mm）を３％含む。
5	SD2208	５層	黒褐色（10YR3/2）	砂	締まり　中　粘性　弱　黒褐色（10YR2/2）シルトブロックを縞状に含む。
6	SD2208	６層	黒色（10YR2/1）	粘質シルト	締まり　強　粘性　やや強　植物遺体を少量含む。

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	SD2209	１層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	締まり　中　酸化鉄を含む。
2	SD2209	２層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	細砂	締まり　中　酸化鉄を含む。
3	SD2209	３層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	締まり　やや弱。
4	SD2209	４層	にぶい黄褐色（10YR4/3）	砂	締まり　弱。
5	SD2209	５層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	締まり　やや弱　酸化鉄を多く含む。
6	SD2209	６層	暗褐色（10YR3/4）	砂	締まり　やや弱　酸化鉄を含む。
7	SD2209	７層	褐色（10YR4/4）	砂	締まり　やや弱　下層に酸化鉄を多く含む。
8	SD2209	８層	褐灰色（10YR5/1）	粗砂	締まり　中　植物遺体を少量含む。

9	SD2209	9層	黒褐色（10YR3/1）	シルト	締まり　やや強　粘性　中。
10	SD2209	10層	灰褐色（10YR4/1）	礫	締まり　強。
11	SD2209	11層	灰黄褐色（10YR4/2）	細砂	締まり　中。
12	SD2209	12層	褐灰色（10YR4/1）	砂	締まり　中　植物遺体を含む。
13	SD2209	13層	黒色（10YR2/1）	シルト	締まり　強　粘性　やや強　酸化鉄を少量含む。
14	SD2209	14層	灰黄褐色（10YR5/2）	細砂	締まり　中　酸化鉄を少量含む。
15	SD2209	15層	灰黄褐色（10YR6/2）	粗砂	締まり　やや強。
16	SD2209	16層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	締まり　中。

である。抜き取り穴が認められる。掘り方部分は底面が平らで、壁は急に立ち上がる。埋土は４層あり、１層は黒褐色シルト、２層は抜き取り穴の埋土と考えられる。３層は柱痕跡、４層は掘り方埋土である。遺物は出土していない。

Ｐ３は調査区東端北側に位置する。平面形は円形である。掘り方の規模は、直径約30㎝、深さは約26㎝である。柱痕が認められ、直径は約13㎝である。掘り方部分は底面が平らで、壁は急に立ち上がる。埋土は３層あり、１層は柱痕跡、２、３層は掘り方埋土である。１層中から炭化材片が出土している。

Ｐ４は、調査区東端南側に位置する。平面形は円形である。掘り方の規模は、直径約28㎝、深さは約18㎝である。柱痕が認められ、直径は約15㎝である。掘り方部分は底面が平らで、壁は急に立ち上がる。埋土は３層あり、１層は柱痕跡、２、３層は掘り方埋土である。遺物は出土していない。

ＳＤ2209溝跡（第３・４図）

【位置】Ⅴ層上面の調査区中央やや西寄り、北壁で検出され、南北方向に伸びる溝跡である。

【重複】重複は無い。

【方向・規模】方向はほぼ南北方向で、南で西に約14度偏している。検出した長さは1.1ｍで、北側・南側は調査区外に延びる。上幅は4.4m、下幅は2.7mと推定される。深さは1.2m以上である。

【埋土】16層に区分することができる。いずれも自然堆積層である。１層は灰黄褐色砂、２層はにぶい黄褐色細砂、３層は灰黄褐色砂、４層はにぶい黄褐色砂、５層は灰黄褐色砂、６層は暗褐色砂、７層は褐色砂、８層は褐灰色粗砂、９層は黒褐色シルト、10層は灰褐色礫、11層は灰黄褐色細砂、12層は褐灰色砂、13層は黒色シルト、14層は灰黄褐色細砂、15層は灰黄褐色粗砂、16層は灰黄褐色砂である。

【遺物】埋土７層より土師器甕の体部破片が出土している。外面・内面にハケメが認められる。古墳時代後期の時期と推測される。埋土８層より土師器甕と思われる破片が出土しているが、摩滅している。

３　まとめ

今回の調査では、Ⅳ層上面で南北溝跡（ＳＤ2208）を一条、ピット５基を確認した。Ⅴ層上面で南北溝跡を一条（ＳＤ2209）を確認した。

南北溝ＳＤ2208は第79次調査で発見した中世の屋敷の区画溝に対応する溝跡の一部と考えられるが、それらとの関係は今後検討を要する。堆積層出土の遺物により、ＳＤ2208は中世と考えられ、調査区東側に検出されたピット群も、明確な時期を示す遺物は出土してないが同じ時期に帰属する可能性がある。

Ⅴ層上面で検出されたＳＤ2209であるが、堆積中の遺物は古墳時代と推測される土師器片のみであり、古墳時代以降に埋没した事は指摘できるが、時期の帰属が難しい。溝の方向は、ＳＤ2208と類似している。

トレンチ全景（北西から）

ＳＤ2209断面（南東から）

写真図版　新田遺跡

新田遺跡第 148 次調査

1　要項

調査地　　山王字北寿福寺 48 － 24
調査原因　　個人住宅新築
調査担当　　齋藤　健　大木　丈夫
調査期間　　令和２年 10 月 6 日～ 10 月 23 日
対象面積　　187.21 ㎡
調査面積　　68.9 ㎡

2　調査経過

10/6　重機による表土掘削。
10/7　調査器材搬入、調査区環境整備。
10/8　遺構検出作業、遺構埋土掘り下げ、
　　遺構平面図作成、全景写真撮影（～ 10/21）
10/22　重機による調査区埋戻し。
10/23　調査器材搬出（調査終了）

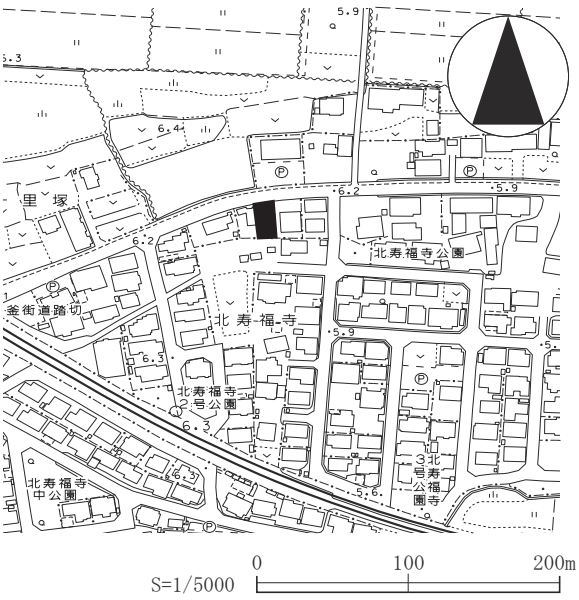
3　調査成果

（1）層序

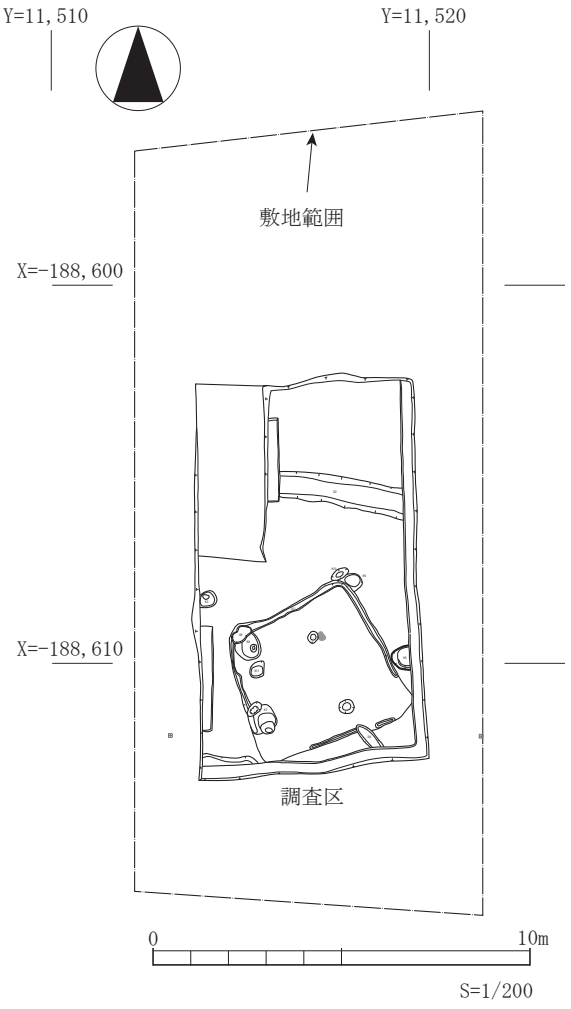
Ⅰ　層:現代の盛土であり、厚さは50～70㎝である。
Ⅱ 1 層：調査区ほぼ全体で確認している。近世から近代の暗褐色（10YR3/3）の耕作土で、厚さは 10 ～ 20 ㎝である。
Ⅱ 2 層：調査区全体で確認している。褐灰色（10YR4/1）で、厚さは 10 ～ 20 ㎝ある。
Ⅱ 3 層：調査区南側で確認している。灰黄褐色（10YR4/2）で、厚さは 10 ㎝ある。
Ⅱ 4 層：調査区中央部から南側で確認している。灰黄褐色(10YR4/2)で、厚さは10～20㎝ある。
Ⅲ　層：調査区全体で確認している。古墳時代から古代の遺構確認面で、黄褐色（2.5Y5/3）の砂層である。

（2）発見遺構と遺物

古墳時代前期の竪穴建物跡を確認したほか、それを壊す溝跡や土壙も確認したが、遺構に伴う遺物がない



第１図　調査区位置図



第２図　調査区配置図

ため、詳細な時期は不明である。

ＳＩ 2210 竪穴建物跡（第３・４図）

【位置】調査区南側で確認した方形の竪穴建物跡である。

【重複】ＳＤ 2213、ＳＫ 2216、ＳＫ 2217 と重複し、これらよりも古い。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形であり、規模は長辺が約４ｍ、短辺が約 3.8 ｍである。

【周溝】全辺で確認されたが、東辺と西辺の一部では確認できなかった。また、南辺は中央部に部分的に認められた。

【床面･埋土】竪穴建物跡を埋めている土はなく､床面も削られた状況で検出している｡周溝の埋土は､オリーブ褐色土（2.5Y4/3)､床面は非常に締まっており､灰黄褐色土（10YR4/2）である。また､北東側の柱穴（Ｐ２）の東側で焼土を検出している。

【遺物】古墳時代前期の土師器高坏、甕、壷、甑、器台が出土している（第５図１～６)。

ＳＢ 2212 掘立柱建物跡（第３・４図）

【位置】調査区中央西側で確認した。

【重複】ＳＩ 2210、ＳＫ 2217 と重複しており、ＳＩ 2210 より新しく、ＳＫ 2217 よりも古い。

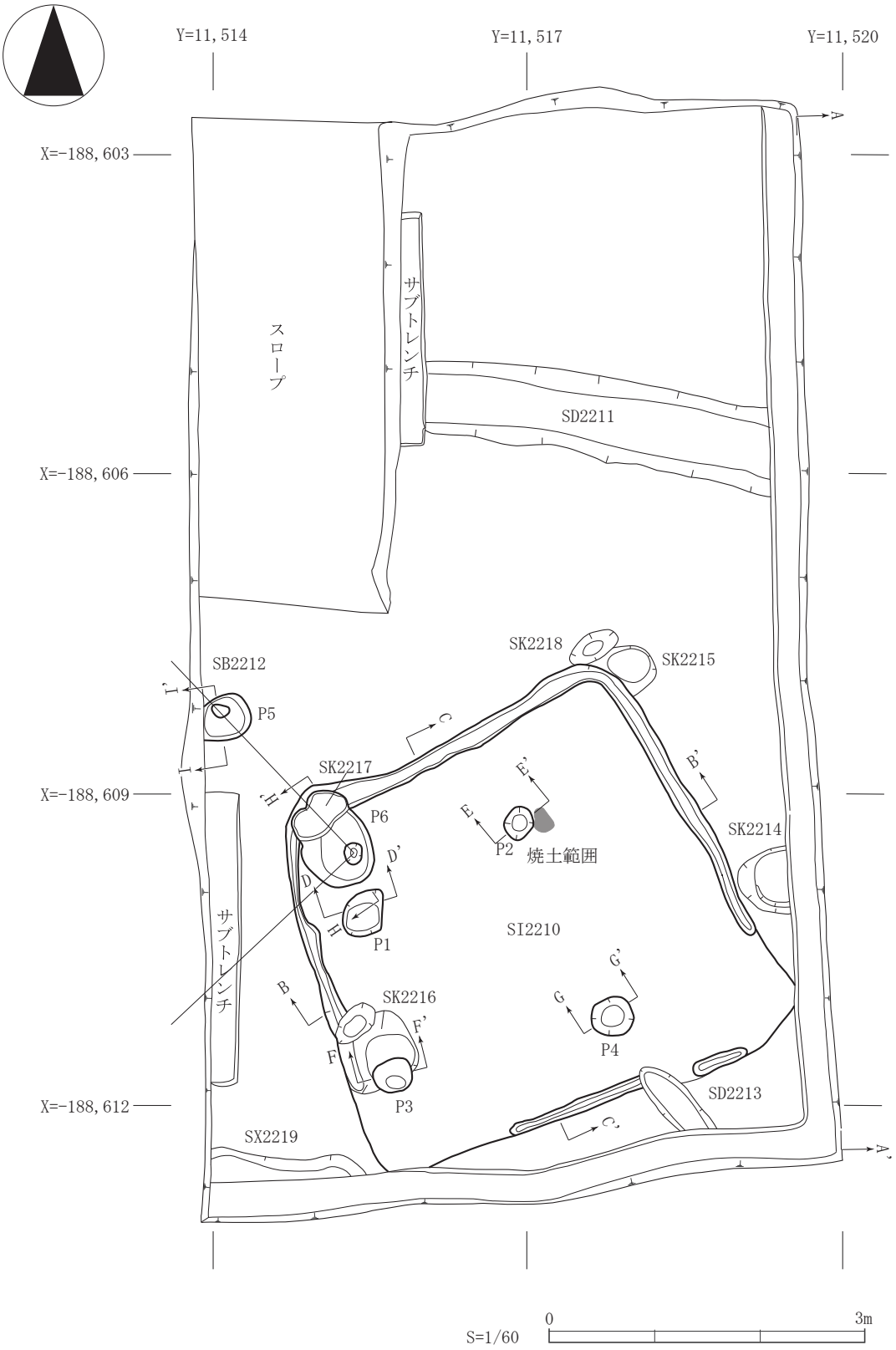
【規模等】２基の柱穴（Ｐ５・Ｐ６）が見つかっている。柱間は約 1.8 ｍある。

【埋土】２基とも黄灰色のシルト質土である。

【遺物】出土していない。

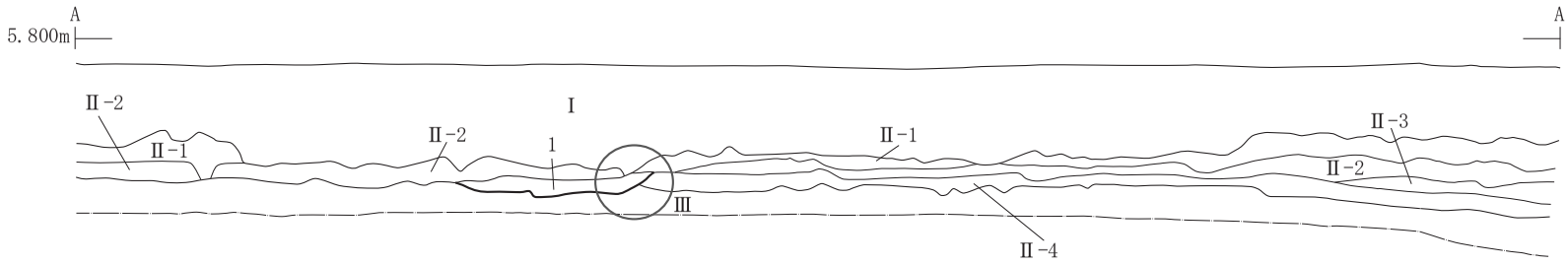
４　まとめ

本調査区から、古墳時代前期の竪穴建物跡を確認した。また、竪穴建物跡の床面を壊す土壙等を検出したが、詳細な時期は不明である。

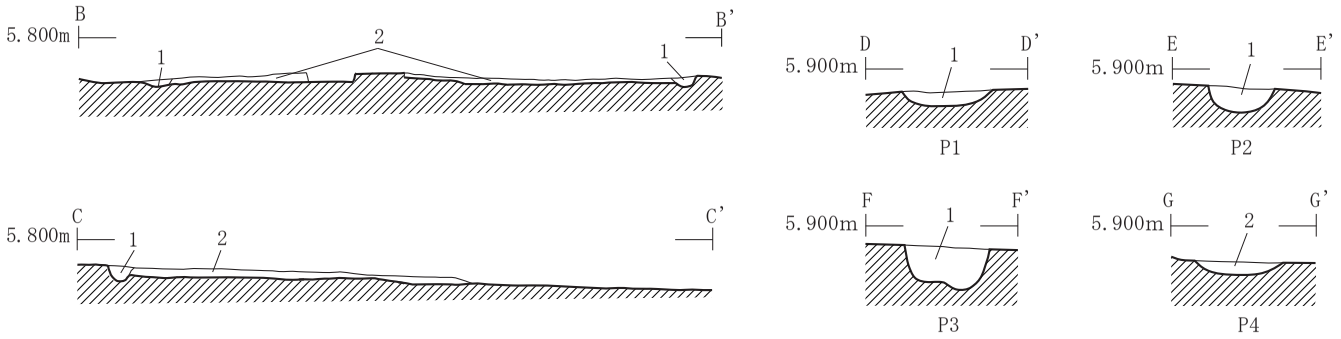

Y=11, 514
Y=11, 517
Y=11, 520
X=-188, 603
X=-188, 606
X=-188, 609
X=-188, 612
スロープ
サブトレンチ
SD2211
SB2212
SK2218
SK2215
SK2217
SK2214
P5
P6
P2
焼土範囲
P1
SI2210
SK2216
P3
P4
SD2213
SX2219
S=1/60
0
3m

第３図　遺構平面図

【調査区東壁断面】



【SI2210断面】

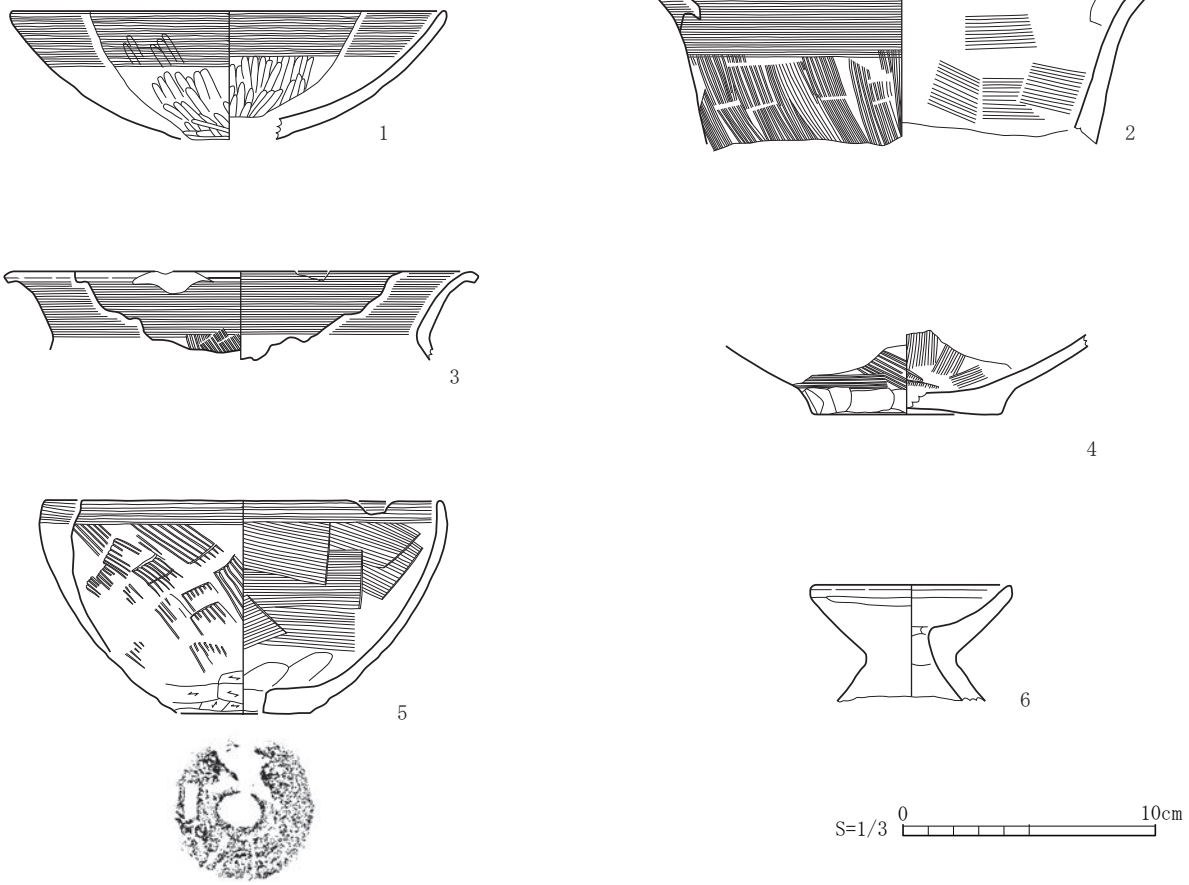


【SB2211断面】

第４図　調査区東壁ほか断面図

調査区全景（北から）

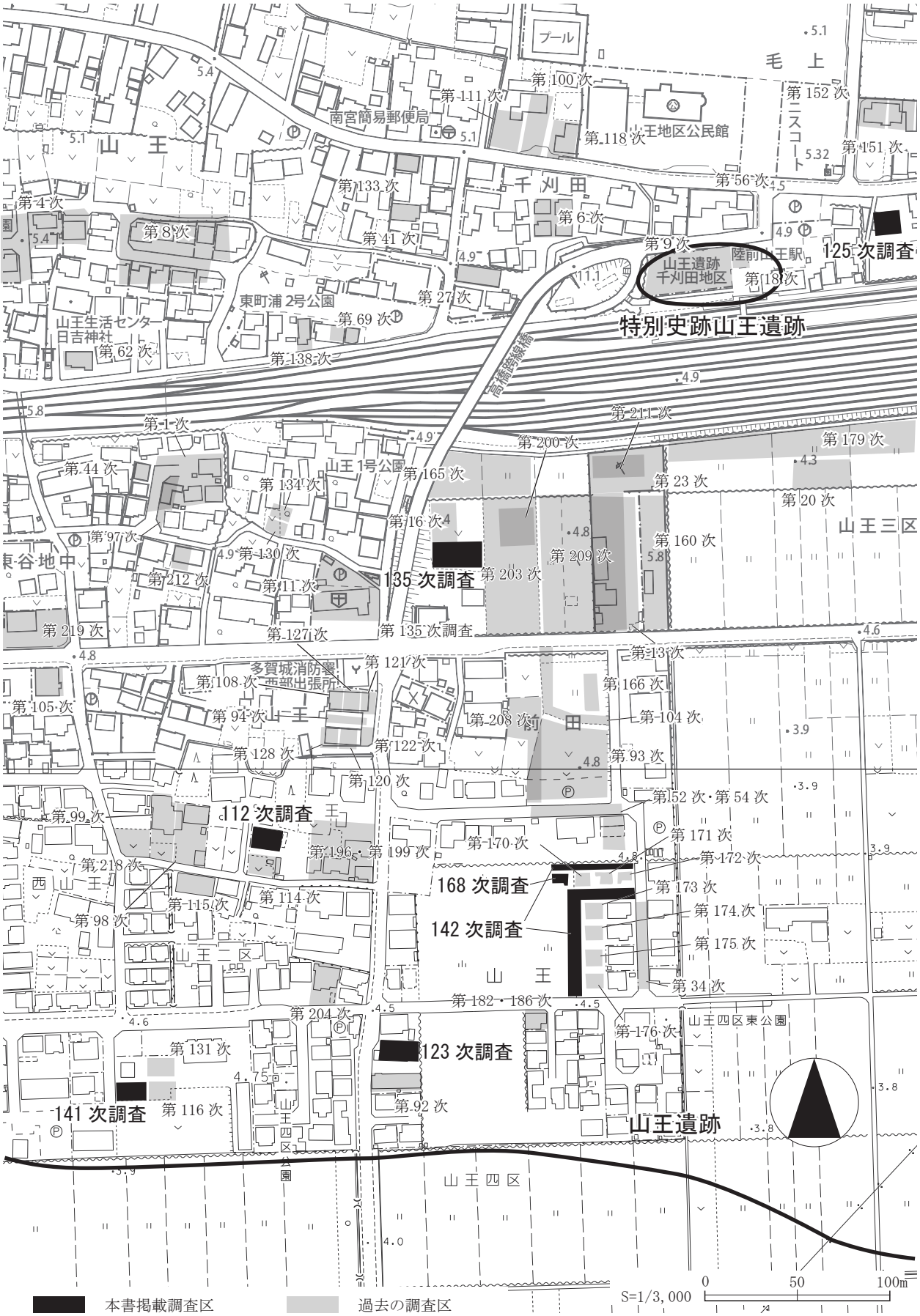
ＳＩ 2210 竪穴建物跡（西から）



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	土師器 高坏	SI2210		口縁部：ヘラミガキ→ ヨコナデ 体部：ヘラミガキ	口縁部：ヘラミガキ →ヨコナデ 体部ヘラミガキ	(17.3)	－	－	R2	
2	土師器 甕	SB2210		口縁部：ヨコナデ 体部：ハケメ	ヘラナデ	(20.4) 4/24	－	－	R4	
3	土師器 甕	SB2210		ヨコナデ	ヨコナデ	(18.3) 4/24	－		R5	
4	土師器 甕	SB2210		ハケメ	ヘラナデ	－	(7.4) 5/24	－	R6	
5	土師器 甑	SB2210		口縁部：ヨコナデ 体部：ハケメ 底部：ヘラケズリ	口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ 底部：ナデ	(15.6) 10/24	5.3 21/24	8.5	R1	
6	土師器 器台	SB2210		ヘラミガキ	ナデ	(7.6) 7/24	－	－	R3	

第５図　出土遺物



山王遺跡・東部地区の調査区

山王遺跡・西部地区の調査区

山王遺跡第 112 次調査

1　要項

調 査 地　山王字中山王 44 － 2

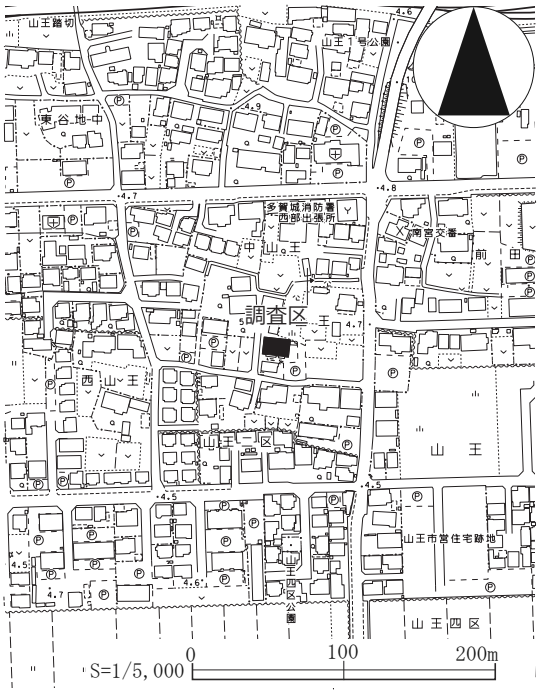
調査原因　共同住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 24 年 9 月 13 日～ 10 月 12 日

対象面積　576.76 ㎡

調査面積　47 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

9/13　重機による表土掘削

9/14　調査器材搬入、遺構検出作業（～ 9/25）

9/25　遺構平面・断面図作成開始

10/5　土層注記、断面図補足

10/12　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（１）層序（第３図）

Ⅰ層：現代の盛土（Ⅰ１層）及びその下層の耕作土（Ⅰ２層）であり、厚さは 70 ㎝である。

Ⅱ層：暗褐色シルト（10YR3/3）が主体であり、黒褐色シルト（10YR3/2）が薄層状に混入している。厚さは５～ 20 ㎝である。

Ⅲ層：黒褐色シルト（10YR2/3）であり、炭化物粒及び暗褐色シルト（10YR3/3）が僅かに混入している。底面には起伏が多く認められ、厚さは 30 ㎝である。本調査区の遺構検出面である。

Ⅳ層：暗褐色シルト（10YR3/3）であり、炭化物粒が若干混入している。西壁断面で見ると調査区北側から南側に傾斜しており、河川埋土の可能性もある。

Ⅴ層：にぶい黄褐色砂層（10YR4/3）であり、黒褐色粘質土（10YR3/1）が小ブロック状に混入している。

（２）発見遺構と遺物

ＳＢ 2791 掘立柱建物跡（第２図）

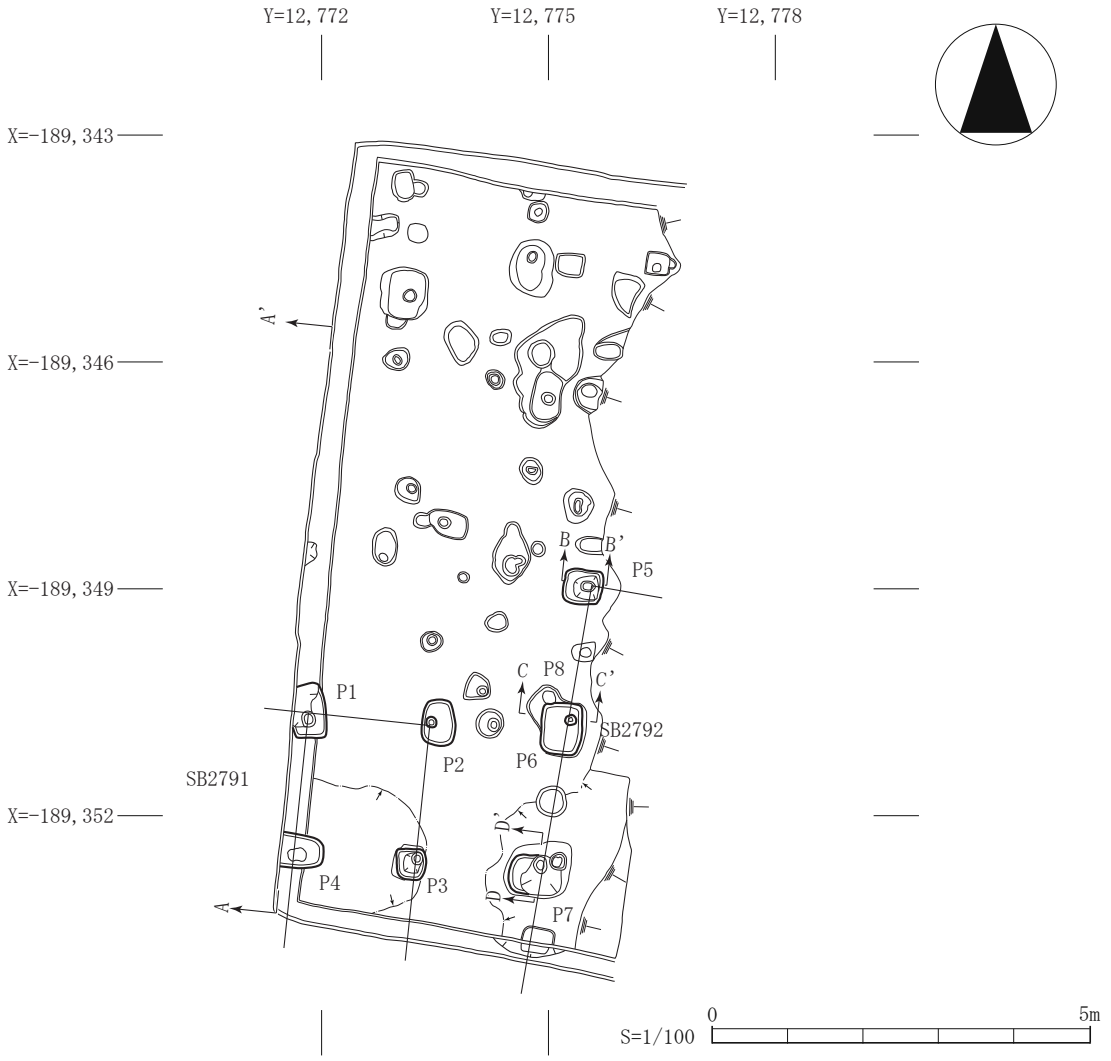
【位置】調査区南西部のⅢ層上面で発見した。

【桁行・梁行】４基の柱穴（Ｐ１～４）から推測した建物である。柱の配置から東側に庇の付く建物跡もしくは総柱建物跡と考えられる。東西・南北２間以上の建物の北西部を検出したものと判断した。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ２で柱痕跡、それ以外の柱穴で柱抜取り穴を確認している。柱抜取り穴のうち、Ｐ１・３では柱のあたり痕跡を確認している。

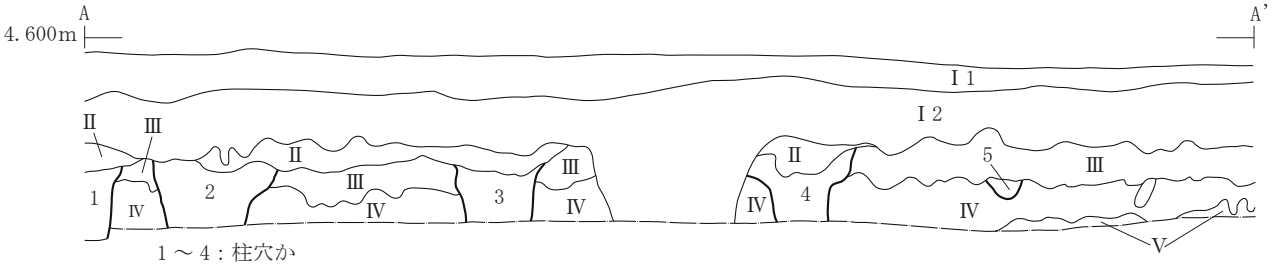
【重複】他の遺構との重複はない。

【方向・規模】方向は東側柱列で測ると、北で５度 32 分東に偏している。柱間は東側柱列で 1.83 ｍ、北

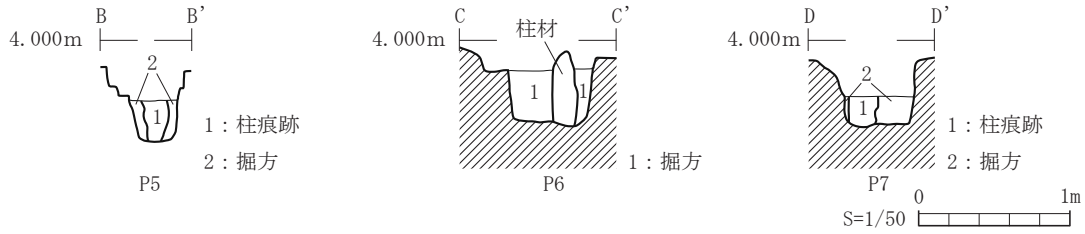


第２図　遺構平面図

【調査区西壁断面】



【SB2792 断面】



第３図　調査区西壁ほか断面図

側柱列で1.64ｍである

【掘方】方形を基調としている。規模はＰ２で測ると、長辺60㎝、短辺40㎝である。

【柱痕跡】直径14㎝の円形である。

【柱抜取り穴】いずれも不整形である、Ｐ２の埋土は黄灰色シルト（2.5YR4/1）が主体であり、オリーブ褐色シルト粒（2.5YR4/3）を斑状に含む。

【遺物】柱抜取り穴から土師器坏・甕（Ａ類・Ｂ類／第４図１）、須恵器坏・甕、須恵系土器坏が出土している。

【年代】柱抜取り穴埋土から須恵系土器が出土していることから、10世紀以降に廃絶したものと考えられる。

ＳＢ2792掘立柱建物跡（第２・３図）

【位置】調査区南東部のⅢ層上面で発見した建物跡である。

【桁行・梁行】３基の柱穴（Ｐ５～７）から推測した建物であり、柱穴の配置から建物の西側柱列であると判断した。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ６で柱痕跡（柱材残存）、Ｐ５・７で柱抜取り穴を確認している。

【重複】Ｐ８と重複しそれよりも新しいものの、その他重複する柱穴との新旧関係は不明である。

【方向・規模】方向は西側柱列で測ると北で９度53分東に偏している。規模は西側柱列で総長3.71ｍ以上であり、柱間は北から1.80ｍ、1.91ｍである。

【掘方】方形を基調としている。規模はＰ６で測ると、長辺70㎝、短辺55㎝である。埋土は黒褐色粘質シルト（10YR3/1）が主体であり、黄褐色シルトブロック（10YR5/6）が僅かに混入している。

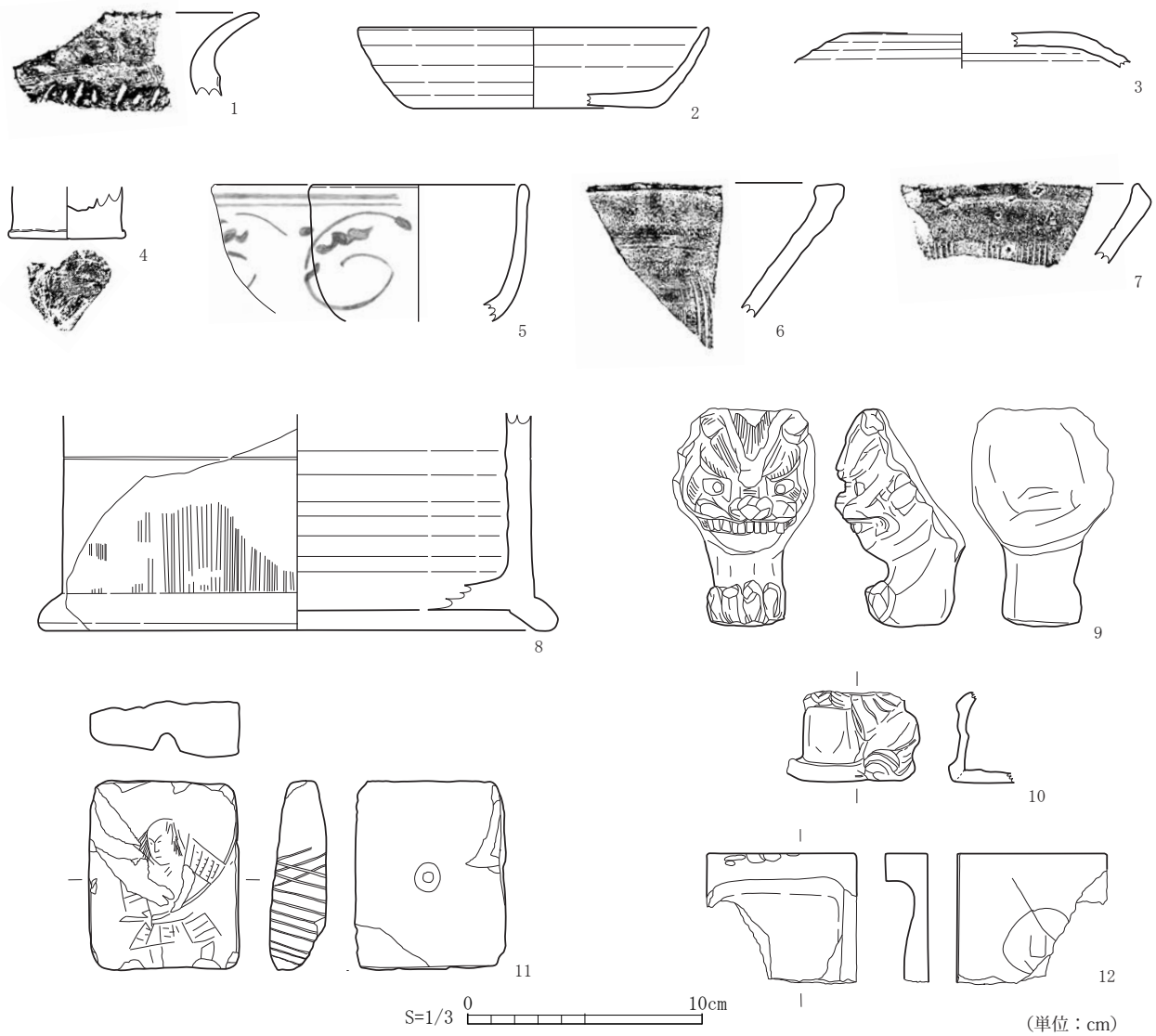
【柱痕跡】直径14㎝の円形である。

【柱抜取り穴】いずれも楕円形であり、Ｐ５・７では柱のあたり痕跡を確認した。埋土は黒褐色粘質シルト（10YR3/1）である。

【遺物】柱抜取り穴から土師器甕（Ｂ類）、須恵器坏・蓋・甕、須恵系土器坏が出土した。

【年代】柱抜取り穴埋土から須恵系土器が出土していることから、10世紀以降に廃絶したものと考えられる。

調査区全景（北から）



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	土師器 甕	SB2791	P1-抜取	ヨコナデ・キザミ	ヘラミガキ	(18.0) 1/24	-	3.6	R4	
2	須恵器 坏	攪乱	-	ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(14.9) 1/24	(10.4) 5/24	3.5	R1	
3	須恵器 蓋	P8	抜取	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	(1.5)	R3	
4	須恵器 長頸瓶	-	検出面	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・ナデ	ロクロナデ	-	5.0	(2.2)	R6	壺G
5	肥前系陶胎染付	-	I	草花文		(9.0) 8/24	-	(5.9)	R13	
6	陶器 擂鉢	-	検出面	鉄釉	鉄釉、卸目	-	-	-	R9	
7	陶器 擂鉢	-	検出面	鉄釉	鉄釉、卸目	-	-	-	R12	
8	瓦質土器 鉢	-	II	ハケメ・沈線文	ロクロナデ	-	(21.6) 2/24	(9.3)	R8	
9	瓦質土器 脚	-	検出面			-	-	-	R5	獣脚
10	土人形	-	検出面					(3.9)	R7	素焼
11	石製品 硯	-	I			最大長： (5.5)	最大幅： (6.4)	厚： 1.8	R11	
12	石製品 砥石	-	検出面	線刻（武者絵）	円錐状の凹み	長： (8.1)	幅： (6.4)	厚： 2.4	R2	裏面に線刻

第4図　出土遺物

山王遺跡第 119 次調査

１　要項

調 査 地　山王字掃下し２－１、２－９、２-10 の一部

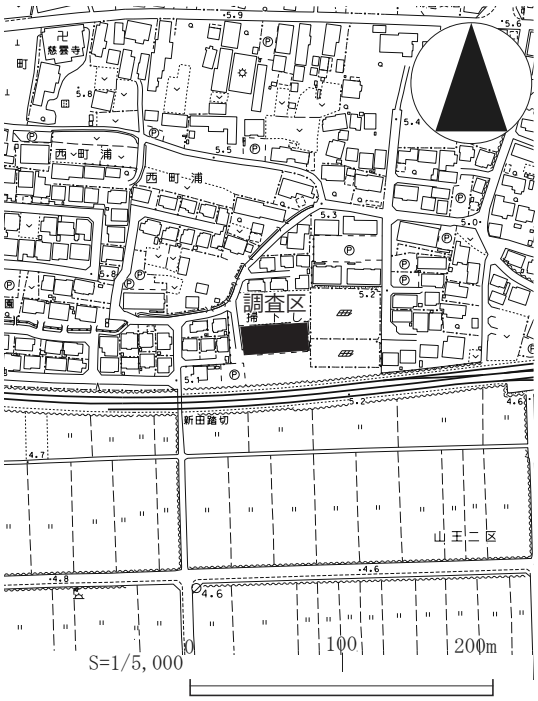
調査原因　共同住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 24 年 10 月 26 日～ 11 月 28 日

対象面積　997.74 ㎡

調査面積　303 ㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

10/26　重機による表土掘削、調査器材搬入

10/30　調査区内の環境整備

11/ 1　遺構検出作業開始、個別遺構の写真撮影実施

11/15　遺構平面・断面図作成開始

11/22　土層注記及び補足調査実施

11/28　調査器材搬出（調査終了）

３　調査成果

（１）層序

Ⅰ層：現代の耕作土であり、厚さは約 20 ㎝である。

Ⅱ層：褐灰色粘質土（10YR4/1）であり、凝灰岩質の細粒が多量に混入している。底面の起伏が著しく、厚さは最も浅い１区で西側で５㎝、最も厚い２区中央部で 30 ㎝である。ＳＤ 2793 の検出面である。

Ⅲ層：明黄褐色シルト（10YR6/6）であり、古代の遺構検出面である。厚さは約 20 ㎝である。

Ⅳ層：黒褐色粘土（2.5Y3/1）であり、厚さは５㎝前後である。

Ⅴ層：灰色粘土（5Y4/1）であり、古墳時代の水田層である。２区東側では、畦畔の高まりがⅢ層上面にまで及び、小区画水田の上端部が表れている。同じ２区南壁東端部でみると、畦畔の高まりは 30 ㎝、上端幅は約 1.2m である。

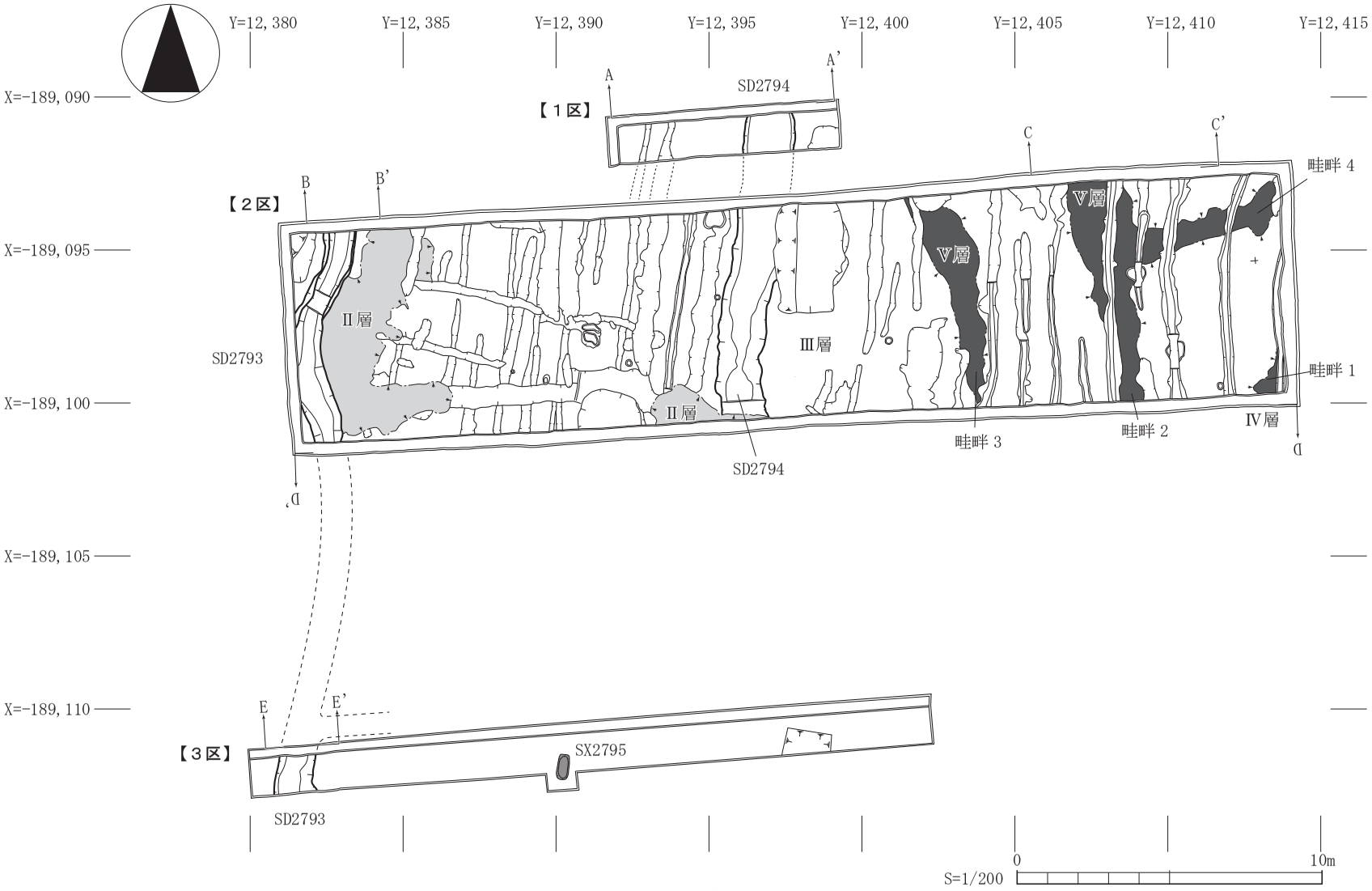
（２）発見遺構と遺物

今回の調査では、溝跡、小溝群、土器埋設遺構を発見した。また、調査区壁前面で、古墳時代前期の水田層を確認した。

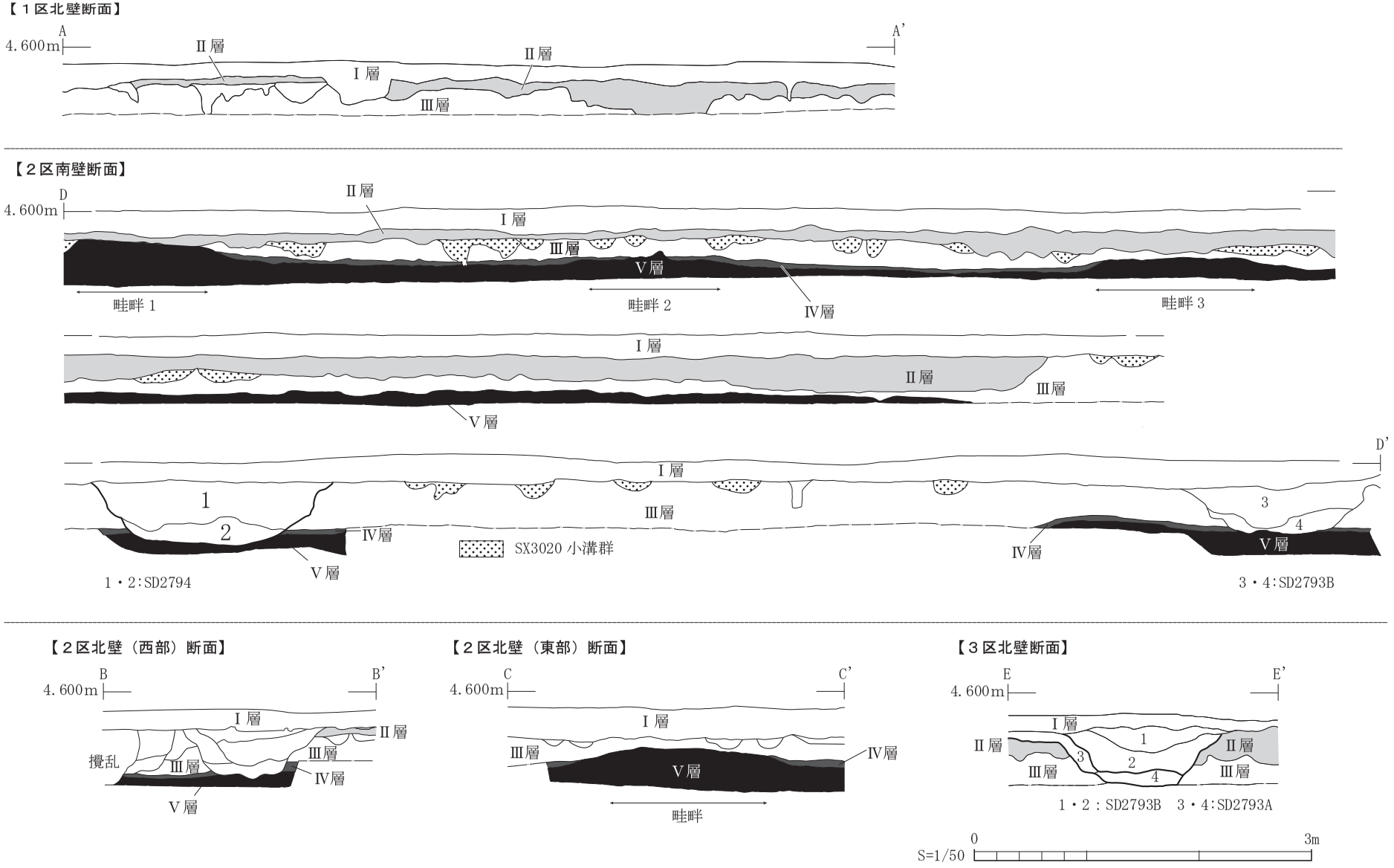
ＳＸ 3019 水田跡（第２・３図）

【位置】調査区全面で確認した水田跡である。

【区画】２区東端部のⅢ層検出段階で、畦畔の上端部４辺を確認した。おおよそ５ｍ四方の区画と考えられる。


Y=12, 380
Y=12, 385
Y=12, 390
Y=12, 395
Y=12, 400
Y=12, 405
Y=12, 410
Y=12, 415
X=-189, 090
X=-189, 095
X=-189, 100
X=-189, 105
X=-189, 110
【1区】
【2区】
【3区】
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
SD2794
SD2793
SX2795
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅳ層
Ⅴ層
畦畔 1
畦畔 2
畦畔 3
畦畔 4
0
10m
S=1/200

第２図　遺構平面図



第３図　調査区各壁面断面図

【畦畔】２区南壁３箇所で畦畔状の高まりを確認した（畦畔１～３）。上端部が約 1.5 ｍであり、高まりは畦畔１で 30 ㎝、畦畔２・３で 10 ㎝である。
【年代】周辺地区の調査成果より、古墳時代前期である。

ＳＤ 2793 溝跡（第２図）
【位置】２区及び３区西端部のⅡ層上面で発見した、南北方向の溝跡である。
【変遷】重複関係から２時期（Ａ期→Ｂ期）の変遷を確認した。両時期ともほぼ同じ位置・方向である。
【重複】他の遺構との重複はない。
【方向・規模】緩やかに蛇行して、南北方向に延びている。規模はＡ期が３区北壁で上端幅約 1.1 ｍ、深さが約 40 ㎝であり、Ｂ期が３区北壁で上端幅約 1.5 ｍ、深さ約 40 ㎝である。
【壁・底面】壁はやや急角度に立ち上がり、底面には凹凸がある。
【埋土】Ａ・Ｂ期それぞれ２層に細分できる（第３図【３区北壁断面】１～４層）。１層は黒色粘質土（10YR2/1）を主体とし、白色粒・黄褐色ブロックを含む。２層は暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）を主体とし、白色粒を少量含む。３層は暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）を主体とし、褐灰色粘土ブロック・白色粒を少量含む。４層は暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）を主体とし、地山ブロックを多量に含む。黒色粘土ブロックを少量含む。
【遺物】Ａ期から土師器坏（Ｂ類）・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏・高台付坏、丸瓦が出土した。Ｂ期から土師器坏（Ａ期・Ｂ期）、須恵系土器坏が出土した。
【年代】Ａ・Ｂ期ともに出土遺物に須恵系土器が認められることから、10 世紀前葉以降に埋没したものと考えられる。

ＳＸ 3020 小溝群（第２・３図）
【位置】２区全域で確認した小溝群である。
【変遷】調査区全域で確認できる南北方向のもの（Ａ期）と、西端部で確認した東西方向のもの（Ｂ期）があり、Ａ→Ｂ期の変遷であることを確認した。
【方向・規模】Ｂ期で測ると方向は北で８～ 10 度東に偏しており、規模は幅 30 ～ 50 ㎝である。３区ではこれら溝跡が認められないことから、２－３区間から北に延びているものと推測される。
【壁・底面】２区南壁でみれば、壁は緩やかに立ち上がり、底面は丸く窪んでいる。
【遺物】出土していない。
【年代】10 世紀前葉以降に埋没したＳＤ 2793 の検出面であるⅡ層に覆われることから、それ以前のものである。

ＳＤ 2794 溝跡（第２・３図）
【位置】１区東側及び２区中央部のⅢ層上面で発見した、南北方向の溝跡である。
【重複】他の遺構との重複はない。。
【方向・規模】方向は、北で約６度東に偏している。規模は２区南壁で上端幅約 2.1 ｍ、深さは 55 ㎝である。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。
【遺物】出土していない。

【年代】10 世紀前葉以降に埋没したＳＤ 2793 の検出面であるⅡ層に覆われることから、それ以前のものである。

ＳＸ 2795 土器埋設遺構（第４図）

【位置】３区中央部で発見した、土器埋設遺構である。

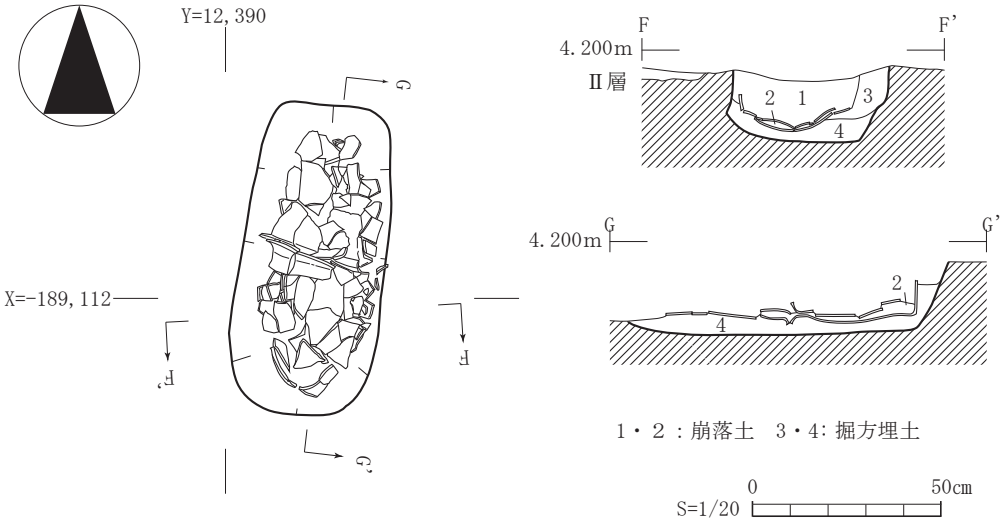
【埋設状況】土器よりもやや広い掘方を設け、土師器甕Ｂ類２点を合口で横位に据えている。

【重複】他の遺構との重複はない。

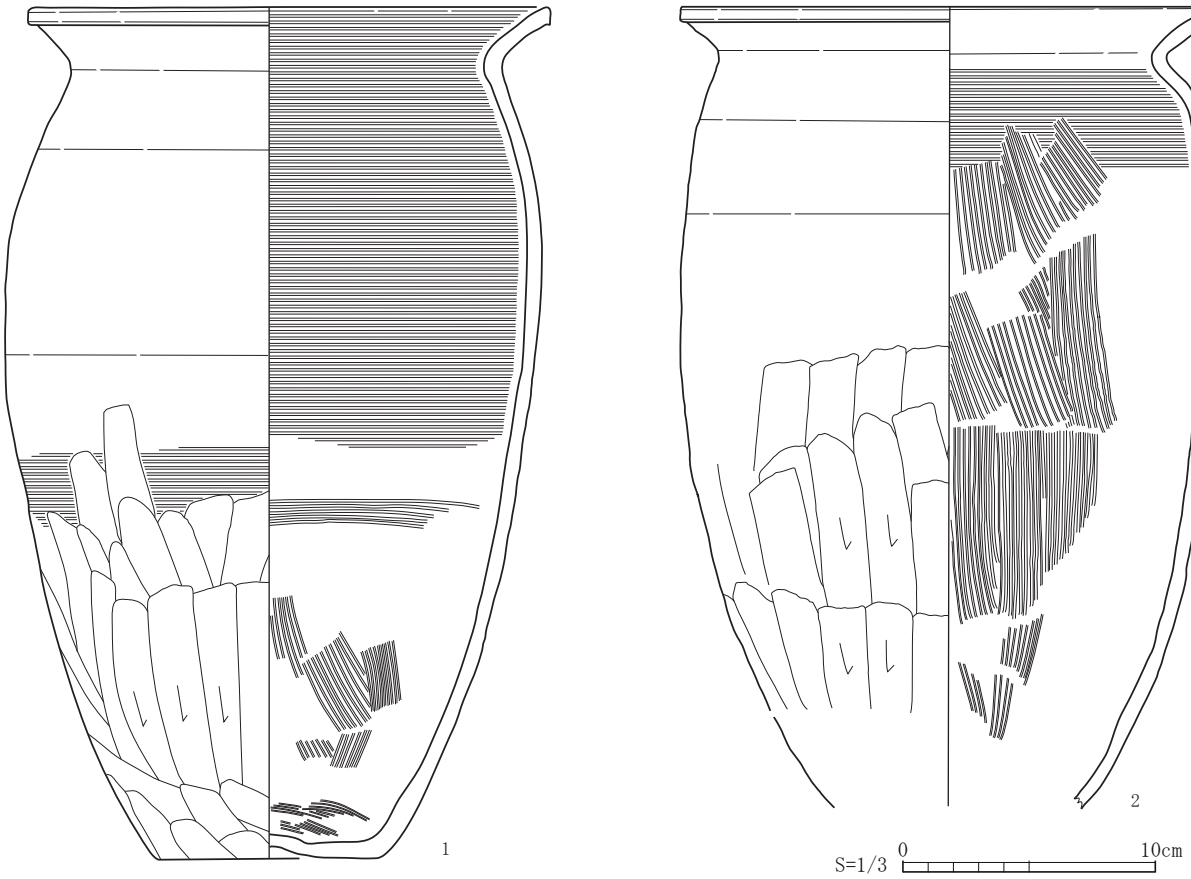
【掘方】平面形は南北方向の長方形であり、規模は南北 82 ㎝、東西 40 ㎝、残存する深さは 12 ㎝である。掘方埋土は２層に細分することができる(第４図３・４層)。上層は黒褐色粘質土(10YR2/2)が主体であり、地山ブロックが少量混入している。下層は黒褐色粘土（10YR3/1）が主体であり、地山ブロックが多量に混入している。土器内に堆積した崩落土（第４図２層）は均質な褐灰色粘土（10YR4/1）である。

【遺物】土師器坏（Ｂ類）・甕（Ｂ類）（第５図１・２）、須恵器坏、平瓦が出土した。

【年代】土師器甕Ｂ類は、いずれも長胴形のものである。体部外面の調整を見ると、ハケメ後手持ちヘラケズリのものと、タタキ後手持ちヘラケズリのものが認められる。多賀城周辺では土師器甕Ｂ類の体部にハケメやタタキ調整があるものは、９世紀でも早い段階に認められることから、本遺構もその頃のものと考えられる。



第４図　ＳＸ2795 土器埋設遺構平面・断面図



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	土師器 甕	SX2795	－	ヨコナデ・回転ハケメ・ヘラケズリ 底部：摩滅	ロクロナデ・ 回転ハケメ・ ハケメ	(20.4) 23/24	(8.8) 23/24	33.7	R1	
2	土師器 甕	SX2795	－	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ ハケメ	(21.4) 21/24	－	(31.8)	R2	

第５図　出土遺物

２区全景（北東から）

３区全景（北西から）

ＳＸ 2795 埋設土器確認状況（北から）

山王遺跡第 123 次調査

1　要項

調 査 地　山王字前田 28 － 3 ・29、山王字山王四区 177 － 1 、177 － 8

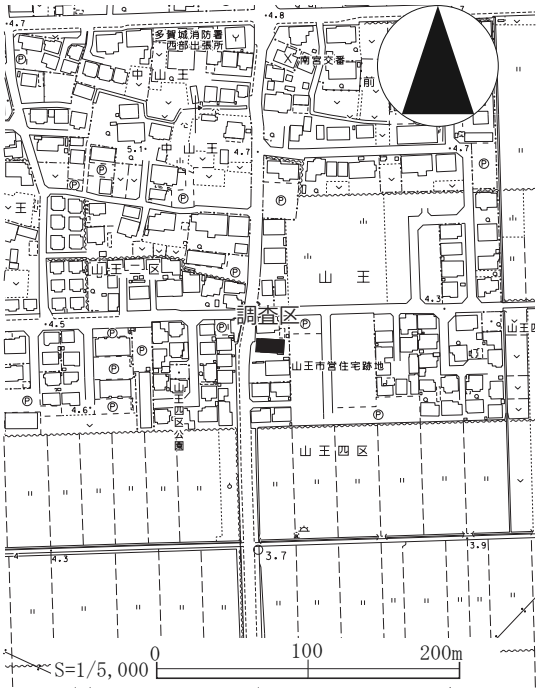
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 25 年 1 月 16 日～ 2 月 27 日

対象面積　384.24 ㎡

調査面積　84 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

1/16　重機による表土掘削（～ 1/17）

1/18　調査器材搬入、調査区内の環境整備

1/23　遺構検出作業（～ 1/31）、個別写真撮影

2/3　遺構精査と並行し、遺構平面・断面図作成開始（～ 2/22）

この間、積雪による調査中断あり

2/26　重機による調査区埋戻し（～ 2/27）（調査終了）

3　調査成果

（1）層序（第 3 図）

Ⅰ層：現代の盛土であり、厚さは約 60 ㎝である。

Ⅱ層：調査区北端部に残存する極暗褐色粘質土（7.5YR2/3）であり、灰白色火山灰及び黄褐色砂質土（2.5Y5/3）が混入している。厚さは約 10 ㎝である。

Ⅲ層：西壁では上から順に灰黄褐色砂（10YR4/2）、暗灰黄色砂（2.5Y4/2）、オリーブ褐色砂（2.5Y4/3）、、東壁では黒褐色砂（2.5Y3/2）が主体となる整地層である。東壁では最下層に黄褐色砂質土が多く混入している。整地は南西部が最も厚く施されており、約 60 ㎝である。西壁断面で確認できる大規模な落ち（溝跡か）の埋土上面を整地したものと考えられる。

Ⅳ層：黄褐色砂質土（2.5Y5/3）であり、本地区周辺では古代の最終遺構検出面となっている。

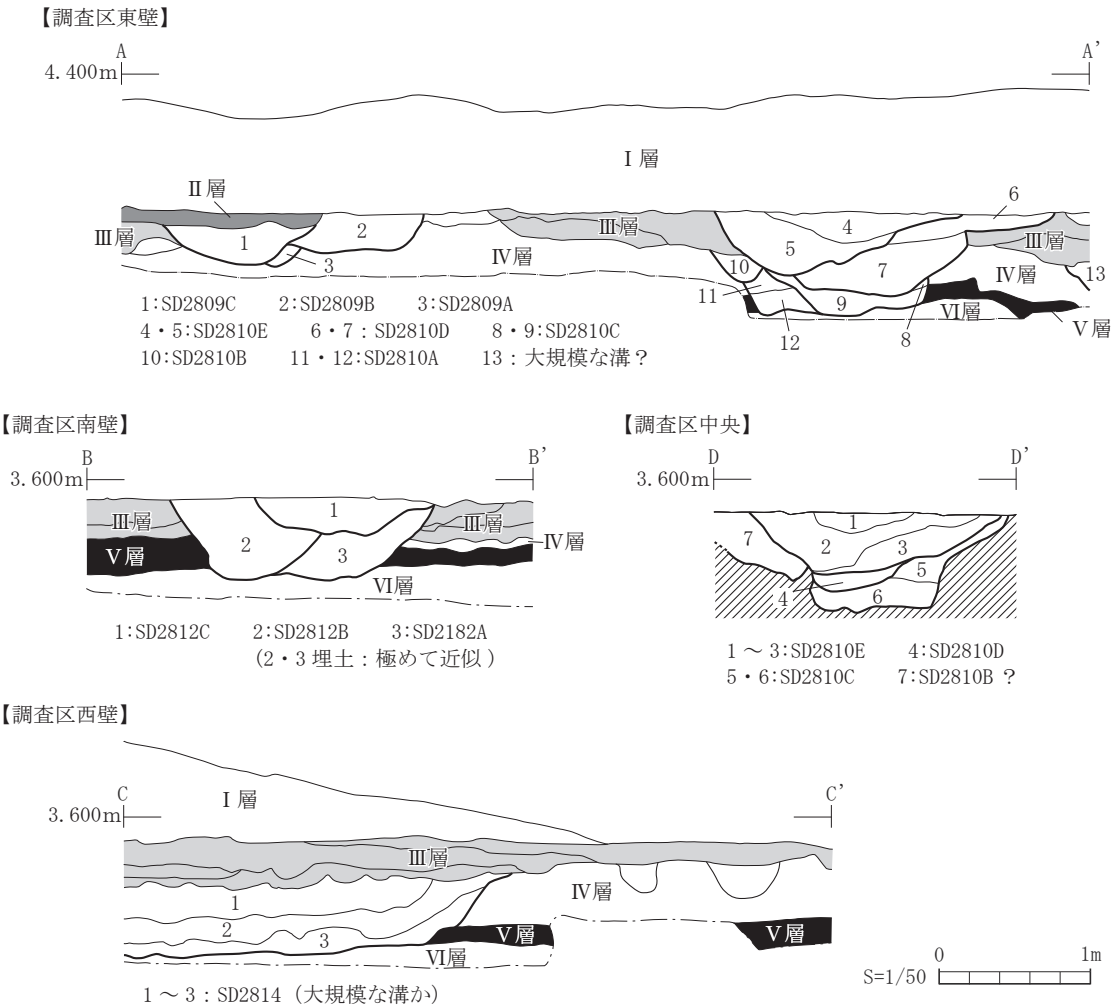
（2）発見遺構と遺物

ＳＸ 2811 東西道路跡（第 2 ・ 3 図）

【位置】調査区北半部で発見した道路跡である。多賀城南面に広がる方格地割を構成する南 2 道路に並行し、それよりさらに南側に位置する東西道路である。

【構造】南北に素掘りのＳＤ 2809 北側溝及びＳＤ 2810 南側溝を伴う。路面構築土や基礎改良痕跡については確認できなかった。

第２図　遺構平面図



第３図　調査区東壁ほか断面図

【重複】土壙や攪乱によって一部破壊されている。また、ＳＤ 2810 側溝は南側でＳＸ 2813 西９道路跡のＳＤ 2812 西側溝と接続する。

【変遷】道路側溝の重複関係の検討から、南側溝で５時期（Ａ期→Ｅ期）の変遷を確認したが、北側溝では火山灰降下以降の側溝（Ｄ～Ｅ期）を確認することが出来ない。新しい段階の道路側溝は、調査区外に位置をずらして作られている可能性がある。

【規模】規模はＣ期で側溝心々間 4.25 ｍである。方向は西で約 10 度北に偏している。

ＳＤ 2809 北側溝（第２・３図）

Ａ期：最も古い時期にあたり、大部分を後続のＢ・Ｃ期に壊されている。

【規模】残存状況が悪く、規模はほぼ不明である。

【埋土】褐色中粒砂（10YR4/4）。粘性なし。極暗褐色シルト（7.5YR2/3）ブロックを含む。

【遺物】出土していない。

Ｂ期：後続するＣ期に北端部を壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 90 ㎝程度、深さ 22 ㎝程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】黒褐色シルト（7.5YR2/2）。粘性ややあり。炭化物を含む。

【遺物】出土していない。

Ｃ期：本調査区で確認した北側溝では、最も新しい段階のものである。

【規模】残存部分で上端幅 98 ㎝程度、深さ 26 ㎝程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】極暗褐色シルト（7.5YR2/3）。やや粘性あり。灰白色火山灰、黄褐色砂ブロックを少量含む。

【遺物】土師器坏、須恵器坏・甕が出土した。

ＳＤ 2810 南側溝（第２・３図）

Ａ期：最も古い時期にあたり、大部分を後続のＤ・Ｅ期に壊されている。

【規模】残存状況は悪く、規模は不明である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は垂直に立ち上がる。

【埋土】２層に分層される（第３図）。上層は黄褐色中粒砂（10YR2/1）であり、下層は黒褐色シルト（10YR2/2）である。

【遺物】出土していない。

Ｂ期：大部分を後続のＥ期によって壊されている。

【規模】残存状況は悪く、規模は不明である。

【埋土】黒褐色細粒砂（7.5YR3/2）である。粘性有り。黄褐色砂ブロック少量含む。

【遺物】出土していない。

Ｃ期：大部分を後続のＤ・Ｅ期によって壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 1.2ｍ程度、深さ 20 ㎝程度である。

【壁・底面】底面はやや凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。
【埋土】２層に分層される（第３図）。上層は黄褐色中粒砂（10YR2/1）であり、下層は黒褐色シルト（10YR2/2）である。いずれも灰白色火山灰ブロックを含む。
【遺物】土師器坏（Ｂ類）・甕（Ｂ類）が出土した。
Ｄ期：【規模】残存部分で上端幅 1.7ｍ程度、深さ 50 ㎝程度である。
【壁・底面】底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。
【埋土】２層に分層される（第３図）。上層は黒褐色シルト（7.5YR3/2）であり、黒色ブロックを含む。下層は黒褐色シルト（10YR2/2）であり、黄褐色砂ブロックを含む。
【遺物】土師器坏（ＢⅤ）・甕（Ａ類・Ｂ類）、須恵器坏・甕、須恵系土器坏が出土した。
Ｅ期：最も新しい時期の南側溝である。
【規模】残存部分で上端幅 1.58ｍ程度、深さ 40 ㎝程度である。
【壁・底面】底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。
【埋土】２層に分層される（第３図）。上層は黒色粘土（10YR2/1）であり、下層は黒褐色極細粒砂（10YR2/3）である。
【遺物】土師器坏（Ａ類・ＢⅡ類・ＢⅤ類／第４図２）・甕（Ａ類・Ｂ類）・甑（第４図３）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・長頸瓶、須恵系土器坏、羽釜形土器（第４図４）、灰釉陶器埦、平瓦が出土している。

ＳＸ 2813 西８道路跡（第３図）
【位置】多賀城南面に広がる方格地割を構成する道路網のうち、基幹道路である南北大路から数えて西に８本目の小路である西８道路に相当する。調査区南側で東西道路との交差点付近の西側溝のみを確認した。東側溝は調査区外に存在すると考えられる。
【構造】西側に素掘りのＳＤ 2812 西を伴う。路面構築土や基礎改良痕跡については確認できなかった。
【重複】土壙や撹乱によって一部破壊されている。また、北側でＳＸ 2811 東西道路跡のＳＤ 2810 南側溝と接続する。
【変遷】西側溝の重複関係から３時期（Ａ期→Ｃ期）の変遷を確認した。
【方向】西で約 10 度北に偏している。

ＳＤ 2812 西側溝（第２図）
Ａ期：最も古い時期にあたり、大部分を後続のＢ・Ｃ期に壊されている。
【規模】残存部分で上端幅１ｍ程度、深さ 50 ㎝程度である。
【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。
【埋土】（10YR4/4）。極暗褐色シルト（7.5YR2/3）ブロックを含む。
【遺物】出土していない。
Ｂ期：Ａ期に対してやや西に作り替えられている。東端部を後続のＣ期に壊されている。
【規模】残存部分で上端幅１ｍ程度、深さ 55 ㎝程度である。
【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。
【埋土】黒褐色シルト（7.5YR2/2）。粘性ややあり。炭化物を含む。

【遺物】出土していない。

Ｃ期：本調査区で確認した西側溝では、最も新しい段階のものである。

【規模】残存部分で上端幅 1.2ｍ程度、深さ 22.5 ㎝程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】極暗褐色シルト（7.5YR2/3）。やや粘性あり。灰白色火山灰、黄褐色砂ブロックを少量含む。

【遺物】出土していない。

ＳＤ 2814 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区南西部で発見した溝跡である。西壁及び排水用側溝の断面観察により発見した。

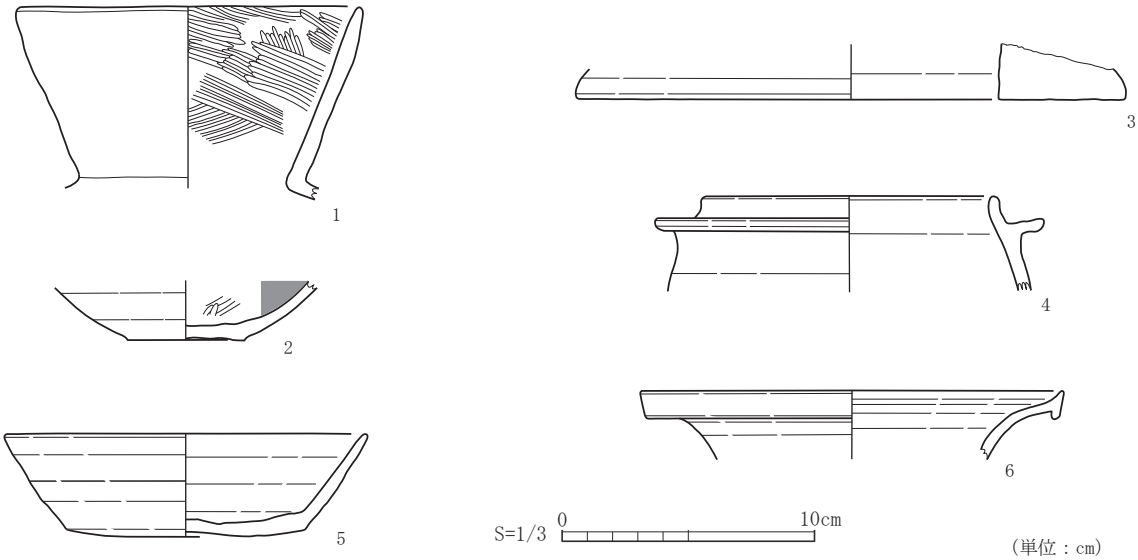
【重複】他の遺構との重複はないが、Ⅲ層によって覆われており道路側溝より古い時期の遺構である。

【規模】上端幅は 2.5ｍ以上、深さは 50 ㎝程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】３層に細分することができる（第３図１～３層）。１層は黒褐色シルト（10YR2/3）であり、粘性を有し、鉄分を含んでいる。２層は黒褐色粘土（10YR3/1）であり、黄褐色粘土を微量含む。３層は黄灰色シルト（2.5Y4/1）であり、黄褐色砂ブロックを多量に含む。

【遺物】出土していない。



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	土師器 壺	－	Ⅰ	ヘラミガキ（摩滅）	ハケメ・ヘラミガキ	13.6	－	(7.7)	R7	
2	土師器 坏	SD2810E	1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	－	(4.6) 6/24	(2.3)	R4	
3	土師器 甑	SD2810E	1	ロクロナデ	ロクロナデ	－	(21.6) 2/24	(2.2)	R6	無底の甑
4	羽釜形土器	SD2810E	1	ロクロナデ	ロクロナデ	(11.4) 3/24	－	(3.8)	R5	
5	須恵器 坏	－	Ⅰ	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(14.2) 1.5/24	(9.4) 9/24	4.1	R1	
6	須恵器 瓶	SX2811	－	ロクロナデ	ロクロナデ	(16.7) 2/24	－	(2.8)	R3	

第４図　出土遺物

写真図版

調査区全景（遺構検出／南東から）

調査区全景（遺構埋土一部掘り下げ／南東から）

山王遺跡第 125 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王一区１の一部

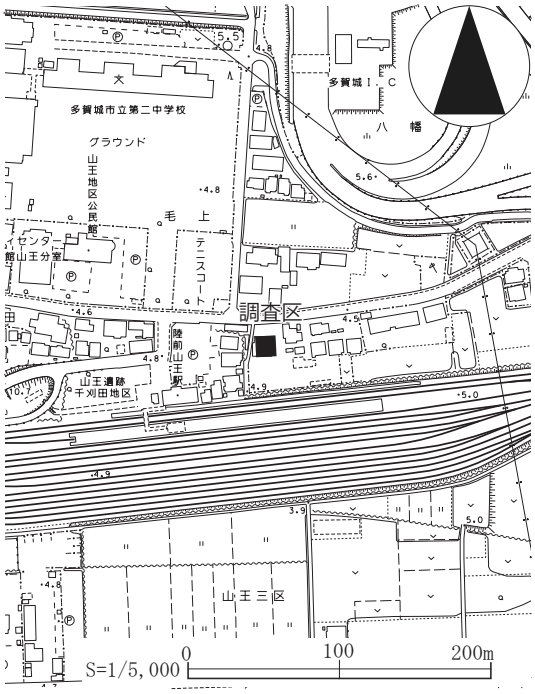
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 25 年３月７日～３月 19 日

対象面積　398.96 ㎡

調査面積　123 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

3/7　重機による表土掘削（～ 3/8）、調査器材搬入

3/9　遺構検出作業（～ 3/13）

3/13　全景写真撮影

3/14　遺構平面・断面図作成（～ 3/16）

3/19　重機による調査区埋戻し

調査器材搬出（調査終了）

3　調査成果

（１）層序

Ⅰ層:現代の盛土層であり、Ⅰ１層（褐色砂質土）とⅠ２層（暗褐色砂質土及びにぶい黄色砂質土の混合）に分けられる。

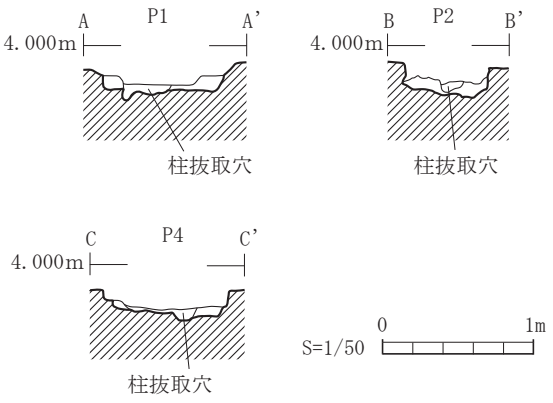
Ⅱ層：褐灰色粘質土（10YR4/1）である。

Ⅲ層：にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）であり、本地区周辺では古代の最終遺構検出面となっている。

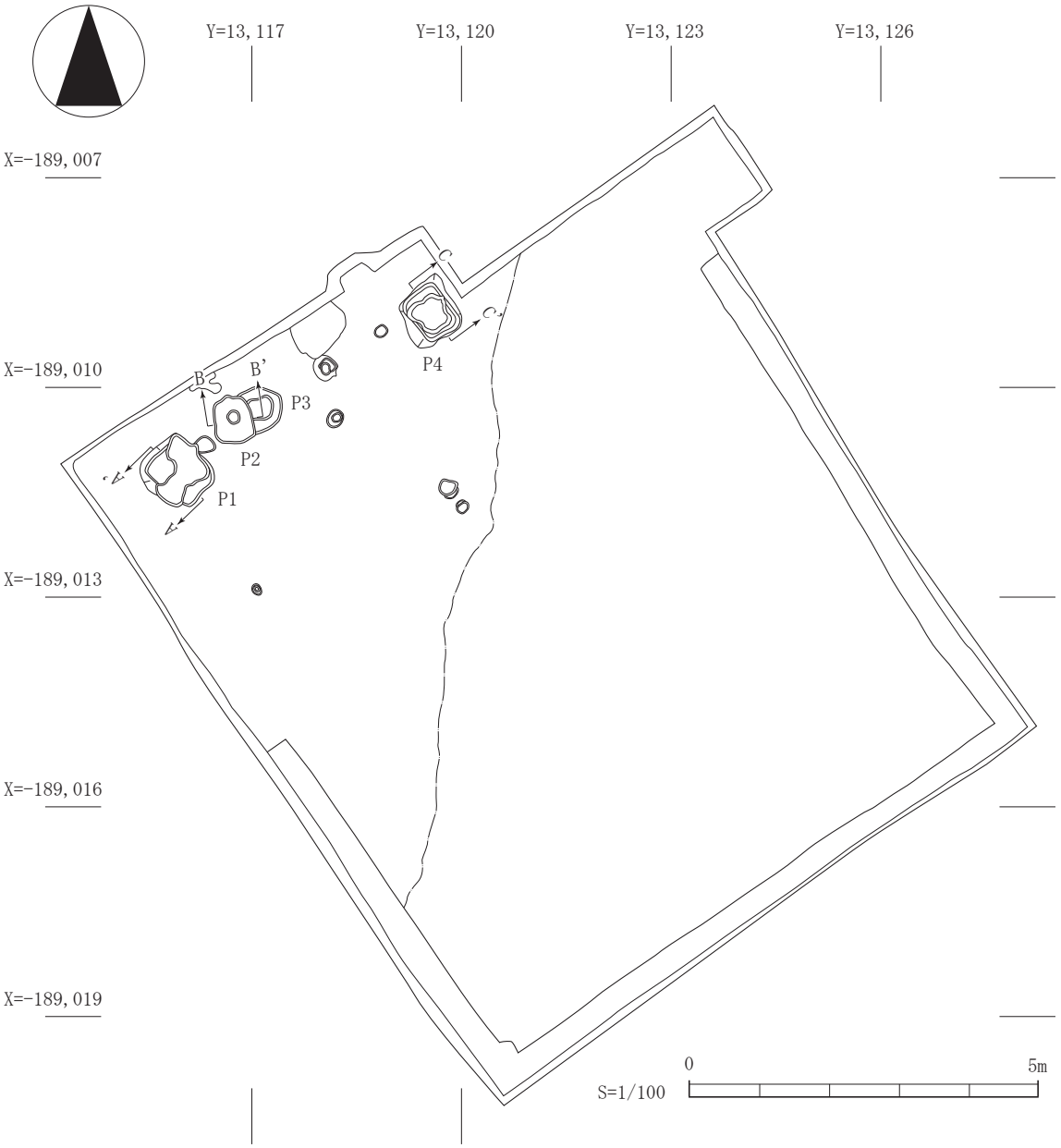
（２）発見遺構と遺物（第２・３図）

調査区北西部で、組み合わせ不明な柱穴４基及び小ピットを確認した。柱穴（Ｐ１～Ｐ４）は方形を基調としており、いずれも残存状況は悪い。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４で抜取り穴を確認した。

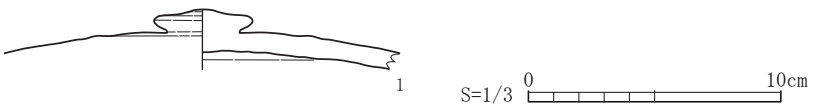
遺物はＰ１抜取り穴から土師器坏（A類)･甕（A類･B類)、須恵器坏（Ⅰ類)･蓋（第４図１)･甕、鉄製品、Ｐ１掘方埋土から土師器坏・甕、Ｐ３抜取り穴から須恵器坏、Ｐ５検出面から土師器甕、須恵器甕が出土している。



第２図　柱穴断面図



第３図　遺構平面図



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	須恵器 蓋	P1	1	ロクロナデ	ロクロナデ	−	−	(2.3)	R1	

第４図　出土遺物

写真図版

調査区西半部（北西から）

山王遺跡第 135 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王三区 56 － 6

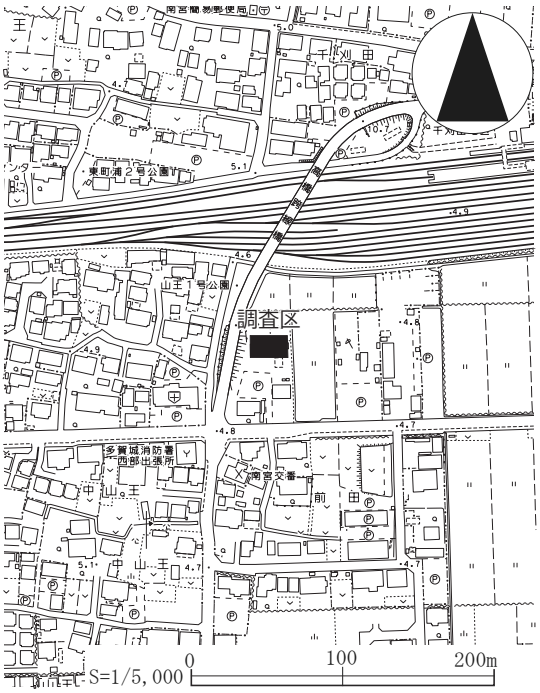
調査原因　個人住宅建築

調査担当　武田健市　村上詩乃

調査期間　平成 25 年 10 月 1 日～同年 12 月 4 日

対象面積　52.99 ㎡

調査面積　37 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

10/1　重機による表土掘削
　　排水用側溝設置など環境整備

8/2　遺構検出作業
　　Ⅲ層上面で溝跡確認

8/5　測量基準点移動、平面図及び調査区壁面の断面図作成、調査器材搬出

8/7　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

本地区は、山王遺跡のおよそ中央に位置しており、古代の方格地割でみれば東西大路の南側・西８南北道路東側の区画（南１西８区）にあたる。

本調査は、平成３年に実施した第 16 次調査区の中央南側を再調査したものであり、にぶい黄色粘質土上面（本調査：Ⅲ層）で、柱穴や溝跡、土壙を発見している。

（1）層序

Ⅰ層　現代の盛土層であり、厚さは約 1.1 ｍである。上位 0.8 ｍが山砂、下位 0.4 ｍが旧水田層である。

Ⅱ層　第 16 次調査で施した遺構の保護層であり、厚さは 15 ～ 20 ㎝である。

Ⅲ層　黒褐色粘質土（10YR3/1）が多量に混入するにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）であり、厚さは８～ 14 ㎝である。今回確認したすべての遺構の検出面である。

（2）発見遺構と遺物

本調査区は、山王遺跡第 16 次調査区の一部を再調査したものである。Ⅲ層上面で柱穴、溝跡、土壙を発見した。このうち、東西・南北方向の溝跡は、第 16 次調査でＳＤ 628 小溝群として一括で報告したものであるが、本報告ではこれら遺構についても個別に報告するものである。

ＳＤ 2800 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区中央部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＫ 2798 と重複し、それよりも古い。

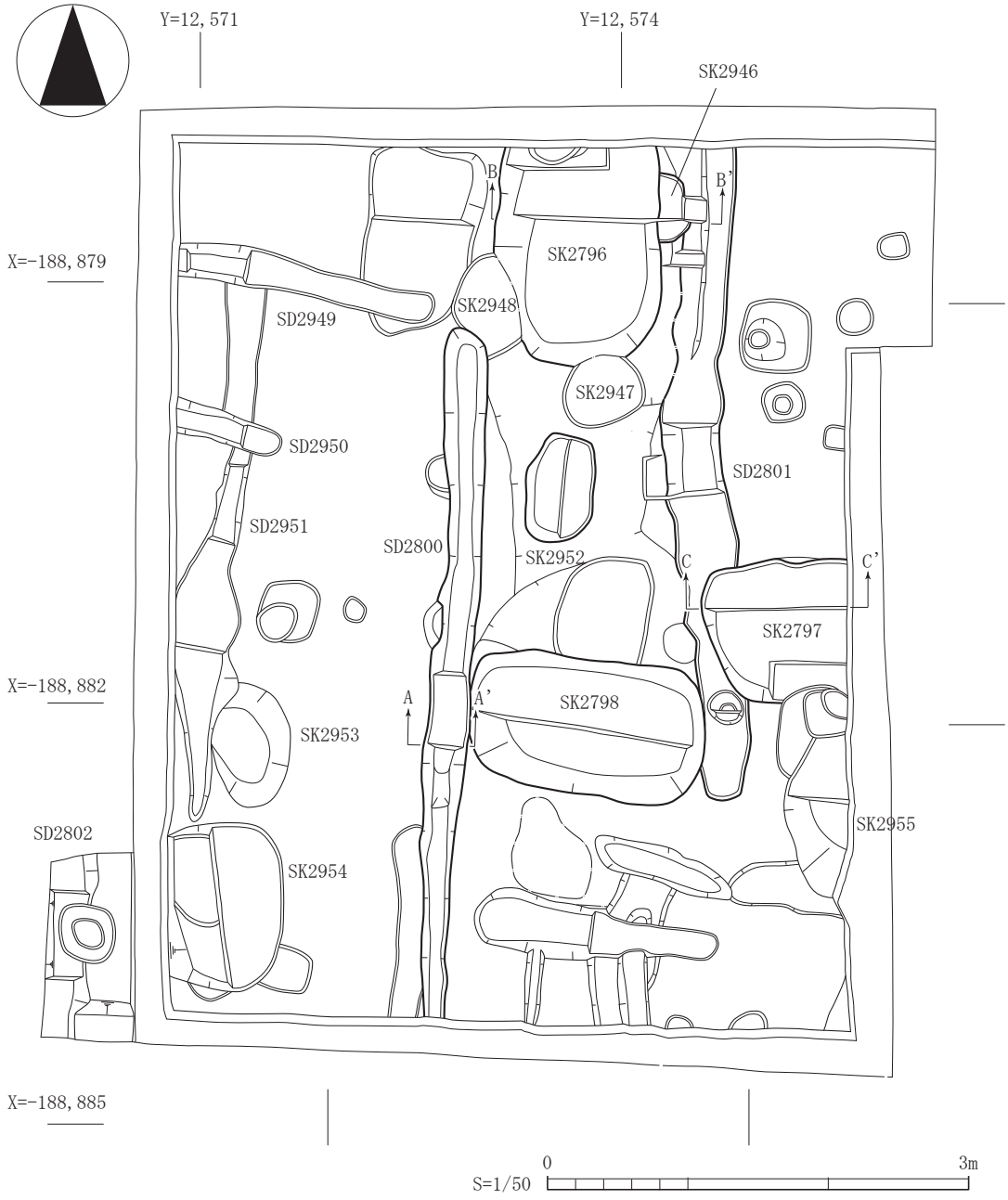
【方向】北で約３度東に偏している。

【規模】長さ 5.2 ｍ以上、上幅約 30 ㎝、深さは中央部のベルトで測ると約 20 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる（第２図）。上層はにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）や炭化物が僅かに混入する黒色粘土、下層はにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が斑状に多量に混入する黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅡｃ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅲ類）・瓶・甕が出土している。

【年代】坏類では土師器坏ＢⅡｃ類と須恵器坏Ⅲ類のみが出土していることから、９世紀でも前半代のも



第２図　遺構平面図

のと考えておきたい。

ＳＤ 2801 溝跡（第２図）

【位置】調査区東部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＫ 2797・2798・2946 と重複し、それらよりも古い。

【方向】北で約２度西に偏している。

【規模】長さ５ｍ以上、上幅 30 ～ 42 ｍである。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、にぶい黄橙色粘質土（10YR6/4）やにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が小ブロック状に多量に混入している。締りは非常に強い。

【遺物】土師器坏（Ｂ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏・瓶・甕が出土している。

【年代】土師器がＢ類に限られ、須恵系土器が認められないことから、９世紀代と考えられる。

ＳＫ 2796 土壙（第２図）

【位置】調査区北半部で発見した、南北に長い土壙である。

【重複】ＳＫ 2946 ～ 2948 と重複し、ＳＫ 2947・2948 よりも古く、ＳＫ 2946 よりも新しい。

【規模】長軸約 1.8 ｍ、短軸約 1.2 ｍ、深さ 20 ㎝である。

【埋土】３層に細分することができる（第３図）。いずれも黒褐色粘質土（10YR3/1）が主体であり、１・２層にはにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が斑状に、２層には炭化物の薄層が認められる。

【遺物】土師器甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ｖ類）が出土している。

【年代】出土土器は少量ではあるものの、土師器甕がＢ類であること、須恵器坏ではＶ類が認められることから、９世紀後半頃と考えられる。

ＳＫ 2798 土壙（第 16 次調査区ＳＫ 615 土壙と同一）

【位置】調査区中央部で発見した、東西に長い土壙である。

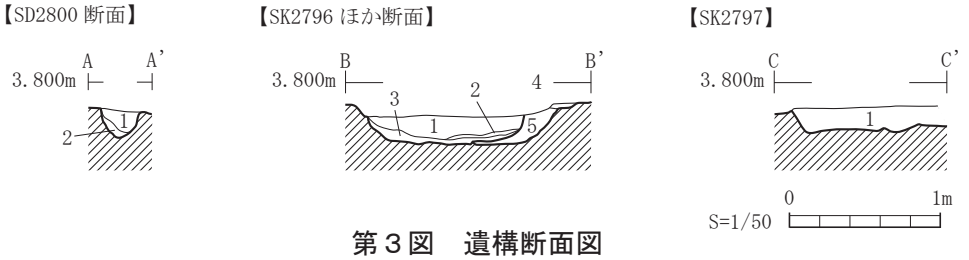
【重複】ＳＤ 2800・1801 と重複し、これらよりも新しい。

【規模】長軸 1.7 ｍ、短軸 95 ㎝である。

【埋土】褐灰色粘質土（10YR4/1）である。にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）及びにぶい黄橙色粘質土（10YR6/4）が僅かに混入しているほか、炭化物が薄層状に確認できる。

【遺物】土師器坏（ＢＶ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏・甕が出土している。

【年代】ＳＤ 2800 溝跡との新旧関係から、９世紀前半以降と考えられる。出土遺物に土師器坏ＢＶ類が認められることとも矛盾しない。



第３図　遺構断面図

調査区全景（南から）

山王遺跡第 141 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王四区 185 － 8

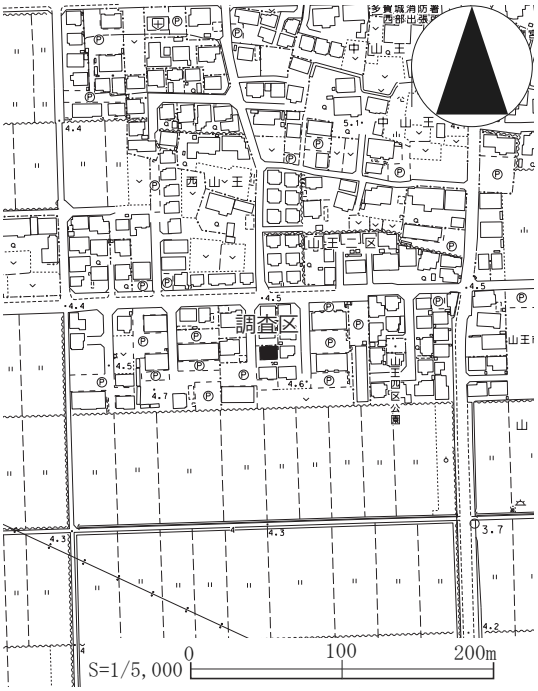
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 26 年２月４日～２月 27 日

対象面積　197.64 ㎡

調査面積　46 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

2/4　重機による表土掘削、調査器材搬入

2/5　遺構検出作業、全景写真撮影

遺構平面・断面図作成（～ 2/26）

2/27　重機による調査区埋戻し、調査器材搬出

（調査終了）

3　調査成果

（１）層序

Ⅰ層：現代の盛土であり、厚さは１～ 1.2 ｍである。

Ⅱ層：暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y3/3）である。調査区内の一部に残存するのみである。

Ⅲ層：浅黄色砂質土（2.5Y7/4）であり、本地区周辺の古代の最終遺構検出面（地山）である。

（２）発見遺構と遺物

本地区は、古代の方格地割を形成する道路網のうち、最も西側に施工された西９南北道路上に位置している。近接して第 116･131 次調査を実施しており、古代の溝跡や、中世の柱列跡、区画溝を発見している。

今回の調査では、西９南北道路、井戸跡を発見した。

ＳＸ 2808 西９道路跡（第２・３図）

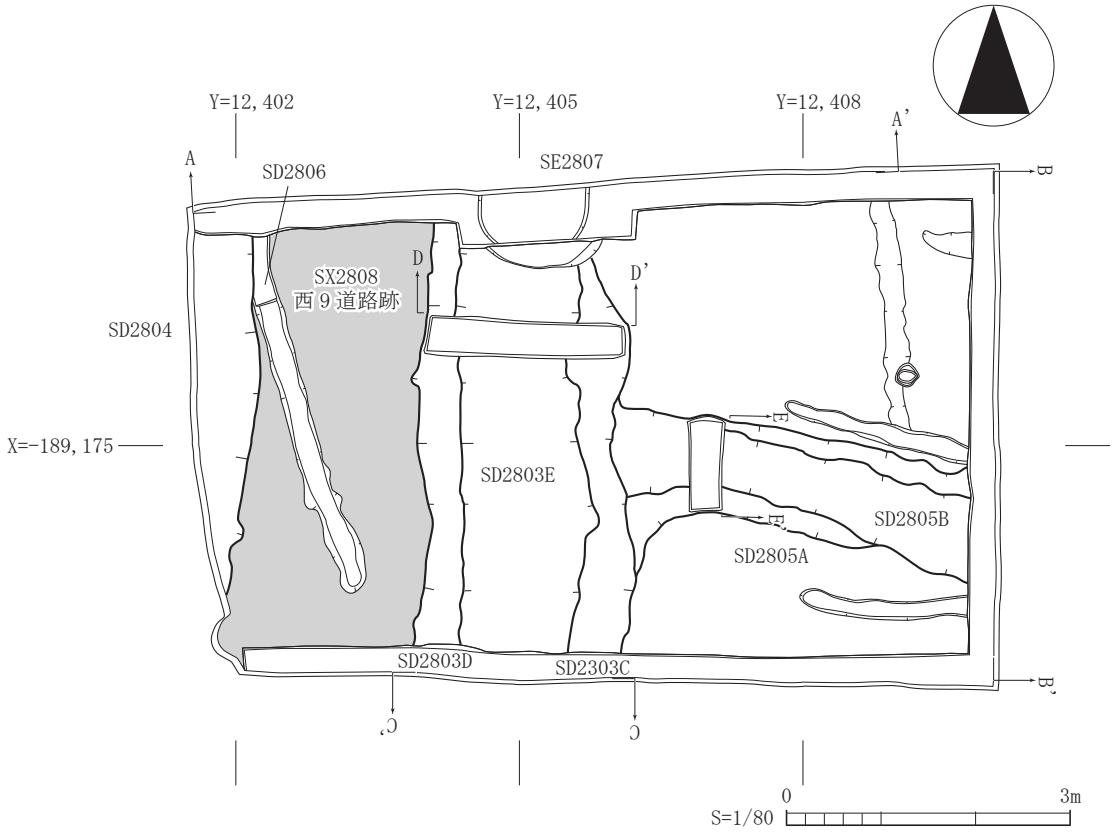
【立地】多賀城南面に広がる方格地割を構成する道路網のうち、基幹道路である南北大路から数えて西に９本目の小路である西９道路に相当する。調査区西半部で確認した。

【構造】東西に素掘りの側溝ＳＤ 2803 東側溝及びＳＤ 2804 西側溝を伴う。

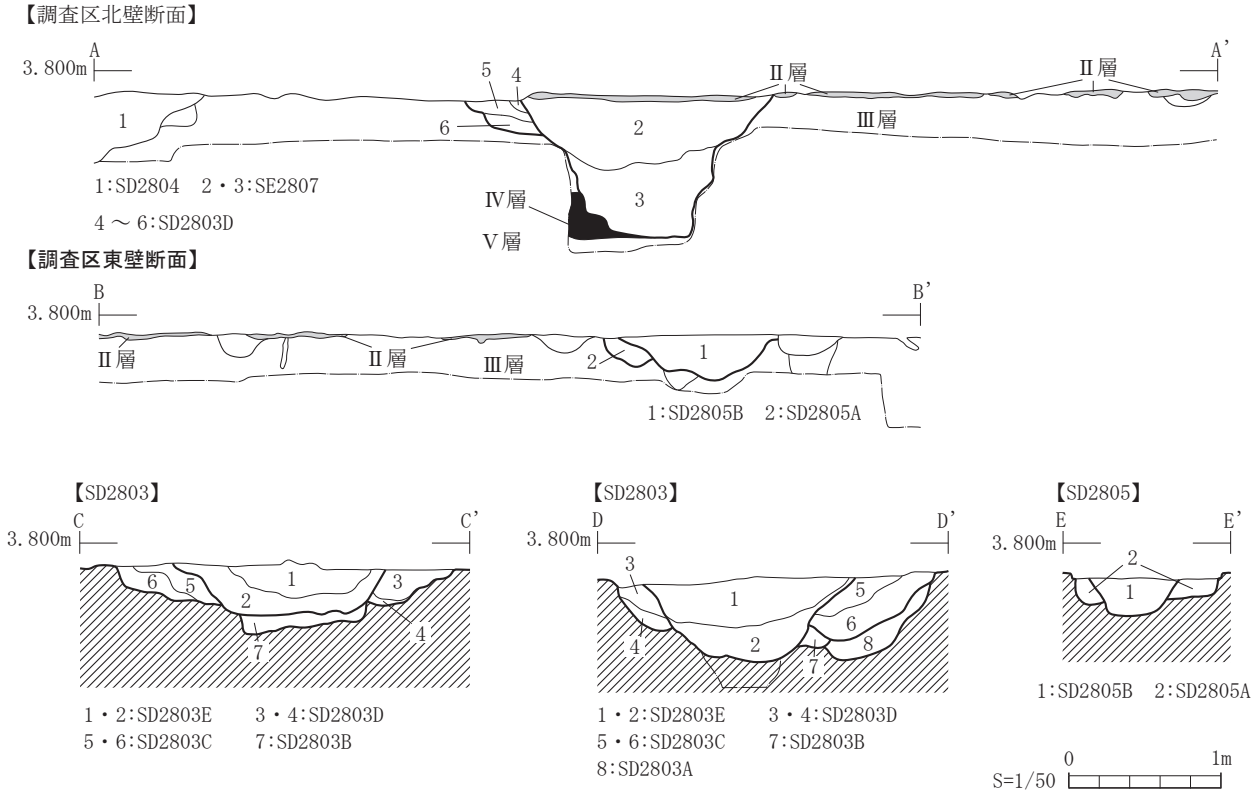
【変遷】道路東側溝の重複関係の検討から、５時期（Ａ期→Ｅ期）の変遷を確認した。

【方向】２層上面から彫り込まれており、２区で北西端の攪乱を受けている。

【重複】調査区内を緩やかに蛇行している。規模はＡ期が３区北壁で上端幅 1.1m 程度、深さが 40cm 程度であり、Ｂ期が３区北壁で上端幅 1.5m 程度、深さが 40cm 程度である。



第２図　遺構平面図



第３図　調査区壁面及び遺構断面図

ＳＤ 2803 東側溝（第２・３図）

Ａ期：東側溝で最も古い時期にあたり、大部分を後続のＢ・Ｃ期に壊されている。

【規模】残存している部分で確認した規模は上端幅 70cm 程度、深さが 50cm 程度である。

【埋土】オリーブ褐色砂を主体とし、とにぶい黄色シルト（2.5Y6/4）と黒色シルト（2.5Y2/1）を少量含む。

【遺物】出土していない。

Ｂ期：後続するＣ・Ｄ期に大部分を壊されている。Ａ期に対してやや西側に位置を変えてつくられている。

【規模】残存状況が悪く、規模は不明である。

【埋土】黒色粘質土（2.5Y2/1）。地山由来の土を含む。

【遺物】出土していない。

Ｃ期：後続するＥ期に西半部を壊されている。Ａ・Ｂ期に対してやや西側に位置を変えてつくられている。

【規模】残存している部分で確認した規模は上端幅 85cm 程度、深さは 40cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】２層確認しており（第３図５・６層）、５層は暗オリーブ褐色砂質土（2.5Y3/3）であり、灰白色火山灰を粒状に含む。６層は暗オリーブ褐色砂質土（2.5Y3/3）であり、地山ブロックを含む。

【遺物】出土していない。

Ｄ期：後続するＥ期に東半部を壊されている。Ａ・Ｂ・Ｃ期に対してやや西側に位置を変えてつくられている。

【規模】残存している部分で確認した規模は上端幅 30cm 程度、深さは 30cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】２層確認しており（第３図３・４層）、３層は灰オリーブ色砂質土（5Y4/2）である。５層は暗オリーブ色砂（5Y4/4）である。

【遺物】土師器甕が出土した。

Ｅ期：東側溝で最も新しい時期にあたる。Ｄ期に対してやや東よりに位置を変えてつくられている。

【規模】上端幅 1.4m、下端幅 50cm、深さは 55cm である。

【壁・底面】底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】２層確認しており（第３図１・２層）、１層は暗オリーブ色シルト（5Y4/3）であり、灰白色火山灰をブロック状に含む。２層はオリーブ黒色シルト（5Y3/2）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅤ類）・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏が出土した。

ＳＤ 2804 西側溝（第２・３図）

【位置・規模】調査区西端部で一部を確認したのみであり、全体の規模・変遷は不明である。

【壁・底面】底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる

【埋土】均質な暗オリーブ褐色粘質土である。

【遺物】出土していない。

ＳＤ 2805 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区東半部で確認した東西方向の溝跡である。

【変遷】重複関係から２時期（Ａ期→Ｂ期）の変遷を確認した。

【重複】ＳＸ 2808 道路跡のＳＤ 2803 東側溝に接続しており、区画溝もしくは東西道路の側溝の可能性がある。

【方向・規模】方向は東で 14 度南に偏している。規模はＡ期が上端幅 95cm 程度、深さ 15cm 程度であり、Ｂ期が上端幅 50cm 程度、深さ 25cm 程度である。

【壁・底面】Ａ期の底面は平坦であり、壁は急角度で立ち上がる。Ｂ期の底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】１層は黒色粘質土（10YR2/1）を主体とし、白色粒・黄褐色ブロックを含む。２層は暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）を主体とし、白色粒を少量含む。

【遺物】Ｂ期から土師器細片、石製模造品（鏡）が出土した。

ＳＤ 2806 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区西半部で確認した南北方向の溝跡である。

【重複】調査区北西端部でＳＤ 2804 西側溝と重複しており、これより古い。

【方向・規模】上端幅は 36cm 程度であり、深さは 15cm 程度である。方向は北で 18 度西に偏している。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は急角度で立ち上がる。

【埋土】１層は黒色粘質土（10YR2/1）を主体とし、白色粒・黄褐色ブロックを含む。２層は暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）を主体とし、白色粒を少量含む。

【遺物】土師器坏が出土した。

ＳＥ 2807 井戸跡（第２・３図）

【位置】調査区中央北端部で確認した素掘りの井戸跡である。

【重複】ＳＤ 2803 東側溝と重複しており、これより新しい。

【規模】上端幅は 1.65m 程度であり、深さは 88cm 程度である。断面形態は漏斗状である。

【埋土】２層確認しており（第３図２・３層）、２層はオリーブ黒色粘土（5Y3/2）と灰オリーブ色粘土（5Y5/2）の互層であり、植物遺体を少量含む。３層はオリーブ黒色粘土（5Y2/2）である。

【遺物】出土していない。

写真図版

調査区全景（北西から）

ＳＤ 2083 断面（南から）

山王遺跡第 142 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王四区 92-1、

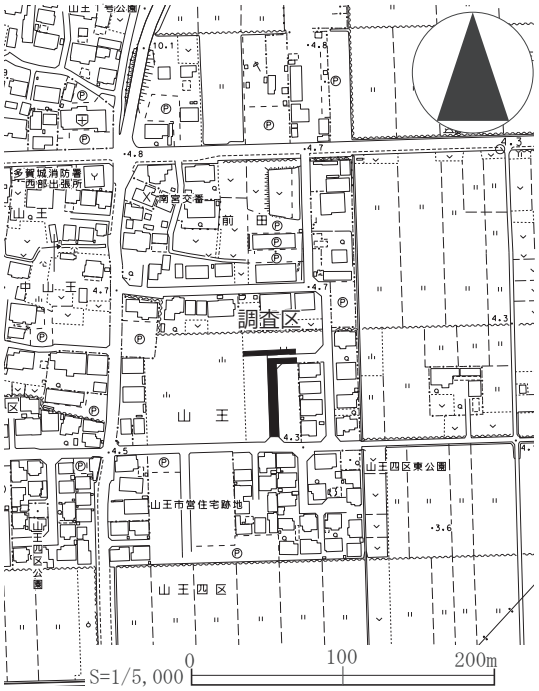
調査原因　宅地造成

調査担当　中島和彦、高橋純平、村上詩乃、城口貴彰

調査期間　平成 26 年 4 月 18 日～同年 9 月 9 日

対象面積　2,990.00 ㎡

調査面積　570 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

4/18　重機による１区の表土掘削準備
（木製擁壁杭除去）

4/19　重機による１区表土除去開始（～ 4/23）

4/24　Ⅰ区環境整備（～ 4/25）

5/8　１区遺構検出作業開始
本地区では２時期の遺構検出面（Ⅲ・Ⅴ層）があることを確認
以後、遺構検出・埋土掘下げ・写真撮影を継続（～ 9/2）

5/29　１区Ⅲ層上面全景写真撮影

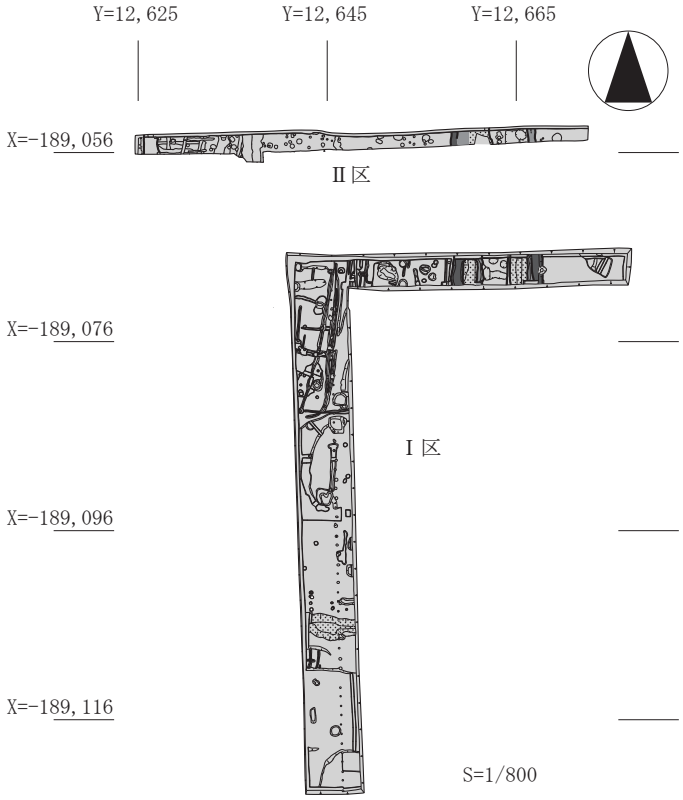
5/31　平面・断面図作成開始（～ 9/2）

6/10　重機により１区Ⅲ層除去

6/12　重機による２区表土掘削

6/17　２区遺構検出作業開始、以後１区調査とともに継続（～ 7/2）

9/3　調査器材搬出、重機による調査区埋戻し開始（～ 9/6　調査終了）



第２図　調査区配置図

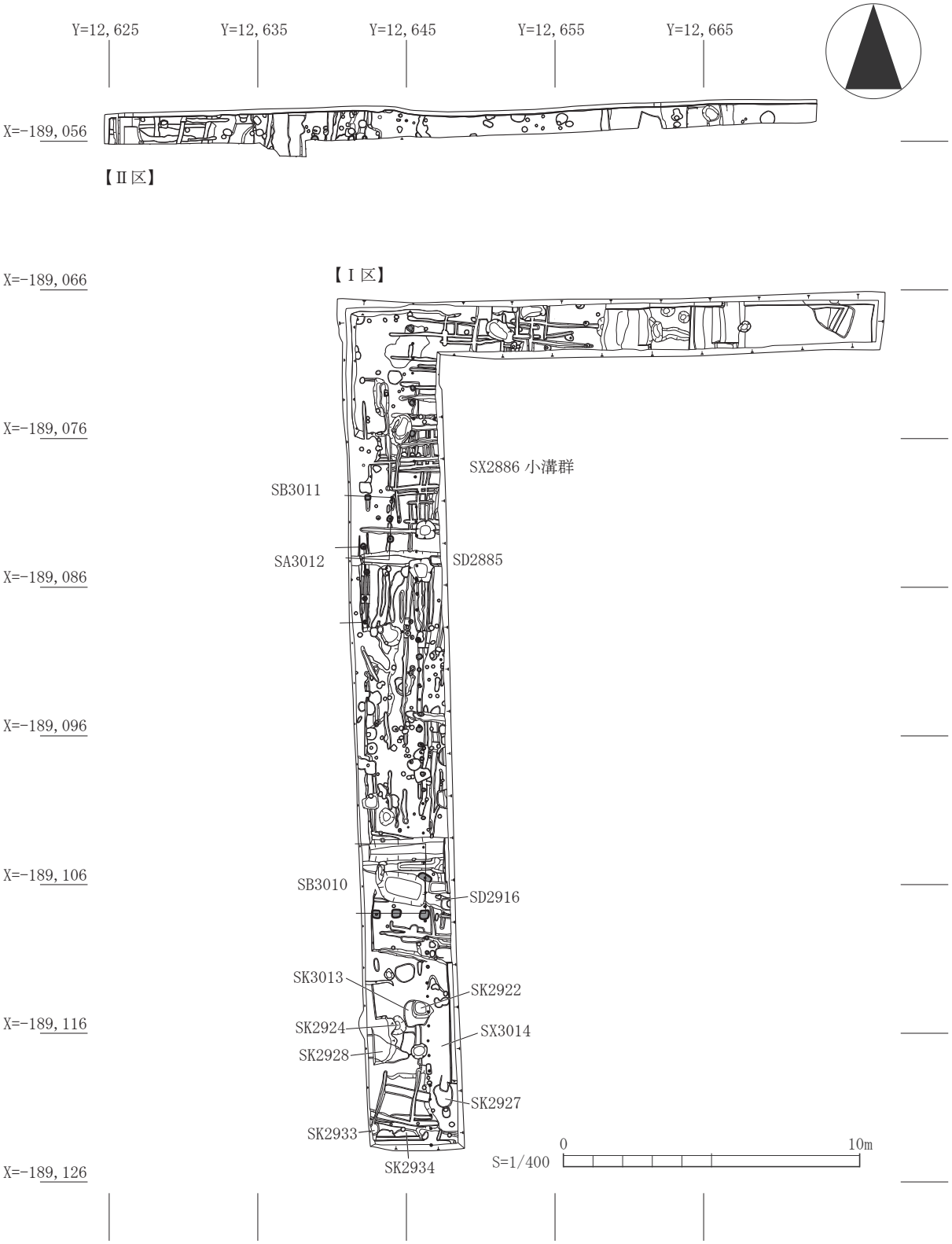
3　調査成果

（1）層序

Ⅰ１層　現代の盛土層であり、厚さは 0.8 ～ 1.0 ｍである。

Ⅰ２層　旧水田耕作であり、厚さは 15 ～ 20 ㎝である。

Ⅱ１層　Ⅰ区南北トレンチに認められる黒褐色土（10YR3/1）である。調査区南側に向かい厚く堆積しており、



第３図　Ⅳ層上面検出遺構全体図

厚さは２～ 10 ㎝である。

Ⅱ２層　Ⅰ区南北トレンチに認められる極暗褐色土（7.7YR2/3）であり、厚さは２～８㎝である。

Ⅱ３層　Ⅰ区南北トレンチに認められる黒色粘土（2.5Y2/1）であり、厚さは５～ 20 ㎝である。

Ⅲ　層　黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、厚さは 15 ～ 20 ㎝である。古代の遺構検出面である。

Ⅳ　層　にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）であり、古代の最終遺構検出面である。

（２）発見遺構と遺物

本調査区では、Ⅴ層及びⅢ層上面で遺構・遺物を発見した。周辺の調査区では、Ⅴ層下層で古墳時代前期の水田遺構が確認されているが、今回の造成工事では掘削深が及ばないことから、調査は行っていない。以下、層毎に発見遺構について記載する。

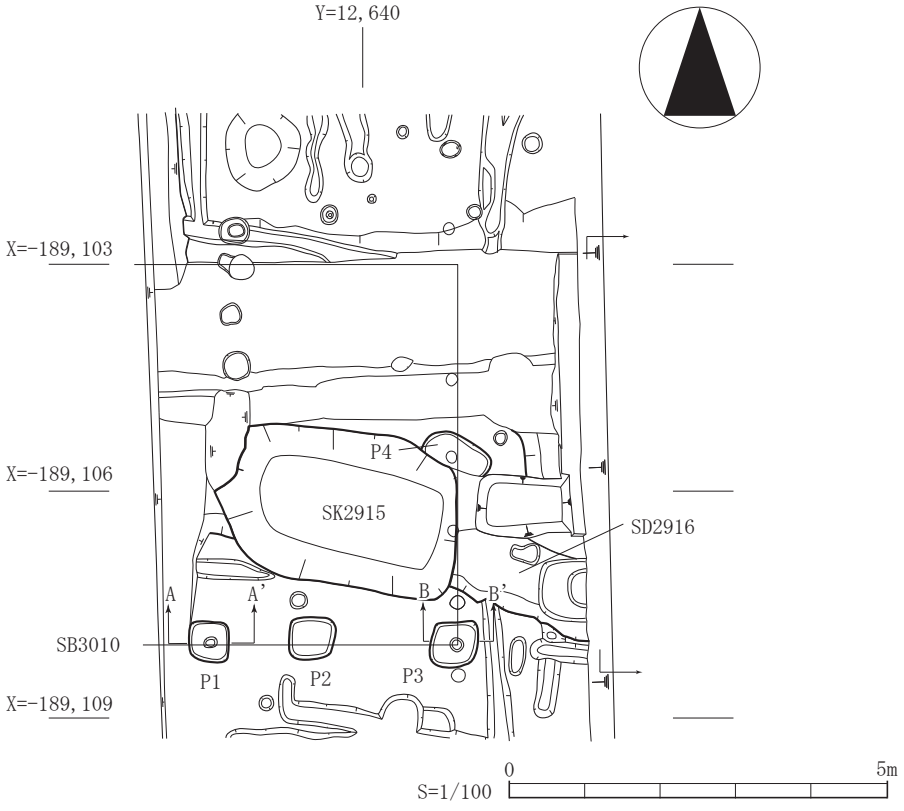
【Ⅴ層上面】

掘立柱建物跡、溝跡、土壙を発見した。Ⅲ層上面検出遺構の埋土中に 10 世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰が自然堆積するものがあることから、Ⅴ層上面検出遺構の年代は 10 世紀前葉以前であることが明らかである。

ＳＢ 3010 掘立柱建物跡（第４・５図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ中央で発見した建物跡である。

【桁行・梁行】４基の柱穴（Ｐ１～４）から推測したものであり、桁行３間以上、梁行２間の東西棟建物跡と考えられる。柱穴の配置から建物の東半部であると判断した。

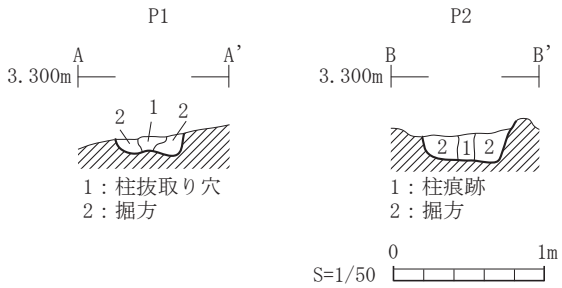


第４図　ＳＢ3010 掘立柱建物跡、ＳＤ2913 溝跡ほか平面図

【重複】ＳＫ 2915 と重複し、それらよりも古い。

【柱痕跡・抜取穴の有無】Ｐ３で柱痕跡、Ｐ１で柱抜取り穴を確認した。

【方向・規模】方向は南側柱列で測ると、概ね東西の発掘基準線と一致している。規模は南側柱列で総長 3.2 ｍ以上、柱間は東から約 1.9 ｍ、約 1.3 ｍである。



第５図　ＳＢ3010 掘立柱建物跡断面図

【掘方】方形を基調としており、規模はＰ３で測ると一辺約 60 ㎝である。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因のにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【柱痕跡】直径 12 ㎝の円形である。

【柱抜取穴】直径 20 ㎝の円形である。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因のにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【遺物】出土していない。

ＳＢ 3011 掘立柱建物跡（第６・７図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ北側で発見した建物跡である。

【桁行･梁行】４基の柱穴（Ｐ５～８）から推測したものであり､南北３間､東西２間の建物跡と考えられる。柱穴の配置から建物の東部であると判断した。

【重複】ＳＡ 3012、ＳＤ 2885、ＳＸ 2886 と重複し、ＳＤ 2885 よりも古く、ＳＸ 2886 よりも新しい。

【柱痕跡・抜取穴の有無】Ｐ８で柱痕跡、Ｐ６・７で柱抜取り穴を確認した。

【方向・規模】方向は東側柱列で測ると、北で約８度東に偏している。規模は東側柱列で総長 2.8 ｍ以上、柱間は北から約 1.5 ｍ、約 1.4 ｍである。

【掘方】方形及び円形を基調としており、規模は方形のＰ５で測ると、長辺 35 ㎝、短辺 32 ㎝である。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因のにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【柱痕跡】直径 12 ㎝の円形である。

【柱抜取穴】Ｐ７でみると、掘方の大部分を破壊している。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因のにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【遺物】出土していない。

ＳＡ 3012 柱列跡（第６・７図）

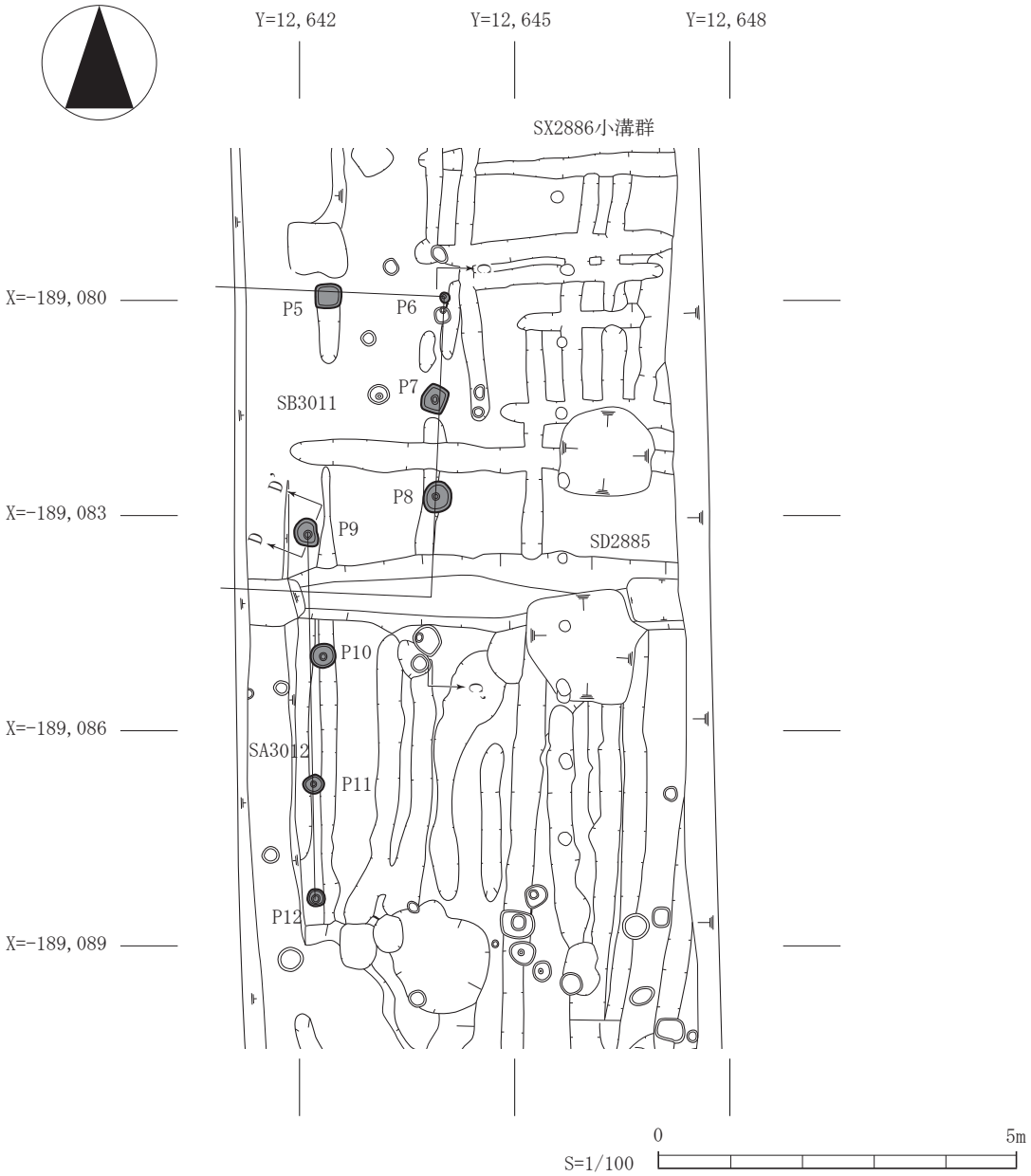
【位置】Ｉ区南北トレンチ北側で発見した柱列跡である。

【桁行・梁行】４基の柱穴（Ｐ５～８）から推測したものである。南北３間の建物跡東側柱列の可能性もあるが、ここでは柱列跡であると判断した。

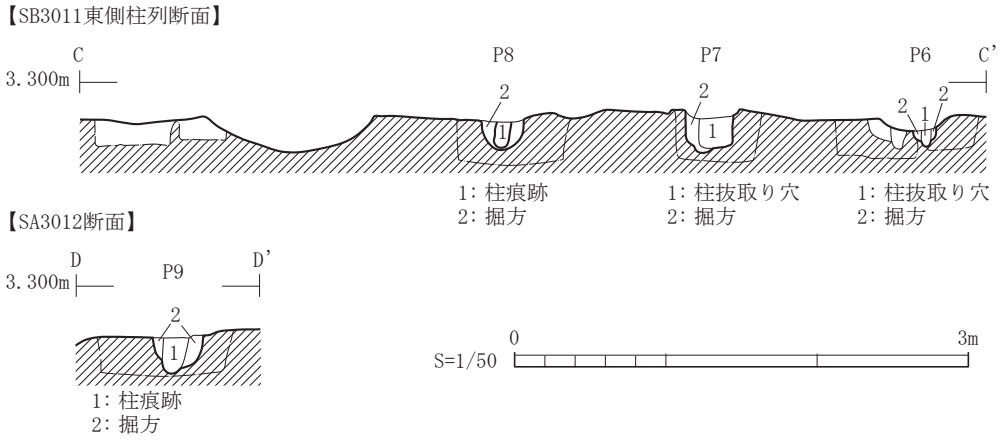
【重複】ＳＢ 3011、ＳＤ 2885、ＳＸ 2886 と重複し、ＳＸ 2886 よりも新しい。

【柱痕跡・抜取穴の有無】全ての柱穴で柱痕跡を確認した。

【方向･規模】方向は北で１度５分西に偏している。規模は総長 5.07 ｍ以上、柱間は北から 1.71 ｍ、1.79



第６図　ＳＢ3011、ＳＡ3012平面図



第７図　ＳＢ3011、ＳＡ3012断面図

m、1.57 mである。

【掘方】円形を基調としており、規模はＰ 10 で測ると、直径 35 ㎝である。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因のにぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【柱痕跡】直径 10 ～ 14 ㎝の円形である。

【遺物】出土していない。

ＳＸ 2886 小溝群（第８図）

【位置】Ｉ区東西及び南北トレンチで発見した小溝群であり、新旧関係から東西方向のＡ期（ＳＤ 2855 ～ 2858・2860・2871）→南北方向のＢ期（ＳＤ 2851・2853・2865・2866・2871・2881・2879・2883・2884・2887 ～ 2894・2897 ～ 2899・2901・2902・2907 ～ 2909・2912）→東西方向のＣ期（ＳＤ 2854・2859・2862・2863・2872・2876・2880）の３時期に分けられ、さらに各期で、２～５群に細分することができる。

【重複】ＳＤ 2885、ＳＫ 2867・2901・2910、ＳＸ 2896 等と重複し、それらよりも古い。

【方向】Ａ期が東で１～４度南に、Ｂ期が北で東に９度～西に５度、Ｃ期が東で北に８度～南に４度それぞれ偏している。

【規模】各期ともに上幅 25 ～ 35 ㎝のものがほとんどであり、長さはＢ期ＳＤ 2897 の 32 ｍが最長である。深さは５～ 15 ㎝である。

【埋土】各期ともに褐灰色粘質土（10YR4/1）及び黒褐色粘質土（2.5Y2/1）が主体であり、Ｖ層起因の土が粒状に混入するものもある。

【遺物】Ａ期溝から土師器坏･甕、Ｂ期溝から土師器坏（ＢⅠ類）･甕、須恵器坏（Ⅱ類）･瓶、須恵系土器坏、Ｃ期溝から土師器坏・甕、須恵器坏（Ｖ類）が出土している。

【年代】Ｂ期埋土中から須恵系土器が出土していることから、Ｂ・Ｃ期は 10 世紀前半頃と考えられる。

ＳＤ 2885 溝跡（第９図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ中央北側で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＸ 2886 Ｂ期と重複し、それよりも新しい。

【方向】東で約１度北に偏している。

【規模】長さ 6.6 ｍ以上、上幅 0.6 ～１ｍである。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢＶ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・長経瓶・甕が出土している。

【年代】土師器坏・甕にＢ類が認められることから、およそ９世紀頃の年代が推測される。

ＳＤ 2900 溝跡（第 10 図）

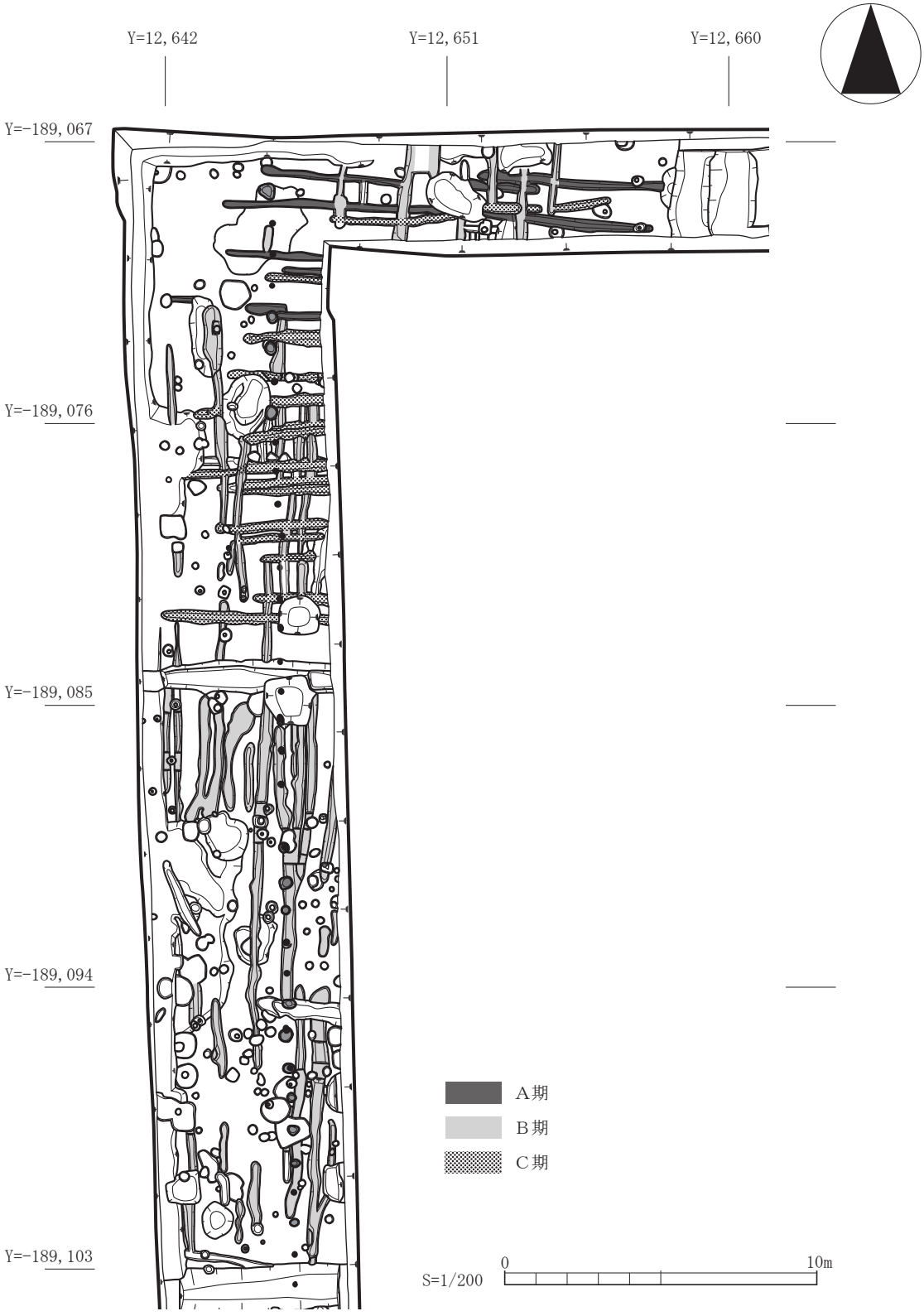
【位置】Ｉ区南北トレンチ中央部で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＸ 2886 Ｂ期と重複し、それらよりも新しい。

【方向】東で約８度南に偏している。

【規模】長さ 2.1 ｍ以上、上幅 0.4 ～ 0.7 ㎝、下幅 20 ～ 40 ㎝、深さ約 10 ㎝である。

【埋土】黒色粘質土（10YR2/1）である。



第８図　ＳＸ2886 小溝群変遷図

【遺物】土師器坏（ＢⅡ・ＢⅤ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・甕、須恵系土器坏、製塩土器が出土している。

ＳＤ 2928 溝跡（第 11 図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ南側で発見した、東西方向の溝跡である。

【方向】東で約２度北に偏している。

【規模】長さ 2.8 ｍ以上、調査区西壁でみると上幅 1.6 ｍ、下幅 1.4 ｍ、深さ 30 ㎝である。

【埋土】黒褐色粘質土（2.5Y3/1）である。

【遺物】須恵器坏（Ⅴ類）が出土している。

【年代】須恵系土器が出土していないことを考慮すれば、９世紀代と考えられる。

ＳＤ 2916 溝跡（第４図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ南側で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2917、ＳＫ 2916 と重複し、それらよりも新しい。

【方向】東で約 16 度南に偏している。

【規模】長さ 5.4 ｍ以上、上幅１ｍ以上、深さ 30 ㎝である。

【埋土】黒色粘質土（10YR2/1）であり、Ⅴ層起因のにぶい黄色粘質土が多く混入している。

【遺物】土師器坏（ＢⅠ・ＢⅡ・ＢⅤ類）・壺・甕、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、丸瓦、木製曲物、燃えさしが出土している。このうち土師器坏ＢⅤ類には、「藤□」と墨書されたものがある。

【年代】出土した土師器坏ＢⅤ類のうち完形に復元できた３点について見ると、底径／口径比が 40.4 ～ 48.4、器高／口径比が 31.9 ～ 35.1 であり、多賀城跡第 61 次調査第 10・11 層出土土器と類似している。これらは 9 世紀後半代のものと位置付けられていることから、ＳＤ 2916 も同様の年代と考えられる。

ＳＫ 2864 土壙（第９図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ北半部で発見した、南北に長い土壙である。

【重複】ＳＸ 2886 Ａと重複し、それよりも新しい。

【規模】上幅は長軸約 2.6 ｍ、短軸約１ｍ、下幅は長軸約 1.7 ｍ、短軸約 0.5 ｍ、深さは 10 ㎝である。

【遺物】土師器甕（Ａ類）の小片が１点出土している。

【年代】ＳＸ 2886 Ａとの新旧関係より、おおよそ９世紀以前のものである。

ＳＫ 2867 土壙（第９図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ北半部で発見した、南北に長い土壙である。

【重複】ＳＸ 2886 Ｂ・Ｃ期と重複し、それらよりも新しい。

【規模】上幅は長軸約 2.1 ｍ、短軸約 1.4 ｍ、下幅は長軸約 1.3 ｍ、短軸約 0.6 ｍ、深さは 20 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。上層が黒褐色粘質土（2.5Y3/1）、下層が黒色粘土（2.5Y2/1）であり、層離面に厚さ 0.5 ㎝程度の炭層が認められる。

【遺物】土師器坏（Ａ・ＢⅡ類）・甕（Ａ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類）・瓶・甕、漆膜が出土している。

【年代】土師器甕がＡ類に限られ、須恵器坏にＶ類が含まれていないことを考慮すれば、８世紀後葉～９世紀前半頃のものと考えられる。

ＳＫ 2896 土壙（第 10 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ中央部で発見した、南北に長い土壙である。

【重複】ＳＸ 2886 Ｂ期と重複し、それらよりも新しい。

【規模】上幅は長軸 11.5 ｍ以上、短軸 3.1 ｍ以上、深さは 15 ㎝である。

【埋土】黄灰色砂質土（2.5Y5/1）が主体であり、褐色土が粒状に混入している。

【遺物】土師器坏（ＢⅡ・ＢⅤ類）・鉢・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類）・瓶・甕が出土している。

【年代】土師器甕にＡが含まれれ、須恵器坏にＶ類が含まれていないことを考慮すれば、９世紀前半頃の範疇に収まる可能性がある。

ＳＫ 2915 土壙（第 11 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ南半部で発見した、東西に長い土壙である。

【重複】ＳＢ 3010、ＳＤ 2916 と重複し、ＳＤ 2916 よりも古く、ＳＢ 3010 よりも新しい。

【規模】上幅は長軸 3.2 ｍ、短軸 2.0 ｍ、深さは約 50 ㎝である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がっており、底面はおおよそ平坦である。

【遺物】出土していない。

ＳＫ 2922 土壙（第 11 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ南半部で発見した、不整形の土壙である。

【重複】ＳＫ 3013 と重複し、それよりも新しい。

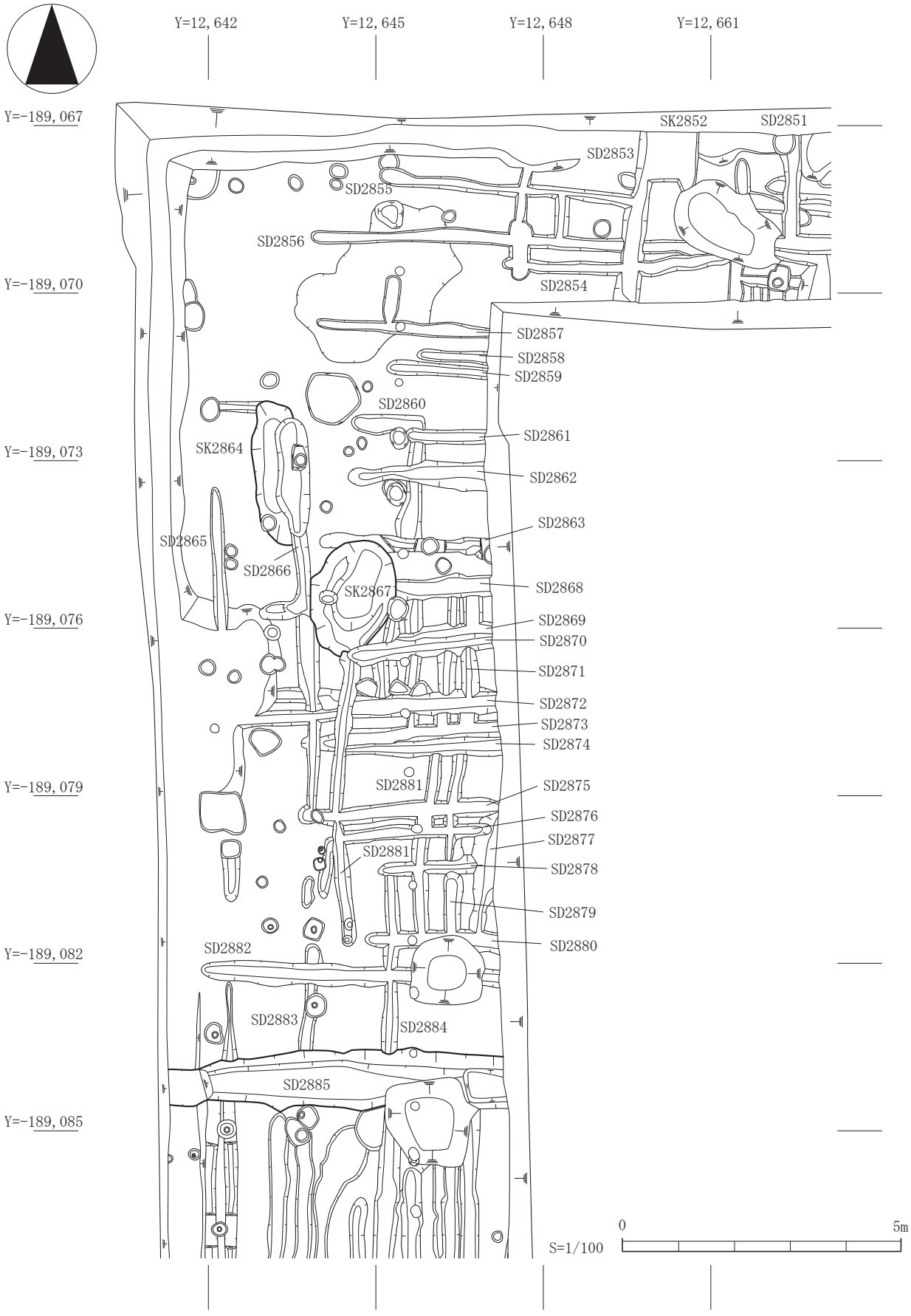
【規模】上幅は東西 1.5 ｍ、南北 1.2 ｍ、深さは約 80 ㎝である。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

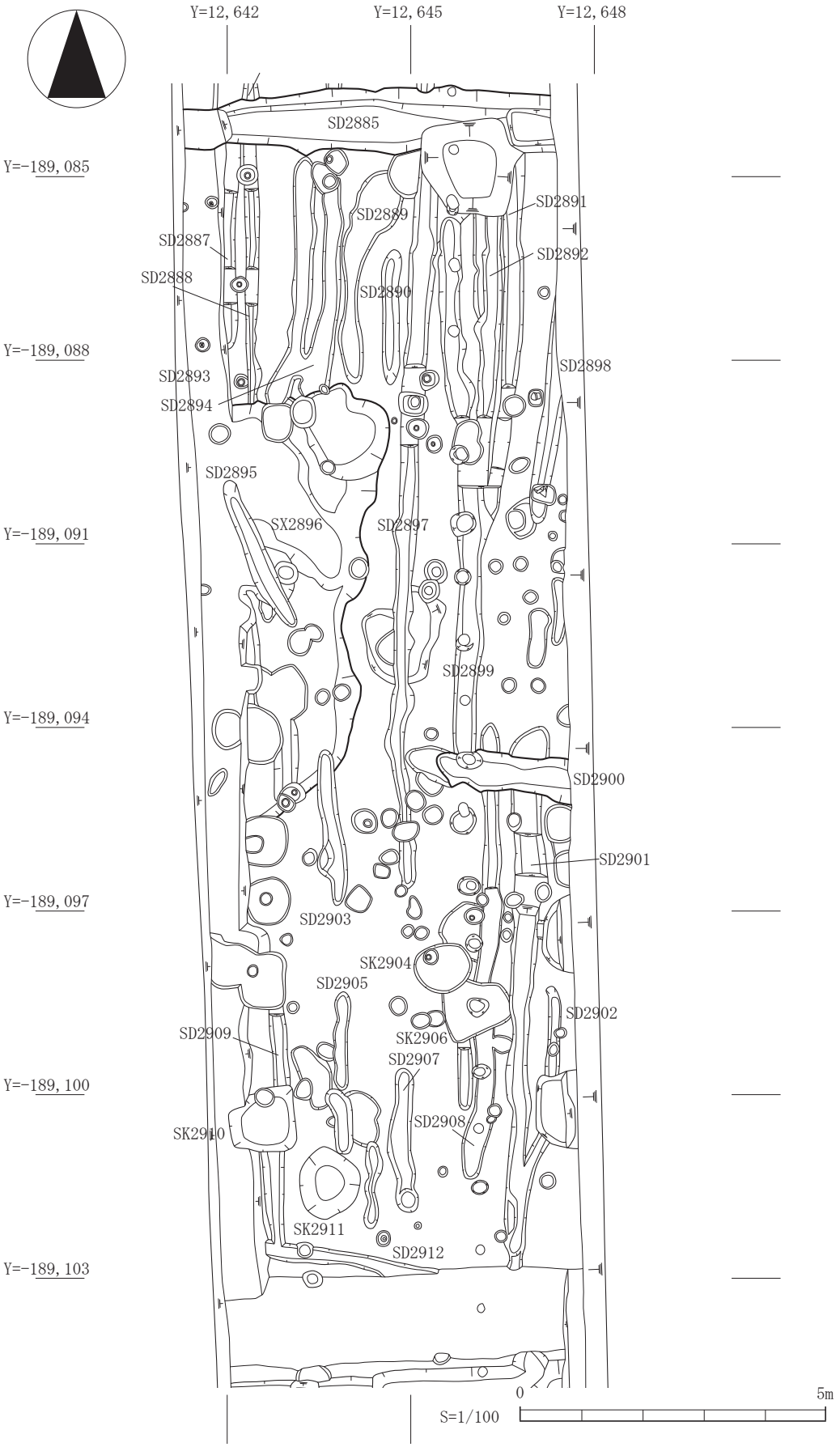
【埋土】黒色粘土（N1.5/0）であり、にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が多く混入している。

【遺物】土師器坏（ＢⅤ類）・甕、須恵器坏（Ⅴ類）・甕が出土している。

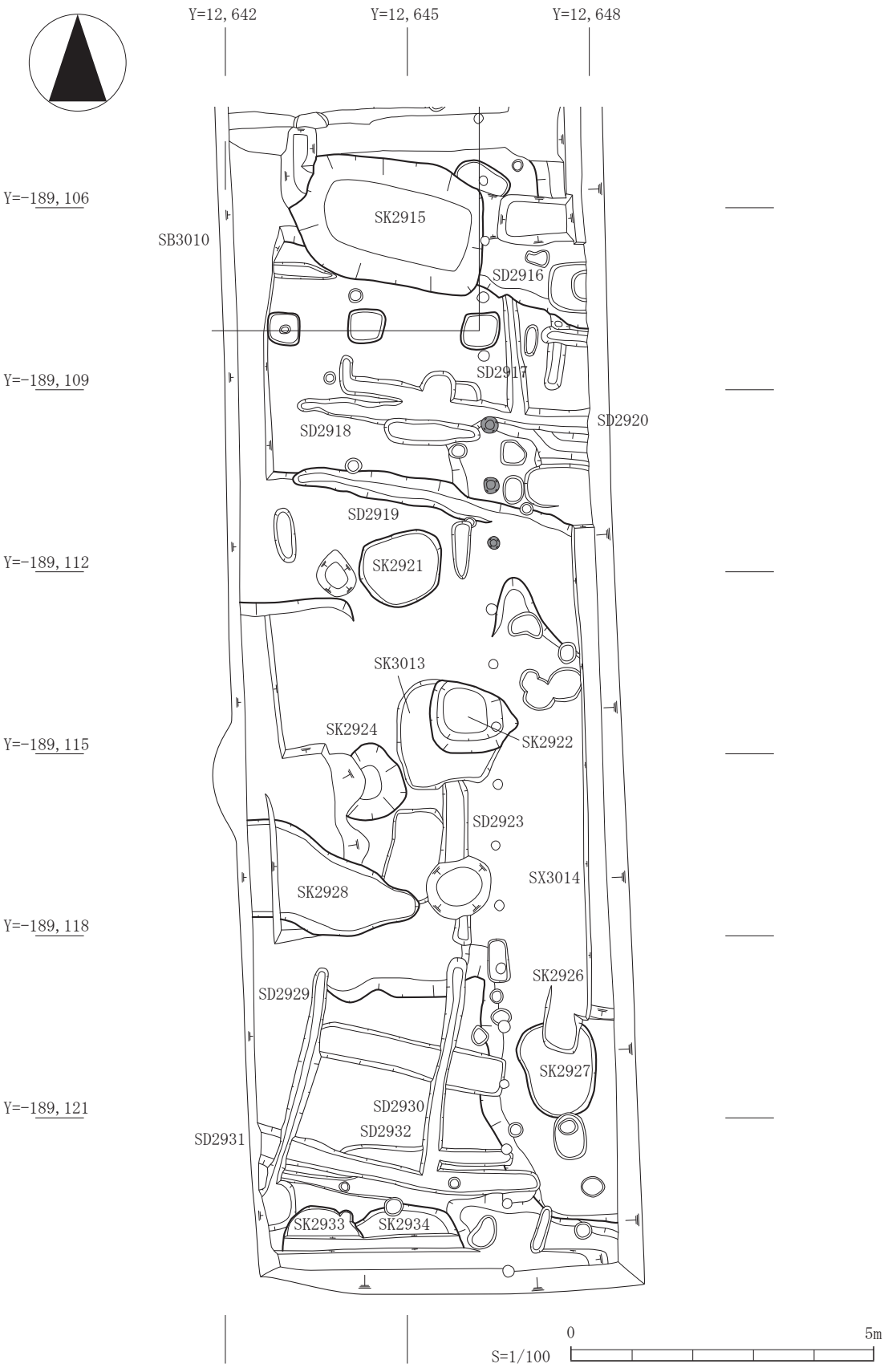
【年代】出土遺物に須恵系土器が含まれていないことから、９世紀代と考えられる。



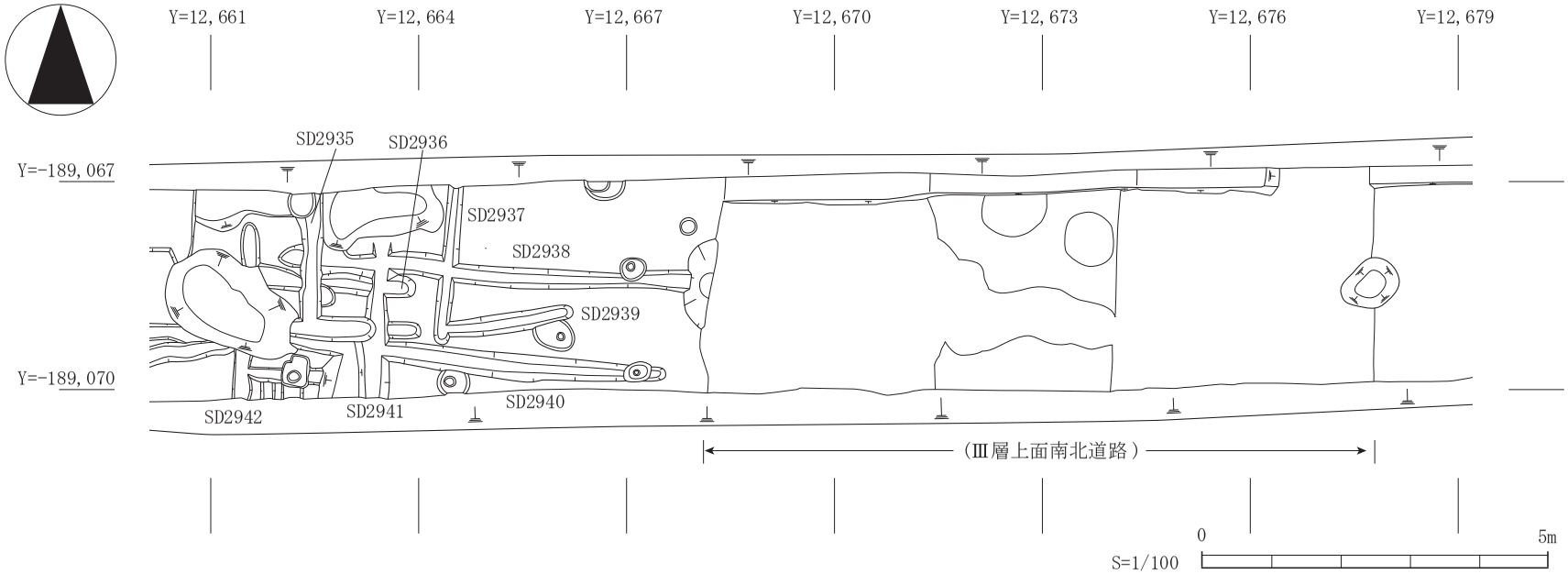
第９図　Ⅴ層上面検出遺構平面図（１）



第 10 図　V 層上面検出遺構平面図（2）



第 11 図　Ⅴ層上面検出遺構平面図（3）



第 12 図　Ⅴ層上面検出遺構平面図（４）

【Ⅲ層上面】

南北道路跡や掘立柱建物跡、溝跡、土壙を発見した。検出面であるⅢ層も含め、出土遺物には、須恵系土器や灰釉・緑釉陶器が多く認められる。なお、須恵器土器が出土しているⅢ層及び各遺構で、圧倒的に土師器の出土数が多いことから、10 世紀でも前半代に収まるものと考えられる。

ＳＸ 2000 西７南北道路跡（第 14・15 図）

【位置】Ｉ区東西トレンチ中央部で発見した、南北方向の道路跡である。位置関係から、古代の方格地割を形成する道路網のうち、西７南北道路に相当する。推定される東西大路との交差点からみれば、約 300 ｍ南に位置している。

【重複】他の遺構との重複はない。

【規模】本調査区内では、長さ 3.8 ｍを検出した。

【側溝】東西の素掘りの側溝を確認した（ＳＤ 2001 東側溝、ＳＤ 2002 西側溝）。側溝にはそれぞれ３時期の変遷（ａ→ｃ期）がある。

【変遷】東西両側溝の変遷から、道路としても３時期（Ａ期→Ｃ期）の変遷がある。

【方向】本調査区内では３時期ともに、およそ南北の発掘基準線に沿っている。一方、南側約 35 ｍの地点で実施した第 175 次調査ではＳＤ 2002 東側溝を確認しており、本地区で確認したＳＤ 2002 東側溝と合わせ傾きを測ると、最も新しいｃ期段階では北で約３度東に偏している。

Ａ期

【側溝・路面】ＳＤ 2001 ａ東側溝、2002 ａ西側溝を確認した。大部分がＢ期側溝に破壊されている。路面整地は認められないことから、Ⅳ層を直接路面としていた可能性が高い。

【幅員】推定される側溝心々間は、約 7.4 ｍである。

【側溝規模】ＳＤ 2001 ａは上幅 1.4 ｍ以上、下幅 1.3 ｍ以上、深さ約 0.5 ｍ、ＳＤ 2002 ａは上幅 1.3 ｍ以上、下幅 0.8 ｍ以上、深さ 0.6 ｍである。

【壁・底面】壁は両側溝ともに凹凸はほとんどなく、急角度で立ち上がっている。底面は東側溝が中心に向かって傾斜しており、両側溝ともに北から南に向かって 10 ㎝程度傾斜している。

【埋土】西側溝で１層、東側溝で４層に細分することができる（第 15 図）。南壁東側溝でみると上層が黒褐色粘土（2.5Y3/2）、下層が黒褐色粘質土（2.5Y3.1）であり、下層にはⅣ層起因のにぶい黄色粘質土が斑状に混入している。

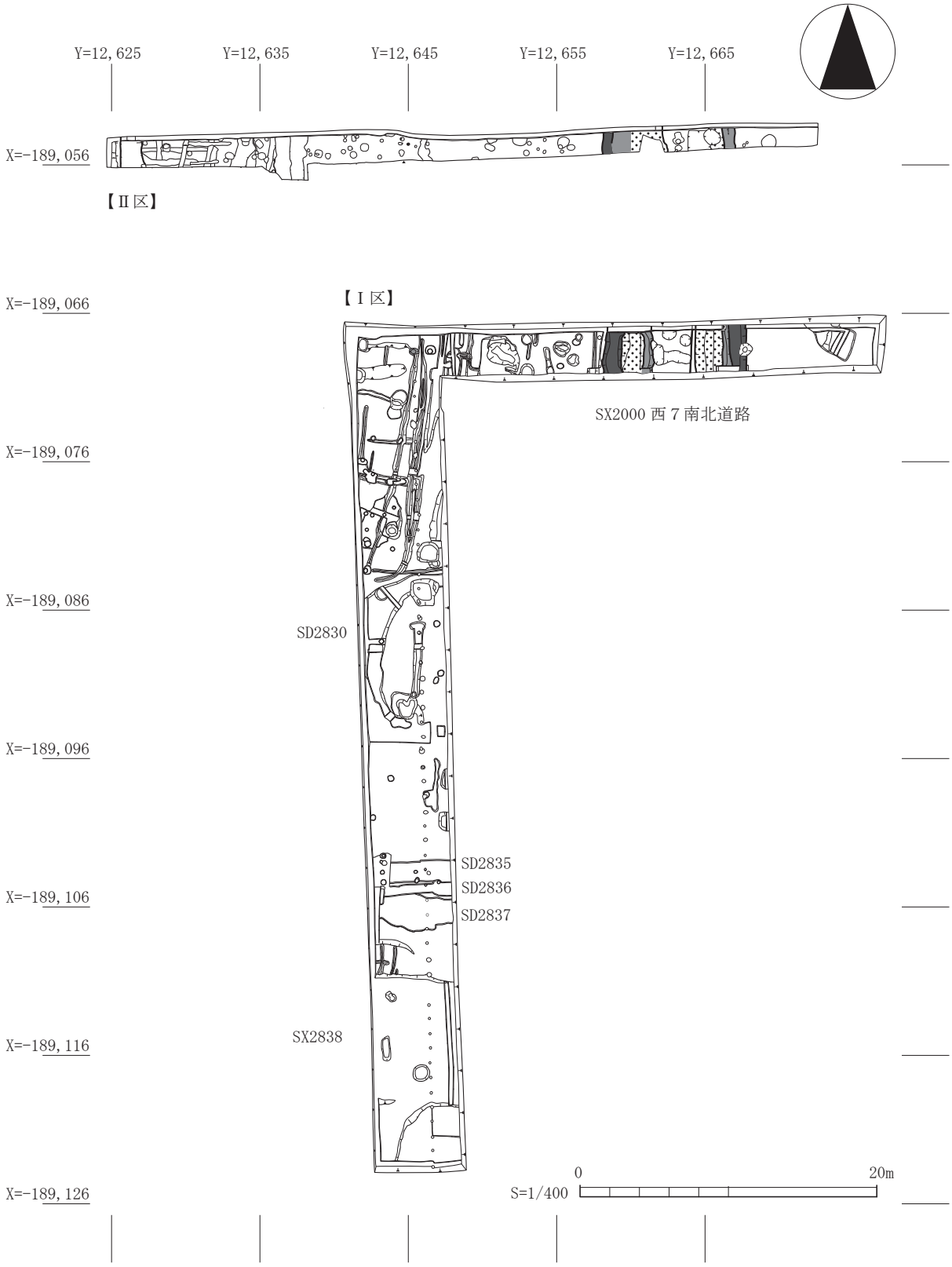
Ｂ期

【側溝・路面】Ａ期両側溝を内側に移動している。ＳＤ 2001 ｂ東側溝、2002 ｂ西側溝を確認したが、西側溝の大部分がＣ期側溝に破壊されている。路面整地は認められないことから、Ａ期同様Ⅳ層を直接路面としていた可能性が高い。

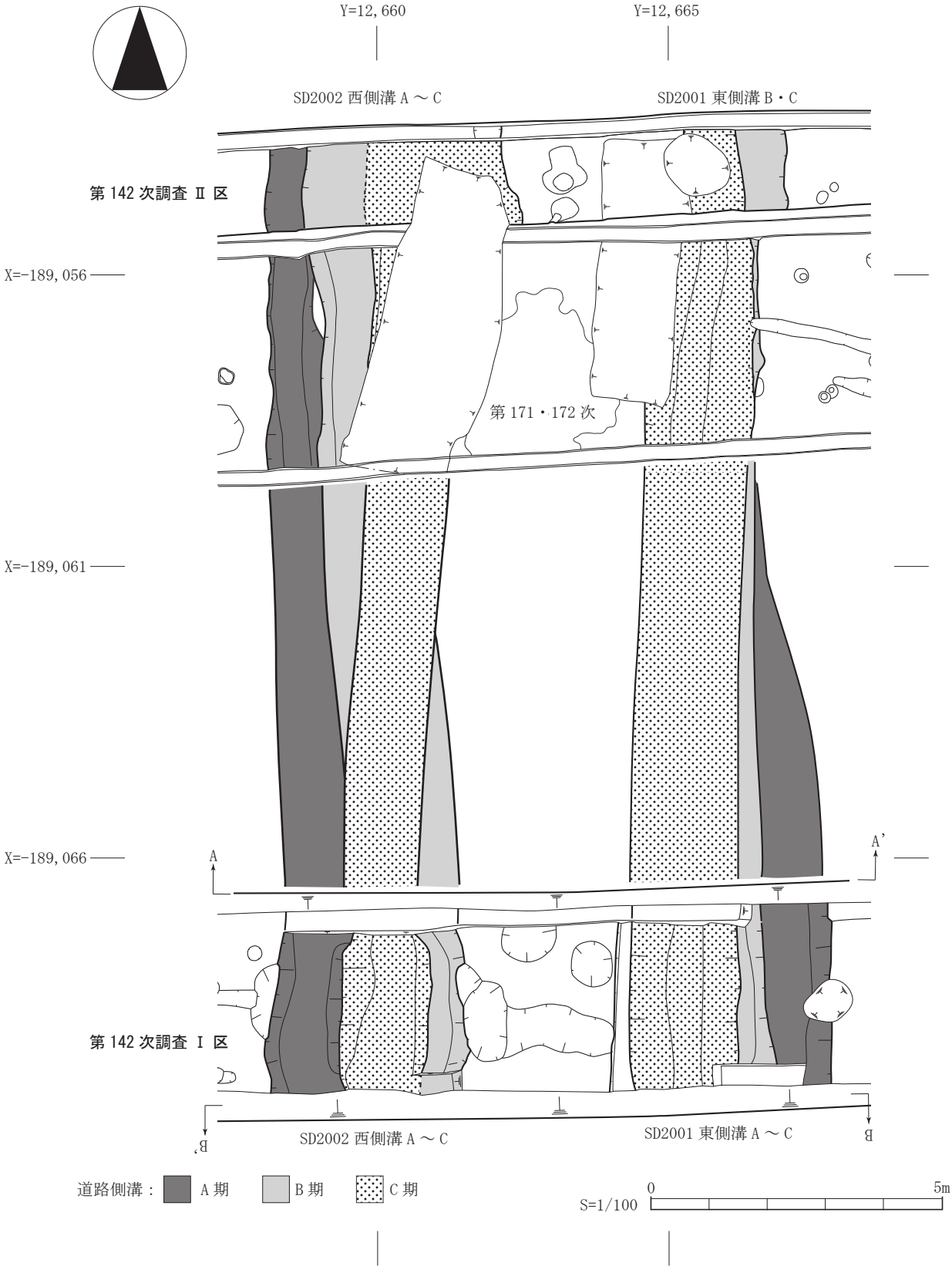
【幅員】西側溝の大部分が破壊されていることから計測不能であるが、Ｃ期との側溝の位置関係からみると、Ａ・Ｃ期の中間程度の規模であったことが明らかである。

【側溝規模】ＳＤ 2001 ｂは上幅 1.7 ｍ以上、下幅 0.6 ｍ、深さ 0.7 ｍ、ＳＤ 2002 ｂは上幅 3.2 ｍ、下幅 2.5 ｍ、深さ 0.8 ｍである。

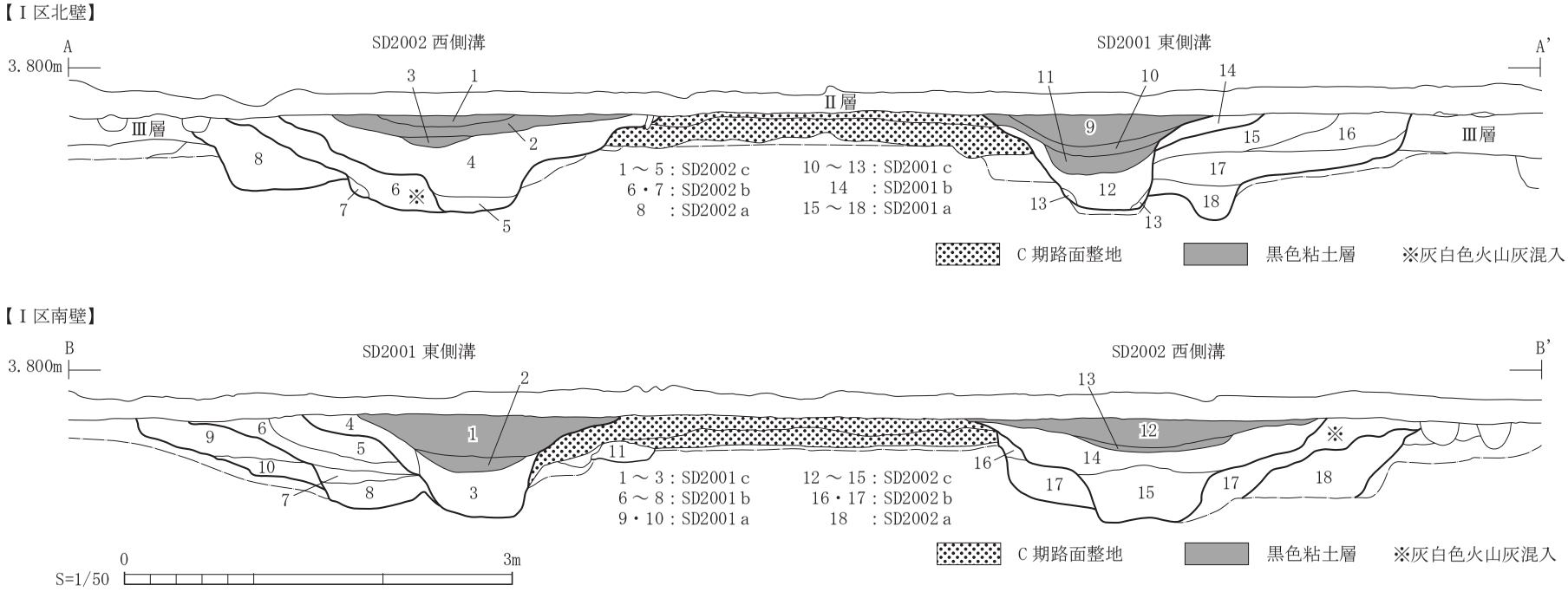
【壁・底面】両側溝ともに、壁中位付近を境に下方が急角度に、上方が非常に緩やかに立ち上がっている。



第 13 図　Ⅲ層上面検出遺構全体図



第 14 図　ＳＸ2000 道路跡平面図



第 15 図　ＳＸ2000、ＳＤ2001・2002 断面図

底面は残存する範囲でみると、やや丸みを帯びて窪んでおり、A期同様両側溝ともに北から南に向かって10㎝程度傾斜している。

【埋土】東側溝で４層、西側溝で２層に細分することができる（第15図）。東側溝でみるといずれも黒褐色粘質土が主体（１層／10YR3/1、２・３層／2.5Y3/2、４層／2.5Y2/1）であり、２・４層にはⅣ層起因のにぶい黄色土（2.5Y6/4）が斑状に混入している。西側溝埋土中には灰白色火山灰が多く混入している。

Ｃ期

【側溝・路面】Ｂ期両側溝をさらに内側に移動している。ＳＤ2001ｃ東側溝、2002ｃ西側溝を確認した。路面に整地が施され、約20㎝嵩上げされている。

【幅員】両側溝の心々間で測ると、約5.0ｍである。

【側溝規模】ＳＤ2001ｃは上幅２ｍ、下幅0.6ｍ、深さ0.8ｍ、ＳＤ2002ｃは上幅2.7ｍ、下幅0.8ｍ、深さ0.8ｍである。

【壁・底面】両側溝ともに、壁中位付近を境に下方が急角度に、上方が非常に緩やかに立ち上がっている。底面はやや丸みを帯びて窪んでおり、Ａ・Ｂ期同様両側溝ともに北から南に向かって10㎝程度傾斜している。

【埋土】東・西側溝ともに３～５層に細分することができる（第15図）。上層が黒色粘土（2.5Y2/1）であり、同様の黒色土は周辺地区でも道路廃絶段階の最上層に堆積している状況が確認されている。下層は黄灰色粘土（2.5Y4/1）や褐灰色粘土（10YR4/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅡ・ＢⅤ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・壺、須恵系土器坏・皿、軒丸瓦1310、平瓦、丸瓦が出土している。

ＳＤ2837溝跡（第16図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ中央部で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向】東で約５度南に偏している。

【規模】長さ６ｍ以上、上幅1.7～2.5ｍ、下幅0.3～１ｍ、深さは東壁で測ると080㎝である。

【壁・底面】壁は底部から中位にかけて急角度で立ち上がり、上位は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面は丸く窪んでおり、西側から東側に向かって約40㎝低くなっている。

【埋土】５層に細分することができる（第16図１～５）。１層は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）、２層は灰白色火山灰が多量に混入する暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2）、３層は灰白色火山灰層、４・５層は黒色粘土（10YR1/7/1・2/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅡ類）、須恵器坏、丸瓦（ⅡＢ類）、平瓦（ⅡＢ類）、須恵系土器坏、鞴羽口が出土している。

【年代】埋土中位に灰白色火山灰が堆積していることから、10世紀前葉頃のものである。

ＳＤ2817溝跡（第17図）

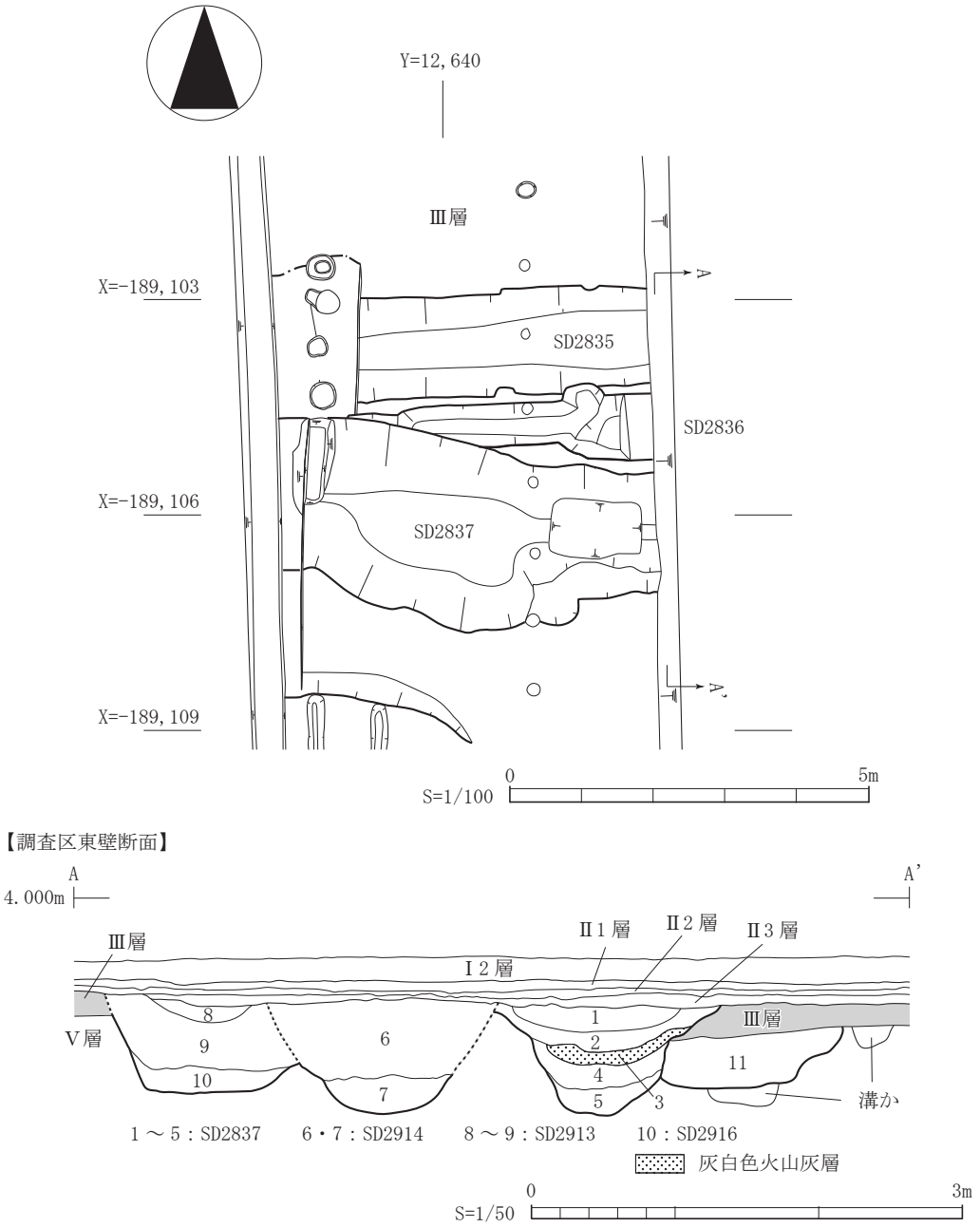
【位置】調査区北部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ3015と重複し、それよりも古い。

【方向】北で約８度東に偏している。

【規模】長さ8.5ｍ以上、上幅20～60㎝、下幅10～25㎝、深さ10～20㎝である。

【埋土】黒色粘質土（10YR2/1）である。



第 16 図　ＳＤ2837 等溝跡　平面図・断面図

【遺物】土師器坏（ＢⅡ類）・甕（Ｂ類）、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、鞴羽口が出土している。

ＳＤ 2820 溝跡（第 17 図）

【位置】Ⅰ区南北トレンチ北部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2821・2823、ＳＫ 2825 と重複し、それらよりも新しい。

【方向】北で約 12 度東に偏している。

【規模】長さ 16.5 ｍ以上、上幅 40 ㎝、下幅 15 ㎝、深さ 40 ㎝である。

【埋土】黒色粘質土（7.5YR2/1）である

【遺物】土師器坏（Ａ・ＢⅠ・ＢⅤ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）甕、須恵系土器坏、灰釉陶器碗・

（または皿）の口径部が出土している。

ＳＤ 2822 溝跡（第 17 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ北部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2820・2822 と重複し、ＳＤ 2925 よりも古く、ＳＤ 2821・2823 よりも新しい。

【方向】北で約４度東に偏している。

【規模】確認できた長さは約 15 ｍ、上幅 30 ㎝、下幅 15 ㎝、深さ 20 ㎝である。

【埋土】黒色粘質土（7.5YR2/1）

【遺物】土師器坏（ＢⅠ・ＢⅡ・ＢⅤ類）・鉢・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・短頸壺・甕、須恵系土器坏、灰釉陶器碗の口縁部が出土している。

ＳＫ 2815 土壙（第 17 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ北半部で発見した、東西に長い不整形の土壙である。

【重複】ＳＫ 2816 と重複し、それよりも古い。

【規模】上幅は長軸約 2.7 ｍ、短軸約 1.8 ｍ、下幅長軸 1.1 ｍ、短軸 0.5 ｍ、深さは 40 ㎝である。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅡ・ＢⅤ類）・鉢・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅴ類）・鉢・瓶・甕、須恵系土器坏・鉢、灰釉陶器碗、丸瓦（ⅡＢ類）、製塩土器、土錘が出土している。

ＳＫ 2816 土壙（第 17 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ北半部で発見した、南北に長い方形の土壙である。

【重複】ＳＤ 2815 と重複し、それよりも新しい。

【規模】上幅は長辺 2.6 ｍ以上、短辺約 1.8 ｍ、下幅は長辺 2.4 ｍ以上、短辺 1.7 ｍ、深さは 10 ㎝である。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅤ類）・鉢・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ⅴ類）・瓶・甕、須恵系土器坏、平瓦（ⅡＡ類）、製塩土器が出土している。

ＳＫ 2825 土壙（第 17 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ北半部で発見した、南北に長い不整形の土壙である。

【重複】ＳＤ 2820、ＳＫ 2826 と重複し、それらよりも古い。

【規模】上幅は長軸約 3.9 ｍ、短軸約 2.5 ｍ、下幅長軸 3.7 ｍ、短軸 2.1 ｍ、深さは５㎝である。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢＶ類）・鉢・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ｉ類）・瓶・甕、須恵系土器坏、灰釉陶器碗、平瓦が出土している。

ＳＫ 2850 土壙（第 20 図）

【位置】Ｉ区東西トレンチ東部で発見した、南北に長い不整形の土壙である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【規模】上幅は長軸 3.5 ｍ以上、短軸約２ｍ、下幅は短軸で約２ｍ、深さ約 10 ㎝である。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（ＢＶ類）・鉢・甕（Ｂ類）、須恵器坏（Ｉ類）・瓶・甕、須恵系土器坏、緑釉陶器碗（または皿）が出土している。

ＳＤ 2935 溝跡（第 16 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ中央南側で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2936 と重複し、それよりも古い。

【方向】東で約４度北に偏している。

【規模】長さ 6.4 ｍ以上、上幅 1.3 ～ 1.4 ｍ、下幅 0.4 ～ 0.7 ｍ、深さ 50 ㎝である。

【埋土】３層に細分することができる（第 16 図８～ 10）。８層は黒色土が混入する黒褐色粘質土（7.5YR3/1）、９層は黒色粘質土（10YR1.7/1）、10 層は黒褐色粘質土（10YR3/1）である。

【遺物】土師器坏（Ａ類）・甕（Ａ類）、須恵器坏・短頸壺・長頸瓶・甕、平瓦が出土している。

【年代】出土した土師器坏・甕がＡ類であることから、８世紀代の可能性がある。

ＳＤ 2936 溝跡（第 16 図）

【位置】Ｉ区南北トレンチ中央南側で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2935・2937 と重複し、ＳＤ 2935 よりも古く、ＳＤ 2937 よりも新しい。

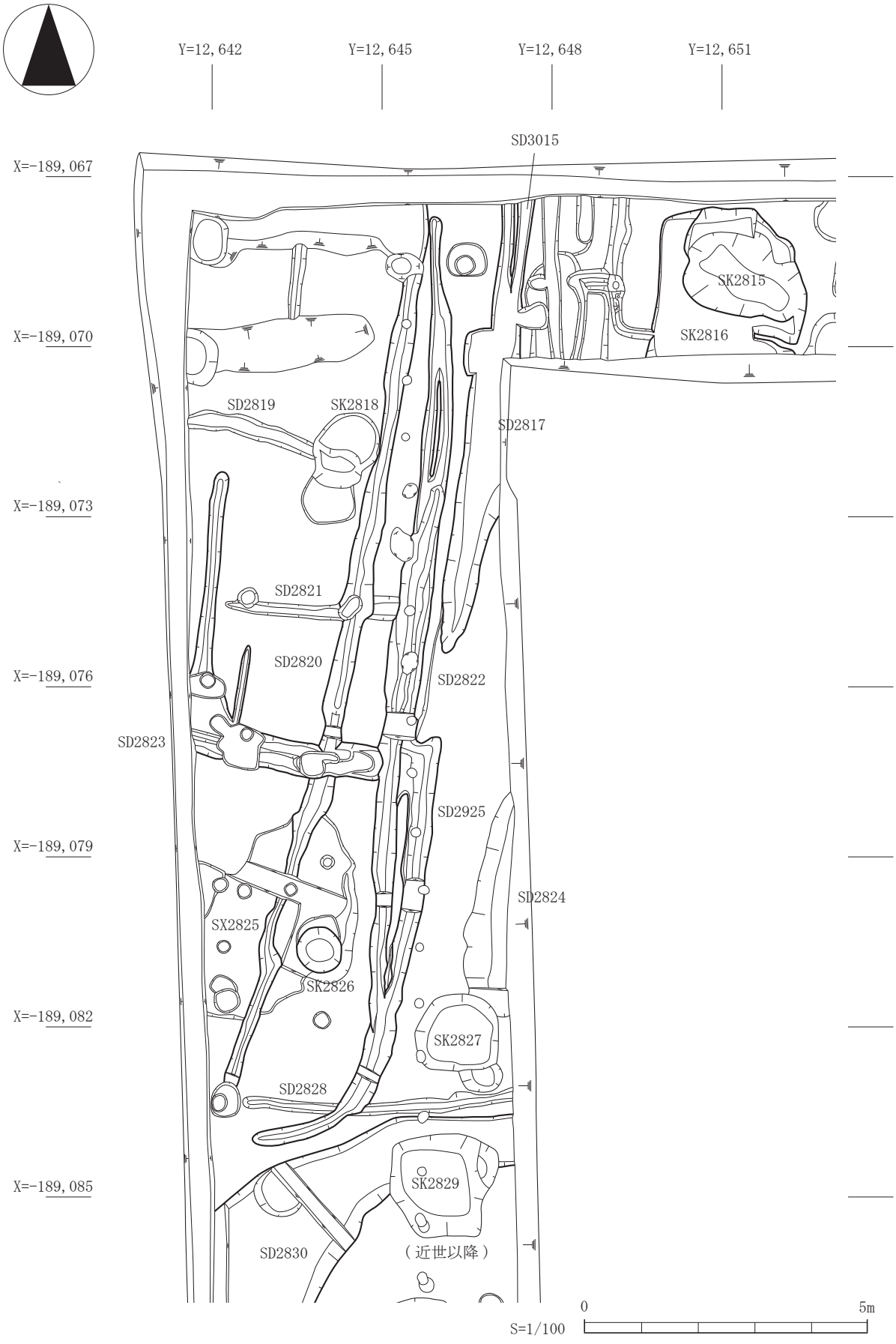
【方向】東で約２度北に偏している。

【規模】長さ 6.4 ｍ以上、調査区東壁でみると上幅 90 ㎝、下幅 60 ㎝、深さ 35 ㎝である。

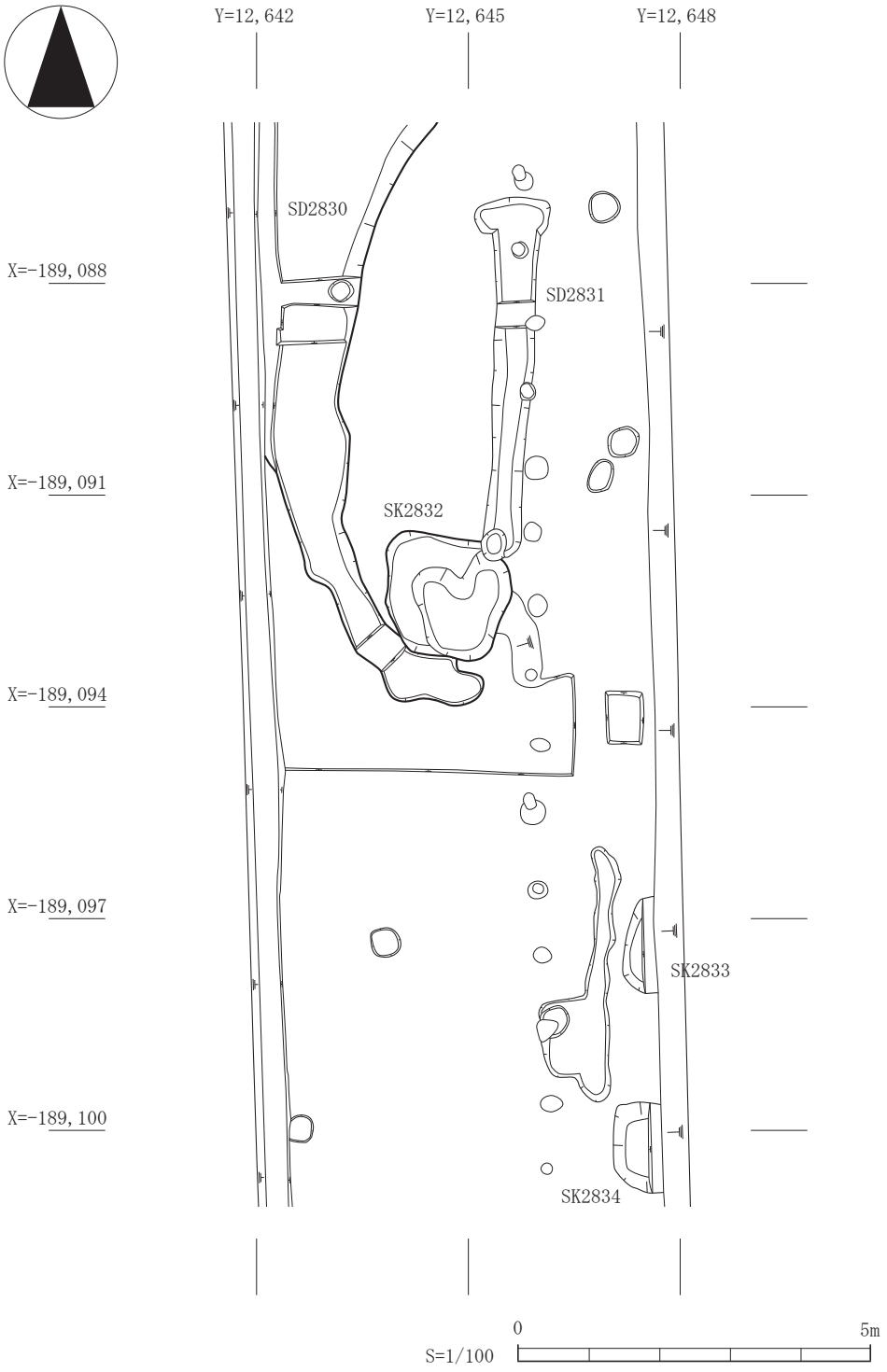
【埋土】２層に細分することができる。いずれも黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、下層にはにぶい黄色粘質土が多く混入している。

【遺物】土師器坏（ＢⅠ類）・甕、須恵器坏・甕が出土している。

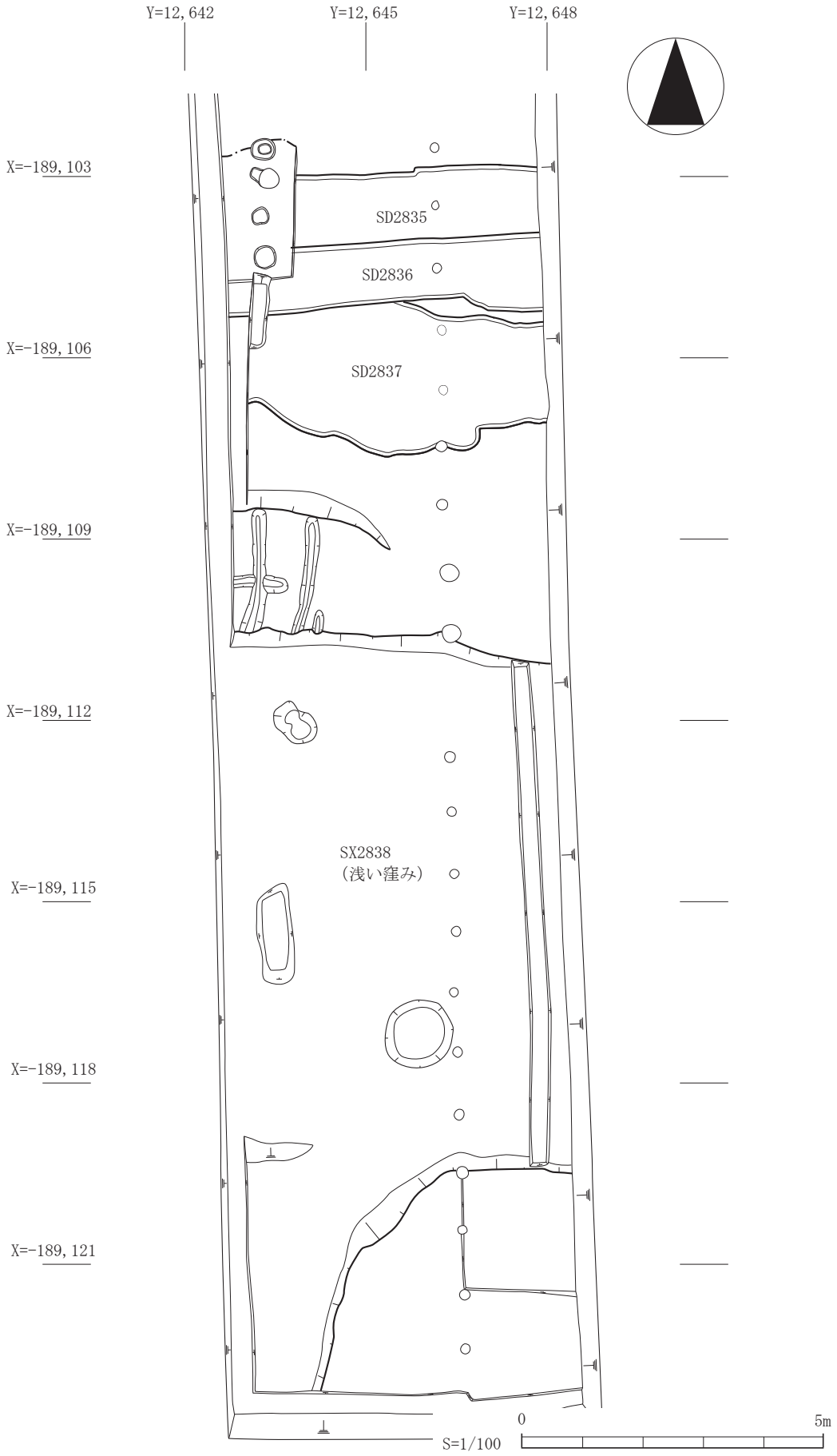
【年代】重複関係で新しいＳＤ 2837 の埋土に 10 世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰が堆積していることから、それ以降の年代である。



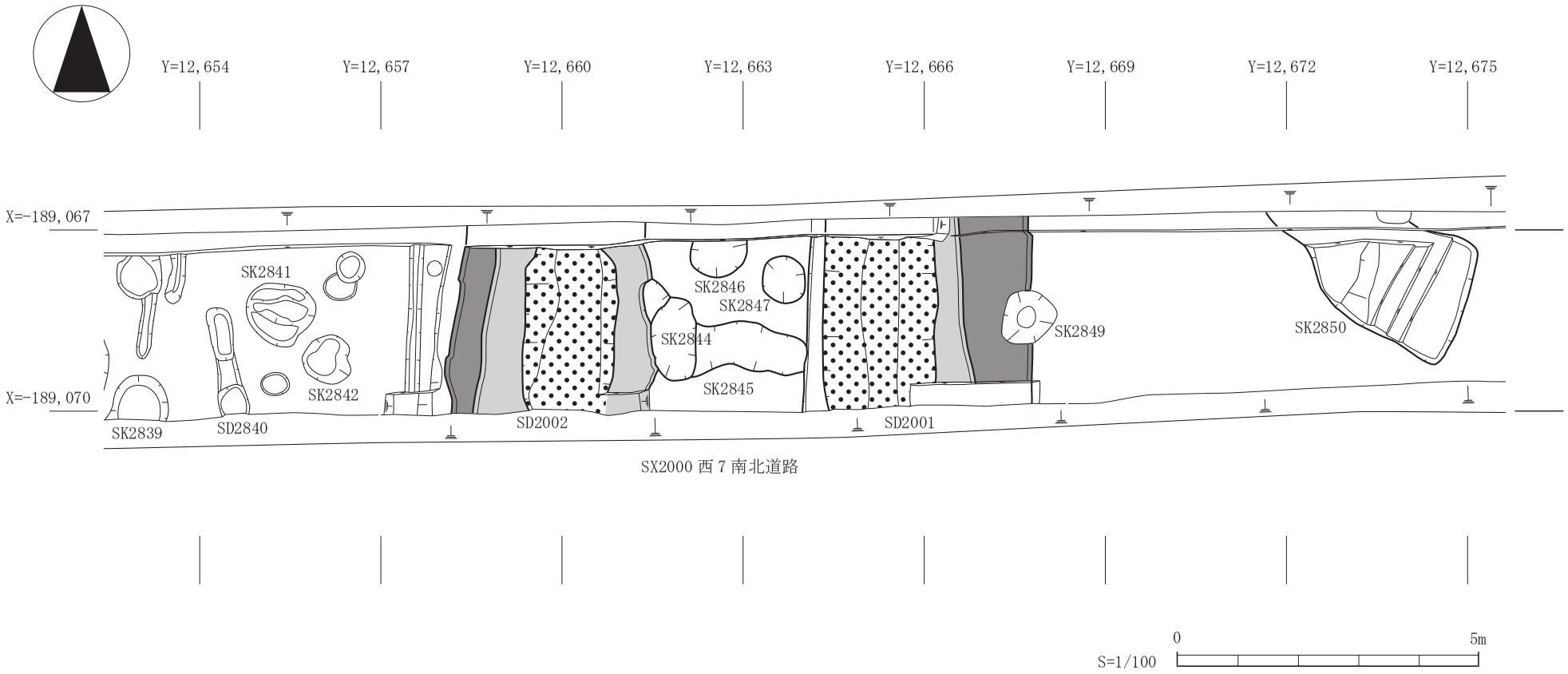
第 17 図　Ⅲ層上面検出遺構平面図（1）



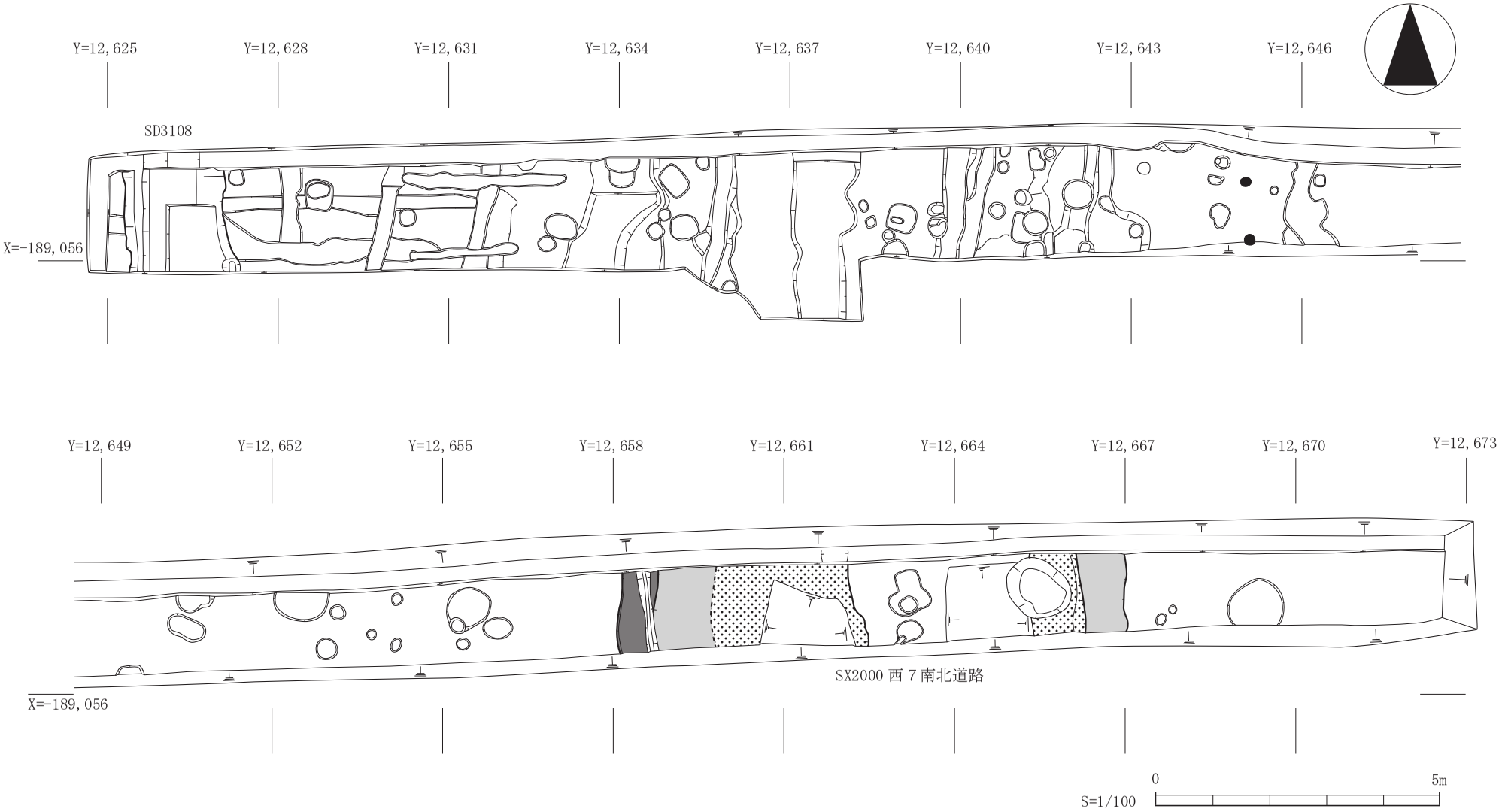
第 18 図　Ⅲ層上面検出遺構平面図（2）



第 19 図　Ⅲ層上面検出遺構平面図（３）



第 20 図　Ⅲ層上面検出遺構平面図（４）



第 21 図　Ⅱ区遺構全体図

Ⅰ区Ⅴ層上面全景（北西から）

Ⅰ区南北トレンチⅤ層上面全景（北から）

Ⅰ区ＳＸ 2886 小溝群完掘状況（北東から）

Ⅰ区ＳＤ 2916、ＳＫ 2915 周辺完掘状況（東から）

Ⅰ区Ⅲ層上面全景（北西から）

Ⅰ区南北トレンチⅢ層上面全景（北から）

Ⅰ区ＳＸ 2000 西７南北道路Ｃ期（北東から）

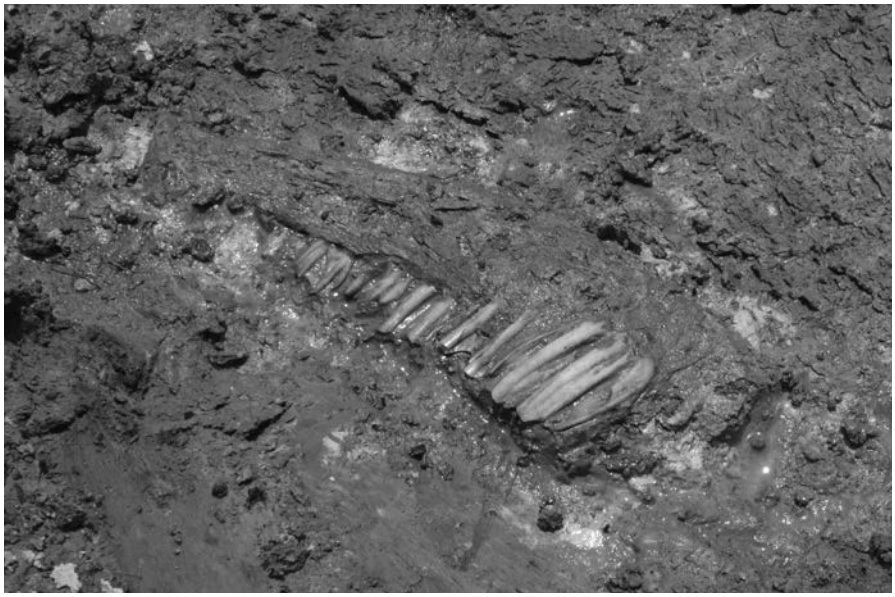
Ⅰ区ＳＸ 2000 西７南北道路完掘状況（北から）

Ⅰ区南半（北西から）

Ⅱ区全景（北西から）

Ⅰ区ＳＤ 2002b
灰白確認状況　（西から）

Ⅰ区ＳＤ 2837
灰白確認状況　（西から）



Ⅰ区ＳＤ 2837 獣骨出土状況

山王遺跡第 146 次調査

1　要項

調 査 地　南宮字伊勢 70 ほか 11 筆

調査原因　玄米倉庫棟建築

調査担当　武田健市　石川俊英

調査期間　平成 26 年 10 月 29 日～平成 27 年 1 月 14 日

対象面積　207.36 ㎡

調査面積　238 ㎡

2　調査経過

10/29　調査器材搬入

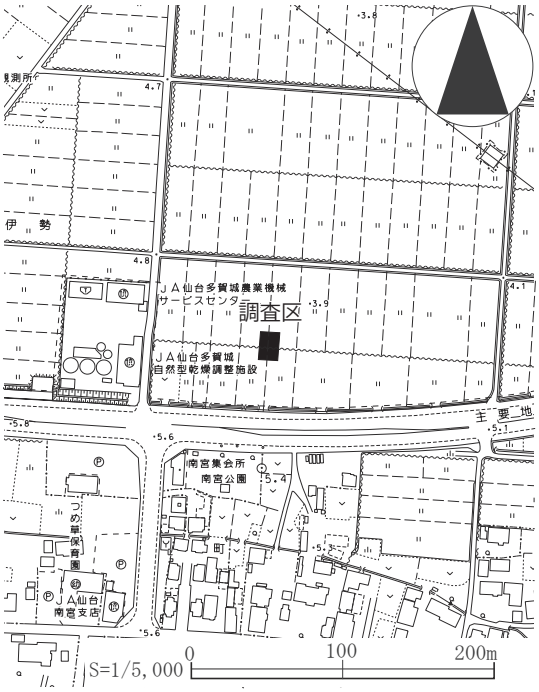
11/5　重機による表土掘削

排水用側溝設置など環境整備

11/10　遺構検出作業及び遺構平面・断面図作成開始

（機械化センター建築に伴う確認調査と並行して実施）

1/14　調査器材搬出（調査終了）



第 1 図　調査区位置図

3　調査成果

（1）層序（第 2 図）

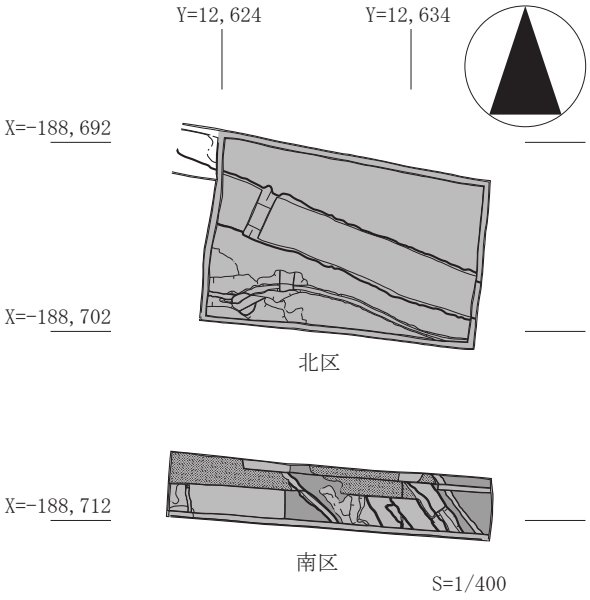
Ⅰ層　現代の水田層である。

Ⅱ層　にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が斑状に多く混入する黄灰色粘質土（2.5Y5/1）であり、厚さは 4 ～ 14 ㎝である。

Ⅲ層　褐灰色粘質土（10YR4/1）であり、暗灰黄職粘質土（2.5Y5/2）が僅かに混入する。厚さは 4 ～ 10 ㎝である。10 世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰が多量に混入する南区ＳＤ 2956・2960 等の検出面であることから、それ以前に形成されたものである。

なお、北区ではＳＤ 2963 の埋土上面やⅣ層の一部を破壊して堆積する状況も確認できることから、洪水等によって生じたイベント堆積物と考えられる。

Ⅳ層　浅黄色砂質土（2.5Y7/4）であり、本地区周辺における古代の最終遺構検出面である。



第 2 図　調査区配置図

（２）発見遺構と遺物

本調査では、黄灰色粘質土上面(第 145 次調査：Ⅱ層)及び褐灰色粘質土上面（第 145 次調査：Ⅲ層）で、溝跡や土壙を発見した。

本調査では、南・北区ともにⅡ・Ⅲ・Ⅳ層上面で溝跡を発見した。

【Ⅳ層上面】

ＳＤ 2961 溝跡（第２図）

【位置】南区西部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＫ 2962 と重複し、それよりも新しい。

【方向】北で約４度西に偏している。

【規模】長さ 1.8 ｍ以上、上幅約 40 ㎝、深さは南壁で測ると 12 ㎝である。

【埋土】褐灰色砂質土（10YR5/1）であり、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）が斑状に多く混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】Ⅲ層上面検出遺構との関係から、10 世紀前葉以前の古代と考えられる。

【Ⅲ層上面】

ＳＤ 2956 溝跡（第２図）

【位置】南区東部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向】北で約 37 度西に偏している。

【規模】長さ 4.4 ｍ以上、上幅 40 ～ 60 ㎝、深さは南壁で測ると 18 ㎝である。

【埋土】褐灰色砂質土（10YR4/1）であり、灰白色火山灰が小ブロック状に多量に混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】灰白色火山灰との関係から、10 世紀前葉以降と考えられる。

ＳＤ 2957 溝跡（第２図）

【位置】南区東部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向】北で約 37 度西に偏している。

【規模】長さ 4.4 ｍ以上、上幅 68 ～ 80 ㎝、深さは南壁で測ると 20 ㎝である。

【埋土】褐灰色砂質土（10YR5/1）であり、黒褐色粘質土（10YR3/1）が僅かに混入している。

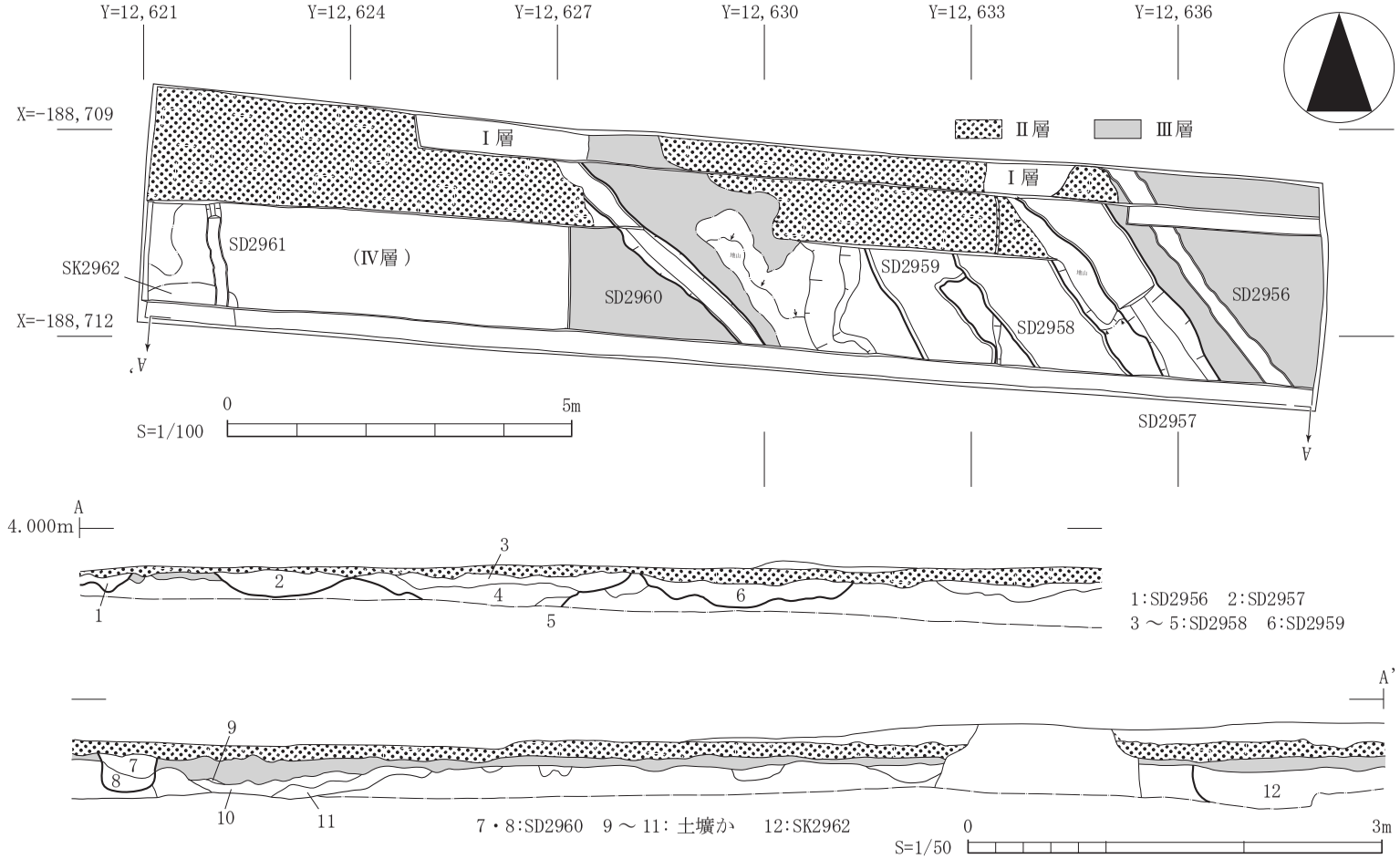
【遺物】出土していない。

【年代】不明

ＳＤ 2958 溝跡（第２図）

【位置】南区東部で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない。



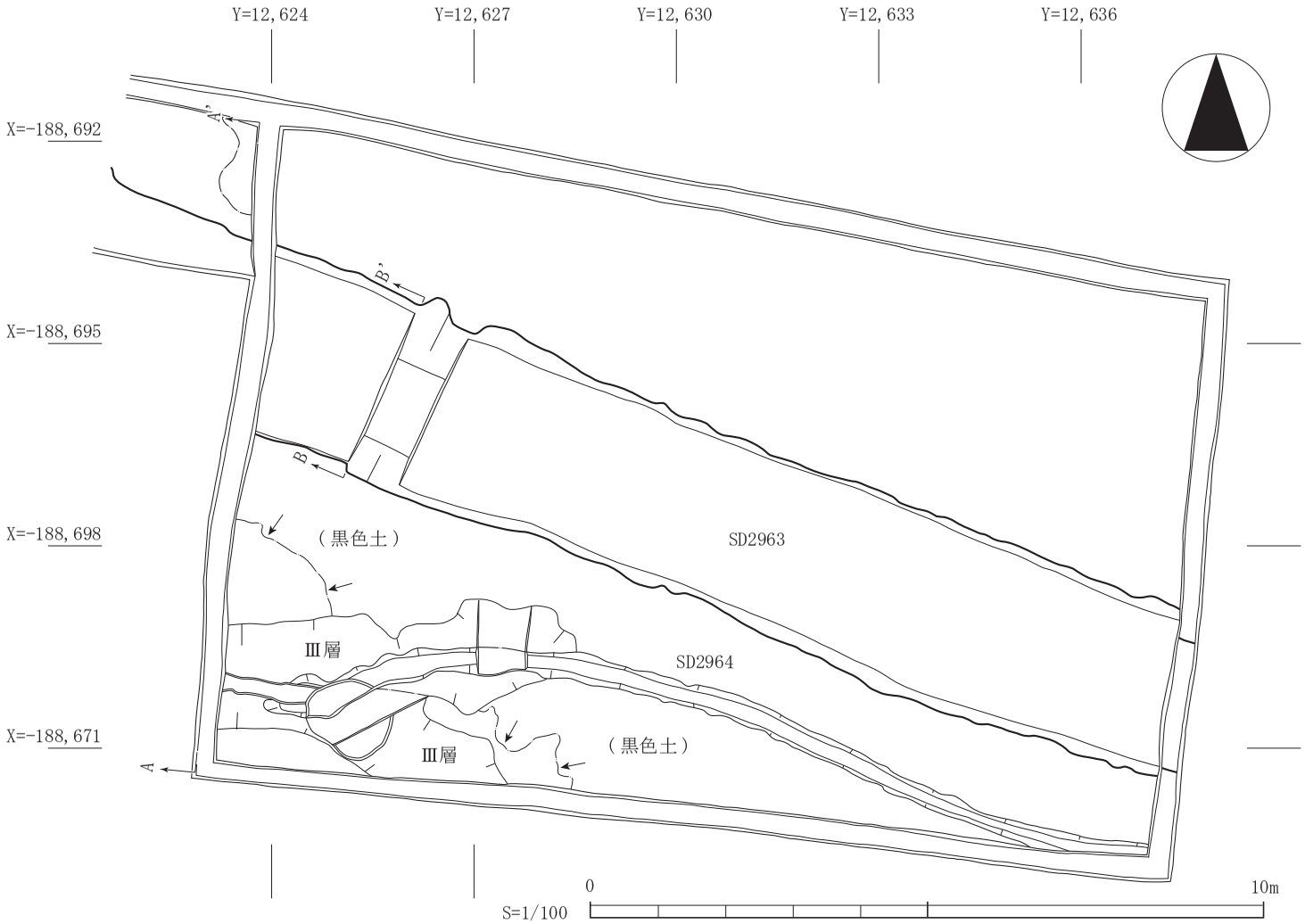
第２図　南区遺構平面図及び南壁断面図

【方向】北で約 36 度西に偏している。
【規模】長さ 4.4 m以上、上幅約 1.1 m、深さは南壁で測ると 30 ㎝以上である。
【埋土】２層に細分することができる。上層は灰黄褐色砂質土（10YR5/2）であり、褐灰色砂質土（10YR5/1）が斑状に混入している。下層は褐灰色砂質土（10YR5/1）であり、黒褐色粘質土（10YR3/1）が斑状または薄層状に混入している。
【遺物】出土していない。
【年代】不明

ＳＤ 2960 溝跡（第２図）
【位置】南区中央部で発見した、南北方向の溝跡である。
【重複】他の遺構との重複はない。
【規模】長さ 4.4 m以上、上幅約 40 ㎝、深さは南壁で測ると 28 ㎝である。
【埋土】２層に細分することができる。いずれも褐灰色粘質土（10YR5/1）であり、上層にが灰白色火山灰がブロック状に多量に混入している。
【遺物】出土していない。
【年代】灰白色火山灰との関係から、10 世紀前葉頃に埋没したものと考えられる。

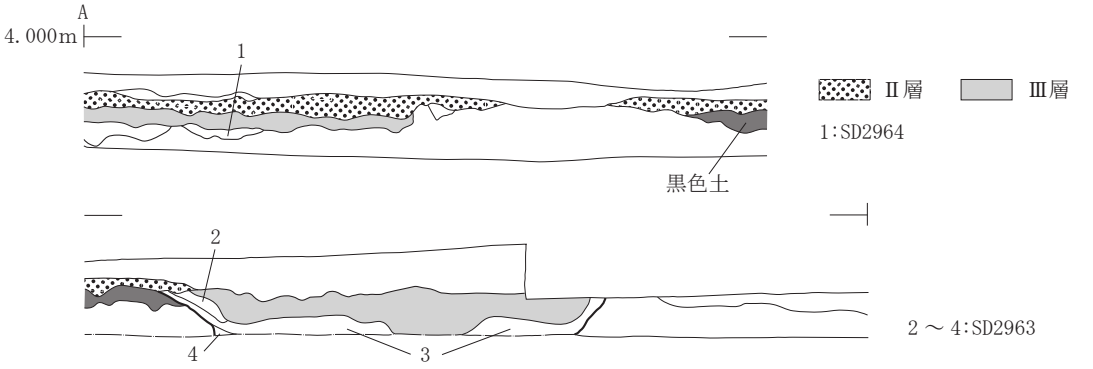
ＳＤ 2963 溝跡（第３・４図）
【位置】北区中央部で発見した、東西方向の溝跡である。位置関係から、第 145 次調査ＳＤ 1907 と一連の溝跡であることが明らかである。
【重複】他の遺構との重複はない。
【規模】長さ 15.2 m以上、上幅 2.4 ～ 2.8 m、深さは調査区西側の断割り箇所で測ると、約 60 ㎝である。
【埋土】４層に細分することができる（第４図２～４）。２層はにぶい黄褐色砂質土が多量に混入する褐灰色粘質土、３層は黒褐色粘質土（10YR3/1）、３層は黒色粘土（2.5Y2/1）、４層は黄灰色粘土（2.5Y4/1）である。
【遺物】土師器坏（Ｂ類）、須恵器坏（Ｖ類）が出土している。
【年代】Ⅲ層に覆われることから 10 世紀前葉以前であり、土師器坏にＢ類が認められることからおよそ９世紀代のものと考えられる。

ＳＤ 2964 溝跡（第３・４図）
【位置】北区南端で発見した、東西方向の溝跡である。
【方向】湾曲しながら伸びていることから、方向は不明である。
【規模】長さ 15 m以上、上幅 30 ～ 50 ㎝、深さは西壁で測ると約 10 ㎝である。
【埋土】褐灰色砂質土（10YR4/1）であり、にぶい黄褐色砂質土が混入している。
【遺物】土師器坏（Ｂ類）、須恵器坏、平瓦ⅡＣ類が出土している。
【年代】Ⅲ層に覆われていることから、10 世紀前葉以前と考えられる。

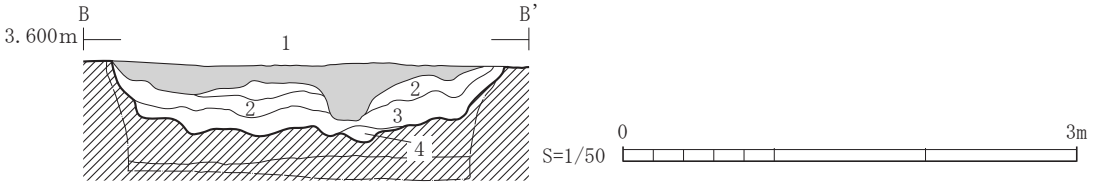

Y=12, 624
Y=12, 627
Y=12, 630
Y=12, 633
Y=12, 636
X=-188, 692
X=-188, 695
X=-188, 698
X=-188, 671
A
A'
B
B'
（黒色土）
SD2963
Ⅲ層
SD2964
Ⅲ層
（黒色土）
0
10m
S=1/100

第３図　北区遺構配置図

【北区西壁】



【SD2963】



第４図　北区西壁ほか断面図

南区全景（東から）

北区全景（東から）

山王遺跡第 148 次調査

1　要項

調 査 地　山王字西町浦 34-77

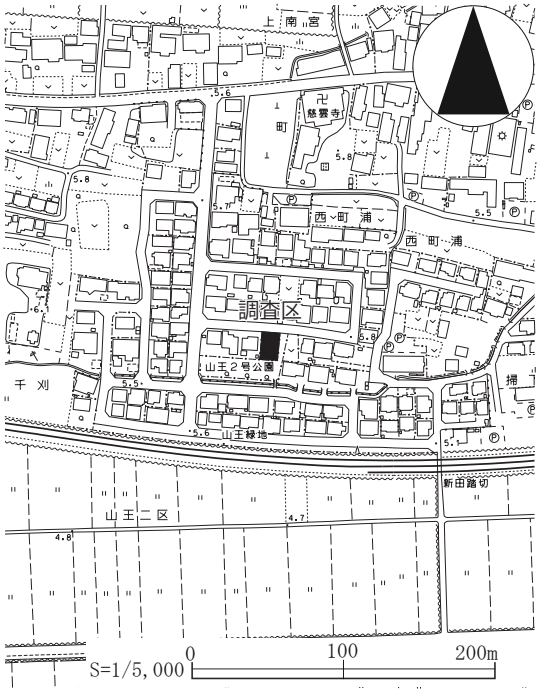
調査原因　個人住宅建築

調査担当　武田健市

調査期間　平成 27 年５月 18 日～６月１日

対象面積　229.6 ㎡

調査面積　28 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

5/18　重機による表土掘削、
　　排水用側溝設置など環境整備

5/20　遺構検出作業開始
　　随時個別遺構の写真撮影

5/27　調査区全景写真撮影
　　遺構平面・断面図作成開始

6/1　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（１）層序（第２図）

Ⅰ層　現代の盛土層。

Ⅱ層　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/3）であり、厚さは 10 ～ 15 ㎝である。無釉陶器甕の小片が出土している。

Ⅲ層　黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）や炭化物が粒状に多く混入している。厚さは 30 ㎝である。ＳＢ 2967 の検出面であるとともに、ＳＥ 2968 の埋土となっている。無釉陶器擂鉢の小片が出土していることや、近世以降の遺物が認められないことから、中世の堆積と考えられる。

（２）発見遺構と遺物

本調査では、Ⅲ層上面で掘立柱建物跡や井戸跡、土壙を発見した。

ＳＢ 2967 掘立柱建物（第２図）

【位置】調査区中央から東側で発見した、東西棟建物跡である。

【桁行・梁行】５基の柱穴（Ｐ１～５）から推測したものである。柱の配置から桁行２間以上、梁行２間であり、建物の西端部であると判断した。

【重複】他の遺構との重複はない。

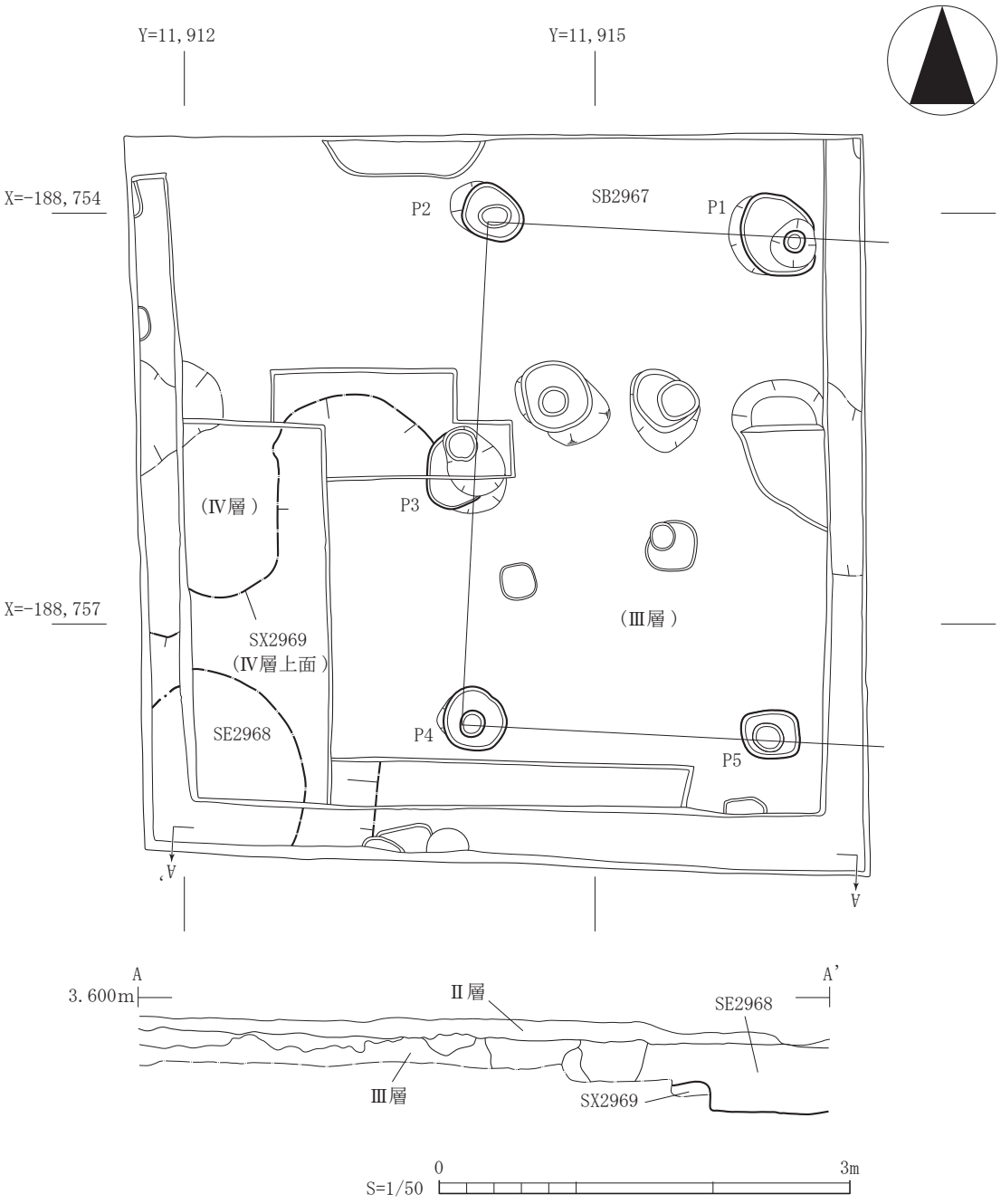
【柱痕跡・抜取穴の有無】北側柱列西から１間目柱穴（Ｐ１）と南西隅柱穴（Ｐ４）で柱痕跡、その他の柱穴で抜取穴を確認した。

【方向・規模】方向は西妻で測ると、北で約３度東に偏している。規模は、西妻で総長約 3.7 m、柱間は南から約２m、約 1.7 m、北側柱列の柱間は約 2.2 mである。

【掘方】方形を基調とするＰ２・５、円形を基調とするＰ１・３・４がある。規模は方形のＰ５で測ると長辺 40 ㎝、短辺 36 ㎝、円形のＰ４で測ると直径約 46 ㎝である。埋土は、黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）が斑状に多く混入している。

【柱痕跡】円形であり、Ｐ１で直径 15 ㎝、Ｐ４で直径 20 ㎝である。埋土は褐灰色粘土（10YR4/1）である。

【柱抜取穴】いずれも円形であり、柱痕跡状に認められる。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、にぶ



第２図　遺構平面・断面図

い黄橙色砂質土（10YR6/4）や炭化物が混入している。

【遺物】出土していない。

【年代】検出面であるⅢ層から無釉陶器が出土していること、近世に下る遺物が認められないことから、およそ中世の範疇に収まるものと考えられる。

ＳＥ 2968 井戸跡（第２図）

【位置】調査区南西隅で発見した、素掘りの井戸跡である。

【重複】ＳＸ 2969 と重複し、それよりも新しい。

【平面形・規模】平面形はおよそ円形であり、規模は直径 1.4 ｍ以上である。

【壁】南壁断面で見ると、垂直に落ちている。

【埋土】Ⅲ層が直接井戸内に流入し、埋没している。

【遺物】出土していない。

【年代】Ⅲ層の堆積年代が中世であることから、埋没年代もそれ以降と考えられる。

写真図版

調査区全景（東から）

山王遺跡第 149 次調査

1　要項

調 査 地　多賀城市南宮字町 28 番 1

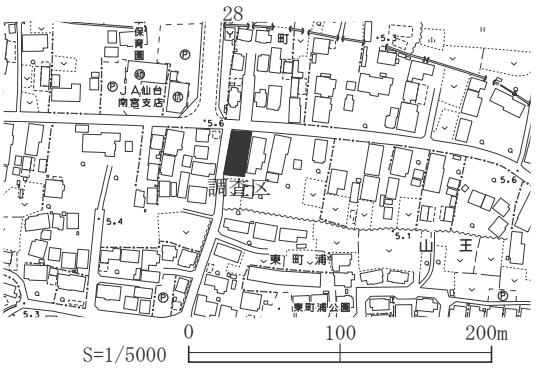
調査原因　個人住宅新築

調査担当　浦山幸一

調査期間　平成 27 年 7 月 15 日～ 7 月 31 日

対象面積　63 ㎡

調査面積　53 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

7/16　重機による表土掘削、機材搬入

7/17 ～ 7/30　遺構検出作業、前景写真撮影、図面作成

7/31　埋め戻し、調査機材搬出（調査終了）

3　調査成果

（２）発見遺構と遺物

ＳＫ 3008

【位置】調査区南部で確認した。

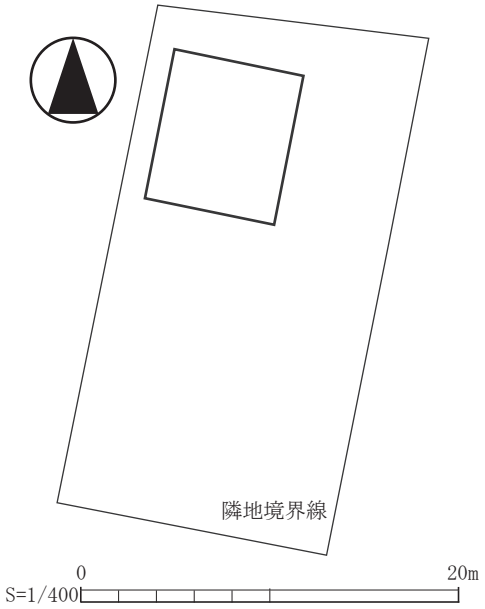
【重複】東側の不定形の遺構より古い。

【規模】平面形は楕円形で、長軸約 110cm、短軸約 55cm、深さ 26cm である。

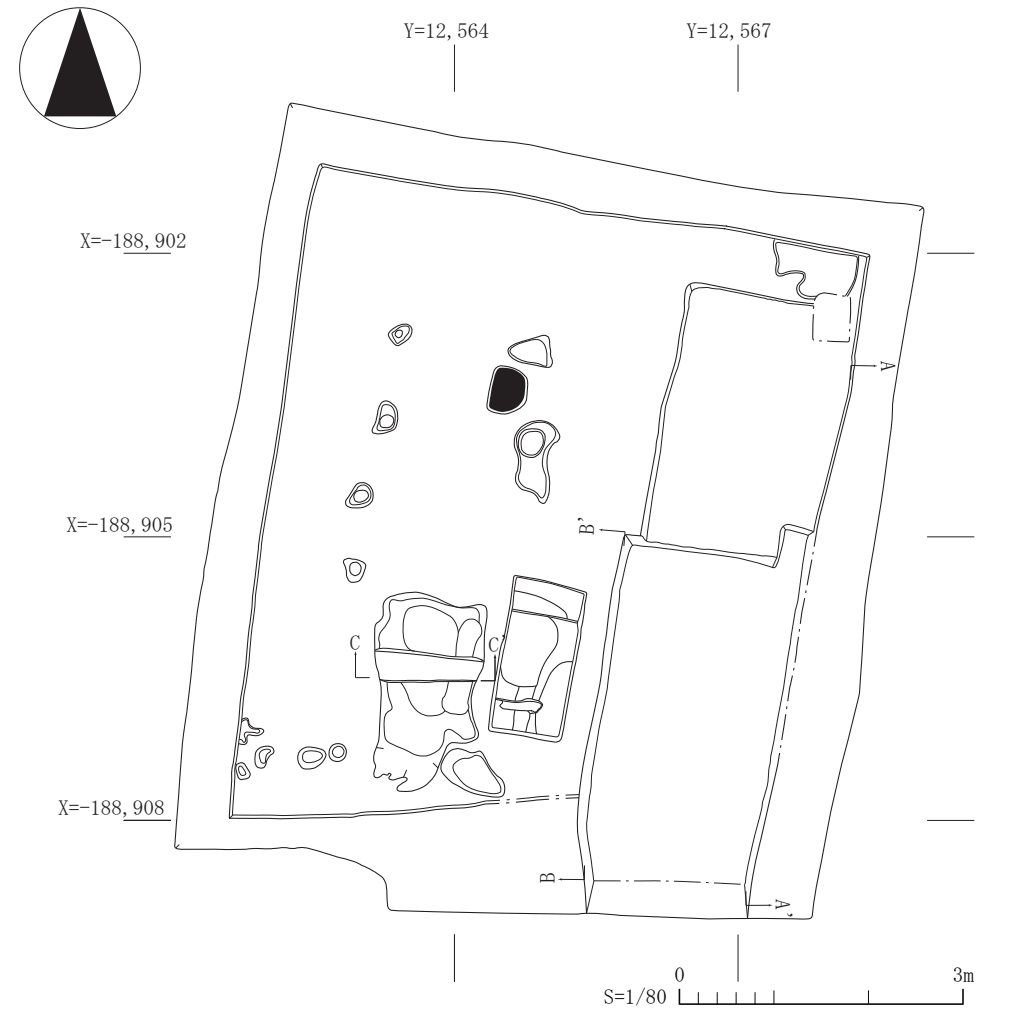
【壁面・底部】壁は急角度でに立ち上がる。底面は平坦で凹凸がある。

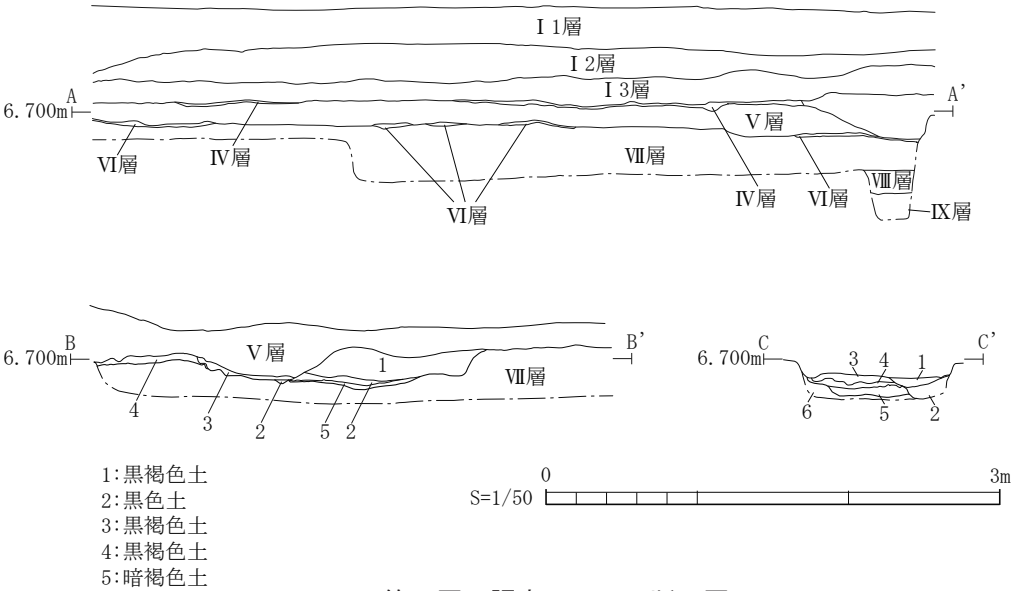
【埋土】４層に細分できる(第３図３～６層)。３層はオリーブ褐色土（2.5YR4/4）で炭化物､黄色土が細かい粒になって混ざっている。４層は黒褐色土（2.5YR3/1）であり炭化物である。５層は極暗褐色土（5YR2/4）であり、硬くしまった焼土である。６層は暗褐色土（5YR3/2）であり、水分を含み、黄橙色土の細かい粒が混ざっている。

【遺物】土師器甕、須恵器長頸瓶、磁器（肥前系）猪口、陶器が出土した。



第２図　調査区配置図





1:黒褐色土
2:黒色土
3:黒褐色土
4:黒褐色土
5:暗褐色土

第３図　調査区平面・断面図

調査区全景（南東から）

下層遺構（東から）

山王遺跡第 159 次調査

1　要項

調 査 地　南宮字町 56

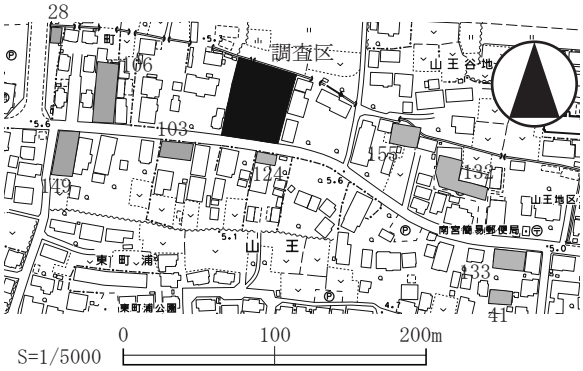
調査原因　宅地造成

調査担当　熊谷　満

調査期間　平成 28 年２月 29 日～３月 17 日

対象面積　966.81 ㎡

調査面積　88 ㎡



2　調査経過

2/29　重機による表土掘削、機材搬入

3/2 ～ 3/16　遺構検出作業、前景写真撮影、図面作成

3/17　埋め戻し、調査機材搬出（調査終了）

3　発見遺構と遺物

ＳＫ 3009 土壙

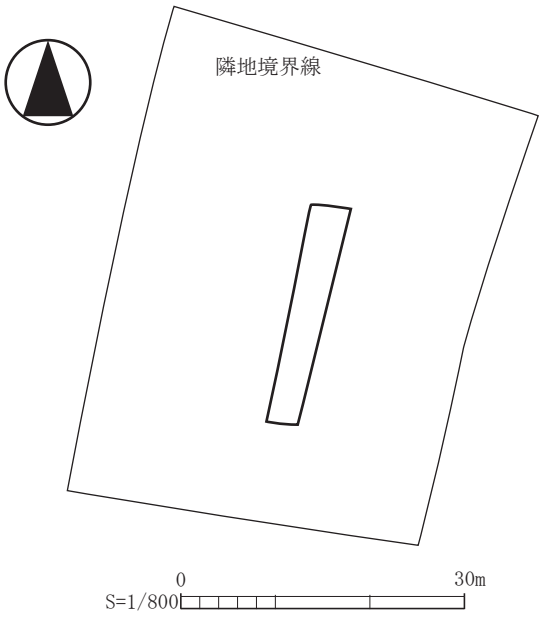
【位置】調査区南側の第４面で確認した土壙である。

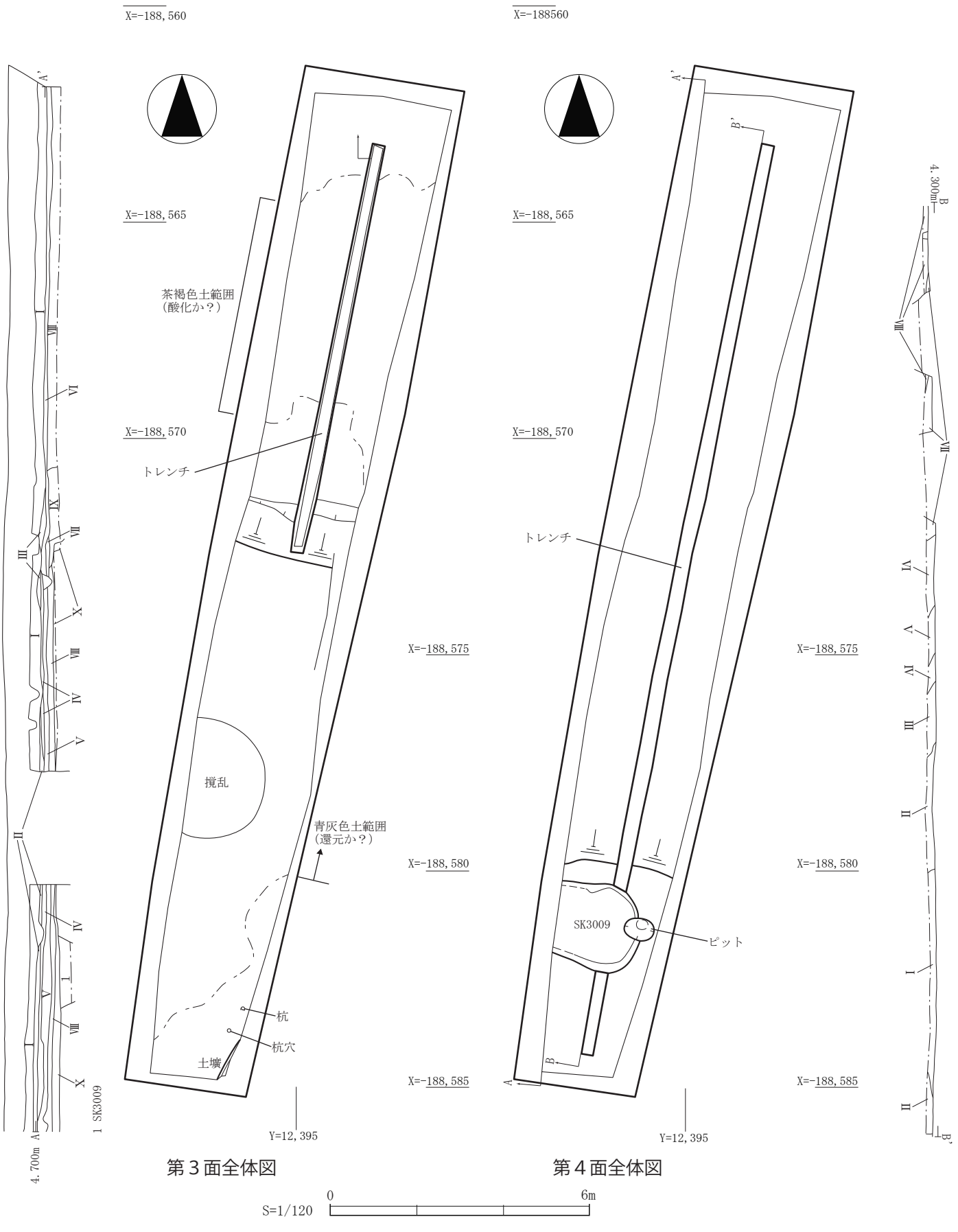
【重複】ピット１基と重複しており、それより古い。

【平面系・規模】平面形は東西に長い楕円形であり調査区外へ続く。規模は長径 1.9m 以上、短径２m、深さは 26cm 以上である。

【埋土】１層確認しており、黒色土（10YR2/1）で青灰色砂質土ブロックを少量含む。

【遺物】遺物は出土していない。





第３図　調査区平面・断面図

第３面前景（北から）

第４面前景（北から）

山王遺跡第 162 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王一区 16

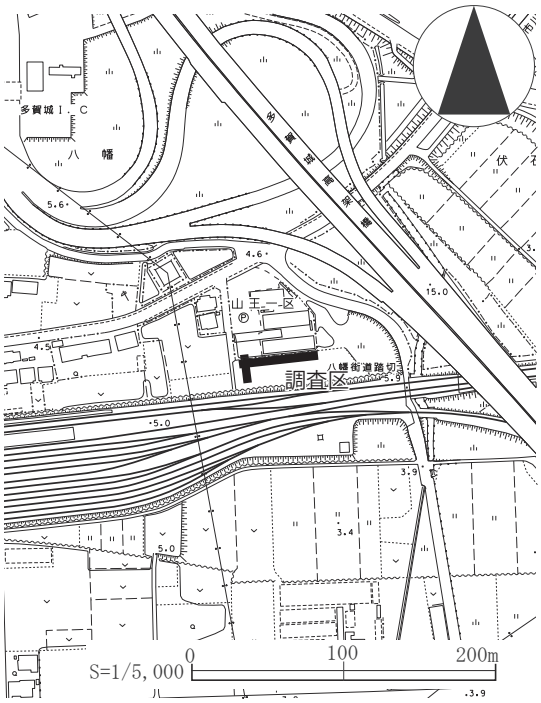
調査原因　宅地造成

調査担当　相澤清利・小原駿平

調査期間　平成 28 年５月 16 日～６月 15 日

対象面積　1,354 ㎡

調査面積　31 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

5/16　重機による表土掘削、調査器材搬入（～ 5/19）

5/20　遺構検出作業、全景写真撮影、図面作成（～ 6/14）

6/15　重機による調査区埋め戻し、調査器材搬出
（調査終了）

3　調査成果

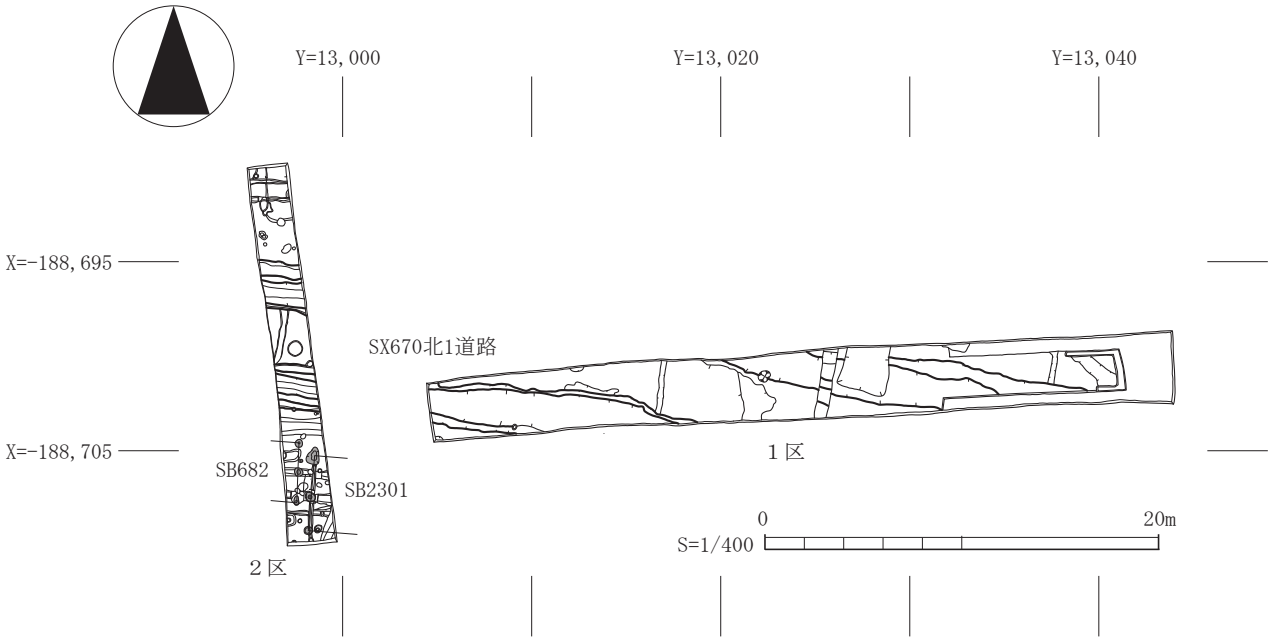
（１）層序（第４図）

Ⅰ層：現代の盛土であり、厚さは約 50 ㎝である。

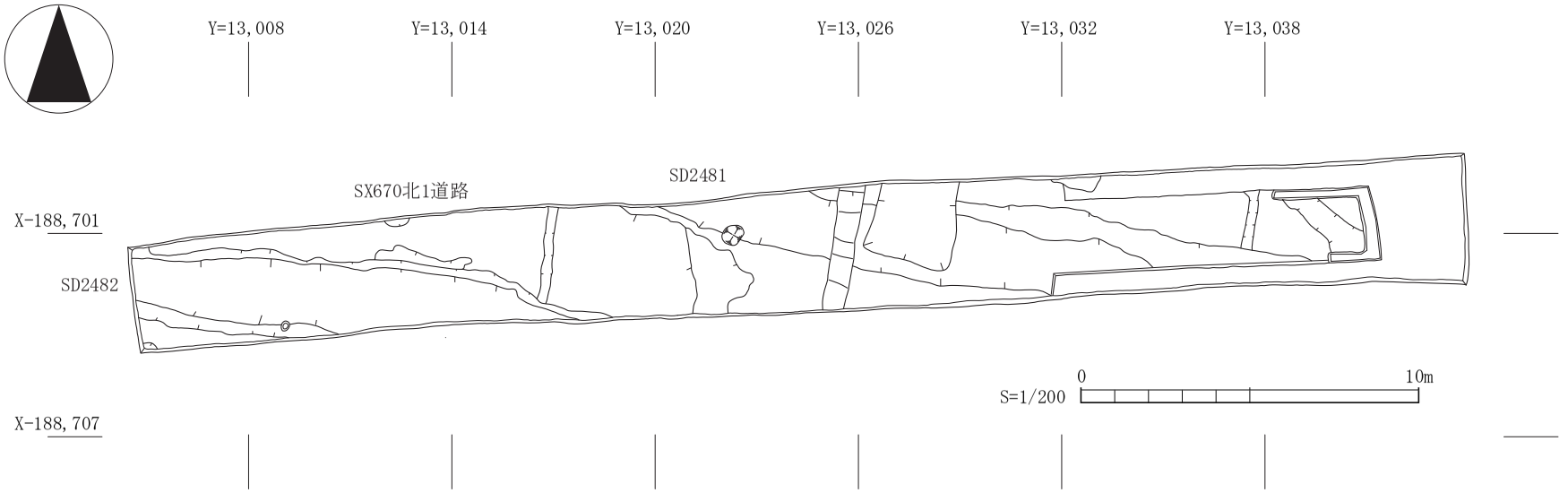
Ⅱ層：褐色砂質土（10YR4/4）であり、厚さは約 30 ㎝である。

Ⅲ層：Ⅱ区南側に認められる褐灰色シルト（10YR4/1）であり、厚さは 10 ～ 15 ㎝である。ＳＤ 2482 上位に、この堆積層の一部が確認できる。

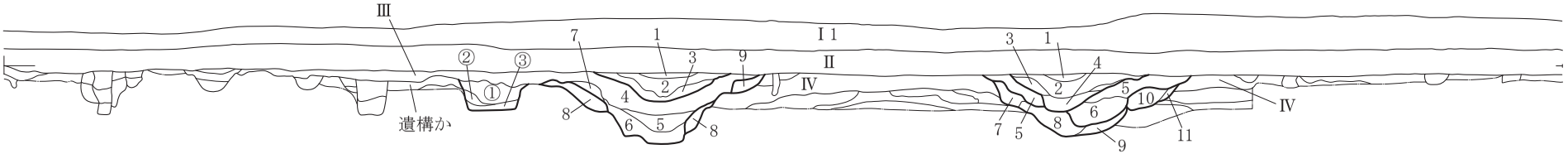
Ⅳ層：浅黄色砂質土（2.5Y7/3）であり、厚さは約 30 ㎝である。ＳＤ 2483 付近で南側に向かって落ち込む



第２図　Ⅰ・Ⅱ区遺構全体図



第３図　Ⅰ区遺構平面図



第４図　Ⅱ区西壁断面図

状況が認められることから、東西方向の旧河川の存在が推測される。なお、Ⅳ層以下の堆積層については、浅黄色砂質土（2.5Y7/3）やにぶい黄褐色砂質土（10YR6/3・6/4）が主体となる河川埋土と考えられる。

（２）発見遺構と遺物

ＳＸ 670 北１道路跡及び掘立柱建物２棟（ＳＢ 682・2301）を確認した。このうちＳＸ 670 及びＳＢ 682 は調査区西側の第 19 次調査で発見したものと同遺構と考えられる。

ＳＸ 670 北１道路跡（第３・４・５図）

【位置】多賀城南面に広がる方格地割を構成する道路網のうち、基幹道路である東西大路から数えて北に１本目の小路である北１道路に相当する。西４－西５道路間の約 25 ｍに渡る範囲を検出しており、本調査区における１区から２区をほぼ横断し、調査区外に伸びる。

【構造】南北に素掘りのＳＤ 2481 北側溝及びＳＤ 2482 南側溝を伴う。路面構築土や基礎改良痕跡については確認できなかった。

【重複】１区で方形土壙と重複しており、それより古い。

【変遷】道路側溝の重複関係の検討から、両側溝ともに４時期（Ａ期→Ｄ期）の変遷を確認した。近接する第 192 次調査では北側溝で５時期の変遷を確認しており、地点により側溝の遺存状況が異なるものとみられる。

【規模・方向】規模はＤ期の側溝心々間で測ると、5.12 ｍである。方向は西で約 16 度北に偏している。

ＳＤ 2481 北側溝（第３・５図）

Ａ期：最も古い時期にあたり、大部分を後続のＣ期に壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 1.68 ｍ程度、深さ 48cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】９層は褐灰色土（7.5Y5/1）であり、マンガンを含む。

【遺物】土師器・須恵器が出土している。

Ｂ期：大部分を後続するＣ・Ｄ期に壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 2.56 ｍ程度、深さ 64cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】８層は灰黄褐色土（10YR6/2）である。

【遺物】土師器坏（Ｂ類）が出土している。

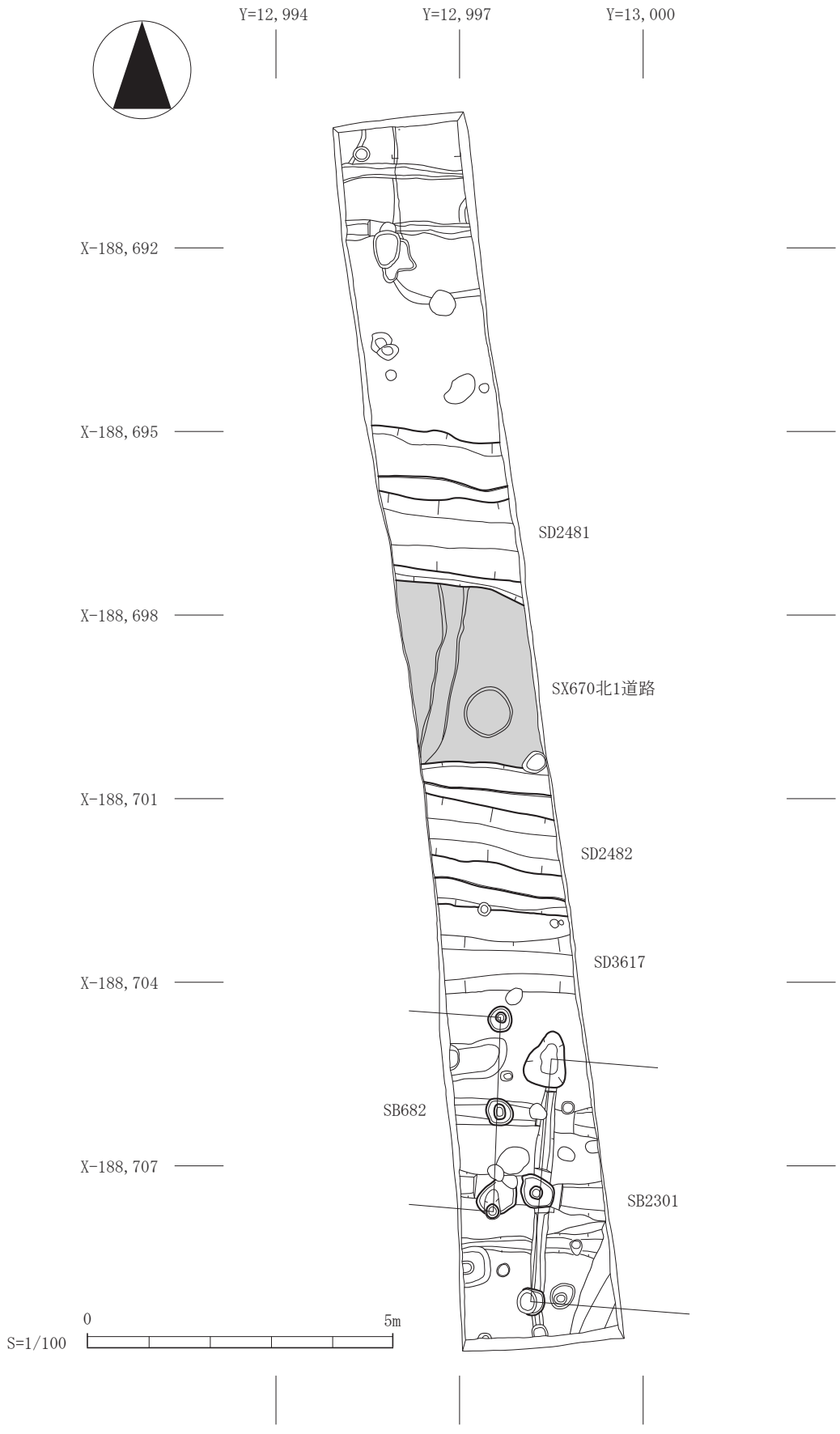
Ｃ期：大部分を後続するＤ期に壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 1.28 ｍ程度、深さ 64cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】４層は黄灰色シルトであり、灰白色火山灰小ブロックを含む。５層は黒褐色粘質土であり、地山由来のブロックを少量含む。６層は灰黄褐色粘質土（10YR5/2）。７層は黄灰色シルトであり、灰白色火山灰小ブロック及び地山由来のブロックを多量に含む。

Ｄ期：本調査区で確認した北側溝では、最も新しい段階のものである。


Y=12,994
Y=12,997
Y=13,000
X-188,692
X-188,695
X-188,698
X-188,701
X-188,704
X-188,707
SD2481
SX670北1道路
SD2482
SD3617
SB682
SB2301
0
5m
S=1/100

第５図　２区遺構平面図

【埋土】１層は均質な黒色粘質土（10YR2/1）である。２層は褐灰色土（10YR5/1）であり炭化物を含む。３層は均質な褐灰色土（10YR6/1）である。

【遺物】須恵系土器坏が出土している。

ＳＤ 2482 南側溝（第４・５図）

Ａ期：最も古い時期にあたり、大部分を後続のＣ期に壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 2.08 ｍ程度、深さ 72cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】10 層は褐灰色土（7.5Y5/1）であり、マンガンを含む。11 層は 10 層よりやや明るく、マンガンが少ない。

Ｂ期：大部分を後続するＣ・Ｄ期に壊されている。

【規模】残存部分で上端幅 2.56 ｍ程度、深さ 64cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】７層は灰黄褐色土（10YR6/2）であり、地山由来のブロックを含む。８層は褐灰色シルト（10YR5/2）である。９層は褐灰色シルト（10YR6/1）であり、黄褐色シルトと粗砂を含む。

Ｃ期：

【規模】残存部分で上端幅 2.16 ｍ程度、深さ 64cm 程度である。

【壁・底面】底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

【埋土】５層は黄灰色シルトであり、灰白色火山灰小ブロックを含む。６層は灰黄褐色粘質土であり、灰白色火山灰小ブロックを含む。

Ｄ期：本調査区で確認した北側溝では、最も新しい段階のものである。

【規模】残存状況が悪く、規模はほぼ不明である。

【埋土】１層は均質な黒色粘質土（10YR2/1）である。２層は褐灰色シルト（10YR5/1）であり、炭化物を含む。３層は均質な褐灰色シルト（10YR6/1）である。４層は黒褐色シルト（10YR3/1）であり、炭化物を含む。

ＳＢ 682 掘立柱建物跡（第５・６図）

【位置】Ｉ区中央やや南寄りで発見した掘立柱建物である。西側に隣接する第 19 次調査で発見したＳＢ 682 と一連のものとみられる。

【桁行・梁行】第 19 次調査成果と合わせると、南北２間、東西２間の建物跡である。

【重複】小溝群と重複しており、これより新しい。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ１～３すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

【方向・規模】方向は東側柱列で図ると北で約３度東に偏している。建物の規模は東側柱列で総長約 3.1 ｍ、柱間は北から約 1.5 ｍ、約 1.6 ｍである。

【掘方】平面形は方形及び円形であり、規模は北東隅柱穴で直径約 40cm である。

ＳＢ 2301 掘立柱建物跡（第５・７図）

【位置】３基の柱穴（Ｐ４～６）から推測したものである。柱の配置から、建物の西側柱列であると判断した。

【桁行・梁行】南北２間以上、東西１間以上である。

【重複】小溝群と重複しており、これより新しい。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ４～６すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

【方向・規模】方向は西側柱列で図ると北で３度東に偏している。規模は西側柱列で総長４ｍ以上、柱間は北から 2.2m、1.8m である。

【掘方】平面形は方形及び円形であり、規模はＰ６で直径約 52cm である。

２区全景（南から）

ＳＸ 670 道路跡（東から）

山王遺跡第 168 次調査

1　要項

調 査 地　山王字山王四区 89 － 10、91 － 9

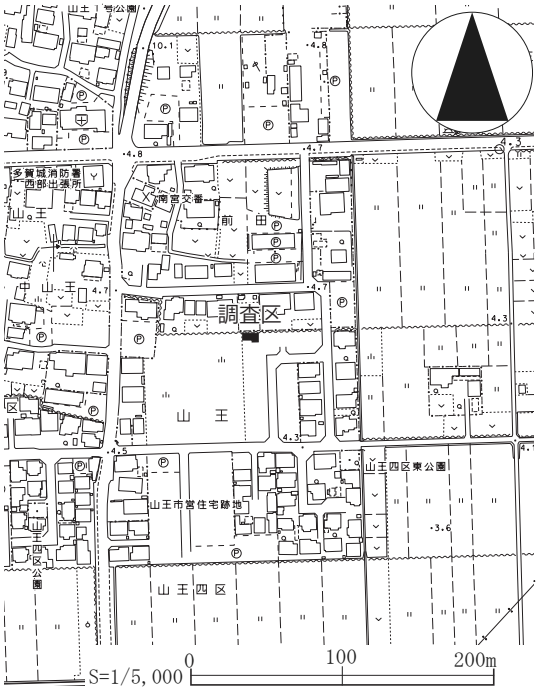
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松稔・石川俊英

調査期間　平成 28 年９月６日～ 11 月 28 日

対象面積　168.74 ㎡

調査面積　75 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

9/6　重機による表土掘削、調査区内の環境整備

9/7　遺構検出作業開始（～ 11/18）

以降、遺構個別写真撮影、遺構平面図等作成

11/28　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（１）層序（第４図）

Ⅰ層：現代の盛土下にある、旧水田耕作土である。厚さは約 30 ㎝である。

Ⅱ層：黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、厚さは 20 ～ 30 ㎝である。灰白色火山灰の自然堆積が認められるＳＤ 2973 やＳＫ 2971 を覆うことから、10 世紀前葉以降の堆積層であることが明らかである。

Ⅲ層：暗灰色粘質土（2.5Y4/1）であり、古代の最終遺構検出面である。なお、Ⅲ層上面の一部で黒褐色粘質土（10YR3/2）層が認められ、この上面からＳＤ 2978 が掘り込まれている。

Ⅳ層：暗灰色粘質土（2.5Y4/2）と黄褐色粘質土（2/5Y3/5）が交互に堆積する無遺物層であり、厚さは 30 ～ 40 ㎝できる。

Ⅴ層：灰オリーブ色粘土（5Y5/2）であり、厚さは約 10 ㎝である。

Ⅵ層：黒色粘土（10YR2/1）であり、周辺地区で確認される古墳時代前期の水田層と同一層である。厚さは 20 ㎝以上である。

（２）発見遺構と遺物

ＳＤ 2978 溝跡（第２・４図）

【位置】Ⅰ区南東部の a 層上面で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】小溝や土壙と重複しており、これらより新しい。

【方向・規模】方向は、およそ東西の発掘基準線に沿っている。上幅は３ｍ以上、下幅は東壁でみると約１ｍである。

【壁・底面】東壁でみると、壁は緩やかに立ち上がっている。底面にはやや起伏が認められる。

【埋土】埋土は２層に細分できる。１・Ⅱ層ともに黒褐色粘質土（10YR2/2）が主体であり、このうち２層

には地山ブロックが斑状に混入している。

【遺物】土師器坏（ＢⅤ類）・甕（Ａ類・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅴ類）・高台付坏・甕、須恵系土器坏、灰釉陶器皿（第３図１）が出土している。

【年代】須恵系土器が出土していることから、およそ 10 世紀以降のものである。

ＳＤ 2970 溝跡（第２図）

【位置】Ⅱ区を縦断する、南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 2973 と重複し、それよりも新しい。

【方向・規模】方向は、北で約７度西に偏している。規模は、長さ 12.8 ｍ以上、上幅約 60 ㎝、深さはⅡ区中央部で測ると約 30 ㎝である

【壁・底面】壁は急角度で立ち上がっている。底面はやや凹凸があり、西側がやや深く掘り込まれている。

【埋土】黒褐色粘質土（10YR2/2）である。

【遺物】土師器坏（ＢⅤ類）、甕（Ａ類・Ｂ類）、須恵器甕が出土している。

【年代】新旧関係でみると、灰白色火山灰が自然堆積するＳＤ 2973 よりも新しいことから、10 世紀前葉以降のものである。

ＳＫ 2971 土壙（第２・４図）

【位置】Ⅱ区中央西壁際で発見した土壙である。

【重複】他の遺構との重複はない。

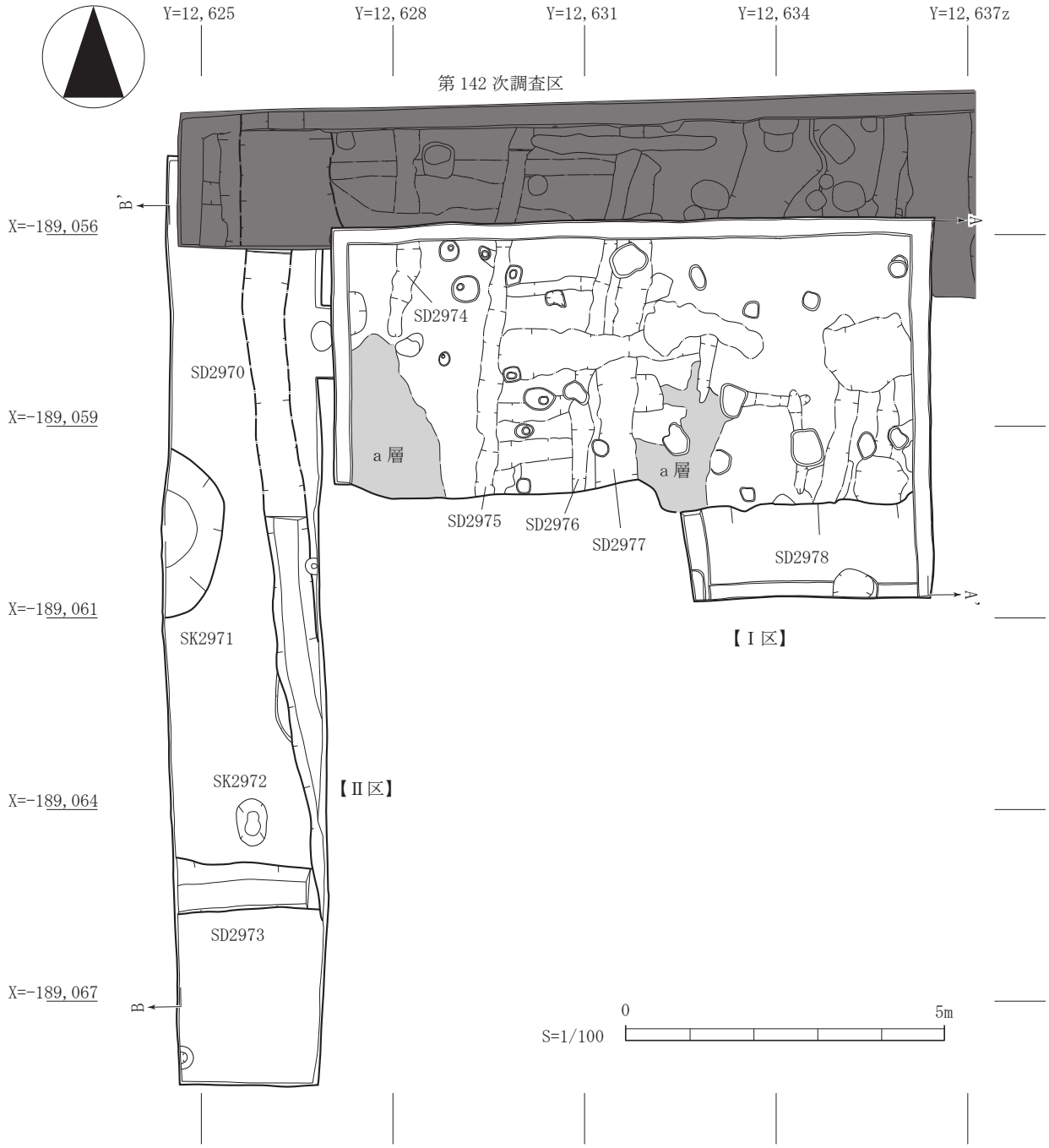
【規模】直径 2.6 ｍ、深さは西壁で見ると約 90 ㎝である。

【壁・底面】壁は非常に緩やかに立ち上がっており、底面は丸みを帯びて窄まっている。

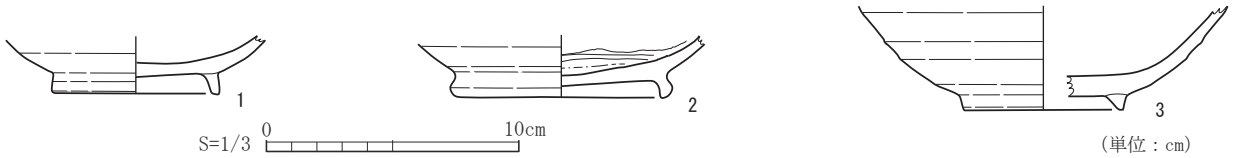
【埋土】西壁でみると６層に細分することができる（第４図【調査区西壁】５～ 10）。５層は黄灰色砂質土（2.5Y4/1）、６層は灰白色火山灰層、７～ 10 層は黒褐色粘質土（10YR3/2、2.5Y3/2・3/2）であり、下層ほど粘性が強い。

【遺物】出土していない。

【年代】埋土上位に灰白色火山灰が自然堆積していることから、10 世紀前葉頃にはおよそ埋没していたことが明らかである。



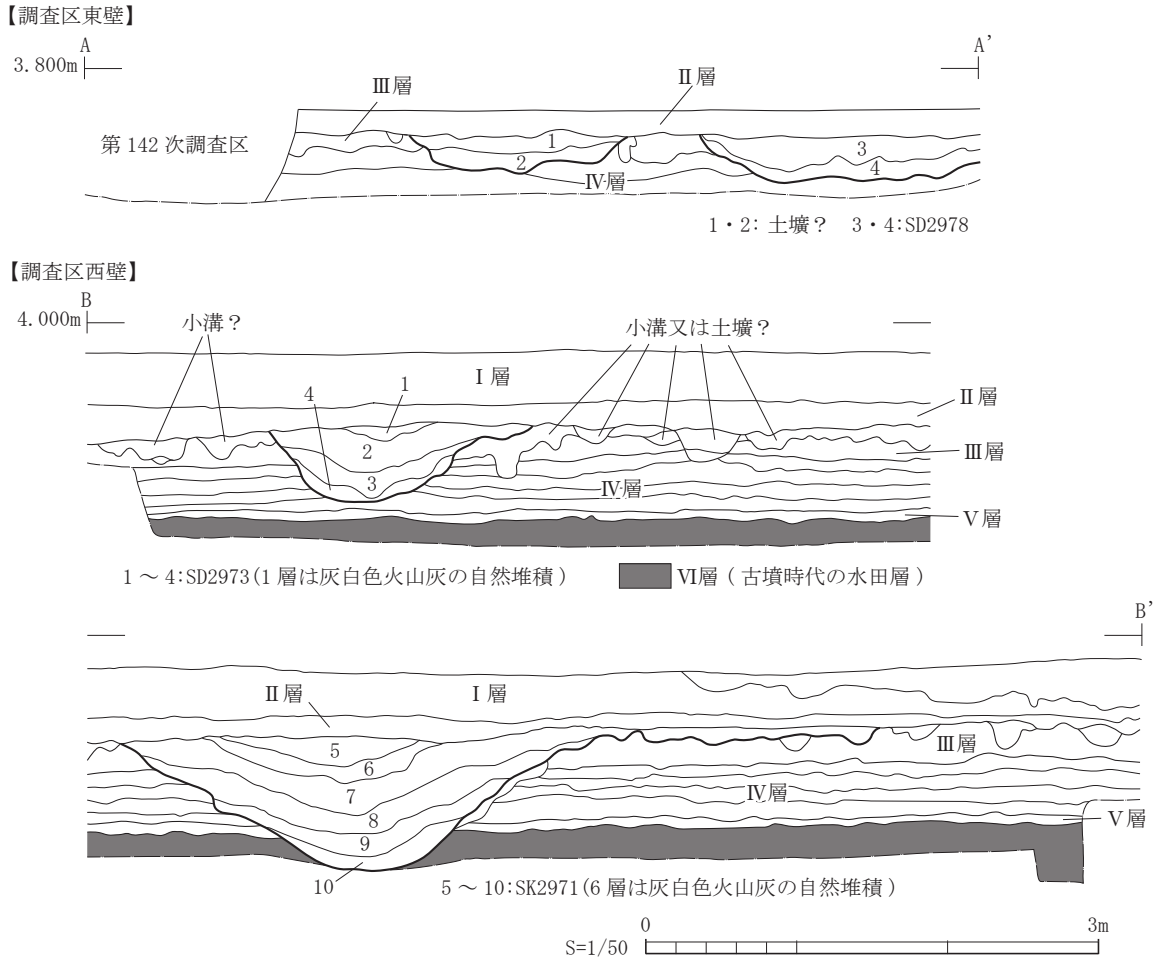
第２図　遺構平面図



(単位：cm)

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径	底径	器高	登録	備考
				外面	内面	残存率	残存率		番号	
1	灰釉陶器 皿	SD2978	1	施釉		−	(6.5) 13/24	(2.1)	R1	
2	灰釉陶器 皿	SD2973	1	施釉、重ね焼き		−	(4.2) 12/24	(2.5)	R6	
3	灰釉陶器 碗	SD2973	1	底部：回転糸切り	施釉	−	(6.3) 8/24	(4.1)	R5	

第３図　出土遺物



第４図　調査区壁面断面図

写真図版

調査区全景（北西から）

山王遺跡第 193 次調査

1　要項

調 査 地　南宮字町 52 の一部

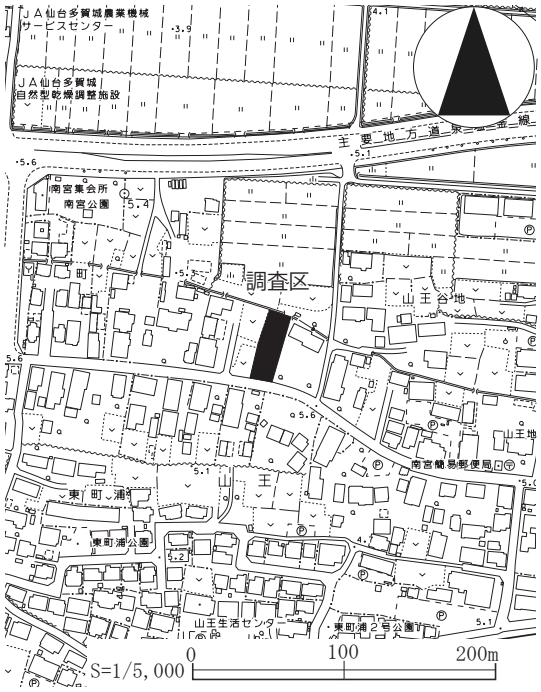
調査原因　共同住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 29 年８月 17 日～９月１日

対象面積　748.59 ㎡

調査面積　180 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

8/17・18　重機による表土掘削

8/19 ～ 8/28　遺構検出作業、個別遺構の写真撮影

8/29　遺構平面・断面図作成

9/1　調査器材搬出（調査終了）

3　調査成果

（１）層序

Ⅰ層：現代の盛土層であり、厚さは約 40 ㎝である。

Ⅱ層：黒褐色土を小ブロック状に含み、層下部には褐色粘質土が堆積する暗褐色土（10YR3/4）であり、厚さは 10 ～ 20 ㎝である。

Ⅲ層：一部グライ化している均質な黄灰色粘質土（2.5Y4/1）であり、厚さは約 30 ㎝である。

Ⅳ層：均質な黒褐色粘質土（2.5Y3/1）であり、厚さは 20 ～ 38 ㎝である。

Ⅴ層：均質な黒色粘質土（10YR2/1）であり、厚さは 60 ～ 80 ㎝である。

（２）発見遺構と遺物

ＳＤ 2983 溝跡（第２図）

【位置】調査区北端で発見した東西溝跡であり、大部分は調査区外に伸びている。

【重複】ＳＤ 2985 と重複し、それよりも新しい。また、東側でＳＤ 2984 と接続する。

【方向・規模】方向は東で約 26 度南に偏する。規模は長さ 4.2 ｍ以上、幅は 2.2 ｍ以上である。

【遺物】出土していない。

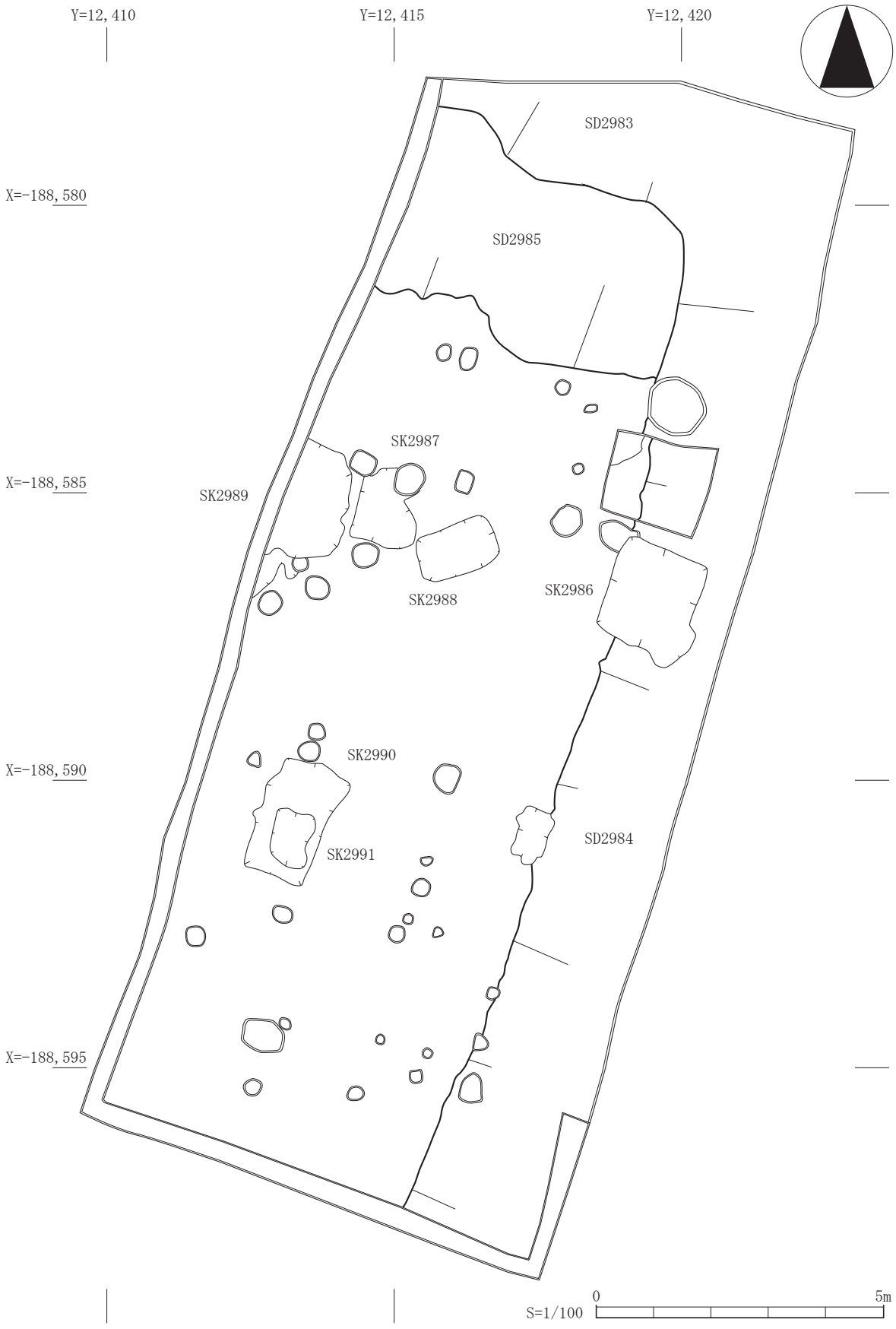
ＳＤ 2984 溝跡（第２図）

【位置】調査区東端で発見した南北溝跡であり、大部分は調査区外に伸びている。

【重複】ＳＤ 2985 と重複し、それよりも新しい。また、北側でＳＤ 2983 と接続する。

【方向・規模】方向は北で約７度東に偏する。規模は長さ 20.3 ｍ以上、幅は 2.5 ｍ以上である。

【遺物】出土していない。


Y=12, 410
Y=12, 415
Y=12, 420
X=-188, 580
X=-188, 585
X=-188, 590
X=-188, 595
SD2983
SD2985
SK2987
SK2989
SK2988
SK2986
SK2990
SK2991
SD2984
0
5m
S=1/100

第２図　遺構平面図

ＳＤ 2985 溝跡（第２図）

【位置】調査区北西側で発見した東西溝跡であり、大部分はＳＤ 2983・2984 に壊されている。

【重複】ＳＤ 2983・2984 と重複し、それらよりも古い。

【方向・規模】方向は東で約８度南に偏する。規模は長さ 5.0 m以上、幅は 3.3 m以上である。

【遺物】出土していない。

写真図版

調査区全景（南東から）

山王遺跡第 194 次調査

1　要項

調 査 地　南宮字町 22 番２

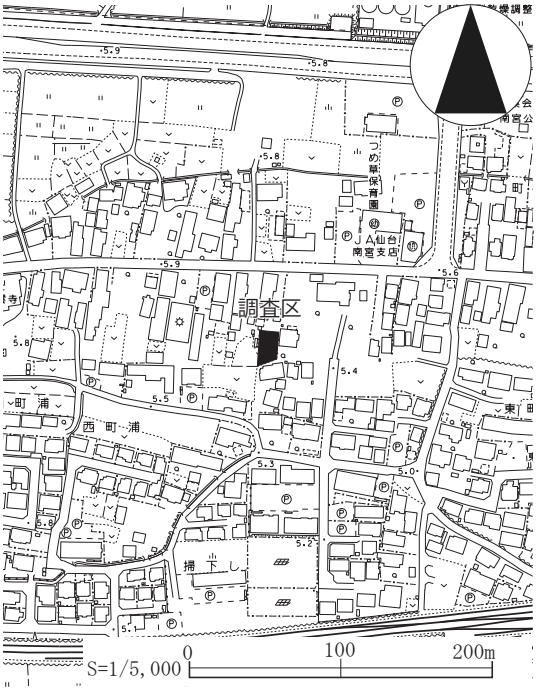
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 29 年 10 月 31 日～ 11 月 21 日

対象面積　454.42 ㎡

調査面積　95 ㎡



2　調査経過

10/31・11/1　重機による表土掘削

11/2 ～ 11/20　遺構検出作業、個別遺構写真撮影
平面・断面図作成

11/21　重機による調査区埋め戻し（調査終了）

3　調査成果

（1）層序（第３図）

Ⅰ　層：現代の盛土であり、厚さは 15 ～ 32 ㎝である。

Ⅱ 1 層：黄褐色土（2.5Y5/4）で、厚さは５～ 30 ㎝である。ＳＤ 2994・2996 の検出面である。

Ⅱ 2 層：調査区中央付近に堆積するオリーブ黒色砂質土（5Y3/2）で、厚さは５～ 10 ㎝である。

Ⅲ　層：部分的に堆積する黒色土（2.5Y2/1）で、厚さは５～ 10 ㎝である。ＳＤ 2993 の検出面である。

Ⅳ 1 層：灰黄土（2.5Y6/2）で、厚さは４～ 25 ㎝である。Ⅱ層下の遺構の検出面である可能性がある。

Ⅳ 2 層：部分的に堆積する黄灰土（2.5Y4/1）で、厚さは４～ 20 ㎝である。

Ⅴ　層：浅黄色砂質土（5Y7/4）で、厚さは 10 ～ 25 ㎝である。

（2）発見遺構と遺物

ＳＤ 2992 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区南端で発見した東西溝跡であり、東側と南側は調査区外に延びる。

【重複】ＳＤ 2993 と重複し、それよりも古い。

【方向・規模】方向は、西辺で測ると北で約 40 度東に偏し、調査区南端付近で西側に屈曲し、ほぼ東西方向に伸びる。規模は総長で 6.5 ｍ以上、幅は 2.5 ㎝以上、深さは 72 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。１層は黄灰色土を筋状に含む暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）、２層はオリーブ褐色土（2.5Y4/3）であり、いずれも水性堆積と考えられる。

【壁・底面】壁は若干凹凸しつつ外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

【遺物】出土していない。

ＳＤ 2993 溝跡（第２・３図）

【位置】調査区やや南寄りのⅢ層上面で発見した東西溝跡であり、東側と西側は調査区外に延びる。

【重複】ＳＤ 2992 と重複し、それよりも新しい。

【方向・規模】方向は東で約１度南に偏する。規模は長さ 8.3 ｍ以上、幅は 1.2 ㎝、深さは 24 ㎝である。

【埋土】溝状の窪みにオリーブ黒色（5Y3/2）のⅡ２層が堆積する。

【壁・底面】壁は外傾しながら立ち上がる。底面は平坦である。

【遺物】出土していない。

ＳＤ 2994 溝跡（第２・３図）

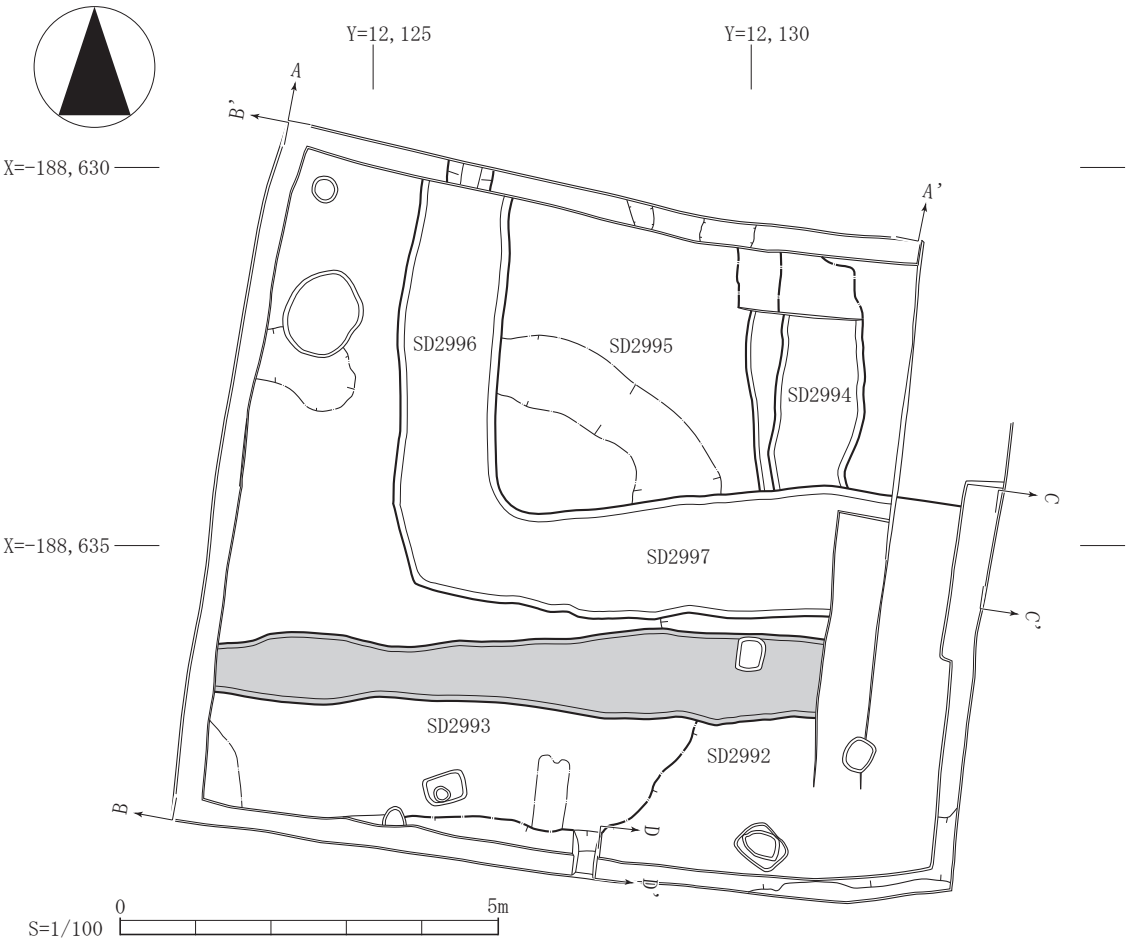
【位置】調査区東側のⅡ１層上面で発見した南北溝跡であり、北側は調査区外に延びる。

【重複】ＳＤ 2997 と重複し、それよりも古い。

【変遷】２時期の変遷（Ａ→Ｂ期）を確認した。どちらもほぼ南北方向に伸びるが、新しいＢ期はＡ期よりも東側に位置を変え、規模が縮小している。

【方向･規模】方向は、Ｂ期で測ると北で約２度東に偏する。規模は、Ａ期は長さ 3.5 ｍ以上、幅は 1.5 ㎝、深さは 44 ㎝、Ｂ期は長さ 3.5 ｍ以上、幅は 1.2 ｍ、深さは 14 ㎝である。

【埋土】Ａ期で１層、Ｂ期で２層に細分できる。Ａ期は１層は黒褐色粘質土（2.5Y3/2）、２層は黒褐色土（2.5Y3/2）であり、Ｂ期は灰白色土を筋状に含む黄褐色土（2.5Y5/3）である。

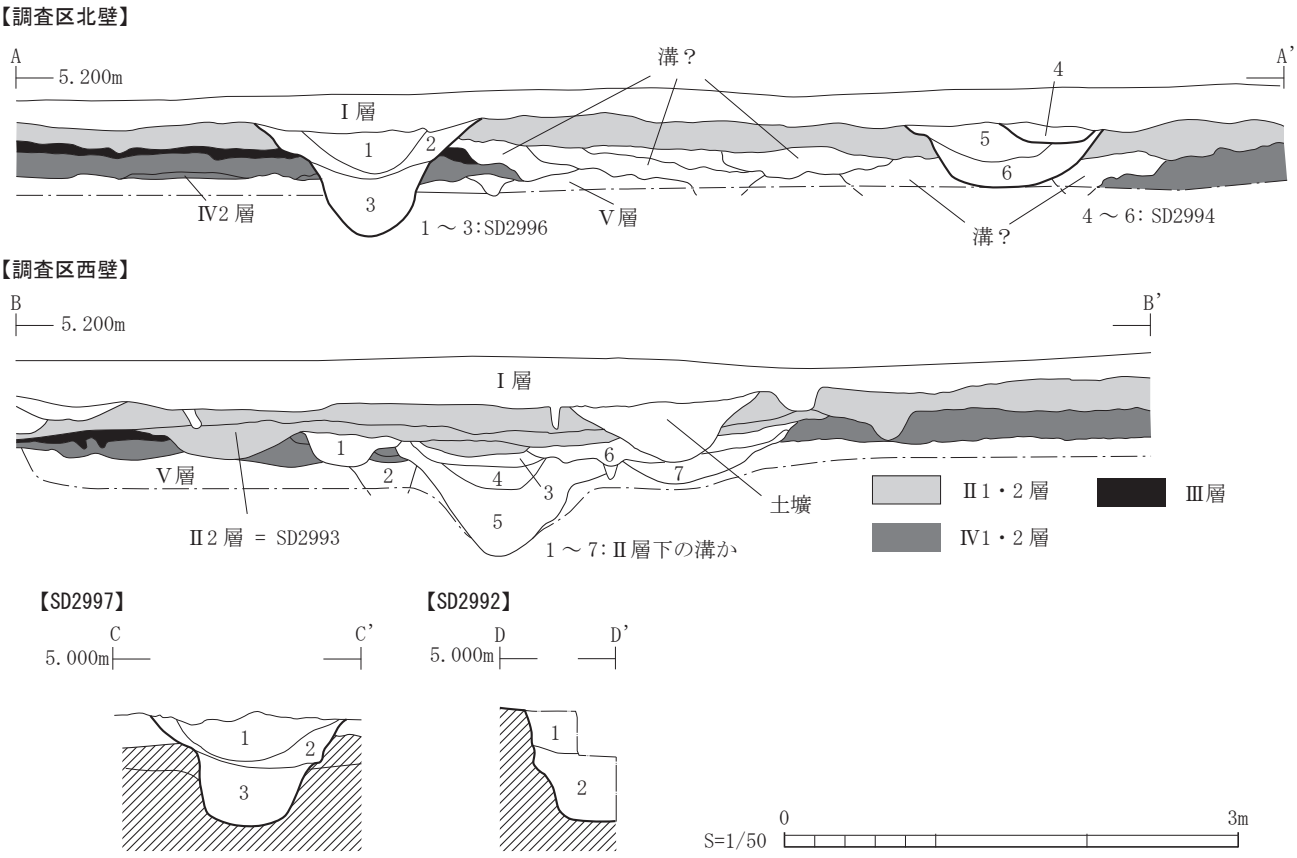


第２図　遺構平面図

【壁・底面】壁は外傾しながら立ち上がる。底面は平坦である。
【遺物】出土していない。

ＳＤ 2996 溝跡（第２・３図）
【位置】調査区ほぼ中央のⅡ１層上面で発見した南北溝跡であり、北側は調査区外に延びる。
【重複】南側でＳＤ 2997 と接続する。
【方向・規模】方向は北で約５度東に偏する。規模は長さ 4.4 ｍ以上、幅は 1.4 ㎝、深さは 58 ㎝である。
【埋土】３層に細分することができる。１層は地山ブロックを斑状に含む黒褐色土（10YR2/3）であり、人為堆積と考えられる。２層は水性堆積と考えられる暗褐色粘質土（10YR3/4）、３層は水性堆積と考えられる黒褐色粘土（10YR3/2）である。
【壁・底面】壁は外傾し、２層と３層の層境から外側に広がるように段が付きながら立ち上がる。底面は緩やかに丸みを帯び窪んでいる。
【遺物】出土していない。

ＳＤ 2997 溝跡（第２・３図）
【位置】調査区ほぼ中央で発見した東西溝跡であり、東側は調査区外に延びる。
【重複】ＳＤ 2994 と重複し、それよりも新しい。また、西側でＳＤ 2996 と接続する。
【方向・規模】方向は東で約２度北に偏する。規模は長さ 7.8 ｍ以上、幅は 1.7 ㎝、深さは 75 ㎝である。
【埋土】３層に細分することができる。１層は地山ブロックを斑状に含む黒褐色土（10YR2/3）であり、人為堆積と考えられる。２層は水性堆積と考えられる暗褐色粘質土（10YR3/4）、３層は水性堆積と考えられる黒褐色粘土（10YR3/2）である。
【壁・底面】壁は中位付近を境に、下方が垂直に外傾気味に立ち上がる。底面は緩やかに丸みを帯び窪んでいる。
【遺物】出土していない。



第３図　調査区西壁ほか断面図

写真図版

調査区全景（北西から）

山王遺跡第 210 次調査

1　要項

調 査 地　　南宮字町 18 の一部・西町浦 89-5

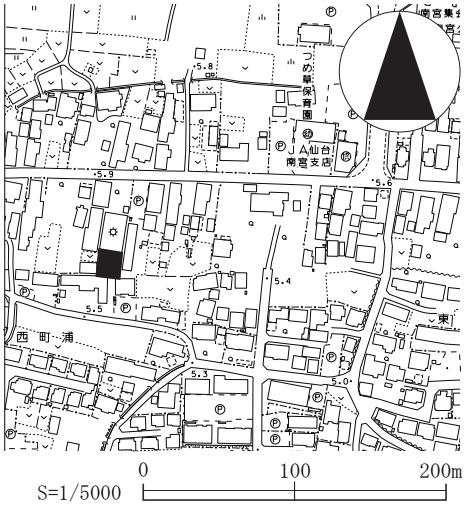
調査原因　　個人住宅新築

調査担当　　大木丈夫

調査期間　　令和元年５月７日～同年５月 23 日

対象面積　　1,705.48 ㎡

調査面積　　約 78 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

5/7　重機による表土掘削

5/8　調査区内環境整備、遺構検出作業開始（～ 5/10）
　　全景写真撮影

5/13　遺構平面図・断面図作成（～ 5/16）

5/23　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（１） 層序

Ⅰ層：現代の盛土層で、厚さは約 10 ～ 35 ㎝ある。

Ⅱ層：近代～現代の黒褐色（7.5YR2/2）の整地層で、厚さは約 40 ㎝ある。

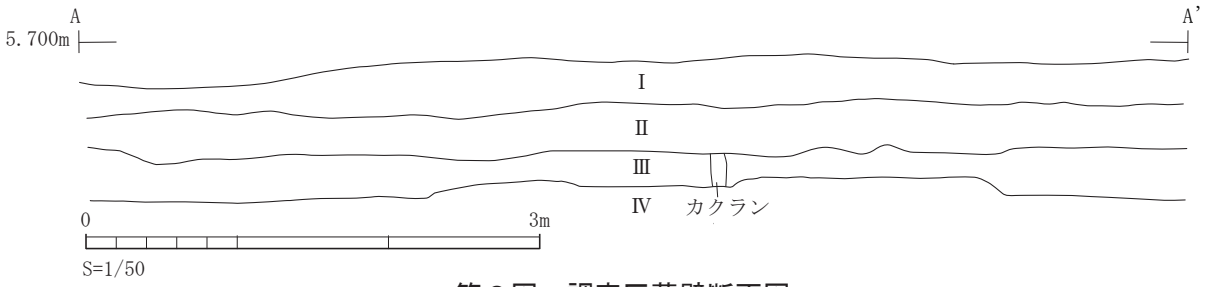
Ⅲ層：近世以降の遺構検出面で、褐灰色（10YR4/1）の砂質土で，厚さは約 10 ～ 15 ㎝ある。

Ⅳ層：古代の遺構検出面で、にぶい黄色土（2.5Y6/3）のシルト質土である。

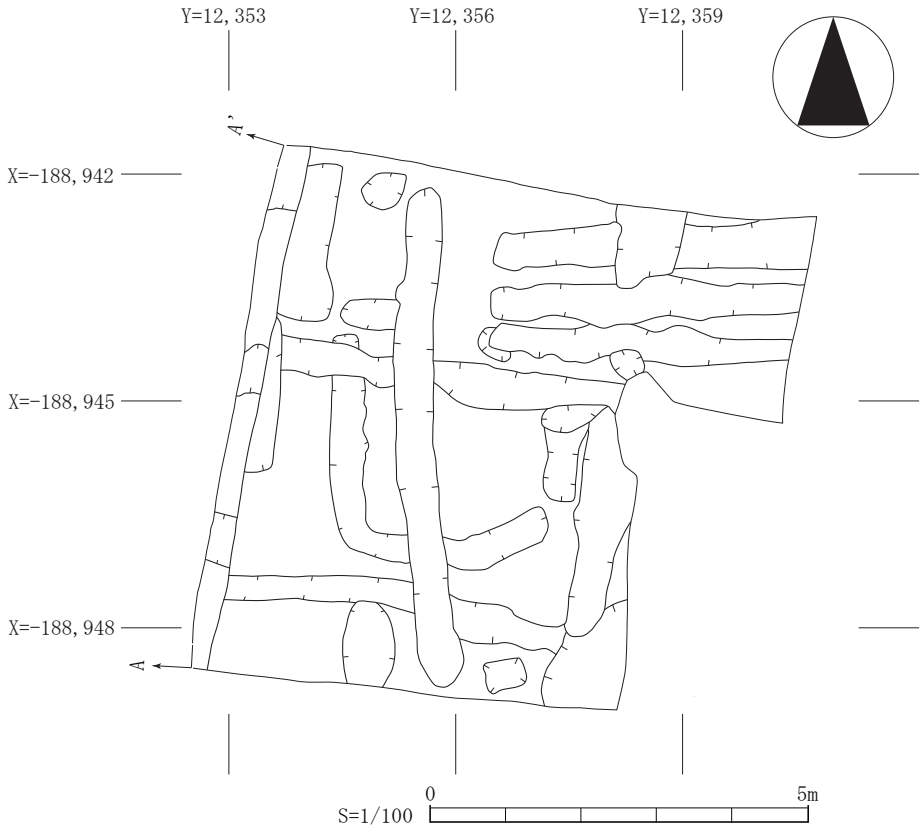
（２） 発見遺構と遺物

Ⅲ層上面では、埋土が黒色の小溝や土坑ピットを確認した。複数時期の遺構があるが、遺構を完掘していないため、何時期あるかは不明である。遺構の重複関係から３時期はあるものと考えられる。出土遺物は、近世の磁器などが出土していることから、これらの遺構は近世のものと考えられる。

Ⅳ層上面で確認した遺構は、土師器の破片が出土していることから、古代の遺構と考えられるが、出土遺物の量が少ないため、詳細は不明である。



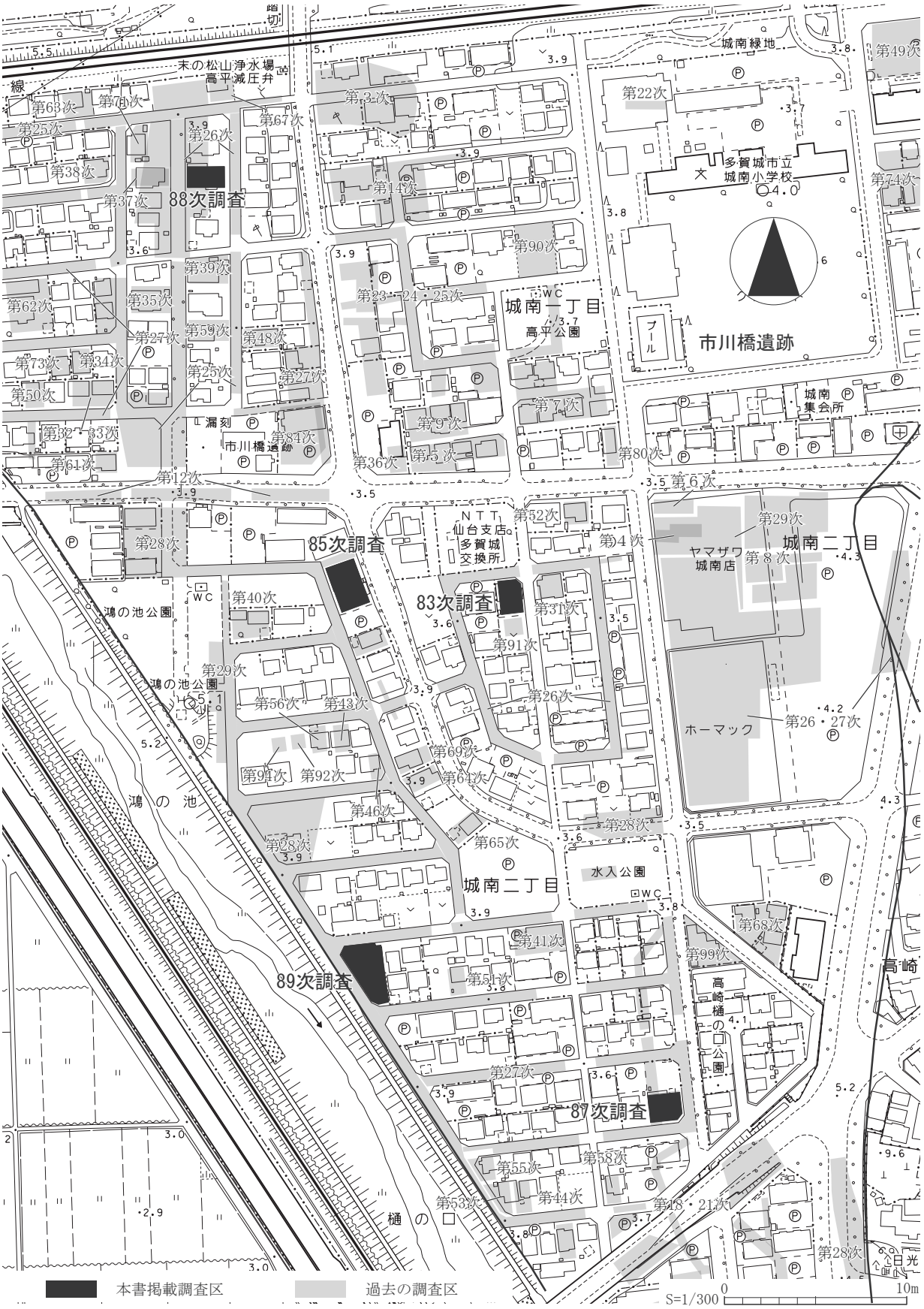
第２図　調査区菱壁断面図



第３図　遺構平面図

写真図版

調査区全景（北西から）



市川橋遺跡調査区位置図

市川橋遺跡第 83 次調査

1　要項

調 査 地　城南二丁目 11 － 2

調査原因　個人住宅新築

調査担当　島田　敬

調査期間　平成 24 年３月１日～３月 13 日

対象面積　307.64 ㎡

調査面積　31.24 ㎡

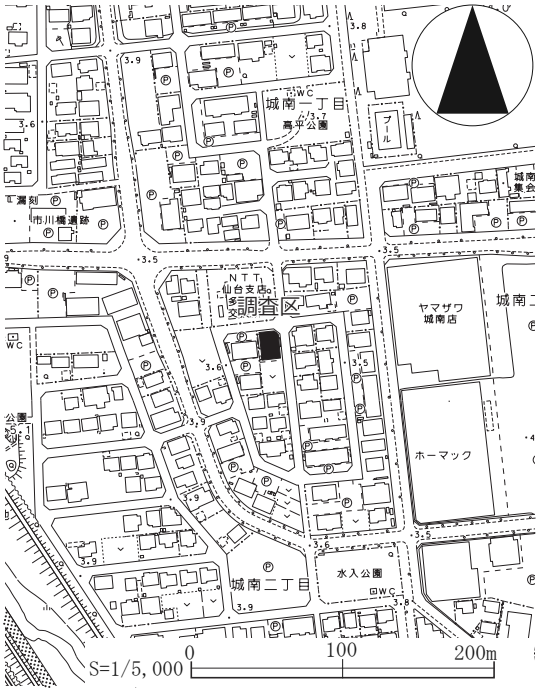
2　調査経過

3/1　重機による表土掘削

3/5　遺構検出作業開始（～ 3/8）

3/9　遺構平面図（平板）作成

3/13　重機による調査区埋戻し（調査終了）



第１図　調査区位置図

3　調査成果

（１）層序

Ⅰ層：厚さ約 1.5 ｍの現代の盛土（Ⅰ１層）と、厚さ約 20 ㎝の旧水田耕作土（Ⅰ２層）に分けられる。

Ⅱ層：炭化物や古代の遺物が多量に混入する黒褐色粘質土（2.5Y3/1）であり、厚さは 10 ～ 15 ㎝である

Ⅲ層：にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）が斑状に多く混入する灰黄色粘質土（2.5Y4/1）であり、厚さは 10 ～ 15 ㎝である。調査区中央から南半に分布している古代の遺構検出面であり、整地層であると考えられる。

Ⅳ層：にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）であり、本地区周辺では古代の最終遺構検出面である。

（２）調査成果

本地区は、古代の方格地割を形成する道路網のうち、南１東西道路の北側、東２南北道路の西側（南１東２区）に位置している。これまでの調査で、多くの掘立柱建物跡や井戸、区画溝等を発見しており、８世紀後葉～９世紀前葉頃の河川埋土からは、膨大な土器類をはじめ、木簡、木製品などが出土している。

今回の調査では、整地層上面で土壙２基を発見した。

ＳＫ 3454 土壙（第２図）

【位置】調査区北側のⅢ層上面で発見した土壙である。

【重複】ＳＤ 3458 と重複し、それよりも新しい。

【平面形・規模】平面形は東西に僅かに長い楕円形であり、規模は長軸 2.1 ｍ、短軸約 1.9 ｍである。

【壁・底面】未掘のため不明である。

【埋土】炭化物が混入する黒褐色土（2.5Y3/1）であり、にぶい黄色粘質土が僅かに混入している。

【遺物】検出面から土師器坏（ＢＶ類）・高台付坏・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏・甕が出土している。このうち土師器坏ＢＶ類は、口径 12.9 ㎝、底径 6.6 ㎝、器高 4.7 ㎝である。底部から体部にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は体部上位の屈曲部を境に外反気味に立ち上がっている。底径／口径比は 51.16、器高／口径比は 36.4 である。

【年代】前述の土師器坏は、９世紀半ば以降と考えられる。

ＳＫ 3455 土壙（第２図）

【位置】調査区南側のⅢ層上面で発見した土壙である。

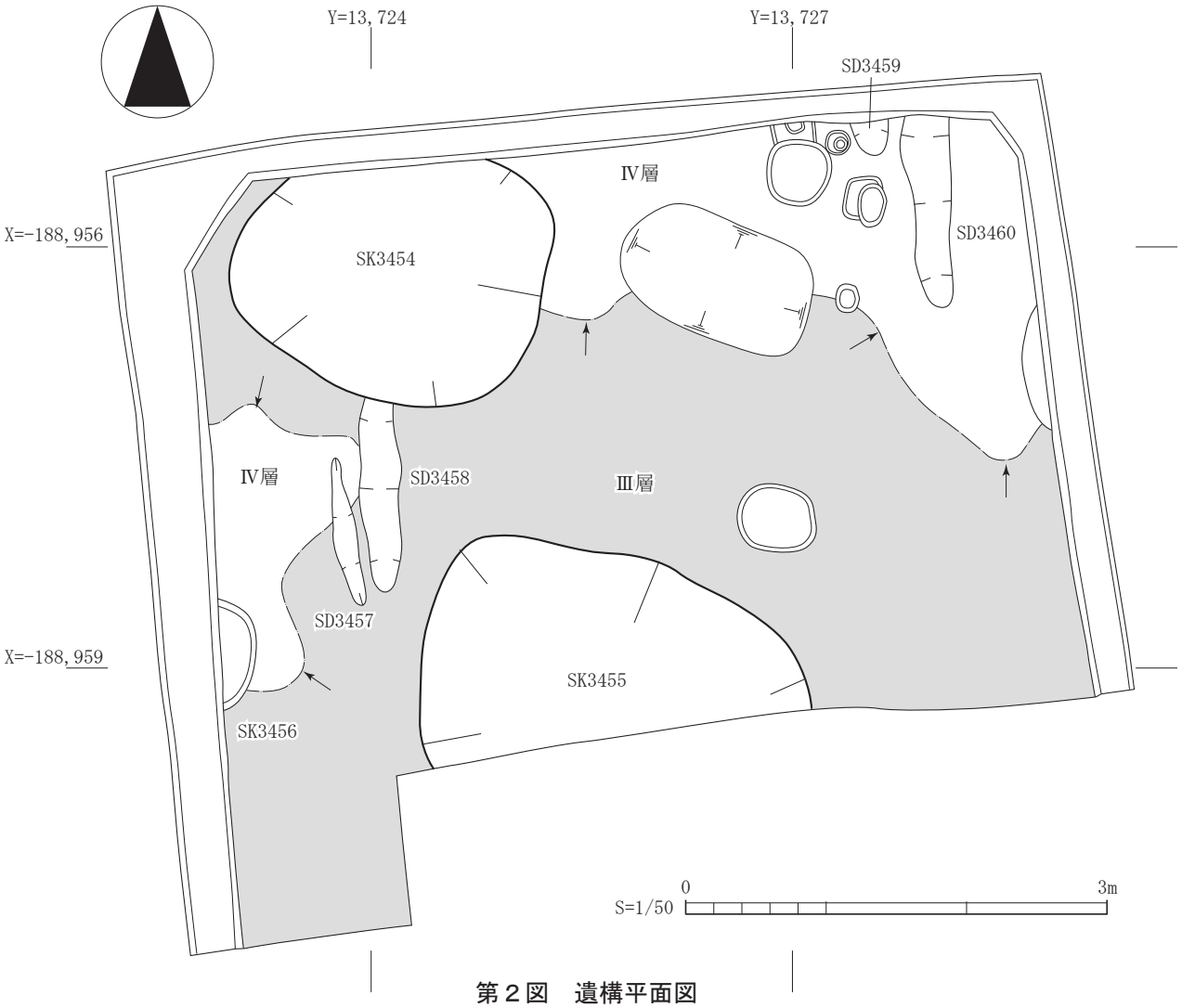
【重複】他の遺構との重複はない。

【平面形・規模】平面形は東西に長い楕円形と推測される。規模は長軸約 2.8 ｍ、短軸約 1.7 ｍである。

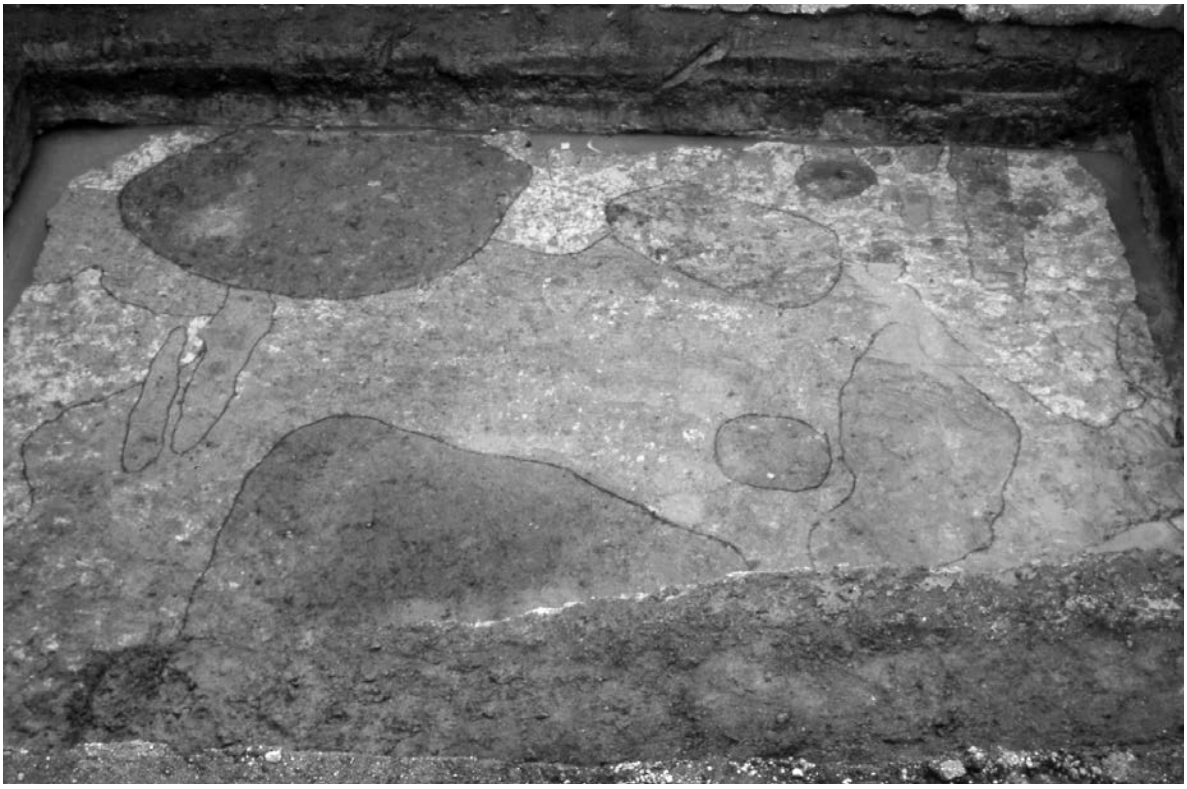
【壁・底面】未掘のため不明である。

【埋土】黒褐色土（2.5Y3/1）で、にぶい黄色粘質土ブロックが少量混入している。

【遺物】出土していない。



第２図　遺構平面図



調査区全景（南から）

市川橋遺跡第 85 次調査

1　要項

調 査 地　城南二丁目２－６

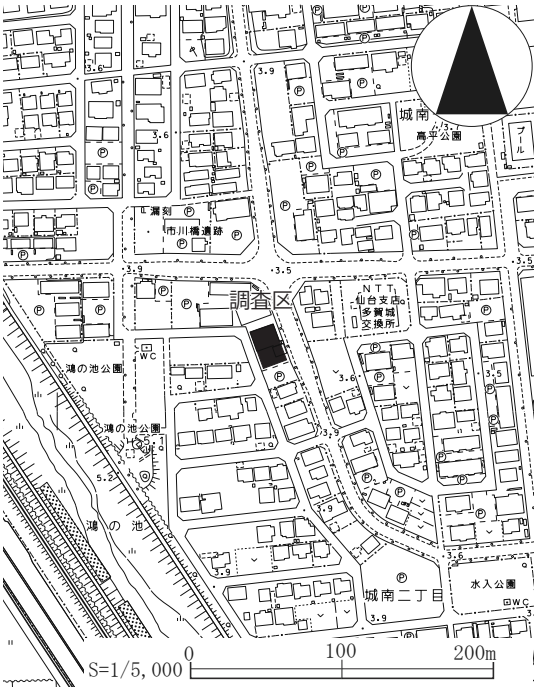
調査原因　個人住宅新築

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 24 年４月 25 日～５月 26 日

対象面積　536.90 ㎡

調査面積　96 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

4/25　重機による表土掘削

4/27　調査区内の環境整備

4/28　遺構検出作業開始（～ 5/23）

　　個別遺構の写真撮影

5/23　遺構平面・断面図作成（～ 5/24）

5/26　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（１）層序（第４図）

Ⅰ　層：現代の盛土及び旧水田層である。

Ⅱ　層：灰白色火山灰の自然堆積層を境に、上層のⅡ１層と、下層のⅡ２層に区分した。

整地層：Ⅱ層下に広範囲に認められる。黒褐色粘質土（10YR3/1）や灰黄褐色砂質土（10YR4/2）、灰色砂質土（5Y4/1）が主体であり、西壁では厚さ 50 ㎝に達する。南北方向の河川と推測されるＳＸ 3600 埋土上面を整地したものと推測される。

Ⅲ　層：灰黄褐色砂質土（10YR4/2）及び褐色粘質土（10YR4/4）であり、本地区周辺の最終遺構検出面（地山）である。

（２）発見遺構と遺物

掘立柱建物跡や溝跡、土壙を発見した。これら遺構は、調査区中央から北東側にかけて堆積する整地層上面で検出したものと、整地層が存在しない南西部で検出したものがある。遺構埋土の掘下げは原則行っていないことから、遺構からの出土遺物は少ないが、上面を覆うⅡ層から多量の土師器・須恵器が出土している。

発見した遺構の年代は、いずれも灰白色火山灰層の下層検出であることから、10 世紀前葉以前であることは明らかであるが、詳細な時期区分について明らかにすることはできなかった。

第２図　遺構平面図

ＳＢ 3584 掘立柱建物（第３図）

【位置】調査区北西部で発見した建物跡である。

【桁行・梁行】２基の柱穴（Ｐ７・８）から推測したものであり、柱穴の配置から建物の南東隅部分であると判断した。

【重複】ＳＢ 3585 ～ 3587 と重複するが、新旧関係は不明である。

【柱痕跡・抜取穴の有無】２基の柱穴で抜取穴を確認した。

【方向・規模】方向は北で約１度西に偏しており、柱間は約 1.7 ｍである。

【掘方】いずれも方形を基調としており、規模はＰ８で測ると長辺 46 ㎝、短辺 38 ㎝である。

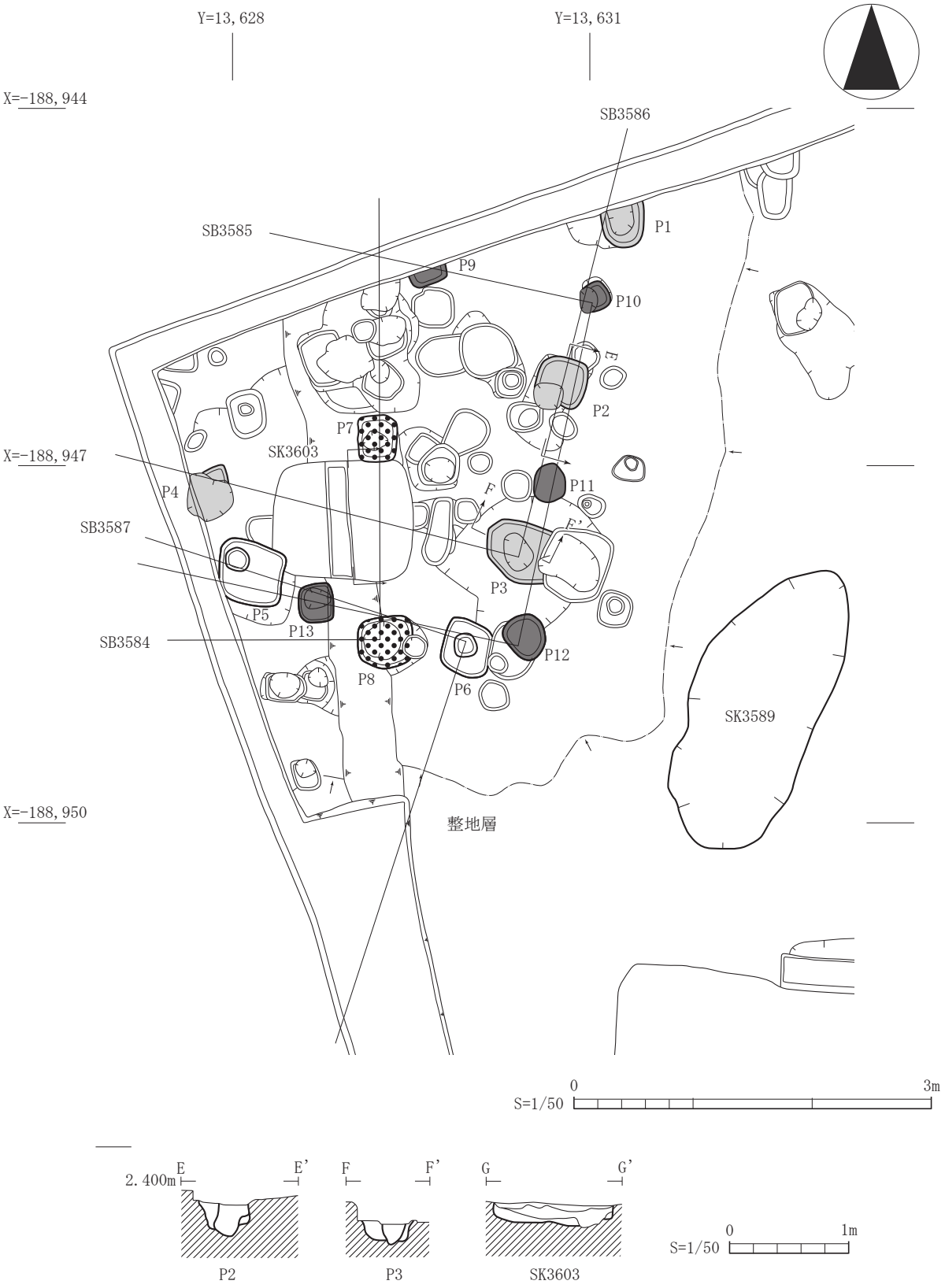
【柱抜取穴】いずれも柱穴中央部にあり、不整形を呈している。

【遺物】出土していない。

ＳＢ 3585 掘立柱建物（第３図）

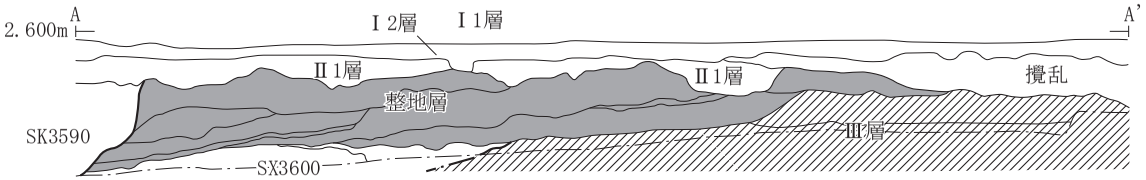
【位置】調査区北西部で発見した建物跡である。

【桁行・梁行】５基の柱穴（Ｐ９～ 13）から推測したものであり、桁行２間以上、梁行２間の東西棟と考

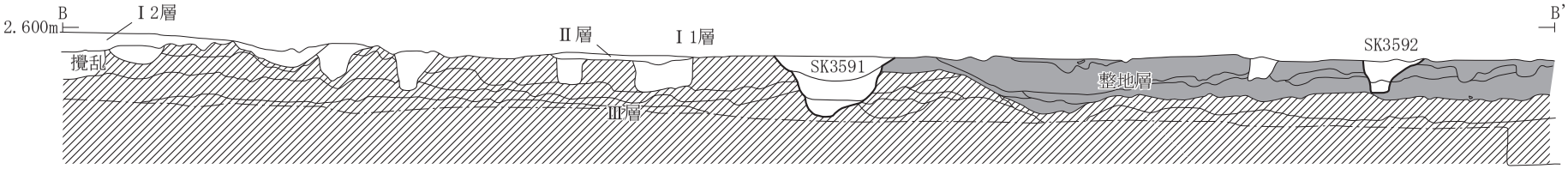


第３図　掘立柱建物跡ほか平面・断面図

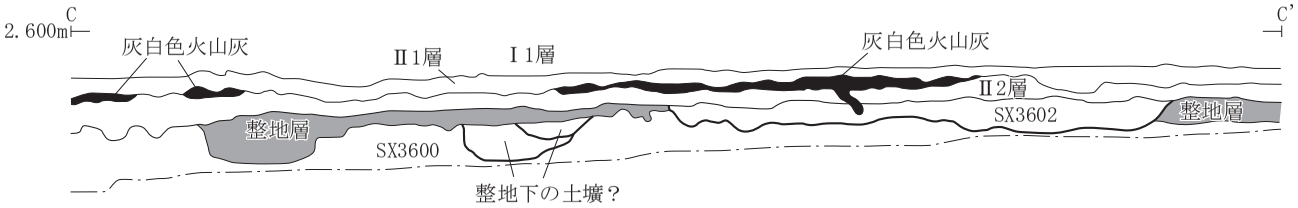
【西壁】



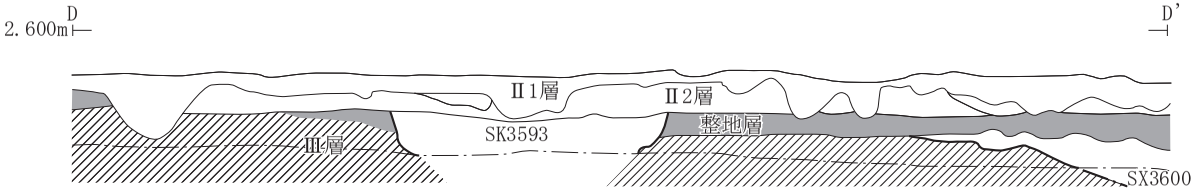
【北壁】

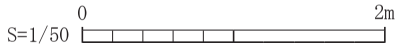


【南壁】



【東壁】





第４図　調査区壁面断面図

えられ、建物の東妻部分であると判断した。
【重複】ＳＢ 3584・3586・3587 と重複するが、新旧関係は不明である。
【柱痕跡・抜取穴の有無】Ｐ 10・13 で抜取り穴を確認した。
【方向・規模】方向は東妻で測ると、北で約 11 度東に偏している。規模は東妻で総長約 2.9 ｍ、柱間は南から約 1.3 ｍ、約 1.6 ｍであり、南側柱列では約 1.7 ｍである。
【掘方】Ｐ 11・12 が楕円形、それ以外は方形を基調としている。規模は方形のＰ 13 で測ると長辺 33 ㎝、短辺 30 ㎝である。
【柱抜取穴】いずれも不整形を呈しており、Ｐ 10 では柱穴西側を大きく破壊している。
【遺物】出土していない。

ＳＢ 3586 掘立柱建物（第３図）
【位置】調査区北西部で発見した建物跡である。
【桁行・梁行】４基の柱穴（Ｐ１～４）から推測したものであり、東西２間以上、南北２間以上の建物と考えられる。柱穴の配置から建物の南東部分であると判断した。
【重複】ＳＢ 3584・3585・3587 と重複するが、新旧関係は不明である。
【柱痕跡・抜取穴の有無】すべての柱穴で抜取り穴を確認した。
【方向･規模】方向は東側柱列で測ると、北で約 14 度東に偏している。規模は東側柱列で総長 3.1 ｍ以上、柱間は南から約 1.4 ｍ、約 1.7 ｍであり、南側柱列では約 2,6 ｍである。
【掘方】概ね方形を基調としており、規模はＰ２で測ると長辺 42 ㎝、短辺 40 ㎝である。埋土は黒褐色粘質土（10YR3/1）であり、Ⅲ層起因の褐色粘質土（10YR4/4）が多く混入している。
【柱抜取穴】いずれも不整形を呈しており、Ｐ４では柱穴東側の一部を残し大きく破壊している。
【遺物】出土していない。

ＳＢ 3587 掘立柱建物（第３図）
【位置】調査区北西部で発見した建物跡である。
【桁行・梁行】２基の柱穴（Ｐ５・６）から推測したものであり、東西２間以上の建物跡と考えられる。柱穴の配置から建物の北東部分であると判断した。
【重複】ＳＢ 3584 ～ 3586 と重複するが、新旧関係は不明である。また、建物跡の南延長に整地層があり、この上面では柱穴を検出していないことから、整地層よりも古い建物跡と考えられる。
【柱痕跡・抜取穴の有無】すべての柱穴で抜取り穴を確認した。
【方向・規模】方向は北側柱列で測ると西で 20 度 13 分北に偏しており、柱間は 2.06 ｍである。
【掘方】方形を基調としており、規模はＰ５で測ると長辺 56 ㎝、短辺 52 ㎝である。
【柱抜取穴】概ね円形であり、直径は約 20 ㎝である。
【遺物】出土していない。

ＳＢ 3588 掘立柱建物（第２図）
【位置】調査区北東部の整地層上面で発見した建物跡である。

【桁行・梁行】３基の柱穴（Ｐ 14 ～ 16）から推測したものであり、東西・南北ともに２間以上の建物跡と考えられる。柱穴の配置から建物の南西部分であると判断した。
【重複】ＳＢ 3615 と重複するが、新旧関係は不明である。
【柱痕跡・抜取穴の有無】すべての柱穴で抜取り穴を確認した。
【方向・規模】方向は南側柱列で測ると東で約３度北に偏しており、柱間は南側柱列で約２ｍ、西側柱列で約 1.8 ｍである。
【掘方】概ね方形を基調としており、規模は南西隅柱穴で測ると一辺 38 ㎝である。
【柱抜取穴】不整形であり、いずれも柱穴を大きく破壊している。
【遺物】出土していない。

ＳＢ 3615 掘立柱建物（第２図）
【位置】調査区北東部の整地層上面で発見した建物跡である。
【桁行・梁行】５基の柱穴（Ｐ 17 ～ 21）から推測したものである。西側に庇のある、東西・南北ともに２間以上の建物跡と考えられる。柱穴の配置から建物の南西部分であると判断した。
【重複】ＳＢ 3588 と重複するが、新旧関係は不明である。
【柱痕跡・抜取穴の有無】すべての柱穴で、柱痕跡状の抜取り穴を確認した。
【方向・規模】方向は南側柱列で測ると東で約３度北に偏しており、柱間は南側柱列で約 1.6 ｍ、西側柱列で約 1.7 ｍである。西廂の出は約 0.7 ｍである。
【掘方】方形又は楕円形を基調としており、規模は方形の南西隅柱穴で測ると一辺 25 ㎝、楕円形の P20 で測ると長軸 25 ㎝である。
【柱抜取穴】円形を呈するものが多く、直径は約 15 ㎝である。
【遺物】出土していない。

調査区全景（北東から）

市川橋遺跡第 88 次調査

1　要項

調 査 地　城南一丁目８－３

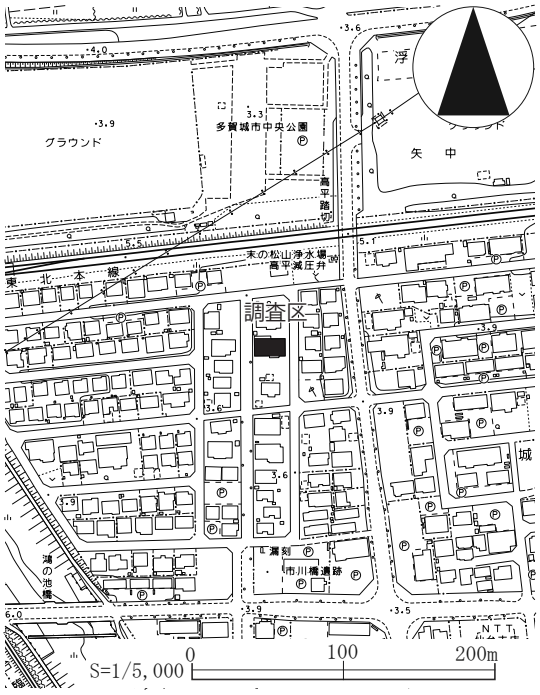
調査原因　個人住宅建築

調査担当　武田健市　村上詩乃　城口貴彰

調査期間　平成 26 年２月 13 日～同年２月 27 日

対象面積　200 ㎡

調査面積　60.7 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

2/14　重機による表土掘削、調査器材搬入
　　排水用の側溝断面で層序確認（Ⅰ層表土以下、Ⅵ層確認）

2/17　作業休止（～ 2/19）

2/20　ＳＤ 3604 溝跡ほか遺構精査
　　ＳＤ 3604 溝跡埋土一部掘下げ

2/21　調査区全景写真撮影、平面・断面図作成開始

2/25　測量基準点移動、調査区壁面の断面図作成、調査器材搬出

2/27　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

本調査では、オリーブ褐色粘質土（Ⅱ層）上面で溝跡を発見した。

（１）層序（第２図）

Ⅰ層：城南地区区画整理前（平成時代まで）の水田層

Ⅱ層：炭化物粒がわずかに混入するオリーブ褐色粘質土（2.5Y4/3）である。厚さは５～ 12 ㎝であり、ＳＤ 3604 Ｂの検出面である。なお、Ⅱ層はＳＤ 3604 Ａの埋土と一連であることから、洪水等によって生じた堆積物と考えられる。

Ⅲ層：炭化物粒がわずかに混入する暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y3/3）であり、底面は起伏が著しい。厚さは４～ 15 ㎝であり、ＳＤ 3404 Ａの検出面であるとともに、一部柱抜取り穴の埋土となっている。

Ⅳ層：炭化物やオリーブ褐色砂質土（Ⅴ層）、黒色粘土（5Y2/1）が多量に混入する黒褐色粘質土（2.5Y3/2）である。厚さは８～ 14 ㎝であり、ＳＸ 3606 埋土となっている。

Ⅴ層：北壁で僅かに確認できる、炭化物粒が若干混入する暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y3/3）である。

Ⅵ層：オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）であり、周辺地区の最終遺構検出面である。

（２）発見遺構と遺物

ＳＤ 3604 溝跡（第２図）

【位置】調査区西端で発見した、南北方向の溝跡である。

【変遷】Ⅱ層を介在し、２時期（Ａ→Ｂ期）の変遷がある。Ａ期はⅢ層上面、Ｂ期はⅡ層上面が検出面である。

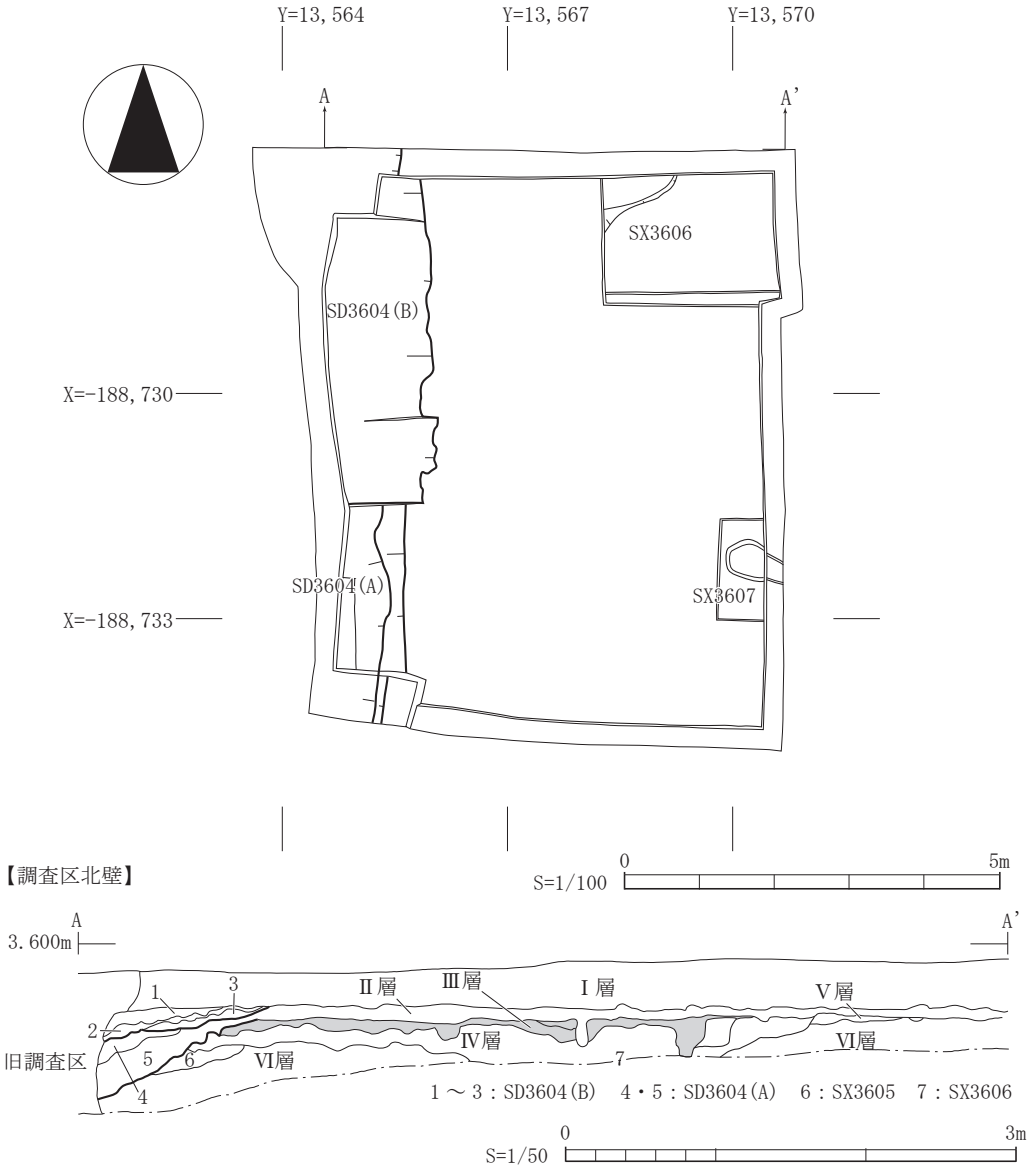
【重複】他の遺構との重複はない。

【規模】長さ 7.7 ｍ以上、上幅はＡ期が１ｍ以上、Ｂ期が 1.4 ｍ以上である。深さは西壁付近でＡ期が 52 ㎝以上、Ｂ期が 25 ㎝以上であるが、さらに西に向かって深くなっている。

【壁・底面】Ａ・Ｂ期ともに緩やかに立ち上がっている。

【埋土】Ａ期が２層（第２図【調査区北壁】４・５層）、Ｂ期が３層（第２図【調査区北壁】１～３層）に細分することができる。

Ａ期４層は黒色粘土（2.5Y2/1）とオリーブ褐色粘質土（2.5Y4/3）が主体であり、焼土が混入する。５



第２図　遺構平面・断面図

層はⅡ層と同一である。

Ｂ期１～３層は黒色及び黒褐色粘土（2.5Y2/1・2.5Y3/1）が主体である。このうち３層には焼土が混入している。

【遺物】Ｂ期最上層の黒色粘土から、須恵器坏、平瓦ⅡＡａ類、丸瓦Ⅱ類のほか、多量の須恵系土器坏・高台付坏の小片が出土している。

【年代】須恵系土器の小片には小型の坏・皿も認められることから、10 世紀以降でも新しい時期のものと考えられる。

写真図版

調査区全景（南から）

市川橋遺跡第 89 次調査

1　要項

調 査 地　城南二丁目 17 － 1 ・20

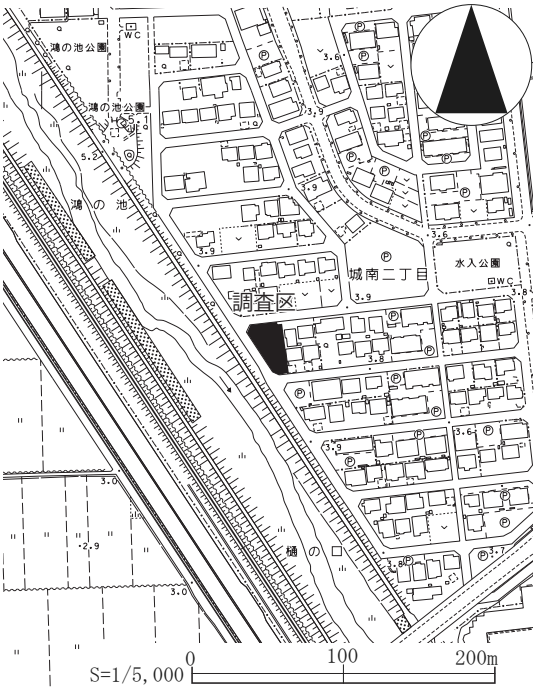
調査原因　個人住宅新築

調査担当　石川俊英

調査期間　平成 26 年 9 月 18 日～ 10 月 10 日

対象面積　735.85 ㎡

調査面積　16 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

9/18　重機による表土掘削、調査機材搬入

9/26　調査区内環境整備、遺構検出作業（～ 10/1）

10/1　遺構平面・断面図作成（～ 10/7）

10/2　調査区全景写真撮影

10/8　調査機材搬出

10/10　重機による調査区内埋戻し

3　調査成果

(1) 層序（第 2 図）

Ⅰ層：厚さ 2.5 mにも達する現代の盛土層（Ⅰ 1 層）と、厚さ約 20 ㎝の旧水田耕作土（Ⅰ 2 層）に分けられる。

Ⅱ層：砂粒が混入する黒褐色砂質土（10YR3/2）であり、厚さは約 10 ㎝である。

Ⅲ層：暗緑灰色砂質土（7.5GY4/1）であり、厚さは約 20 ㎝である。本遺跡周辺で認められる最終遺構検出面（地山）であり、にぶい黄色土がグライ化したものと考えられる。

(2) 発見遺構と遺物

今回の調査では、Ⅲ層上面で溝跡と土壙を確認している。

ＳＤ 3610 溝跡（第 2 図）

【位置】調査区中央部を縦断する南北方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 3608・3609・3611 と重複し、それらよりも新しい。

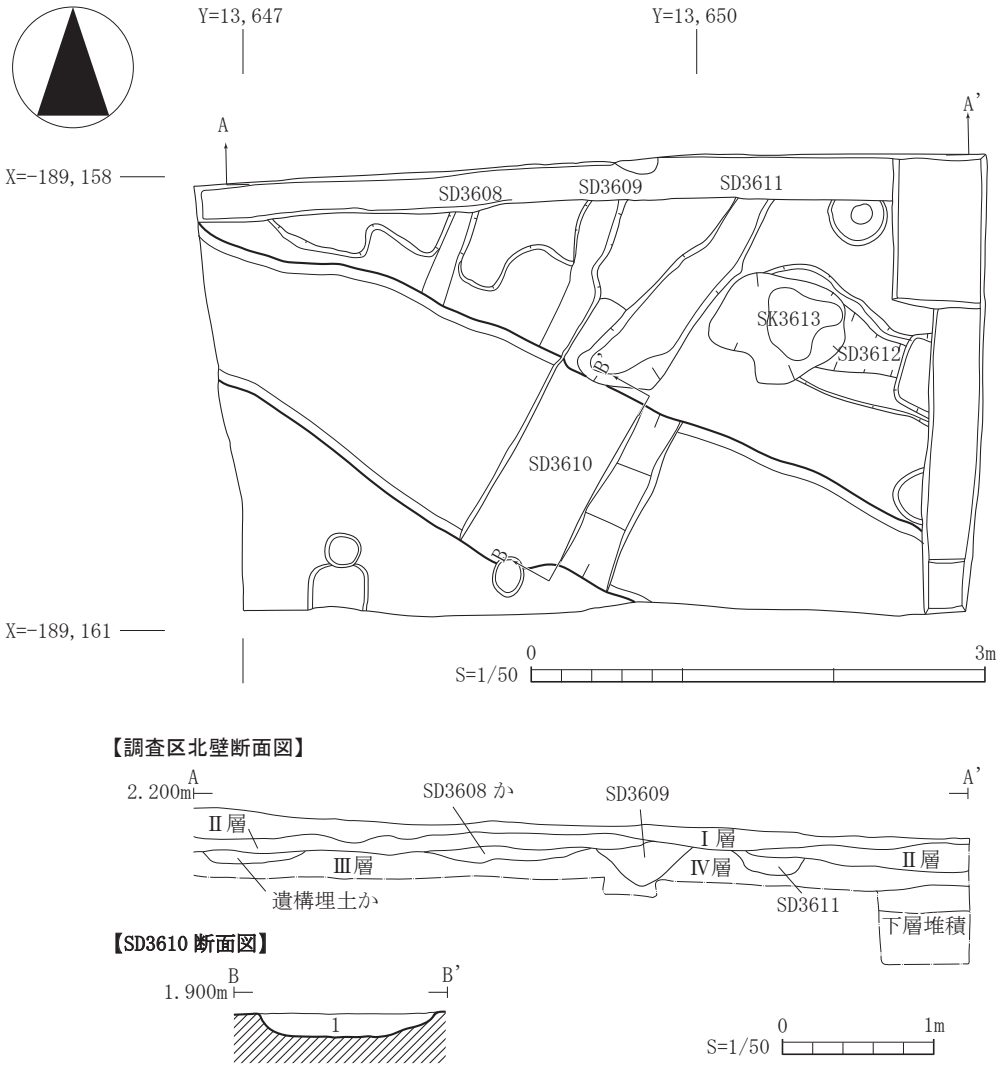
【方向・規模】方向は、西で約 25 度北に偏している。規模は、全長５ｍ以上、上幅約 1.2 ｍであり、一部埋土を掘下げた中央部でみると、下幅約 70 ㎝、深さは 18㎝ である。

【壁・底面】壁は緩やかに傾斜しながら立ち上がり、底面は平坦である。

【埋土】オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）で暗緑灰色砂質土ブロックが混入している。

【遺物】埋土中から土師器・甕（Ａ類）、須恵器甕、須恵系土器坏が出土している。

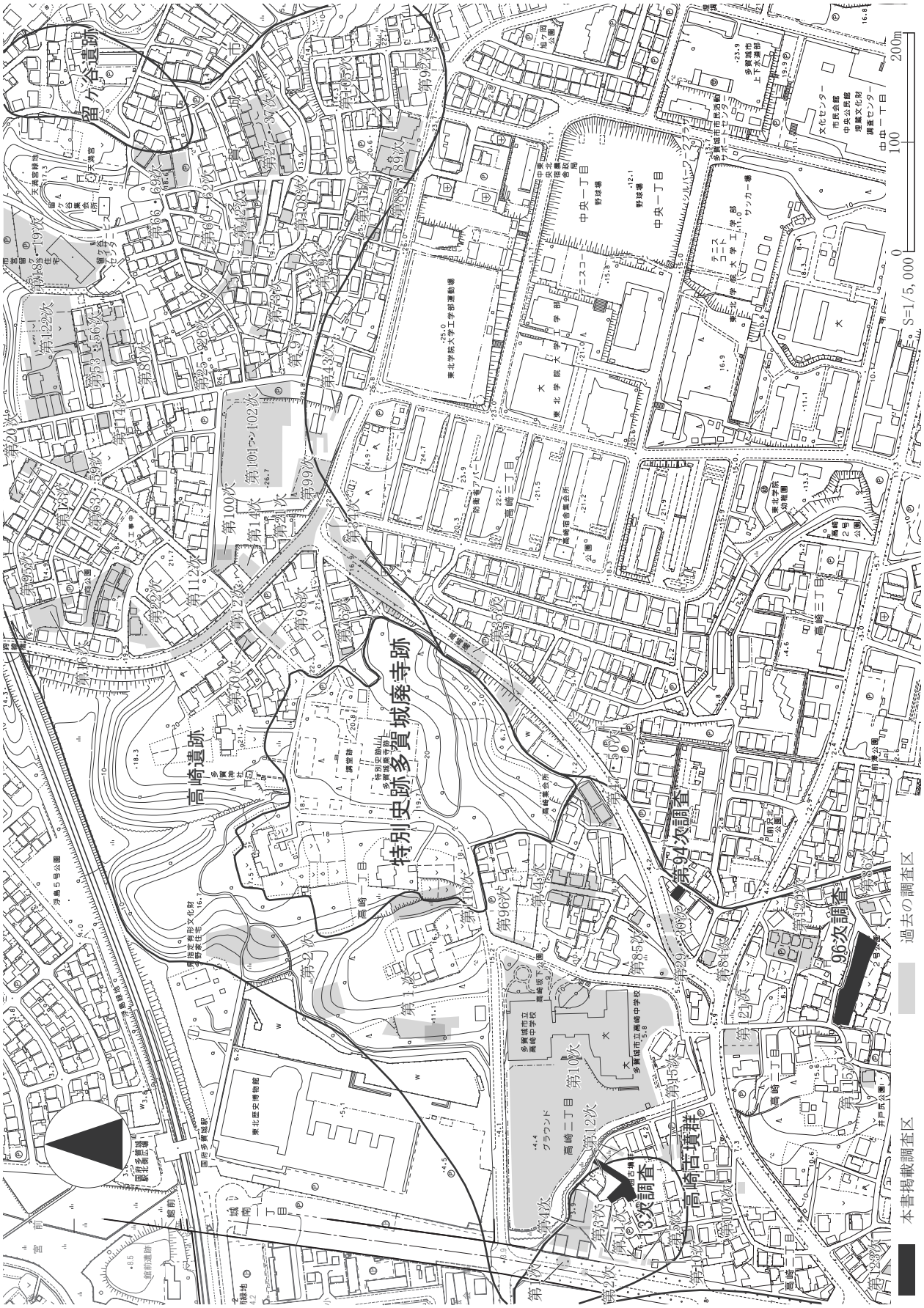
【年代】須恵系土器が出土していることから、10 世紀前葉以降に埋没したものと考えられる。



第２図　遺構平面・断面図

写真図版

調査区全景（北西から）



留ケ谷遺跡
高崎遺跡
特別史跡多賀城廃寺跡
第94次調査
96次調査
13次調査
高崎古墳群
本書掲載調査区
過去の調査区
S=1/5,000
0
100
200m

高崎遺跡調査区位置図

高崎遺跡第 92 次調査

1　要項

調 査 地　留ケ谷１丁目 22 － 18

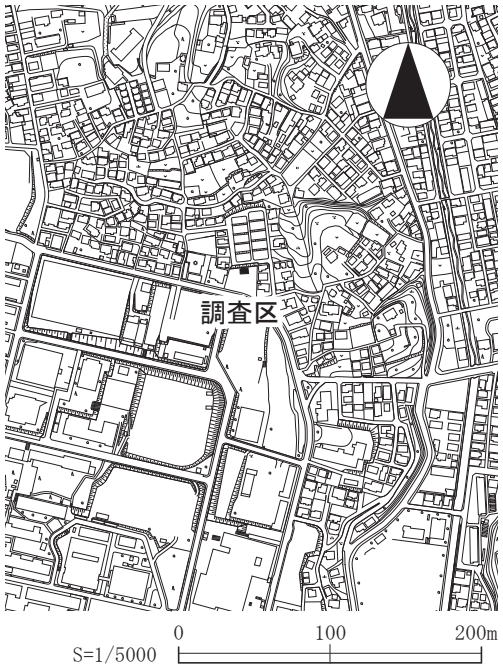
調査原因　個人住宅新築に伴う擁壁設置

調査担当　相澤清利

調査期間　平成 24 年２月 16 日

対象面積　198.62 ㎡

調査面積　 7 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

２月 16 日に重機による表土掘削を行うとともに、調査器材を搬入。直ちに遺構検出作業、遺構写真撮影、図面作成を行い、同日のうちに重機による調査区埋戻しと調査器材搬出を終了した（調査終了)。

3　調査成果

本地区では、昭和 17 年に竣工した旧日本軍の海軍工廠関連施設である「無線送信所用地」に位置している。平成 23 年に実施した第 88 次調査では、切石や煉瓦、コンクリートで囲われた地下埋設施設の痕跡を、約 38 ｍにもわたり検出したほか、地下埋設施設と並行するＳＢ 1736 基礎コンクリート建物跡を発見した。

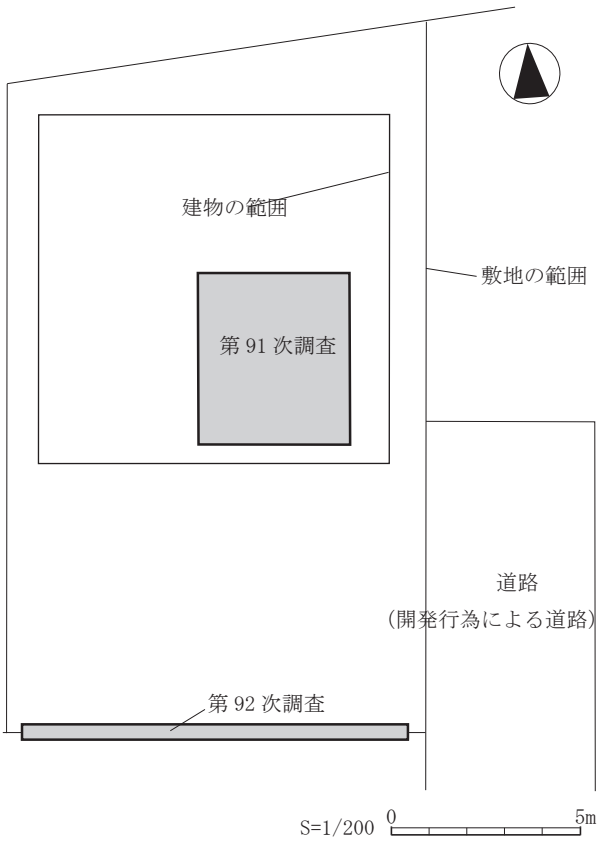
本調査区は、第 88 次調査ＳＢ 1736 の西延長線上に位置しており、建物北西隅を確認した。

（１）層序

Ⅰ層：現代の盛土層である。

Ⅱ層：現在の整地層であり、厚さは約 10 ㎝である。

Ⅲ層：炭化物粒と黄褐色土粒が混入する暗褐色土（10YR3/3）である。第 88 次調査の成果同様、整地層と考えられる。昭和時代の遺構検出面である。

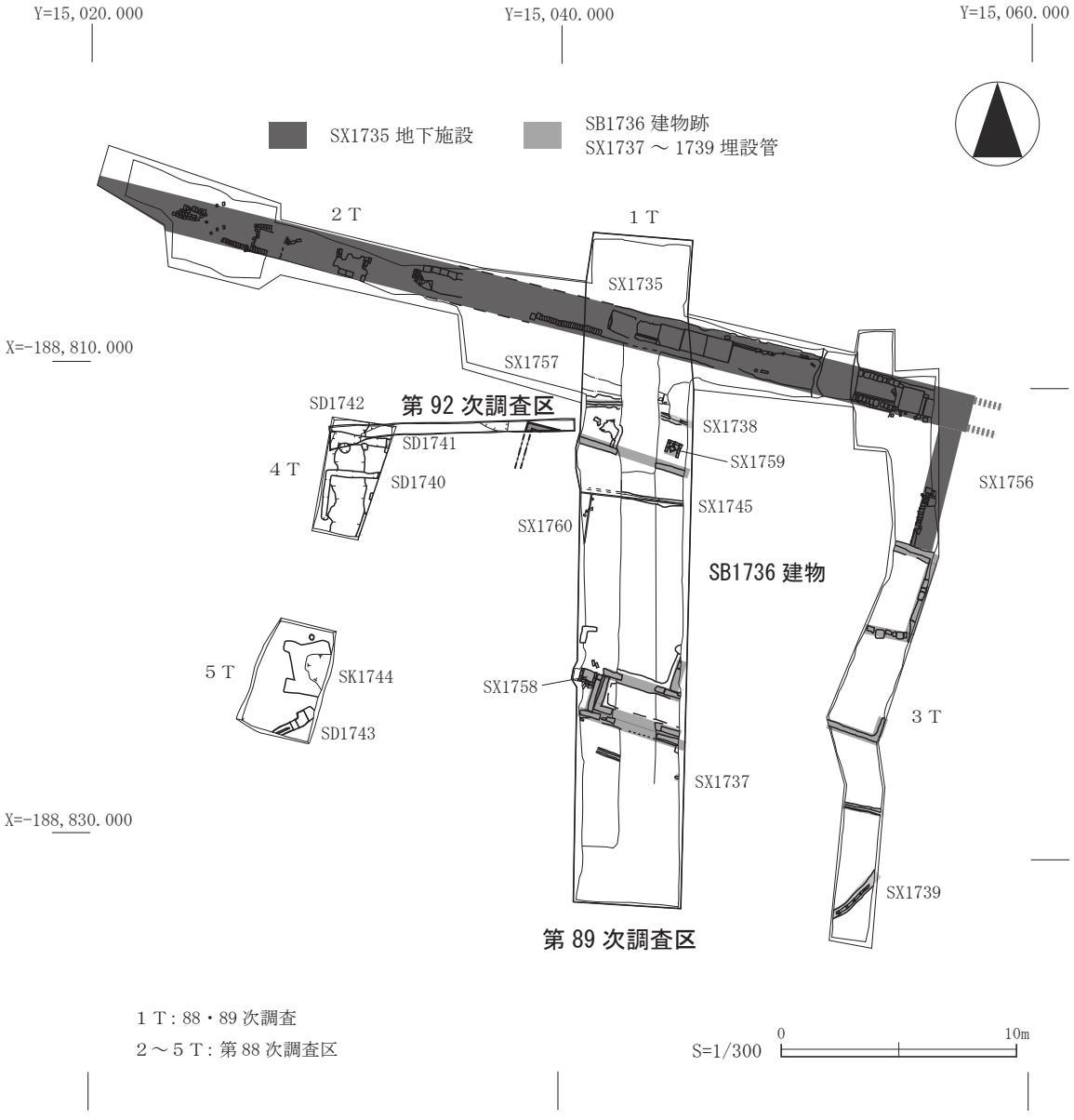


第２図　調査区配置図

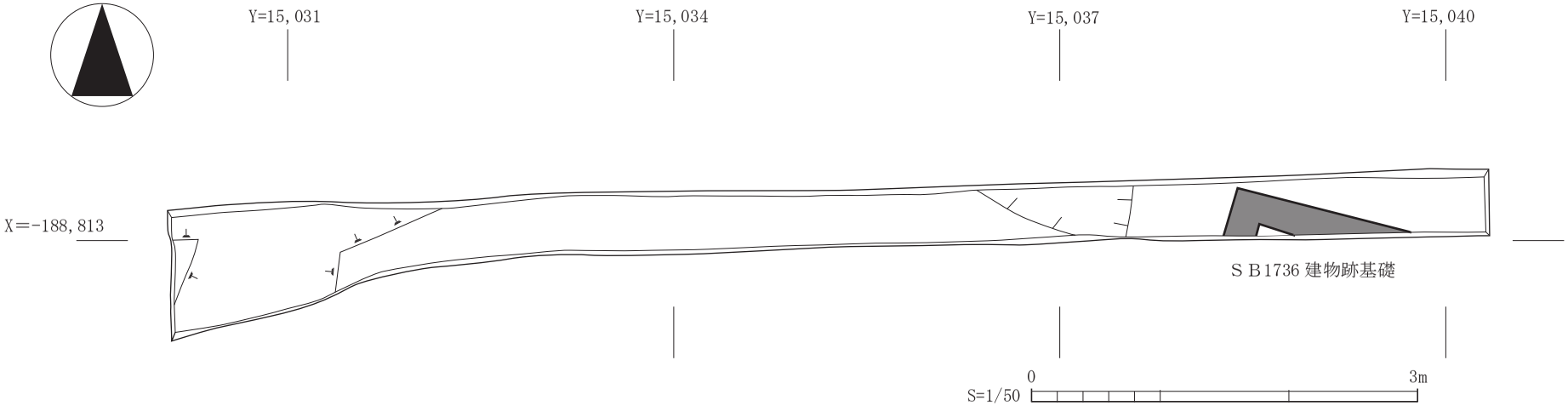
（２）発見遺構と遺物

ＳＢ 1736 建物跡（第３・４図）

調査区北東部で発見した基礎コンクリートの建物跡である。東側に接する第 88 次調査の成果より、ＳＢ 1736 の北西隅にあたることが明らかである。本調査の成果と合わせると、建物の規模は東西約 18.5 m、南北約 10 mであったことが判明した。



第４図　第 92 次調査区と周辺の検出遺構全体図



第４図　検出遺構平面図

写真図版

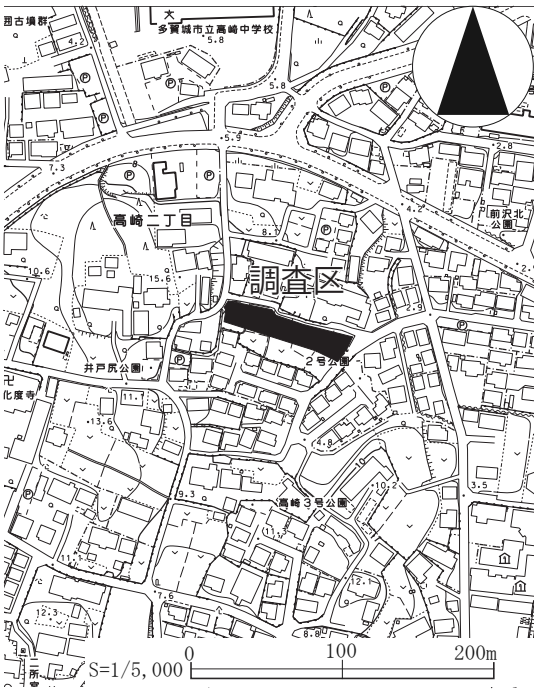
調査区全景（東より）

ＳＢ1736 建物跡基礎（北より）

高崎遺跡第96次調査

１　要項

調 査 地　高崎２丁目35－１、35－２、36－２、42－２
調査原因　共同住宅建設工事
調査担当　宮﨑正裕・板垣泰之
調査期間　平成24年６月20日～平成24年９月25日
対象面積　2370.13㎡
調査面積　900㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

6/20　重機による掘削（Ⅰ区）、調査器材搬入（～6/27）
6/26　遺構検出作業（～6/28）
7/3　重機による掘削（Ⅱ区）、遺構検出作業（～7/4・7/10）
7/2　遺構精査、遺構断面写真撮影、遺構断面図作成
遺構全景写真撮影、平面図作成（～9/25）
9/10　全景写真撮影、断面写真撮影（～9/19）
9/18　器材撤収（～9/25）
9/19　埋め戻し（～9/25）（調査終了）

３　調査成果

（１）層序（第４・７図）

［Ⅰ区（西区）］（第４図）

Ⅰ層：表土。赤褐色シルト（5Y4/6）～黒褐色シルト（10YR3/2）層。厚さは、10～40cm。
Ⅱａ層：黄灰色砂質シルト（2.5Y6/1）、黄色土ブロックが混じる。厚さは、約10cmである。
Ⅱｂ層：褐灰色シルト（10YR4/1）で、黄色土ブロックが混じる。厚さは10～30cmである。当層の上面が遺構検出面で、柱穴・土壙等の遺構が確認された。
Ⅲａ層：黄色シルト（2.5YR8/6）、厚さは、10～15cmである。
Ⅲｂ層：Ⅲａ層に対応する層、西側壁面で確認された。当層の上面が遺構検出面で、溝跡などの遺構が確認されている。
Ⅲｃ層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）層。厚さは、10～30cmである。
Ⅲｄ層:褐灰色シルト（10YR5/1）層。厚さは､10～15cmである。Ⅲｃ層の下層､西側に部分的に認められる。
Ⅳ層：にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）で、厚さは、10～20cm以上である。

［Ⅱ区（東区）］（第７図）

Ⅰ層：表土。灰褐色砂質シルト（5YR4/2）～にぶい赤褐色砂質土（5YR4/4）層。厚さは、20～40cm。

Ⅱ層：黒褐色粘質土である。
Ⅲ層：西側壁面で確認された。黄褐色砂（2.5Y5/3）。当層の上面が第１遺構検出面となる。
Ⅴ層：オリーブ色シルト（5Y5/4）。当層の上面が第３遺構面となる。
Ⅵ層:上層は暗赤褐色土(5YR3/4)、下層はにぶい黄色(2.5Y6/4)土となる。当層の上面が第４遺構面となる。
Ⅶ層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）、地山。
Ⅷ層：にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）、地山。

（２）発見した遺構と遺物

Ⅰ区の遺構

Ⅰ区で確認された遺構について、内容を述べる。

掘立柱建物跡２棟（ＳＢ1817・1818)、井戸跡１棟（ＳＥ1819)、溝跡２条（ＳＤ1820・1821)、土壙、ピット群を検出した。

ＳＢ1817掘立柱建物跡（第３図）

【位置】調査区北端、Ⅱｂ層上面で検出された。
【規模】南北１間以上、東西２間の建物と考えられ、北側は調査区外に伸びる。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】４基の柱穴を確認した。Ｐ２、３に柱痕跡がある。Ｐ１、４に抜き取り穴がある。
【重複】重複は無い。
【方向・柱間】方向は、南側柱列で計ると東で13度北に偏している。柱間は、南側柱列で西から約2.3m、約2.7mで総長５ｍであり、東側柱列で約2.5mである。
【掘方】円形・隅丸方形を基調としている。規模はＰ２・Ｐ３で測ると、長辺40cm、短辺35cm、Ｐ１で深さ32cmである。埋土はＰ２が、褐灰色土(10YR4/1)、Ｐ３が暗灰黄色土(2.5Y5/2)が主体である。

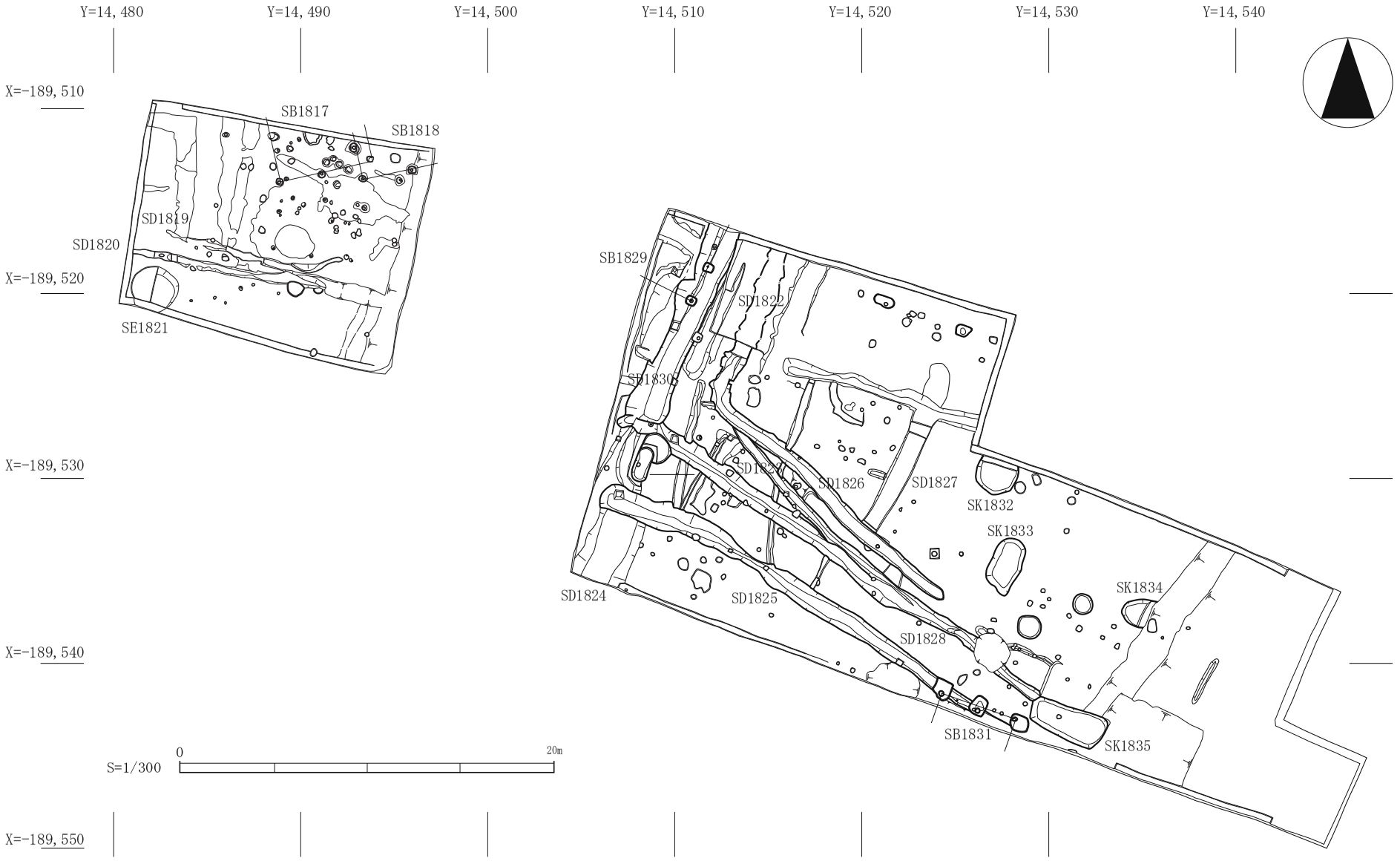
ＳＢ1818掘立柱建物跡（第３図）

【位置】調査区北端、Ⅱｂ層上面で検出された。
【規模】桁行１間以上、梁行１間以上の建物と考えられ、北側・東側は調査区外に伸びる。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】３基の柱穴を確認した。Ｐ６、Ｐ７に柱痕跡がある。Ｐ５に抜き取り穴がある。
【重複】重複は無い。
【方向・柱間】方向は、南側柱列で計ると東で12度北に偏している。南側柱列で約2.7m、東側柱列で、約1.7mである。
【掘方】円形･隅丸方形を基調としている。規模はＰ６･Ｐ７で測ると、長辺40cm、短辺35cm、深さはＰ９で、60cmである。埋土は灰黄褐色粘質土(10YR6/2)、暗灰色土(7.5YR5/1)などが主体である。

ＳＥ1819井戸跡（第３・５図）

【位置】調査区南西端のⅢｂ層上面で検出した。素掘りの井戸跡である。
【重複】重複は無い。
【平面形・規模】平面形は円形で、規模は直径2.5m、深さは2.0m以上である。

第２図　調査区配置図


Y=14, 480
Y=14, 490
Y=14, 500
Y=14, 510
Y=14, 520
Y=14, 530
Y=14, 540
X=-189, 510
X=-189, 520
X=-189, 530
X=-189, 540
X=-189, 550
SB1817
SB1818
SD1819
SD1820
SE1821
SB1829
SD1822
SD1830
SD1826
SD1827
SK1832
SK1833
SK1834
SD1824
SD1825
SD1828
SB1831
SK1835
S=1/300
0
20m

【壁・床面】壁は上方は緩やかに、中位より下は垂直に立ち上がる漏斗状を呈している。底面の状態は不明である。
【埋土】８層に分けられる。１層は、暗褐色粘質土を主としブロックが多く入る人為堆積層である。２層は黒褐色粘土、３層は黄褐色粘土層、４層は褐灰色粘質土層で北側と南側で内容を異とし、人為堆積層である。５層は褐灰色粘質土で、北側と南側で内容を異とする。６層は褐灰色粘質土で北側と南側で内容を異とする。７層は黒褐色砂質土、８層はにぶい黄橙土である。５～８層は自然堆積層である。
【遺物】埋土３層より、肥前系磁器（18世紀代）が出土している。
【年代】江戸時代に帰属すると考えられる。

ＳＤ1820溝跡（第３図）
【位置】調査区中央よりやや南側のⅢｂ層上面で検出した、東西方向の溝跡である。
【重複】ＳＤ1821溝跡と重複し、それよりも新しい。
【規模】規模は、長さ9.5m、上幅10 ～ 55cm、深さ約18cmである。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや丸みを帯びて窪んでいる。
【埋土】灰黄褐色シルト（10YR5/2）で、地山ブロックが混じる。

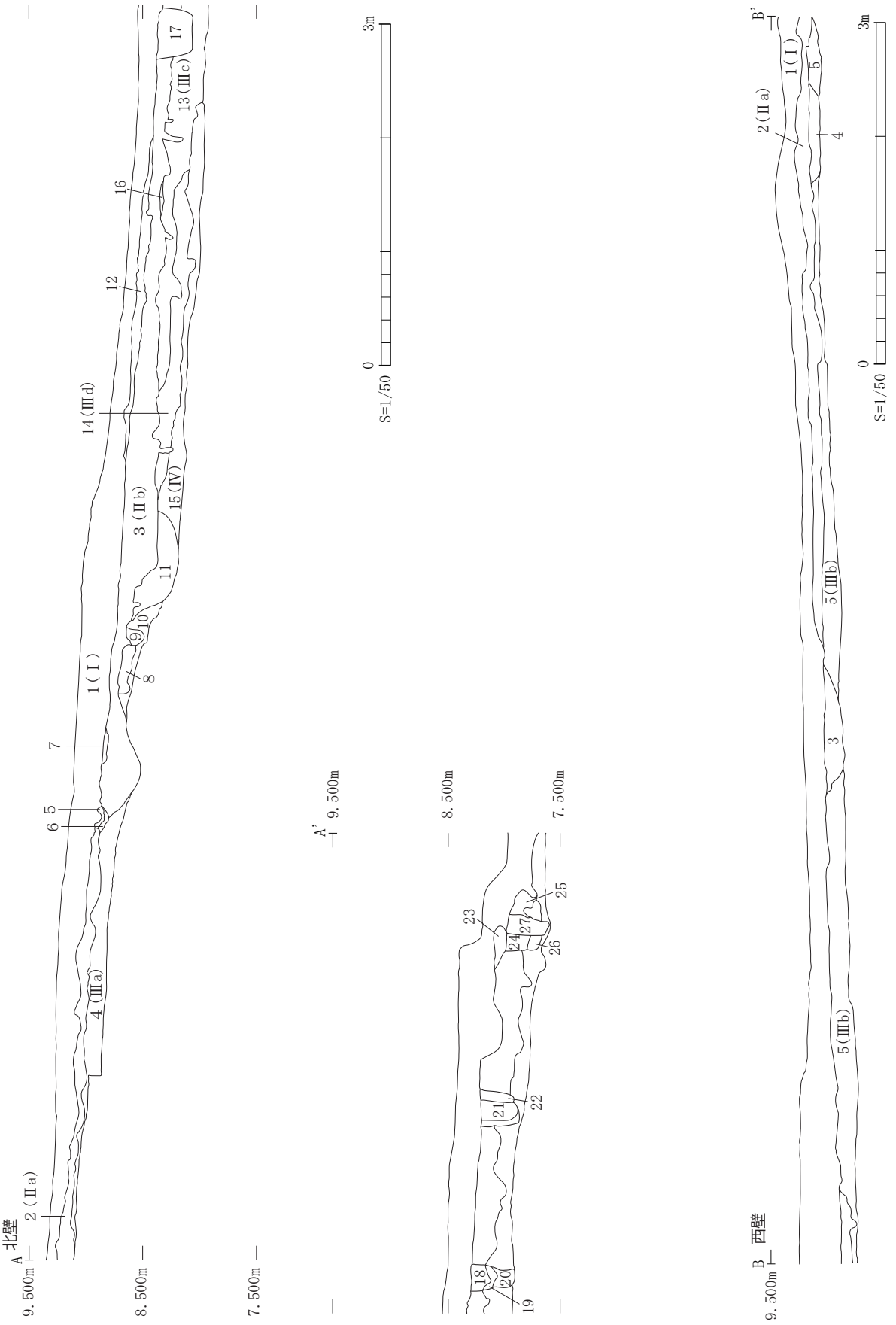
ＳＤ1821溝跡（第３図）
【位置】調査区中央よりやや南側のⅢｂ層上面で検出した、東西方向の溝跡である。
【重複】ＳＤ1820溝跡と重複し、それよりも古い。
【規模】規模は、長さ10.4m以上、上幅25 ～ 60cm、深さ約15cmである。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや丸みを帯びて窪んでいる。
【埋土】灰色シルト（N5/）で、黒色土、黄色土ブロックが混じる。

ピットは、半截して断面図を作成した９基について説明する。
Ｐ１（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。ＳＢ1817を構成する柱穴である。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は楕円形である。規模は、長軸62cm、短軸45cm、深さは35cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】２層に分かれる。１層は柱抜き取り穴埋土で、２層は掘り方埋土である。
【遺物】抜き取り穴より、土師器坏の破片などが出土している。

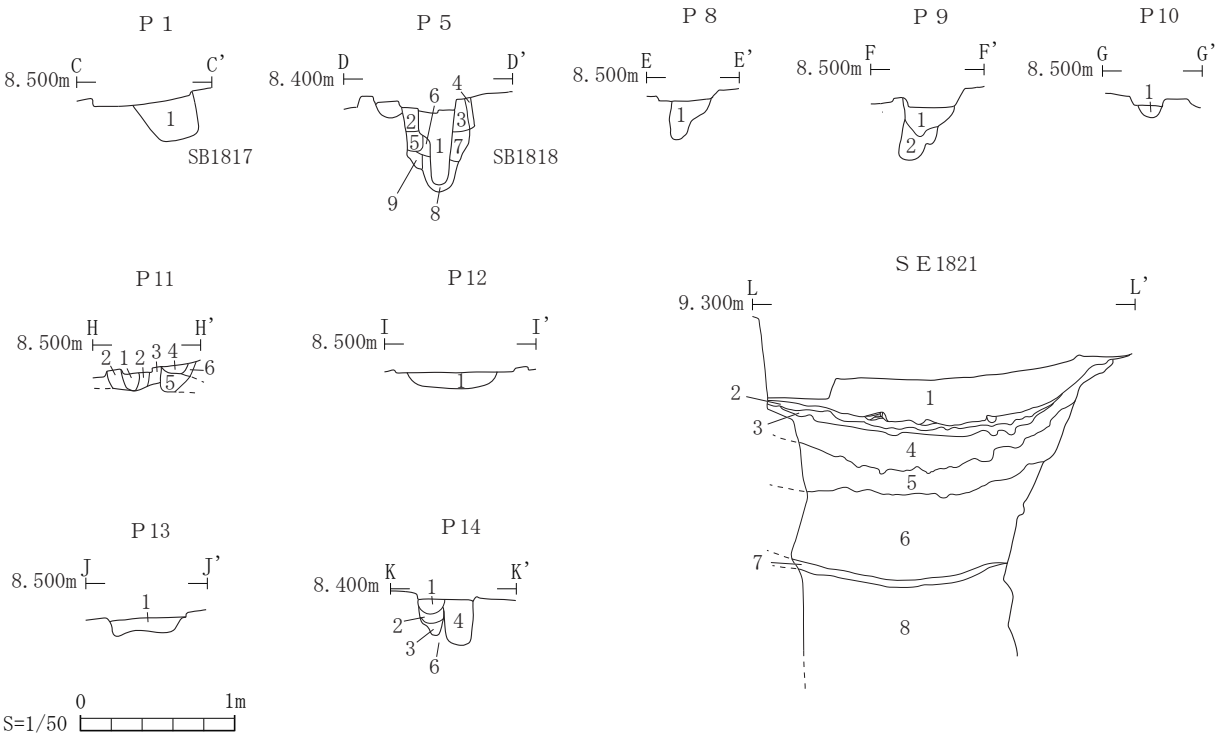
Ｐ５（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。ＳＢ1818を構成する柱穴である。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は楕円形である。規模は、長軸58cm以上、短軸46cm以上、深さは62cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はやや湾曲して立ち上がる。
【埋土】13層に分かれる。１層は柱抜き取り穴埋土で、２～ 10層は掘り方埋土である。
【遺物】土師器甕Ｂ類が出土している。

Y=14,495
Y=14,492
Y=14,489
Y=14,486
Y=14,483
X=−189,512
X=−189,515
X=−189,518
X=−189,521
SB1818
SB1817
SD1819
SD1820
SE1821
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P11
P12
P13
P14
P16
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
K
K'
L
L'
0
5m
S=1/100

第３図　Ⅰ区遺構配置図



第４図　Ⅰ区調査区断面図



第５図　Ｉ区遺構断面図

Ｉ区北壁

No.	層位	土色	土性	備考
1	1層（Ⅰ）	赤褐色（5YR4/6）	シルト	現地表茶色シルト小黄色ブロックを少し含む。
2	2層（Ⅱa）	黄灰色（2.5Y6/1）	砂質シルト	大きい黄色ブロック混じる。
3	3層（Ⅱb）	褐灰色（10YR4/1）	シルト	基本層位黄色粒混じり。溝の埋土も含む。
4	4層（Ⅲa）	黄色（2.5Y8/6）		地山、木の根等の混入物あり。
5	5層	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	
6	6層		粘質シルト	うす黄色・黄色小ブロック混じり。
7	7層	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	茶色シルト。
8	8層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	シルト	茶色シルト中央部分に斑点状に濃い茶色が混じる。
9	9層	褐色（7.5YR4/3）	シルト	茶色シルト。濃い茶色の斑点が多い。
10	10層	明黄褐色（10YR7/6）		明るめの黄色に濃い茶の斑点。斑点は主に東側に多い。
11	11層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルト	暗めの黄色シルトに茶・黒色へ斑点がつく。斑点は黒褐色（10YR3/2）。溝の覆土か。
12	12層	緑灰色（10GY5/1）	シルト	灰色シルト層。鉄を少し含んだ粒を含む。
13	13層（Ⅲc）	にぶい黄褐色（10YR5/4）	シルト	明るめの茶色シルトで濃い茶色ブロックが少ないが混じっている。にぶい黄褐色ブロックの濃さも15よりは明るい。
14	14層（Ⅲd）	褐灰色（10YR5/1）	シルト	13よりは暗い茶色シルト。こちらも茶色ブロックを含む。こちらは15層のブロックの色に近い。
15	15層（Ⅳ）	にぶい黄橙色（10YR6/4）	砂質シルト	黄色の強い濃い茶色ブロックを含む。東に行くと茶色ブロックの割合が増える。
16	16層	灰白色（10YR7/1）	砂	白い砂に黄色ブロックが混じる。
17	17層	にぶい褐色（7.5YR5/4）	砂質シルト	茶色砂質シルト。土壙。
18	18層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト	暗い灰色、黄色粒を少し含む。柱穴。
19	19層	灰白色（10YR8/1）	砂質シルト	白っぽい砂質シルトに黄色ブロックを含む。柱穴。
20	20層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂質シルト	灰色の砂質多めのシルト、少なく黄色含む。柱穴。
21	21層	オリーブ褐色（2.5Y4/3）	シルト	茶色と濃い灰が混じった均質なシルト。柱痕跡。
22	22層	褐色（10YR4/4）		明るめの茶色・黒っぽい粒が混じる。柱穴掘り方。
23	23層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	シルト	現表土よりは濃い茶色。一部炭粒が混じる。
24	24層	褐色（10YR4/4）	シルト	濃い褐灰シルトブロックが上部に下部に灰シルトが堆積する茶色層。掘り方。
25	25層	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	薄い黒に近い茶色で黒炭と黄色粒を少し含む。抜き取り穴。
26	26層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂質シルト	地山に近い灰白層。黄色ブロック混じる。掘り方。
27	27層	褐灰色（10YR5/1）	シルト	黒色シルト下は黄色のシルトが混じる。肌色の粒も少し混じる。柱穴。

Ⅰ区西壁

No.	層位	土色	土性	備考
1	1層（Ⅰ）	黒褐色（10YR3/2）		現地表砂・黒茶色。
2	2層（Ⅱa）	オリーブ褐色（2.5Y4/4）		少し明るめの茶色。こちらもほぼ均質の少し細い砂。地山ブロックを含む。。
3	3層	灰白色（10YR7/1）		灰色（7.5Y4/1）が混じる。黒と灰色の土の混ざったもの。そこに黄色ブロックが混じる。溝埋土。
4	4層	黄灰色（2.5Y4/1）	砂質シルト	溝埋土。濃い灰色。少し地山粒が混じる。溝の埋土か。
5	5層（Ⅲb）			地山黄色の土。

Ⅰ区ＳＥ1821

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	SE1821	1層	暗褐色（10YR3/3）	粘質土	締まり　強　粘性　中。にぶい黄橙色（10YR 6/3）粘質土ブロックを多く含む。明黄褐色（10YR6/8）砂質土の小ブロック、焼土を含む。人為的埋土。
2	SE1821	2層	黒褐色（10YR3/2）	粘土	締まり　強　粘性　中
3	SE1821	3層	黄褐色（10YR5/2）	粘土	締まり　強　粘性　中　まだらに明黄褐色の砂状の粒含む。
4	SE1821	4層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	締まり　強　粘性　中　黄褐色の砂状の粒をまだらに含む。北側は、灰黄褐色（10YR6/2）粘質土、締まり　強　粘性　中　灰白色（10YR8/1）の粘土状の粒を多く含む。南側は灰黄褐色（10YR5/2）粘質土、締まり　強　粘性　中　黒灰白色（3/1）の粒を多く含む。人為的埋土。
5	SE1821	5層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土	締まり　強　粘性　中　にぶい黄灰色色（10YR4/3）の粒をまだら7に含む。自然堆積層（石を含む）。北側は灰白色（10YR8/1）粘質土、締まり　強　粘性　中　全体的に白色が強い。自然堆積層（石を含む）。南側は、褐灰色（10YR5/1）粘質土、締まり　強　粘性　中　暗褐色（10YR3/3）や褐色（10YR4/6）のブロックを多数含む。炭化物わずかに含む。自然堆積層（石を含む）
6	SE1821	6	褐灰色（10YR6/1）	粘質土	締まり　中　粘性　中　黄褐色（10YR5/6）の砂状の粒をまだらに含む。自然堆積層(石を含む)。北側はにぶい黄橙色(10YR7/3)粘質土、締まり　強　粘性　中　褐色（10YR4/4）や黒褐色（10YR3/1）の粒が上層・下層に多く含まれる。自然堆積層（石を含む）。南側は褐灰色（10YR6/1）粘質土､締まり　強　粘性　中　暗褐色（10YR3/3）や黄褐色（10YR5/8）の粒が多く含まれるが、下層はや黄褐色（同）のブロックが多く含まれる。自然堆積層（石を含む）。
7	SE1821	7	黒褐色（10YR3/1）	砂質土	締まり　中　粘性　中　オリーブ灰（10Y5/2）の粒を含む。自然堆積層（石を含む）自然堆積層（石を含む）
8	SE1821	8	にぶい黄橙色（10R6/3）	粘質土	締まり　強　粘性　中　明黄褐色（10YR6/8）のブロックを多く含む（大ブロック多数）。自然堆積層（石を含む）

Ⅰ区Ｐ１・５・８～14

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	P1	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
2	P5	1層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土？	灰黄褐色（10YR5/2）が混じる。柱抜取。
3	P5	2層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土？	
4	P5	3層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質土？	
5	P5	4層	灰白色（10YR7/1）	粘質土？	
6	P5	5層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
7	P5	6層	にぶい黄褐色（10YR4/3）	粘質土？	
8	P5	7層	褐色（10YR4/4）	粘質土？	
9	P5	8層	明黄褐色（10YR7/6）	粘質土	
10	P5	9層	褐色（10YR4/4）	粘質土？	
11	P8	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
12	P9	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
13	P9	2層	黒褐色（10YR3/1）	粘質土	
14	P10	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
15	P11	1層	灰白色（10YR7/1）	粘質土？	
16	P11	2層	灰黄褐色（10YR6/2）	粘質土？	
17	P11	4層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土？	
18	P12	1層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土？	
19	P13	1層	褐灰色（10YR6/1）	粘質土？	
20	P14	1層	灰白色（10YR7/1）	粘質土？	
21	P14	2層	褐灰色（10YR5/1）	粘質土？	炭混。
22	P14	3層	褐灰色（10YR6/1）	粘質土？	炭混。
23	P14	4層	灰白色（10YR8/1）	粘質土？	

Ｐ８（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は円形である。規模は、直径28cm、深さは32cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はU字状である。
【埋土】２層に分かれる。１層は柱の抜き取り穴埋土と考えられ、２層は掘り方埋土である。

Ｐ９（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は不整円形である。規模は、直径38cm、深さは46cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】３層に分かれる。１層は柱の抜き取り穴埋土と考えられ、２層は柱痕跡である。

Ｐ10（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は円形である。規模は、直径20cm、深さは12cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】３層に分かれる。１層は柱痕跡と考えられ、２層は掘り方埋土である。

Ｐ11（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は円形である。規模は、直径23cm以上、深さは15cnである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】６層に分かれる。１層は柱痕跡と考えられ、他は掘り方埋土である。

Ｐ12（第３・５図）
【位置】調査区北端で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は円形と考えられ、規模は、直径57cm、深さは10cmである。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】褐灰色粘質土である。

Ｐ13（第３・５図）
【位置】調査区北端で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模･平面形】平面形は不整楕円形と考えられる。規模は、直軸45cm以上、短軸42cm、深さは12cmである。

【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【埋土】１層は埋土で褐灰色粘質土である。
【遺物】土師器甕Ｂ類の破片、須恵系土器坏の破片が出土している。

Ｐ14（第３・５図）
【位置】調査区北側で確認した。
【重複】他の遺構と重複しない。
【規模・平面形】平面形は楕円形である。規模は、長軸35cm、短軸22cm、深さは30cmである。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、底面はやや湾曲して立ち上がる。
【埋土】４層に分かれる。
【遺物】須恵系土器坏の破片が出土している。

Ⅱ区の遺構

Ⅱ区では、Ⅲ層上面、ＳＸ1865堆積層上面、Ⅴ層上面、Ⅳ層上面、地山面上でそれぞれ遺構を検出した。以下、上の遺構面より内容を述べる。

［Ⅲ層上面で確認した遺構］

柱穴列２基（ＳＡ1840、ＳＡ1841）、溝跡６条（ＳＤ1822・1826・1827・1836・1837・1856）、土壙５基（ＳＫ1845・1846・1848・1849・1852）などがある。

ＳＡ1840柱穴列（第８図）
【位置】調査区西端で検出された。
【重複】ＳＡ1840と重複するが、新旧関係は不明である。
【方向・規模】東西４間以上の柱穴列で東側は調査区外に伸びる。方向は東で南に約19度偏している。検出した長さは約7.6ｍで、柱間は西から1.4ｍ、2.0ｍ、2.5ｍ、1.7ｍである。掘立柱建物の南側柱列の可能性も考えられる。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】Ｐ２に柱痕跡があり、検出段階で直径20cmの円形である。Ｐ４は抜き取り穴が伴うと考えられる。
【掘方】隅丸方形を基調としている。規模はＰ２で測ると、長軸112cm、短軸56cm、Ｐ４は長軸85cm、短軸60cm、他の柱穴は一辺が38 ～ 45cmの規模である。
【遺物】出土していない。

ＳＡ1841柱穴列（第８図）
【位置】調査区西端で検出された。
【重複】ＳＡ1840と重複する。
【方向・規模】東西２間以上の柱穴列で東側は調査区外に伸びる。方向は東で南に約31度偏している。検出した長さは約4.5ｍで、柱間は西から1.8ｍ、2.7ｍである。東側は調査区外に延びる。掘立柱建物の南側柱列の可能性も考えられる。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】検出段階では確認されなかった。
【掘方】円形・楕円形を基調としている。規模は長軸30 ～ 50cm、短軸26 ～ 44cmである。

ＳＤ1822・1826溝跡（第８図）

同一の溝跡である。ＳＤ1826は幅0.75m、深さは西端で約0.3m、長さ16m以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に41度振れる。西端はＳＤ1822の南端に繋がる。東端は削平されている可能性が高い。

ＳＤ1822は、幅約1.4m、深さ約0.3m、長さ９m以上の素掘溝である。溝の主軸は南で西に22度振れる。南端はＳＤ1826の西端に繋がる。調査区外北へ延びる。埋土は黄褐色シルト(10YR5/6）である。瓦破片、須恵器・土師器破片が出土している。

ＳＤ1836溝跡（第８図）

幅約0.9m、深さ約0.1m、長さ11m以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に17度振れる。西端でＳＤ1822に繋がる可能性がある。東側で調査区外に延びる。瓦、須恵器、土師器の破片の他、ガラス片が出土しているため、近代以降となる可能性がある。

ＳＤ1827溝跡（第８図）

幅0.9 ～ 1.2m、深さ0.15m、長さ9.6m以上の素掘溝である。溝の主軸は南で西に24度振れる。埋土は褐色シルト(10YR4/6)である。須恵器、土師器の破片、須恵系土器皿が出土している。

ＳＤ1837溝跡（第８図）

幅0.3 ～ 0.6m、深さ0.15m、長さ10m以上の素掘溝である。溝の主軸は南で西に６～ 18度振れる。埋土は黄褐色シルト(10YR5/8)である。瓦、須恵器、須恵系土器坏破片が出土している。

各々の溝の新旧関係であるが、ＳＤ1827→ＳＤ1856・1826・1837、ＳＤ1823・1825・1826・1828→ＳＤ1837→ＳＤ1836となっている。

ＳＫ1845土壙（第８図）

平面形は楕円形、長辺約1.9m、短辺約0.8m、深さ約0.2mの土壙である。埋土は、褐灰色シルト(10YR4/1)に明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロック塊が含まれる。新旧関係は、ＳＫ1846､1853より新しい。瓦、須恵器破片、獣骨（ウシあるいはウマの臼歯）が出土している。

ＳＫ1846土壙（第８図）

平面形は円形で、長辺約1.5m、深さ約0.2mの土壙である。埋土は褐灰色シルト(10YR4/1)である。新旧関係は、ＳＫ1853より新しく、ＳＫ1845より古い。丸瓦、須恵器の破片、青磁碗が出土している。時期は中世以降と考えられる。

ＳＫ1848土壙（第８図）

平面形は不整円形で、長辺約1.2m、短辺約0.9m、深さ約0.1mの土壙である。埋土はにぶい黄褐色シルト(10YR5/3)である。新旧関係は、ＳＤ1823より新しい。鉄製品（刀子？）が出土している。

ＳＫ1849土壙（第８図）

平面形は不整円形で、長辺約0.9m、短辺約0.5m、深さ約0.15mの土壙である。埋土はにぶい黄褐色シ

ルト(10YR5/3)である。平瓦破片が出土している。

ＳＫ1852土壙（第８図）

平面形は楕円形で、長辺約0.65m、短辺約0.5m、深さ約0.1mの土壙である。遺物は出土していない。

[ＳＸ1865堆積土上面で検出した遺構]

溝跡１条（ＳＤ1858)、土壙６基（ＳＫ1832・1839・1833・1838・1835・1851)、ピット２基（Ｐ９・10）が検出された。ＳＸ1865は、暗灰褐色粘質土で、遺物量が多い。平安時代の遺物を主に含んでいる。

ＳＤ1858溝跡（第９図）

ＳＸ1865上で検出された。幅約0.4m、長さ約1.0m、深さ約0.1mの素掘溝である。溝の主軸は東で南に22度振れる。覆土は褐色シルト(10YR4/4)である。重複関係は、ＳＤ1827より古い。ＳＤ1827以東では確認できず、削平された可能性が高い。

ＳＫ1832土壙（第９図）

平面形は円形で、直径約2.4m、深さ約0.2mの土壙である。埋土は、灰黄褐色シルト(10YR5/2)である。北で調査区外に延びる。須恵器坏Ｖ類などが出土している。

ＳＫ1839土壙（第９図）

平面形は円形で、直径約1.2m、深さ約0.5mの土壙である。埋土は、褐灰色シルト(10YR4/1)であり、土師器坏ＢＶ類、須恵系土器高坏などが出土している。

ＳＫ1833土壙（第９図）

平面形は不整楕円形で、長辺約3.0m、短辺約1.6m、深さ約0.25mの土壙である。埋土は、灰黄褐色シルト(10YR5/2）であり、土師器坏ＢＶ類、須恵系土器坏と高台坏、中世考えられる無釉陶器甕の体部破片などが出土している。

ＳＫ1838土壙（第９図）

平面形は円形、直径約1.1m、深さ約0.2mの土壙である。埋土は、褐色シルト(10YR4/1)であり、須恵系土器坏などが出土している。

ＳＫ1835土壙（第９図）

平面形は隅丸長方形で、長辺約4.2m、短辺約1.3～1.8m、深さ約0.2mの土壙である。埋土は、にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)である。ＳＤ1828、1859より新しく、須恵器破片、土師器坏Ｂ類などが出土している。

[Ｖ層上面で検出した遺構]

溝跡７条（ＳＤ1823・1824・1825・1828・1830ｂ・1854・1860)、性格不明遺構１基（ＳＸ1866ｂ）が検出された。ＳＤ1860のみ地山面での検出である。

ＳＤ1830溝跡（第10図）

２時期の変遷が確認されており、新しい時期をＳＤ1830b、古い時期をＳＤ1830aとした。幅約1.8m、深さ約1.0m、長さ10.5m以上の素掘溝である。溝の主軸は北で東に25度振れる。西端でＳＤ1822に繋がる可能性がある。北側で調査区外に延びる。ＳＤ1855、Ｐ11～14、ＳＫ1853より新しい。ＳＤ1854より古い。須恵系土器の小形坏（柱状高台）、瓷器系陶器甕、石臼、丸瓦片、須恵器・土師器破片などが出土している。

ＳＤ1823溝跡（第10図）

幅約0.6m、深さ約0.1～0.2m、長さ14m以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に38～48度振れる。平面図ではD1828を切っているようにみえる。溝内埋土の堆積状況から、埋没時期はＳＤ1828と同時期と考えられる。ＳＤ1837、ＳＤ1826、ＳＫ1848より古い。須恵系土器坏、土師器坏Ｂ類などが出土している。

ＳＤ1828溝跡（第10図）

幅約1.2m、深さ約0.3m、長さ25m以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に34度振れる。西端でＳＤ1830の南端に繋がる。ＳＤ1823と同時に埋没した可能性がある。形成時は検出された現況より東に延びていたと思われる。遺構の重複関係は、ＳＡ1842、Ｐ15、ＳＤ1857・1860、ＳＫ1847より新しい。ＳＤ1837、ＳＫ1846・1835より古い。瓦破片、須恵系土器坏、土師器坏ＢＶ類、須恵器蓋などが出土している。

ＳＤ1854溝跡（第10図）

幅約1.5m、深さ約0.5m、長さ約8.2m以上の素掘溝である。溝の主軸は北で東に25度振れる。北側で調査区外に延びる。ＳＤ1830ｂ、Ｐ11より新しい。この溝とＳＤ1830で遺物を取り上げた中に、青磁や中世陶器（瓷器系）が確認されている。

ＳＤ1825溝跡（第10図）

幅約1.4m、深さ約0.45m、長さ26m以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に23～34度振れる。西端でＳＤ1824に繋がる。東側で調査区外に延びる。ＳＢ1831、ＳＡ1842、ＳＤ1857・1860、ＳＫ1853より新しく、ＳＤ1837より古い。平瓦、丸瓦破片、須恵器・土師器破片が出土している。

ＳＤ1824溝跡（第10図）

幅約2.9m、深さ約0.45m、長さ４m以上の素掘溝である。溝の主軸は北で東に23度振れる。北端はＳＤ1825の西端に繋がる。溝の南側が調査区外に延びる。軒丸瓦、青磁皿、石臼などが出土している。

ＳＤ1860溝跡（第10図）

幅約0.3m、深さ約0.05m、長さ約1.8m以上の素掘溝である。溝の主軸は北で東に27度振れる。ＳＤ1828・1825よりも古い。遺物は出土していない。

ＳＸ1866整地層（第10・12図）

南北に延びるＳＤ1859の東約１m以東に広がる粘質土の堆積で、厚さ0.1m以上である。第２発掘区外へ延びる。東側に広がる谷地の上層埋土である。瓦や須恵器の破片が出土している。ＳＸ1867よりも新しい。

［第Ⅳ層上面、地山面で検出した遺構］（第11・12図）

掘立柱建物跡１棟（ＳＢ1831）、柱穴列３基（ＳＡ1842・1843・1844）、溝跡７条（ＳＤ1830a・1855・1857・1859・1862・1863・1864）、土壙４基（ＳＫ1834・1847・1850・1853）、柱穴、性格不明遺構１基（ＳＸ1866a）が検出された。

ＳＢ1831掘立柱建物跡（第12図）

【位置】調査区中央の南端、整地層上面で検出された。

【桁行・梁行】梁行２間の掘立柱建物跡の北妻と考えられる。南側は調査区外に延びる。

【重複】ＳＤ1825よりも古い。

【方向・柱間】方向は、東で南に27度偏している。建物の規模は、東西で4.5m。柱間は、西から2.25m、2.25mで総長4.5mである。

【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】Ｐ16・17柱痕跡が認められた。Ｐ16・17は柱材が残る。Ｐ17・18は抜き取り穴が認められる。

【掘方】隅丸方形を基調としている。規模は長辺100 ～ 105cm、短辺85 ～ 95cm、深さは68 ～ 80cmである。埋土は褐灰色粘質土(7.5YR6/1)が主体である。

【遺物】出土していない。

ＳＡ1842柱穴列（第11図）

【位置】調査区西端、整地層上面で検出された。南端柱穴は地山面での検出である。

【重複】ＳＤ1828・1825より古い。

【方向・規模】Ｐ19 ～ 22の４基の柱穴から構成される、柱間３間以上の南北柱列である。方向は北で東に27度振れている。検出した長さは約5.35mで、柱間は南から1.5m、1.85m、2.0mである。

【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱跡跡・抜き取り穴の有無は不明である。

【掘方】隅丸方形、円形を基調としている。規模は一辺が35 ～ 70cmの規模である。

【遺物】出土していない。

ＳＡ1843柱穴列（第12図）

【位置】調査区西側、Ⅶ層上面で検出された。

【重複】東側にＳＤ1859が位置するが、この溝跡に削平されている可能性がある。

【方向・規模】Ｐ26・28・29の３基の柱穴より構成される柱間２間以上の東西柱列である。東で南に28度振れる。検出した長さは約5.1mで、柱間は西から2.85m、2.25mである。

【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】検出段階では、柱痕跡・柱抜き取り穴は確認されていない。

【掘方】隅丸方形を基調としている。規模は一辺が24 ～ 34cmの規模である。

【遺物】出土していない。

ＳＡ1844柱穴列（第12図）

【位置】調査区西側、Ⅶ層上面で検出された。

【重複】ＳＤ1863よりも古い。

【方向・規模】Ｐ23 ～ 27の５基の柱穴より構成される、柱間４間の南北柱列である。北で東に23度振れる。

検出した長さは約8.9ｍで、柱間は南から2.4ｍ、1.95ｍ、2.4ｍ、2.15ｍである。東側は調査区外に延びる。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】検出段階で、柱痕跡・柱抜き取り穴は確認されていない。
【掘方】隅丸方形、円形を基調とする。規模は一辺が20 ～ 32㎝である。
【遺物】出土していない。

ＳＤ1855溝跡（第11・12図）

幅約1.2ｍ、深さ約0.4ｍ、長さ約2.1ｍ以上の素掘溝で、溝の主軸は東で南に31度振れる。西側で調査区外に延びる。埋土は黒褐色シルト(5YR2/1)である。ＳＤ1830ｂよりも古い。銭貨(ＳＤ1855北岸の整地)、土瓦、須恵器破片、土師器甕Ｂ類、土師器坏ＢＶ類などが出土している。

ＳＤ1857溝跡（第11・12図）

幅約0.2 ～ 0.5ｍ、深さ約0.1 ～ 0.2ｍ、長さ約4.8ｍ以上の素掘溝で、溝の主軸は北で東に29度振れる。埋土は灰黄色シルト（10YR6/2）である。ＳＤ1828・1825よりも古い。土師器破片が出土している。

ＳＤ1859溝跡（第11・12図）

幅約1.6 ～ 2.0ｍ、深さ約0.15ｍ、長さ約11.4ｍ以上の素掘溝で、検出のみで掘り下げを行っていない。溝の主軸は北で東に約36度振れる。埋土はにぶい黄橙色シルト（10YR6/3)、明黄褐色シルト（10YR6/8）の混合土である。ＳＫ1834よりも新しい。ＳＫ1835･1851よりも古い。北側は調査区外へ延びる。須恵器･土師器破片が出土している。

ＳＤ1862溝跡（第11・12図）

幅約0.25 ～ 0.4ｍ、深さ約0.05ｍ、長さ約３ｍの素掘溝で、検出のみで掘り下げを行っていない。南から東に向けて弧状に曲がる。ＳＤ1836よりも古い。遺物は出土していない。

ＳＤ1863溝跡（第11・12図）

幅約0.4ｍ、深さ約0.1ｍ、長さ約1.3ｍ以上の素掘溝である。東西両端を削平されている。溝の主軸は東で南に約３～ 27度振れる。遺物は出土していない。

ＳＤ1864溝跡（第11・12図）

幅約0.5ｍ、深さ約0.1ｍ、長さ約1.1ｍ以上の素掘溝である。溝の主軸は東で南に約11度振れる。西側で調査区外に延びる。埋土は灰色粘土（5Y5/1）である。ＳＤ1830ｂよりも古い。遺物は出土していない。

ＳＫ1847土壙（第11・12図）

平面形は南北方向に延びる溝状の土壙である。長辺約4.2ｍ、短辺約0.4 ～ 1.0ｍ、深さ約0.05 ～ 0.15ｍである。北側が深い。埋土は灰黄褐色シルト(10YR6/2)である。新旧関係は、ＳＤ1828より古い。須恵器甕・壺、土師器坏ＢＶ類が出土している。

ＳＫ1834土壙（第11・12図）

平面形は楕円形状と推定され、南北約1.5ｍ、東西約1.9ｍ以上、深さ0.2ｍ以上の土壙である。埋土は褐灰色シルト(10YR5/1)である。新旧関係は、ＳＤ1859より古い。須恵器甕、土師器坏ＢＶ類、須恵器高

台坏などが出土している。

ＳＫ1850土壙（第11・12図）

平面形は不整形で、南北約1.3m、東西約1.1m、深さ約0.1m以上の土壙である。埋土は灰黄褐色シルト(10YR6/2)である。遺物は出土していない。

ＳＫ1853土壙（第11・12図）

整地層上の検出で、平面形は楕円形状もしくは溝状と推測される。南北約3.2m、東西約1.6m、深さ約0.25mの土壙である。埋土は明黄褐色シルト(10YR6/6)である。新旧関係は、ＳＤ1828・1825、ＳＫ1845・1846より古い。遺物は出土していない。

ＳＸ1866a性格不明遺構

南北溝ＳＤ1859の東約１m以東に広がる粘質土の堆積で、深さ約0.1m以上である。北側で調査区外へと延びる。新旧関係は、ＳＸ1867より新しい。

Ｐ11（第11・13図）

【位置】調査区西端で確認した。地山面の検出である。
【重複】ＳＤ1830a・1854より古い。
【規模・平面形】平面形は隅丸方形である。規模は、長辺52cm、深さは56cmである。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱痕跡が確認され、直径12cm、柱抜き取り穴は確認されていない。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、掘り方の底面は平坦である。
【埋土】２層に分かれる。１層は柱痕跡、２層は掘り方埋土である。
【遺物】須恵器甕の破片が出土している。

Ｐ12（第11・13図）

【位置】調査区北西端で確認した。整地層上の検出である。
【重複】ＳＤ1830aより古い。
【規模・平面形】平面形は隅丸方形と推測される。規模は、一辺28cm以上、深さは48cm以上である。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱痕跡が確認されている。柱抜き取り穴の有無は不明である。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、掘り方の底面は平坦であったと推測される。
【埋土】２層に分かれる。１層は柱痕跡、２層は掘り方埋土である。

Ｐ13（第11・13図）

【位置】調査区北西端で確認した。整地層上の検出である。
【重複】ＳＤ1830aより古い。
【規模・平面形】平面形は隅丸方形と推測される。規模は、一辺28cm以上、深さは48cm以上である。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱痕跡が確認され、直径17cm、柱材が残る。柱抜き取り穴は確認されていない。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、掘り方の底面は平坦である。

【埋土】掘り方の埋土は２層に分かれる。
【遺物】遺物は出土していない。

Ｐ14（第11・13図）
【位置】調査区北西端で確認した。整地層上の検出である。
【重複】ＳＤ1830aより古い。
【規模・平面形】平面形は隅丸方形である。規模は、長辺56cm、短辺48cm、深さは70cmである。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱痕が確認されている。柱材が残る。柱抜き取り穴は確認されていない。。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、掘り方の底面は緩やかな弧状となる。
【埋土】２層に分かれる。１層は柱痕、２層は掘り方埋土である。

Ｐ15（第11・13図）
【位置】調査区北西端で確認した。整地層上の検出である。
【重複】ＳＤ1828より古い。
【規模・平面形】平面形は円形である。規模は、直径25cm、深さは40cm以上である。
【柱痕跡・柱抜き取り穴の有無】柱痕が確認されている。柱材が残る。柱抜き取り穴は確認されていない。。
【壁・底面】壁は急に立ち上がり、掘り方の底面は丸く湾曲する。
【埋土】１層のみで掘り方埋土である。

まとめ

Ⅰ区では、掘立柱建物跡２棟、柱穴群、溝跡、井戸跡などが確認された。このうち、井戸跡は江戸時代に帰属する。掘立柱建物跡や柱穴群、溝跡から出土した遺物は、９世紀後半以降と推測される土師器坏などがあるが、中世や近世の遺物は含まれていない。

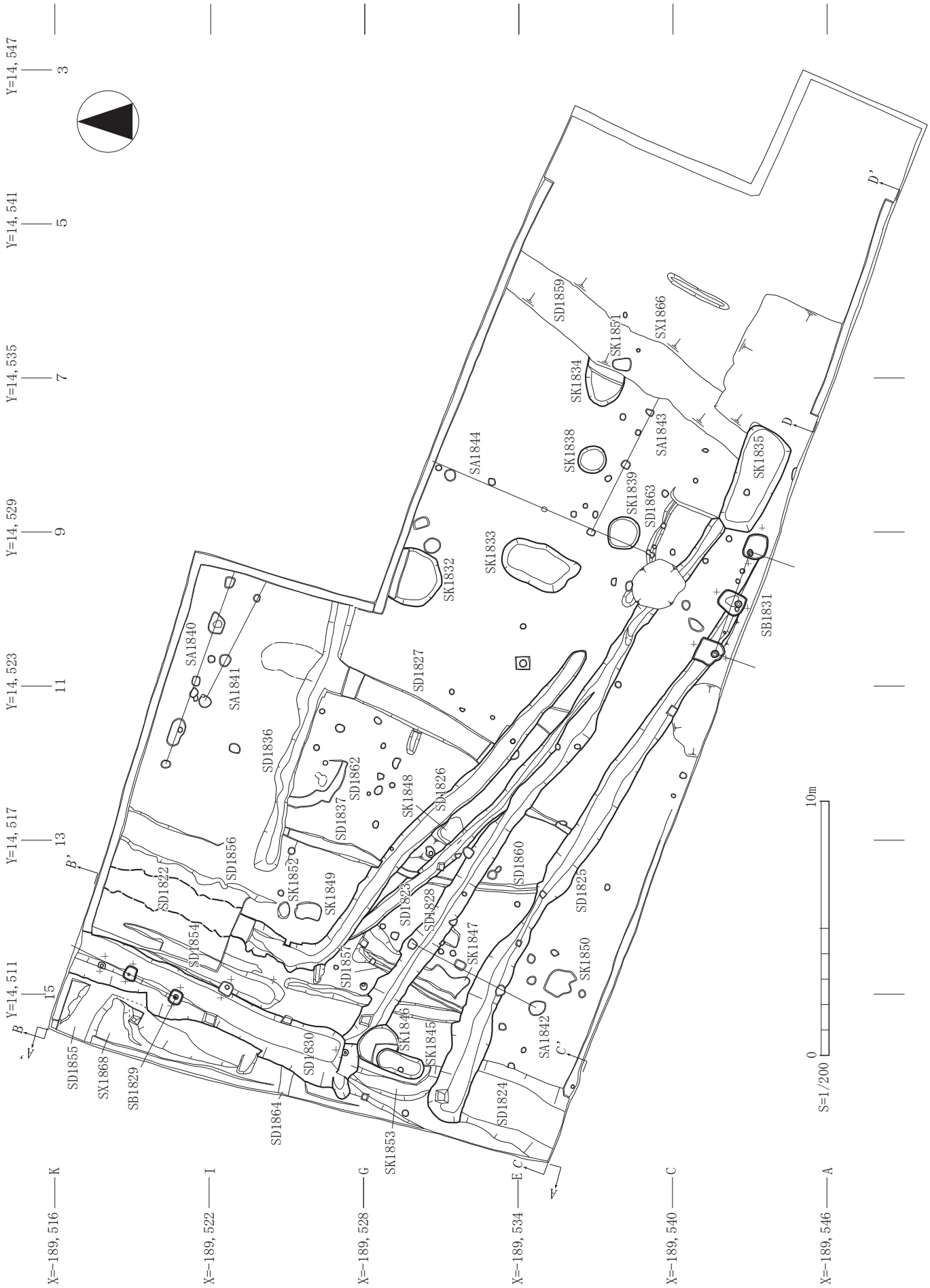
Ⅱ区では、５つの遺構面が確認されている。

Ⅲ層上面では、中世以降の時期に帰属すると考えられる。ＳＫ1835より青磁碗が出土している。

ＳＸ1865堆積土上面では、ＳＸ1865上に土壙群が中心となる。ＳＸ1865は古代の遺物を多く含むが、下層の中世のⅤ層上面を覆っており、中世以降に古代の面を破壊するなどして形成されたものと考えられる。したがってこの面の遺構は中世以降の時期に帰属すると考えられる。

Ⅴ層上面では、溝跡７条、調査区東端に整地層が確認された。溝跡の時期はいずれも中世に帰属すると考えられる。

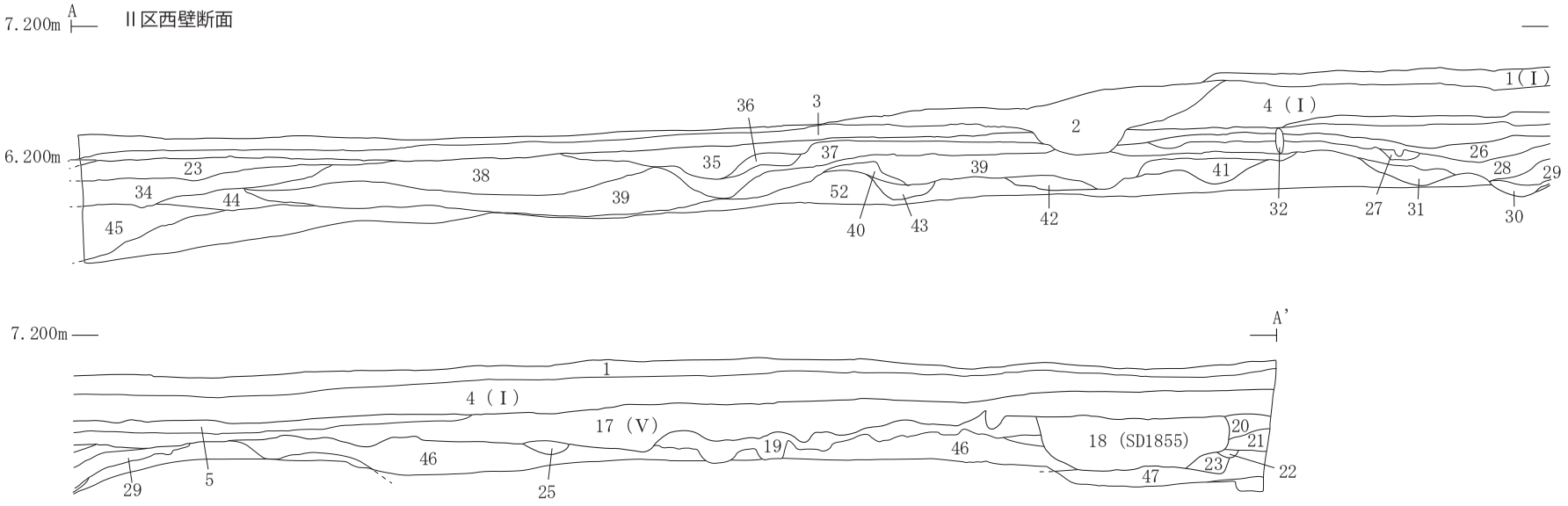
Ⅳ層上面、地山面では、掘立柱建物跡１棟、柱穴列３基、土壙４基、溝跡７条などを検出した。遺構の時期は、ＳＤ1830aが古代末～中世になる可能性がある。他の遺構は平安時代の遺物が出土しており、この時期より新しい遺物を含んでいないため、平安時代に帰属する可能性がある。



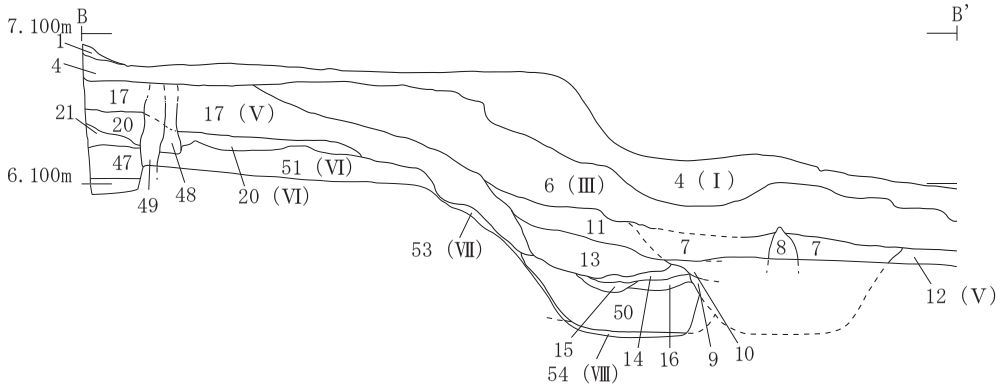
第６図　Ⅱ区調査区遺構配置図

第７図　Ⅱ区調査区断面図

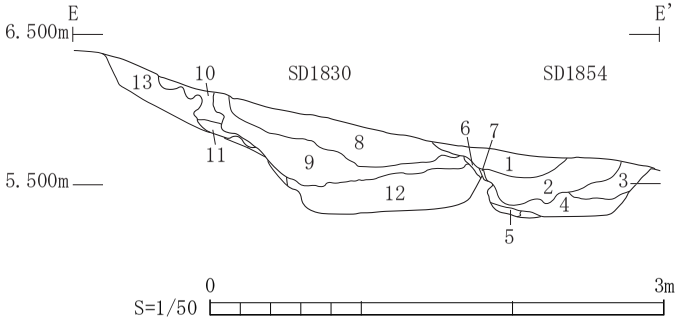
Ⅱ区西壁断面

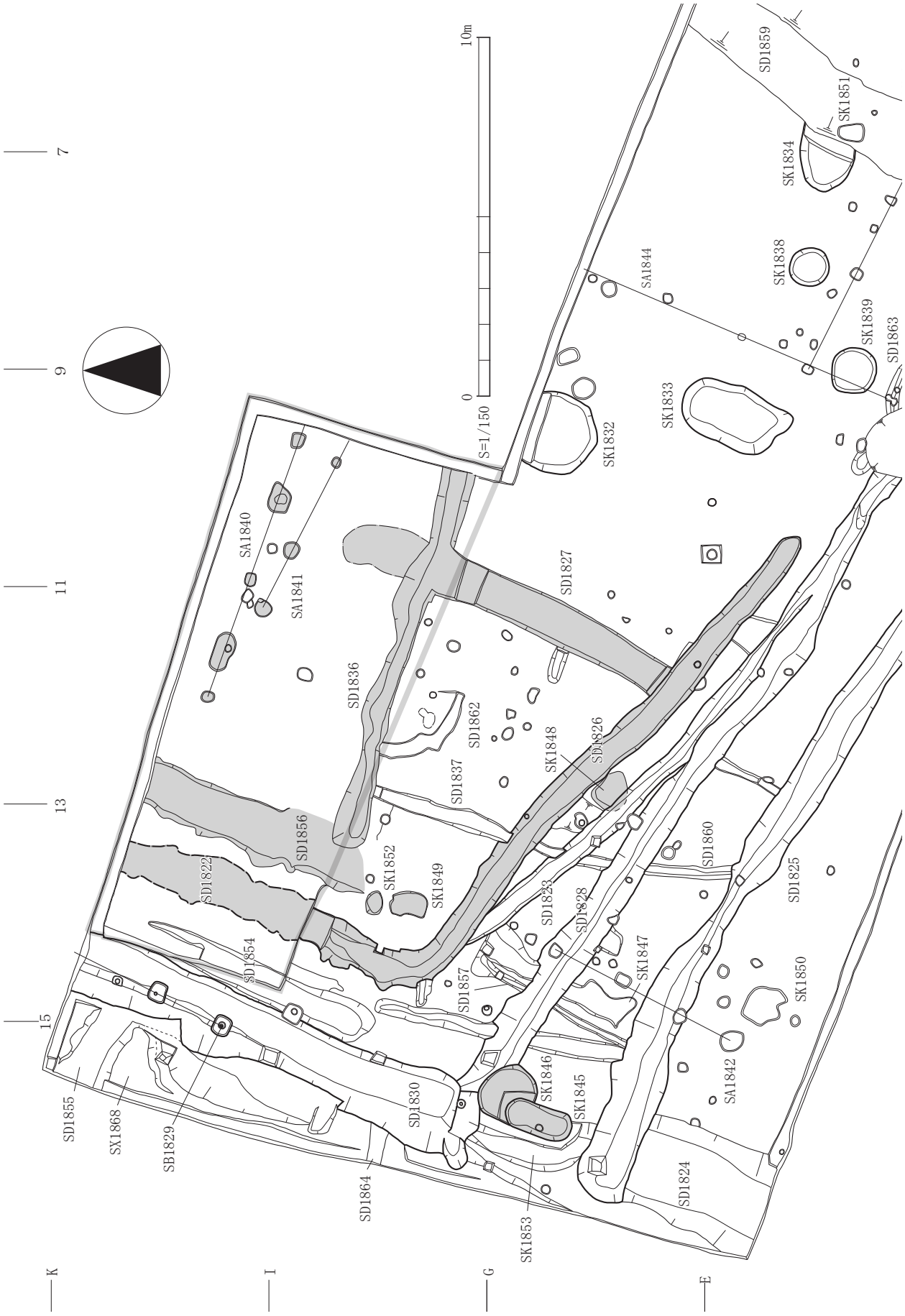


Ⅱ区北壁断面

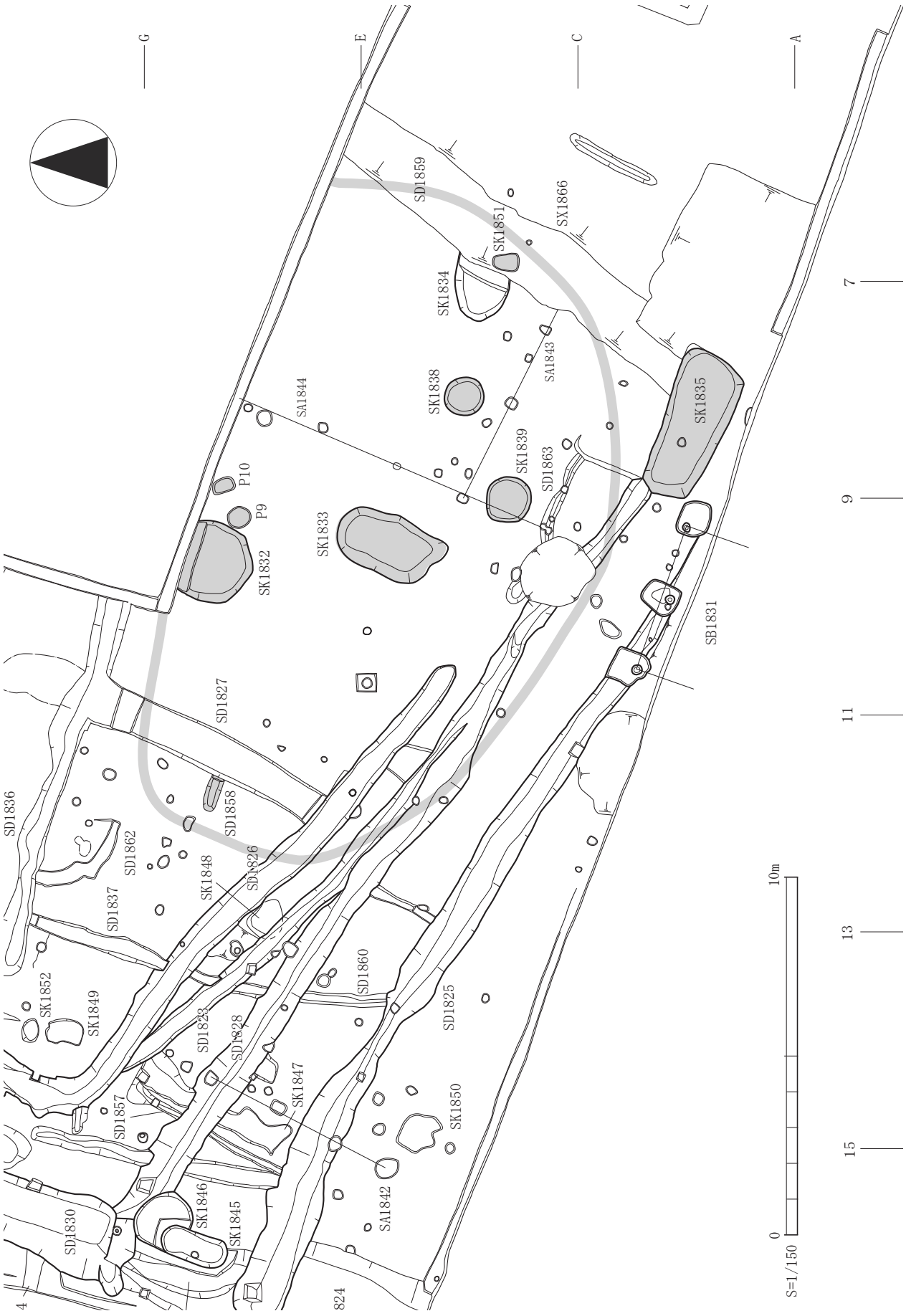


SD1830・1854 断面



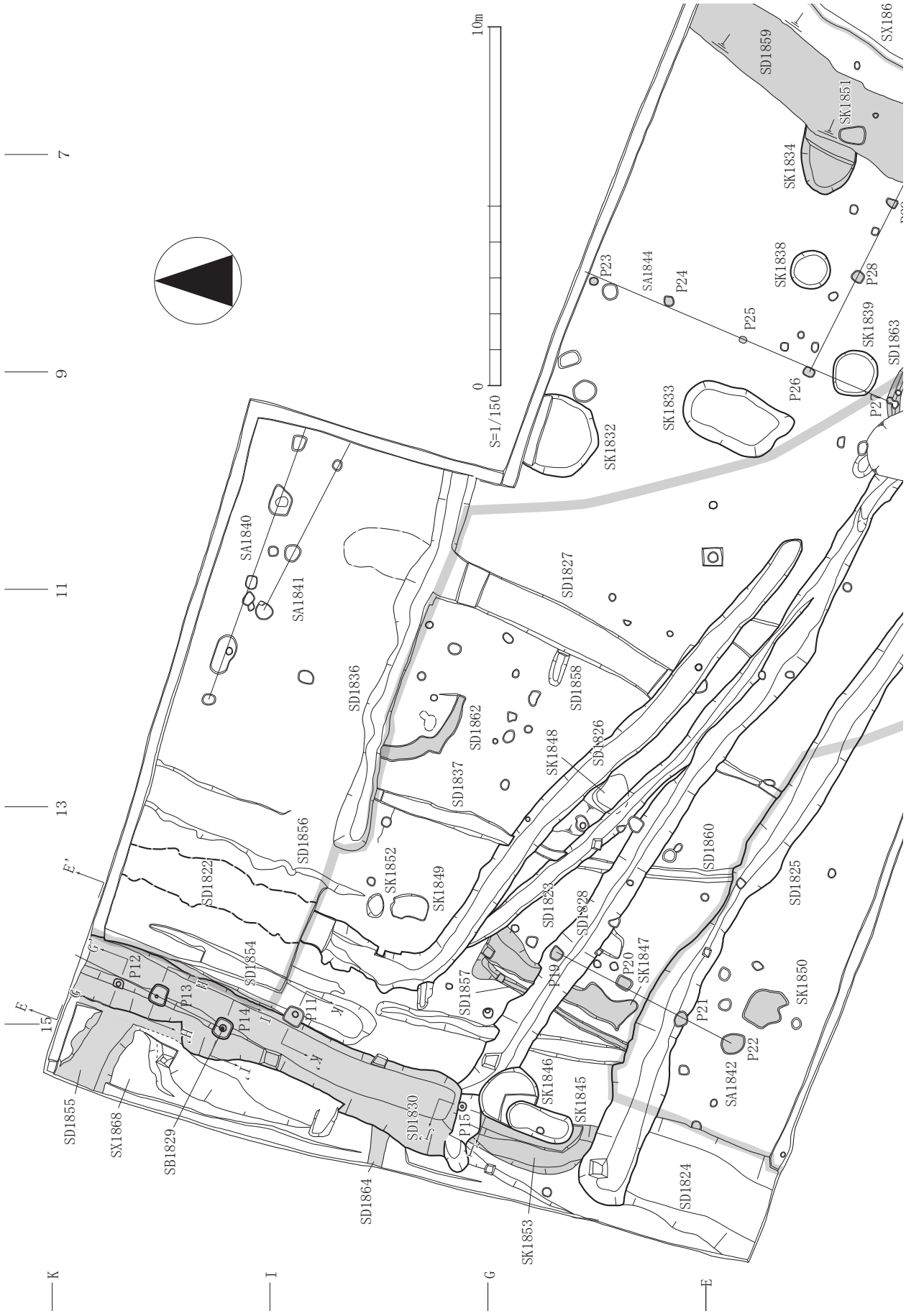


第８図　Ⅱ区第１遺構面平面図（１：150）

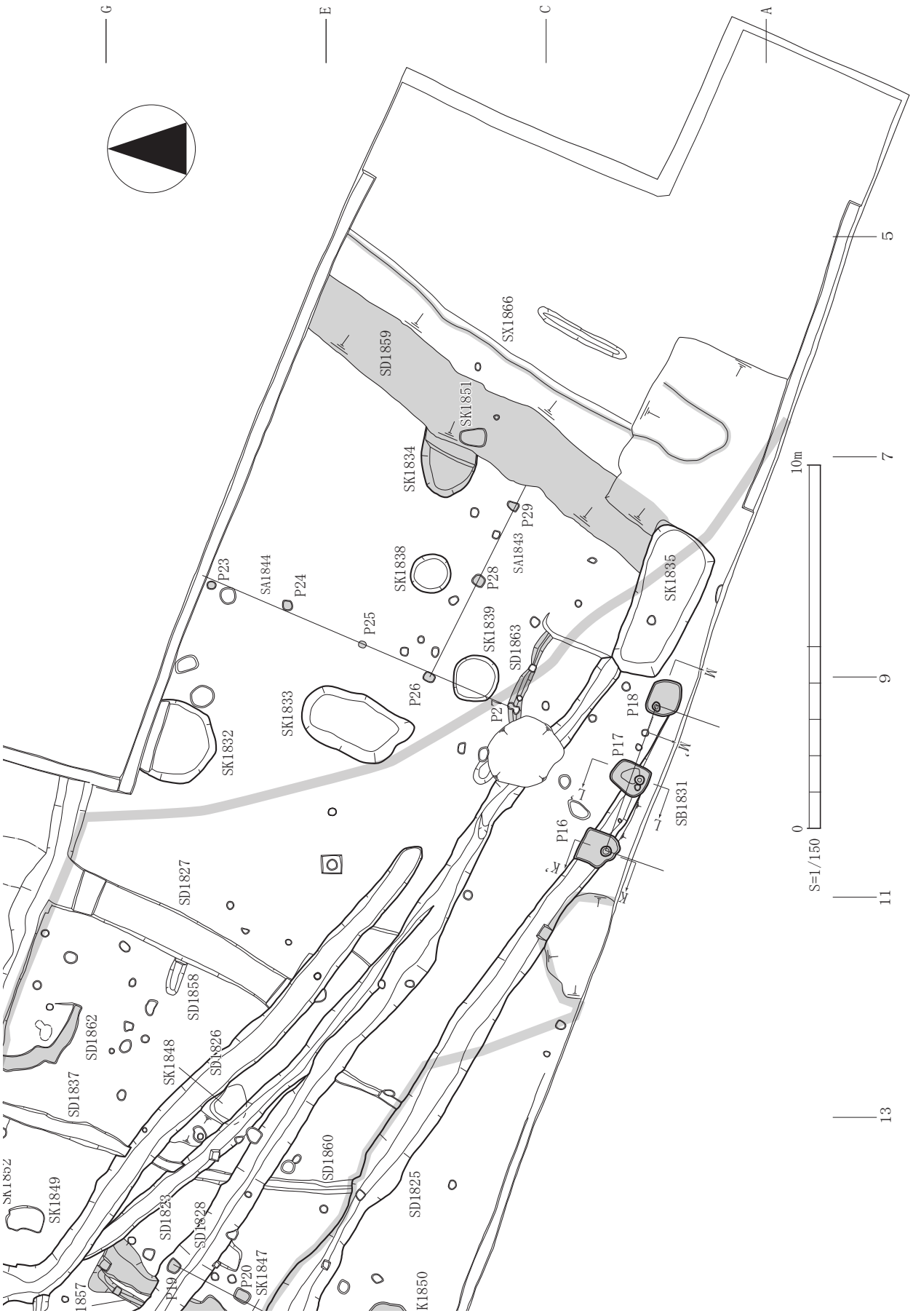


第９図　Ⅱ区第２遺構面平面図（１：150）

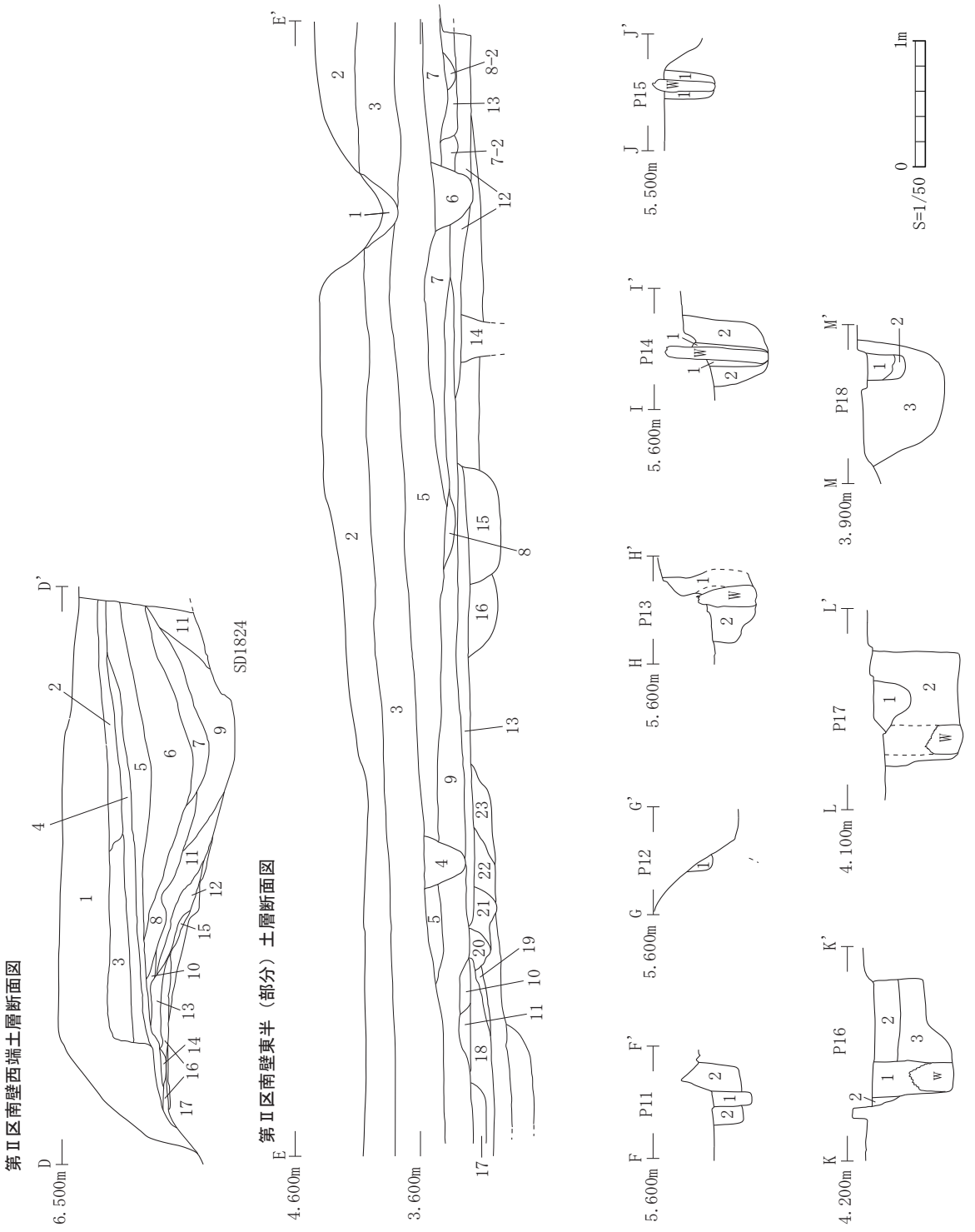
第10図　Ⅱ区第３面遺構平面図（１：200）



第11図　Ⅱ区第４・５面遺構平面図（１：150）



第12図　Ⅱ区第４・５面遺構平面図（１：150）



第13図　Ⅱ区南壁断面図・P11 ～ 18

Ⅱ区西壁・北壁断面

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1		1層	灰褐色（5YR4/2）	砂質シルト	茶色砂質シルト 灰褐の砂。
2		2層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂	油が出てくる。草が出る。
3		3層	にぶい赤褐色（5YR4/4）	砂質土	
4		4層	にぶい赤褐色（5YR4/4）	砂質土	現表土。
5		5層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	シルト	茶色シルトに茶色ブロックが混じる。黄褐色（2.5Y5/3）が入る。
6		6層	黄褐色（2.5Y5/3）	砂	黄色がかった茶色。黄色粒混じる。砂に濃い茶色も混じる。

Ⅱ区西壁・北壁断面

7		7層	褐色（10YR4/4）	シルト	茶色シルト白っぽい灰シルトの混じり。上部の水路に起因すると思われる。灰色変化が著しく層界が不明瞭である。
8		8層	黒褐色（10YR3/1）		濃い緑気味の黒。黄色・茶色の土が混じる。
9		9層	褐灰色（10YR4/1）	粘質土	
10		10層	褐灰色（10YR4/1）	粘砂	
11		11層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	茶色の土に濃い黒。黄色の土が混じる。
12		12層	暗褐色（10YR3/3）	粘質シルト	茶色少し濃い。
13		13層	黄褐色（2.5Y5/6）	砂質粘土	灰と黄褐色の層。灰ブロックが大きく混じる。
14		14層	灰オリーブ色（5Y4/2）		下層との間に黒い砂が薄く堆積。濃い茶色砂か東側は粘土が多くなる。
15		15層	灰色（N4/0）	粘土	濃い灰の粘土層。
16		16層	褐灰色（10YR5/1）	砂	にぶい赤褐色（5YR5/3）が混じる。灰色の層に茶がブロックで入る。
17		17層	オリーブ色（5Y5/4）	シルト	黄色がかった茶色の粒が茶色黒と混じる。
18	SD1855	18層	黒褐色（5YR2/1）	シルト	黒いシルトと茶色シルトが混じり。黄色粒が少し混じる。やや黒シルトの分が多い。
19		19層	黄褐色（2.5Y5/4）	シルト	少し濃い黄色シルト。
20		20層	暗赤褐色（5YR3/4）		下に黒の堆積がある。濃い茶色オレンジ粒混じり。銭貨130903。
21		21層	褐灰色（7.5YR6/1）	シルト	灰色に近い茶色。濃い茶色の粒が混じる。
22		22層	黒褐色（7.5YR3/2）	シルト	
23		23層	褐灰色（5YR5/1）	シルト	茶色の黒い粒が混じる。上部には黄色シルト。下には濃茶黒シルトが堆積。
24		24層	にぶい黄色（2.5Y6/3）		薄い茶色に黒灰シミ。
25		25層	灰色（5Y4/1）	シルト	白い細粒が混じる。
26		26層	にぶい黄橙色（10YR6/4）		やや明るい茶色。
27		27層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂	薄茶砂・黄色粒混じり。
28		28層	にぶい黄褐色（10YR4/3）		やや濃い茶・オレンジ黄粒を含む。
29		29層	灰色（5Y4/1）	砂質シルト	黒い土が多い。
30		30層	灰色（5Y5/1）	粘土	肌色と灰。溝埋土。
31		31層	褐灰色（10YR6/1）		地山より灰が多い。地山灰埋土混じり。
32		32層	浅黄色（2.5Y7/3）		周りより明るい茶（白っぽい）
33		33層	灰褐色（7.5YR4/2）	粘砂	
34		34層	黒褐色（7.5YR3/2）	粘砂	
35		35層	オリーブ色（5Y5/4）	シルト	
36		36層	褐色（10YR4/4）		
37		37層	にぶい黄橙色（10YR6/4）		
38		38層	橙色（7.5YR6/6）	粘土	褐灰色（7.5YR4/1）粘土の混合。
39		39層	黒褐色（10YR3/1）	粘砂	
40		40層	にぶい橙色（7.5YR7/4）	粘質土	
41		41層	黄灰色（2.5Y6/1）	粘土	灰色の強い灰色を含む。
42		42層	灰色（5Y4/1）	シルト	濃い灰。
43		43層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	灰色少し薄いシルト。
44		44層	黒褐色（7.5YR3/1）	粘砂	
45		45層	褐灰色（7.5YR4/1）	粘砂	細かい地山ブロック片が含まれる。
46	SD1830	46層	浅黄色（5Y7/3）	シルト	白っぽくて黒粒が混じる。遺物を包含する南西→北東へ落ち込む堆積。
47		47層	暗褐色（7.5YR3/3）	砂質シルト	黒っぽい茶色砂。茶色粒混じる。
48		48層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルク	濃い茶色に少し多めの黒シルトが混じる。
49		49層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルク	少なめの黒シルト。黄色粒の濃い茶色シルト。
50		50層	褐灰色（10YR5/1）	粘土	黒茶粘土層。溝。
51		51層	にぶい黄色（2.5Y6/4）		茶色粒・黄色粒を含む薄茶色灰色近い。
52		52層	明褐灰色（7.5YR7/2）	粘土	7.5YR6/8橙色粘土が含まれる。地山。
53		53層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルト？	Ⅶ層
54		54層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	シルト？	Ⅷ層

Ⅱ区ＳＤ1830・1854土層

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	SD1854	1層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	粘土	黄色粒ブロック混じり。下部に墨が少し混じる。東溝埋土。
2	SD1854	2層	黄褐色（2.5Y5/4）	粘質シルト	黒褐色（10YR3/2）粘土ブロックが混じる。東溝埋土。
3	SD1854	3層	黄褐色（2.5Y5/4）	シルト	下部に砂質シルト及び砂の層が混じる。東溝埋土。
4	SD1854	4層	青灰色（5BG5/1）	砂	東下部に粘土ブロック混じる。溝中央部に黄色ブロック混じる。東溝埋土。
5	SD1854	5層	黒褐色（7.5YR2/2）	粘土	東溝埋土。
6	SD1854	6層	灰オリーブ色（5Y5/2）	シルト	黄粒混じり。東溝埋土。
7	SD1854	7層	淺黄色（2.5Y7/4）	粘土	東溝埋土。
8	SD1830	8層	浅黄橙色（10YR8/4）	シルト	地山ブロッに灰褐色（5YR5/2）シルトブロック混じり。東溝埋土の掘り上げた土か。西溝埋土。
9	SD1830	9層	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	黄灰色（2.5Y4/1）シルト黄色ブロック混じる。西溝埋土。
10	SD1830	10層	黄褐色（2.5Y5/4）	粘土	オレンジ粒混じり。西溝埋土。
11	SD1830	11層	褐灰色（10YR6/1）	粘土	灰白色（10YR8/1）粘土の混合した土。西溝埋土。
12	SD1830	12層	褐灰色（7.5YR5/1）	粘土	にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土。下部に地山粒が混じる。西溝埋土。
13					地山

Ⅱ区南壁西端土層

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1		1層	暗灰黄色（2.5Y5/2）		
2		2層	にぶい赤褐色（5YR4/4）	砂質土	
3		3層	にぶい橙色（7.5YR6/4）	砂質土	
4		4層	橙色（7.5YR6/6）	砂質土	
5		5層	灰褐色（7.5YR4/2）	粘砂	
6	SD1824	6層	黒褐色（7.5YR3/2）	粘砂	
7	SD1824	7層	黒褐色（7.5YR3/1）	粘質土	
8	SD1824	8層	褐灰色（7.5YR5/1）	粘質土	細かい地山ブロック片が含まれる。
9	SD1824	9層	褐灰色（7.5YR4/1）	粘質土	
10	SD1824	10層	にぶい橙色（7.5YR7/4）	粘土	
11	SD1824	11層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘砂	細かい地山ブロック片が含まれる。
12	SD1824	12層	明黄褐色（10YR6/8）	粘質土	褐灰色（10YR6/1）粘質土の混合。
13		13層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘土	
14		14層	灰黄褐色（10YR4/2）	粘質土	
15	SD1824	15層	褐灰色（7.5YR5/1）	粘質土	
16		16層	明黄褐色（10YR6/8）	粘質土	褐灰色（10YR6/1）粘質土の混合。
17		17層	明黄褐色（10YR7/6）	粘土	地山。

Ⅱ区Ｐ11 ～ 18土層

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	Ｐ 11	1層	褐灰色（10YR6/1）	粘質土	底にうすく炭。柱痕跡。
2	Ｐ 11	2層	明黄褐色（10YR7/6）	粘質土	褐灰色（10YR6/1）粘質土の混合。掘方埋土。
3	Ｐ 12	1層	明黄褐色（2.5Y7/6）	粘砂	掘方埋土 or 抜取埋土。
4	Ｐ 13	1層	橙色（5YR6/8）	粘質土	掘方埋土（1が変色して2）材の先端は平坦。
5	Ｐ 13	2層	にぶい橙色（5YR6/3）	粘質土	掘方埋土（1が変色して2）材の先端は平坦。
6	Ｐ 14	1層	褐灰色（10YR5/1）	粘土	柱痕跡。材の先端は平坦。
7	Ｐ 14	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘細砂	掘方埋土。材の先端は平坦。
8	Ｐ 15	1層	灰白色（10YR7/1）	粘細砂	掘方埋土。材の先端は平坦。
9	Ｐ 16	1層			柱痕跡。
10	Ｐ 16	2層	褐灰色（7.5YR6/1）	粘質土	橙色（7.5YR6/6）の混合。柱掘方。
11	Ｐ 16	3層	褐灰色（7.5YR6/1）		橙色（7.5YR6/6）の混合。柱掘方。
12	Ｐ 17	1層	褐灰色（7.5YR4/1）		抜き取り穴か。
13	Ｐ 17	2層	褐灰色（7.5YR6/1）	粘質土	橙色（7.5YR6/6）の混合。柱掘方。
14	Ｐ 18	1層	黒褐色（10YR3/1）	粘質土	P18よりも新しいピット。
15	Ｐ 18	2層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	粘質土	炭混。P18よりも新しいピット。
16	Ｐ 18	3層	明黄褐色（10YR6/6）		若干の炭混。柱抜き取り痕と考える。

Ⅱ区南壁東半土層

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1		1層	褐色（7.5YR4/3）	粘質土	
2		2層	褐色（7.5YR4/3）	粘砂	
3		3層	明褐色（7.5YR5/6）	砂質土	
4		4層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘砂	粘砂と粘質土の混合。
5		5層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘砂	
6		6層	褐灰色（7.5YR6/1）	粘質土	粘質土に少し砂混。
7		7層	黄灰色（2.5Y6/1）	粘砂	明黄褐色（2.5Y6/6）粘砂の混合。
8		7-2層	黄灰色（2.5Y6/1）	粘質土	黄褐色（2.5Y5/6）粘砂の混合。
9		8層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂	
10		8-2層	黄灰色（2.5Y6/1）	粘質土	
11		9層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘質土	
12		10層	褐灰色（7.5YR4/1）	粘質土	
13		11層	褐灰色（7.5YR5/1）	粘質土	
14		12層	褐灰色（7.5YR6/1）	粘質土	
15		13層	明黄褐色（2.5Y6/8）	粘砂	黄灰色（2.5Y6/1）粘質土の混合。
16		14層	黄褐色（2.5Y5/4）	粘砂	
17		15層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘砂	
18		16層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	粘砂	
19		17層	褐灰色（7.5YR6/1）	粘質土	
20		18層	黒褐色（7.5YR3/1）	粘質土	
21		19層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	粘砂	当層の最下部に厚さ5㎜の炭の堆積が認められる。
22		20層	灰褐色（7.5YR4/2）	粘砂	
23		21層	にぶい黄色（2.5Y6/3）	粘質土	

Ⅰ区調査区全景（南東から）

Ⅰ区遺構掘り下げ状況（東から）

写真図版１

Ⅱ区調査区西端溝跡（北から）

Ⅱ区西端溝跡完掘状況（南から）

写真図版２

Ⅱ区溝跡完掘状況（西から）

Ⅱ区Ｐ12 ～ 14柱穴列検出状況（北から）

写真図版３

Ⅱ区柱穴列検出状況（東から）

Ⅱ区北壁断面（南から）

Ⅱ区南壁西端断面（北から）

写真図版４

Ⅱ区ＳＫ1853・1845断面
（南から）

Ⅱ区西壁中央断面（東から）

１区Ｐ１断面（北から）

１区Ｐ５断面（北から）

写真図版５

Ⅰ区ＳＫ1821断面（東から）

Ⅰ区Ｐ８断面（北から）

Ⅰ区Ｐ14断面（北から）

Ⅱ区Ｐ14断面（北から）

Ⅱ区Ｐ15断面（東から）

Ⅱ区Ｐ16断面（東から）

Ⅱ区Ｐ17断面（東から）

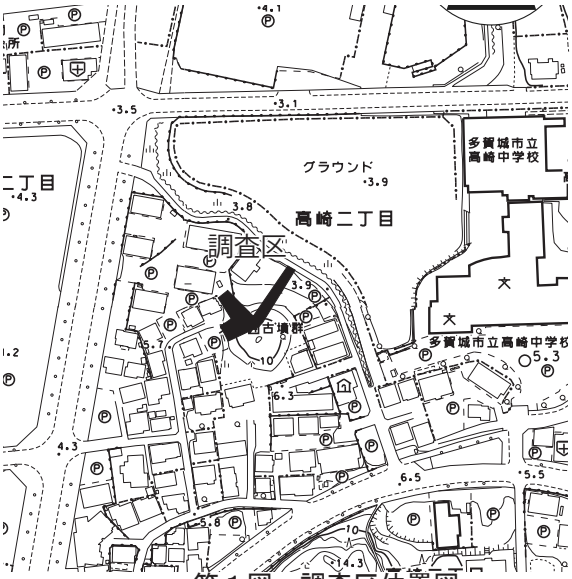
Ⅱ区Ｐ18断面（北から）

写真図版６

高崎古墳群第13次調査

１　要項

調 査 地　　高崎二丁目232番、234番１、234番６、230番３、230番９
調査原因　　個人住宅新築工事
調査担当　　千葉　孝弥
調査期間　　令和元年７月３日～同年９月30日
対象面積　　408.24㎡
調査面積　　192㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

7/3　重機による表土掘削、機材搬入（～ 7/9）
7/10　遺構検出作業、全景写真撮影
　　平面図、断面図作成（～ 9/26）
9/27　調査区埋め戻し、器材搬出（～ 9/30：調査終了）

３　調査成果

（１）層序

今回の調査で確認した層序は以下の通りである。
Ⅰ層　表土層。暗褐色土層（10YR3/4）。厚さは、20 ～ 60cm。
Ⅱ層　暗褐色土層（10YR3/1）。遺構検出面で、調査区中央部に残存している。厚さは約10 ～ 40cm
Ⅲ層　明黄褐色地山（10YR7/6）。遺構検出面である。

（２）発見遺構と遺物

調査区のほぼ中央部において、古代の整地層やそれと同時期の溝跡、Pit等を発見した。溝跡は、丘陵裾部を造成して開削したものであり、造成に伴う２時期の整地層を確認した。同様の整地層は、調査区の北側に位置する第４次調査（平成19年）、第６次調査（平成21年）でも発見しており、湿地に面した丘陵東斜面が、約100メートルにわたって造成されている状況を確認した。

大日南遺跡第 12 次調査

1　要項

調 査 地　多賀城市高橋四丁目 20 － 8、20 － 29

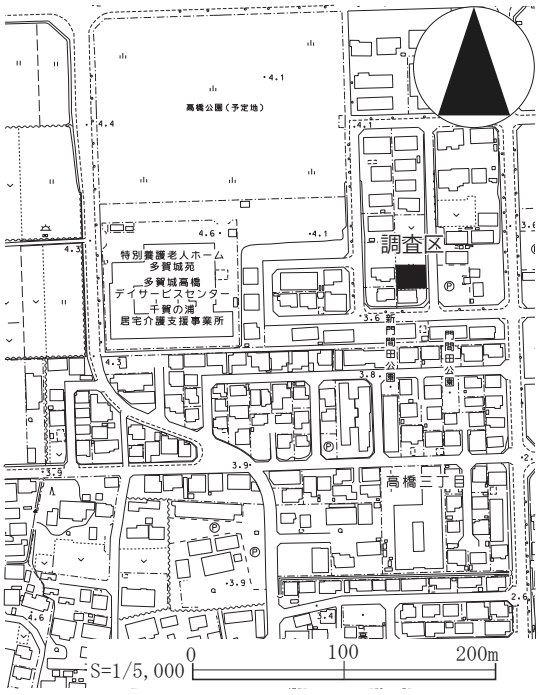
調査原因　個人住宅建築

調査担当　武田健市　高橋純平　村上詩乃　城口貴彰

調査期間　平成 26 年 4 月 10 日～同年 4 月 24 日

対象面積　90 ㎡

調査面積　63 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

4/10　重機による表土掘削
　　排水用側溝設置など環境整備

4/11　調査器材搬入、遺構検出作業、ＳＤ 500 をはじめ溝跡や土壙確認（～ 4/15）

4/16　調査区全景及び遺構個別写真撮影

4/17　平面図及び調査区壁面の断面図作成、実測基準点座標移動

4/22　調査器材搬出

4/24　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

本地区は、大日南遺跡南東端部に位置している。周辺では第３次調査Ｅ・Ｆ・Ｇ区が近接しており、連続する区画溝で囲まれた中世の屋敷跡を発見している。

本調査では、浅黄色砂質土（Ⅲ層）上面で溝跡や土壙を発見した。

（1）層序（第３図）

Ⅰ層：現代の盛土層であり、厚さは 70 ㎝である。

Ⅱ層：調査区中央～東部に認められる褐灰色砂質土（10YR4/1）である。

Ⅲ層：浅黄色砂質土（2.5Y7/4）であり、厚さは 30 ㎝以上である。本地区の最終遺構検出面である。

（2）発見遺構と遺物

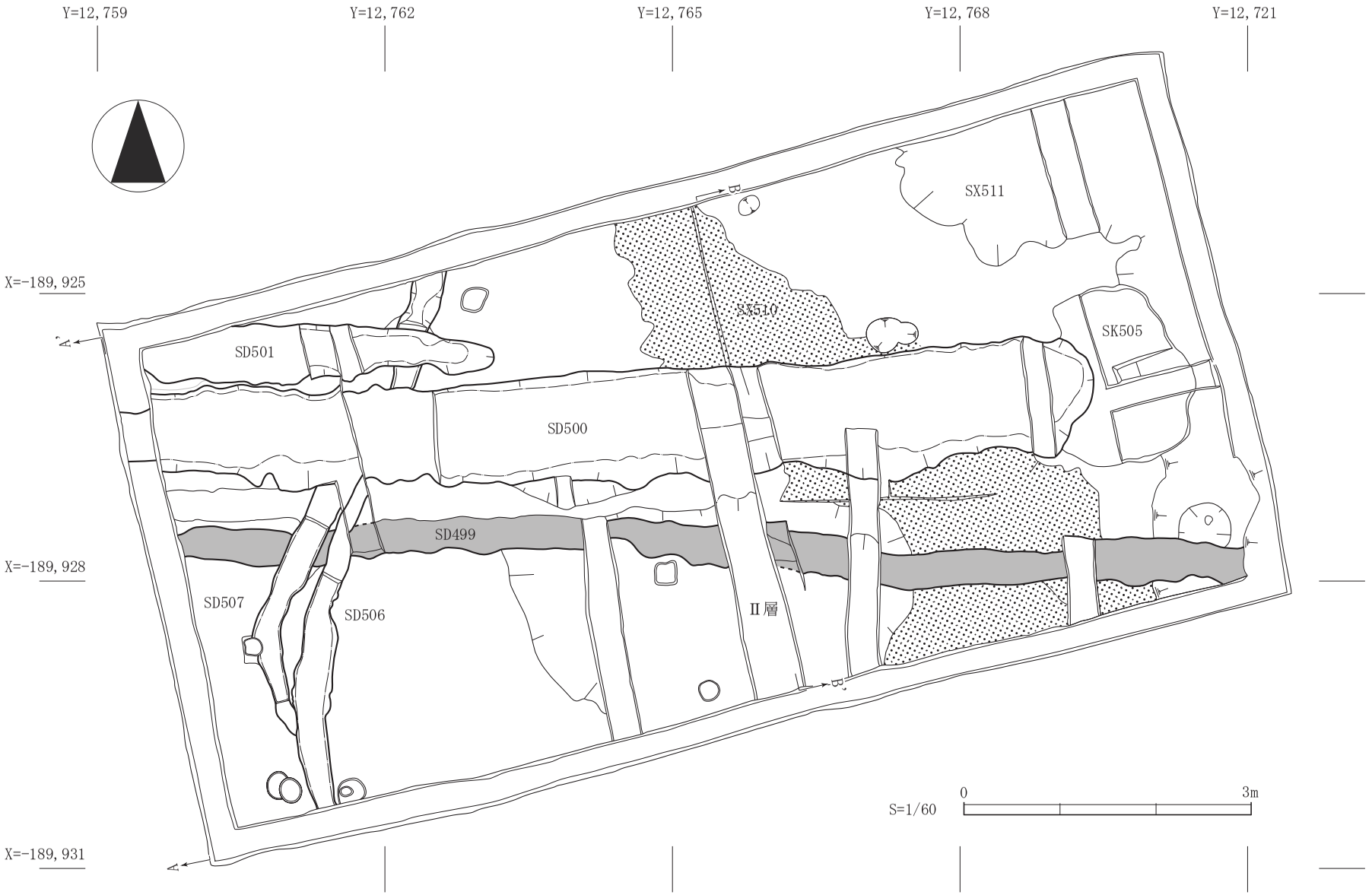
ＳＤ 500 溝跡（第２・３図）

【位置】Ⅲ層及び整地Ａ上面で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 506・507、ＳＫ 505、ＳＸ 510 と重複し、それらよりも新しい。

【方向】東で約３度北に偏している。

【規模】長さ 10 ｍ以上、上幅１～ 1.3 ｍであり、深さは調査区中央部及び西壁で約 30 ㎝である。


Y=12,759
Y=12,762
Y=12,765
Y=12,768
Y=12,721
X=-189,925
X=-189,928
X=-189,931
A
A'
B
B'
SX511
SX510
SK505
SD501
SD500
SD499
SD507
SD506
Ⅱ層
0
3m
S=1/60

第２図　遺構平面図

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がっている。底面は丸く窪んでおり、西から東に向かって僅かに傾斜している。

【埋土】調査区中央部で４層に細分できる（第３図３～６層）。３・６層は褐灰色砂質土（10YR6/1）であり、３層に浅黄色砂質土（2.5Y7/4）が斑状に多く混入している。４層は黒褐色砂質土（10YR3/1）、５層は黄灰色粘質土（2.5Y4/1）であり、５層には浅黄色砂質土（2.5Y7/4）及びにぶい黄褐色砂質土（10YR6/4）がブロック状に多く混入している。

【遺物】鞴羽口が出土している。

【年代】不明

ＳＤ 499 溝跡

【位置】ＳＸ 510 上面で発見した、東西方向の溝跡である。

【重複】ＳＤ 506・507、ＳＸ 510 と重複し、ＳＤ 506・507 よりも古く、ＳＸ 510 よりも新しい。

【方向】東で約１度南に偏している。

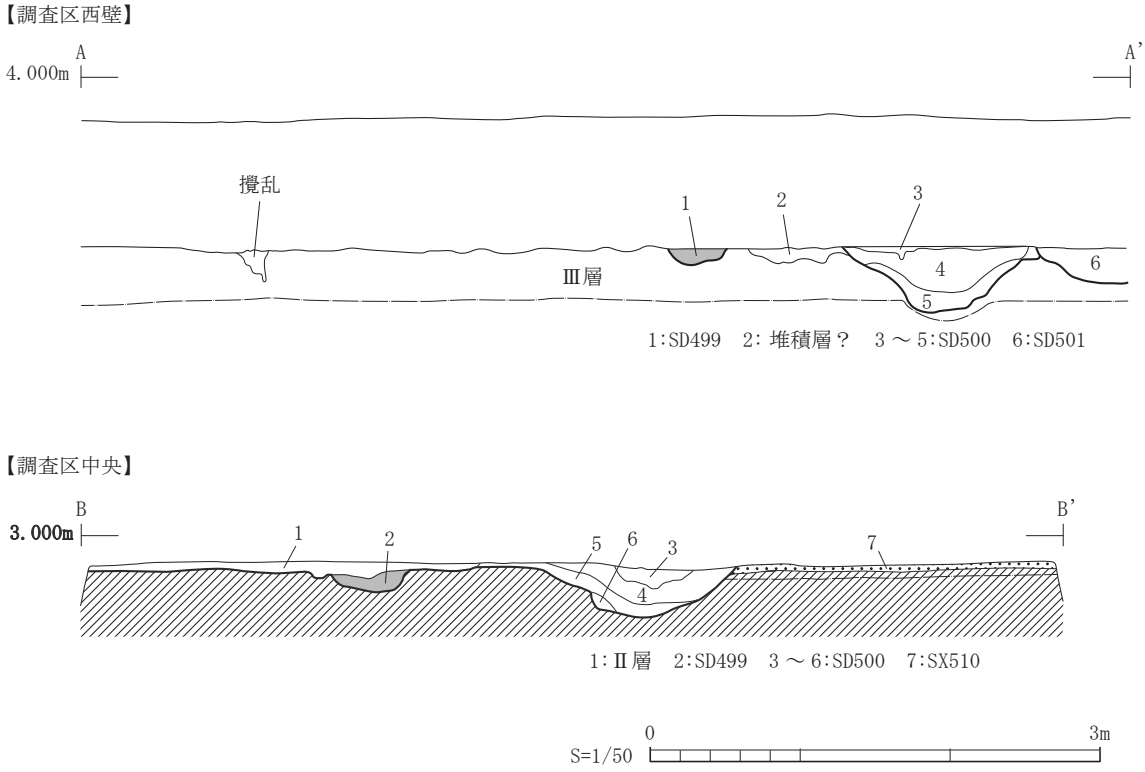
【規模】長さ 11.8 ｍ以上、上幅 36 ～ 42cm であり、深さは調査区中央部で約 10 ㎝である。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がっており、底面はおよそ平坦である。

【埋土】褐灰色砂質土（10YR6/1）であり、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）が斑状に多く混入している。

【遺物】砥石が出土している。

【年代】不明



第３図　調査区西壁他断面図

ＳＫ 505 土壙

【位置】調査区東部で発見した、南北に長い不整形の土壙である。

【重複】ＳＤ 500 と重複し、それよりも古い。

【規模】長軸約 1.8 ｍ、短軸約 1.5 ｍ、深さ 22 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。上層は浅黄色砂質土（2.5Y7/4）であり、褐灰色砂質土（10YR6/1）が斑状に混入している。下層は褐灰色砂質土（10YR5/1）が主体であり、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）が斑状に多く混入している。

【遺物】鉄滓が出土している。

【年代】不明

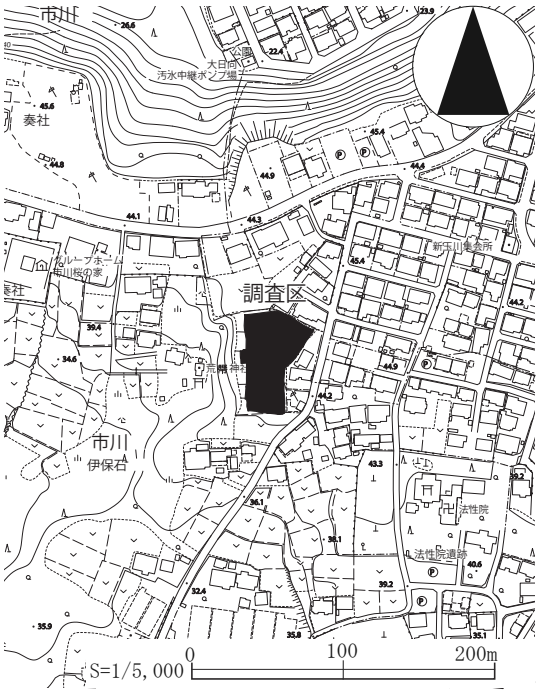
写真図版

調査区全景（南東から）

西沢遺跡第37次調査

1　要項

調 査 地　市川字伊保石55番、浮島字西沢60番１の一部
調査原因　宅地造成工事
調査担当　佐藤純平・李スルチョロン・赤澤靖章
調査期間　令和元年６月13日～令和２年２月26日
対象面積　3,295㎡
調査面積　2,655㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

6/13　調査区北側の重機による表土掘削、
　　調査機材搬入（～ 6/21）
6/22　調査区北側遺構検出作業、遺構検出写真撮影（
　　～ 7/17）
7/18　調査区北側遺構掘削作業、遺構断面図作成、全
　　体写真撮影（～ 11/22）
10/1　株式会社パスコとの測量支援業務委託契約締結
10/16　株式会社パスコによる遺構平面図・断面図作成（～ 3/20）
12/2　調査区北側埋め戻し、調査区南側表土掘削（～ 12/18）
12/19　調査区南側遺構検出、遺構掘削、全体写真撮影（～ 2/14）
1/30　株式会社パスコとの委託期間延長に係る変更契約締結
2/17　調査区南側埋め戻し、調査終了（～ 2/26）

3　調査成果

（１）層序（第２図）

Ⅰa層：灰色粘質シルト、現表土である。厚さは10 ～ 25cmである。調査区東側の堆積が浅く、約10cmでⅡ層となる。

Ⅰb層:黄灰色粘質シルト、炭化物をわずかに含む。現代の遺構（溝）の埋土である。

Ⅱ層：淡黄色粘土、炭化物をわずかに含む。平安時代の遺構の検出面である。

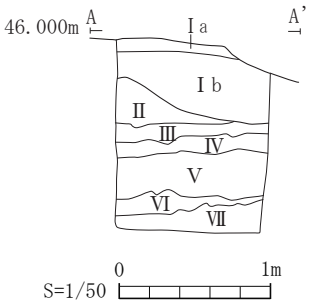
Ⅲ層：淡黄色粘土、灰白色土が混じる。

Ⅳ層：明黄褐色粘質シルト。

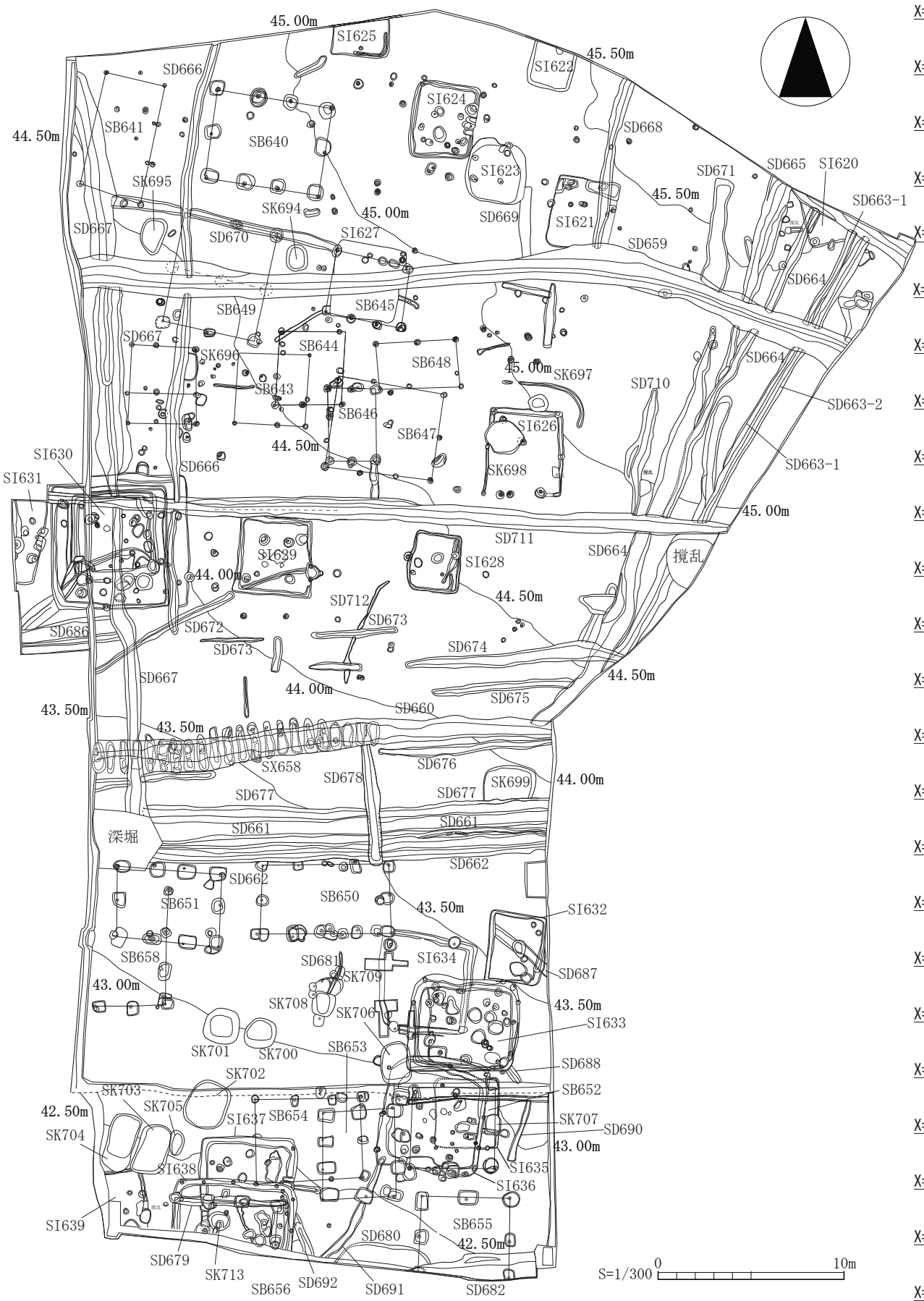
Ⅴ層：にぶい黄橙色粘質シルト。

Ⅵ層：明黄褐色粘土。

Ⅶ層：灰白色粘質シルト。



第２図　調査区南東壁断面図


X=-187614
X=-187617
X=-187620
X=-187623
X=-187626
X=-187629
X=-187632
X=-187635
X=-187638
X=-187641
X=-187644
X=-187647
X=-187650
X=-187653
X=-187656
X=-187659
X=-187662
X=-187665
X=-187668
X=-187671
X=-187674
X=-187677
X=-187680
X=-187683
Y=14235
Y=14238
Y=14241
Y=14244
Y=14247
Y=14250
Y=14253
Y=14256
Y=14259
Y=14262
Y=14265
Y=14268
Y=14271
Y=14274
Y=14277
Y=14280
S=1/300
0
10m
深堀
撹乱

第３図　調査区配置図

（２）発見した遺構と遺物

遺構はⅡ層上面で竪穴建物跡20棟、掘立柱建物跡18棟、土壙18基、溝跡37条、性格不明遺構２基を検出した。

ＳＩ620竪穴建物跡（第４図）

【位置】調査区北東端で発見した。

【重複】ＳＤ662・ＳＤ663a・ＳＤ664と重複しており、それより古い。

【遺存状態】溝跡３条に切られ、遺構上部も削平されていると推測される。北側は調査区外となる。

【平面形・方向】方形である。方向は、西辺で測ると北で西に13.3度偏している。

【規模】南北２．６ｍ以上、東西２．２ｍ以上である。

【周溝】確認されなかった。

【壁】床面から緩やかに立ち上がっている。壁の高さは最大14cmである。

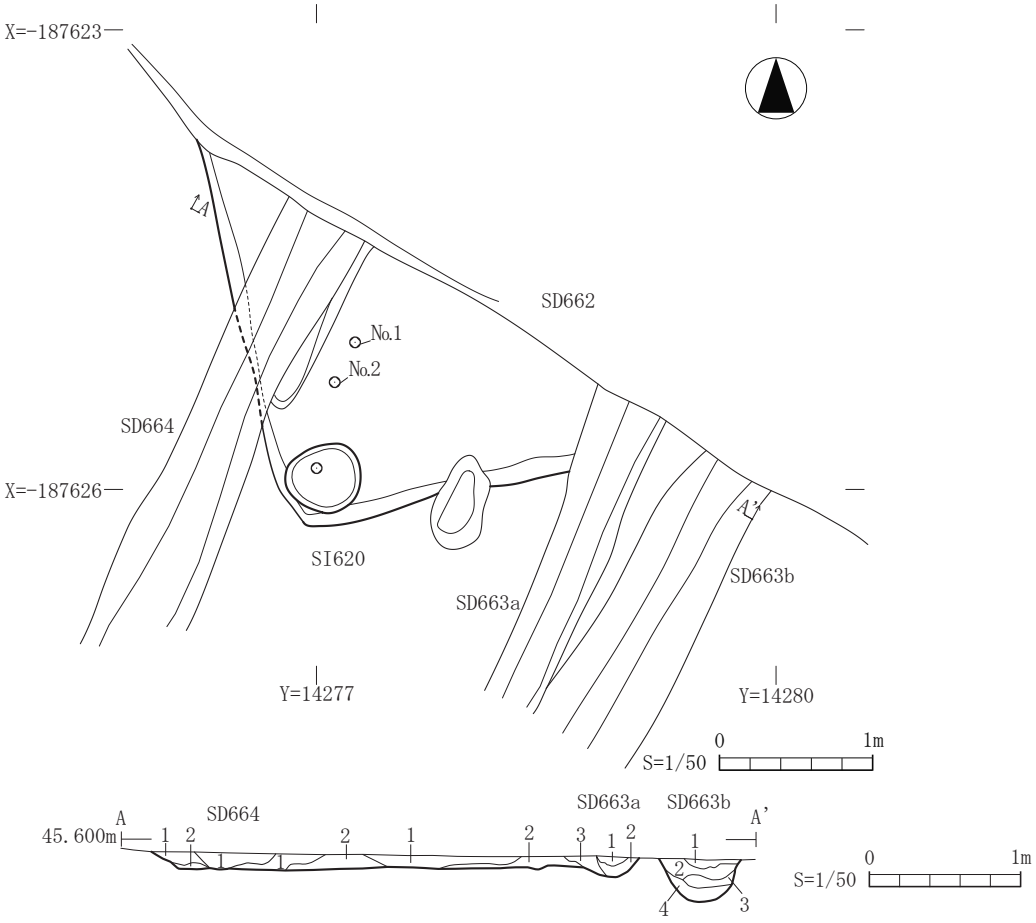
【カマド】検出部分では確認されなかった。

【付属施設】住居跡の南西隅の床面上でピット１基を確認した。柱穴ではない。

【柱穴】確認されなかった。

【遺物】埋土１層より土師器甕Ｂ類（No1・R19）、須恵器坏Ⅲ類、（No2・R70）、須恵器壺の底部などが出土している。

【年代】出土した須恵器坏より、９世紀中頃もしくは以前の時期と考えられる。

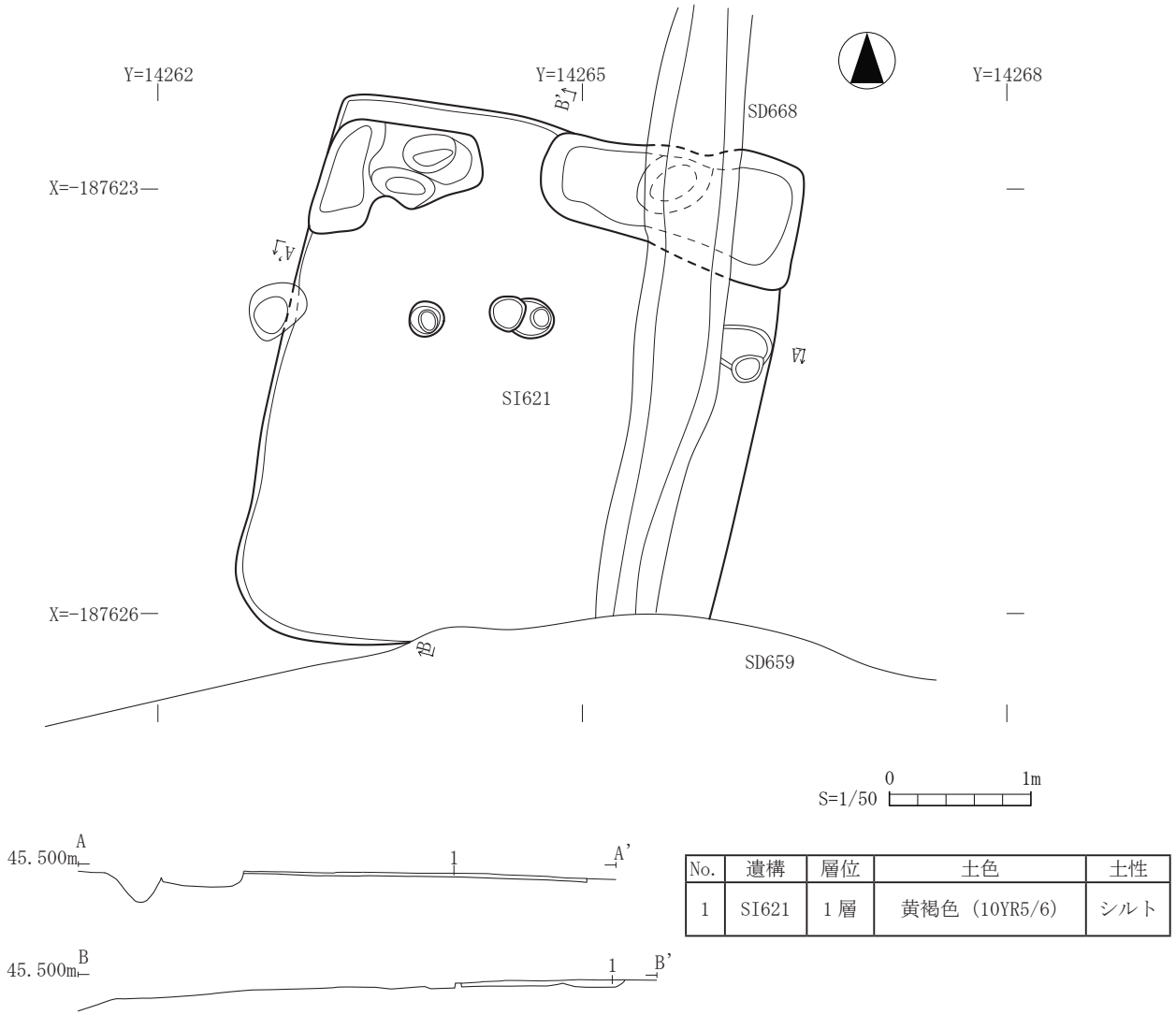


第４図　ＳＩ620竪穴建物跡平面図・断面図

ＳＩ620竪穴建物跡

No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI620	１層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
2	SI620	２層	黄褐色（10YR5/6）	シルト
3	SD664	１層	褐色（10YR5/1）	シルト
4	SD663a	１層	褐色（10YR5/1）	シルト
5	SD663a	２層	褐色（10YR6/1）	シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
6	SD663a	３層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
7	SD663b	１層	褐灰色（10YR5/1）	粘質シルト
8	SD663b	２層	褐灰色（10YR6/1）	シルト
9	SD663b	３層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
10	SD663b	４層	灰黄褐色（10YR6/2）	シルト



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI621	１層	黄褐色（10YR5/6）	シルト

第５図　ＳＩ621竪穴建物跡平面図・断面図

ＳＩ621竪穴建物跡（第５図）

【位置】調査区北部で発見した。

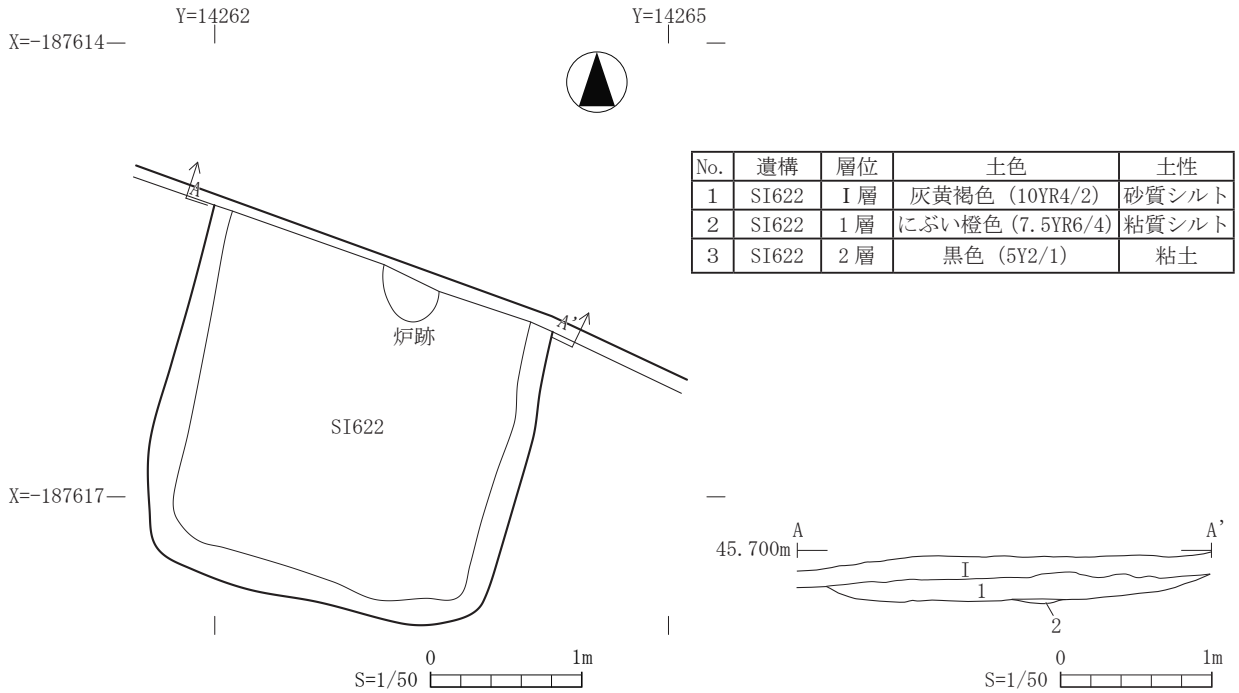
【重複】ＳＤ659・ＳＤ668と重複しており、それより古い。また、建物北半部に柱穴群が認められるが、当遺構に伴うものではなく、建物より新しいと考えられる。

【遺存状態】上部のほとんどを削平され、床面のみの検出である。

【平面形・方向】方形である。方向は、西辺で測ると北で東に約12度偏している。

【規模】南北5.9m、東西3.4mである。

【周溝】確認されなかった。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI622	Ⅰ層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト
2	SI622	1層	にぶい橙色（7.5YR6/4）	粘質シルト
3	SI622	2層	黒色（5Y2/1）	粘土

第６図　ＳＩ622竪穴建物跡平面図・断面図

【床面】床面は概ね平坦で、貼床は認められない。

【壁】削平のため、不明である。

【カマド】検出部分では確認されなかった。

【柱穴】建物に伴う柱穴は確認されなかった。

【遺物】埋土１層より須恵器甕の破片が出土している。

ＳＩ622竪穴建物跡（第６図）

【位置】調査区北端で発見した。

【重複】重複はない。

【遺存状態】北側は調査区外となる。

【平面形・方向】方形である。方向は、西辺で測ると北で東に約13度偏している。

【規模】南北2.5m以上、東西2.9mである。

【周溝】確認されていない。

【床面】平坦である。貼床は認められない。

【壁】床面から緩やかに立ち上がっている。壁の高さは最大30cmである。

【カマド】カマドではないと考えられるが、建物内の北端に焼土の広がりが確認された。規模は東西35cm、南北40cm以上である。北端は調査区外に広がる。

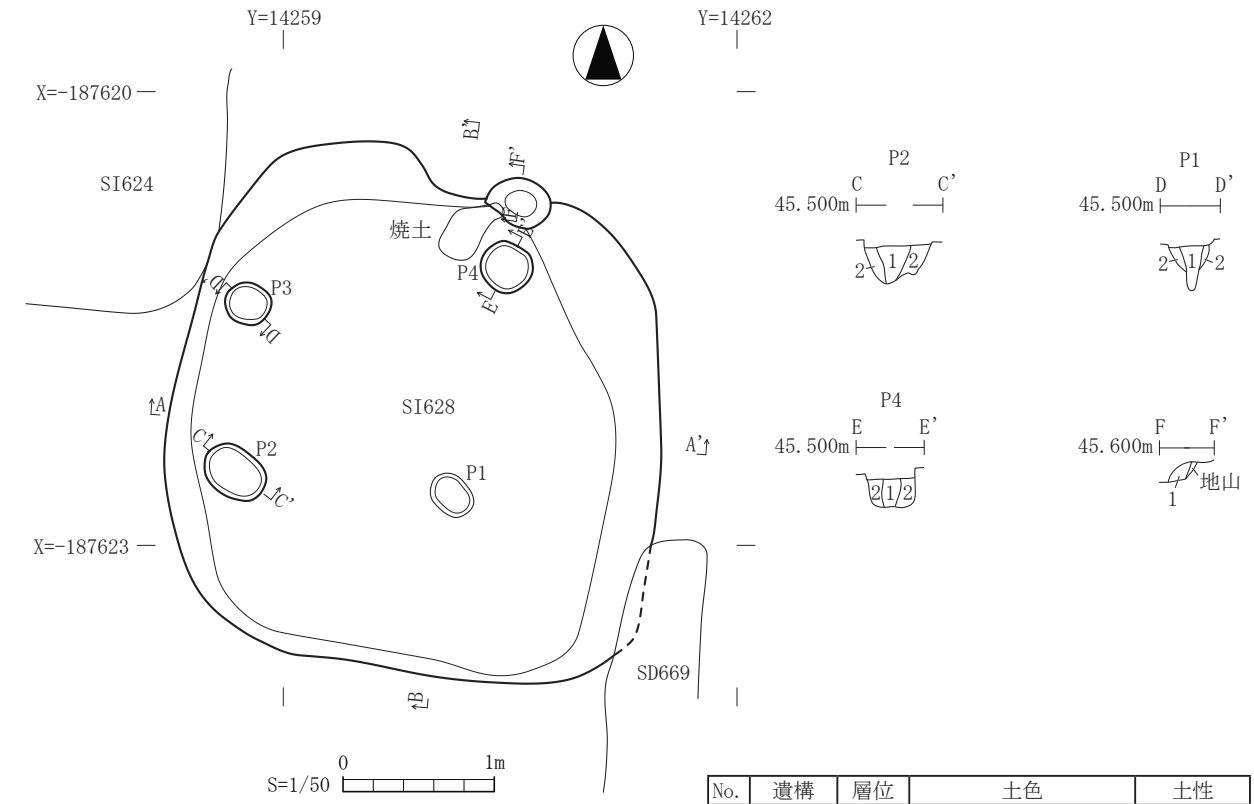
【柱穴】柱穴は確認されなかった。

【遺物】遺物は出土していない。

ＳＩ623竪穴建物跡（第７図）

【位置】調査区北端で発見した。

【重複】ＳＩ624・ＳＤ669・Ｐ１～４と重複している。ＳＤ669・Ｐ１～４より古く、ＳＩ624より新しい。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI623	1層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト
2	SI623	2層	橙色（7.5YR6/6）	シルト
3	SI623	3層	赤褐色（2.5YR4/6）	粘質シルト
4	P1	1層	灰白色（10YR7/1）	砂質シルト
5	P1	2層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト
6	P1	3層	明黄褐色（10YR6/8）	砂質シルト
7	P2	1層	橙色（7.5YR6/8）	砂質シルト
8	P2	2層	橙色（7.5YR6/6）	砂質シルト
9	P3	1層	灰色（10Y5/1）	粘質シルト
10	P3	2層	明黄褐色（10YR7/6）	砂質シルト
11	P4	1層	灰白色（7.5YR7/1）	粘質シルト
12	P4	2層	灰白色（10Y8/1）	シルト
13	F-F´	1層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト

第７図　ＳＩ623竪穴建物跡平面図・断面図

【遺存状態】西側にかけて削平され、遺構の残りが浅い。

【平面形・方向】隅丸方形である。方向は、東辺で測ると北で西に約11度偏している。

【規模】南北3.4m、東西3.3mである。

【周溝】確認されなかった。

【床面】概ね平坦である。貼床は認められない。

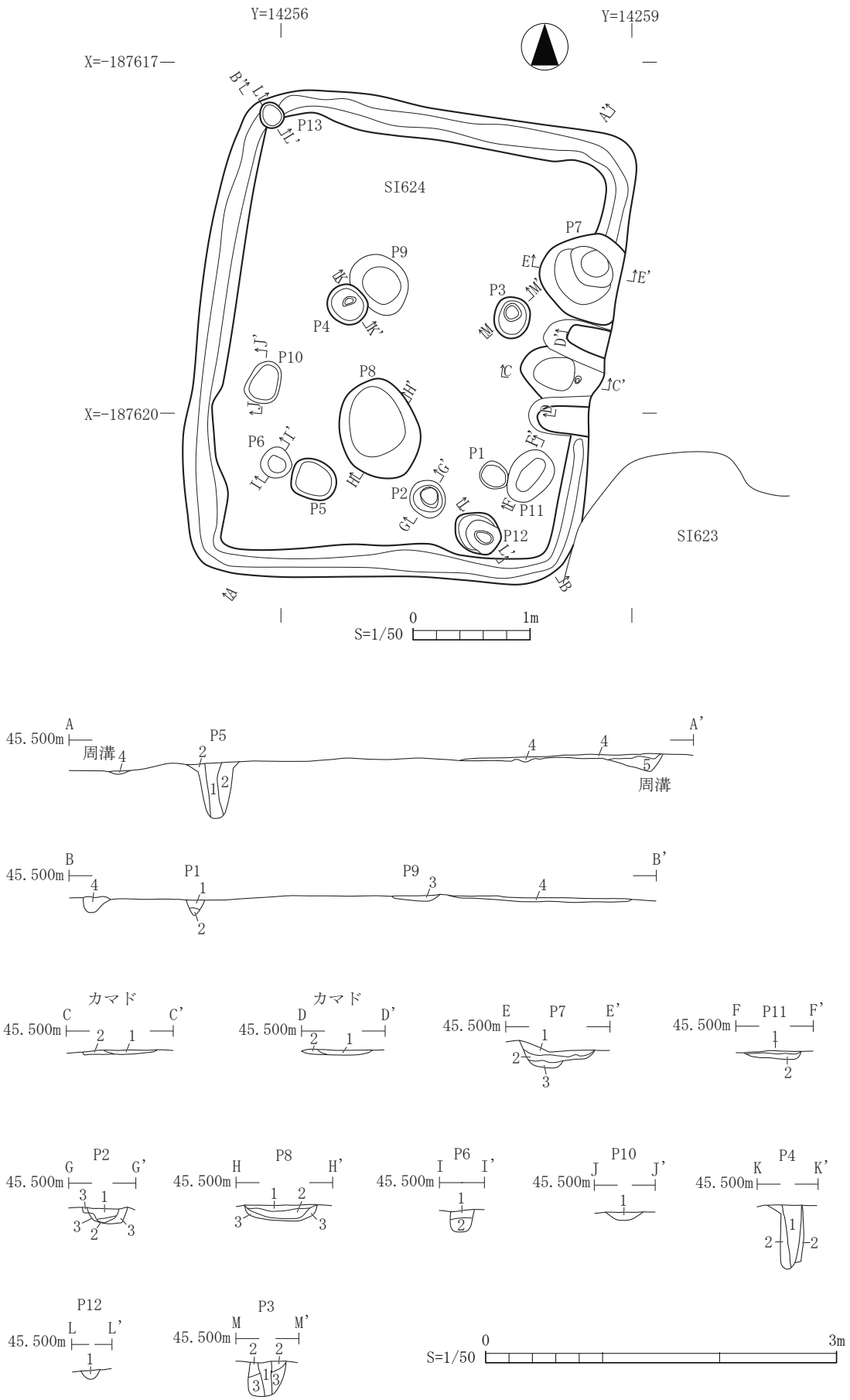
【壁】周溝から緩やかに立ち上がっている。壁の高さは最大30cmである。

【カマド】北辺やや東寄りに敷設され、床面に燃焼部と考えられる焼土面を確認した。燃土の規模は幅25cm、長さ60cmである。

【遺物】埋土２層より土師器坏（内面黒色処理）、土師器甕の破片が出土している。

ＳＩ624竪穴建物跡（第８図）

【位置】調査区北端で発見した。



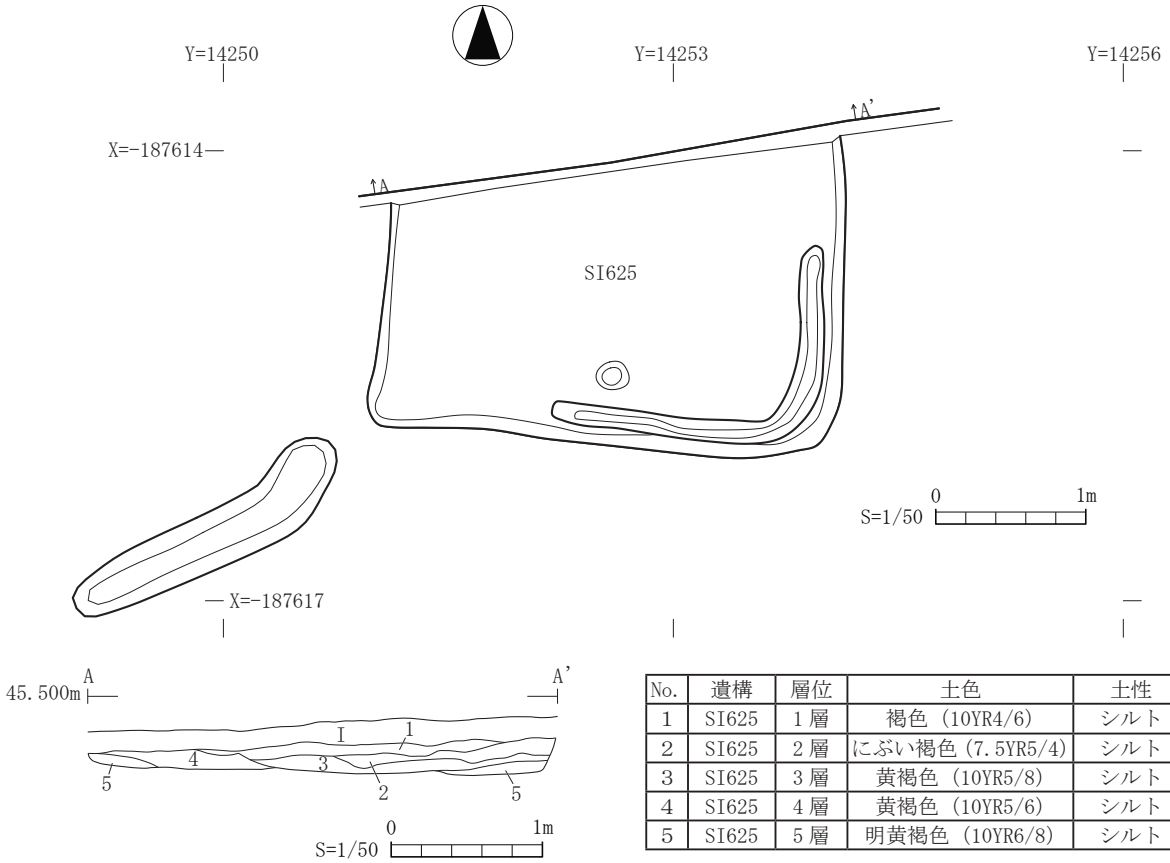
第８図　ＳＩ624竪穴建物跡平面図・断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	P1	1層	灰白色（10YR8/1）	砂質シルト
2	P1	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
3	P9	3層	灰白色（7.5YR5/2）	粘質シルト
4	P5	1層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
5	P5	2層	灰白色（10YR7/1）	砂質シルト
6	P5	3層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
7	SI624	4層	灰白色（5Y8/1）	砂質シルト
8	SI624	5層	明褐灰色（5YR7/1）	砂質シルト
9	カマド	1層	明赤褐色（2.5YR5/8）	シルト
10	カマド	2層	灰白色（5Y8/1）	砂質シルト
11	P7	1層	黄灰色（2.5Y5/1）	砂質シルト
12	P7	2層	灰白色（2.5Y7/1）	粘質シルト
13	P7	3層	黄橙色（10YR7/8）	粘土
14	P2	1層	灰白色（10Y8/1）	砂質シルト
15	P2	2層	黄橙色（7.5YR7/8）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
16	P2	3層	灰白色（5Y7/1）	砂質シルト
17	P3	1層	灰白色（10Y8/1）	砂質シルト
18	P3	2層	黄色（2.5Y7/8）	粘土
19	P3	3層	灰白色（5Y8/1）	砂質シルト
20	P4	1層	黄灰色（2.5Y6/2）	砂質シルト
21	P4	2層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
22	P6	1層	灰白色（10Y8/1）	砂質シルト
22	P6	2層	黄灰色（2.5Y6/1）	粘土
23	P8	1層	灰白色（7.5Y8/1）	砂質シルト
24	P8	2層	灰白色（7.5Y7/1）	シルト
25	P8	3層	灰白色（10YR7/1）	砂質シルト
26	P10	1層	灰色（5Y4/1）	粘質シルト
27	P11	1層	灰白色（5Y7/1）	シルト
28	P11	2層	灰白色（10YR7/1）	砂質シルト
29	P12	1層	灰白色（10Y8/1）	粘質シルト

【重複】ＳＩ623と重複しており、それより古い。
【遺存状態】上部を削平されており、建物の床面と周溝のみ検出された状態である。
【平面形・方向】方形である。方向は、西辺で測ると北で東に約９度偏している。
【規模】南北（西辺側）4.2m、東西3.5mである。
【周溝】建物の壁沿い全辺で確認した。上幅は20 ～ 35cm、深さ12cmである。
【床面】平坦である。削平のため、貼床の有無は不明である。
【壁】床面のみの残存のため、壁の立ち上がりは不明である。
【カマド】東壁に敷設され、燃焼部と側壁部を確認した。燃焼部の規模は幅45cm、奥行70cmである。燃焼部には、焼土や炭化物が認められる。また、燃焼部中央の建物壁面寄りに直径10cmほどの小ピットが認められた。支脚を設置した痕と考えられる。カマドの袖はⅡ層を削り出してつくられている。煙道部は認められない。
【付属施設】カマド北隣に貯蔵穴と考えられられるＰ７が認められる。円形で規模は直径75cm、床面からの深さは15cmである。須恵器壺・坏、土師器甕破片が出土している。また、楕円形の土壙状となるＰ８が建物中央南寄りに確認され、瓦が出土した。
【柱穴】床面上で柱穴を６基（Ｐ１・３・４・５・６・12)、浅いピットを４基（Ｐ２・９・10・11）を確認した。建物に伴う柱穴と考えられるのは、Ｐ３～５・12の４基である。
【遺物】Ｐ７埋土１層より須恵器壺（R19)、埋土１層より須恵器高台付坏（R71)、土師器坏Ｂ類（R72)、須恵器坏Ⅲ類（R102）が出土している。
【年代】出土した須恵器坏・高台坏より、９世紀前半から中頃と考えられる。

ＳＩ625竪穴建物跡（第９図）
【位置】調査区北端で発見した。
【重複】重複はない。
【遺存状態】北半分が調査区外となる。
【平面形・方向】方形である。方向は、南辺で東に約５度偏している。
【規模】南北2.1m以上、東西3.1mである。
【周溝】南辺・東辺で確認した。上幅は15 ～ 20cm、深さ３～４cmである。
【床面】北壁の明黄褐色土、５層が貼床と考えられる。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI625	1層	褐色（10YR4/6）	シルト
2	SI625	2層	にぶい褐色（7.5YR5/4）	シルト
3	SI625	3層	黄褐色（10YR5/8）	シルト
4	SI625	4層	黄褐色（10YR5/6）	シルト
5	SI625	5層	明黄褐色（10YR6/8）	シルト

第９図　ＳＩ625竪穴建物跡平面図・断面図

【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大22cmである。

【カマド】確認されていない。

【付属施設】建物跡南西隅から33cmほど離れているが、南西方向に伸びる溝を発見しており、外延溝の可能性が考えられる。溝は上30 ～ 35cmである。

【柱穴】建物に伴う柱穴は確認されていない。

【遺物】埋土１層より土師器坏Ｂ類の破片、埋土４層より土師器甕の破片、平瓦の破片が出土している。

ＳＩ626竪穴建物跡（第10図）

【位置】調査区中央のやや北東寄りで発見した。

【重複】ＳＫ697・ＳＫ698と重複しており、それより古い。

【遺存状態】上部を削平されており、遺存状態は良くない。床面と周溝の検出となり、南辺は削平が深く、周溝も失われている。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で東に約10度偏している。

【規模】南北4.6m、東西4.2mである。

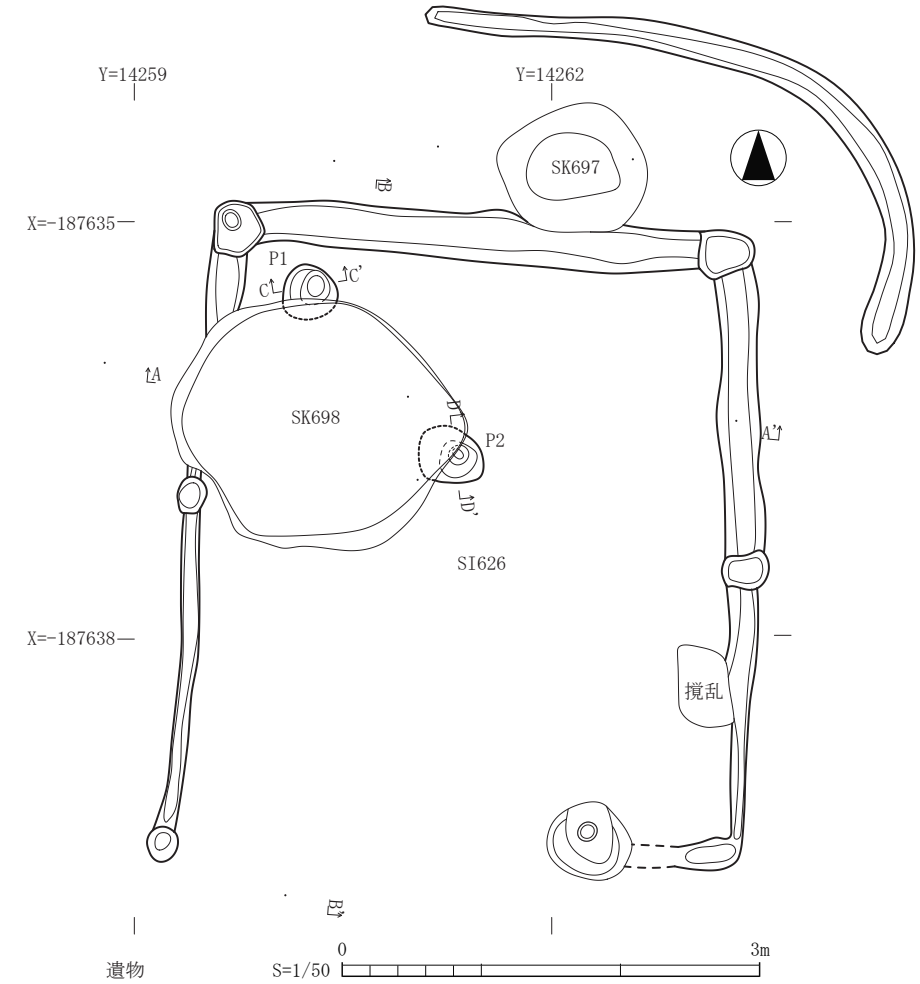
【周溝】四辺で確認した。南西側が削平により失われている。上幅は10 ～ 50cm、深さ10cmである。

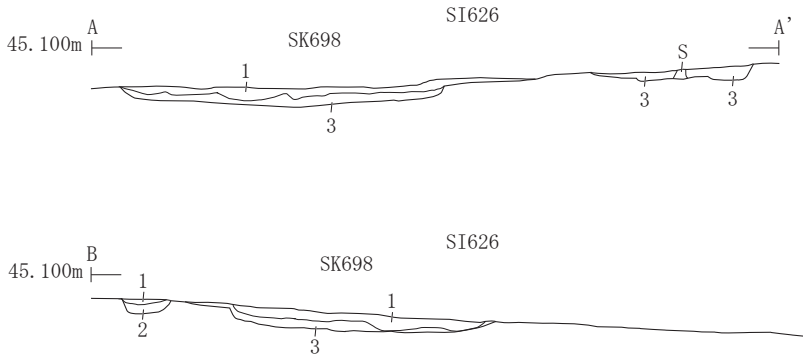
【床面】黄色土ブロックを含む灰白色砂質シルト層が認められ、これが貼床と考えられる。

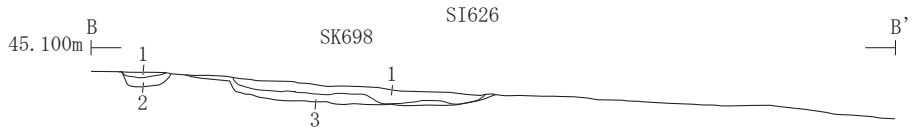
【壁】削平により、不明である。

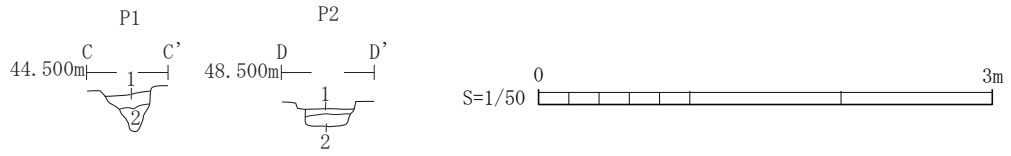
【カマド】確認されていない。

【付属施設】建物跡の1.4mほど北東側を囲うような溝を発見した。位置関係から建物跡の外周溝の可能性









No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI626	1層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
2	SI626	2層	褐灰色（7.5YR6/1）	砂質シルト
3	SK698	1層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
4	SK698	2層	灰白色（7.5Y7/1）	シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
5	P1	1層	灰褐色（5YR6/2）	砂質シルト
6	P1	2層	灰黄色（2.5Y6/2）	粘質シルト
7	P2	1層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
8	P2	2層	黄橙色（10YR8/8）	粘土

第10図　ＳＩ626竪穴建物跡平面図・断面図

が考えられる・幅15 ～ 30cmである。

【柱穴】周溝内に壁柱穴５基を確認した。壁柱穴は、直径20 ～ 40cm、検出面からの深さ10 ～ 20cmである。

【遺物】埋土より、土師器坏Ｂ類の破片、須恵器甕と須恵器壺の体部破片が出土している。

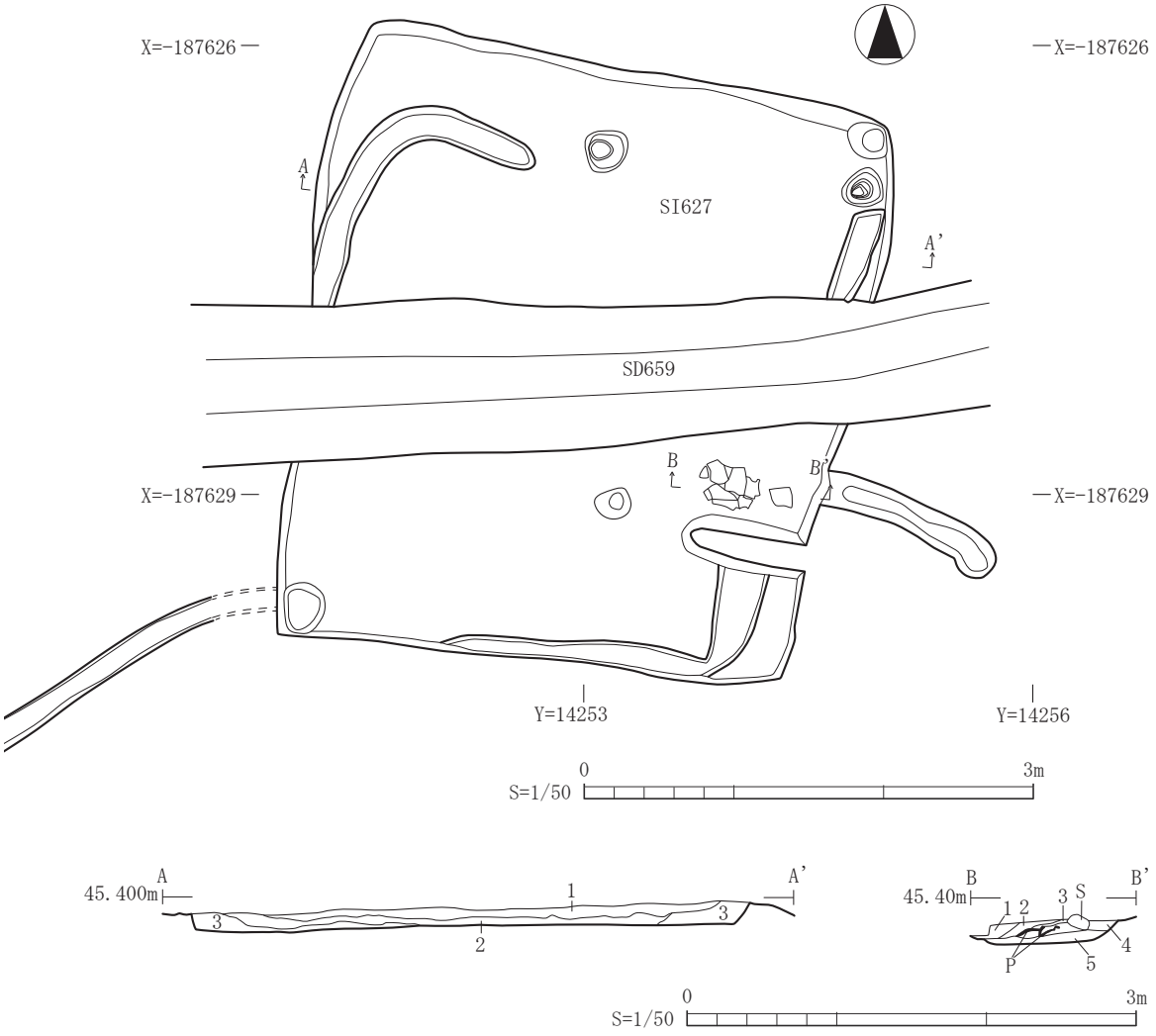
ＳＩ627竪穴建物跡（第11図）

【位置】調査区北側で発見した。

【重複】ＳＢ645より新しい。、ＳＤ659より古い。住居跡床面に、当建物跡の古い段階に伴う周溝が認められ、新しい時期に北に拡張されたことが分かる

【遺存状態】南側がやや削平され、壁の立ち上がりが浅い。

【平面形・方向】方形である。方向は、西辺で測ると北で東に約８度偏している。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI627	１層	灰黄褐色（10YR6/2）	シルト
2	SI627	２層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
3	SI627	３層	褐灰色（10YR5/1）	シルト
4	カマド	１層	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト
5	カマド	２層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
6	カマド	３層	暗赤灰色（2.5YR3/1）	粘質シルト
7	カマド	４層	赤褐色（2.5YR4/8）	シルト
8	カマド	５層	灰白色（5Y7/1）	粘質シルト

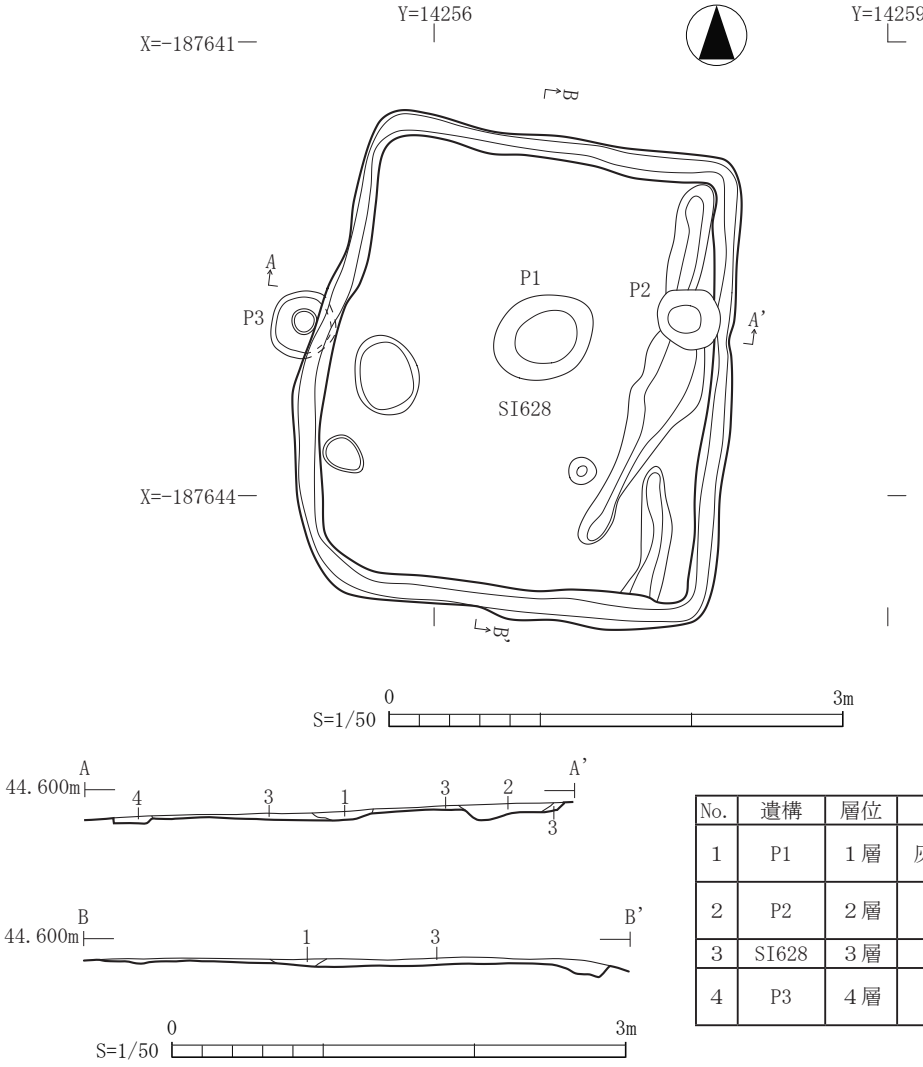
第11図　ＳＩ627竪穴建物跡平面図・断面図

【規模】新しい建物跡の規模は南北4.15m、東西3.8mであり、古い建物跡は、南北3.6m、東西3.5mである。
【周溝】新しい建物跡には周溝はない、古い建物跡では建物南西隅や北辺の東側では認められないが、他の各辺に認められる。上幅は12～34cm、深さ約５cmである。
【床面】床面に整地とみられる褐灰色シルトが認められ、これが貼床と考えられる。
【壁】垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大15cmである。
【カマド】新しい建物跡では東辺に敷設され、燃焼部と側壁部、煙道部を確認した。燃焼部の規模は幅約40cm、奥行約80cmである。燃焼部の覆土からは大量の焼土と、炭化物も確認できる。カマド内からは須恵器横瓶が壊されたような状態で出土した。カマド廃棄に伴う儀礼行為になるものと推測される。煙道部は1.2m、幅20～25cm、深さ約10cmである。古い建物跡のカマドは新しい建物跡と同じ場所にあったと思われる。
【付属施設】建物跡南西角から南西方向に伸びると思われる溝を確認しており、外延溝の可能性が考えられる。溝は上幅15cmである。
【柱穴】建物跡に伴うと考えられる柱穴は確認されなかった。
【遺物】カマド内から、須恵器横瓶（Ｒ２）、須恵器壺の体部破片（Ｒ３）、またカマドの南脇の埋土中から土師器甕底部、土師器坏Ｂ類、埋土１層より須恵器坏Ⅲ類が出土している。

ＳＩ628竪穴建物跡（第12図）
【位置】調査区中央部で発見した。
【重複】Ｐ１～３と重複しており、Ｐ１・２より古く、Ｐ３より新しい。東辺に古い建物跡の周溝が残っており、新たに東に拡張されたと思われる。
【遺存状態】上部のほとんどを削平され、床面・周溝しか残されていない。
【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で東に約５度偏している。
【規模】新しい建物跡は南北3.2m、東西2.9mである。古い段階の建物跡は、南北3.2m、東西2.5mである。
【周溝】新しい建物跡の四辺で確認した。上幅は10～25cm、深さ２～10cmである。また、古い建物跡の周溝の上幅は20～50cmである。
【床面】平坦である。黄褐色土の貼床が認められる。
【壁】削平され、壁は残存していない。
【カマド】確認されなかった。
【付属施設】建物跡南西角から1.4m離れているＳＤ712が、位置関係からこの建物に付属する外延溝である可能性がある。
【柱穴】建物跡に伴うと考えられる柱穴は確認されなかった。
【遺物】埋土1層より、土師器甕Ｂ類の破片、須恵器甕の破片、少量の鉄滓が出土している。

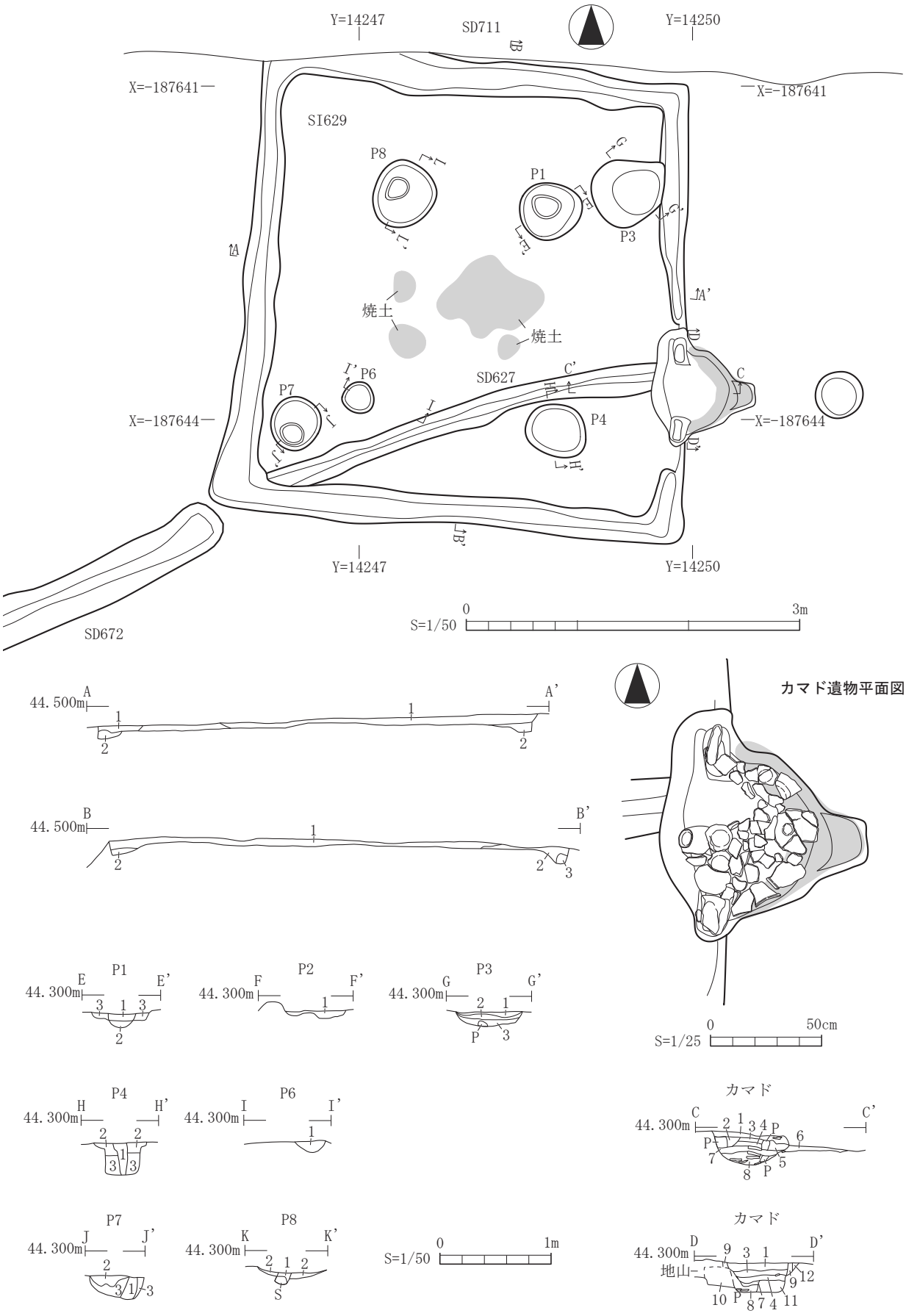
ＳＩ629竪穴建物跡（第13図）
【位置】調査区中央部で発見した。
【重複】ＳＤ711と重複しており、それより古い。
【遺存状態】上部がやや削平されている。壁の立ち上がりは浅い。
【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で東に約２度偏している。
【規模】南北4.2m、東西4.3mである。

【周溝】４辺で確認した。上幅は15 ～ 30cm、深さ７～ 15cmである。
【床面】床面は平坦である。黄色土ブロックが混じる灰白色砂質シルトが貼床と考えられる。
【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。削平されており壁の高さは最大８cmである。
【カマド】東辺南寄りに敷設され、燃焼部と側壁部、煙道の一部、煙出しピットを確認した。燃焼部の規模は幅50cm、奥行60cmである。燃焼部底面には、須恵器・土師器片が東西80cm、南北60cmの範囲で敷き詰められていた。燃焼部は被熱し赤変している。燃焼部奥には、土師器甕の下半を逆位に設置した支脚と思われる施設が認められる。カマドの袖には礫が骨組みとして入れられ、粘土を貼って構築されている。煙道は長さ25cm以上、最大幅は30cmである。煙出しピットは直径35cmである。
【付属施設】床面に焼土の広がりが４か所認められる。建物中央には、東西95cm、南北75cm、その周囲に直径20 ～ 30cmの大きさのものが分布する。また、床面でカマドから西南西方向に延びる溝を検出した。また、建物跡南西角から南西方向に伸びる溝を確認しており、建物内の溝と接続する外延溝の可能性が考えられる。溝は上幅30cmである。幅20 ～ 25cm、深さ４～ 12cmである。その他、浅いピットのＰ６、断面形が皿状で貯蔵穴と思われるＰ３がある。
【柱穴】床面上で柱穴を４基（Ｐ１・４・７・８）を確認した。Ｐ４・７は断面で柱痕が確認される。Ｐ１・８は深さ約10cm程度と浅い。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	P1	１層	灰黄褐色（10YR4/2）	粘質シルト
2	P2	２層	黒褐色（10YR3/2）	粘質シルト
3	SI628	３層	黄褐色（10YR5/6）	粘土
4	P3	４層	黒褐色（10YR3/2）	粘質シルト

第12図　ＳＩ628竪穴建物跡平面図・断面図



第13図　ＳＩ629竪穴建物跡平面図・断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI10	1層	灰白色（10Y7/1）	砂質シルト
2	SI10	2層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
3	SI10	3層	灰白色（7.5Y7/1）	砂質シルト
4	SP1	1層	灰白色（10YR5/1）	砂質シルト
5	SP1	2層	灰白色（7.5Y7/1）	シルト
6	SP1	3層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
7	SP3	1層	灰白色（10Y7/1）	粘質シルト
8	SP3	2層	黄色（5Y7/6）	粘土
9	SP3	3層	灰白色（7.5Y7/1）	砂質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
10	SP4	1層	灰白色（10Y7/1）	シルト
11	SP4	2層	灰白色（5Y7/1）	砂質シルト
12	SP4	3層	灰白色（5Y7/1）	粘質シルト
13	SP6	1層	灰白色（10Y7/1）	砂質シルト
14	SP6	2層	灰色（10Y6/1）	シルト
15	SP7	1層	灰白色（10Y7/1）	粘質シルト
16	SP7	2層	灰色（10Y6/1）	シルト
17	SP7	3層	明黄褐色（2.5Y7/6）	粘土
18	SP8	1層	灰白色（10Y7/1）	砂質シルト
19	SP8	2層	灰白色（7.5Y7/1）	シルト

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
20	カマド	1層	灰白色（2.5Y7/1）	砂質シルト	締まり　やや大　粘性　小　1mmほどの黄褐色土ブロックが混じる。覆土。
21	カマド	2層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト	締まり　大　粘性　やや小　土器の底部を含む。覆土。
22	カマド	3層	にぶい黄橙色（10YR7/4）	砂質シルト	締まり　大　粘性　やや小　20～50mmほどの焼土、灰白色土ブロックが混じる。覆土。
23 24	カマド	4層	にぶい黄橙色（10YR7/2）	粘質シルト	締まり　やや大　粘性　大　5mmほどの鉄分が混じる。覆土。
25	カマド	5層	灰白色（10Y7/1）	粘土	締まり　大　粘性　大　崩れた天井の構築材。
26	カマド	6層	灰白色（7.5Y7/1）	粘質シルト	締まり　大　粘性　やや大　崩れた天井の粘土が広がったもの。
27	カマド	7層	明黄褐色（2.5Y7/6）	粘土	締まり　やや大　粘性　大　30mmほどの焼土ブロックが混じる。
28	カマド	8層	橙色（2.5YR7/8）	シルト	締まり　大　粘性　やや大　焼土、焼成面。。
29	カマド	9層	灰白色（5Y7/2）	シルト	締まり　大　粘性　やや大　焼土混じり。袖を構成する充填材。
30	カマド	10層	灰白色（10YR）	粘土	締まり　大　粘性　大　生きている粘土。袖口を構成するもの。
31	カマド	11層			土器（須恵器、土師器）が集中する。
32	カマド	12層	明赤褐色（2.5YR5/8）	砂質シルト	締まり　大　粘性　中　焼土、空焚き時に形成されたもの。炉の壁。

【遺物】カマド底面より、遺物がまとまって出土している。埋土２層より須恵器坏Ⅲ類（Ｒ４・No33）、須恵器坏Ⅲ類（Ｒ５・No34）、カマド内埋土から須恵器坏Ⅲ類（Ｒ６）、須恵系土器坏（R7）、須恵器壺（R20・No17・3・21）、土師器甕Ｂ類（R21・No12他）、須恵器高台付坏（R22・No13、8、26他）、須恵器坏Ⅲ類（R23・No7）、須恵器坏Ⅲ類（R25・No1）、建物内溝跡の埋土１層より有孔の砥石（R26・No1）が出土している。Ｐ３からはNo42・43の土器が出土した。

【年代】カマド内底面より出土した須恵器坏より、９世紀前半の時期と考えられる。

ＳＩ630竪穴建物跡（第14～18図）

【位置】調査区中央の西端で発見した。

【重複】ＳＤ666・667・771と重複しており、それより古い。当建物跡は周溝から４段階の変遷が確認され、最も新しい段階から、ＳＩ630a、b、c、dとした。

【遺物】ＳＩ630aの覆土中の遺物をここでは述べ、各建物跡に帰属すると思われる遺物を後述する。

竈形土器（Ｐ１埋土１層・R27）・須恵器坏（埋土１層・R32）、土師器坏ＢＶ類（埋土１層・R33）、土師器坏ＢＶ類（埋土１層・R34）、砥石（Ｐ１埋土１層・R40）、金属製品（埋土１層）が出土した。埋土１層中の遺物は、須恵器坏や土師器坏より９世紀後半の年代と考えられる。

その他、緑釉陶器坏の破片、須恵器甕の口縁部破片、須恵器長頸瓶、強く被熱し硬化した粘土ブロック、平瓦破片が埋土１層から、平瓦の破片がＰ１埋土１層から出土している。

なお、各建物跡について以下に詳細を述べる。

ＳＩ630ａ竪穴建物跡（第14図）

【重複】ＳＩ630建物跡群の中で、最も新しい４段階目である。

【遺存状態】周溝、床面のみの検出である。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で西に約１度偏している。

【規模】南北6.6m、東西6.3mである。

【周溝】四辺で確認した。上幅は約10 ～ 30cm、深さ約20 ～ 40cmである。

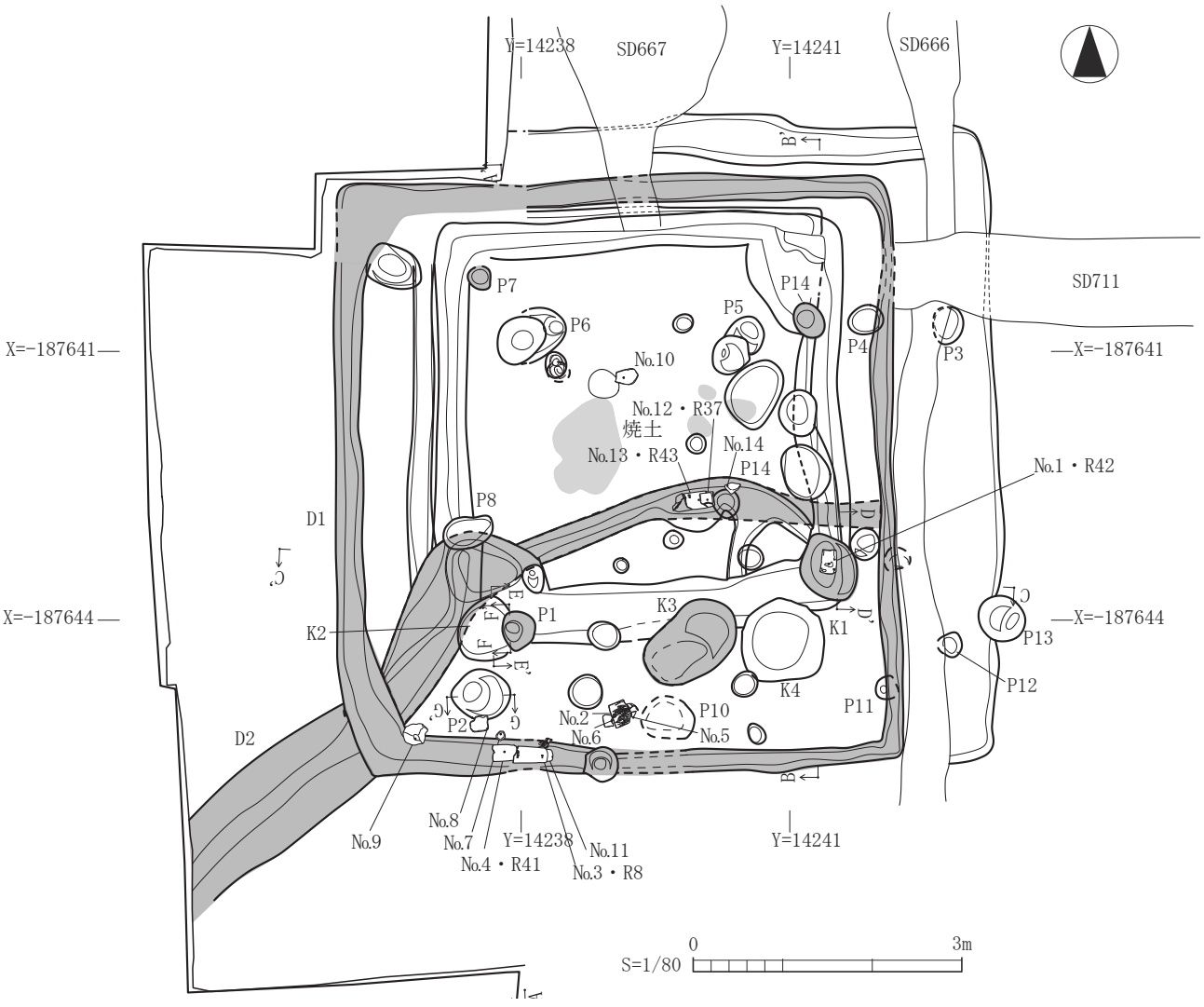
【床面】整地とみられる黄色土ブロックを含む暗赤褐色土が認められ、これが貼床と考えられる。

【壁】削平により失われている。

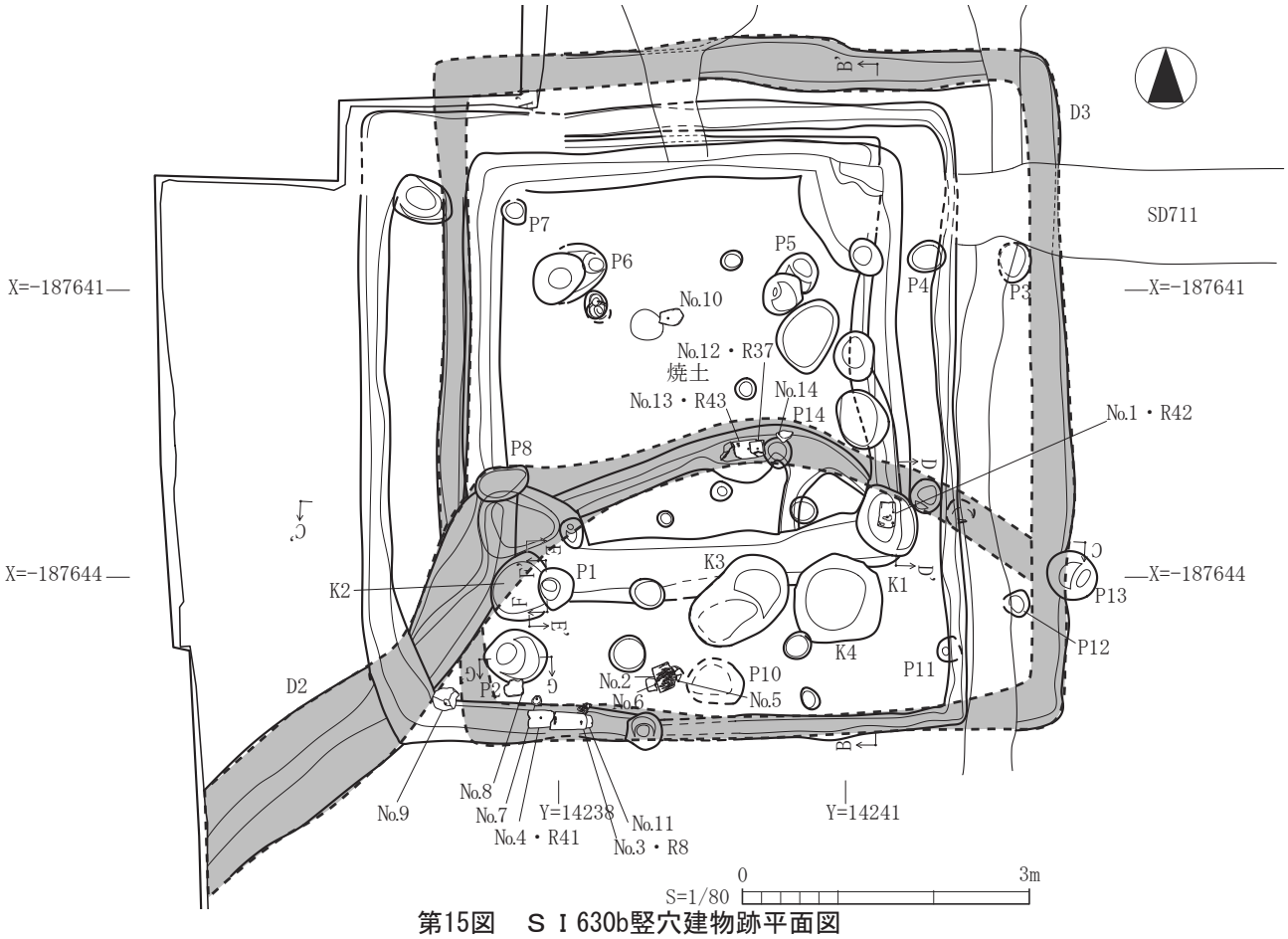
【カマド】確認されなかった。

【付属施設】ただし、建物中央部に焼土の分布が４か所認められた。焼土の形状と規模は、最も大きなもので不整楕円形状の長軸1.0m、短軸0.8mのもの、その他は直径20 ～ 30cmの円形状である。建物跡の東辺から南西隅、建物外へとＤ２溝跡が延びる。これは排水施設およびそれに接続する外延溝である可能性が考えられ、その上幅は65cmである。

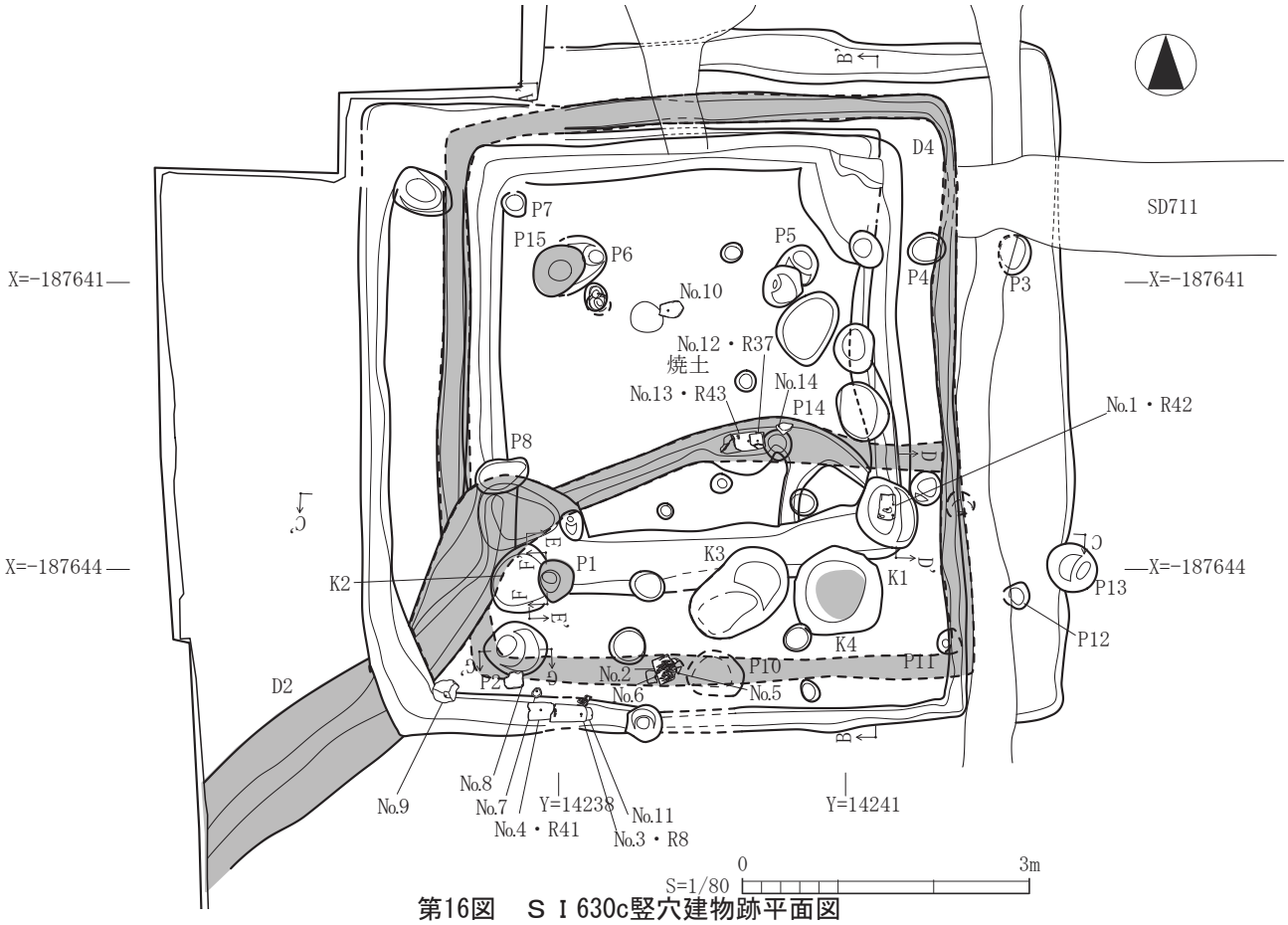
【柱穴】床面上で柱穴を４基（Ｐ６・14・Ｋ１）を確認した。Ｋ１は深さ48cm、柱痕が認められる。Ｐ１は深さ58cm、Ｐ14は深さ17cmである。



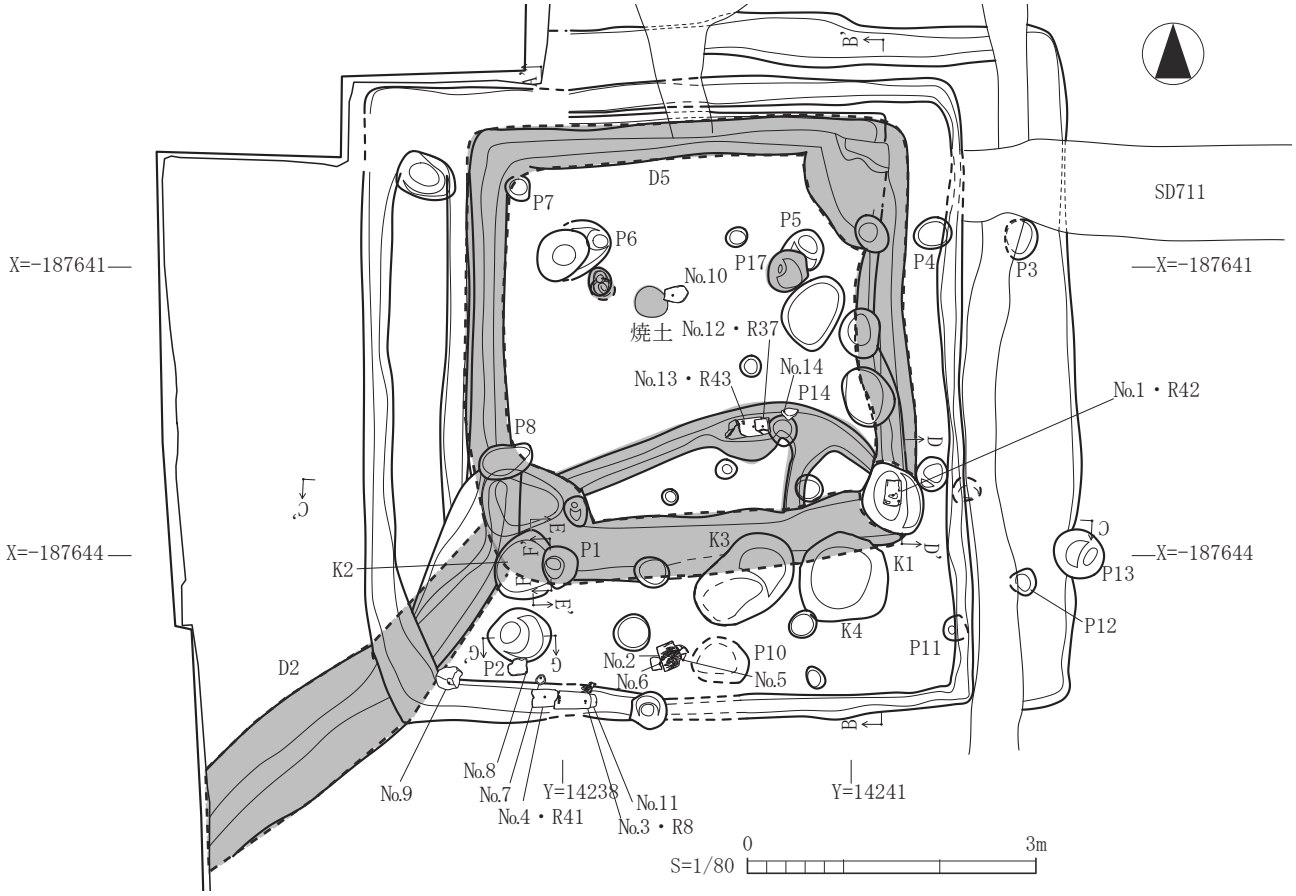
第14図　ＳＩ630a竪穴建物跡平面図



第15図　ＳＩ630b竪穴建物跡平面図



第16図　ＳＩ630c竪穴建物跡平面図



第17図　ＳＩ630d竪穴建物跡平面図

【遺物】丸瓦（Ｐ１埋土１層・Ｒ42・No.1）がＫ１より出土している。その他、埋土１層中より遺物が出土している。

ＳＩ630ｂ竪穴建物跡（第15図）

【重複】ＳＩ630建物跡群の中で、３段階目の構築である。

【遺存状態】周溝、床面のみの検出である。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で西に約１度偏している。

【規模】南北7.3m、東西6.6mである。

【周溝】四辺で確認した。上幅は約20 ～ 50cm、深さ約15cmである。

【床面】整地とみられる黄色土ブロックを含む暗赤褐色土が認められ、これが貼床と考えられる。

【壁】削平により失われている。

【カマド】確認されなかった。

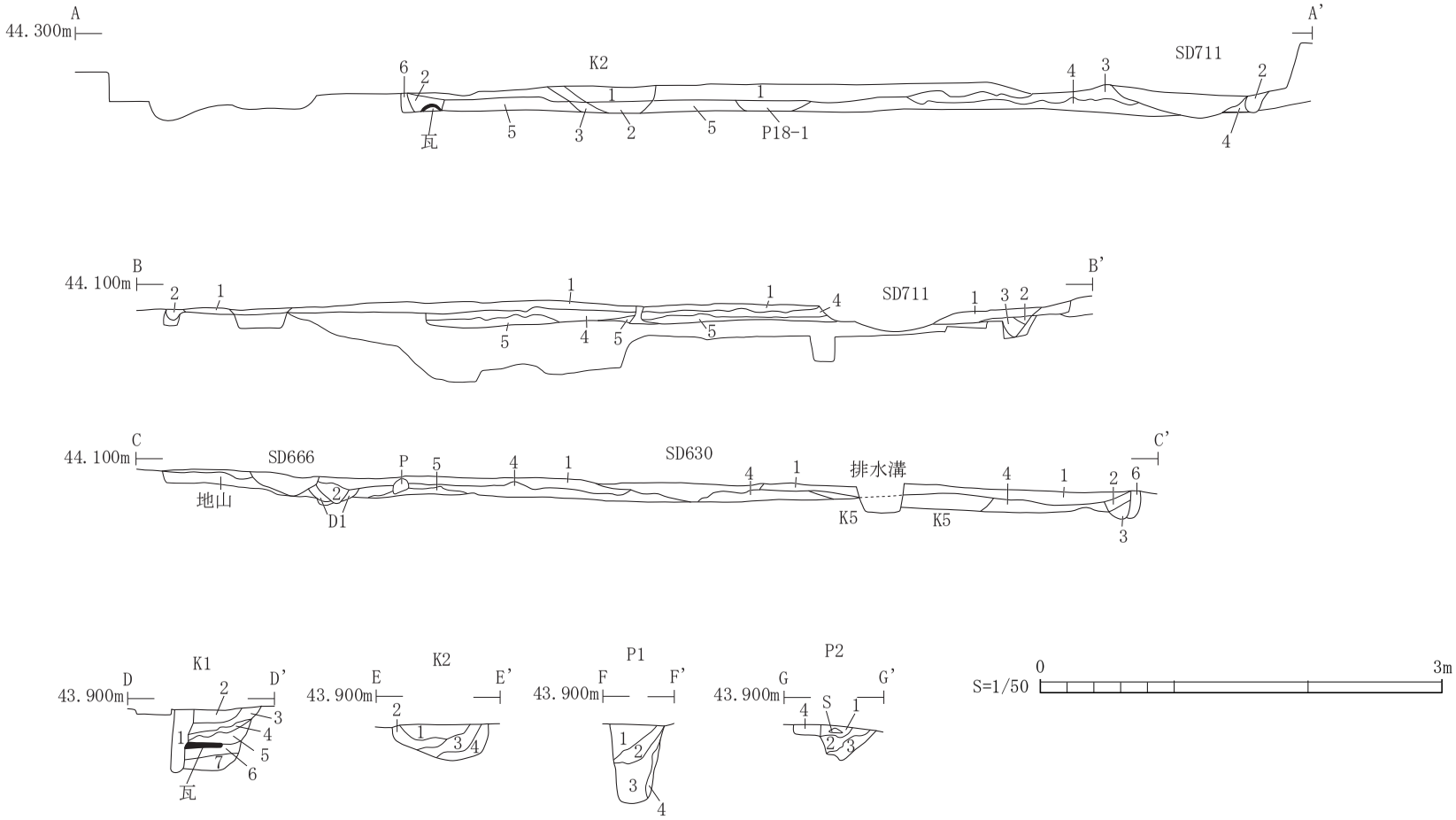
【付属施設】建物跡の東辺から南西隅、住居外へとＤ２溝跡が延びる。

【柱穴】柱穴を４基（Ｐ３、Ｐ６、Ｐ12、Ｋ２）確認した。

【遺物】Ｄ３周溝より、丸瓦（Ｒ８・No.3、Ｒ41・No.4））が出土している。

ＳＩ630ｃ竪穴建物跡（第16図）

【重複】ＳＩ630建物跡群の中で、２段階目の構築である。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI630	1層	暗褐色（7.5YR3/4）	シルト
2	SI630	2層	赤褐色（5YR4/8）	粘質シルト
3	SI630	3層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
4	SI630	4層	黄褐色（10YR5/8）	シルト
5	SI630	5層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
6	SI630	6層	褐色（10YR4/4）	シルト
7	K5	1層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	シルト
8	K2	1層	褐灰色（10YR5/1）	シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
9	K2	2層	褐灰色（10YR5/1）	粘質シルト
10	K2	3層	黒褐色（10YR3/2）	シルト
11	D1	1層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
12	P18	1層	褐色（7.5YR4/3）	シルト

第18図　ＳＩ630竪穴建物跡断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	K1	1層	灰褐色（10YR5/2）	シルト
2	K1	2層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	粘質シルト
3	K1	3層	褐色（10YR4/4）	シルト
4	K1	4層	黄褐色（10YR5/6）	粘質シルト
5	K1	5層	明黄褐色（10YR6/6）	シルト
6	K1	6層	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト
7	K1	7層	灰黄褐色（10YR3/2）	シルト
8	P1	1層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	シルト
9	P1	2層	褐色（7.5YR4/4）	シルト
10	P1	3層	暗褐色（7.5YR3/4）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
11	P1	4層	明褐色（7.5YR5/6）	粘質シルト
12	P2	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	シルト
13	P2	2層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
14	P2	3層	にぶい黄褐色（10YR6/4）	シルト
15	P2	4層	黄褐色（10YR5/8）	シルト
16	K2	1層	にぶい黄橙色（10YR4/3）	シルト
17	K2	2層	黄褐色（10YR5/6）	粘質シルト
18	K2	3層	褐色（10YR4/4）	シルト
19	K2	4層	黄褐色（10YR5/8）	粘質シルト

【遺存状態】周溝、床面のみの検出である。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で西に約１度偏している。

【規模】南北6.1m、東西5.4mである。

【周溝】四辺で確認した。上幅は約15 ～ 40cm、深さ約10 ～ 20cmである。

【床面】整地とみられる黄色土ブロックを含む黄褐色土が認められ、これが貼床と考えられる。

【壁】削平により失われている。

【カマド】確認されなかった。

【付属施設】建物跡の東辺から南西隅、建物外へとＤ２溝跡が延びる。

【柱穴】３基（Ｐ１・Ｐ15・Ｋ４）が伴うと考えられる。Ｐ15は深さ50cm、Ｋ４は深さ21cm、北東隅の柱穴については伴うものが不明である。

【遺物】Ｄ４周溝から遺物として、平瓦（Ｒ44・No.2）が出土している。

ＳＩ630ｄ竪穴建物跡（第17図）

【重複】ＳＩ630建物跡群の中で、最初に構築された建物跡である。

【遺存状態】周溝、床面のみの検出である。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北側で西に約１度偏している。

【規模】南北4,7m、東西4.6mである。

【周溝】四辺で確認した。上幅は約40 ～ 60cm、深さ約８～ 30cmである。

【床面】整地とみられる黄色土ブロックを含む灰黄褐色土が認められ、これが貼床と考えられる。

【壁】削平により失われている。

【カマド】確認されなかった。なお、建物中央やや西寄りに円形で直径約30cmの焼土が認められる。

【付属施設】建物跡の東辺から南西隅、建物外へとＤ５溝跡が延びる。

【柱穴】２基（Ｐ16・17）が伴うと考えられる。建物跡南側にも柱穴が存在すると思われるが、対応は不明である。

【遺物】Ｄ２溝跡から、丸瓦（Ｒ43・No.13）、丸瓦破片（No.12）が出土しており、当建物跡に伴うと考えられる。

ＳＩ631竪穴建物跡（第19図）

【位置】調査区中央の西端で発見した。

【重複】西壁でＫ１・２・３・４と重複しており、それよりも古い。

【遺存状態】建物跡の南東隅部分が確認され、それ以外は調査区外となる。上部を削平されており、北側の壁の立ち上がりは浅い。

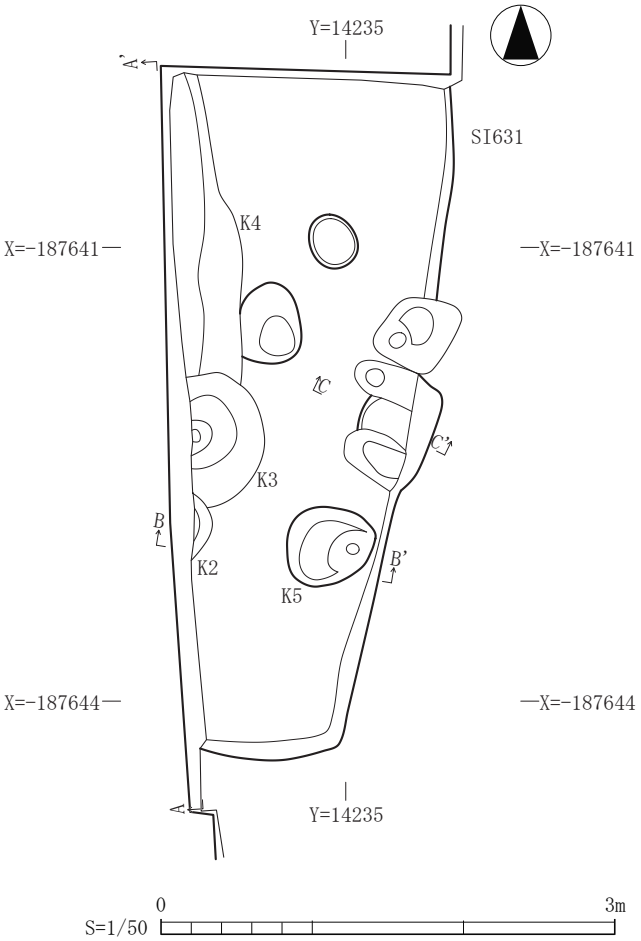
【平面形・方向】方形と推測される。方向は、東辺で測ると北で東に約10度偏している。

【規模】南北4.5m以上、東西1.85m以上である。

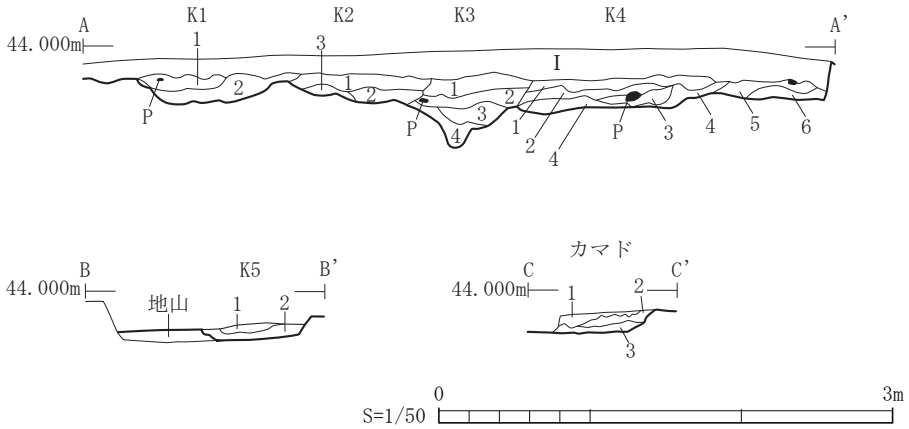
【周溝】確認されていない。

【床面】貼床は認められなかった。

【壁】周溝からほぼ垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大18cmである。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	K1	１層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	砂質シルト
2	K1	２層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
3	K2	１層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
4	K2	２層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
5	K2	３層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	シルト
6	K3	１層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
7	K3	２層	灰褐色（7.5YR4/2）	シルト
8	K3	３層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	粘質シルト
9	K3	４層	褐灰色（7.5YR5/1）	粘質シルト
10	K4	１層	灰褐色（7.5YR5/2）	シルト
11	K4	２層	灰褐色（7.5YR5/2）	シルト
12	K4	３層	赤褐色（5YR4/6）	粘質シルト
13	K4	４層	灰褐色（5YR5/2）	粘土
14	K4	５層	灰褐色（5YR4/2）	粘土
15	K4	６層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘質シルト
16	K5	１層	灰褐色（7.5YR5/2）	シルト
17	K5	２層	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト
18	カマド	１層	にぶい褐色（7.5YR5/4）	シルト
19	カマド	２層	にぶい赤褐色（2.5YR4/4）	シルト
20	カマド	３層	暗赤褐色（2.5YR3/4）	シルト



第19図　ＳＩ631竪穴建物跡平面図・断面図

【カマド】東辺に敷設され、燃焼部と側壁部を確認した。燃焼部の規模は幅25cm、奥行34cmである。燃焼部の覆土には焼土ブロックと炭が含まれる。煙道部は認められなかった。削平で失われた可能性もある。
【付属施設】認められない。
【柱穴】建物跡に伴う柱穴は確認されなかった。
【遺物】埋土１層より、須恵器甕、壺、須恵器坏Ⅲ類、土師器坏ＢⅤ類、覆土１層より丸瓦の破片が出土している。遺物の時期は９世中頃～後半の時期である。

ＳＩ632竪穴建物跡（第20図）
【位置】調査区北側の東端で発見した。
【重複】ＳＩ633と重複しており、それより古い。ＳＤ687より新しい。Ｋ１・２・３より古い。
【遺存状態】上部を削平されており、床面と壁の一部が残存する。
【平面形・方向】長方形である。方向は、西辺で測ると北で東に約６度偏している。
【規模】南北3.7m、東西3.05mである。
【周溝】四辺で確認した。上幅は15 ～ 25cm、深さ２～８cmである。
【床面】地山ブロックが混じる灰黄褐色砂質シルトが貼床と考えられる。
【壁】周溝から垂直に立ち上がると思われるが、削平により浅い。高さ３cmである。
【カマド】認められなかった。
【付属施設】特に認められない。
【柱穴】柱穴は確認されなかった
【遺物】埋土１層より、土師器坏ＢⅢ類が出土している。時期は９世紀前半から中頃と考えられる。

ＳＩ633竪穴建物跡（第21・22図）
【位置】調査区北側の東寄りで発見した。
【重複】断面で判断すると、ＳＩ636と重複しており、それより新しい。ＳＩ632・634より新しい。ＳＫ706よりも古い。また、西辺の周溝よりやや内側に一段落ち込むプランが確認されており、新旧の変遷が認められた。新しい段階の外側の建物跡をＳＩ633ａ、古い段階の内側の建物跡をＳＩ633ｂとする。
【遺存状態】上部の多くを削平され、周溝と床面のみが確認された。
【平面形・方向】方形である。方向は、新しい建物跡の東辺で測ると北で東に約３度偏している。
【規模】ＳＩ633ａは、南北5.25m、東西6.0mである。ＳＩ633ｂは、ＳＩ634ｂに切られているため本来の正確な規模は不明瞭であるが、南北約4.7m、東西約4.8mと推測される。
【周溝】ＳＩ633aの四辺で確認した。上幅は18～46cm、深さ３～10cmである。ＳＩ633bでは確認されなかった。
【床面】地山ブロックが混じる灰白色シルトの人為堆積層を確認し、貼床と考えられる。
【壁】削平によりほとんど残存していない。
【カマド】確認されていない。
【付属施設】Ｋ２は、ＳＩ633aの床面で検出され、長軸100cm、短軸73cm、深さ20cmで、遺物がまとまって出土している。また、建物跡南東角から南東方向に伸びるＳＤ688を確認しており、外延溝の可能性が考えられる。溝は上幅45cmである。
【柱穴】床面上で柱穴（登録したもの）を22基を確認した。このうち主柱穴と考えられるのは、ＳＩ633ａがＰ１、12、５、９で深さは23 ～ 46cmである。また周溝内に小柱穴が確認され、当建物跡に伴う壁柱穴

と考えられる。ＳＩ633ｂに伴う主柱穴と考えられるのは、Ｐ６、18、12である。建物跡南西隅にも存在するものと思われるが、調査時には確認されなかった。深さは18～45cmである。

【遺物】Ｋ２から､埋土１層より土師器坏ＢＶ類（Ｒ９･Ｒ10)､土師器甕Ｂ類（Ｒ55）が出土した。床面から、鉄滓などが出土している。埋土２層より、土師器坏ＢＶ類、埋土４層（建物跡東辺周溝埋土）より土師器坏ＢＶ類（Ｒ46)、丸瓦（R54)、砥石（R52)、埋土６層より須恵器坏Ｖ類（R45)、土師器耳皿、平瓦（R53)、砥石（R51)、土師器坏Ｂ類（Ｒ108)、須恵器高台付坏（Ｒ109)、須恵器大甕（Ｒ110)、釘と考えられる金属製品などが出土している。

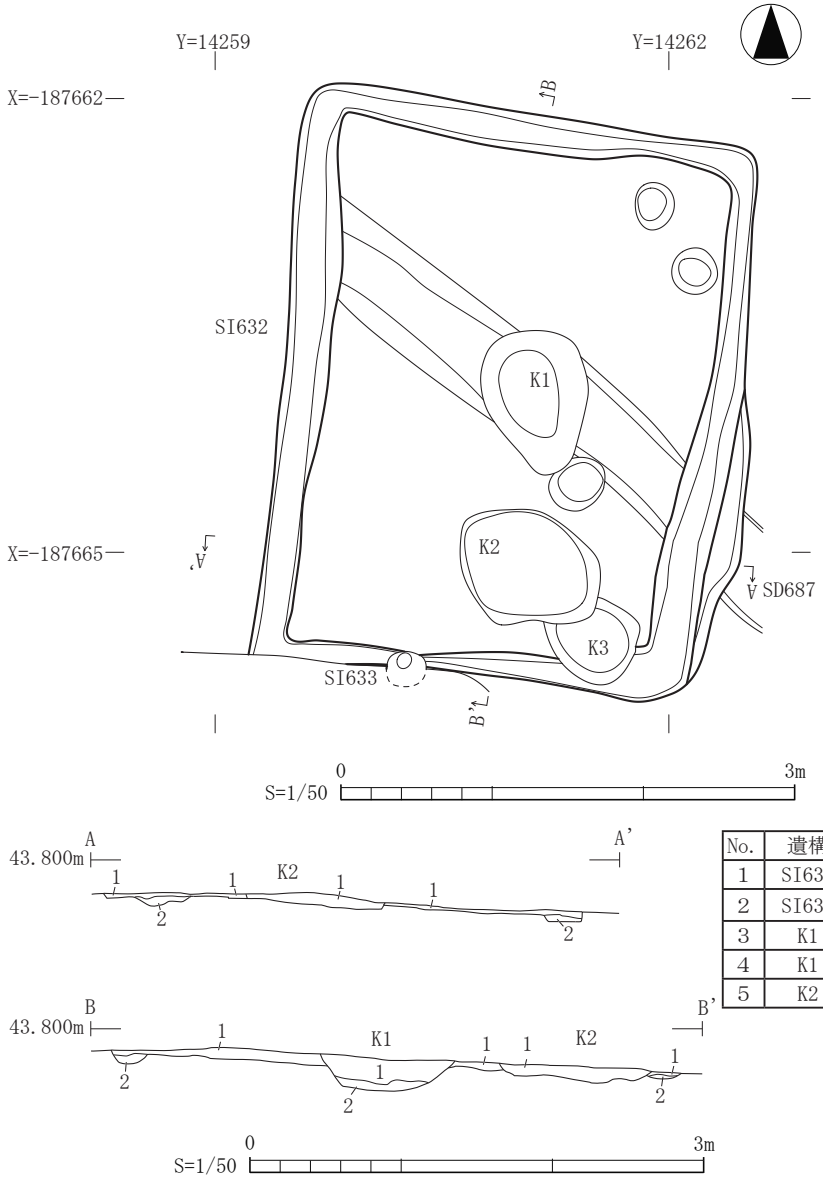
【時期】周溝埋土出土土師器より、９世紀後半の時期が想定される。

ＳＩ634竪穴建物跡（第23図）

【位置】調査区南側のやや東寄りで発見した。

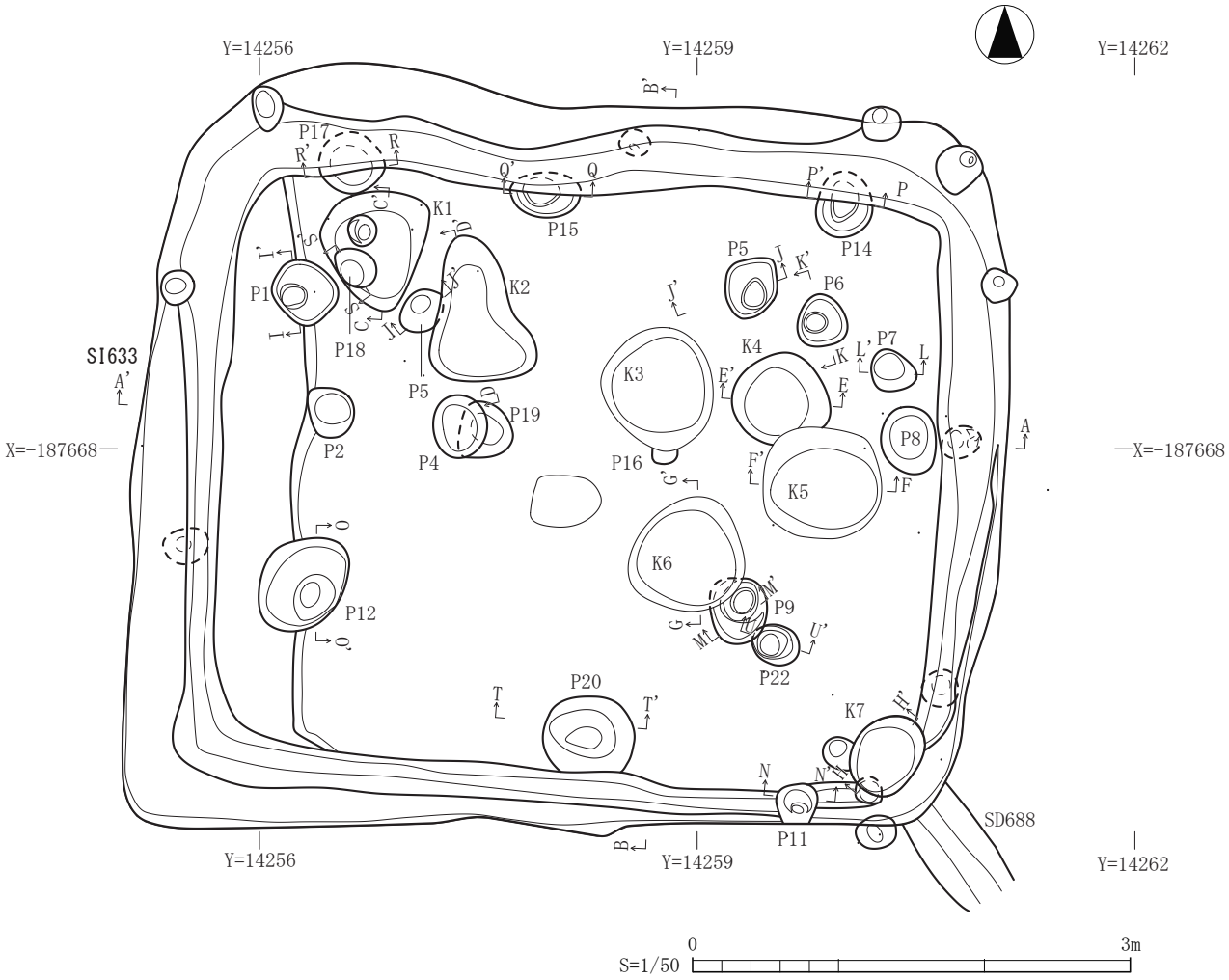
【重複】ＳＢ650・ＳＩ633より古い。

【遺存状態】上を削平され、周溝のみが確認された。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI632	1層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト
2	SI632	2層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂質シルト
3	K1	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
4	K1	2層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
5	K2	1層	灰色（5Y5/1）	砂質シルト

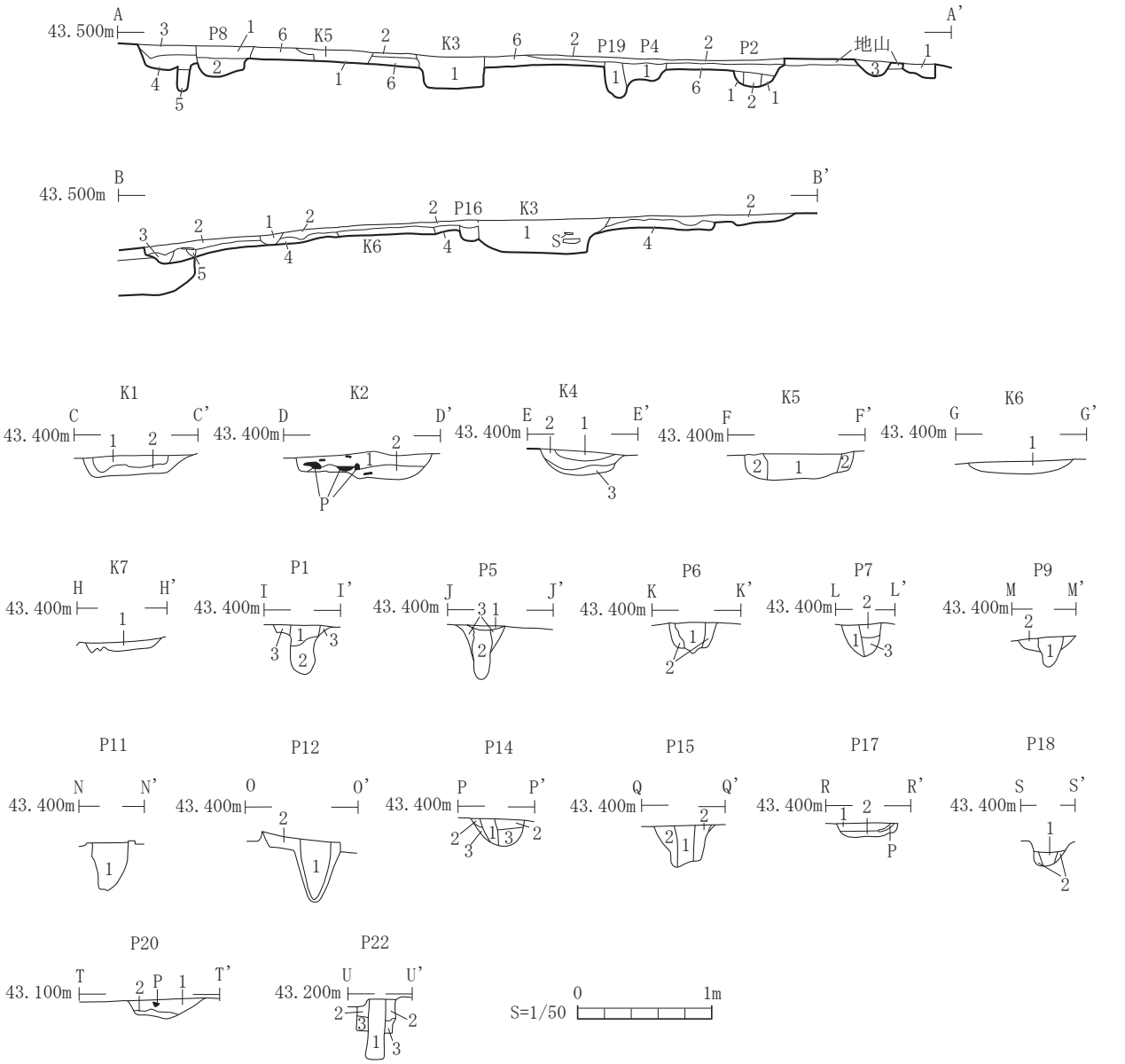
第20図　ＳＩ632竪穴建物跡平面図・断面図



第21図　ＳＩ633竪穴建物跡平面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI633 (A-A')	1層	灰白色（7.5Y8/1）	砂質シルト
2	SI633 (A-A')	2層	灰白色（5Y7/1）	砂質シルト
3	SI633 (A-A')	3層	褐色（7.5YR4/4）	粘質シルト
4	SI633 (A-A')	4層	灰色（7.5Y5/1）	粘質シルト
5	SI633 (A-A')	5層	灰色（10Y5/1）	粘質シルト
6	SI633 (A-A')	6層	灰白色（10Y7/1）	シルト
7	SI633 (B-B')	1層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
8	SI633 (B-B')	2層	灰白色（5Y7/1）	砂質シルト
9	SI633 (B-B')	3層	褐色（7.5YR4/4）	粘質シルト
10	SI633 (B-B')	4層	灰色（10Y5/1）	粘質シルト
11	SI633 (B-B')	5層	灰黄色（2.5Y6/2）	砂
12	P2	1層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
13	P2	2層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	砂質シルト
14	P3	1層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
15	P19	1層	灰褐色（5YR6/2）	砂
16	K3	1層	灰オリーブ色（5Y5/2）	粘質シルト
17	K3	2層	灰色（10Y6/1）	シルト
18	K4	1層	灰色（5Y6/1）	シルト
19	K1	1層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
20	K1	2層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
21	K2	1層	黄灰色（2.5Y5/1）	砂
22	K2	2層	灰白色（7.5Y7/1）	砂質シルト
23	K4	1層	灰白色（7.5Y7/1）	砂質シルト
24	K4	2層	にぶい橙色（5YR6/3）	砂質シルト
25	K4	3層	黄灰色（2.5Y5/1）	砂
26	K5	1層	灰白色（5Y7/1）	砂
27	K5	2層	灰白色（7.5Y7/1）	砂
28	K6	1層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
29	K7	1層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト
30	P1	1層	褐灰色（10YR6/1）	砂質シルト
31	P1	2層	灰褐色（7.5YR6/2）	シルト
32	P1	3層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
33	P5	1層	黒褐色（2.5Y3/1）	砂
34	P5	2層	褐灰色（10YR6/1）	シルト
35	P5	3層	灰白色（10Y7/1）	砂質シルト
36	P6	1層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
37	P6	2層	灰色（7.5Y6/1）	砂
38	P7	1層	灰褐色（7.5YR6/2）	砂質シルト



第22図　ＳＩ633竪穴建物跡断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
39	P7	２層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂
40	P7	３層	灰黄褐色（10YR6/2）	シルト
41	P9	１層	灰色（５Y6/1）	砂
42	P9	２層	にぶい褐色（7.5YR6/3）	砂質シルト
43	P11	１層	灰白色（7.5Y7/1）	シルト
44	P3	１層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
45	P12	１層	灰褐色（5YR6/2）	砂質シルト
46	P12	２層	灰色（7.5Y6/1）	砂
47	P14	１層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
48	P14	２層	灰色（5Y6/1）	砂
49	P14	３層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂質シルト
50	P15	１層	灰色（10Y6/1）	砂
51	P15	２層	灰色（10Y5/1）	砂質シルト
52	P16	１層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂
53	P16	２層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
54	P17	１層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
55	P17	２層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
56	P18	１層	灰色（5Y6/1）	砂質 シルト
57	P18	２層	灰色（10Y6/1）	シルト
58	P20	１層	灰色（5Y6/1）	砂質シルト
59	P20	２層	黄灰色（2.5Y6/1）	砂質シルト
60	P21	１層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
61	P21	２層	褐灰色（7.5YR6/1）	シルト
62	P21	３層	灰色（5Y6/1）	シルト
63	P22	１層	灰黄色（7.5YR6/2）	シルト
64	P22	２層	褐灰色（10YR6/1）	粘質シルト
65	P22	３層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土

【平面形・方向】不整方形である。方向は、北辺で測ると西で南に約12度偏している。

【規模】南北5.4m、東西約5.1mである。

【周溝】四辺で確認したが、東・西・南辺は部分的な確認である。上幅は30 ～ 50cm、深さ約５～ 10cmである。

【床面】削平により残存していない。

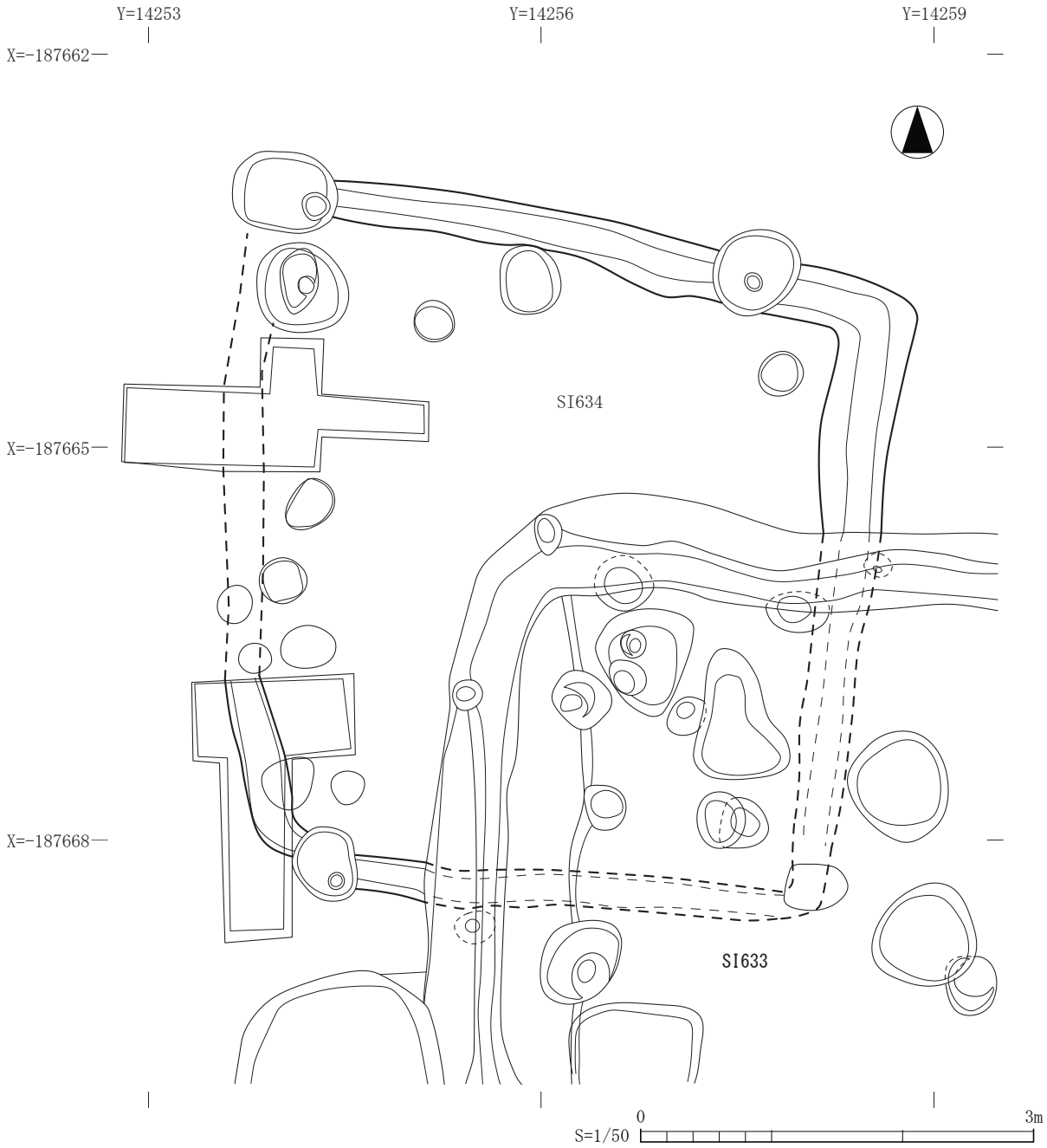
【壁】削平により確認されなかった。

【カマド】確認されなかった。

【付属施設】確認されなかった。

【柱穴】建物跡の範囲内にいくつかの柱穴やプランを検出したが、当建物跡に伴うのかは不明である。

【遺物】出土していない。



第23図　ＳＩ634竪穴建物跡断面図

ＳＩ635竪穴建物跡（第24・25図）

【位置】調査区南側の東端で発見した。

【重複】ＳＩ636、ＳＤ681、ＳＫ707と重複しており、ＳＩ636、ＳＤ681、ＳＫ707より古い。

【遺存状態】東側の一部を残し、大部分をＳＩ636に切られる。

【平面形・方向】方形と推測される。方向は、東辺で測ると北で東に約１度偏している。

【規模】南北3.65m、東西約3.3mと推定される。

【周溝】確認されなかった。

【床面】断面図Ｃ-Ｃ'埋土３層は、橙褐色土ブロックや地山ブロックを含み、貼床になる可能性がある。

【壁】床面から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大20cmである。

【カマド】確認されなかった。

【付属施設】認められなかった。

【柱穴】伴う柱穴は不明である。

【遺物】埋土２層より、石製紡錘車（Ｒ12）、土師器坏Ｂ１類（Ｒ56）、須恵器坏Ⅲ類（Ｒ57）、須恵器坏Ｖ類（Ｒ59）、須恵器坏Ｉ類（Ｒ60）、丸瓦（Ｒ63）、金属製品紡錘車（Ｍ１）、埋土３層から、須恵器小型坏（Ｒ62）、須恵器甕（Ｒ111）、埋土５層から、須恵器高台付坏（Ｒ61）、土師器蓋（Ｒ13）が出土している。

埋土２層出土の土器は、９世紀前半～中頃、９世紀後半のものが混在している。調査時の手違いによりＳＩ636の新しい時期の遺物も混在しているものと思われる。

ＳＩ636竪穴建物跡（第24・25図）

【位置】調査区の南側の東寄りで発見した。

【重複】ＳＩ635と重複しており、それより新しい。ＳＫ706・ＳＤ689・Ｐ176・Ｐ180・Ｐ181・Ｐ182・Ｐ185より古い。また北辺で建物跡のプランの内側に周溝が確認されることから、拡張している可能性がある。

【遺存状態】南側の壁の立ち上がりが浅く、南側にかけて削平されていると考えられる。

【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で東に約８度偏している。

【規模】南北6.1m、東西5.35mである。

【周溝】四辺で確認した。上幅は25 ～ 60cm、深さ８～ 18cmである。

【床面】平坦である。貼床は認められなかった。

【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大40cmである。

【カマド】東辺に敷設され、燃焼部と煙道部を確認した。袖部分は、設置された痕跡のみが残る。燃焼部の規模は幅55cm、奥行115cmである。煙道部は長さ140cm、幅25cm、深さ10cmである。また建物中央部に、直径20 ～ 50cmの焼土の広がりが確認された。また、建物跡南西角から南西方向に伸びるＳＤ680を確認しており、外延溝の可能性が考えられる。溝は上幅35cmである。

【付属施設】

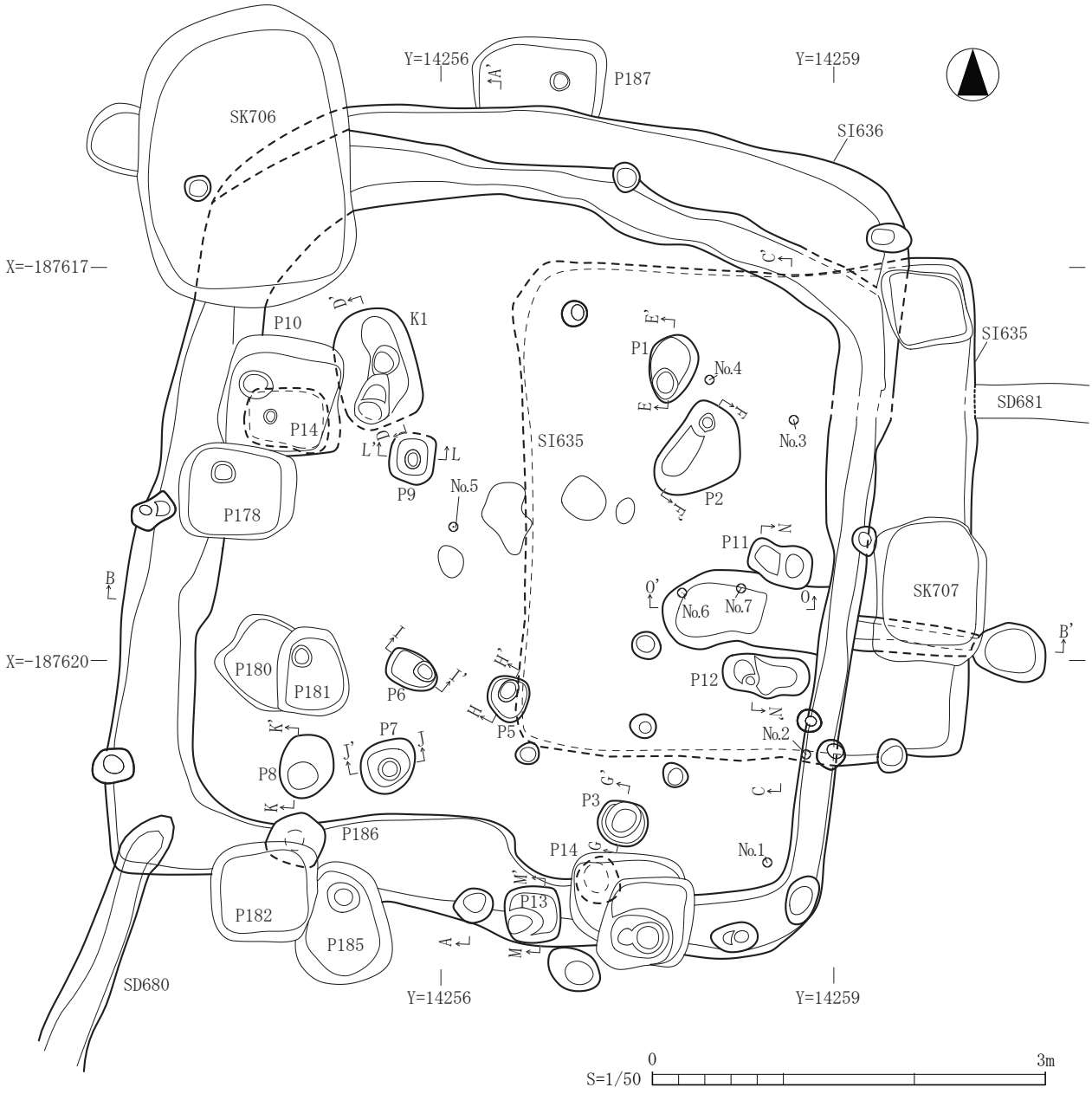
【柱穴】主柱穴４基（Ｐ１・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ９）を確認し、また周溝内で壁柱穴（Ｐ15 ～ 23）を確認した。

【遺物】埋土1層より、土師器小型坏（Ｒ14）、須恵器円面硯（Ｒ15）が出土している。

ＳＩ637竪穴建物跡（第25・26図）

【位置】調査区南端のやや西寄りで発見した。

【重複】ＳＩ638と重複しており、それより古い。



第24図　ＳＩ635・636竪穴建物跡平面図

【遺存状態】建物跡北側は残存するが、南半部は他の遺構に切られ残っていない。

【平面形・方向】方形と推測される。方向は、北辺で測ると西で南に約２度偏している。

【規模】南北4.5ｍ以上、東西5.2ｍである。

【周溝】東辺・北辺及び西辺で確認した。上幅は30 ～ 50cm、深さ15 ～ 20cmである。

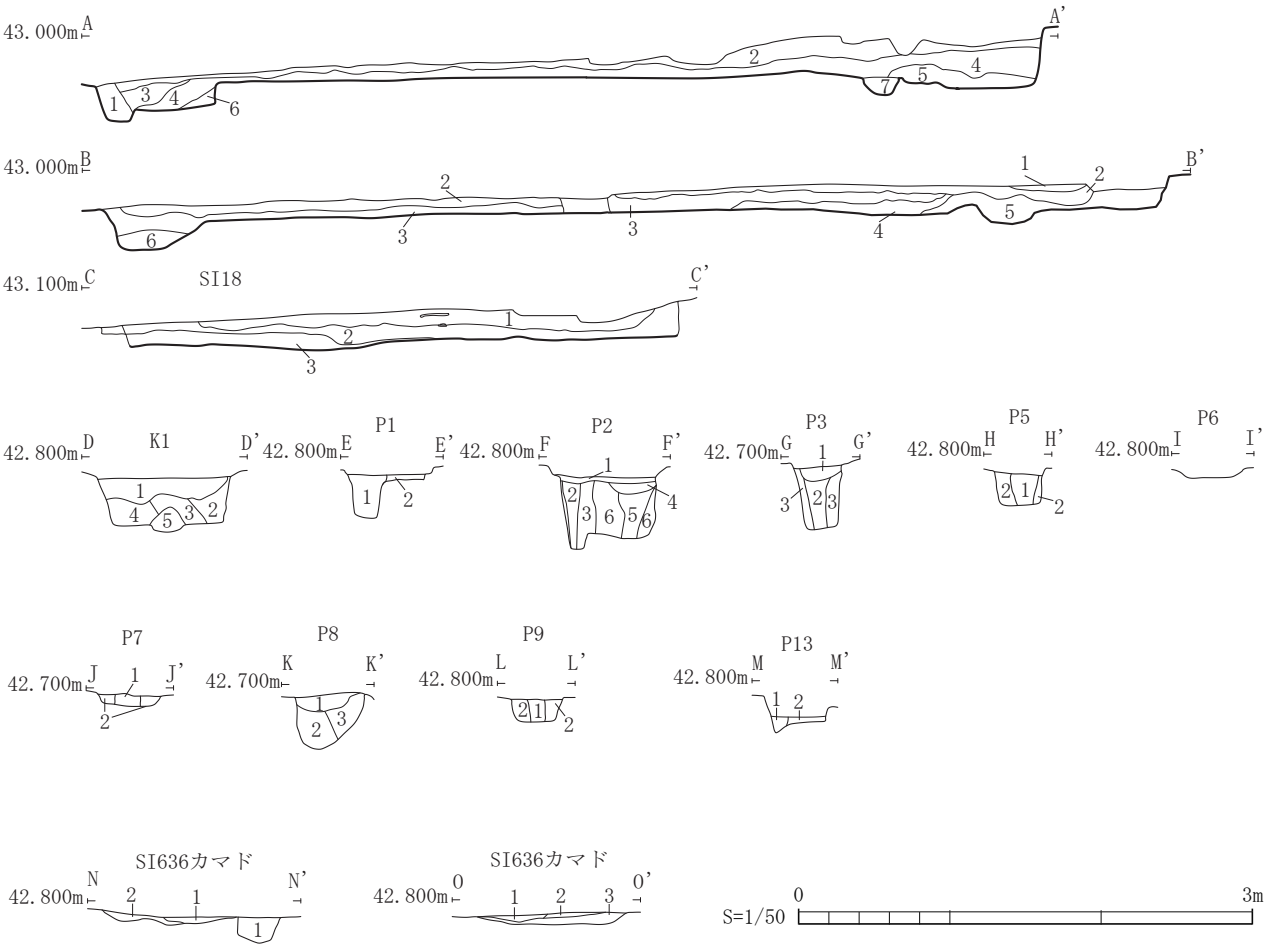
【床面】カマドおよびその周辺に灰黄褐色粘質シルト土を検出し、これが貼床と考えられる。

【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大20cmである。

【カマド】東辺に敷設され、燃焼部と側壁部、煙道部を確認した。燃焼部はＳＩ638に南半分を壊されており、残存する規模は幅40cm以上、奥行80cmである。燃焼部は著しく被熱していることから赤色に変色し、炭の層も確認できる。煙道は長さ140cm、幅28cm、深さ５～ 14cmである。先端に直径40cmの煙出しピットがある。

【付属施設】床面で土壙Ｋ１・２が確認された。

【柱穴】床面上と周溝内で柱穴を６基（Ｐ１～６）を確認した。このうち、ＳＰ１・２が主柱穴と考えられる。

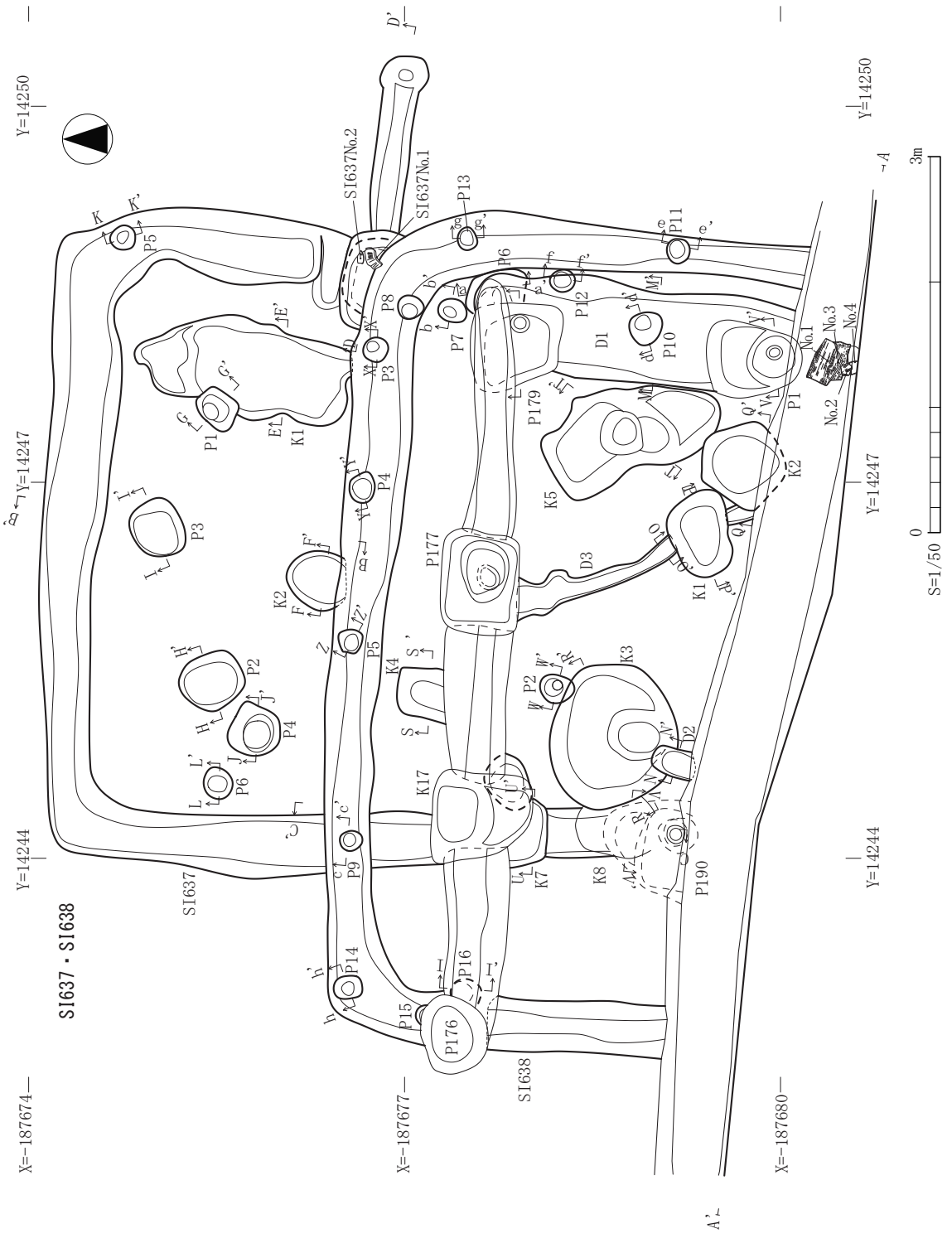


第25図　ＳＩ635・636竪穴建物跡断面図

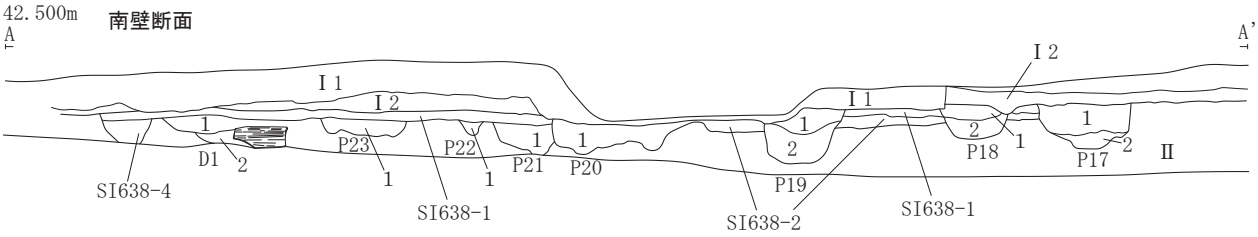
No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI636 A-A'	１層	灰色（10Y6/1）	粘質シルト
2	SI636 A-A'	２層	黄灰色（2.5Y5/1）	砂質シルト
3	SI636 A-A'	３層	灰色（7.5Y5/1）	シルト
4	SI636 A-A'	４層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
5	SI636 A-A'	５層	灰色（10YR5/1）	シルト
6	SI636 A-A'	６層	灰白色（10YR5/1）	粘質シルト
7	SI636 A-A'	７層	灰色（10Y7/1）	砂質シルト
8	SI635・636 B-B'	１層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト
9	SI635・636 B-B'	２層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
10	SI635・636 B-B'	３層	灰色（10YR5/1）	シルト
11	SI635・636 B-B'	４層	褐灰色（10YR5/1）	シルト
12	SI635・636 B-B'	５層	灰色（5Y5/1）	シルト
13	SI635・636 B-B'	６層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
14	SI635・636 C-C'	１層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
15	SI635・636 C-C'	２層	灰色（10YR5/1）	シルト
16	SI635・636 C-C'	３層	褐灰色（10YR5/1）	シルト
17	カマド	１層	明赤褐色（2.5YR3/3）	粘質シルト
18	カマド	２層	褐灰色（10YR5/1）	砂質シルト
19	カマド	３層	灰色（10YR5/1）	砂質シルト
20	K1	１層	灰色（10Y5/1）	砂質シルト
21	K1	２層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
22	K1	３層	淡黄色（5Y8/4）	粘土
23	K1	４層	浅黄色（5Y7/4）	粘土
24	K1	５層	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土
25	P1	１層	褐灰色（7.5Y7/1）	粘質シルト
26	P1	２層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
27	P2	１層	灰色（5Y5/1）	砂質シルト
28	P2	２層	灰色（2.5Y5/1）	シルト
29	P2	３層	明黄褐色（10YR8/1）	粘質シルト
30	P2	４層	灰白色（10YR8/1）	粘質シルト
31	P2	５層	黄灰色（2.5Y6/1）	シルト
32	P2	６層	明黄褐色（2.5YR7/6）	粘質シルト
33	P3	１層	灰色（10Y6/1）	砂質シルト
34	P3	２層	灰色（5Y5/1）	シルト
35	P3	３層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土
36	P4	１層	褐灰色（7.5YR6/1）	砂質シルト
37	P4	２層	灰白色（10YR7/1）	粘質シルト
38	P5	１層	灰色（10Y5/1）	砂質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
39	P5	2層	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	粘土
40	P5	3層	明黄褐色 (2.5Y7/6)	粘質シルト
41	P7	1層	灰色 (7.5Y6/1)	砂質シルト
42	P7	2層	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	粘質シルト
43	P8	1層	灰色 (10Y5/1)	粘質シルト
44	P8	2層	灰色 (10Y6/1)	粘土

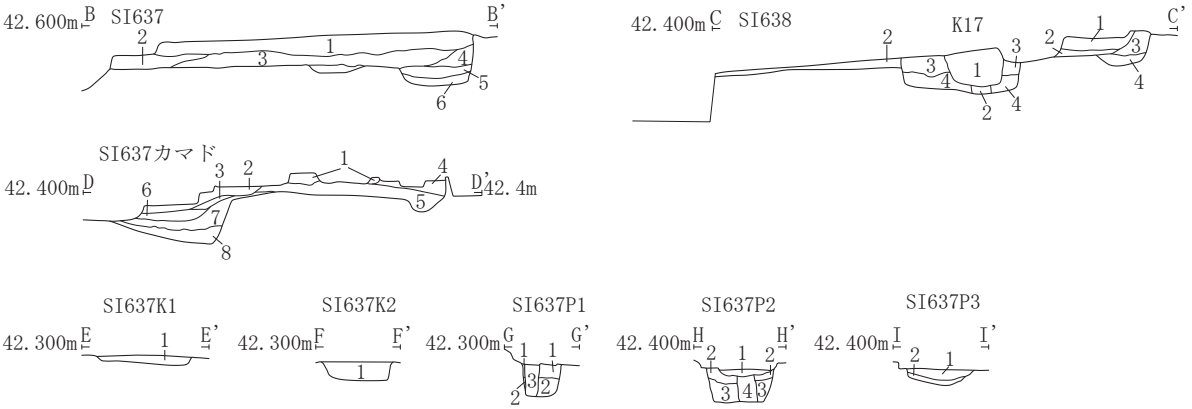
No.	遺構	層位	土色	土性
45	P8	3層	オリーブ黄色 (5Y6/4)	粘土
46	P9	1層	灰色 (7.5Y5/1)	シルト
47	P9	2層	灰色 (7.5Y7/1)	粘質シルト
48	P10	1層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
49	P10	2層	黄灰色 (2.5Y5/1)	粘質シルト
50	P13	1層	灰色 (10Y5/1)	粘質シルト
51	P13	2層	明黄褐色 (10YR8/1)	粘質シルト

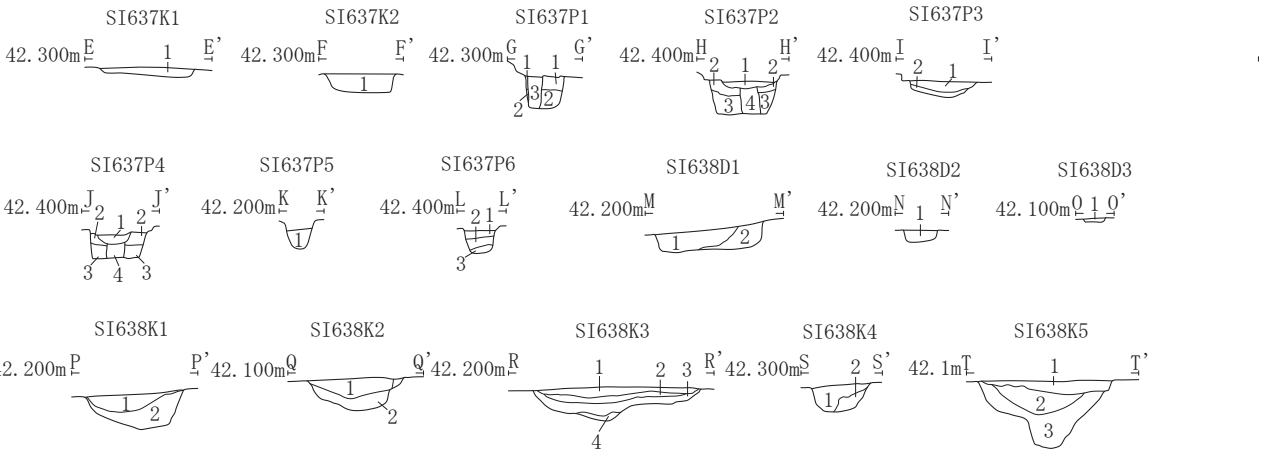


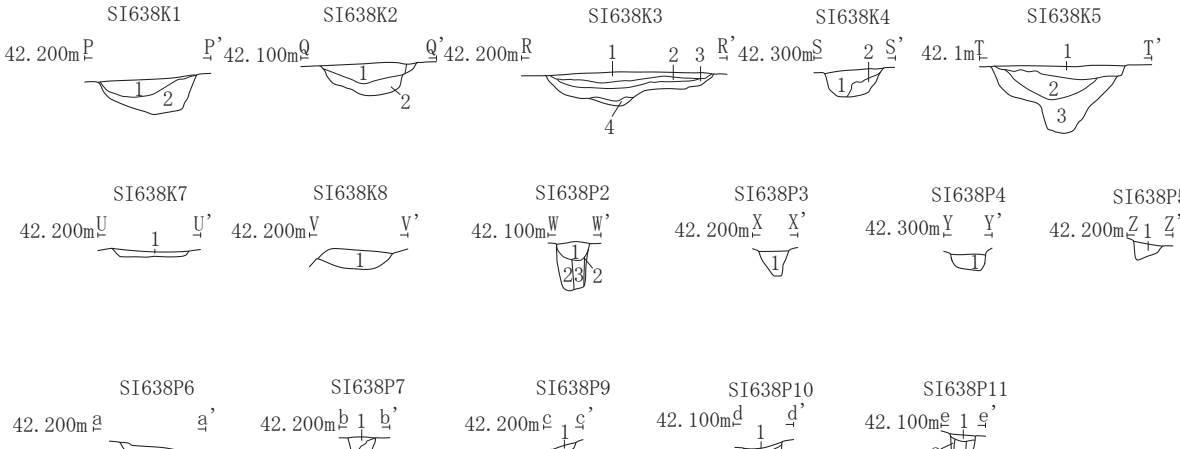
第25図　ＳＩ637・638竪穴建物跡平面図

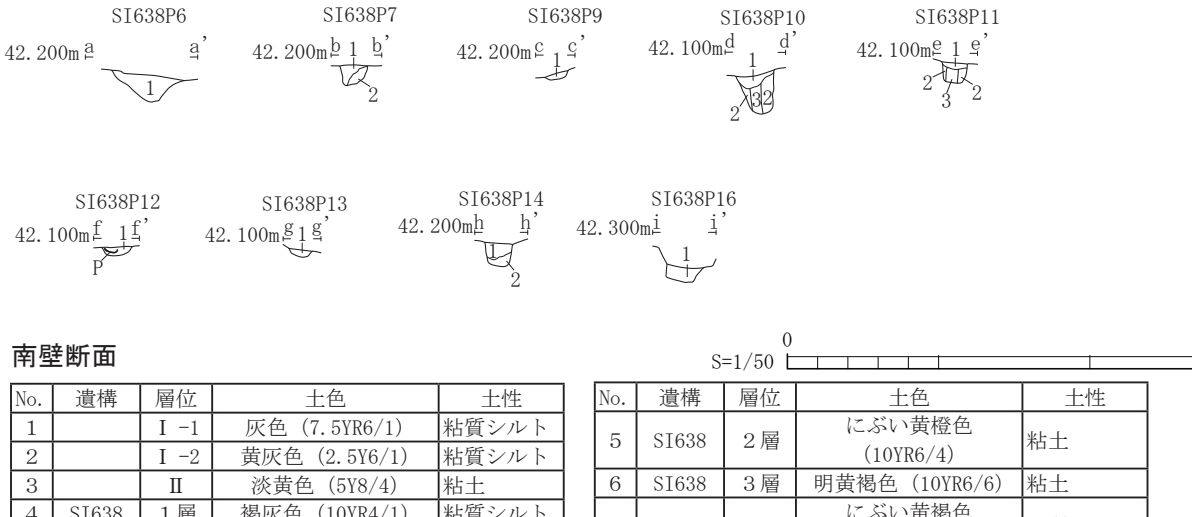


SI637・638









南壁断面

S=1/50 0 3m

No.	遺構	層位	土色	土性
1		Ⅰ-1	灰色（7.5YR6/1）	粘質シルト
2		Ⅰ-2	黄灰色（2.5Y6/1）	粘質シルト
3		Ⅱ	淡黄色（5Y8/4）	粘土
4	SI638	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
5	SI638	2層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	粘土
6	SI638	3層	明黄褐色（10YR6/6）	粘土
7	P17	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト

第26図　ＳＩ637・638竪穴建物跡断面図

南壁断面

No.	遺構	層位	土色	土性
8	P17	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
9	P18	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
10	P18	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
11	P19	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
12	P19	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
13	P20	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
14	P21	1層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	粘質シルト
15	P22	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
16	P23	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
17	D1	1層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
18	D1	2層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘質シルト

SI637・638断面

No.	遺構	層位	土色	土性
1	SI637	1層	褐色（10YR4/4）	砂質シルト
2	SI637	2層	黄褐色（10YR5/6）	砂質シルト
3	SI637	3層	黄褐色（2.5YR5/3）	砂質シルト
4	SI637	4層	明黄褐色（10YR6/6）	砂質シルト
5	SI637	5層	にぶい黄色（2.5YR6/4）	粘質シルト
6	SI637	6層	明黄褐色（2.5YR6/6）	粘質シルト
7	K17	1層	灰赤色（2.5YR6/2）	粘質シルト
8	K17	2層	灰褐色（5YR6/2）	粘土
9	K17	3層	灰褐色（5YR5/2）	粘質シルト
10	K17	4層	にぶい黄橙色（10YR7/3）	粘質シルト
11	SI638	1層	褐灰色（10YR4/1）	粘質シルト
12	SI638	2層	にぶい黄橙色（10YR6/4）	粘土
13	SI638	3層	明黄褐色（10YR6/6）	粘土
14	SI638	4層	にぶい橙色（5YR6/3）	粘土
15	カマド	1層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	砂質シルト
16	カマド	2層	にぶい褐色（7.5YR5/4）	砂質シルト
17	カマド	3層	にぶい赤褐色（5YR5/3）	粘質シルト
18	カマド	4層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	砂質シルト
19	カマド	5層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	砂質シルト
20	カマド	6層	にぶい赤褐色（5YR5/3）	砂質シルト
21	カマド	7層	にぶい赤褐色（5YR4/4）	砂質シルト
22	カマド	8層	灰褐色（7.5YR5/2）	粘質シルト

SI637柱穴・土壙

No.	遺構	層位	土色	土性
1	K1	1層	褐色（7.5YR4/3）	砂質シルト
2	K2	1層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	砂質シルト
3	P1	1層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト
4	P1	2層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
5	P1	3層	にぶい黄褐色（10YR6/3）	砂質シルト
6	P2	1層	黄褐色（2.5Y5/3）	砂質シルト
7	P2	2層	明黄褐色（10YR6/6）	砂質シルト
8	P2	3層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
9	P2	4層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂質シルト
10	P3	1層	にぶい黄褐色（10YR4/3）	砂質シルト
11	P3	2層	にぶい黄橙色（10YR6/3）	砂質シルト
12	P4	1層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
13	P4	2層	にぶい黄褐色（10YR6/4）	砂質シルト
14	P4	3層	黄褐色（10YR5/6）	砂質シルト
15	P4	4層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト
16	P5	1層	灰褐色（7.5YR4/2）	粘質シルト
17	P6	1層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト
18	P6	2層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	砂質シルト
19	P6	3層	にぶい黄橙色（10YR7/4）	粘質シルト

SI638柱穴・土壙

No.	遺構	層位	土色	土性
20	D1	1層	にぶい黄色（2.5Y6/3）	砂質シルト
21	D1	2層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	粘質シルト
22	D3	1層	黄褐色（2.5Y5/4）	粘質シルト
23	K2	1層	にぶい褐色（7.5YR5/3）	粘質シルト
24	K2	2層	褐色（7.5YR4/3）	粘質シルト
25	K3	1層	にぶい黄橙色（10YR6/3）	砂質シルト
26	K3	2層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	砂質シルト
27	K3	3層	黄灰色（2.5Y4/1）	粘質シルト
28	K3	4層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘質シルト
29	K4	1層	にぶい黄橙色（10YR6/3）	砂質シルト
30	K4	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
31	K5	1層	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト
32	K5	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
33	K5	3層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘質シルト
34	K7	1層	灰黄色（2.5Y6/2）	粘質シルト
35	P1	1層	灰褐色（5YR4/2）	粘質シルト
36	P1	2層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	粘質シルト
37	P2	1層	浅黄色（2.5Y7/4）	砂質シルト
38	P2	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
39	P2	3層	にぶい黄褐色（10Y5/3）	粘質シルト
40	P3	1層	黄褐色（2.5Y5/3）	砂質シルト
41	P4	1層	黄褐色（2.5Y5/6）	砂質シルト
42	P5	1層	褐色（10YR4/4）	砂質シルト
43	P6	1層	灰黄褐色（10YR4/2）	粘質シルト
44	P7	1層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂質シルト
45	P7	2層	明黄褐色（10YR6/6）	粘質シルト
46	P9	1層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂質シルト
47	P10	1層	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト
48	P10	2層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	砂質シルト
49	P10	3層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘質シルト
50	P11	1層	黄褐色（7.5YR5/4）	砂質シルト
51	P11	2層	にぶい黄色（7.5YR4/3）	砂質シルト
51	P11	3層	にぶい黄褐色（10YR6/3）	砂質シルト
52	P12	1層	にぶい褐色（2.5Y6/4）	砂質シルト
53	P13	1層	灰褐色（2.5Y4/1）	砂質シルト
54	P14	1層	にぶい褐色（2.5Y7/4）	砂質シルト
55	P14	2層	にぶい黄褐色（10YR6/3）	砂質シルト
56	P16	1層	にぶい褐色（10YR6/6）	砂質シルト

建物の南側の主柱穴は、他の遺構に切られており不明である。
【遺物】カマド内からNo. １・２の土器が出土している。
　Ｐ２埋土１層から須恵器蓋（Ｒ115)、須恵器坏Ⅲ類（Ｒ114)、埋土２層から、須恵器蓋（Ｒ112)、須恵器坏Ⅲ類（Ｒ113）が出土している。埋土中の土器の年代は、須恵器坏より９世紀中頃である。

ＳＩ638竪穴建物跡（第25・26図）
【位置】調査区南端の西寄りで発見した。
【重複】ＳＩ637と重複しており、それより新しい。ＳＢ656掘立柱建物跡、Ｐ176、Ｋ17、Ｐ177、Ｐ179よりも古い。
【遺存状態】南半部は調査区外となる。
【平面形・方向】方形である。方向は、北辺で測ると西で南に約４度偏している。
【規模】南北3.5m以上、東西6.7mである。
【周溝】東辺・北辺及び西辺で確認した。上幅は20 ～ 40cm、深さ20cmである。
【床面】貼床は認められなかった。
【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大30cmである。
【カマド】確認されていない。
【付属施設】建物跡の床面で、土壙Ｋ１～５・７・８が確認された。また、東辺の壁寄りに、幅80cm、検出長2.5m、深さ20cmのＤ１溝跡が検出された。
【柱穴】周溝内で8基（Ｐ３・４・５・９・11・13・14・15）を確認した。主柱穴に該当するものは不明である。周溝内の柱穴は壁柱穴と考えらえる。
【遺物】埋土中より平瓦（Ｒ64・No.3、Ｒ65・No.1)、丸瓦（Ｒ66・No.4）が出土している。

ＳＩ639竪穴建物跡（第27図）
【位置】調査区南西隅で発見した。
【重複】ＳＫ704、ＳＫ705と重複しており、それより古い。
【遺存状態】建物跡の西側・南側は、調査区外となる。
【平面形・方向】方形である。方向は、東辺で測ると北で西に約10度偏している。
【規模】南北3.2m以上、東西2.05m以上である。
【周溝】北辺・東辺で確認した。上幅は15 ～ 20cm、深さ15cmである。
【床面】貼床は認められない。
【壁】周溝から垂直に立ち上がっている。壁の高さは最大10cmである。
【カマド】東壁に敷設されるが、撹乱により西半分を壊されており、燃焼部と思われる焼土を確認するのみである。また、煙道の一部である煙出しピットを検出した。
【付属施設】建物跡南西にあるＫ１は貯蔵穴と考えられる。遺物がまとまって出土している。
【遺物】Ｋ１の埋土１層から須恵器坏（Ｒ16･No.2)、埋土２層から丸瓦（Ｒ119･No.10)、また、周溝内より、須恵器壺（Ｒ118・K1からも破片出土)、平瓦（Ｒ67)、建物跡の埋土１層から須恵器蓋（Ｒ17・No.23)、須恵器坏Ⅲ類（Ｒ78・Ｒ79)、埋土２層から須恵器壺（Ｒ117）が出土した。
【年代】Ｋ１出土の須恵器より、９世紀中頃の時期と考えられる。

ＳＢ640掘立柱建物跡（第28図）

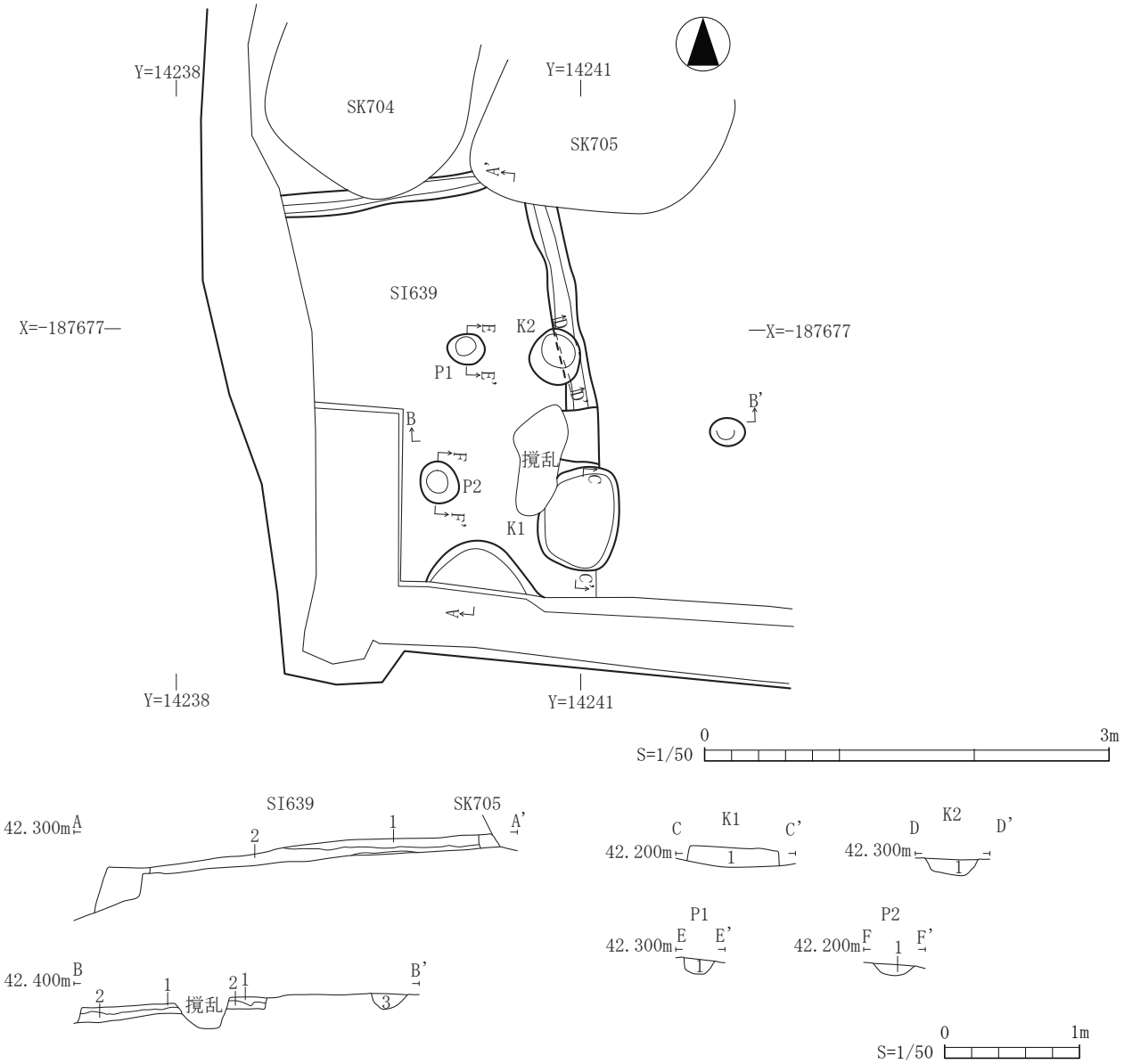
【位置】調査区北端の西寄りで発見した。

【桁行・梁行】１０基の柱穴（Ｐ１～Ｐ10）から構成される建物跡である。桁行３間、梁行２間の東西棟である。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ１～10で柱痕跡を確認した。柱痕跡は直径20～30cmの円形であり、埋土は褐灰色シルト（7.5YR5/1）である。

【重複】他の遺構との重複はない。

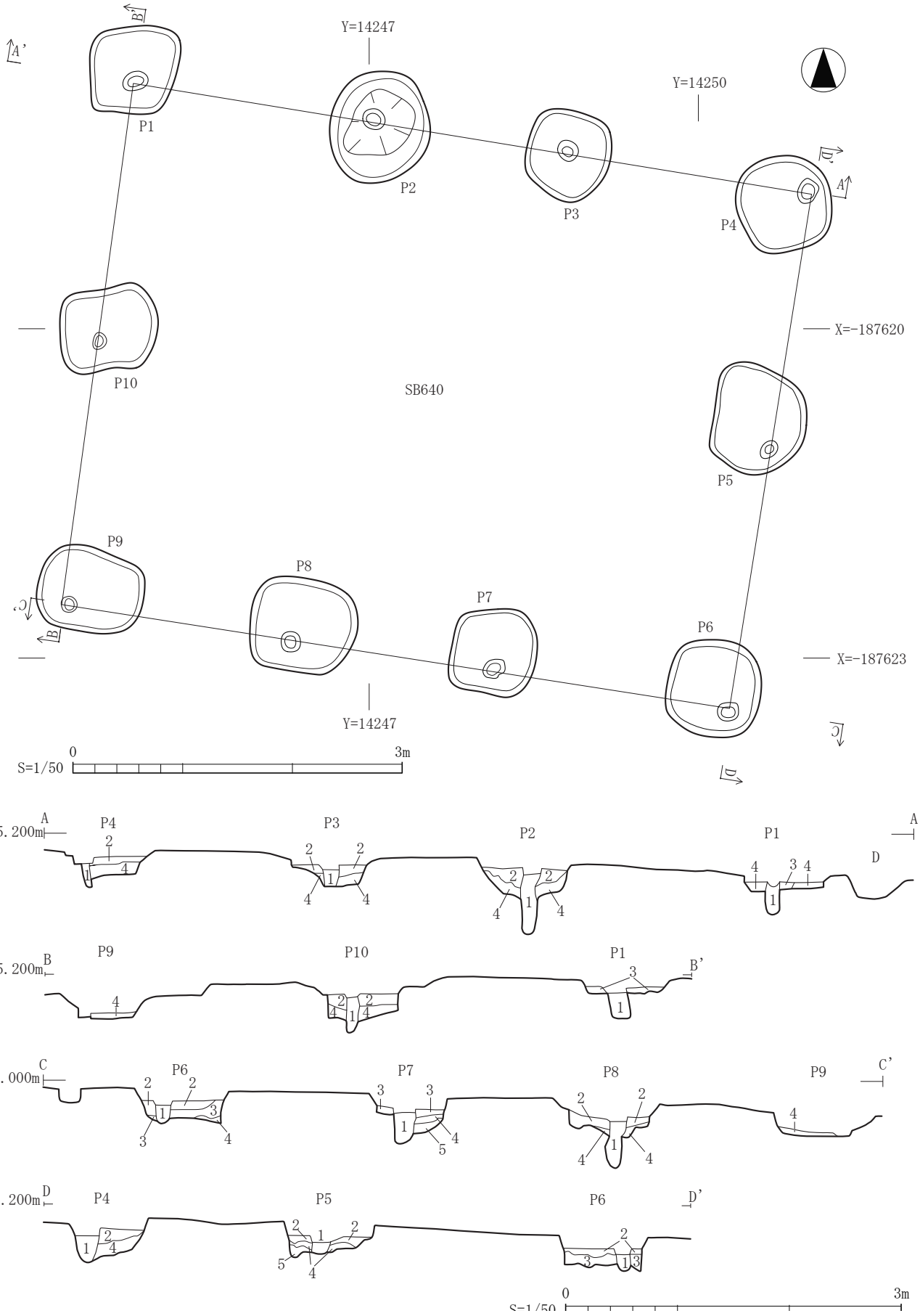
【方向・柱間】方向は、北側柱列で測ると、東で南へ約９度に偏している。柱間は桁行が北側柱列で西から2.2m、1.8m、1.8mで総長6.2mであり、梁行が東妻で北から柱間は2.4m、2,4mで総長4.8mである。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	ST639	１層	にぶい黄橙色（10YR7/4）	粘質シルト
2	ST639	２層	明黄褐色（10YR7/8）	粘土
3	カマド	１層	にぶい赤褐色（2.5YR4/4）	粘質シルト
4	カマド	２層	褐灰色（10YR5/1）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
5	カマド	３層	赤灰色（2.5YR4/1）	シルト
6	K1	１層	明黄褐色（2.5YR7/6）	粘質シルト
7	K2	１層	灰色（5Y6/1）	シルト
8	K3	１層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
9	P1	１層	灰色（10Y6/1）	シルト
10	P2	１層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	シルト

第27図　ＳＩ639竪穴建物跡平面図・断面図



第28図　ＳＢ639掘立柱建物跡平面図・断面図

No.	遺構	層位	土色	土性	備考
1	SB1	１層	褐灰色（7.5YR5/1）	シルト	黄色土ブロック（直径５～２０㎜）中量含む。柱痕。
2	SB1	２層	明黄褐色（10YR6/8）	シルト	黄色土ブロック（直径２～５㎜）中量含む。掘り方１。
3	SB1	３層	黄褐色（10YR5/8）	シルト	黄色土ブロック直径２㎜少量含む。掘り方２。
4	SB1	４層	明黄褐色（10YR6/8）	粘質シルト	黄色土中量含む。掘り方３。
5	SB1	５層	にぶい黄褐色（10YR5/4）	シルト	掘り方４。

【掘方】概ね隅丸方形であるが、Ｐ２、Ｐ４は円形に近い。規模が一辺約75 ～ 95cm、深さ20 ～ 68cmである。埋土は明黄褐色シルト（10YR ６/ ８）が主体であり、黄色シルトブロックが混入している。

【遺物】Ｐ９埋土１層から須恵器坏Ｖ類が出土している。墨書が認められる。

【年代】柱穴から出土した須恵器より、９世紀後半以前の時期と考えられる。

ＳＢ650掘立柱建物跡（第29図）

【位置】調査区南側で発見した。

【桁行・梁行】11基の柱穴（Ｐ１～８・Ｐ10 ～ 12）から構成される建物跡である。桁行４間、梁行２間の東西棟である。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ１～８・Ｐ10 ～ 12で柱痕跡、Ｐ２で柱抜取り穴を確認した。柱痕跡は直径10 ～ 20cmの円形であり、埋土は灰色シルト・灰色粘質シルトである。

【重複】ＳＤ662と重複しており、それより古い。

【方向・柱間】方向は、北側柱列で測ると、西で約0.5度北に偏している。柱間は桁行が南側柱列で西から1.9m、1.6m、1.9m、1.8mで総長7.2mであり、北側柱列で西から1.9m、3.1m、1.8mで総長6.8mである。梁行が西妻で北から1.9m、1.8mで総長3.7mであり、東妻で北から1.6m、2.1mで総長3.7mである。

【掘方】いずれも方形・隅丸方形である。規模は一辺54 ～ 80cm、深さ16 ～ 54cmである。埋土は灰黄色・灰黄褐色粘質シルトが主体であり、地山ブロックが混入している。

【遺物】出土していない。

ＳＢ651掘立柱建物跡（第30図）

【位置】調査区南側西寄りで発見した。

【桁行・梁行】10基の柱穴（Ｐ74・77・80・83・87・91・93・195・196・198）から構成される建物跡である。桁行３間、梁行２間の東西棟である。

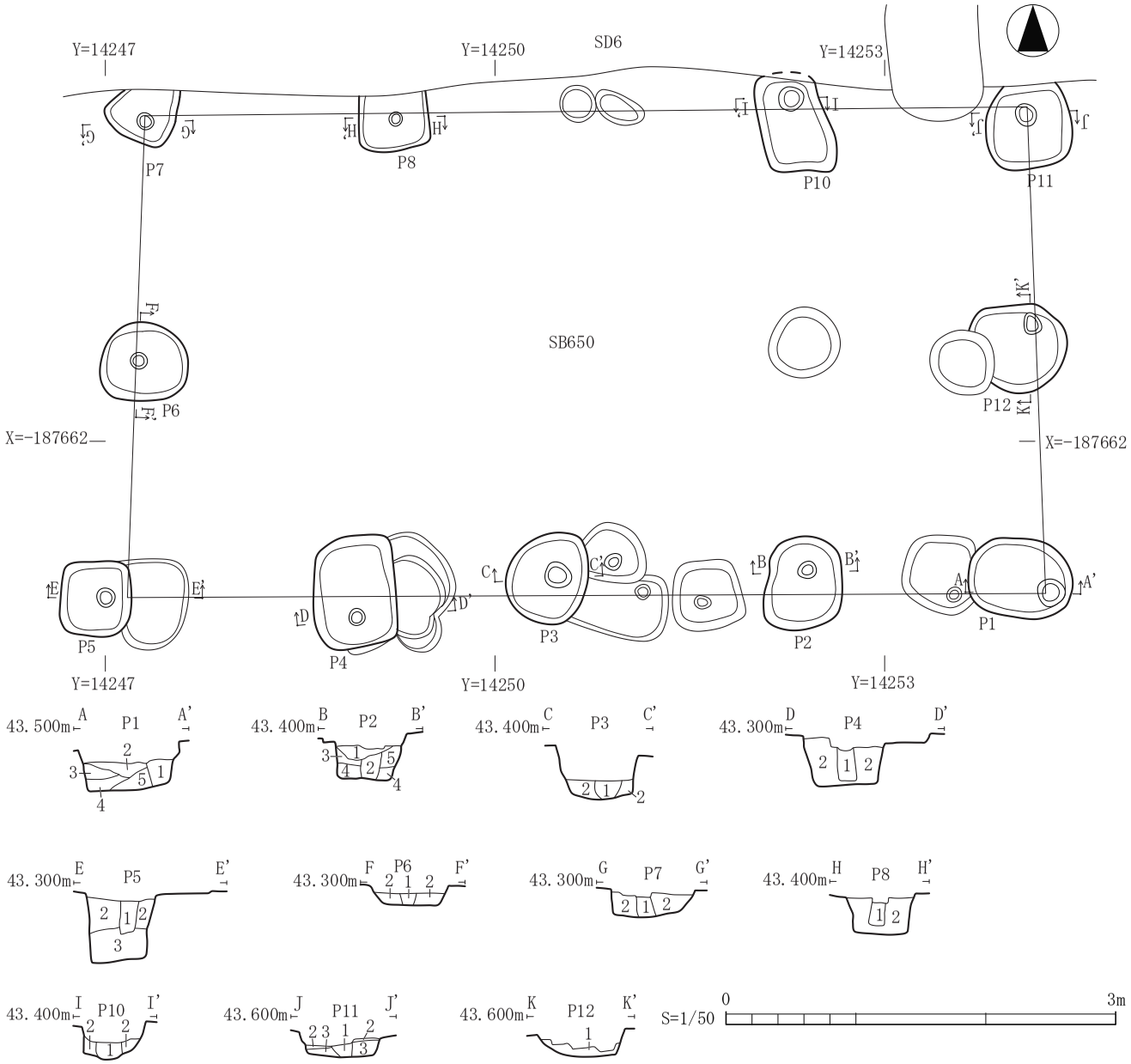
【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】全ての柱穴で柱痕跡を確認した。Ｐ83で柱抜取り穴を確認した。柱痕跡は直径12 ～ 30cmの円形であり、埋土は灰色シ粘質シルトが主体である。

【重複】Ｐ74・93は別の柱穴と重複しており、それより新しい。

【方向・柱間】方向は、北側柱列で測ると、西で約0.5度北に偏している。柱間は桁行が南側柱列で西から2.1m、1.7m、1.9mで総長5.7mであり、北側柱列で西から2.0m、1.6m、2.1mで総長5.7mである。梁行が西妻で北から1.8m、2.1mで総長3.9mであり、東妻で北から1.8m、2.1mで総長3.9mである。

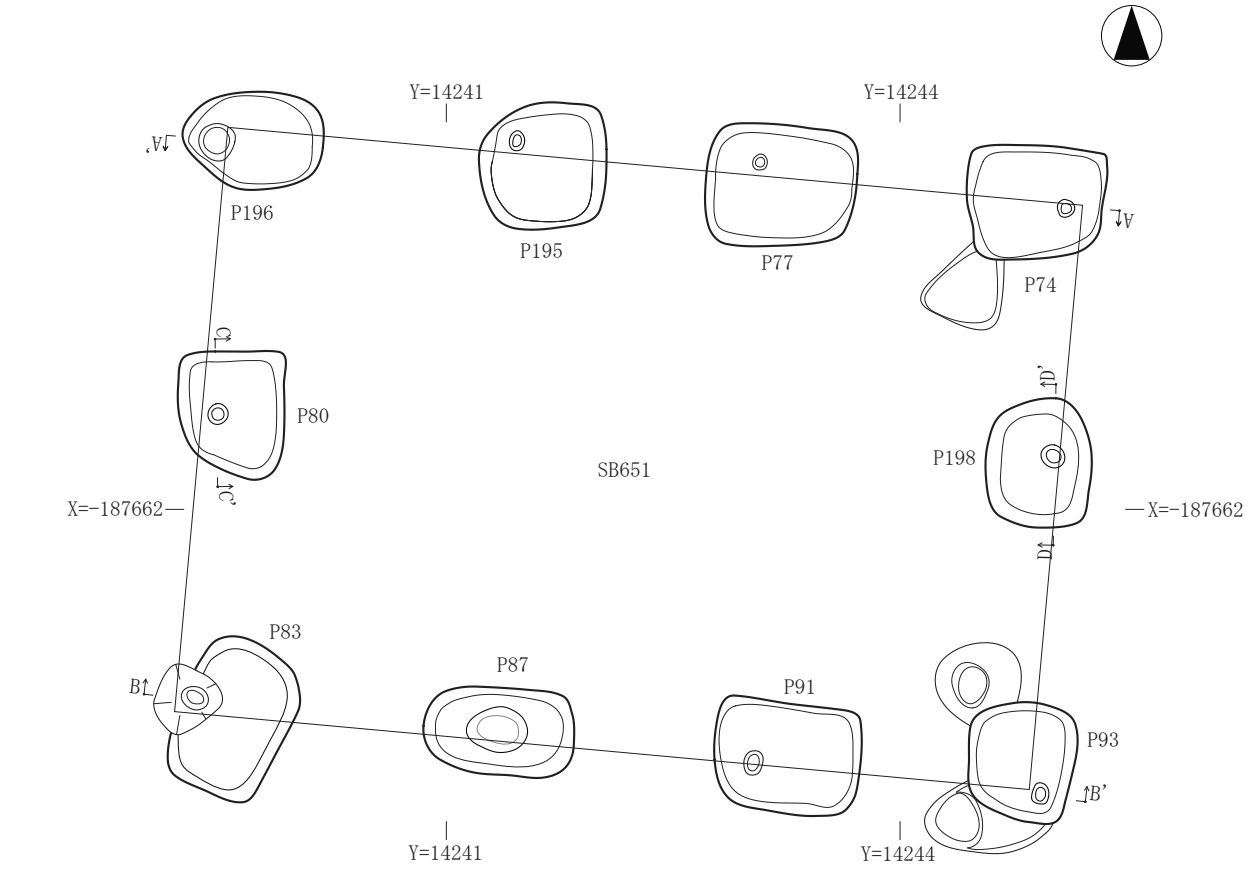
【掘方】いずれも方形もしくは隅丸方形である。規模は一辺の短軸が58 ～ 82cm、長軸が80 ～ 102cmである。深さ20 ～ 42cmである。埋土は浅黄色シルトが主体であり、地山ブロックが混入している。

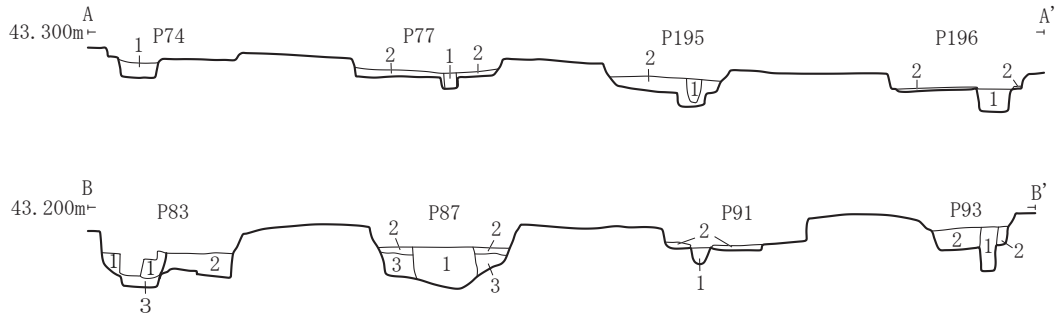
【遺物】出土していない。

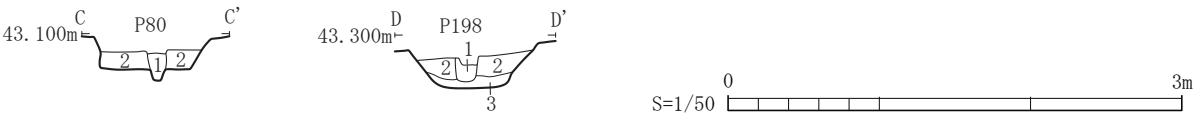


第29図　ＳＢ650掘立柱建物跡平面図・断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	P1	1層	灰色（5Y6/1）	粘質シルト
2	P1	2層	灰黄色（2.5Y6/2）	粘質シルト
3	P1	3層	灰色（10Y5/1）	シルト
4	P1	4層	灰黄褐色（10YR6/2）	粘質シルト
5	P1	5層	灰色（10Y6/1）	粘質シルト
6	P2	1層	にぶい黄色（2.5Y6/4）	粘質シルト
7	P2	2層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
8	P2	3層	灰黄色（2.5Y6/2）	粘質シルト
9	P2	4層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
10	P3	1層	灰黄褐色（10YR6/2）	粘質シルト
11	P3	2層	灰黄褐色（10Y5/2）	粘質シルト
12	P4	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
13	P4	2層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
14	P5	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
15	P5	2層	灰黄色（2.5Y6/2）	シルト
16	P5	3層	灰白色（10Y7/1）	粘質シルト
17	P6	1層	灰色（5Y6/1）	粘質シルト
18	P6	2層	にぶい黄褐色（10YR5/3）	粘土
19	P7	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
20	P7	2層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘土
21	P8	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
22	P8	2層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘質シルト
23	P10	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
24	P10	2層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘質シルト
25	P11	1層	灰色（7.5Y6/1）	粘質シルト
26	P11	2層	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト
27	P11	3層	浅黄色（5Y7/4）	粘土
28	P12	1層	浅黄色（5Y7/4）	粘土







No.	遺構	層位	土色	土性
1	P74	1層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト
2	P77	1層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト
3	P77	2層	浅黄色（2.5Y7/3）	粘土
4	P195	1層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
5	P195	2層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘土
6	P196	1層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト
7	P196	2層	淡黄色（2.5Y8/3）	粘土
8	P80	1層	褐灰色（10YR5/1）	粘質シルト
9	P80	2層	浅黄色（2.5Y7/3）	粘土
10	P83	1層	灰白色（7.5Y7/1）	粘質シルト
11	P83	2層	黄色（2.5Y8/6）	粘土

No.	遺構	層位	土色	土性
12	P83	3層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘土
13	P87	1層	灰色（7.5Y5/1）	粘質シルト
14	P87	2層	灰白色（10Y7/1）	シルト
15	P87	3層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘土
16	P91	1層	灰色（10Y6/1）	粘質シルト
17	P91	2層	灰白色（7.5Y7/1）	粘質シルト
18	P93	1層	灰色（10Y6/1）	粘質シルト
19	P93	2層	浅黄色（5Y7/3）	粘土
20	P198	1層	灰色（10Y6/1）	粘質シルト
21	P198	2層	淡黄色（2.5Y8/3）	粘土
22	P198	3層	浅黄色（2.5Y7/4）	粘土

第30図　ＳＩ651掘立柱建物跡平面図・断面図

ＳＢ653掘立柱建物跡（第30図）

【位置】調査区南側で発見した。

【桁行・梁行】10基の柱穴（Ｐ156・161・167 ～ 170・178・180・182・188）から構成される建物跡である。桁行２間、梁行３間の南北棟である。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ156・161・167 ～ 170・178・188で柱痕跡を確認した。柱痕跡は直径10 ～ 20㎝の円形であり、埋土は灰色シルトや粘質シルトである。

【重複】ＳＩ636・ＳＤ680・Ｐ181・Ｐ185と重複しており、これらよりも新しい。

【方向・柱間】方向は、西側柱列で測ると、ほぼ南北方向で０度となる。桁行が西側柱列で北から1.5m、1.55m、1.65mで総長4.7mであり、東側柱列で北から1.5m、約1.8m、1.5mで総長4.8mである。柱間は梁行が南妻で西から2.4m、1.5mで総長3.9mであり、北妻で西から2.1m、1.7mで総長3.8mである。

【掘方】いずれも方形である。規模は短辺が62 ～ 80㎝、長辺が76 ～ 102㎝、深さ20 ～ 60㎝である。埋土は灰色シルト・粘質シルトが主体であり、地山ブロックが混入している。

【遺物】Ｐ169埋土１層から土師器坏Ｂ類が出土している。Ｐ170埋土１層より須恵器壺の破片が出土している。

【年代】Ｐ169出土土器は９世紀中頃の時期と考えられる。

ＳＢ654掘立柱建物跡（第32図）

【位置】調査区南側で発見した。

【桁行・梁行】８基の柱穴（Ｐ160・165・173・175・192 ～ 194）から推定される建物跡である。桁行３間、梁行２間の東西棟と思われる。南側柱列の西から１、２番目の柱穴は、ＳＩ637、638に壊されており、検出されていない。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】確認されているすべての柱穴で柱痕跡を確認した。Ｐ160・173・175・197で柱抜取り穴を確認した。柱痕跡は直径10 ～ 20㎝の円形であり、埋土は灰色シルトや粘質シルトなどである。

【重複】ＳＩ637・638と重複しており、それより古い。

【方向・柱間】方向は、北側柱列で測ると、西で約１度南に偏している。柱間は桁行が南側柱列で西から1.7mであり、北側柱列で西から2.15m、2.0m、1.55mで総長5.7mである。梁行が東妻で北から2.3m、2.0mで総長4.3mである。

【掘方】いずれも方形･隅丸方形である。規模は短辺が24 ～ 56㎝、長辺が26 ～ 64㎝、深さ20 ～ 42㎝である。埋土は黄灰色・淡黄色粘質シルトが主体である。

【年代】当遺構より新しい竪穴建物跡の時期を考慮すると、９世紀中頃以前の時期と考えられる。

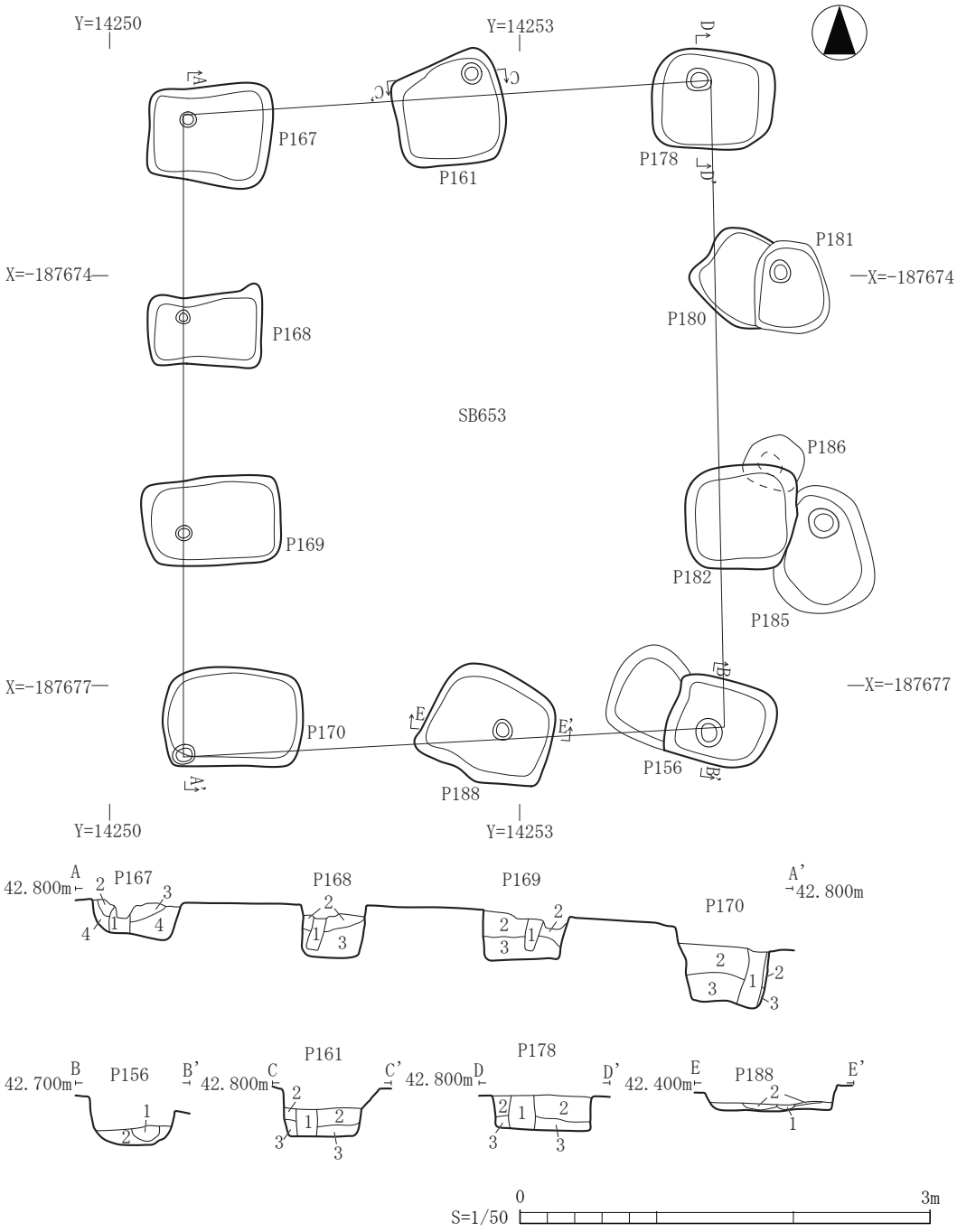
ＳＢ655掘立柱建物跡（第33図）

【位置】調査区南側の東寄りで発見した。

【桁行・梁行】７基の柱穴（Ｐ142・146・148・152・189・191・199）から推定される建物跡である。桁行３間以上、梁行２間の南北棟と思われる。建物跡の南側は調査区外となる。

【柱痕跡・柱抜取り穴の有無】Ｐ142・146・148・152・189・191で柱痕跡、Ｐ142・152・189で柱抜取り穴を確認した。柱痕跡は直径14 ～ 20㎝の円形であり、埋土はにぶい黄色粘土、黄灰色粘質シルトなどである。

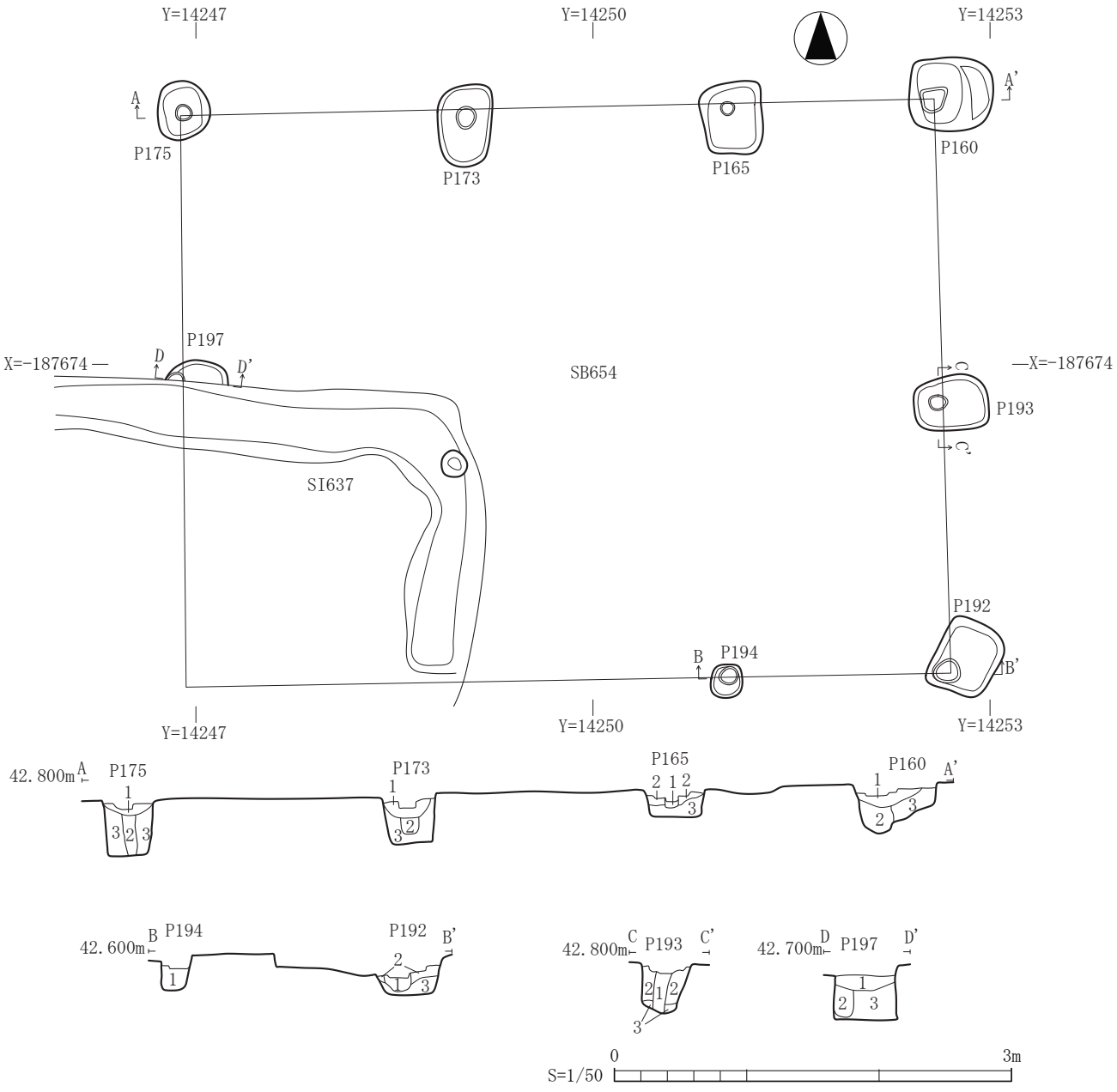
【重複】ＳＤ682より古い。ＳＩ638より新しい。



No.	遺構	層位	土色	土性
1	P156	1層	灰色（10Y5/1）	シルト
2	P156	2層	灰色（7.5Y5/1）	粘質シルト
3	P161	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
4	P161	2層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト
5	P161	3層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
6	P167	1層	灰色（5Y4/1）	粘質シルト
7	P167	2層	灰色（7.5Y6/1）	砂質シルト
8	P167	3層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘質シルト
9	P167	4層	灰色（7.5Y5/1）	粘質シルト
10	P168	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
11	P168	2層	灰色（5Y6/1）	粘質シルト
12	P168	3層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
12	P169	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
13	P169	2層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト
14	P169	3層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
15	P170	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
16	P170	2層	灰色（5Y6/1）	粘質シルト
17	P170	3層	灰色（7.5Y5/1）	粘質シルト
18	P178	1層	灰色（7.5Y6/1）	シルト
19	P178	2層	灰白色（10Y7/1）	シルト
20	P178	3層	灰白色（7.5Y7/1）	粘質シルト
21	P188	1層	灰色（7.5Y5/1）	シルト
22	P188	2層	灰色（10Y5/1）	粘性シルト

第31図　ＳＩ653掘立柱建物跡平面図・断面図



No.	遺構	層位	土色	土性
1	P160	1層	灰色 (10Y6/2)	砂質シルト
2	P160	2層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
3	P160	3層	黄灰色 (2.5Y6/1)	粘質シルト
4	P165	1層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
5	P165	2層	淡黄色 (2.5Y7/3)	粘質シルト
6	P165	3層	浅黄色 (2.5Y7/4)	粘土
7	P173	1層	灰色 (5Y5/1)	シルト
8	P173	2層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
9	P173	3層	浅黄色 (5Y7/3)	粘質シルト
10	P175	1層	灰白色 (7.5Y7/1)	シルト
11	P175	2層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
12	P175	3層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
13	P192	1層	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト
14	P192	2層	灰色 (5Y5/1)	砂質シルト
15	P192	3層	浅黄色 (2.5Y7/3)	粘質シルト
16	P193	1層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
17	P193	2層	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト
18	P193	3層	灰色 (10Y5/1)	粘質シルト
19	P194	1層	灰色 (7.5Y6/1)	粘質シルト
20	P197	1層	灰白色 (7.5Y7/1)	粘質シルト
21	P197	2層	灰色 (5Y5/1)	砂質シルト
22	P197	3層	浅黄色 (5Y7/3)	粘質シルト

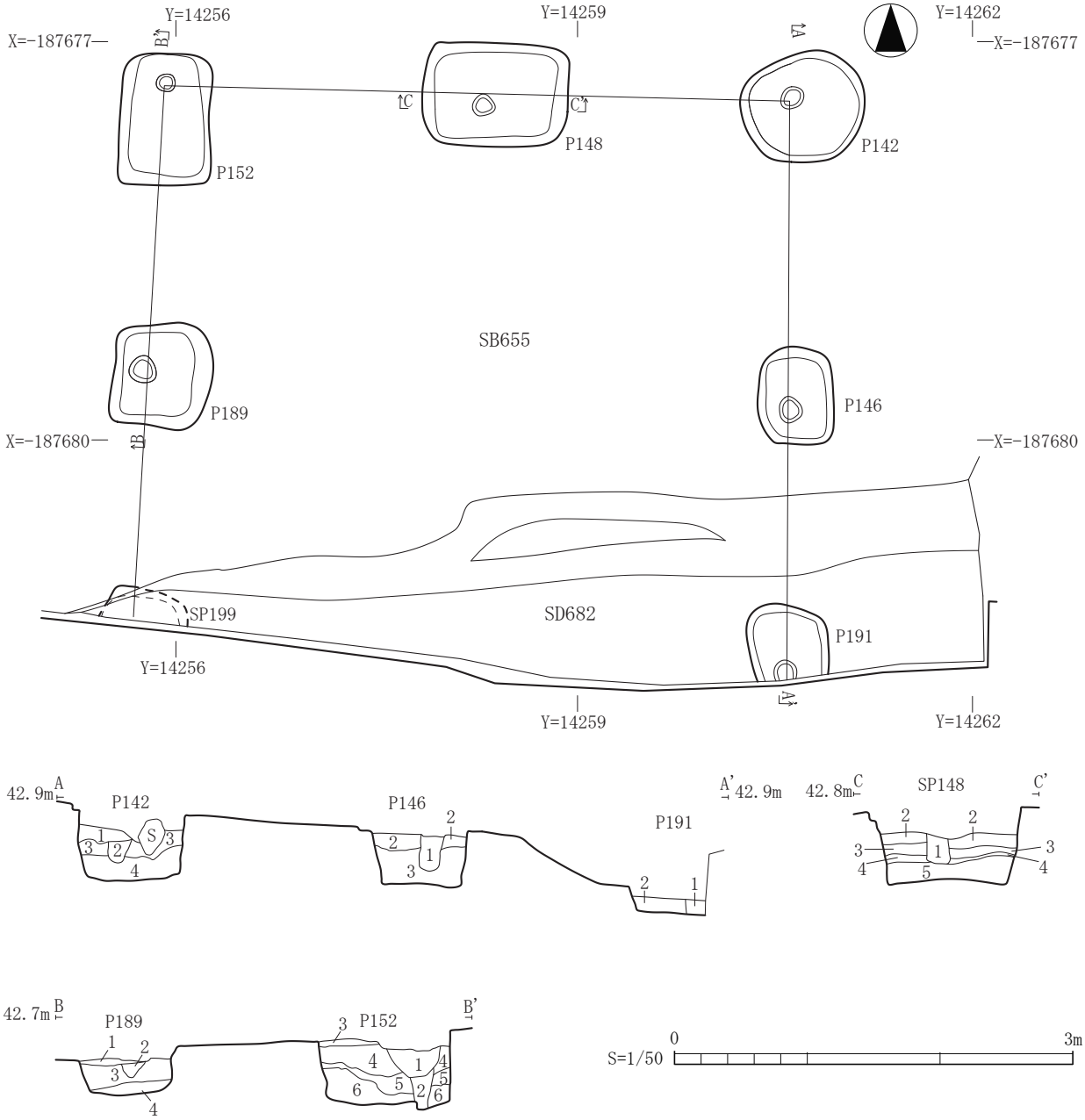
第32図　ＳＩ654掘立柱建物跡平面図・断面図

【方向・柱間】方向は、東側柱列で測ると、北で約0.5度東に偏している。柱間は桁行が西側柱列のP152、189間で2.2ｍであり、東側柱列（検出長）で北から2.3ｍ、2.0ｍで総長4.3ｍである。柱間は梁行が北妻で西から2.4ｍ、2.3ｍで総長4.7ｍである。

【方向・規模】方向は、東側柱列で測ると、北で約0.5度東に偏している。規模は、北側柱列が4.7ｍ、柱間は西から2.4ｍ、2.3ｍである。東側柱列（検出長）が4.3ｍ、柱間は北から2.3ｍ、2.0ｍである。西側柱列であるが、Ｐ152・189間は2.2ｍである。

【掘方】いずれも方形であるが、Ｐ142は円形に近い。規模は短辺が58 ～ 78㎝、長辺が74 ～ 110㎝、深さ36 ～ 60㎝である。埋土は黄褐色粘土が主体であり、地山の粘土が混入している。

【年代】重複するＳＩ638竪穴建物より新しい事から、９世紀中頃以降の時期と推定される。



第33図　ＳＩ655掘立柱建物跡平面図・断面図

No.	遺構	層位	土色	土性
1	P142	1層	明黄灰色（2.5Y5/2）	砂質シルト
2	P142	2層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
3	P142	3層	黄灰色（2.5Y4/1）	粘質シルト
4	P142	4層	灰色（5Y5/1）	シルト
5	P146	1層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
6	P146	2層	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト
7	P146	3層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
8	P148	1層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
9	P148	2層	灰色（5Y5/1）	シルト
10	P148	3層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
11	P148	4層	褐灰色（10YR4/1）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
12	P148	5層	灰色（5Y5/1）	シルト
13	P152	1層	灰色（10Y5/1）	砂質シルト
14	P152	2層	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト
15	P152	3層	灰白色（5Y7/1）	砂質シルト
16	P152	4層	褐灰色（10YR5/1）	砂質シルト
17	P152	5層	褐灰色（7.5YR5/1）	シルト
18	P152	6層	黄灰色（2.5Y5/1）	粘質シルト
20	P189	1層	黄灰色（2.5Y4/1）	砂質シルト
21	P189	2層	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト
22	P189	3層	灰黄褐色（10YR5/2）	粘質シルト
23	P189	4層	灰色（5Y5/1）	粘質シルト

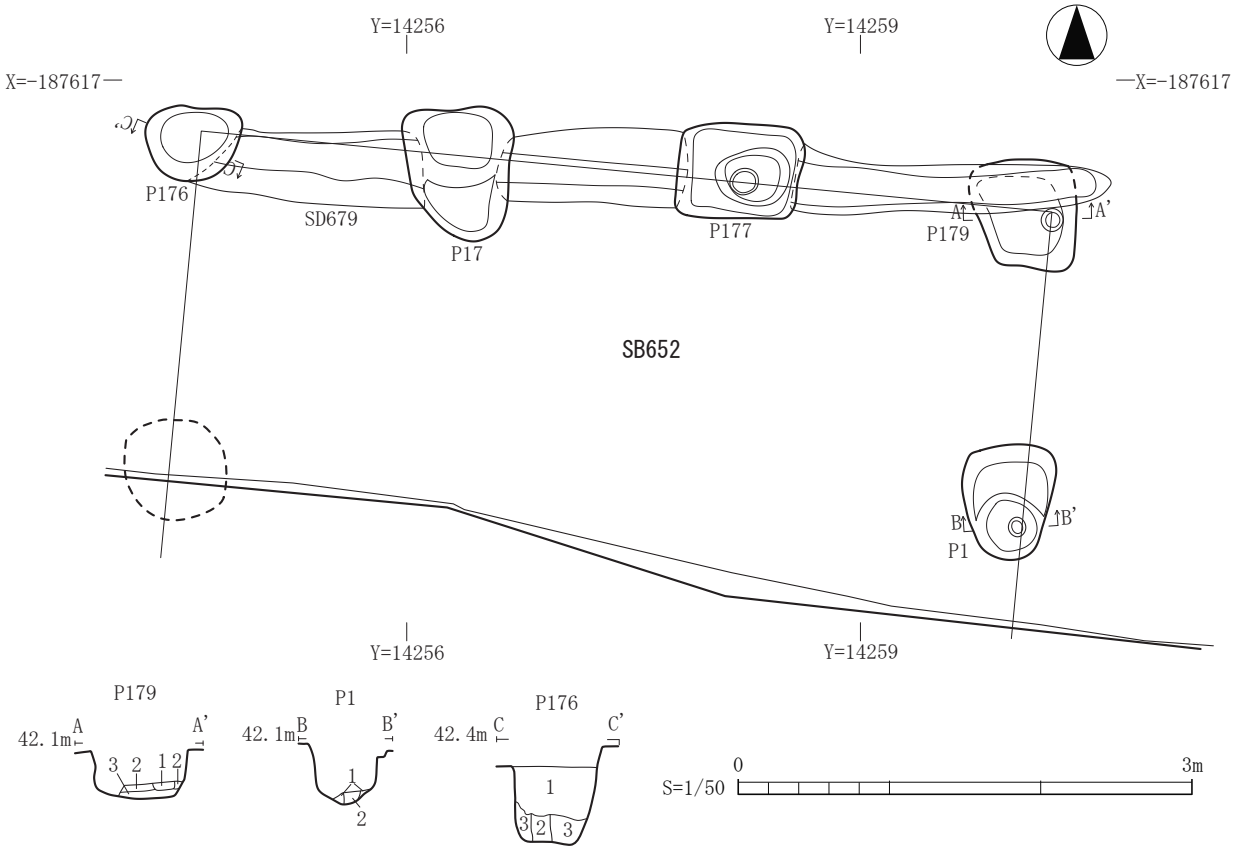
その他の掘立柱建物跡（第35 ～ 37図）

遺構配置図のみて表示した掘立柱建物跡11棟について、その概要のみ以下に記述する。

ＳＢ641掘立柱建物跡（第35図）

調査区北西端で発見した。梁行１間、桁行３間の南北棟である。ＳＤ667により西側柱列の柱穴が壊されている。

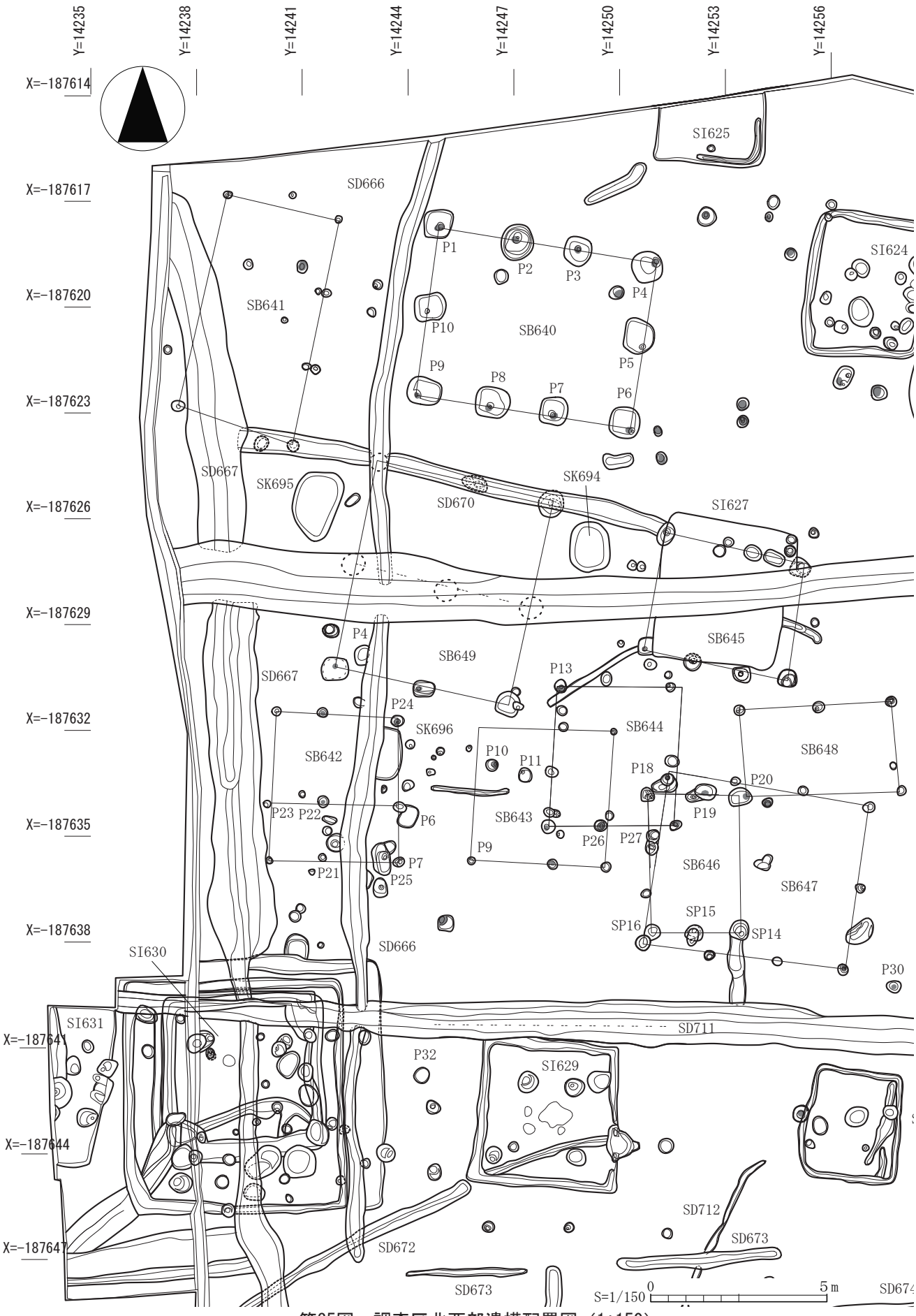
ＳＤ667・ＳＤ670と重複しており、それより古い。方向は、東側柱列で測ると、北で東に約12度偏している。柱間は、南妻が3.25m、桁行が東側柱列が北から2.2m、2.2m、2.2mで総長6.6mである。西側柱



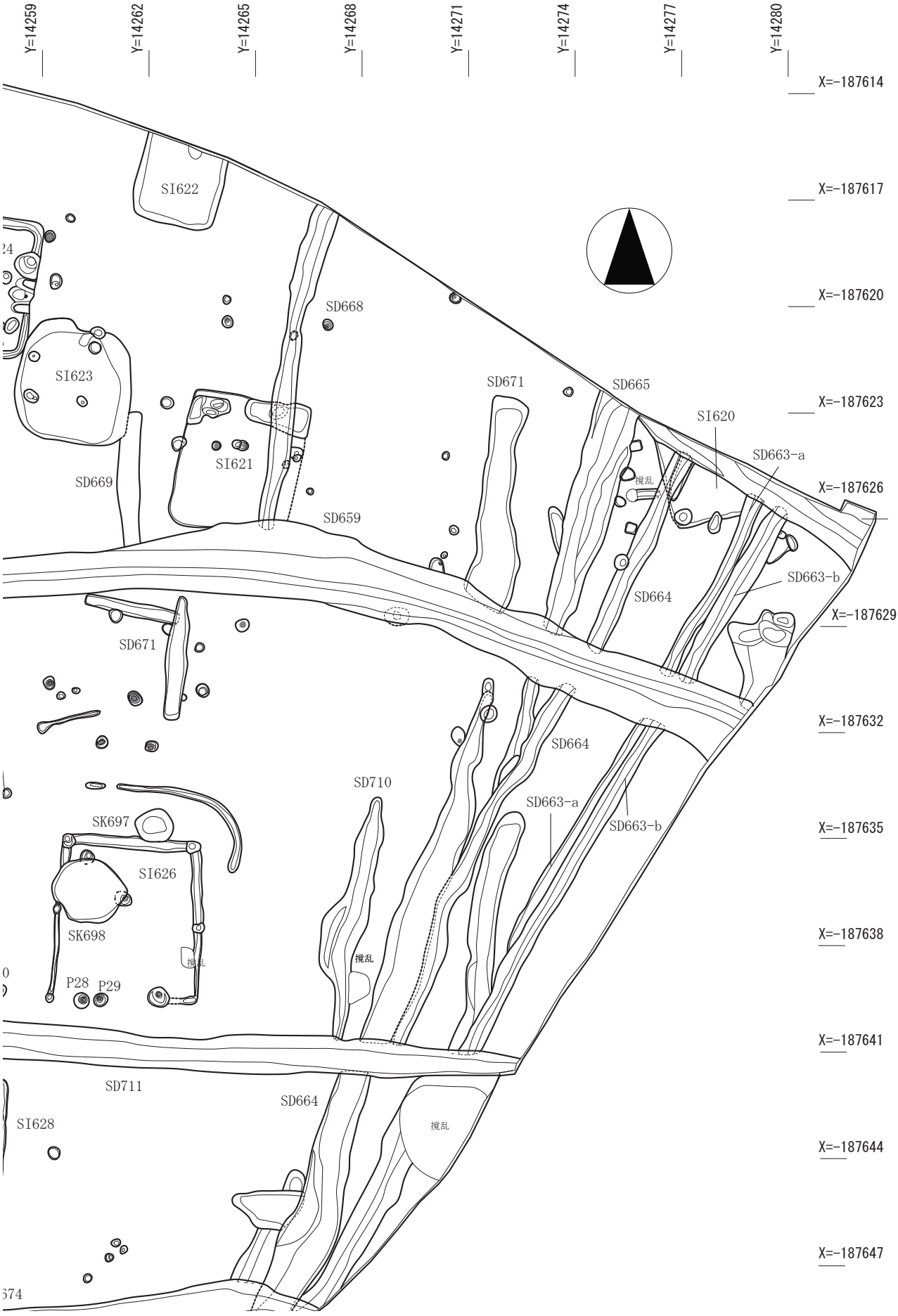
No.	遺構	層位	土色	土性
1	P176	1層	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土
2	P176	2層	にぶい黄色（2.5Y6/3）	粘土
3	P176	3層	黄褐色（2.5Y5/3）	粘土
4	P179	1層	灰黄色（2.5Y5/1）	粘質シルト

No.	遺構	層位	土色	土性
5	P179	2層	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘質シルト
6	P179	3層	明黄褐色（2.5Y7/6）	粘土
7	P1	1層	灰褐色（5YR4/2）	粘質シルト
8	P1	2層	にぶい赤褐色（5YR4/3）	粘質シルト

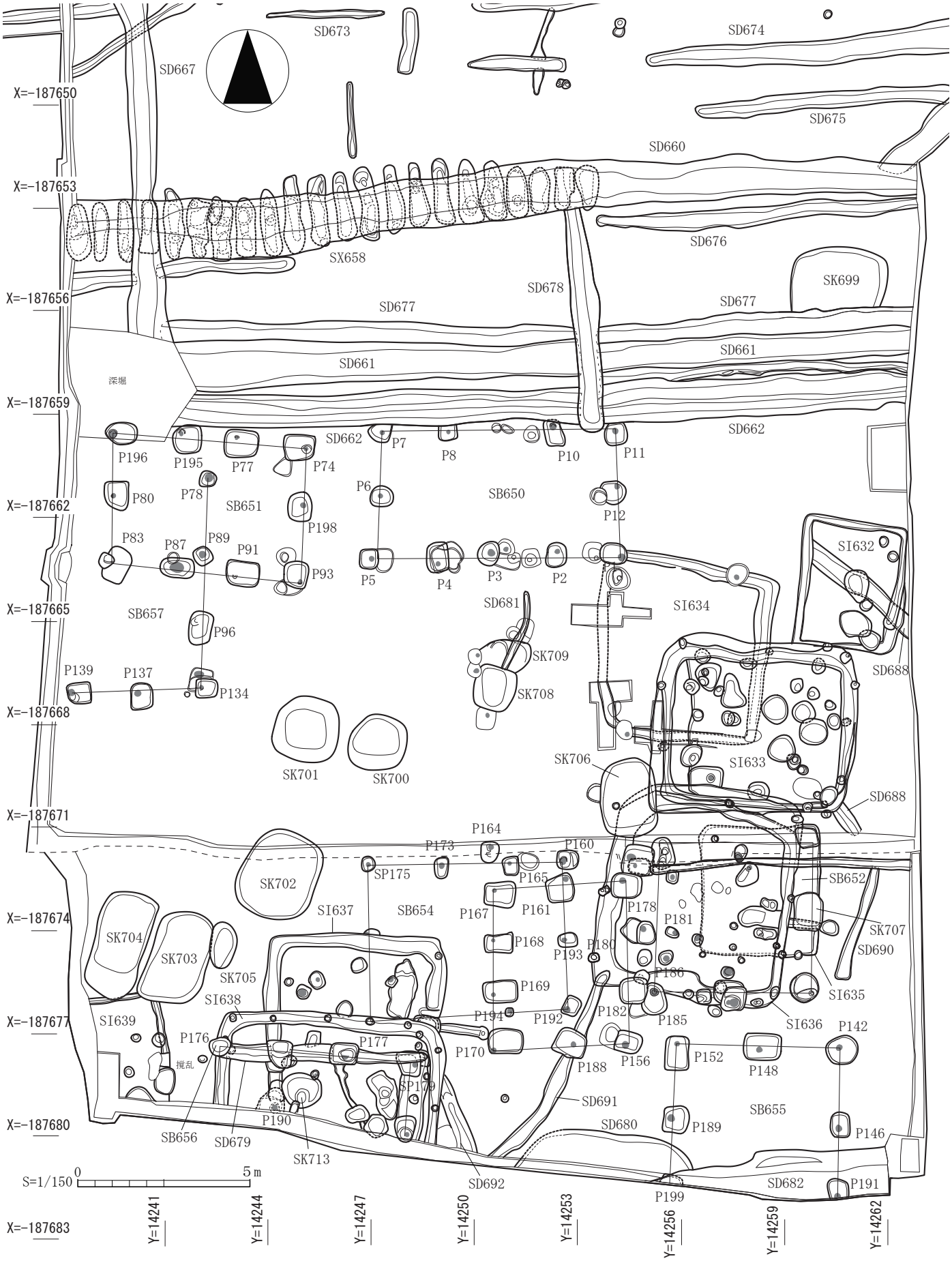
第34図　ＳＢ656掘立柱建物跡平面図・断面図



第35図　調査区北西部遺構配置図（1:150）



第36図　調査区北東部遺構配置図（1:150）



第37図　調査区南部遺構配置図（1:150）

間距離は、総長6.15ｍとやや短い。

ＳＢ642掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側西寄りで発見した。９基の柱穴から構成される建物跡である。母屋は桁行２間、梁行１間の東西棟で、南面に庇がつく。ＳＤ11と重複しているが新旧関係は不明である。方向は、東側柱列で測ると、北で約0.5度西に偏している。母屋の柱間は、梁行は北妻で西から1.3m、2.15ｍで総長3.15ｍであり、南妻で西から1.6m、2.15ｍで総長3.75ｍである。東側の柱穴間は、2.4m、西側の柱穴間は2.65ｍである。南側にある庇は、母屋から1.6m離れている。東西の規模は3.7ｍで、西から1.5m、2.2ｍである。埋土1層より、土師器高台付坏が出土している。遺物の時期は、９世紀後半と考えられる。

ＳＢ643掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。７基の柱穴から推定される建物跡である。桁行２間、梁行１間の東西棟である。南側に庇が付く。ＳＢ644と重複している。新旧関係は不明である。方向は、東側柱列で測ると、北で約４度東に偏している。柱間は梁行が南妻（庇）で西から2.3m、1.5ｍで総長3.8mある。桁行が東側柱列で北から2.4m、1.5ｍで総長3.9ｍである。

ＳＢ644掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。８基の柱穴から構成される建物跡である。桁行２間、梁行２間の南北棟である。ＳＢ643・646・647と重複していが新旧関係は不明である。方向は西側柱列で測ると、北で約６度東に偏している。柱間は梁行が南妻で西から1.5m、2.2ｍで総長3.7ｍである。北妻が3.1m、桁行が西側柱列で北から2.4m、1.6ｍで総長4.0ｍであり、東側柱列で北から2.1m、1.8ｍで総長3.9ｍである。

ＳＢ645掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。８基の柱穴から構成される建物跡である。桁行３間、梁行１間の東西棟である。ＳＩ625・ＳＤ659と重複しており、それより古い。方向は、南側柱列で測ると、西で約13度北に偏している。柱間は、桁行が南側柱列で西から1.3m、1.3m、1.25ｍで総長3.85である。北側柱列で西から約2.35m、約1.4ｍで総長3.75ｍである。梁行については西と東の柱穴間距離は、3.1ｍである。

ＳＢ646掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。6基の柱穴から構成される建物跡である。桁行２間、梁行１間の東西棟である。ＳＢ644・648・647と重複している。ＳＢ648よりも古い。ＳＢ644・648は新旧関係不明である。方向は、南側柱列で測ると、西で約１度北に偏している。柱間は、桁行が南側柱列で西から約1.2m、1.3ｍで総長2.5ｍである。北側柱列で西から1.3m、約1.3ｍで総長2.6mある。梁行については東西の柱間の距離は、3.9ｍである。

ＳＢ647掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。12基の柱穴から構成される建物跡である。桁行３間､梁行２間（東側では１間）の東西棟である。ＳＢ644・646・648と重複している。ＳＢ646より新しい。ＳＢ644・648とは新旧関係は不明である。方向は、南側柱列で測ると、西で約７度北に偏している。柱間は、桁行が南側柱列で西から

1.95m、1.9m、1.95mで総長5.8mであり、北側柱列で西から1.9m、1.95m、1.95mで総長5.8ある。

ＳＢ648掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側で発見した。６基の柱穴から構成される建物跡である。桁行２間、梁行１間の東西棟である。ＳＢ646・647と重複しているが新旧関係は不明である。方向は、北側柱列で測ると、西で約３度南に偏している。柱間は、桁行が東側柱列で西から2.2m、2.1mで総長4.3mあり、南側柱穴で距離は4.4m、間に柱が入る可能性があるが検出されていない。梁行については南北の柱間距離は2.5mである。

ＳＢ649掘立柱建物跡（第35図）

調査区北側の西寄りで発見した。５基の柱穴から推定される建物跡である。北西隅の柱穴がＳＤ666・670に切られ検出されていない。また、南北の柱穴間が5.8mと距離があるため、ＳＤ659内に柱穴列が存在していた可能性がある。したがって、建物跡は桁行２間、梁行２間の南北棟と考えられ、総柱建物である可能性もある。ＳＤ659・670と重複しており、それより古い。方向は、南側柱列で測ると、西で約12度南に偏している。柱間は、梁行が南妻で柱間は西から2.4m、約2.6mで総長5.0mある。北東隅とその西の柱穴間は約2.5m、桁行については南北間の距離は5.8mである。

ＳＢ652掘立柱建物跡（第37図）

調査区南側の東寄りで発見した。６基の柱穴から構成される建物跡である。桁行２間、梁行１間の東西棟である。ＳＩ635・ＳＩ636・ＳＢ653・Ｐ183と重複している。ＳＢ653・Ｐ183より古く、ＳＩ635・ＳＩ636より新しい。方向は、北側柱列で測ると、西で約0,5度北に偏している。柱間は、桁行が南側柱列で西から1.9m、2.6mで総長4.5mあり、北側柱列で西から2.1m、約2.1mで総長4.3mである。梁行が西妻で4.1m、東妻で4.2mである。

ＳＢ657掘立柱建物跡（第37図）

調査区南側の西端で発見した。６基の柱穴（P78・89・96・134・137・139）から推定される建物跡である。桁行２間以上、梁行３間以上の南北棟と思われる。西側は調査区外となり、建物の範囲が不明となっている。ＳＢ651と重複してるが、新旧関係は不明である。方向は、東側柱列で測ると、北で約２度東に偏している。柱間は、梁行が東妻で北から2.2m、1.9m、1.9mで総長6.1mあり、桁行が南側柱列（検出長）で西から1.9m、1.9mで総長3.8mである。

溝跡

溝跡は登録したもので37条あった。このうち、ＳＤ659･660･662･711は、東西方向にのびる溝跡であるが、時期は現代である。その他の溝跡について概要を簡潔に述べる。

調査区北東側の溝跡（第36図）

調査区北東側には、北東から南西に延びる溝跡群がある。ＳＤ663a、ＳＤ663b、ＳＤ664、ＳＤ665、ＳＤ671、ＳＤ668、ＳＤ683である。それよりも西側には、南北方向に延びるＳＤ668、ＳＤ669、ＳＤ671がある。西端には、南北方向に延びるＳＤ666、ＳＤ667、東西に延びるＳＤ670がある。

溝跡と他遺構との重複関係であるが、ＳＤ665→ＳＤ664、ＳＤ663a・ＳＤ683→ＳＤ663b、ＳＢ641・Ｓ

Ｂ649→ＳＤ670→ＳＤ666・ＳＤ667、ＳＩ621→ＳＤ668、ＳＤ670→ＳＢ645→ＳＩ627、ＳＩ623→ＳＤ669となっている。

調査区北西側の溝跡（第35図）

調査区北西側には、北から南に延びる溝跡群がある。ＳＤ666、ＳＤ667、ＳＤ670、ＳＤ672、ＳＤ686である。

溝跡と他遺構との重複関係であるが、ＳＤ670・672→ＳＤ666・667、ＳＢ641・649→ＳＤ670→ＳＢ645、ＳＢ649→ＳＤ666、ＳＩ630→ＳＤ667となっている。

遺物であるが、ＳＤ672埋土１層より須恵器甕が出土した。

調査区中央の溝跡（第37図）

調査区中央部分は、主に東西方向に延びる溝跡群が確認された。北側からＳＤ674、ＳＤ675、ＳＤ676、ＳＤ677、ＳＤ661、ＳＤ662がある。南北方向に延びる溝跡は、ＳＤ667、ＳＤ678がある。溝跡と他遺構との重複関係であるが、ＳＤ677→ＳＤ661→ＳＤ662、ＳＤ677→ＳＤ667、ＳＤ677・ＳＤ661・ＳＤ662→ＳＤ678となっている。

出土遺物であるが、ＳＤ678埋土１層より平瓦破片が出土した。

調査区南側の溝跡（第37図）

調査区南側には、小規模な溝跡や部分的に検出された溝跡が認められた。ＳＤ681、ＳＤ682、ＳＤ687、ＳＤ688、ＳＤ689、ＳＤ690、ＳＤ691、ＳＤ692である。

溝跡と他遺構との重複関係であるが、ＳＩ636・ＳＤ690→ＳＤ689、ＳＤ692→ＳＩ638、ＳＤ691→ＳＢ653、ＳＢ655→ＳＤ682となっている。

土壙

調査区内では、18基の土壙（ＳＫ693 ～ 709・713）を登録した。このうち、遺物がまとまって出土している土壙について以下に詳細を述べる。

ＳＫ699土壙（第37図）

調査区中央部の東側に位置する。ＳＤ26よりも新しい。隅丸方形状を呈する。南側がＳＤ677に切られている。規模は、東西280cm、短軸184cm、深さ16cmである。底面はほぼ平坦で、壁は底面より緩やかに立ち上がる。埋土は２層に区分することができる。出土遺物であるが、埋土１層より、須恵器坏Ｖ類（Ｒ76）、土師器竈形土器（Ｒ80）、平瓦、丸瓦（Ｒ121）、須恵器壺（Ｒ120）が出土している。出土した須恵器坏は９世紀後半と考えられる。

ＳＫ700土壙（第37図）

調査区南部に位置する。重複はない。平面形は不整円形を呈する。規模は、長軸186cm、短軸164cm、深さ22cmである。底面は緩やかに湾曲し、壁は底面より緩やかに立ち上がる。埋土は２層に区分することができる。出土遺物であるが、埋土１層より、須恵器坏（Ｒ123）、土師器甕Ｂ類（Ｒ124）、須恵器壺（Ｒ125・126）、平瓦が出土している。出土遺物の時期は、９世紀後半と考えられる。

ＳＫ702土壙（第37図）

調査区南部の西寄りに位置する。重複はない。平面形は隅丸方形状を呈し、規模は、長軸262㎝、短軸226m、深さ16㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は底面より緩やかに立ち上がる。埋土は３層に区分することができる。出土遺物であるが、埋土２層より須恵器甕底部（Ｒ127)、土師器甕Ｂ類（Ｒ128)，平瓦（Ｒ81）が出土している。

性格不明遺構

ＳＸ658不明遺構（第37図）

調査区中央部で検出された。他の遺構との重複関係であるが、ＳＤ660、ＳＤ667より古い。長さ120～220ｃｍ、幅44～72ｃｍの小溝が長軸を南北方向にして、東西方向に連続して並ぶ。深さは５～42ｃｍである。他の溝跡に上部を切られているため、本来はより幅広で深さもあったと思われる。小溝の方向はほぼ南北方向で、北で西に約３～９度偏している。小溝が連続して並ぶ東西方向の検出された長さは15.4ｍで、西側は調査区外に延びる。

埋土は２層に区分することができる。１層は明緑灰色粘質シルトで固くしまる。２層は明青灰色粘土である。埋土中に礫や遺物の細破片を含む。

出土遺物であるが、埋土１層より、須恵器壺の破片（Ｒ133)、埋土２層より灰釉陶器皿の破片（Ｒ92)、須恵器円面硯の破片（Ｒ93）が出土している。埋土２層の出土土器は、灰釉陶器については９世紀後半から10世紀初めの年代となる。

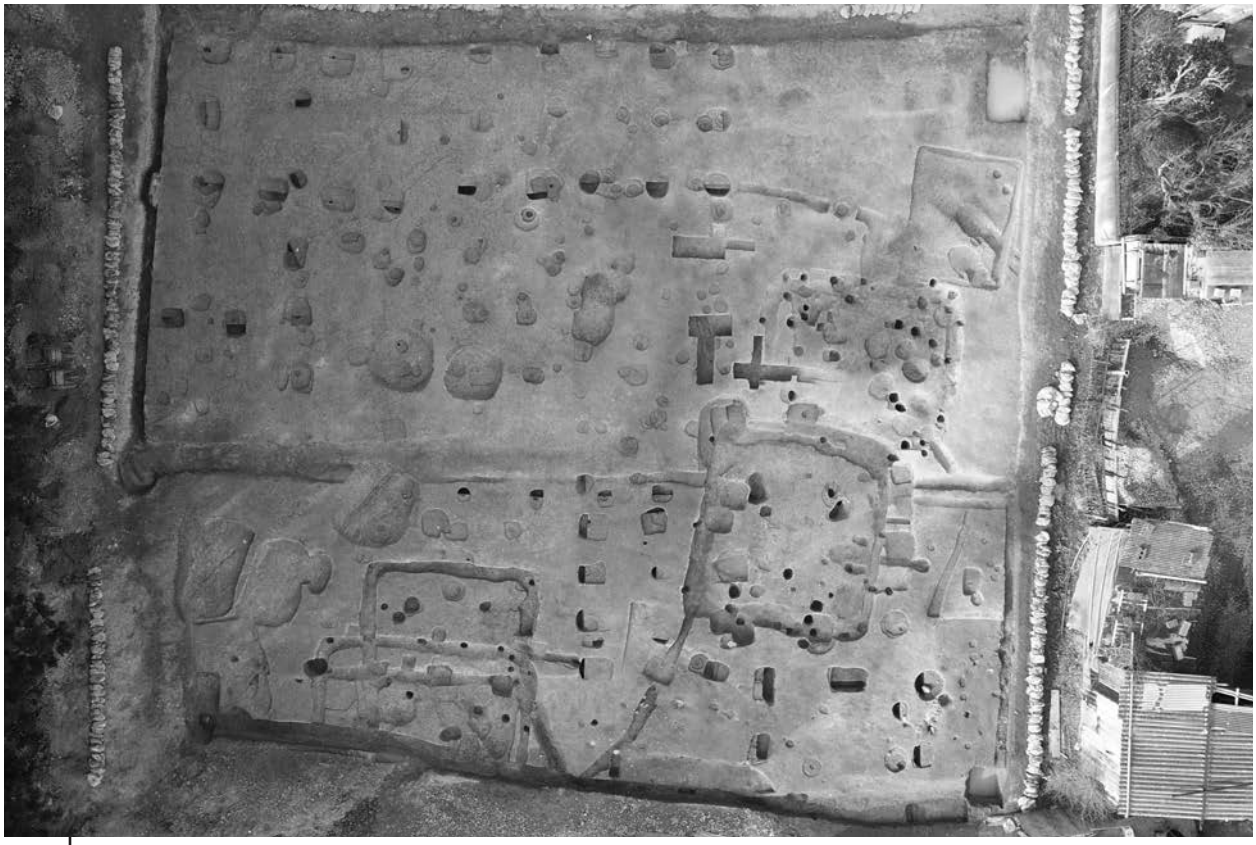
まとめ

西沢遺跡第37次調査では、９世紀代を中心とすると考えられる竪穴建物跡群、掘立柱建物跡群と溝跡、土壙が確認された。建物跡は、調査区北側と南側に分布のまとまりが認められる。

竪穴建物跡は、カマドを備えるものと、備えないものがある。カマドは建物跡東辺に備え付けられている。概して小型の竪穴建物跡はカマドを備えていないものが多い。ＳＩ630は同位置で３回の建て替えられており、何らかの作業施設の役割が想定される。掘立柱建物跡は、間取りが２×３間の建物が主で、南側の建物群は比較的大型の掘り方をもつ建物跡が多い。北側の掘立柱建物群は柱穴が小さい建物跡が多い。

出土遺物では、竪穴建物跡を中心に９世紀代の須恵器・土師器が出土している。土師器の中には、竈形土器も確認された。その他、須恵器の円面硯や土師器の風字硯、灰釉陶器皿、緑釉陶器皿なども出土している。

調査区遠景（南東から）



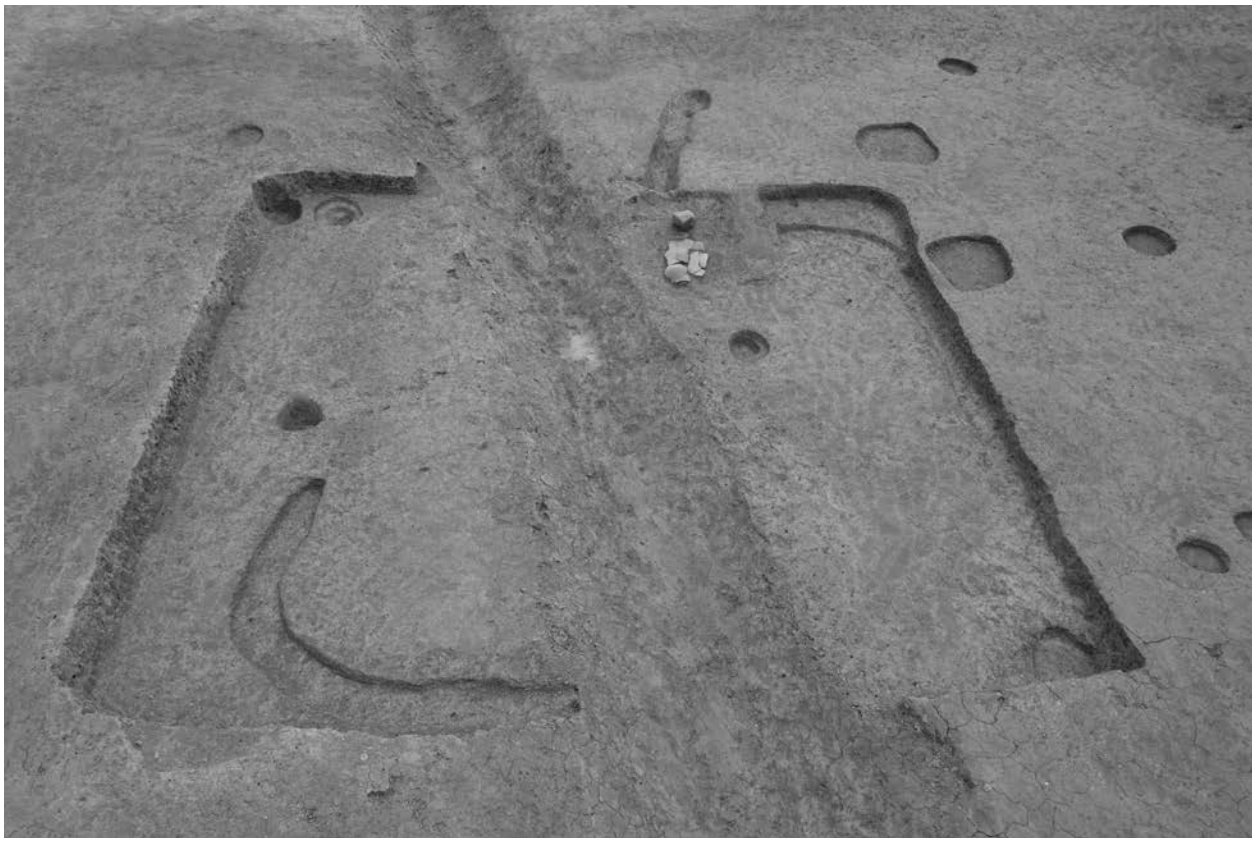
調査区南部遺構全景（南から）

写真図版 1

調査区全景（南から）

写真図版２

ＳＩ623・ＳＩ624竪穴建物跡完掘状況（北西から）



ＳＩ 627 竪穴建物跡完掘状況（西から）

写真図版３

ＳＩ 629 竪穴建物遺物跡遺物出土状況（西から）

ＳＩ 629 竪穴建物跡カマド断面（北から）

ＳＩ 629 竪穴建物跡カマド遺物出土状況（西から）

ＳＩ627竪穴建物跡カマド内遺物出土状況（西から）

ＳＩ625竪穴建物跡完掘状況（南から）

写真図版４

ＳＩ630a、b竪穴建物跡完掘状況（東から）

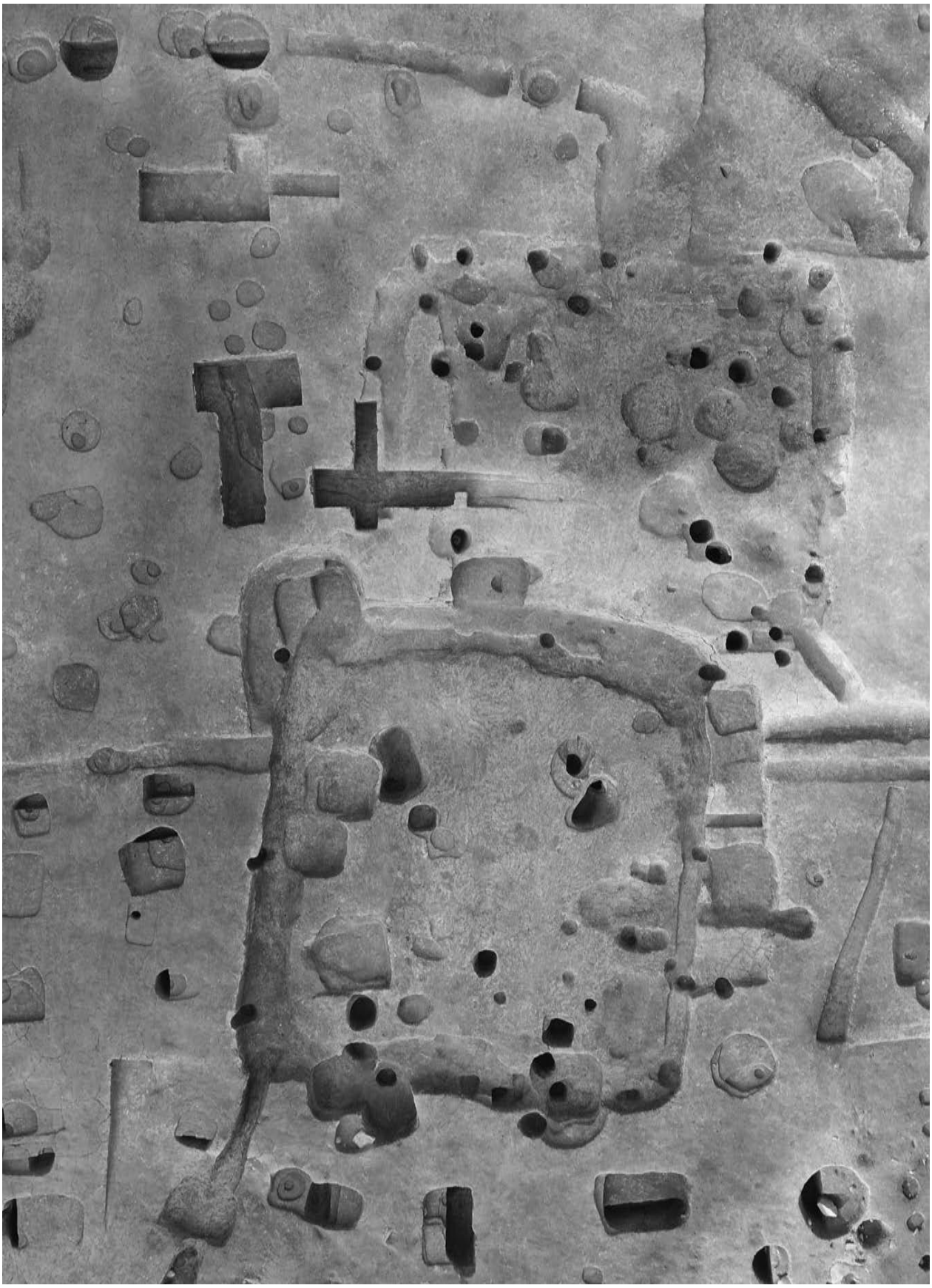
ＳＩ 630c・d 竪穴建物跡（東から）

ＳＩ 630b 竪穴建物跡遺物出土状況（南から）

ＳＩ 630d 竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

ＳＩ631竪穴建物跡完掘状況（西から）

写真図版５

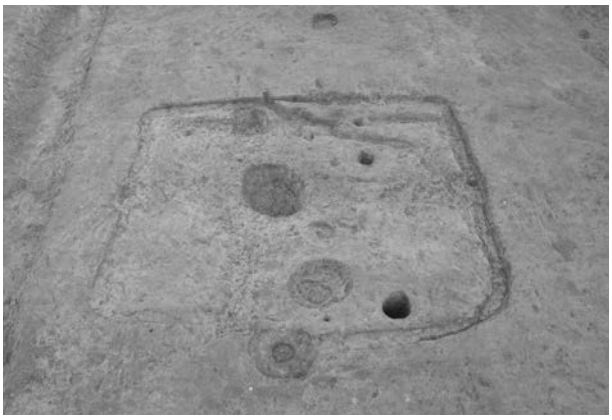


ＳＩ634・ＳＩ633・ＳＩ635・636竪穴建物跡完掘状況（南から）

写真図版６

ＳＩ 636 竪穴建物跡カマド遺物出土状況（西から）

ＳＩ626竪穴建物跡完掘状況（東から）

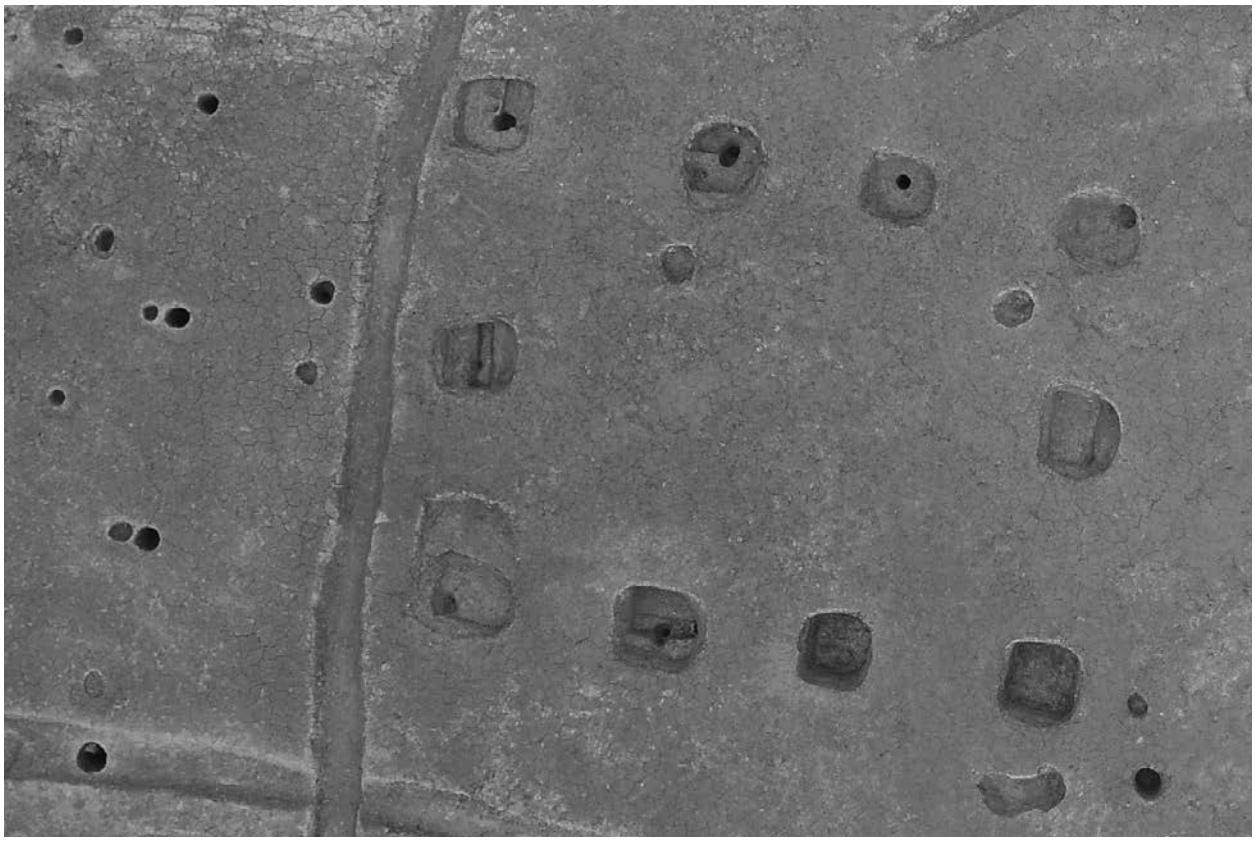


ＳＩ628竪穴建物跡完掘状況（西から）

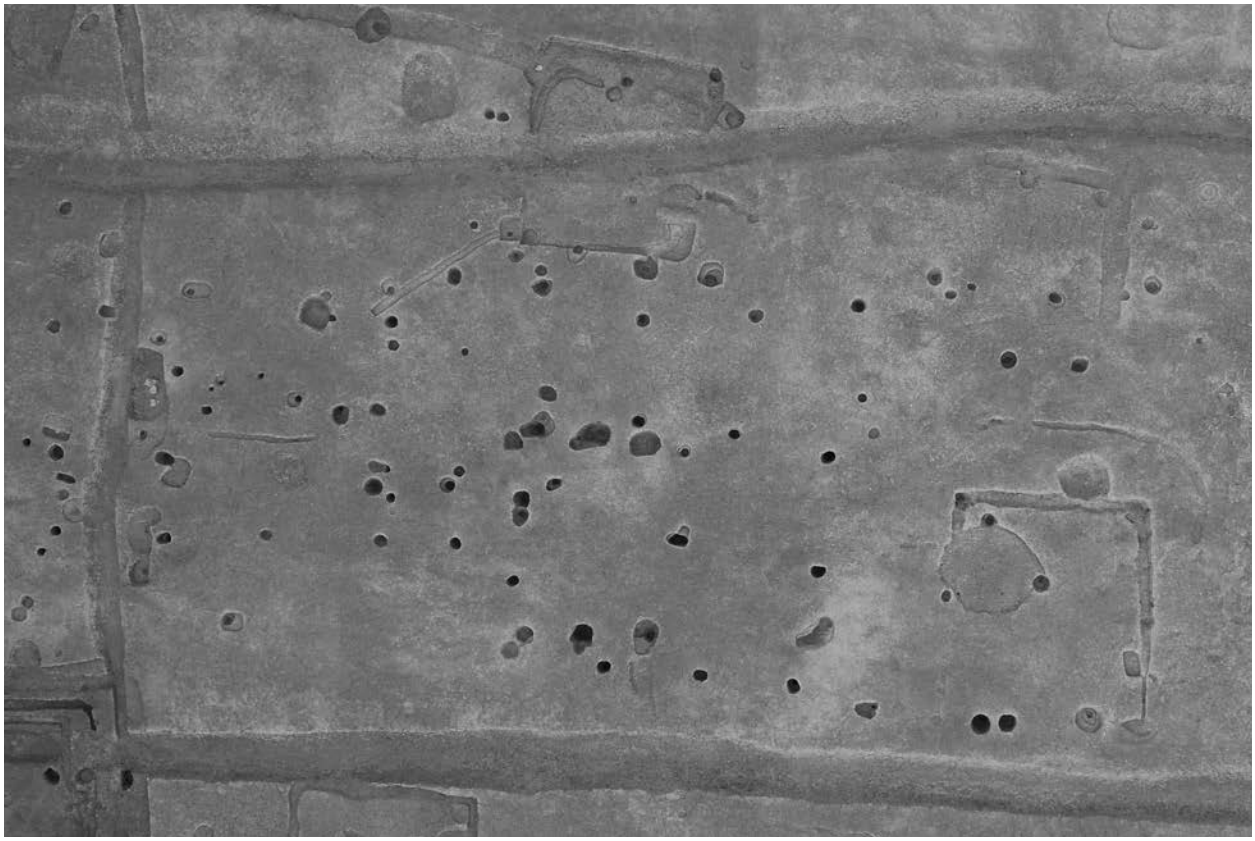
ＳＩ632竪穴建物跡完掘状況（西から）

ＳＩ637・ＳＩ638・ＳＩ639竪穴建物跡完掘状況（北から）

写真図版７



ＳＢ640掘立柱建物跡（南から）



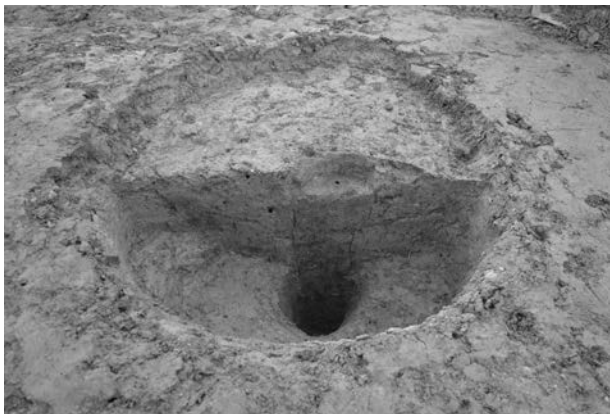
調査区北側掘立柱建物跡完掘状況（南から）

写真図版８

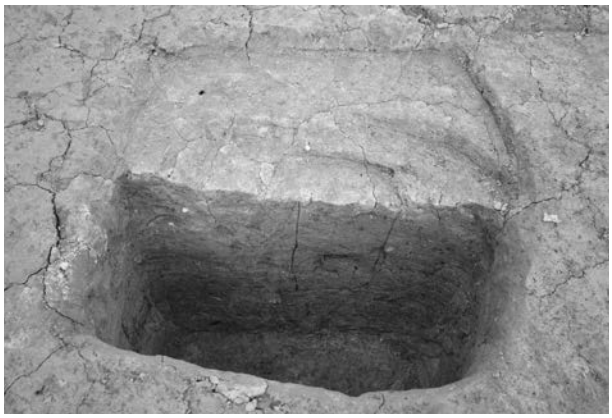
ＳＢ650掘立柱建物跡（東から）

ＳＢ651掘立柱建物跡（東から）

写真図版９



ＳＢ 640 掘立柱建物跡Ｐ２柱穴断面（北から）



ＳＢ 651 掘立柱建物跡柱穴断面（南から）

ＳＸ 658 不明遺構完掘状況（南から）

ＳＫ699土壙遺物出土状況（西から）

写真図版10

八幡館跡第７次調査

１　要項

調 査 地　八幡二丁目 371・372 － 1

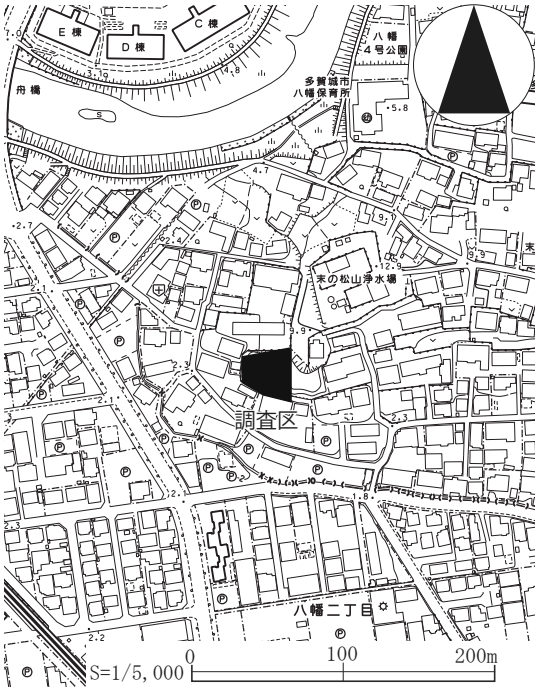
調査原因　共同住宅建築

調査担当　宮崎正裕　板垣泰之

調査期間　平成 25 年４月 10 日～同年６月 13 日

対象面積　2,370.13 ㎡

調査面積　175 ㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

4/10　重機によるⅠ・Ⅱ区の表土掘削

Ⅰ・Ⅱ区の環境整備、遺構検出作業開始

4/16　Ⅱ区を超えて広がる整地層の範囲確認のため、南東部にⅢ区を設定（表土掘削）

4/17　調査区及び個別遺構の写真撮影開始

遺構平面・断面図作成開始

5/22　発見した石積み土橋等の測量に係る写真撮影（業務委託）

6/5　調査区の航空写真撮影実施（業務委託）

6/13　調査機材搬出（調査終了）

３　調査成果

本調査では、石積みで補強した土橋及びそれよりも古い堀切、横穴墓などを発見した。調査区ごとに様相が異なるので、以下地区ごとに調査成果を記載する。

（１）Ⅰ区

ア　層序（第３図）

Ⅰ層：褐灰色土（10YR4/1）であり、厚さは 10 ～ 40 ㎝である。現代の表土である。

Ⅱ層：灰黄褐色土（10YR5/2）であり、厚さは 10 ～ 30 ㎝である。

Ⅲ層：黒褐色土（10YR3/2）であり、厚さは 10 ～ 40㎝ である。

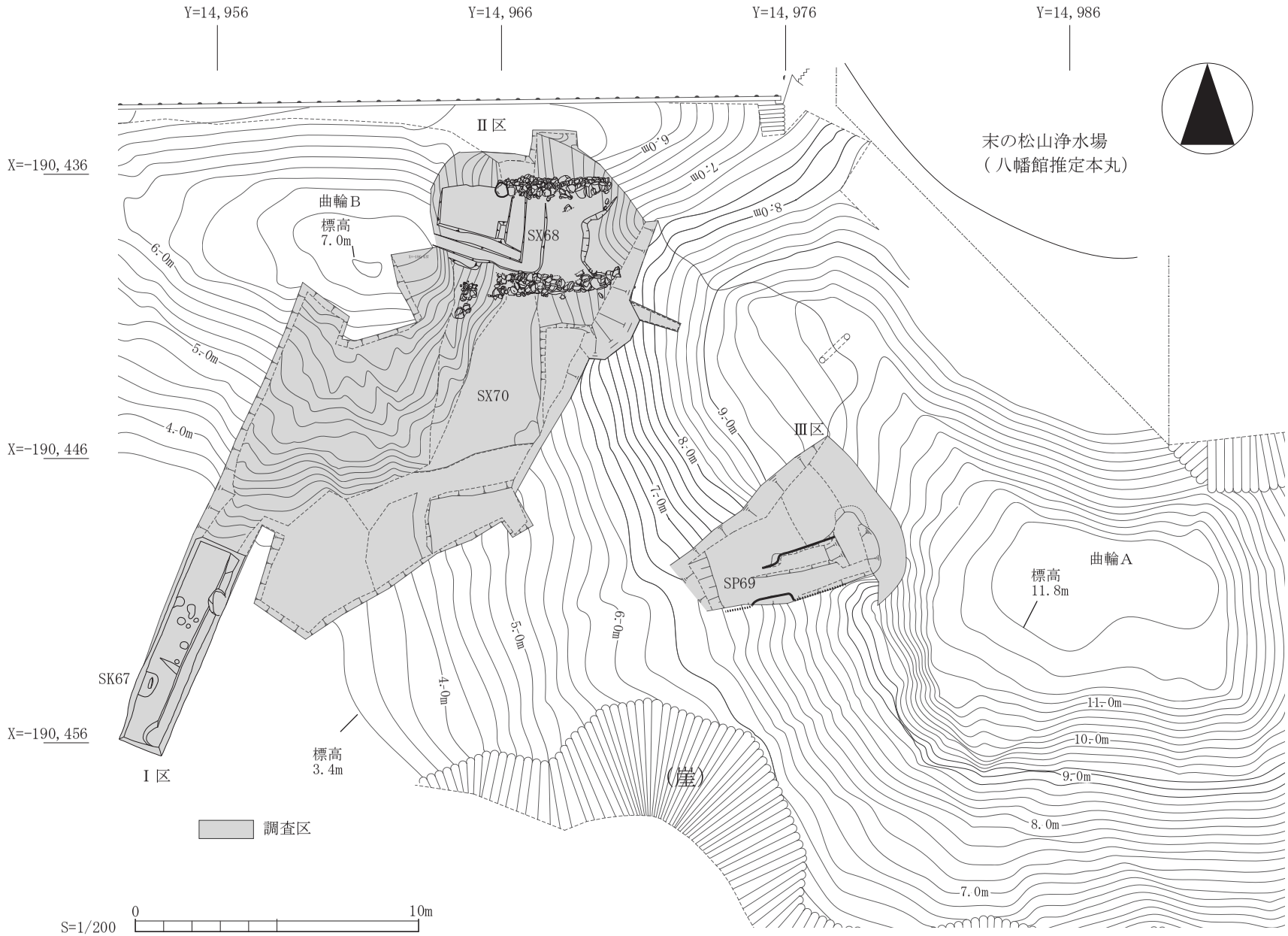
Ⅳ層：にぶい黄褐色土（10YR5/4）であり、厚さは 10 ～ 30 ㎝である。

Ⅴ層：黒色土（10YR2/1）であり、厚さは 10 ～ 40 ㎝である。東壁断面で Pit 状の痕跡が認められることから、ある時期の遺構検出面の可能性がある。

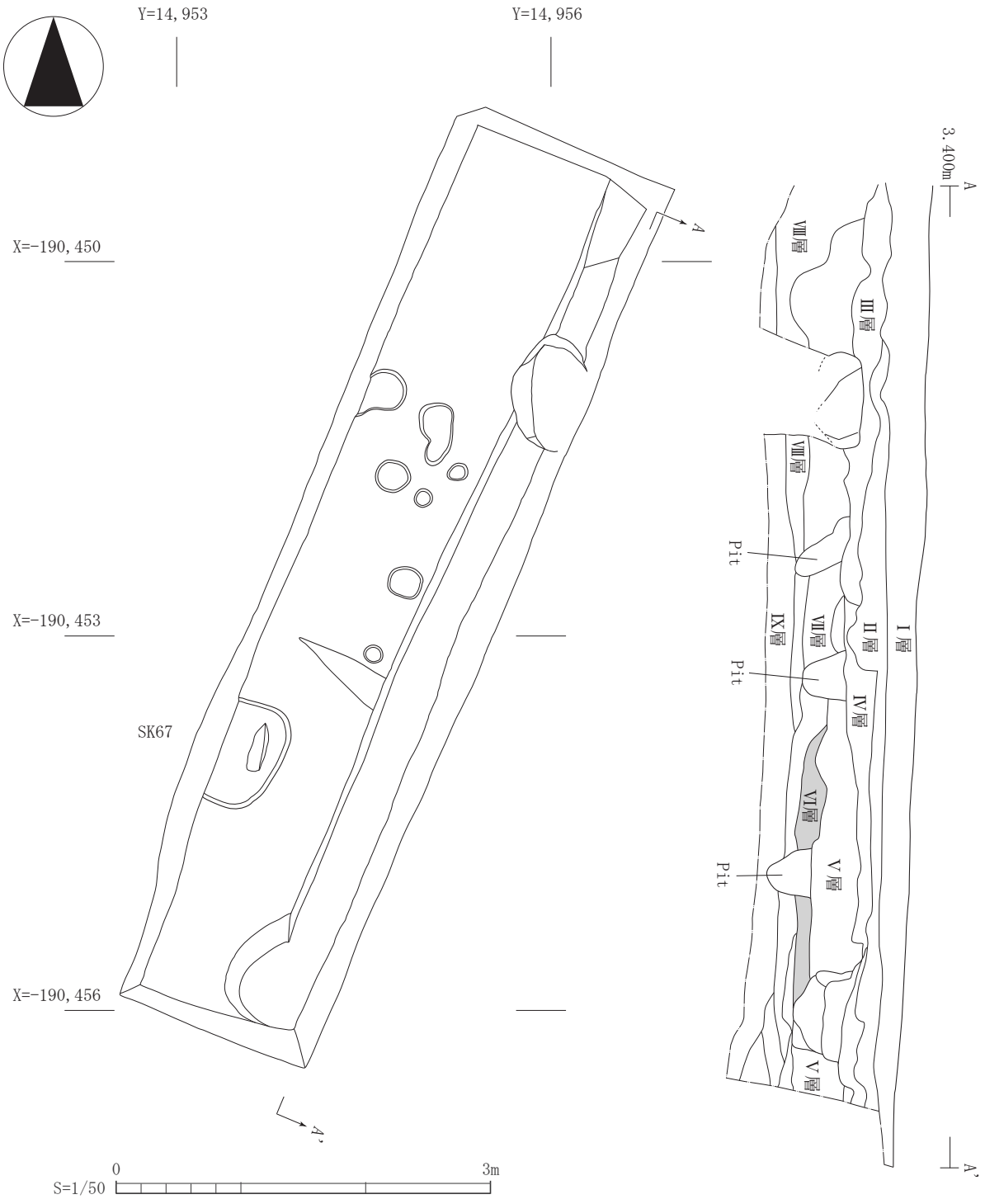
Ⅵ層：暗褐色土（10YR3/3）であり、厚さは 10 ～ 20 ㎝である。本地区の遺構検出面である。

Ⅶ層：にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）であり、基盤層である岩盤片を多く混入している。厚さは 10 ～ 50 ㎝である。

Ⅷ層：岩盤を覆う褐色砂（10YR4/4）であり、厚さは 10 ～ 70 ㎝である。


Y=14,956
Y=14,966
Y=14,976
Y=14,986
X=-190,436
X=-190,446
X=-190,456
Ⅱ区
Ⅲ区
Ⅰ区
曲輪B
標高
7.0m
曲輪A
標高
11.8m
SX68
SX70
SP69
SK67
標高
3.4m
(崖)
末の松山浄水場
(八幡館推定本丸)
6.0m
7.0m
8.0m
9.0m
10.0m
11.0m
5.0m
4.0m
調査区
S=1/200
0
10m

第２図　調査区配置図



第３図　Ⅰ区遺構平面・断面図

Ⅸ層：岩盤を覆う黄褐色砂（10YR5/8）であり、厚さは 20 ㎝以上である。無遺物層であり、遺構も未検出であるが、当層上面が第三遺構面の可能性がある。

イ　発見遺構と遺物

現地表下約 0.8 ｍのⅥ層上面で、黒褐色砂質土（10YR3/2）や褐色砂質土（10YR4/3）主体の小柱穴、黒褐色粘質土（10YR3/1）主体の土壙ＳＫ 67 を検出したが、顕著な遺構は確認できなかった。調査区の制限上、建物としてまとまる小柱穴も皆無であった。

なお、調査区東及び北壁面では、平面では確認できないピットや土壙状の落ち込み等を発見したが、詳細は明らかではない。

（２）Ⅱ区

ア　層序（第８図）

Ⅰ層：灰黄褐色土（10YR5/2）であり、厚さは５～ 50 ㎝である。現代の表土であり、丘陵の南斜面および鞍部南斜面は堆積が厚く、頂部および鞍部北斜面は堆積が薄い。

Ⅱ層：にぶい黄橙色土（10YR7/6）：厚さ 15㎝。（上層）遺物包含層である。

Ⅲ層：にぶい黄橙色・褐灰色・黒褐色砂質土（10YR5/4・4/1・3/1）であり、厚さは 50 ～ 60 ㎝である。下層遺物包含層で、土橋ＳＸ 70 の覆土である。

Ⅳ層：黄橙色土（10YR8/6）の地山（岩盤）である。

イ　発見遺構と遺物

ＳＸ 70 堀切、ＳＸ 71・73 整地遺構、ＳＸ 68 土橋、ＳＤ 72 溝跡を発見した。

ＳＸ 70 堀切（第４図）

【位置】調査区北東側鞍部の現地表下約2.4ｍで発見した堀切である。南東側の丘陵（曲輪Ａ：標高約11.8ｍ）と西側の丘陵（曲輪Ｂ：標高約 7.0 ｍ）の間を、岩盤や地山を掘り込んで造られている。

【方向】南半部では北で約 22 度東に偏し、北半部では北で約 2 度西に偏している。

【規模】確認できた堀切の長さは南北約 11.2 ｍ、上幅は鞍部掘下げ箇所で測ると約 5.8 ｍである。堀堀底と曲輪Ａとの比高差は 7.4 ｍ、曲輪Ｂとの比高差は 2.6 ｍであり、北東部丘陵（推定本丸）との比高差は 8.5 ｍである。

【底面】底面の標高は、調査区北端で 4.45 ｍ、南端で 4.2 ｍであり、南から北への登り勾配である。

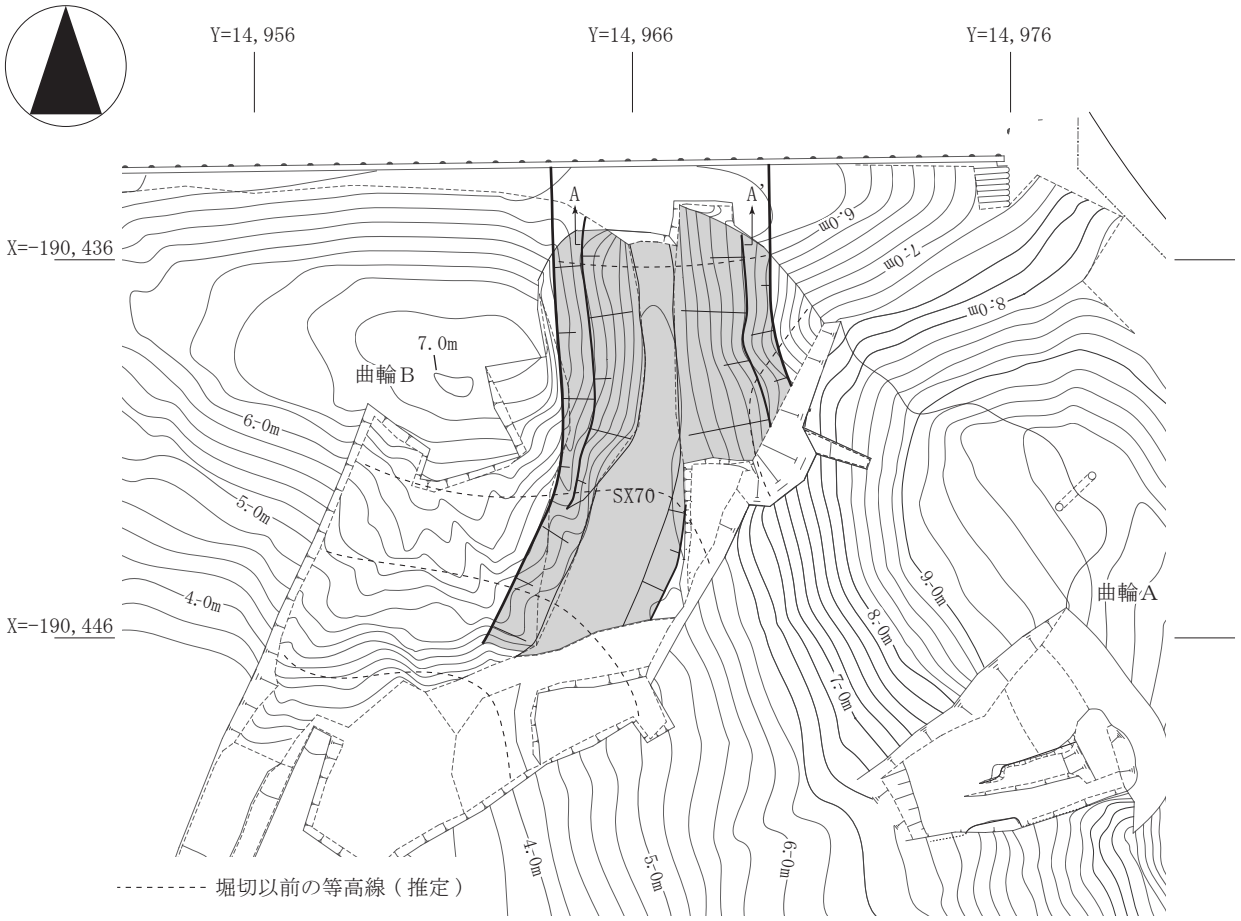
【年代】ＳＸ 73 整地遺構との新旧関係から、15 世以前のものと考えられる。

ＳＸ 71 整地遺構（第５・６図）

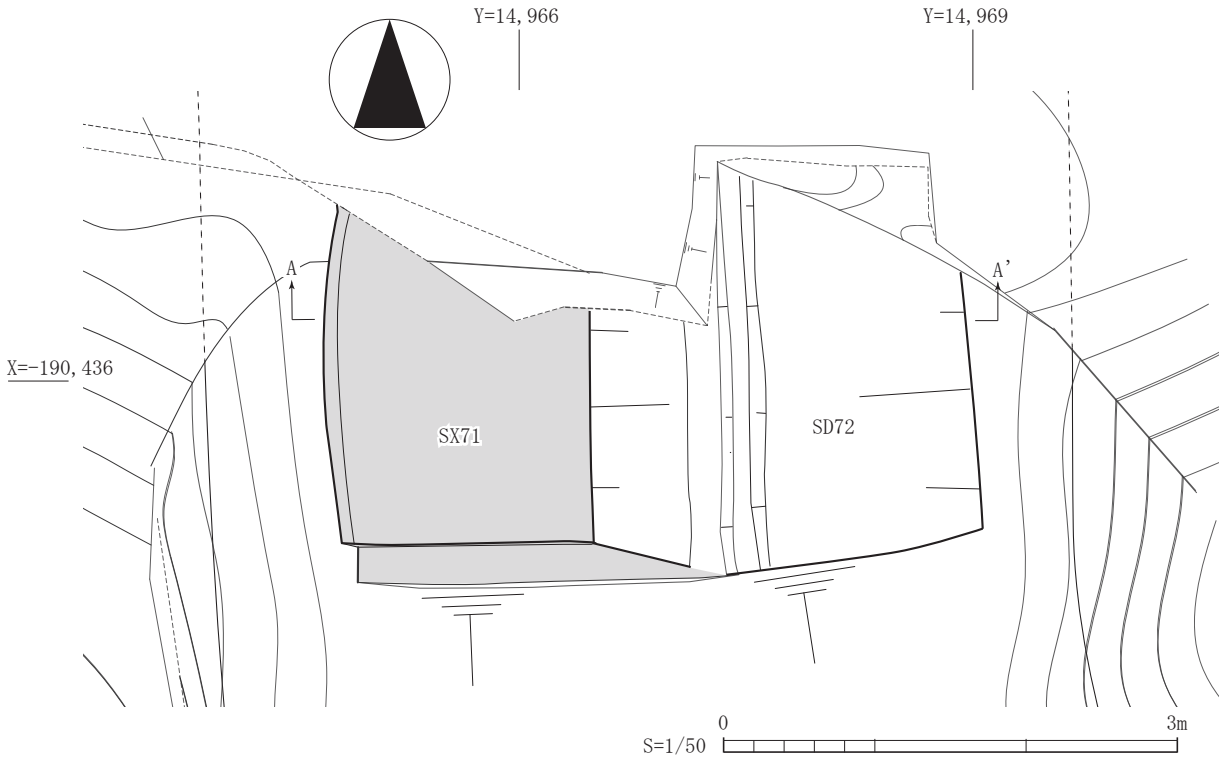
【位置】ＳＸ 70 堀切内に設けられた、第一次整地遺構である。堀切底部の嵩上げまたはＳＤ 72 構築に伴う整地と考えられる。

【範囲】ＳＸ 68 土橋北側の調査区壁面付近で確認したに過ぎないものの、北側はさらに調査区外に延びている。

【重複】ＳＤ 72、ＳＸ 70・73 と重複し、ＳＤ 72、ＳＸ 73 よりも古く、ＳＸ 71 よりも新しい。



第４図　ＳＸ70 堀切平面図



第５図　ＳＸ71 整地遺構、ＳＤ72 堀跡平面図

【埋土】厚さ５～12cmの非常に固く締まった黄橙砂質土（10YR7/8）や黄褐色砂質土（10YR5/6）、明黄褐色粘質土（10YR6/8）、明褐色砂質土（7.5YR5/6）などから成る整地土であり、28層にわたり堀底面から積み上げられている。確認できる積土の厚さは1.1ｍであり、堀底面から約40㎝と約80㎝の整地土に炭が混入している。

【年代】ＳＸ68土橋の年代観より、15世紀以前のものである。

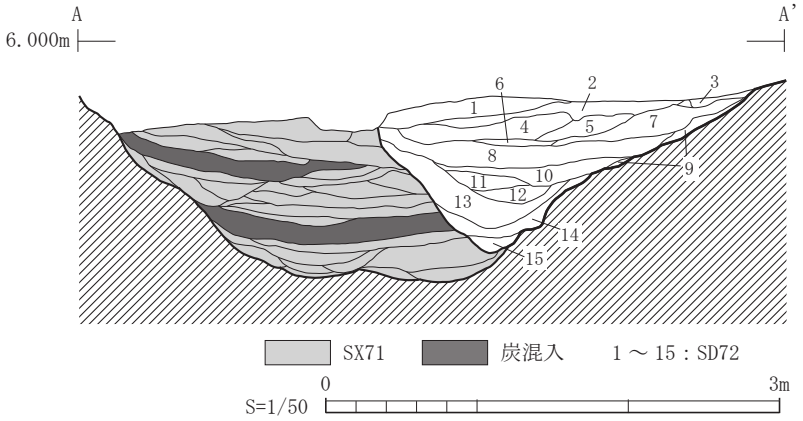
ＳＤ72堀跡（第５・６図）

【位置】ＳＸ71整地遺構の東側に設けられた堀跡である。

【重複】ＳＸ70・71・73と重複し、ＳＸ73よりも古く、ＳＸ70・71よりも新しい。

【規模・形態】ＳＸ68土橋北側の調査区壁面付近で確認したに過ぎないものの、北側はさらに調査区外に延びている。確認した上幅は約2.5ｍ、深さ約１ｍであり、底面は薬研堀の形状を呈している。

【埋土】15層に細分することができる。下層の褐色（10YR4/4）及びにぶい黄褐色（10YR4/3）主体の砂質土（第５図11～15層）と、上層の灰黄褐色（10YR6/2）やにぶい黄橙（10YR7/3･7/4）、褐灰色（10YR6/1）が主体の砂質土（第５図１～10層）に大別できる。整地土同様、強く締め固められており、中位付近の８層は黄橙砂質土（10YR7/8）とにぶい黄橙砂質土（10YR7/3）が互層状を成している。



第６図　ＳＸ71整地遺構、ＳＤ72堀跡断面図

【年代】ＳＸ68土橋及びＳＸ73整地遺構の年代観より、15世紀以前のものである。

ＳＸ73整地遺構（第７・９図）

【位置】ＳＸ70堀切内に設けられた、版築状の整地遺構である。ＳＸ68構築時の基礎整地と考えられる。

【重複】ＳＸ68・71、ＳＤ72と重複し、ＳＸ68よりも古く、ＳＤ72、ＳＸ71よりも新しい。

【範囲】ＳＸ70堀底で南北10.2ｍ以上確認している。北側はＳＸ71整地土及びＤ72埋土を掘り込み、ＳＸ70底面から土を積み上げている。掘り込んだ北側はＳＤ72、ＳＸ71上面にも整地の範囲を広げ、調査区外へ延びている。南側は後世の攪乱により破壊されているが、調査区外に延びていたものと推測される。積土の厚さは最大約1.2ｍ、ＳＤ72、ＳＸ71上面では約20㎝である。。

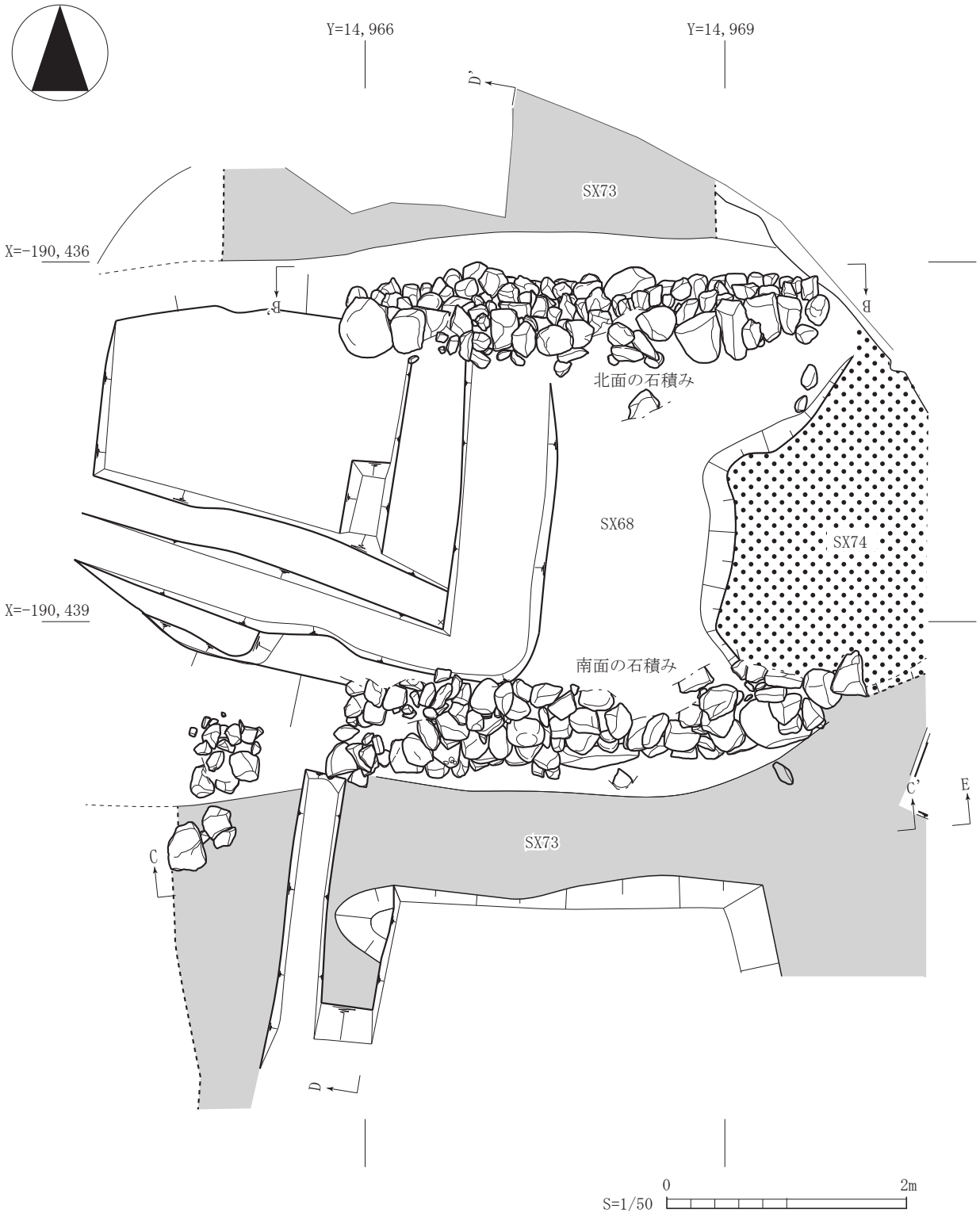
【埋土】厚さ５～30cm単位の非常に固く締まった黒褐色･褐灰色･褐色土（10YR3/1･4/1･6/1･4/4）や炭層が、約40層にわたり積み上げられている。このうち、整地下位に炭層・黒褐色土層・Ｖ層混入土層が集中して充填されている。

【年代】遺物が出土していないことから炭層の放射性炭素年代測定を実施した結果、15世紀前半から15世紀中頃の測定結果を得た。

ＳＸ 74 整地遺構（第７図）

【位置】ＳＸ 70 堀切内に設けられた整地遺構であり、ＳＸ 68 東側に僅かに残存している。ＳＸ 68 以前の土橋構築土の可能性もあるが、詳細は不明である。

【重複】ＳＸ 68・73 と重複し、ＳＸ 68 よりも古く、ＳＸ 73 よりも新しい。



第７図　ＳＸ68 土橋ほか平面図

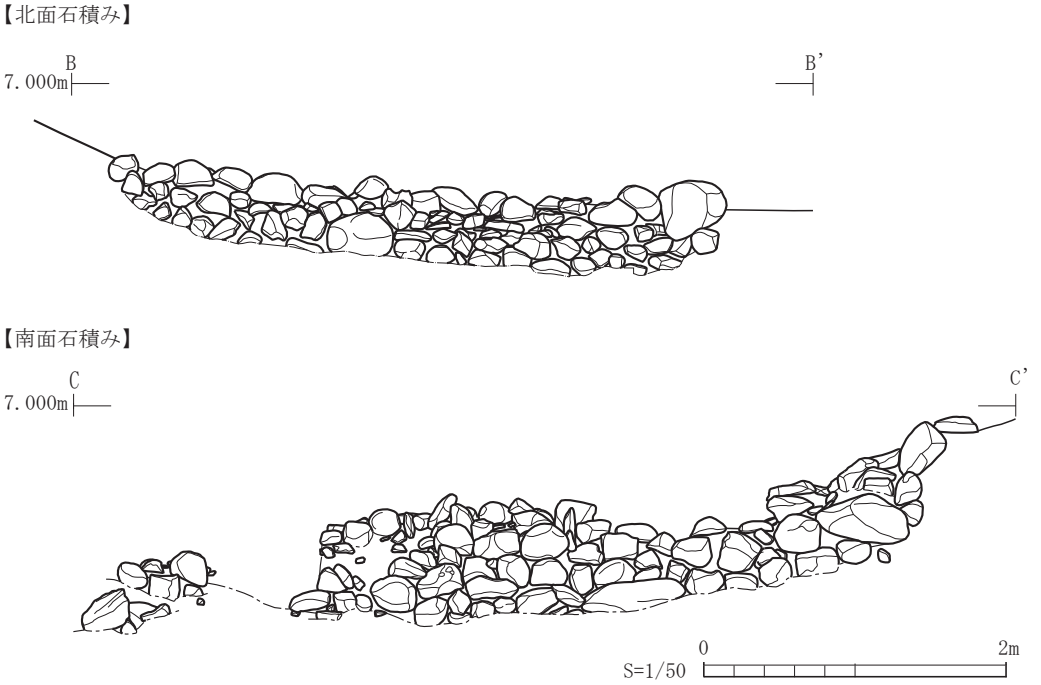
【範囲】東側丘陵（曲輪Ａ）の西斜面に施されている。大部分がＳＸ 68 構築時に破壊されており、東西約３ｍを確認したに過ぎない。

【埋土】７層に細分することができる。浅黄色砂質土（2.5Y7/4）が多く混入する褐色砂質土（10YR4/4）が主体であり、上部には炭化物の混入が認められる。

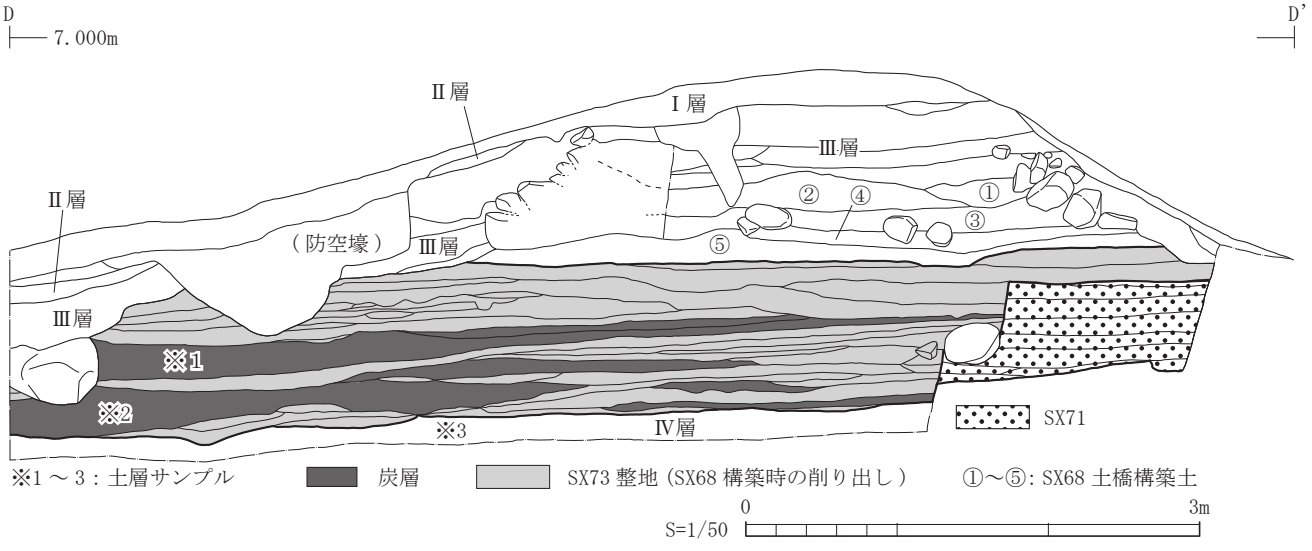
【年代】ＳＸ 73 よりも新しいことから 15 世紀後半頃のものと考えられる。

ＳＸ 68 土橋（第７～９図）

【位置】ＳＸ 73 整地遺構上面で確認した東西方向の土橋である。堀切構築時に掘削した東西丘陵の鞍部を



第８図　ＳＸ68 土橋石積み立面図



第９図　ＳＸ68 土橋、ＳＸ71・73 整地遺構断面図

結ぶように設けられている。

【規模】長さ約６ｍ、上端幅は約３ｍである。

【構造】構築土の南北両側面に拳大～人頭大超の自然石を４～５段積み上げている。積上角は南面で約 42 度、北面で約 53 度である。側面の石積は東西長が北面約 4.0 ｍ、南面約 4.5 ｍであり、東西丘陵の斜面際にまでは及んでいない。構築土上面には自然石などを用いた化粧は確認できず、上層構築土が露呈している。土橋の縦断面は、中央付近ではおよそ水平であるが、東側では丘陵斜面際に向かって約 27 度の登り勾配となっている。

【構築土】黒褐色及び暗褐色（7.5YR3/2・3/4）主体の砂質土が 10 ～ 20㎝単位の厚さで積まれており、高さは 0.6 ｍ以上に及ぶ。構築土の横断面は下底幅約 4.4 ｍ・上底幅約 3.0 ｍの台形状を呈している。

【遺物】構築土から、カワラケ、無釉陶器擂鉢・甕、瓦質土器擂鉢が出土している。このうち瓦質土器擂鉢は口縁部が外に張出す形態のものであり、15 世紀後半以降に出現するものと考えられている（高桑 2003）。

【年代】瓦質土器擂鉢の年代観より、およそ 15 世紀後半以降と考えられる。このことは、ＡＭＳ年代測定法により得られたＳＸ 73 整地遺構との新旧関係とも一致するものである。

（３）Ⅲ区

ア　層序

Ⅰ層：灰黄褐色土（10YR5/2）であり、厚さは 50 ～ 60 ㎝である。現代の表土。

Ⅱ層：にぶい黄橙色土（10YR6/4）であり、厚さは 10 ～ 50 ㎝である。遺物包含層である。

Ⅲ層：地山層であり、ＳＰ 69 横穴墓の構築面である。

イ　発見遺構と遺物

ＳＰ 69 横穴墓を発見した。本調査では大部分が対象区外にあることから、一部分の掘り下げに留めている。

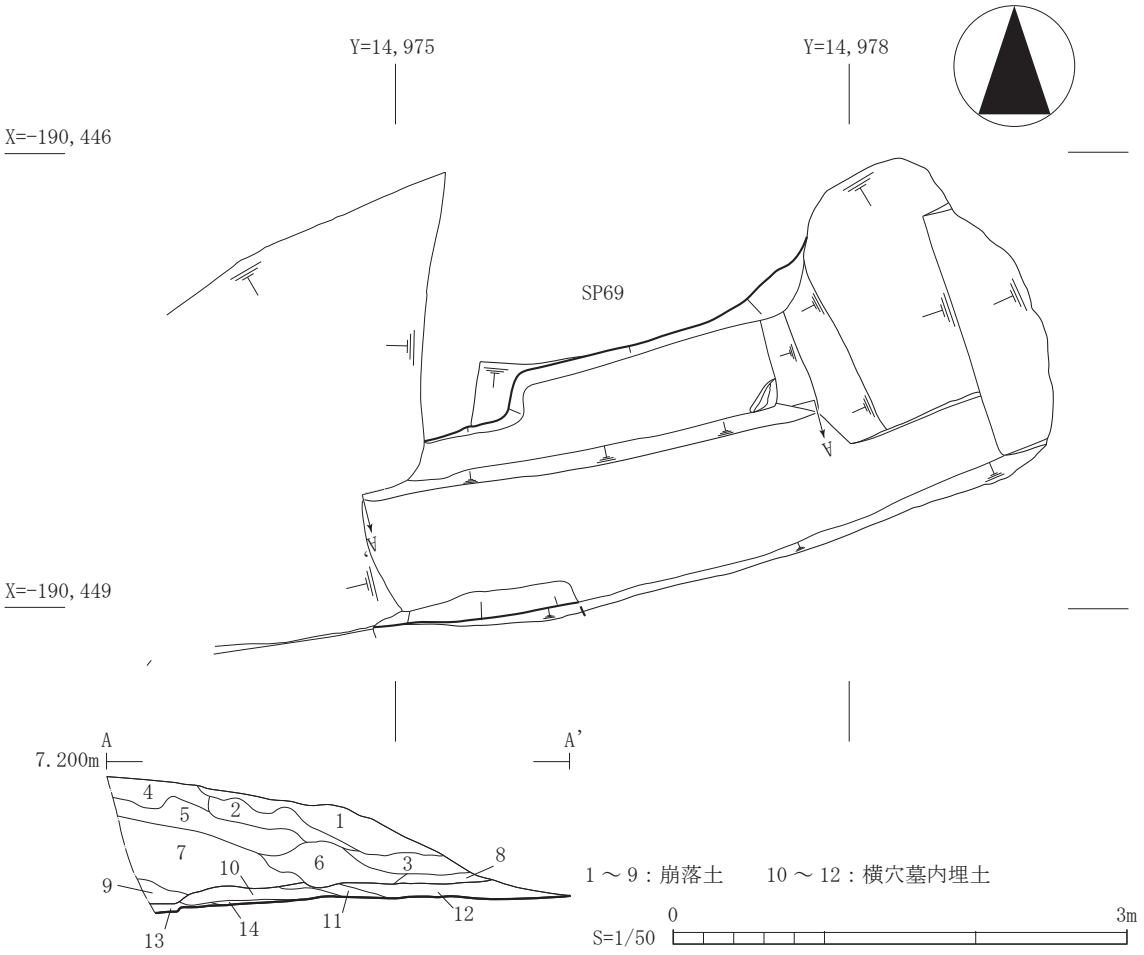
ＳＰ 69 横穴墓（第 10 図）

【位置】Ⅲ区南半部の地山上で確認した横穴墓である。

【形態】残存状況が悪く、玄門から玄室にかけて約 4.3 ｍ分が遺存するのみである。玄室の奥壁から天井部も大部分が崩落しており、玄室の立面形は不明である。羨道から前庭部も削平され、閉塞施設などの痕跡も確認できなかった。

【規模】玄門は幅約 1.0 ｍ、奥行約 1.3 ｍが遺存する。玄室は奥行約３ｍ、幅約 1.5 ｍの規模に復元できる。

【遺物】出土していない。



第 10 図　ＳＰ69 横穴墓平面・断面図

八幡館跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

八幡館跡は、宮城県多賀城市八幡地内に所在する。砂押川南側（右岸）の南北約200m・東西約300mの範囲に広がり、標高10m前後の低丘陵に立地する。測定対象試料は、通路（あるいは堀切）を埋め立てた版築の土層から採取された炭化物及び木炭と土壌の合計5点である（表1）。埋め立て（整地）土は、サンプル1が上層炭層（地山上約0.5 ～ 0.7m）、サンプル2が下層炭層（地山上約0.2 ～ 0.4m）、サンプル3が下層（地山上～約0.2m）から採取された。サンプル1と2は土壌とその中から検出された炭化物及び木炭を、サンプル3は土壌のみを試料とした。

２　測定の意義

サンプル1、2の測定により、通路（あるいは堀切）を埋め立てる際に一帯に存在していた炭層の年代を明らかにする。サンプル3の測定により、通路（あるいは堀切）を埋め立てた時期の上限を確認する。

３　化学処理工程

（１）炭化物、木炭の化学処理

１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（２）土壌の化学処理

１）メス・ピンセット、ふるいを使い、石や根などの混入物を取り除く。

２）酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用い、表1に「HCl」と記載する。

以下、（１）３）以降と同じ。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）$\delta^{13}C$は、試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代は$\delta^{13}C$によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も$\delta^{13}C$によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$補正を行い、下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の^{14}C年代を検討すると、上層炭層から採取されたサンプル1-1（木炭）とサンプル1-2（土壌）の値は、誤差（±1σ）の範囲でわずかに重ならないが、近接している。下層炭層から採取されたサンプル2-1（炭化物）とサンプル2-2（土壌）の値は、誤差範囲で一致する。また、上層炭層のサンプル1-1（木炭）と下層炭層のサンプル2-1（炭化物）の値も誤差範囲で一致し、これら4点の値はおおむね近い値となっている。暦年較正年代（1σ）は、サンプル1-1が1435 ～ 1456cal ADの範囲、サンプル1-2が1448 ～ 1609cal ADの間に2つの範囲、サンプル2-1が1429 ～ 1450cal ADの範囲、サンプル2-2が1424 ～ 1444cal ADの範囲、サンプル3が800 ～ 771cal BCの範囲で示される。上層炭層のサンプル1-1、1-2は下層炭層のサンプル2-1、2-2より若干新しい傾向を示すが、重なる範囲が多く、年代差は明瞭でない。下層のサンプル3は他の4点に比べて大幅に古い。

試料の炭素含有率を検討すると、炭化物及び木炭のサンプル1-1、2-1は60％を超える十分な値である。炭層の土壌サンプル1-2、2-2は炭素含有率が2 ～ 3％、下層の土壌サンプル3は0.2％となっており、土壌

の中では炭層の炭素含有率が高い。サンプル3のように、炭素含有率が非常に低い土壌試料の年代値については、層が堆積した時期とは年代の異なる炭素を含む物質が混入した場合、その影響が年代値に表れやすい点に注意する必要がある。

表1　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-130512	サンプル2-1	埋め立て（整地）土　版築（下層炭層）	炭化物	AAA	-10.61 ± 0.64	460 ±3	94.49 ±0.30
IAAA-130513	サンプル2-2	埋め立て（整地）土　版築（下層炭層）	土壌	HCl	-23.94 ±0.58	480 ±20	94.26 ±0.29
IAAA-130514	サンプル1-1	埋め立て（整地）土　版築（上層炭層）	木炭	AaA	-23.12 ±0.59	440 ±20	94.70 ±0.28
IAAA-130515	サンプル1-2	埋め立て（整地）土　版築（上層炭層）	土壌	HCl	-24.72 ±0.53	390 ±20	95.22 ±0.28
IAAA-130516	サンプル3	埋め立て（整地）土　版築（下層）	土壌	HCl	-24.24 ±0.46	2,580 ±30	72.53 ±0.24

[#5881]

表2　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-130512	220 ±20	97.30 ±0.28	455 ±25	1429calAD -1450calAD(68.2%)	1417calAD -1464calAD(95.4%)
IAAA-130513	460 ±20	94.46 ±0.26	475 ±24	1424calAD -1444calAD(68.2%)	1414calAD -1450calAD(95.4%)
IAAA-130514	410 ±20	95.06 ±0.26	437 ±23	1435calAD -1456calAD(68.2%)	1425calAD -1480calAD(95.4%)
IAAA-130515	390 ±20	95.28 ±0.26	393 ±23	1448calAD -1489calAD(62.1%) 1603calAD -1609calAD(6.1%)	1441calAD -1521calAD(79.9%) 1592calAD -1620calAD(15.5%)
IAAA-130516	2,570 ±30	72.65 ±0.23	2,579 ±26	800calBC -771calBC(68.2%)	811calBC -753calBC(85.8%) 686calBC -667calBC(8.0%) 611calBC -597calBC(1.7%)

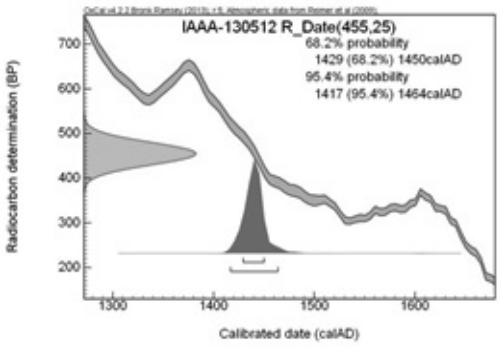
[参考値]

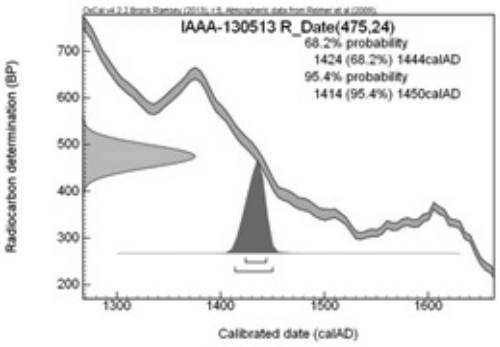
文献

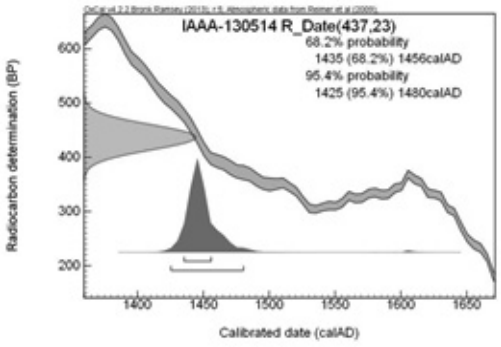
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

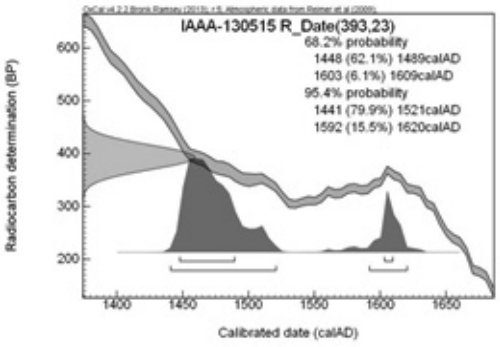
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

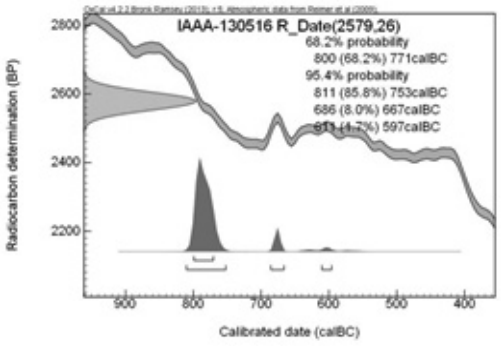
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363











[図版]暦年較正年代グラフ（参考）

調査区空撮（南西上空から）

Ⅱ区ＳＸ 70 堀切全景（南から）

Ⅱ区ＳＸ 71、ＳＤ 72 断面（南から）

Ⅱ区ＳＸ 73 整地遺構断面（南から）

Ⅱ区ＳＸ 68 土橋全景（東から）

Ⅱ区ＳＸ 68 土橋南辺石積み（南から）

Ⅲ区ＳＰ 69 断面（西から）

Ⅰ区全景（南から）

八幡沖遺跡調査区位置図

八幡沖遺跡第６次調査

１　要項

調 査 地　多賀城市明月一丁目 30 － 1 ・32・34

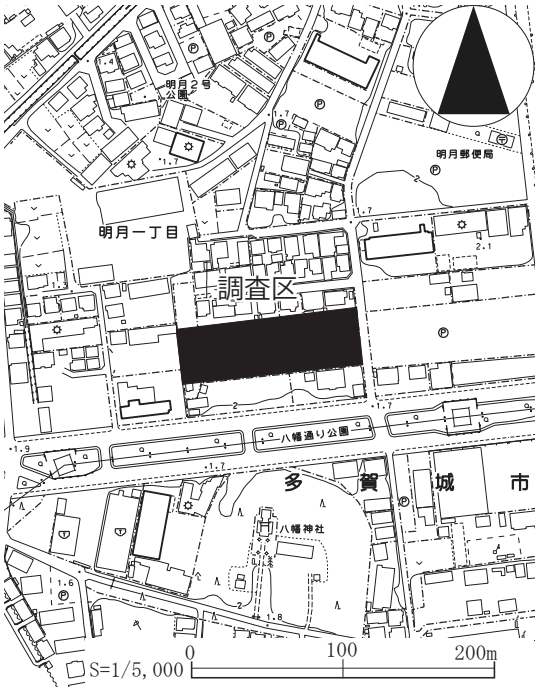
調査原因　仮設工場建設

調査担当　武田健市　石川俊英

調査期間　平成 24 年７月３日～同年８月 18 日

対象面積　1,000 ㎡

調査面積　156 ㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

7/3　既設アスファルト除去

7/10　重機による表土掘削（～ 7/11）

7/13　調査区内環境整備（～ 7/13）

7/18　遺構検出作業、平面・断面図作成
調査区全景及び遺構個別写真撮影（～ 8/7）

7/31　土地所有者に対して、発見した遺構等についての現地説明実施

8/18　調査器材搬出終了（調査終了）

３　調査成果

（１）層序（第３図）

Ⅰ層：現代の盛土層である。

Ⅱ層：黒褐色砂（2.5Y3/1）であり、厚さは５～ 16 ㎝である。

ａ層：ＳＤ 167 西側に並行して認められる黒褐色砂質土（2.5Y3/1）である。浅黄色砂が斑状に混入しており、ＳＤ 167 掘削時の整地層の可能性がある。

Ⅲ層：黒褐色砂（2.5Y3/2）であり、厚さは 10 ～ 24 ㎝である。ＳＤ 157 ～ 164 の検出面である。

Ⅳ層：浅黄色砂（5Y7/4）であり、厚さは 40 ㎝以上である。

（２）発見遺構と遺物

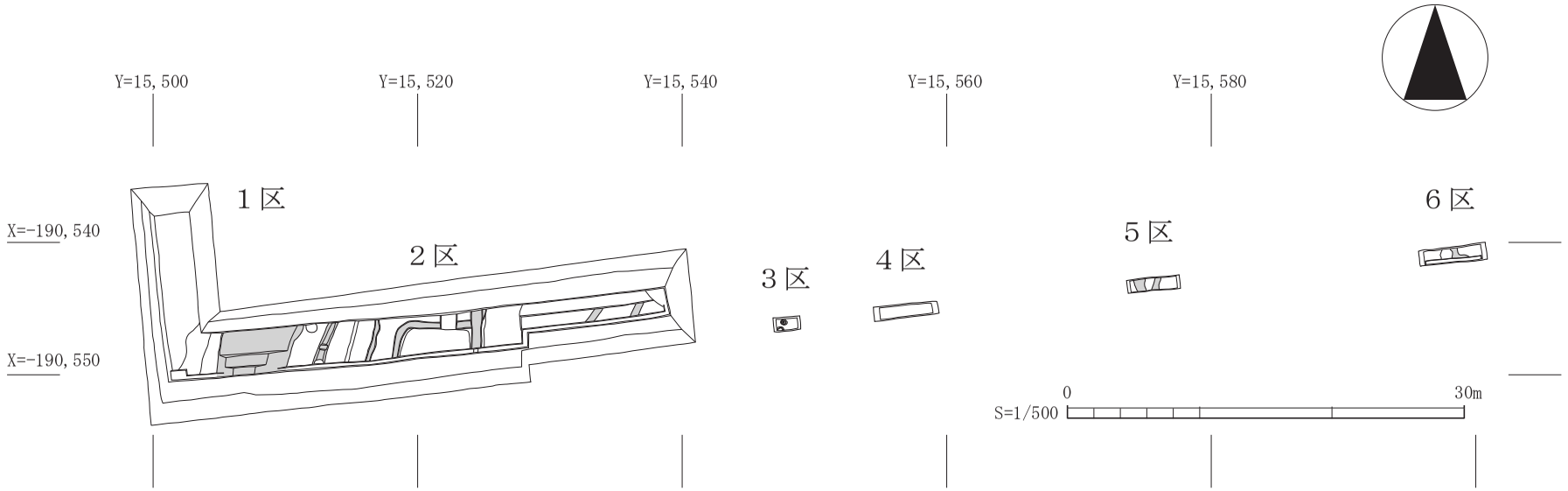
本調査では、２区Ⅲ層及び褐灰色砂質土（10YR4/1：ａ層）上面で溝跡、３区Ⅲ層上面で柱穴、５・６区Ⅲ層上面で溝跡を発見した。

ＳＤ 157 溝跡（第２・３図）

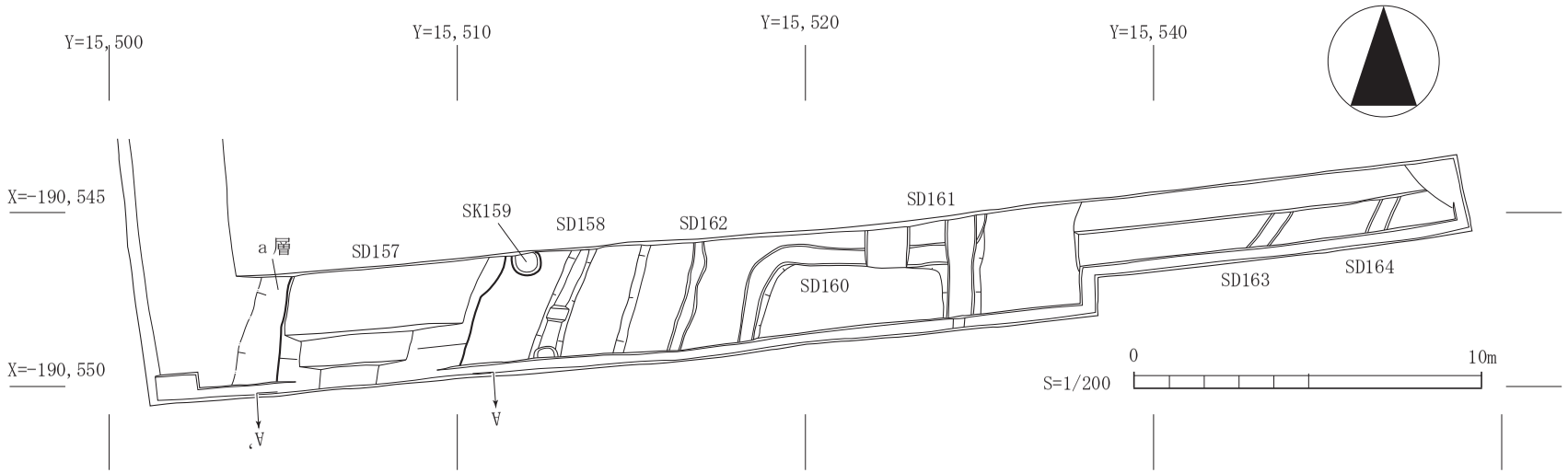
【位置】２区西端部のⅢ層及びａ層上面で発見した、南北方向の溝跡である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【変遷】平面及び南壁断面より、３時期（Ａ→Ｃ期）の変遷を確認した。



第２図　調査区配置図



第３図　２区遺構配置図

【方向】Ｃ期で測ると、北で約８度東に偏している。

【規模】長さ 3.5 ｍ以上、上幅は南壁で測るとＡ期 5.1 ｍ、Ｂ期 4.5 ｍ、Ｃ期 5.4 ｍである。深さはＡ・Ｂ期ともに 60 ㎝以上、Ｃ期は約 70 ㎝である。

【壁・底面】壁はＡ～Ｃ期ともに、底面から中位までは急角度で立ち上がっているが、上位では非常に緩やかとなる。特に東辺については、上位に平坦面が形成されており、その幅は南壁で見るとＡ期で 0.8 ｍ、Ｂ期で 1.2 ｍ、Ｃ期で２ｍである。

【埋土】Ａ期は、浅黄色砂（5Y7/4）が多く混入するオリーブ黒色砂（5Y3/2）である（第３図 13）。Ｂ期は６層に細分することができる（第３図７～ 12）。７・9 層は黒褐色砂（2.5Y3/2）、８・11・13 層はオリーブ黒色砂（5Y3/1・3/2）、10 層は灰色砂（5Y4/1）である。このうち９～ 11 層には植物遺体が多く混入している。Ｃ期は６層に細分することができる（第３図１～６）。１・２・５層はオリーブ黒色砂（2.5Y3/1・3/2）、３・４層は黒褐色砂（2.5Y3/2）、６層は黒褐色粘土（2.5Y3/2）である。６層には木質片が僅かに混入している。

【遺物】遺物は、Ｃ期埋土から近世の染付碗・皿等が出土しているほか、古代の土器片や中世の無釉陶器が混入している。

【年代】Ｃ期は出土遺物から近世以降のものである。Ａ・Ｂ期について年代を示す資料はないものの、Ｃ期の遺物に常滑窯編年 10 型式期の無釉陶器が混在していることから、中世まで遡る可能性もある。

ＳＫ 159 土壙（第２図）

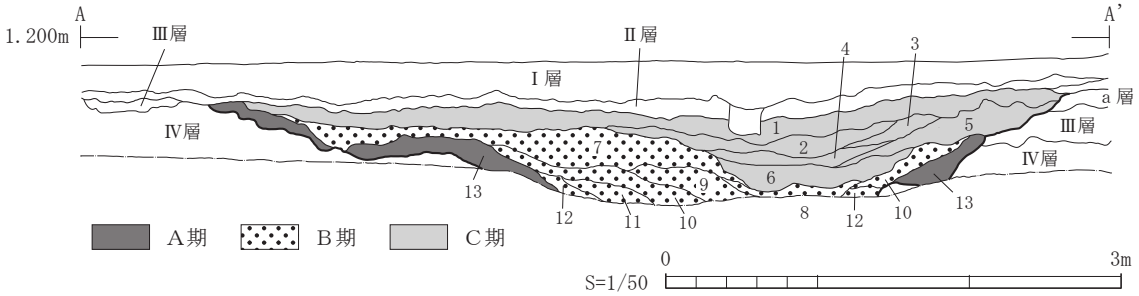
【位置】２区西部Ⅲ層上面で発見した、円形の土壙である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【規模】直径約 80 ㎝である。

【遺物】須恵系土器坏が出土している。底部から体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。外面底部から体部へ移行する端部が、外側に僅かに突出している。口径 13.6 ㎝、底径 5.0 ㎝、器高 4.8 ㎝であり、底径／口径比は 36.76、器高／口径比は 35.3 である。

【年代】出土した須恵系土器坏と近似するものが、10 世紀後半以降とされる多賀城跡ＳＸ 2449 土器廃棄土壙（宮城県多賀城跡調査研究所 1998）から出土していることから、それ以降のものと考えられる。



第４図　ＳＤ157 断面図

（参考文献）

宮城県多賀城跡調査研究所「第 68 次調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1997』1998

写真図版

２区全景（西から）

ＳＤ 157 断面（調査区南壁）

３区全景（西から）

八幡沖遺跡第 10 次調査

1　要項

調 査 地　宮内一丁目２－ 50

調査原因　神社鳥居移設

調査担当　村松　稔

調査期間　平成 27 年３月 10 日～３月 13 日

対象面積　８㎡

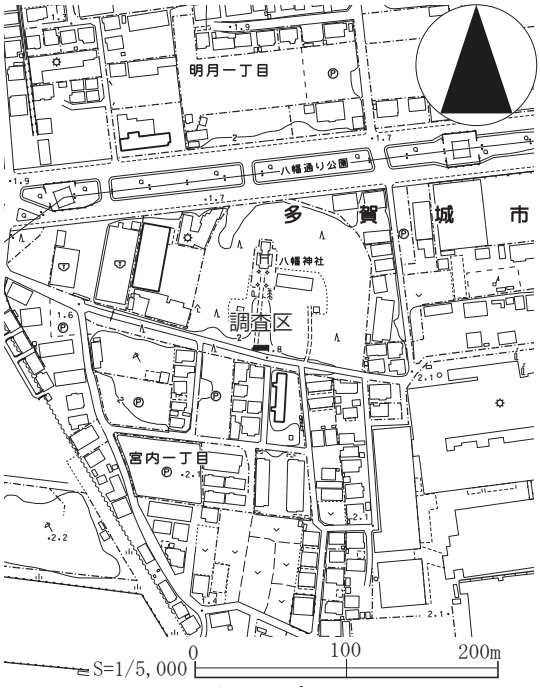
調査面積　８㎡

2　調査経過

3/10　重機による表土掘削

3/11　遺構精査、写真撮影、図面作成（～ 3/12）

3/13　重機による調査区埋戻し（調査終了）



第１図　調査区位置図

3　調査成果

（１）発見遺構と遺物

ＳＤ 166 溝跡（第２図）

【位置】調査区東側で発見した溝跡であり、西辺以外は調査区外に延びる。

【重複】他の遺構との重複はない。

【変遷】３時期の変遷（Ａ→Ｃ期）を確認した。西辺で見るといずれもほぼ同方向に伸びるが、時期が新しくなるにつれて東側に位置を変えている状況である。

【方向・規模】方向は、Ｂ期の西辺で測ると東で約 31 度南に偏する。規模は長さ 2.7 ｍ以上、幅は 2.4 ｍ以上である。

【埋土】各時期ともに１層の埋土を確認した。Ａ期は炭化物粒を若干含む暗褐色砂（10YR3/3）、Ｂ期はにぶい黄橙色砂（10YR6/2）を多量に含むにぶい黄橙色砂（10YR6/3）、Ｃ期はにぶい黄橙色砂（10YR6/4）を斑状に若干含む黒褐色砂（10YR3/2）である。

【壁】壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

【遺物】１層から土師器坏の小片が出土している。

ＳＤ 167 土壙（第２図）

【位置】調査区西側で発見した土壙であり、北側は調査区外に延びる。

【重複】他の遺構との重複はない。。

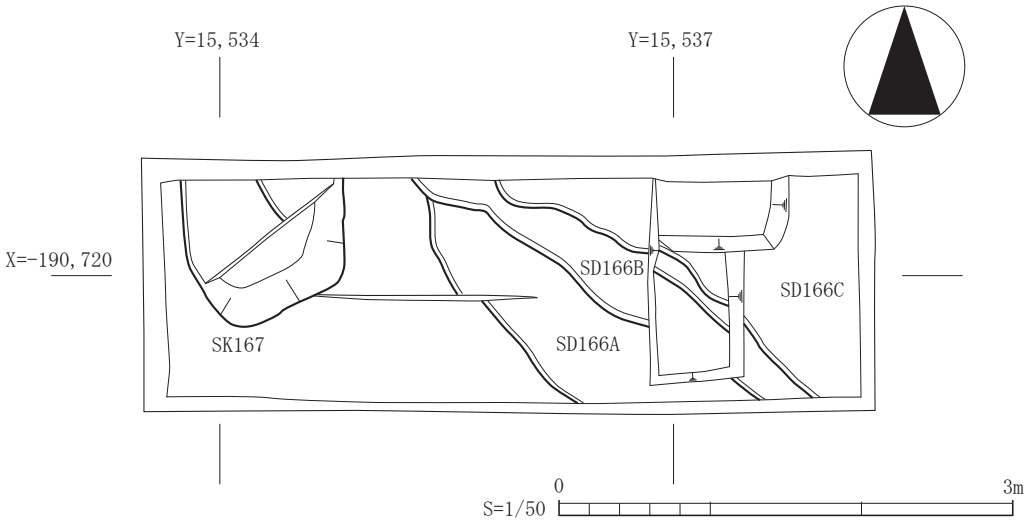
【平面形・規模】平面形は楕円形と推定されるが、北側が調査区外に伸びているため詳細は不明である。規模は、東西 1.1 ｍ、南北 1.0 ｍ以上、深さは 35 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。１層はにぶい黄橙色砂を小ブロック状に多量に含むにぶい黄褐色砂（10YR4/3）、２層は壁際に崩落土と見られるにぶい黄橙色砂を小ブロック状に含む黒褐色砂（10YR2/3）

である。

【壁・底面】壁は外傾しながら立ち上がる。底面は緩やかに丸みを帯び窪んでいる。

【遺物】１層から須恵系土器坏の小片が出土している。



第２図　遺構平面図

写真図版

調査区全景（南西から）

八幡沖遺跡第 12 次調査

1　要項

調 査 地　宮内一丁目地内

調査原因　公共下水道雨水工事

調査担当　熊谷　満

調査期間　平成 27 年 9 月 28 日～ 10 月 1 日

対象面積　540 ㎡

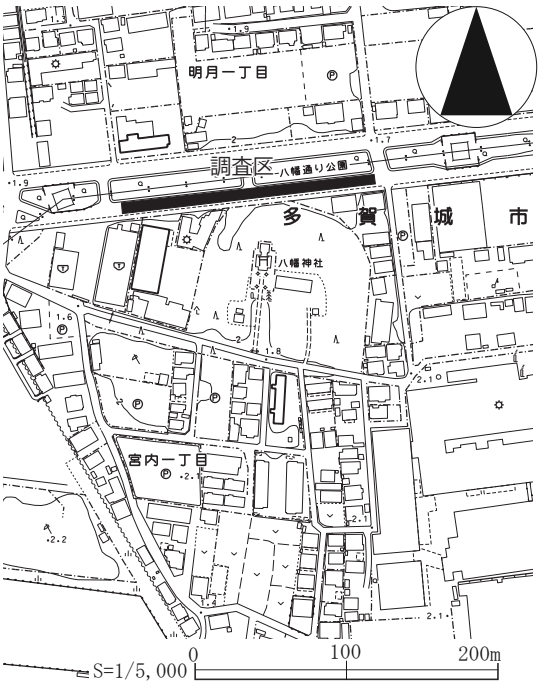
調査面積　132 ㎡

2　調査経過

9/28　重機による表土掘削

9/29　遺構精査、写真撮影、図面作成（～ 9/30）

10/1　重機による調査区埋戻し（調査終了）



第１図　調査区位置図

3　調査成果

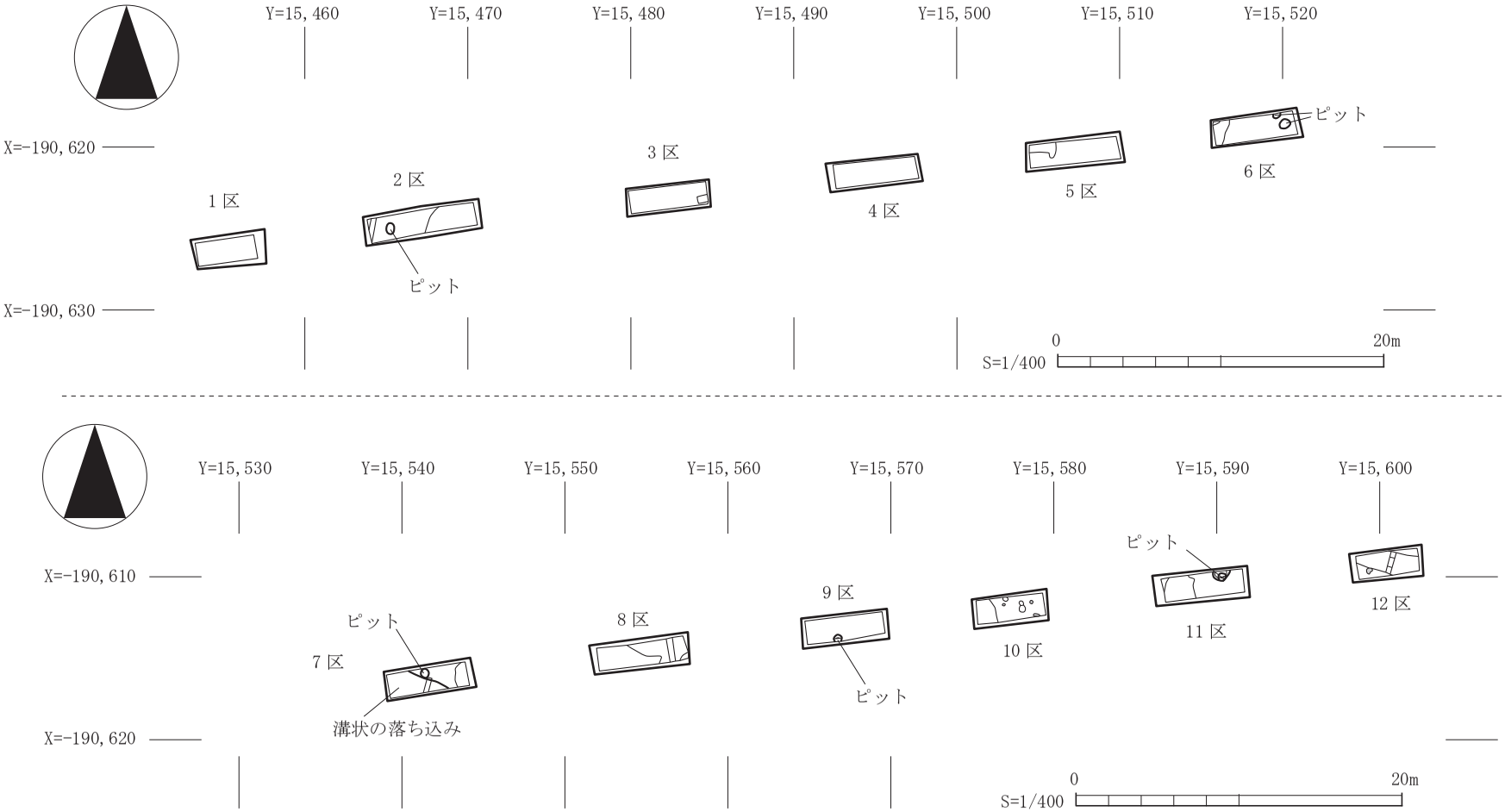
発見遺構と遺物

７区で溝状の落ち込み１基、２・６・７・９・11 区でピットを計６基発見した。

溝状の落ち込みは、長さ 3.0 ｍ以上、幅約 2.0 ｍ以上であるが、調査区外に伸びているため詳細は不明である。

ピットは概ね径約 60 ㎝であり、分布は散漫である。

遺構に伴う出土遺物はない。


Y=15, 460
Y=15, 470
Y=15, 480
Y=15, 490
Y=15, 500
Y=15, 510
Y=15, 520
X=-190, 620
X=-190, 630
1 区
2 区
3 区
4 区
5 区
6 区
ピット
ピット
0
20m
S=1/400
Y=15, 530
Y=15, 540
Y=15, 550
Y=15, 560
Y=15, 570
Y=15, 580
Y=15, 590
Y=15, 600
X=-190, 610
X=-190, 620
7 区
8 区
9 区
10 区
11 区
12 区
ピット
ピット
溝状の落ち込み
0
20m
S=1/400

第２図　遺構配置図

7区全景（西から）

7区溝状落込みの断面（西から）

8区全景（西から）

八幡沖遺跡第 14 次調査

1　要項

調 査 地　宮内一丁目 178 －１の一部

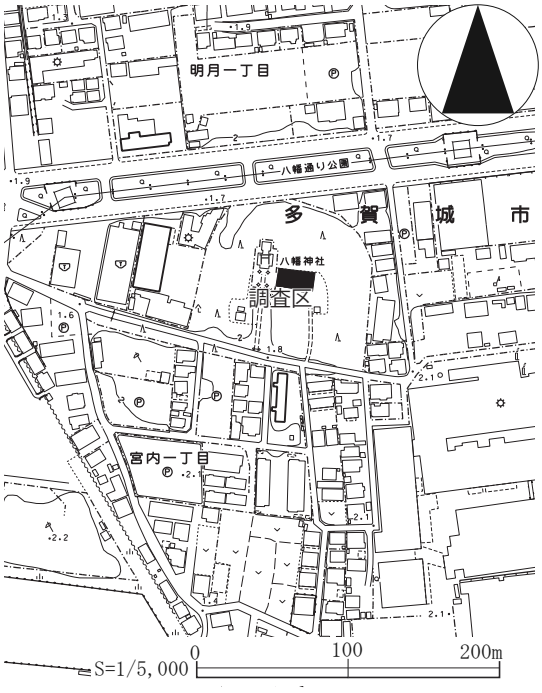
調査原因　神社社務所新築

調査担当　熊谷　満

調査期間　平成 28 年６月９日～６月１９日

対象面積　7,226.80 ㎡

調査面積　144 ㎡



第１図　調査区位置図

2　調査経過

6/9　重機による表土掘削（～ 6/10）

6/11　遺構検出作業、写真撮影、図面作成（～ 6/18）

6/19　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

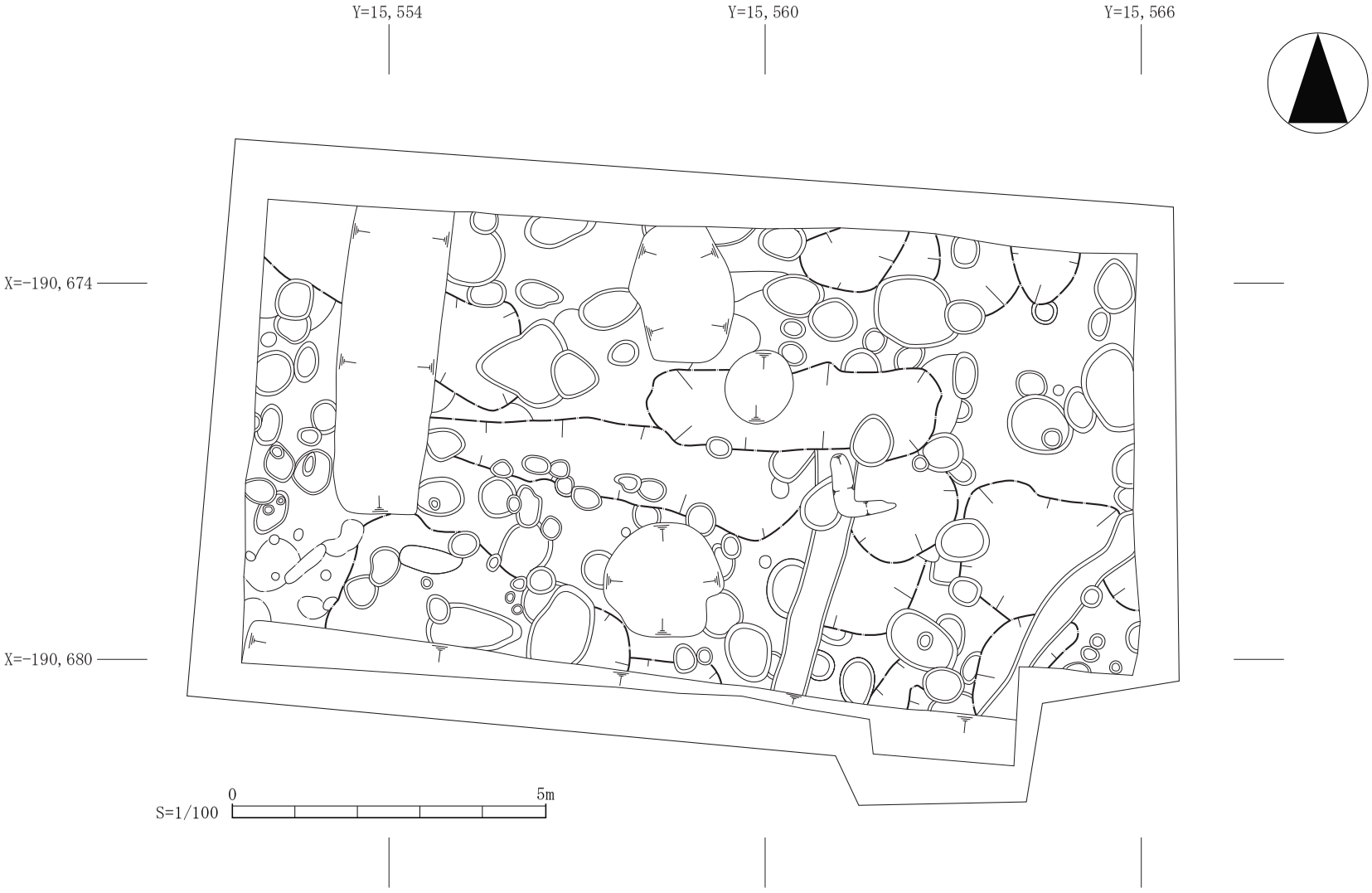
発見遺構と遺物

数多くの遺構が発見されているが、確認調査であることから全て未掘であり、詳細は不明である。主な遺構は、溝跡２条、土壙 17 基と多数の柱穴である。溝跡は調査区東側にあり、幅は約 50 ～ 60 ㎝で、長さは調査区外に伸びているため不明である。土壙は調査区全体に広がっており、平面形は長楕円形状を呈するものが多いが、切り合いにより詳細な形状は不明である。柱穴は調査区全体に広がっており、規模は径 0.2 m～ 1.5 mとさまざまである。柱穴同士の重複が多いほか、溝跡、土壙と重複し、それらより新しい傾向がある。

遺構に伴う遺物はなく、全て表土からの出土である。テンバコ４箱分の出土遺物のうち、須恵系土器坏の破片が大多数を占め、ごくわずかに平瓦片や縄文土器片等も出土している。

写真図版

調査区全景（東から）



第２図　遺構平面図

八幡沖遺跡第 15 次調査

1　要項

調 査 地　宮内一丁目 112 － 3 ほか 4 筆

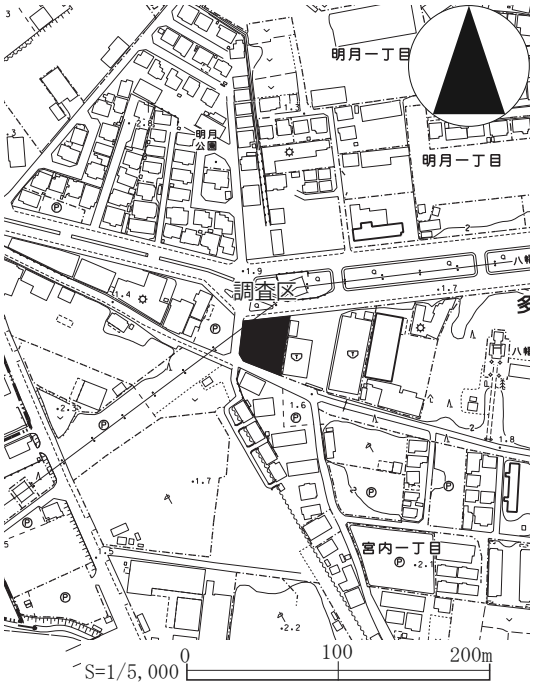
調査原因　社屋及び倉庫作業場新築

調査担当　熊谷　満

調査期間　平成 28 年 10 月 18 日～ 11 月 8 日

対象面積　2,901.36 ㎡

調査面積　587 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

10/18　重機による表土掘削（～ 10/20）

10/21　遺構検出作業、写真撮影

　　遺構平面・断面図作成（～ 11/6）

11/7　重機による調査区埋戻し（～ 11/8：調査終了）

3　調査成果

（1）発見遺構と遺物

ＳＤ 171 溝跡（第 2 図）

【位置】北区西側で発見した南北溝跡であり、北側と南側は調査区外に延びる。

【重複】ＳＤ 172 と重複し、それよりも新しい。

【方向･規模】方向は北で約 32 度東に偏する。規模は長さ 12.0 ｍ以上、幅は 1.9 ｍ、深さは 39 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。１層は褐鉄を少量含む腐植質の黒褐色砂質土（10YR3/2）、２層は灰白色砂を少量含む腐植質の黒色砂質土（10YR2/1）である。

【壁・底面】壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は緩やかに丸みを帯び窪んでいる。

【遺物】１層から土師器坏・甕（Ｂ類）の破片が出土している。

ＳＤ 172 溝跡（第 2 図）

【位置】北区西側で発見した南北溝跡であり、北側と南側は調査区外に延びる。

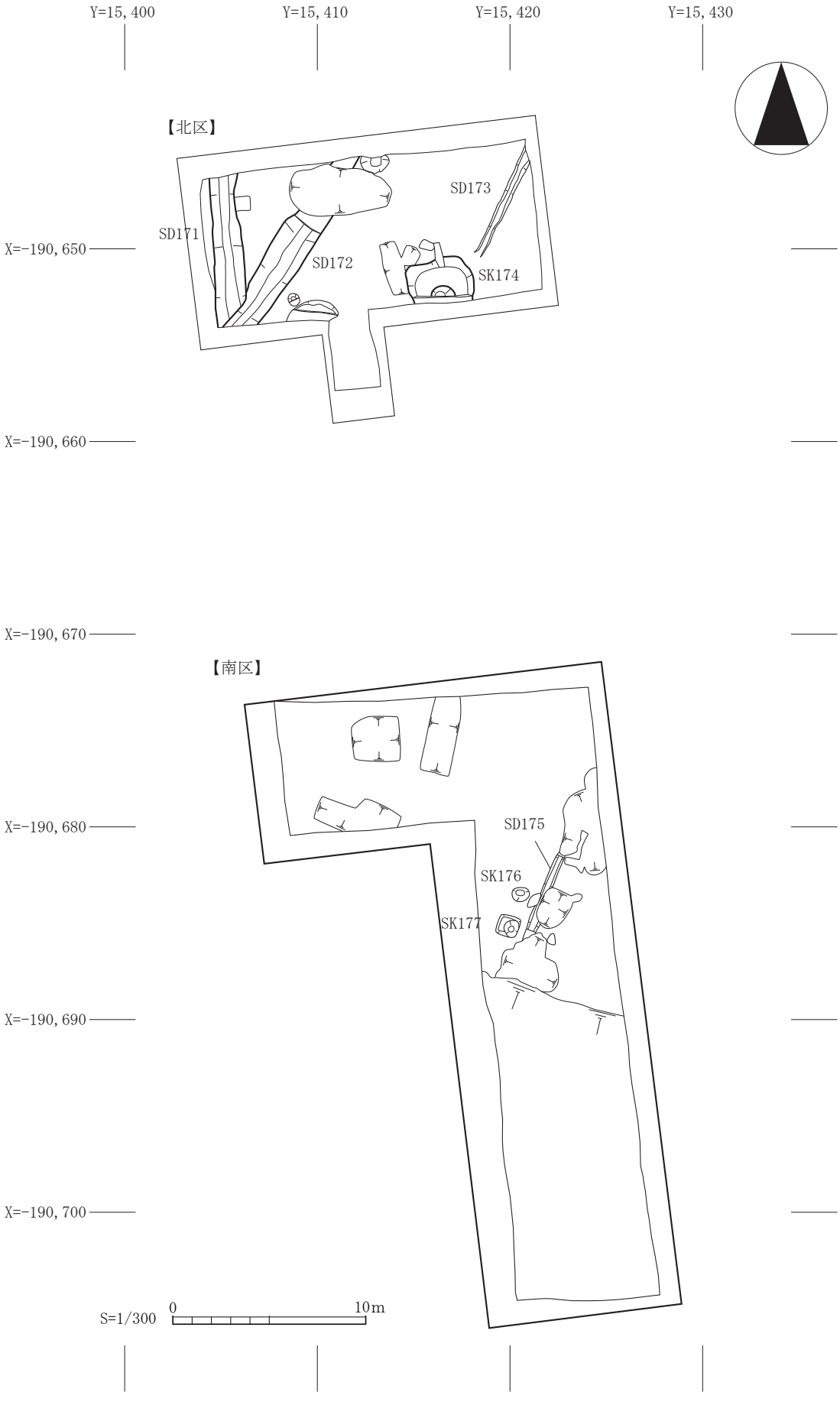
【重複】ＳＤ 171 と重複し、それよりも新しい。

【方向・規模】方向は北で約３度西に偏する。規模は長さ 7.5 ｍ以上、幅は 1.5 ㎝、深さは 89 ㎝である。

【埋土】２層に細分することができる。１層は灰黄褐色砂を少量含む腐植質の黒褐色砂質土（10YR3/2）、２層は灰白色砂をマーブル状に含む腐植質の黒色砂質土（10YR2/1）である。

【壁・底面】壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は緩やかに丸みを帯び窪んでいる。

【遺物】１層から土師器甕、須恵器坏・甕・瓶の破片が出土している。


Y=15,400
Y=15,410
Y=15,420
Y=15,430
【北区】
SD171
SD172
SD173
SK174
X=-190,650
X=-190,660
X=-190,670
【南区】
SD175
SK176
SK177
X=-190,680
X=-190,690
X=-190,700
S=1/300
0
10m

第２図　遺構平面図

ＳＫ 174 土壙（第２図）

【位置】北区やや南寄りで発見した土壙である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【平面形･規模】平面形は隅丸方形状であるが､南側は調査区外であることから詳細は不明である。規模は、東西約 3.4 ｍ、深さは 70 ㎝である。

【壁・底面】壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は丸みを帯びて窪んでいる。

【埋土】６層に細分することができる。１層は黒色砂質土 (N1.5/0)、２層は褐鉄を少量含む褐灰色砂質土 (10YR5/1)、３層は黒褐色砂質土 (10YR3/1)、４層は灰白色火山灰をやや多く含む黒色砂質土 (10YR2/1)、５層は腐植土を小ブロック状に少量含む褐灰色砂質土 (10YR4/1)、６層は腐植質砂を少量含む灰黄色砂 (2.5Y6/2) であり、１層から５層は腐植質土である。

【遺物】１層から土師器坏・甕（Ａ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕、須恵系土器坏が出土している。

写真図版１

北区全景（西から）

ＳＫ 174 完掘状況（南から）

写真図版２

ＳＫ 174 遺物出土状況

南区全景（南西から）

八幡沖遺跡第 17 次調査

1　要項

調 査 地　宮内一丁目 70 － 1 ・ 2 ・ 4 、71 － 2 ・ 3

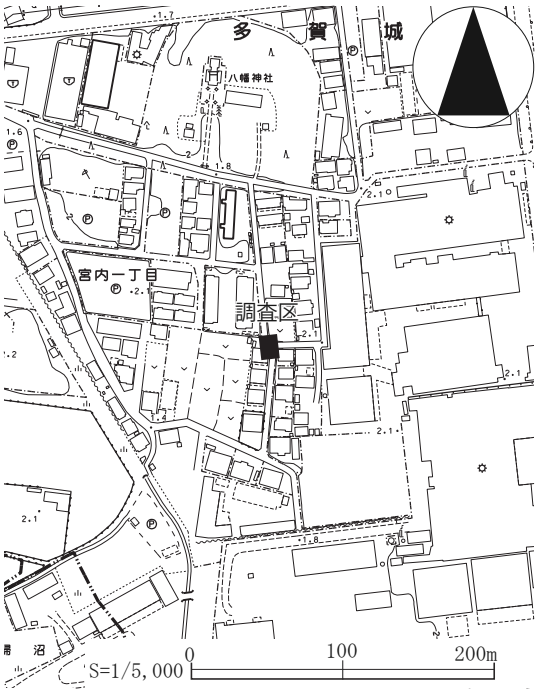
調査原因　個人住宅新築

調査担当　石川俊英・熊谷満・畠山未津留

調査期間　平成 29 年 6 月 26 日～ 6 月 28 日

対象面積　266.85 ㎡

調査面積　17 ㎡



第 1 図　調査区位置図

2　調査経過

6/26　重機による表土掘削

6/27　遺構精査、写真撮影、図面作成

6/28　重機による調査区埋戻し（調査終了）

3　調査成果

（1）発見遺構と遺物

ＳＫ 178 土壙（第 2 図）

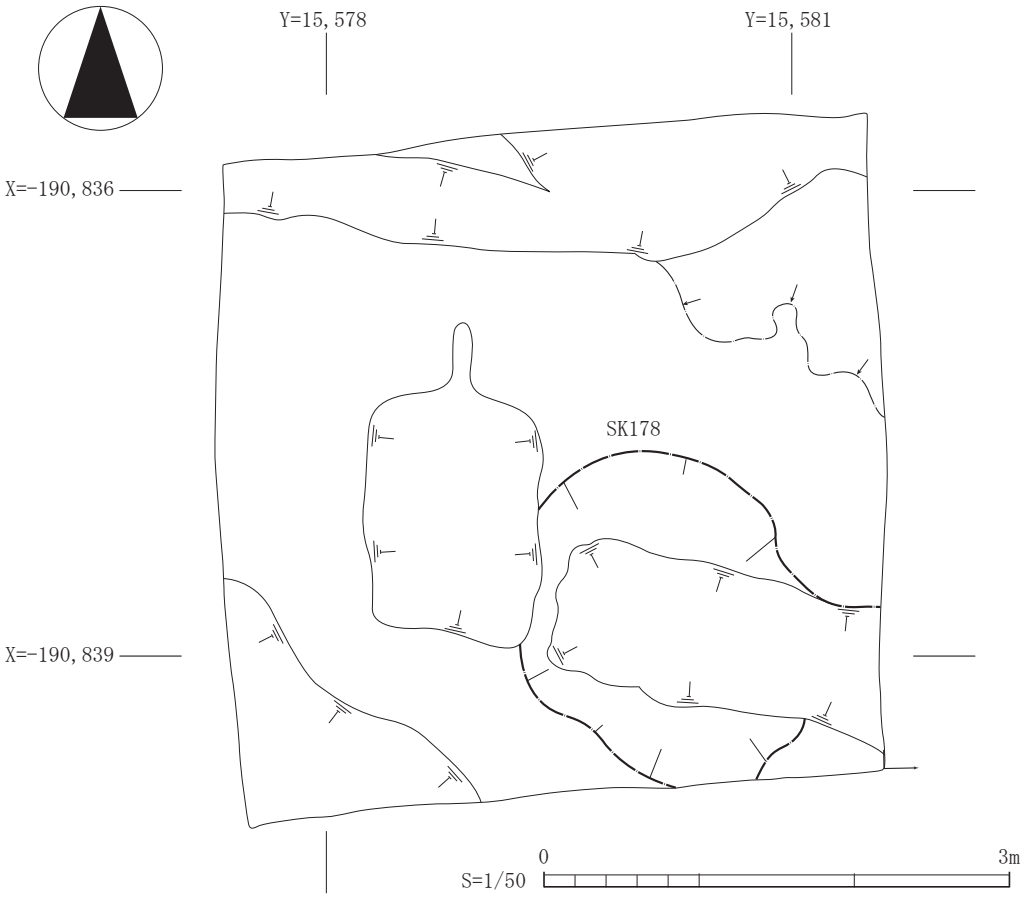
【位置】調査区ほぼ中央で発見した土壙である。

【重複】他の遺構との重複はない。

【平面形・規模】平面形は不整楕円形である。規模は、長径 2.2 m以上である。

【埋土】地山をブロック状に含むにぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）である。

【遺物】出土していない。



第２図　遺構平面図

写真図版

調査区全景（南から）

大代囲洞窟遺跡第２次調査

１　要項

調 査 地　大代五丁目 81 － 4

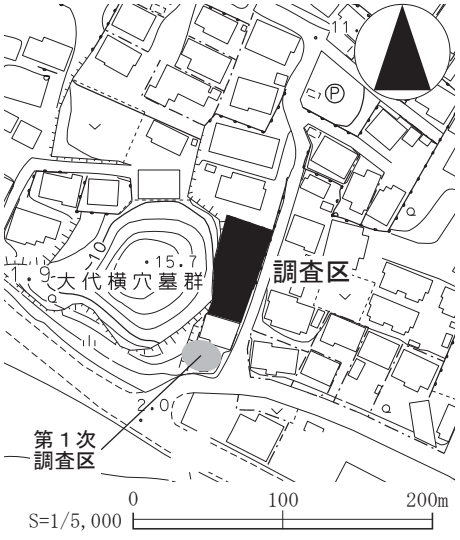
調査原因　個人住宅新築

調査担当　小原一成

調査期間　平成 26 年５月 14 日～５月 20 日

対象面積　464.50 ㎡

調査面積　52 ㎡



第１図　調査区位置図

２　調査経過

5/14　重機による表土掘削

5/15　遺構検出作業、写真撮影、平面・断面図作成（～ 5/19）

5/20　重機による調査区埋戻し（調査終了）

３　調査成果

（１）層序（第２図）

Ⅰ層：斜面を平坦に造成した際の現代の盛土で、厚さは 15 ～ 95 ㎝である。

Ⅱ層：にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）で、厚さは５～ 30 ㎝である。Ⅲ層類似のくすんだ層であり、旧表土の可能性がある。

Ⅲ層：黄褐色土（10YR5/8）の基盤層で、溝跡の遺構検出面である。

（２）発見遺構と遺物

溝跡１条を発見した。

ＳＤ１溝跡（第２図）

【位置】調査区東側の斜面末端に位置しており、北側と南側は調査区外に延びる。

【重複】他の遺構との重複はない。

【方向・規模】方向は北で約 23 度東に偏する。規模は長さ 3.9 ｍ以上、幅は 79 ㎝、深さ 15 ㎝である。

【埋土】黄褐色土粒を若干含む暗褐色砂質土（10YR3/3）である。

【壁・底面】壁は外傾しながら立ち上がる。底面は平坦である。

【遺物】出土していない。

４　まとめ

本調査区は、基盤層のⅢ層上面が比高差約１ｍで東西方向に傾斜しており、旧表土の可能性があるⅡ層もほぼ同様の傾斜で堆積している。西側は宅地造成の際に平坦に切土されていると考えられるが、この斜面は旧来の地形をある程度留めている可能性がある。

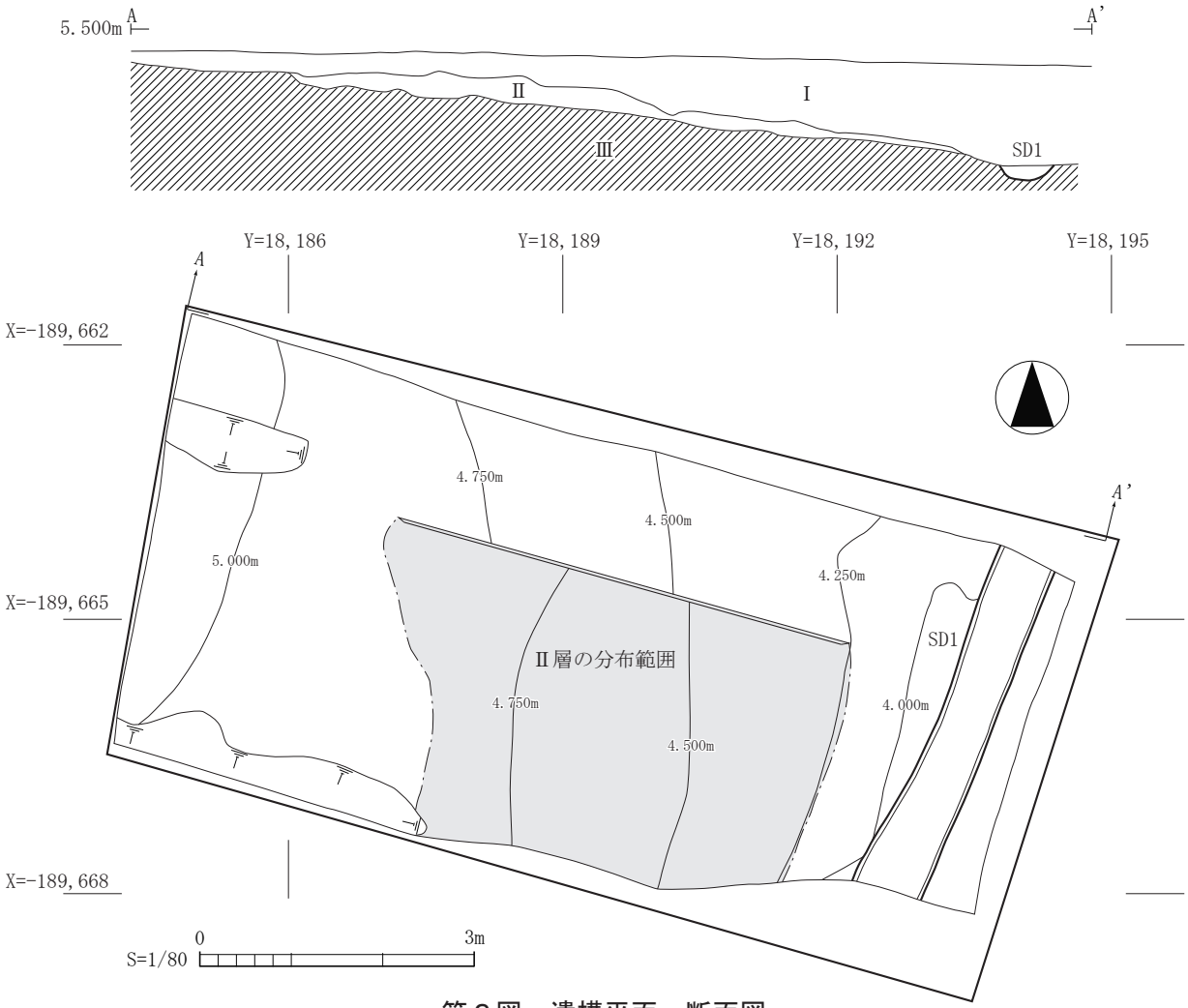
なお、今回の発掘調査過程において、調査区西側隣接地の丘陵東面に未掘の横穴を２基確認した（全景

写真参照）。今回の調査箇所から約 60 m南側で実施した大代囲洞窟遺跡第１次調査では、２基の横穴墓を確認している（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1994）。また、本調査区の西側に位置する標高約 15.7 mの小丘陵の西～南面には、７～８世紀頃の大代横穴墓群が展開する（多賀城市教育委員会 1985）。今回の調査では、横穴墓群が展開する丘陵東側斜面裾部の地形の状況が把握できたとともに、横穴墓の分布の広がりを新たに確認したことが成果と言える。

一方で、本遺跡は縄文時代晩期～弥生時代の遺跡として知られており、第１次調査では当該時期の貝層を伴う洞窟遺構を発見しているが（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1994）、今回の調査では明確に関連すると考えられる遺構・遺物は発見されなかった。

引用・参考文献

多賀城市教育委員会『大代横穴墓群－発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第７集 1985
多賀城市埋蔵文化財調査センター『多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 第７号』1994

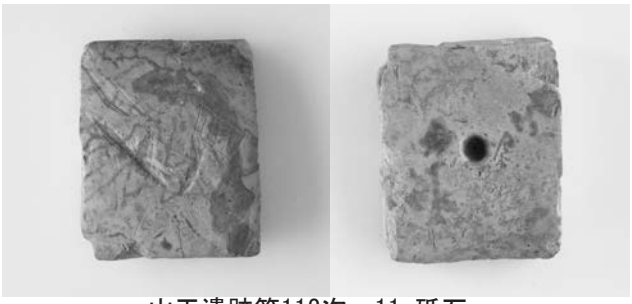


第２図　遺構平面・断面図

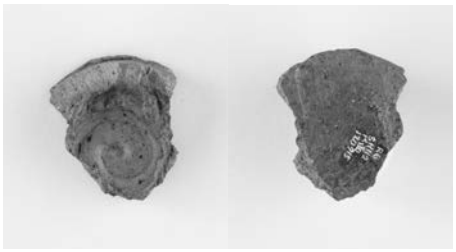
写真図版

調査区全景（北東から）

新田遺跡第148次　甑



山王遺跡第112次　11 砥石

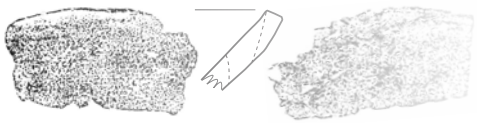


山王遺跡第112次　4 須恵器長頸瓶

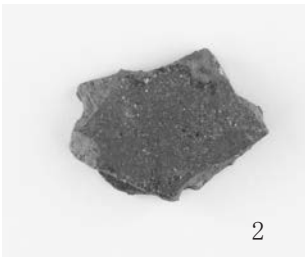
山王遺跡第119次
1 土師器甕

山王遺跡第119次
2 土師器甕

山王遺跡第119次　1・2 土師器甕



山王遺跡第148次　1　陶器鉢



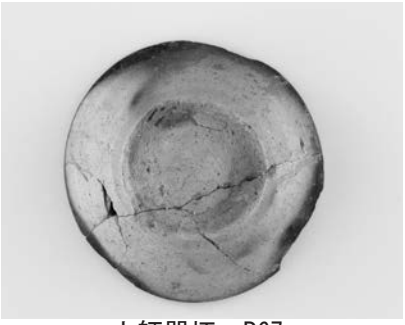
山王遺跡第148次　2　陶器甕

番号	種類	遺構	層位	特　徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	写真 図版	登録 番号	備考
				外面	内面						
1	陶器 鉢		Ⅲ層	ナデ					1	R1	無釉
2	陶器 甕		Ⅱ層	ナデ	ナデ				2		無釉

第１図　山王遺跡第148次出土遺物

写真図版　新田遺跡第148次、第112次・119次・148次出土遺物

土師器坏　R66



土師器坏　R67

土師器坏　R71

土師器高台坏　R86

土師器坏　R74

土師器坏　R38

須恵器坏　R2

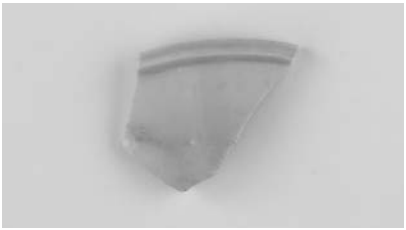
須恵器壺　R55

須恵器坏　R200

土師器坏　R68

須恵器壺

壺　R75



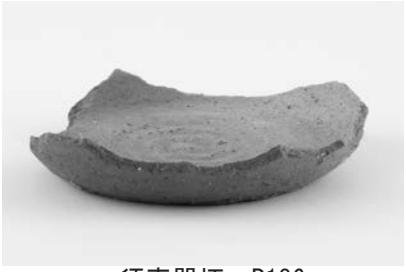
白磁碗　R518

緑釉陶器

灰釉陶器

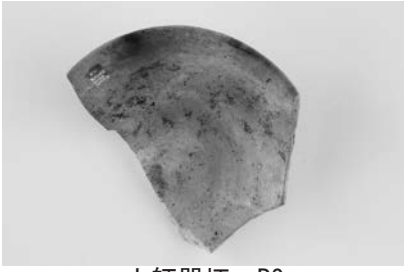
写真図版　山王遺跡第142次出土遺物

須恵器壺　R74

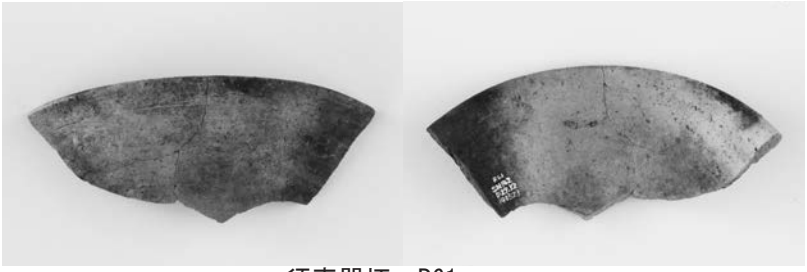


須恵器坏　R186

須恵器高坏　R145

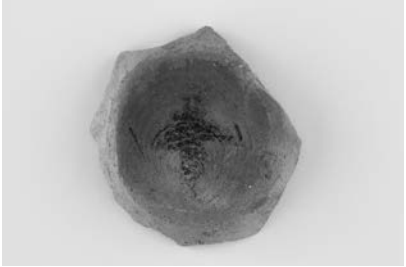


土師器坏　R2

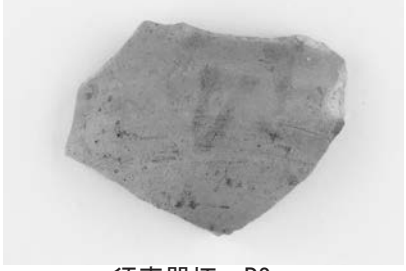


須恵器坏　R61

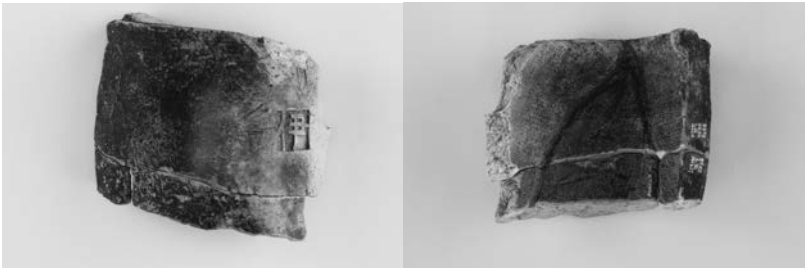
須恵器坏　R190



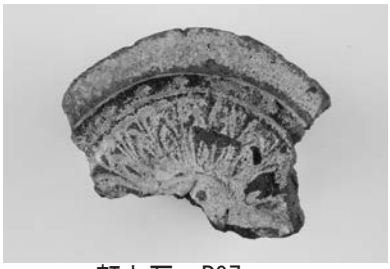
須恵器坏　R557



須恵器坏　R2



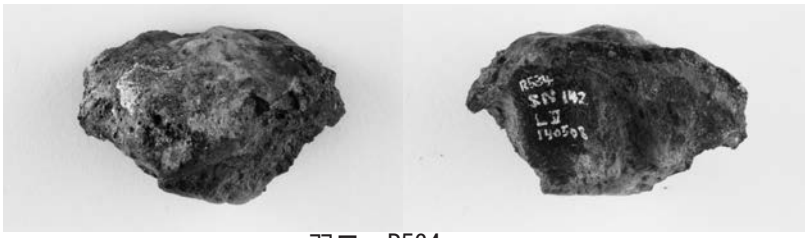
丸瓦　R433



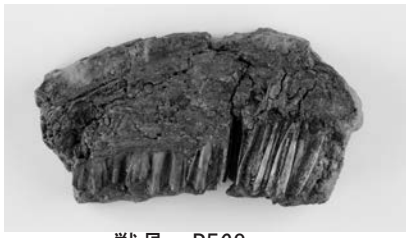
軒丸瓦　R97

砥石　R525

羽口　R539

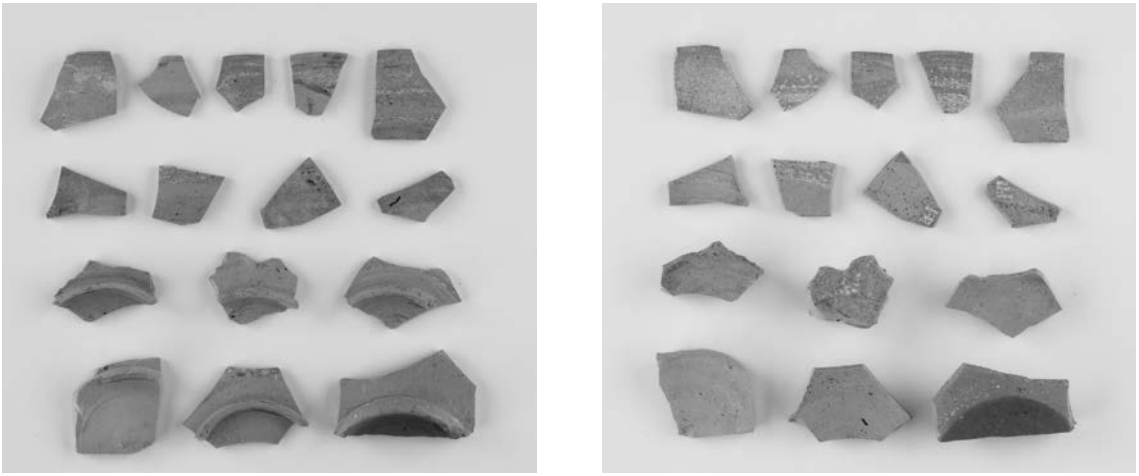


羽口　R534



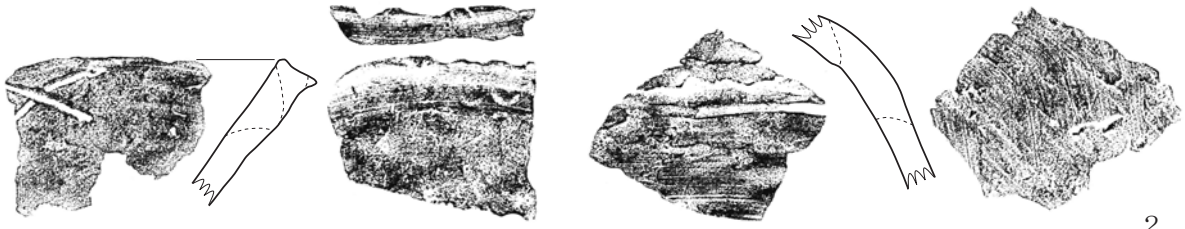
獣骨　R568

写真図版　山王遺跡第142次出土遺物



山王遺跡第142次　灰釉陶器

山王遺跡弟168次　灰釉陶器

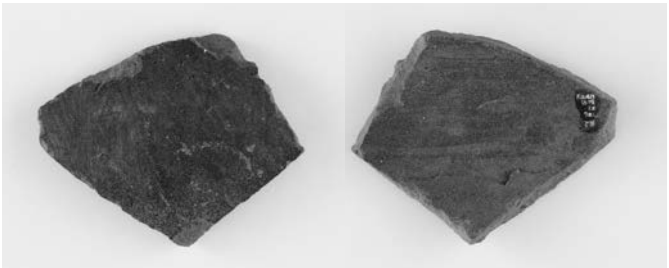


1　2

番号	種類	遺構	層位	特　徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	写真 図版	登録 番号	備考
				外面	内面						
1	陶器 鉢	SD1	1層	口縁部ナテ	ナデ 「×」の刻線				1	R1	2T
2	陶器 甕	SD1	1層	ヘラナデ	ナデ				2	R2	

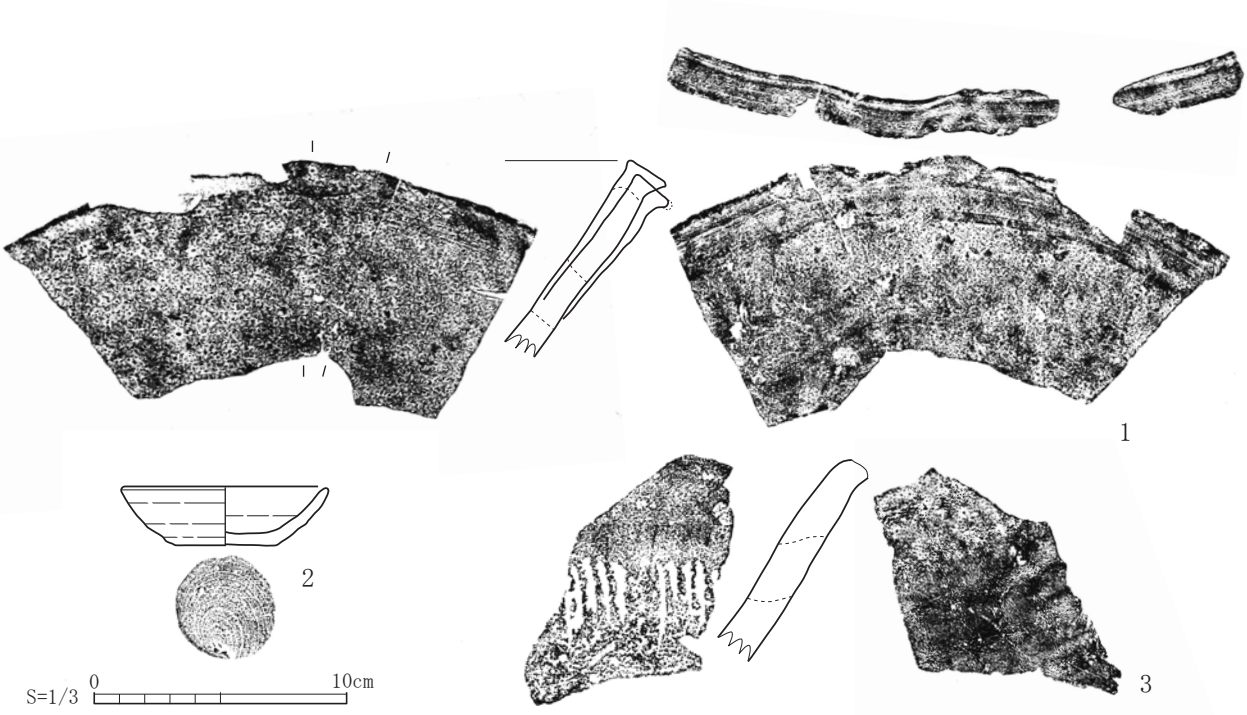
第１図　八幡沖遺跡第６次　出土遺物

八幡沖遺跡第６次　１　陶器鉢



八幡沖遺跡第６次　２　陶器甕

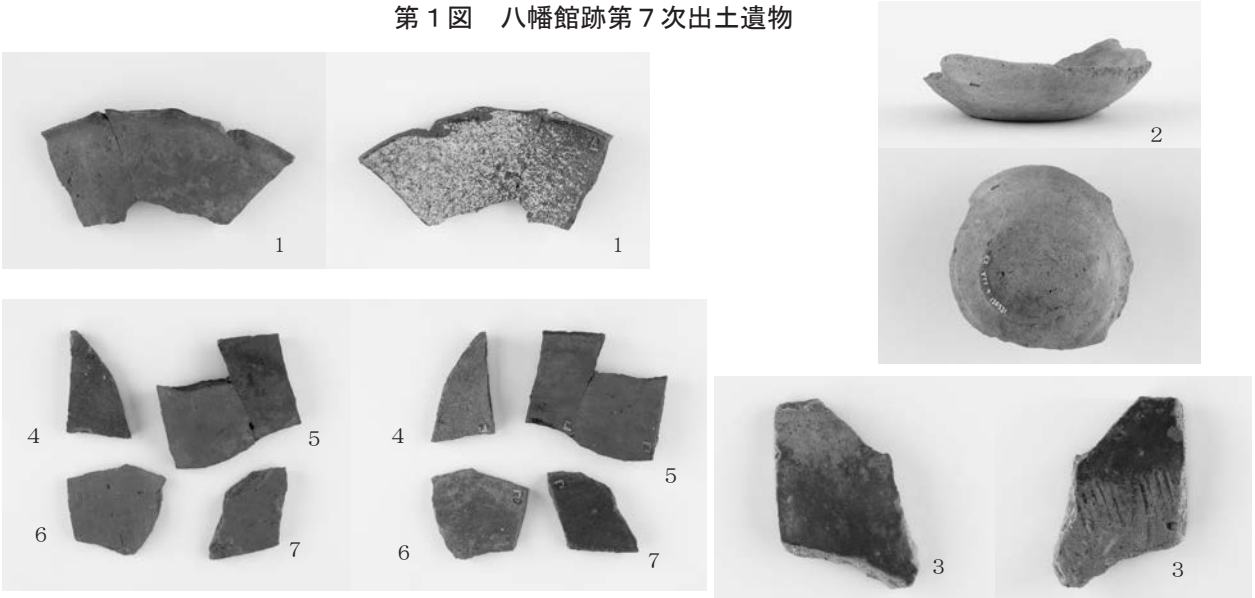
写真図版　山王遺跡第142次、山王遺跡第168次、八幡沖遺跡第６次出土遺物



（単位　cm）

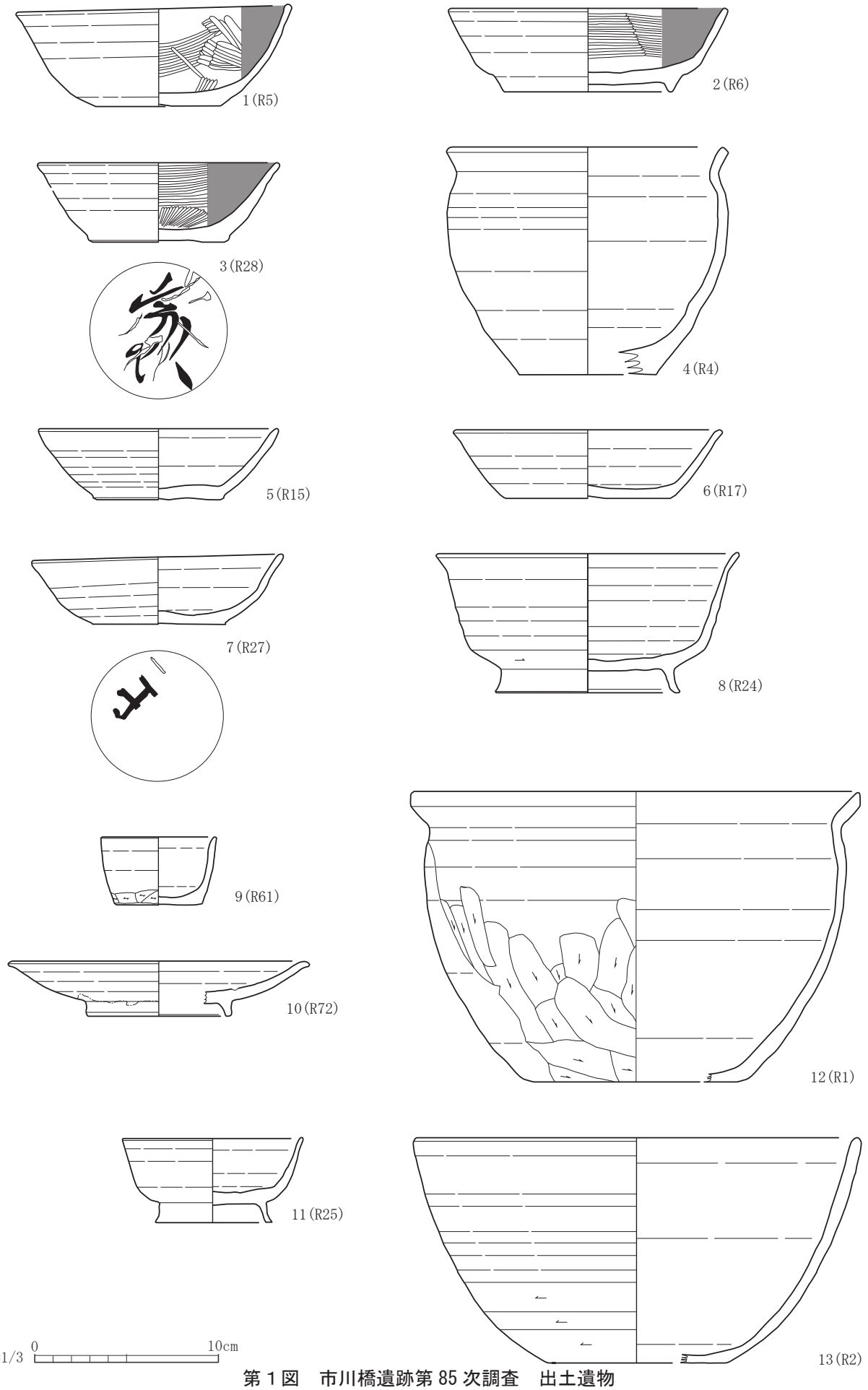
番号	種類	遺構	層位	特　徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	写真 図版	登録 番号	備考
				外面	内面						
1	陶器 甕	SX68 北西 石積み	最上層裏 込土層	口縁部ナデ	ナデ				1	R1	拡張区・無釉
2	かわらけ 皿	SX68 土橋 築成土		ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(8.1) 2/24	4.0 24/24	2.3	2	R2	
3	瓦質土器 擂鉢	SX68 土橋 築成土	上層埋土	ナデ→黒色処理	ナデ→黒色 処理				3	R3	拡張区
4	陶器 甕	SX73 版築 上部	岩盤上の 層	ナデ	ナデ				4		拡張区・無釉
5	陶器 甕	南斜面	表土	ナデ	ナデ				5		無釉
6	陶器 甕	SX68 土橋 築成土	上層埋土	ナデ	ナデ				6	R4	無釉
7	陶器 甕	残丘部	表土	ナデ	ナデ				7		無釉

第１図　八幡館跡第７次出土遺物



写真図版　八幡館跡第７次出土遺物

写真図版　山王遺跡第142次、山王遺跡第168次、八幡沖遺跡第６次出土遺物



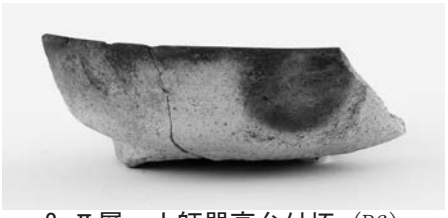
第 1 図　市川橋遺跡第 85 次調査　出土遺物

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	土師器 坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ ヘラミガキ→黒色処理	(14.7)	6.8 24/24	5.3	R5	B Ⅴ
2	土師器 高台付坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラ削り	ロクロナデ ヘラミガキ→黒色処理	15.0 6/24	－	4.6	R6	B Ⅱ c
3	土師器 坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：回転糸切り 墨書「山而□」	ロクロナデ ヘラミガキ→黒色処理	(12.9) 4/24	7.5 24/24	4.2	R28	B Ⅴ
4	土師器 甕	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.8) 7/24	7.5 2.5/24	12.4	R4	B
5	須恵器 坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：ヘラ切り	ロクロナデ	12.9 6.5/24	6.8 16/24	3.85	R15	Ⅲ
6	須恵器 坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：ヘラ切り→軽いナデ	ロクロナデ	14.4 8.5/24	8.95 6/24	3.7	R17	Ⅲ
7	須恵器 坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：ヘラ切り 墨書「山」	ロクロナデ	13.55 18/24	7.2 24/24	3.65	R27	Ⅲ
8	須恵器 高台付坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ→回転ヘラ削り 底部：回転ヘラ削り	ロクロナデ	(16.2) 1/24	(10.0) 7/24	7.6	R24	Ⅰ
9	須恵器 小型坏	－	Ⅱ層	ロクロナデ→手持ちヘラ削り 底部：手持ちヘラ削り	ロクロナデ	6.2 1/24	4.7 24/24	3.7	R61	
10	灰釉陶器 皿	－	Ⅱ層	ロクロナデ 底部：不明	ロクロナデ	16.0 3/24	7.8 0.5/24	3.0	R72	
11	須恵器 高台付坏			ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	(9.7) 13/24	6.3 24/24	4.6	R25	Ⅲ
12	須恵器 甕	(SX4)	1	ロクロナデ→手持ちヘラ削り 底部：手持ちヘラ削り	ロクロナデ	(24.4) 6/24	12.0 3/24	15.8	R1	
13	須恵器 鉢	(SX4)	1	ロクロナデ→回転ヘラ削り 底部：回転ヘラ削り	ロクロナデ	(24.0) 5/24	(9.8) 8/24	12.2	R2	

市川橋遺跡第 85 次調査　出土遺物　観察表

1 Ⅱ層　土師器坏（R5）

3 Ⅱ層　土師器坏（R28）



2 Ⅱ層　土師器高台付坏（R6）

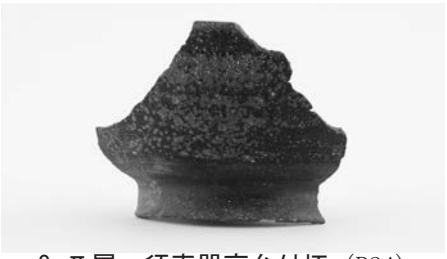
4 Ⅱ層　土師器甕（R4）

写真図版 1

市川橋遺跡第 85 次調査　出土遺物

5 Ⅱ層　須恵器坏（R15）

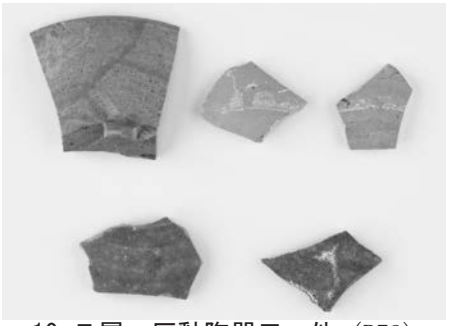
6 Ⅱ層　須恵器坏（R17）



8 Ⅱ層　須恵器高台付坏（R24）

7 Ⅱ層　須恵器坏（R27）

9 Ⅱ層　須恵器小型坏（R61）



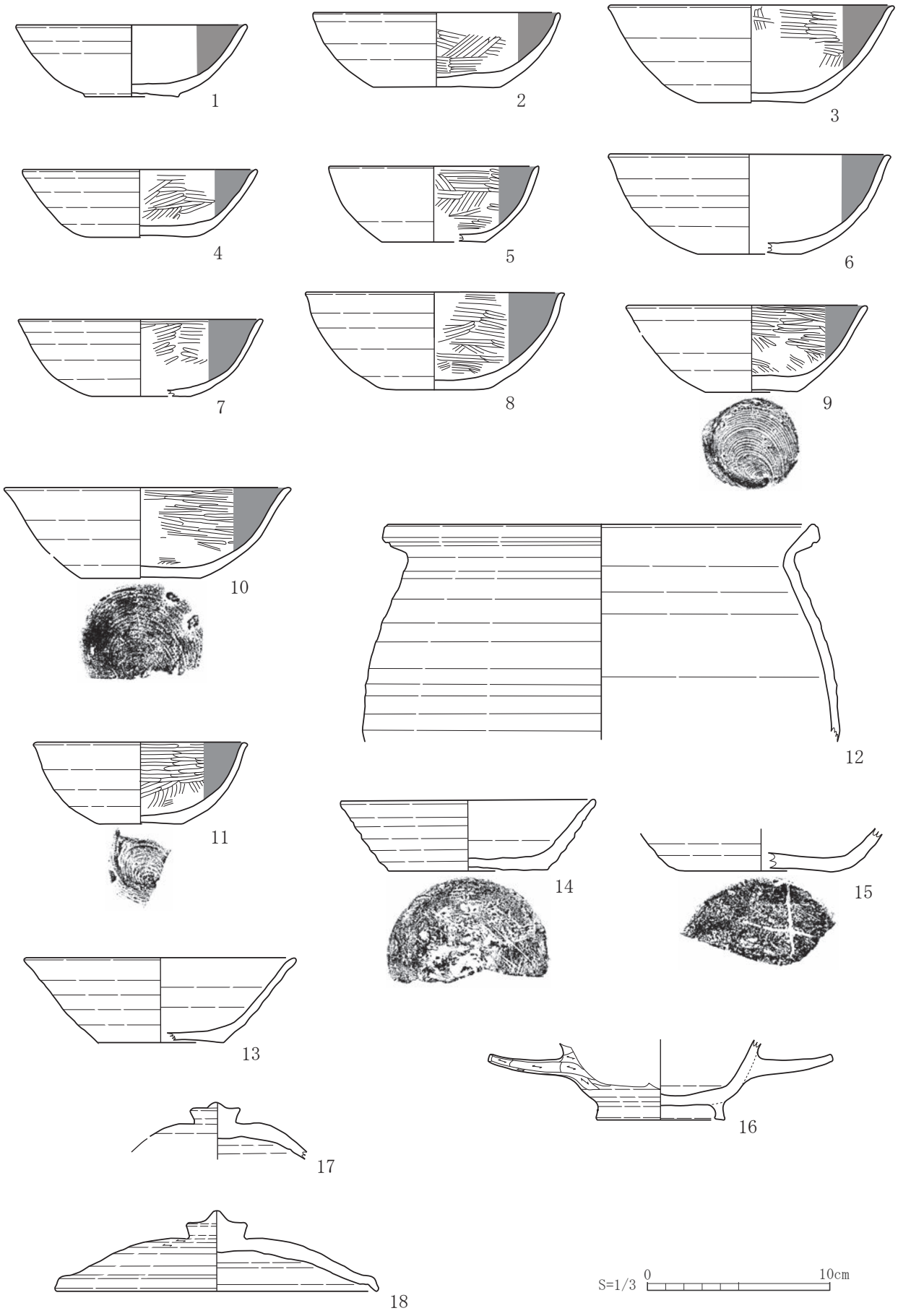
10 Ⅱ層　灰釉陶器皿　他（R72）

12 SX4　須恵器甕（R1）

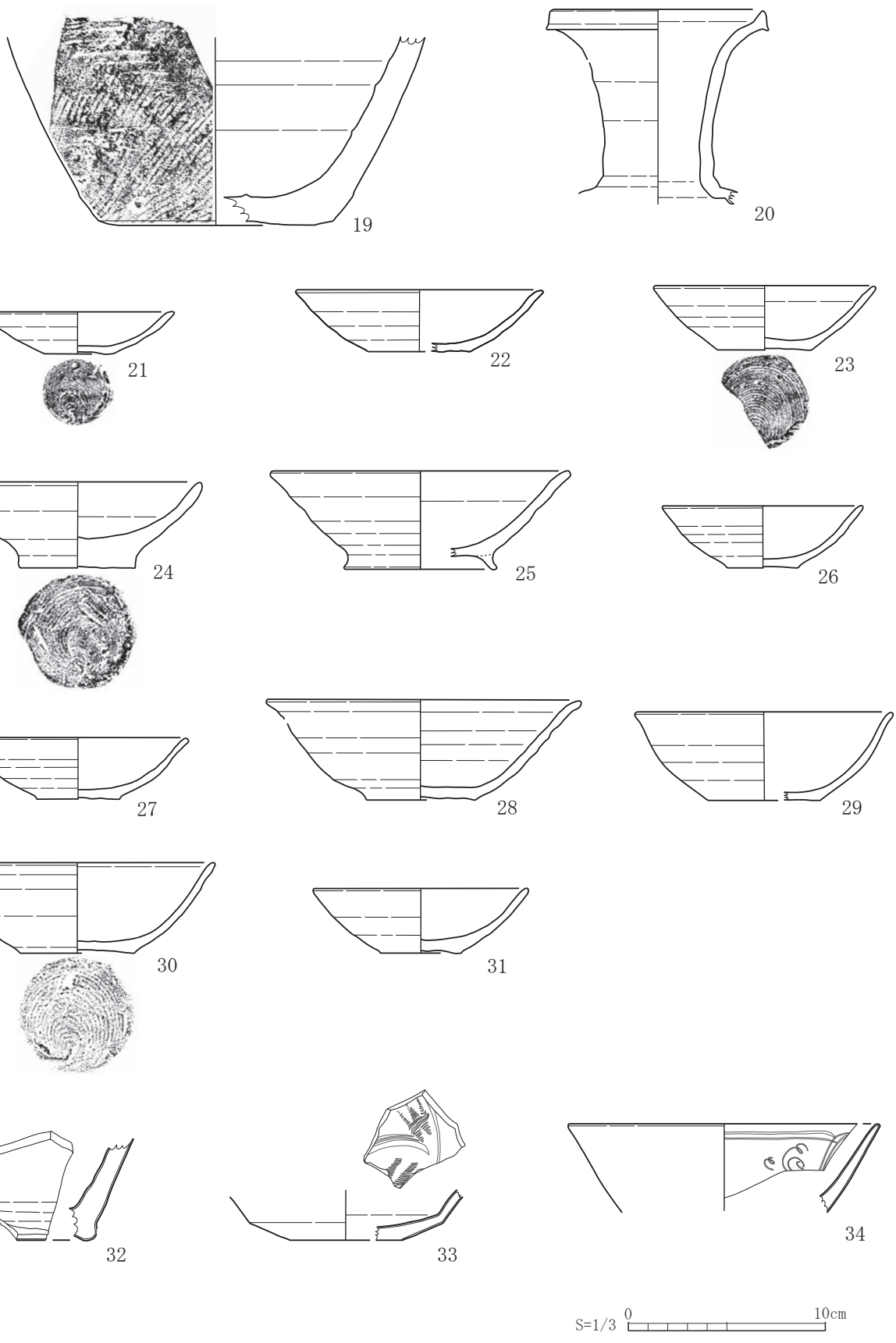
11 SX4　須恵器高台付坏（R25）

13 SX4　須恵器鉢（R12）

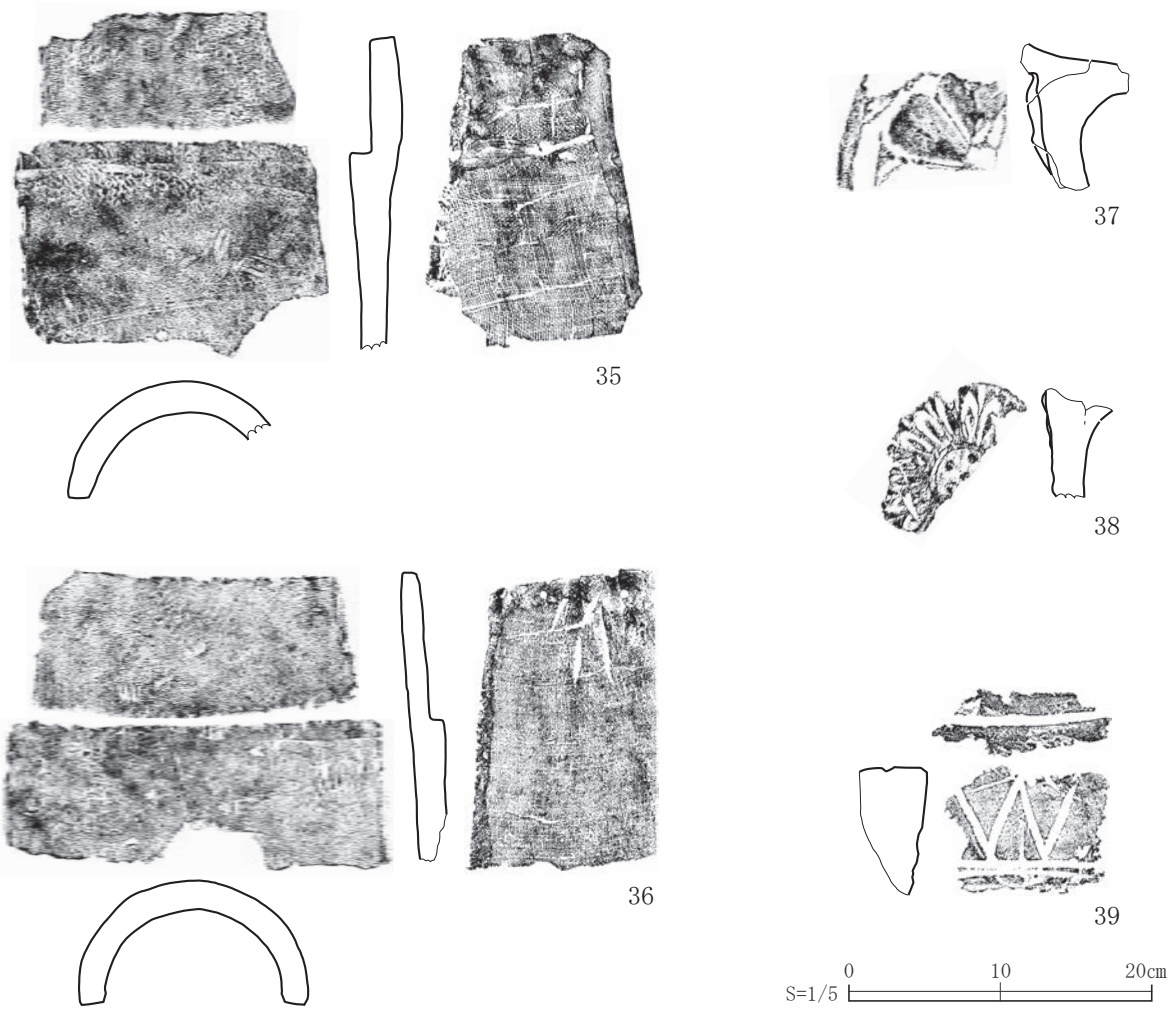
写真図版２　市川橋遺跡第 85 次調査　出土遺物



第１図　高崎遺跡第96次出土遺物１



第２図　高崎遺跡第96次出土遺物２



第３図　高崎遺跡第96次出土遺物３

番号	種類	遺構	層位	特徴 外面	特徴 内面	口径 残存率	底径 残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(12.1) 3/24	5.0	3.9	R13	
2	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(13.4) 3/24	(7.0) 15/24	4.1	R19	
3	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(15.5) 3/24	5.7	5.5	R29	
4	土師器 坏	Ⅱ区	－	ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ 黒色処理	(12.7) 8/24	6.8	3.7	R38	
5	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(11.2) 6/24	(5.6) 8/24	4.2	R43	
6	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(15.2) 3.5/24	(15.6) 4/24	5.4	R50	
7	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(13.2) 3/24	(5.4) 2/24	4.3	R51	
8	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(13.8) 1/24	(6.2) 20/24	5.3	R52	
9	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(13.0) 12/24	5.0	4.7	R53	
10	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(15.2) 2/24	(6.4) 16/24	4.9	R54	
11	土師器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(11.6) 2/24	(5.0) 8/24	4.5	R55	
12	土師器 甕	Ⅰ区	－	ロクロナデ	ロクロナデ	(25.0) 3.5/24	－	(11.9)	R7	

（単位：cm）

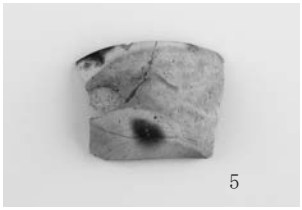
第４図　高崎遺跡第96次出土遺物観察表１

13	須恵器 坏	Ⅱ区	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.8) 4/24	(6.9) 10/24	4.6	R10	
14	須恵系土器 坏	SD1826	－	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリ・ナデ	ロクロナデ	(13.7) 11.5/24	(8.6) 16/24	3.9	R20	底部にヘラ描き
15	須恵器 坏	SD1822	－	ロクロナデ 底部：ヘラケズリ	ロクロナデ	－	(8.2) 8/24	(2.3)	R11	底部にヘラ描き
16	須恵器 双耳坏	Ⅱ区	－	ロクロナデ、ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	ロクロナデ	－	(7.0) 15/24	(4.4)	R40	
17	須恵器 蓋	SX1865	－	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	(3.2)	R21	
18	須恵器 蓋	SD1828	－	ロクロナデ	ロクロナデ	(17.5) 7/24	－	4.4	R28	
19	須恵器 甕	SD1824	－	ロクロナデ・平行叩き 底部：ヘラケズリ	ロクロナデ・ 当て具痕跡	－	(11.5) 12/24	(9.3)	R48	
20	須恵器 長頸瓶	Ⅱ区	－	ロクロナデ	ロクロナデ	(10.7) 3/24	－	(9.7)	R15	
21	須恵系土器 坏	Ⅰ区	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(9.6) 14/24	3.4 24/24	2.1	R1	
22	須恵系土器 坏	Ⅰ区	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(12.3) 1/24	(5.2) 8/24	3.3	R6	
23	須恵系土器 坏	Ⅱ区	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(11.0) 20/24	4.7	3.2	R9	
24	須恵系土器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(12.4) 8/24	5.8	4.35	R14	
25	須恵系土器 高台付坏	Ⅱ区	－	ロクロナデ 底部：ロクロナデ	ロクロナデ	(14.8) 3/24	(7.4) 4/24	4.9	R17	
26	須恵系土器 坏	SD1827	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(9.8) 5/24	(3.6) 10/24	3.2	R30	
27	須恵系土器 坏	SX4865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(10.9) 2.5/24	(4.2) 9/24	3.1	R34	
28	須恵系土器 坏	SD1828	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(15.1) 5/24	5.4	5.0	R41	
29	須恵系土器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(12.8) 7/24	(5.6) 5/24	4.5	R42	
30	須恵系土器 坏	SD1855	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(13.6) 5/24	5.7	4.5	R46	
31	須恵系土器 坏	SX1865	－	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(10.6) 4/24	4.0	3.2	R56	
32	青磁 瓶？	Ⅱ区	－			－	－	(4.8)	R22	越州窯系
33	青磁 皿	SD1824	－		櫛目文	－	(5.4) 5/24	(2.1)	R23	
34	青磁 碗	SX1865	－		輪花文	(15.4) 4/24	－	(4.4)	R35	
35	丸瓦	Ⅰ区	－	凸：縄タタキ目・ナデ	凹：布目痕	長： (20.9)	幅:(13.5)	－	R2	
36	丸瓦	SD1830	－	凸：縄タタキ目・ナデ	凹：布目痕	長： (19.2)	幅:(15.8)	－	R32	
37	軒丸瓦	SX1865	－	重弁蓮花文	ナデ	－	－	－	R36	
38	軒丸瓦	SD1824	－	細弁蓮花文	ナデ	－	－	－	R47	
39	軒平瓦	Ⅱ区	－	単弧文 顎面：鋸歯文		－	－	－	R45	
40	石臼	Ⅱ区	－			直径： (30.6)	最大厚： (9.9)		R31	上臼。写真掲載

第５図　高崎遺跡第96次出土遺物観察表２

1

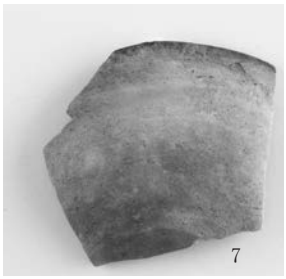
2


5

3

4

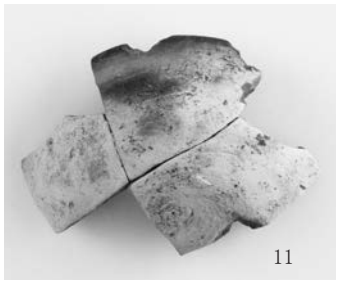
6


7

8

9

10


11

12

13

14

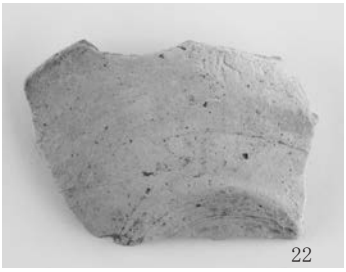
15

写真図版　高崎遺跡第96次出土遺物１

18

16

17

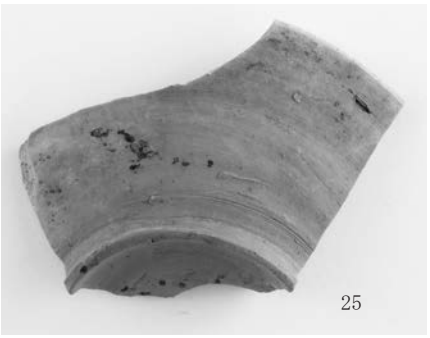

22

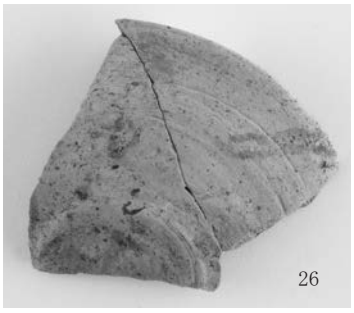
20

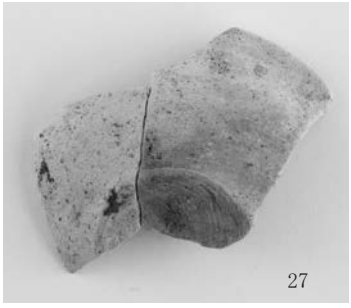
21

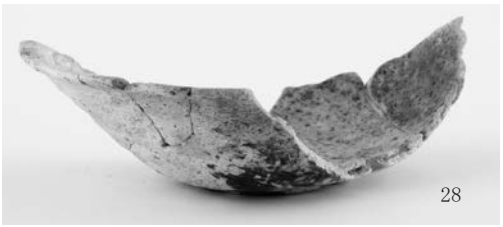
23

24


25


26


27

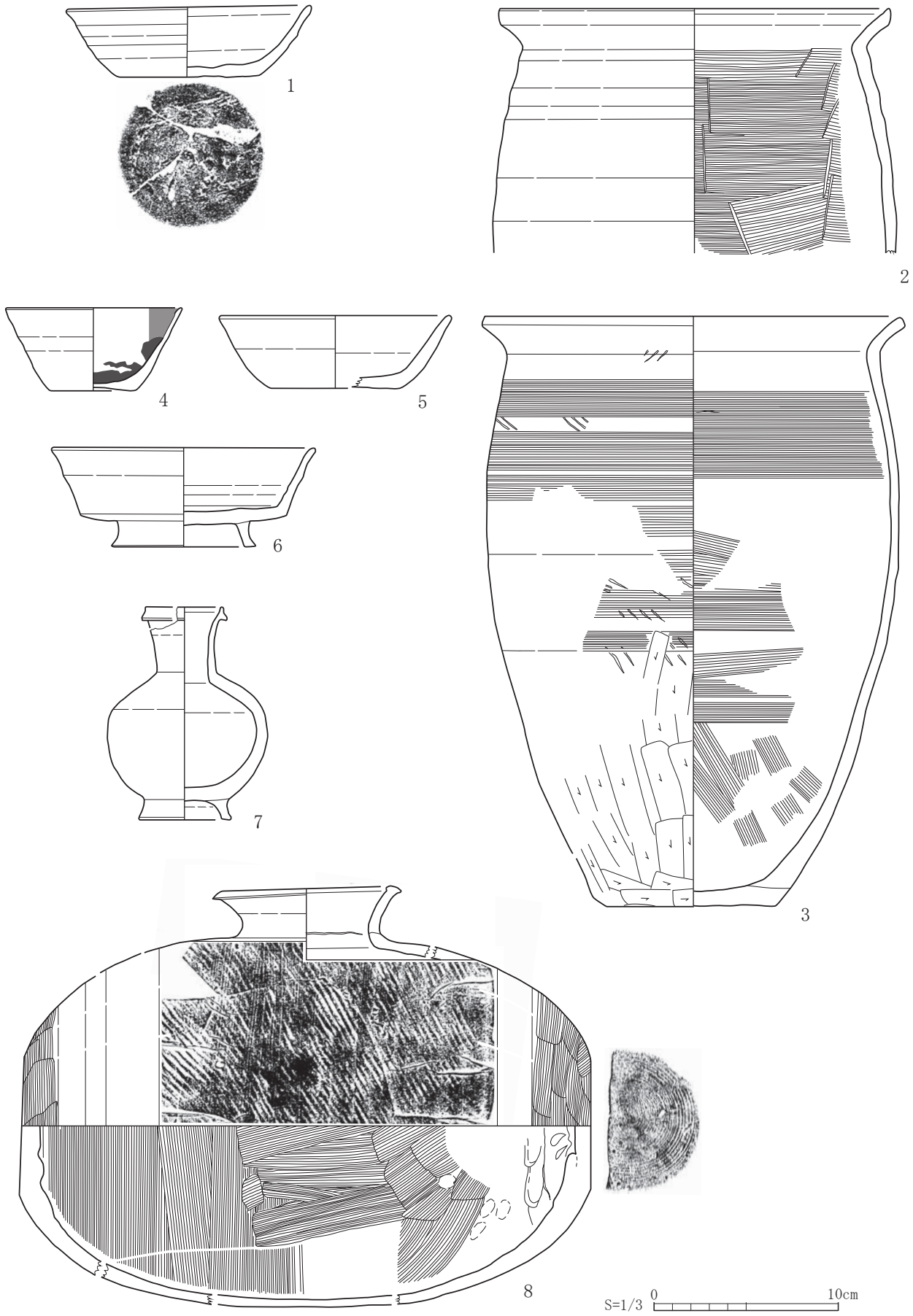

28

29

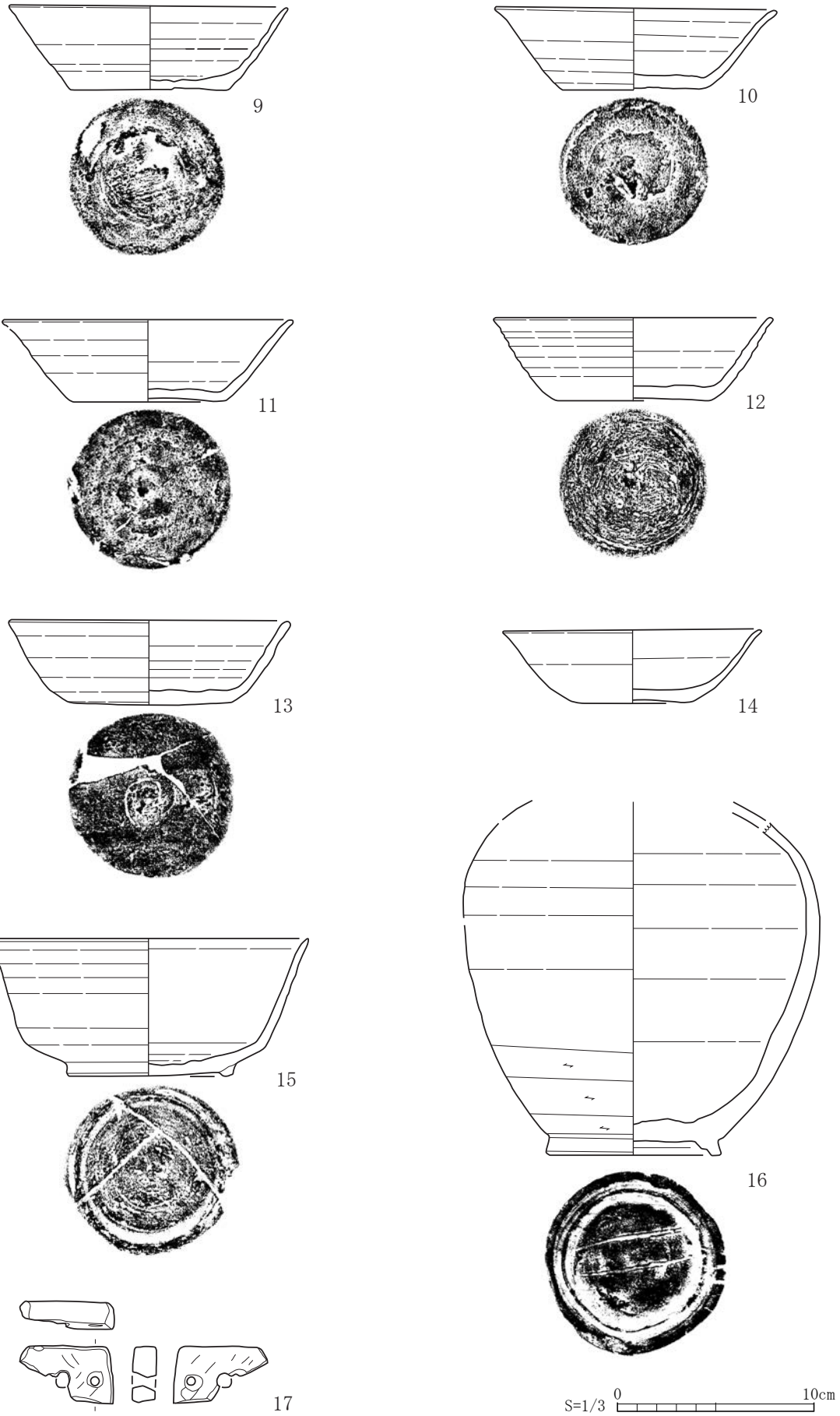
30

31

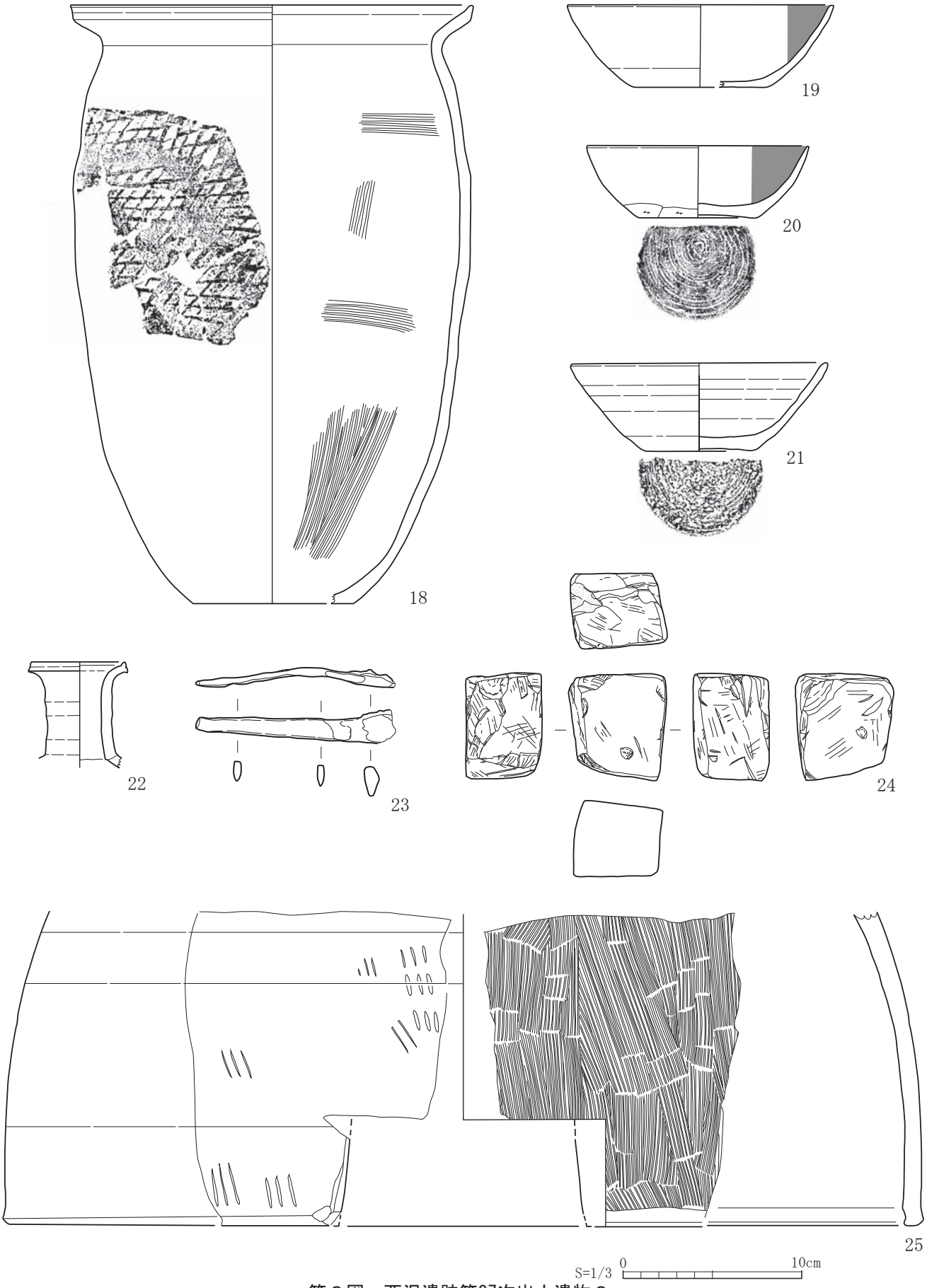
写真図版　高崎遺跡第96次出土遺物２



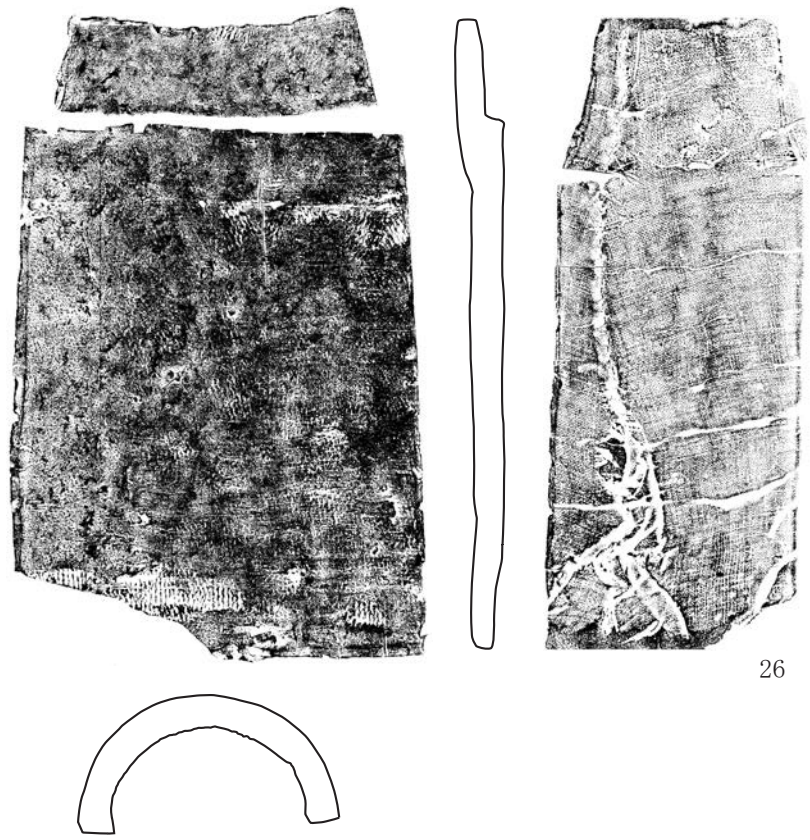
第１図　西沢遺跡第37次出土遺物１

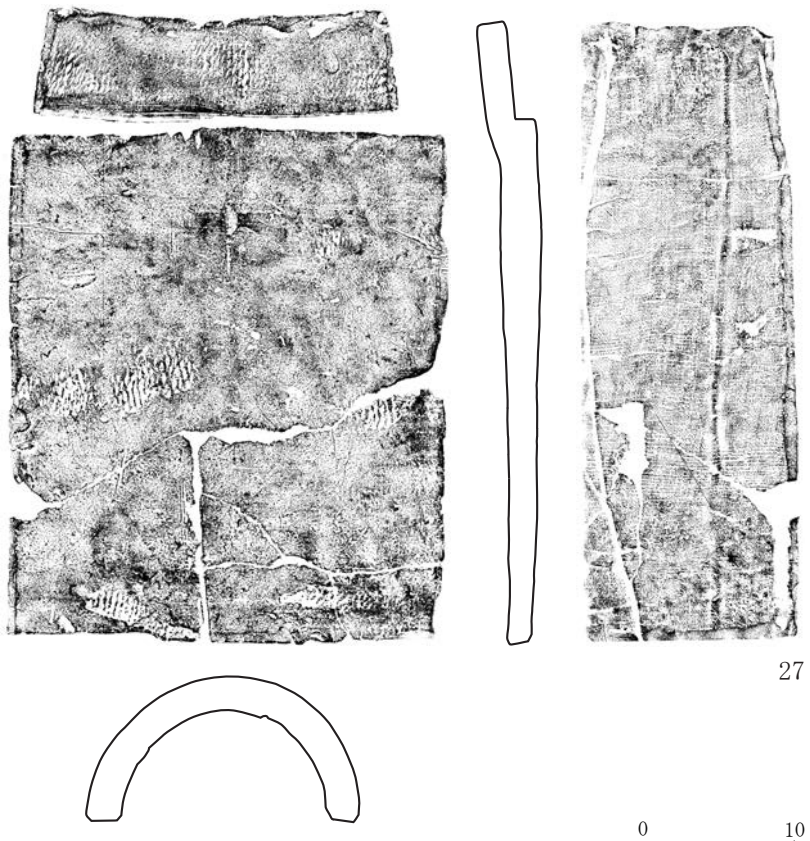


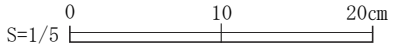
第２図　西沢遺跡第37次出土遺物２



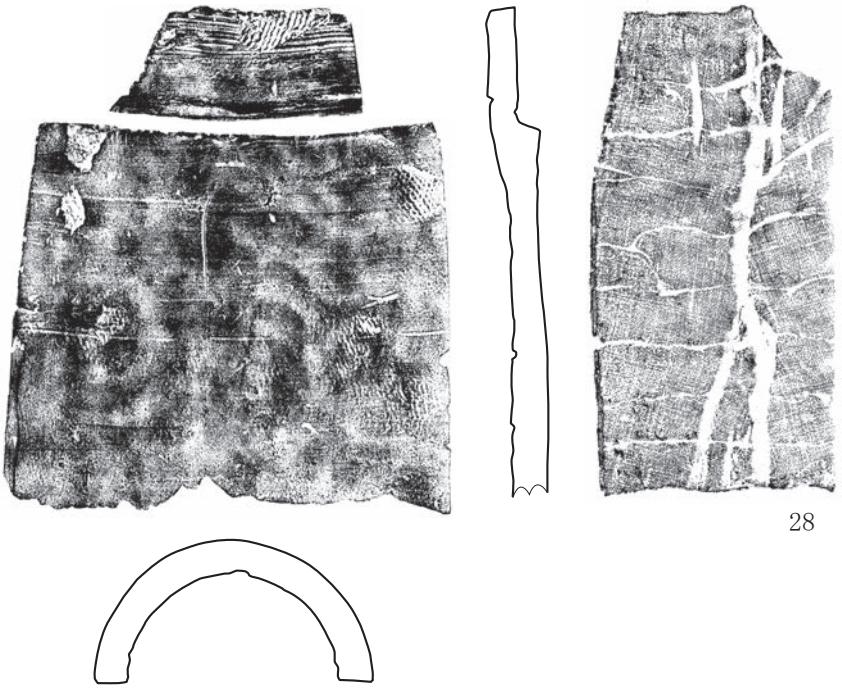
第３図　西沢遺跡第37次出土遺物３

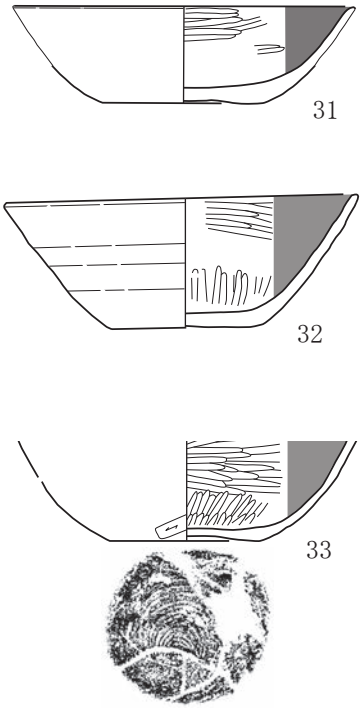


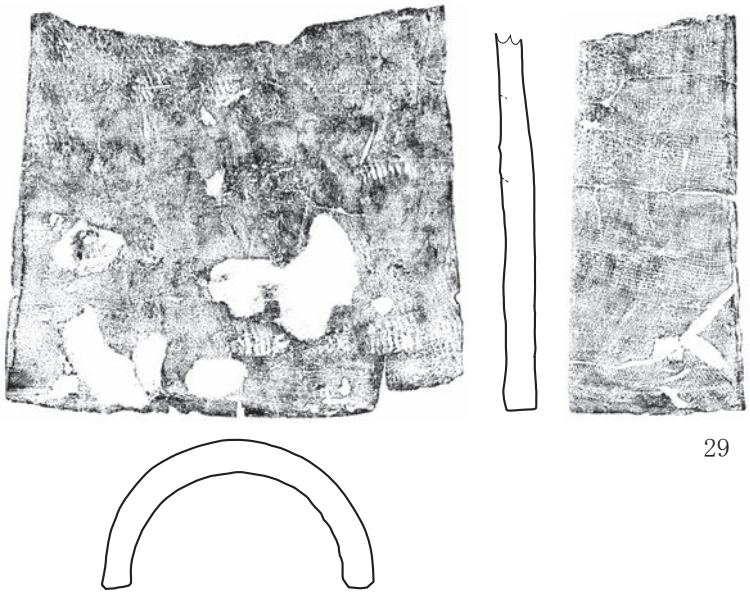


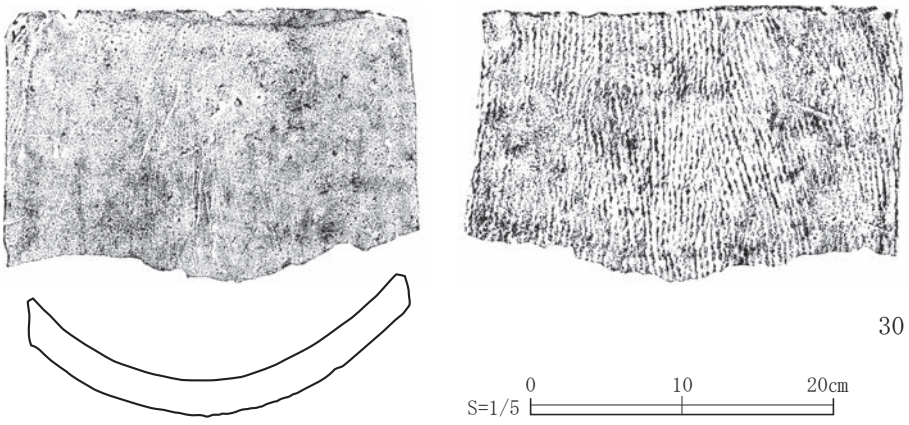


第４図　西沢遺跡第37次出土遺物４





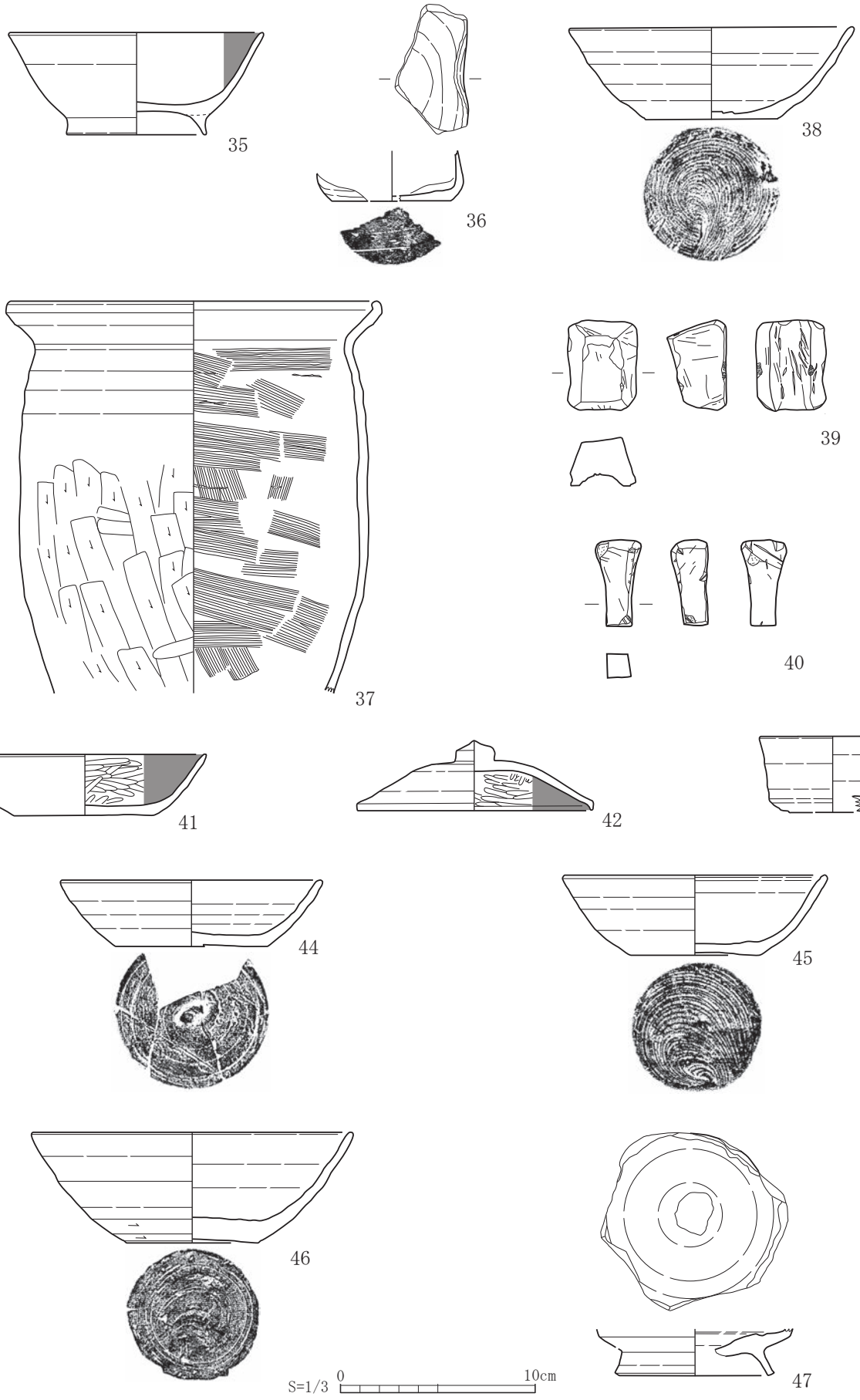




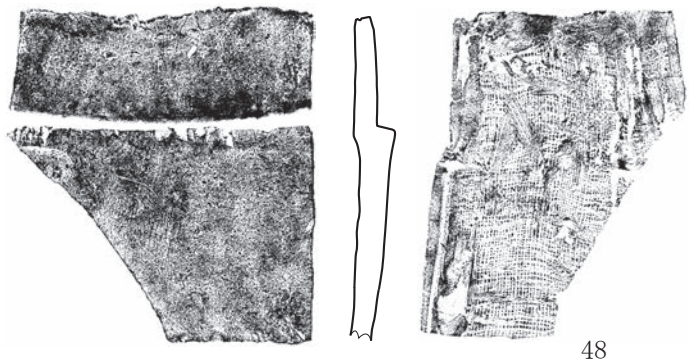
S=1/3 0 10cm

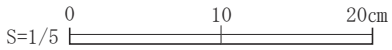
S=1/5 0 10 20cm

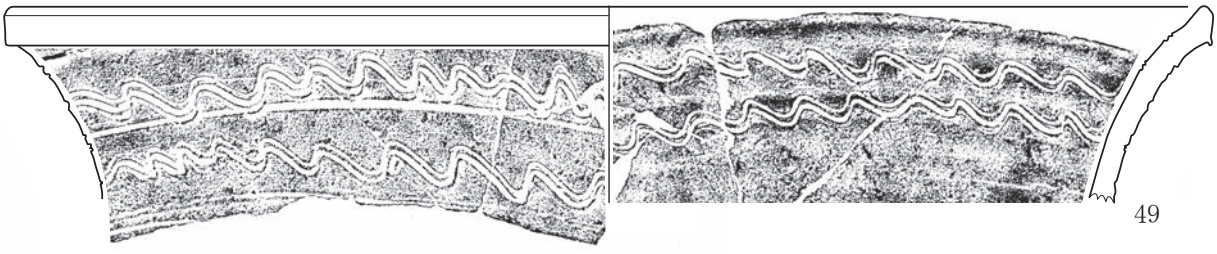
第５図　西沢遺跡第37次出土遺物５

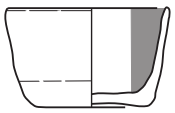


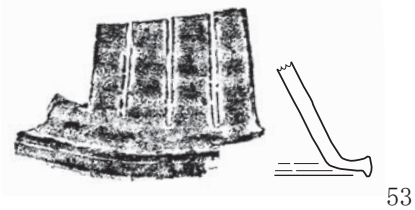
第６図　西沢遺跡第37次出土遺物６

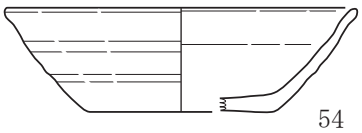


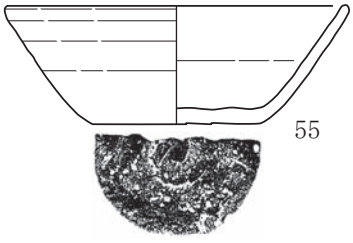


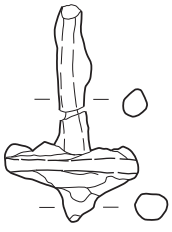


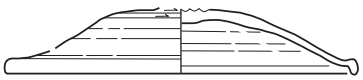


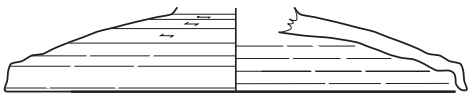




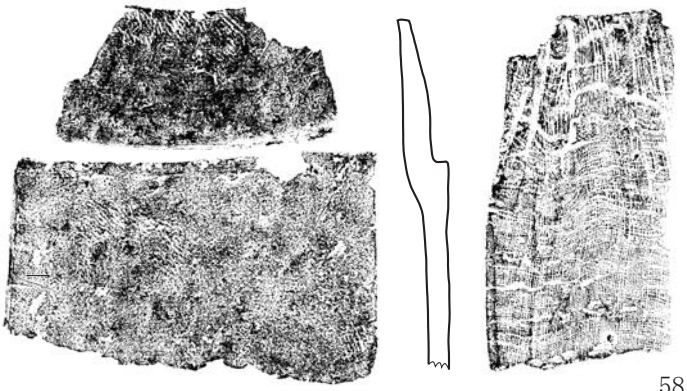




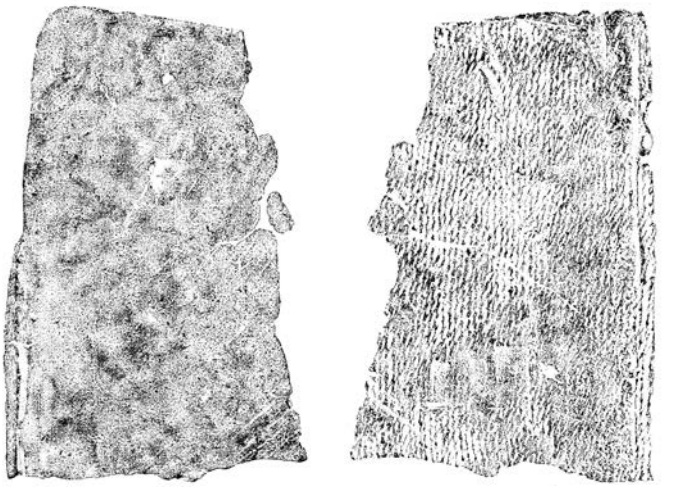




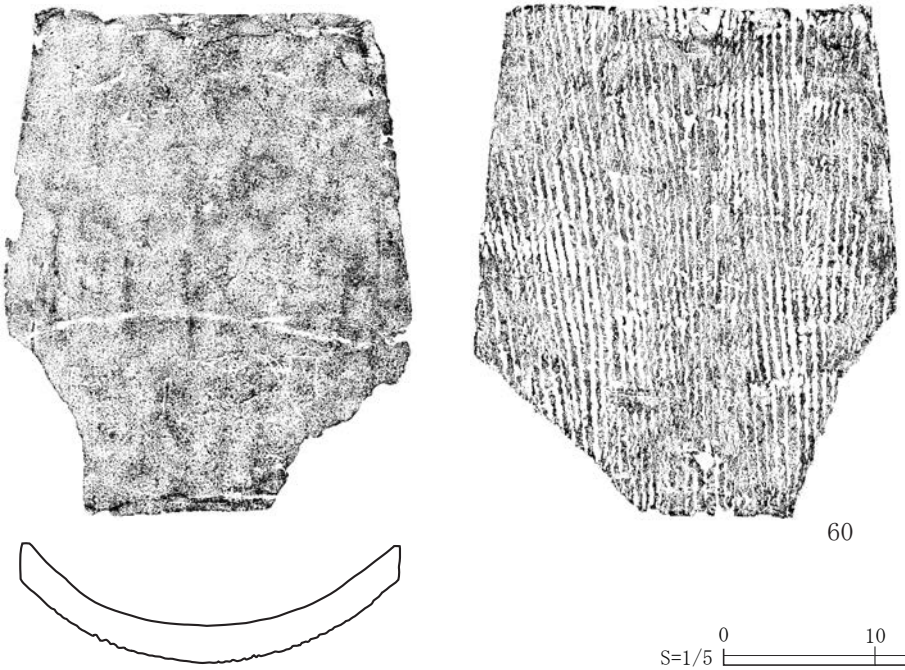
第７図　西沢遺跡第37次出土遺物７



58



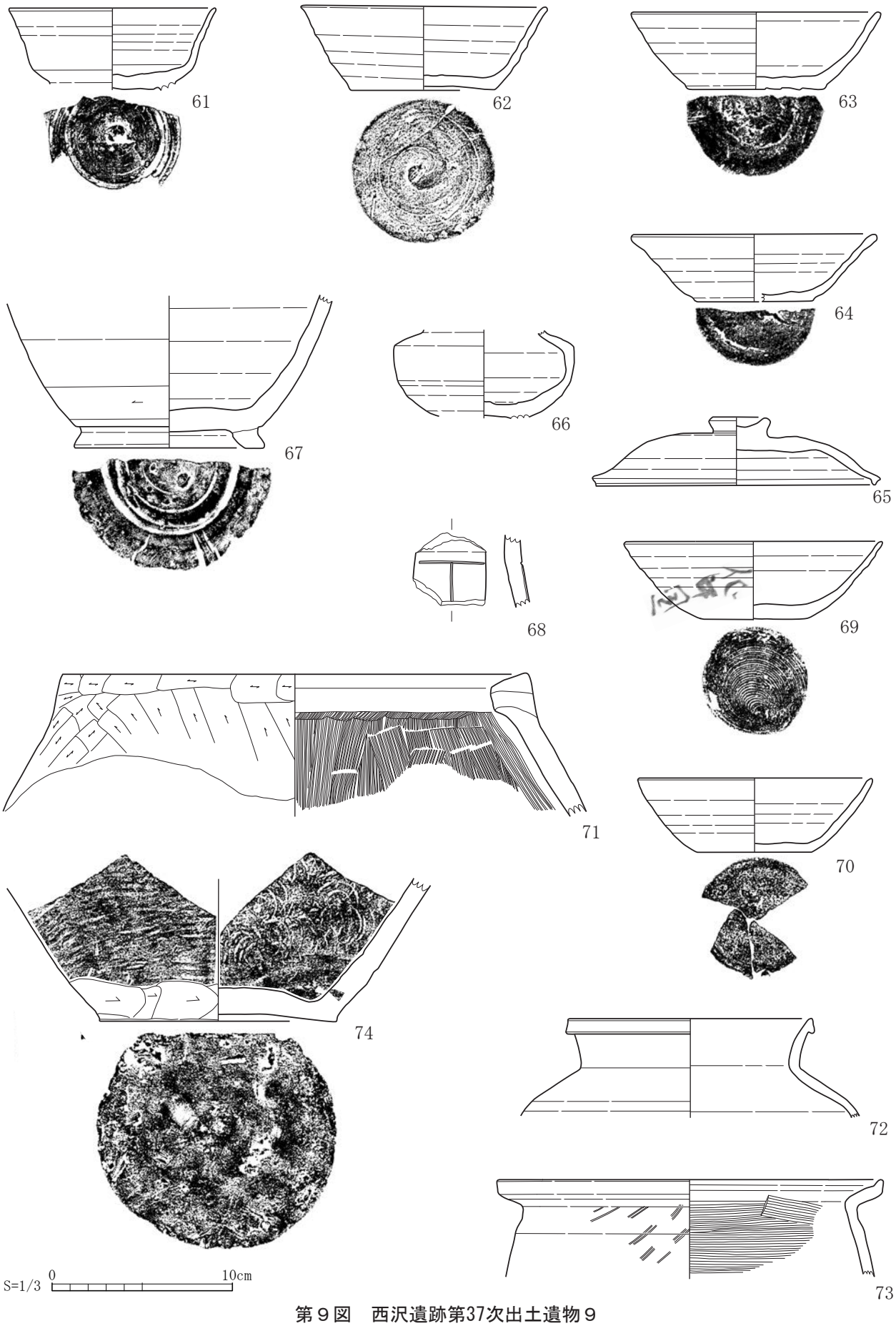
59



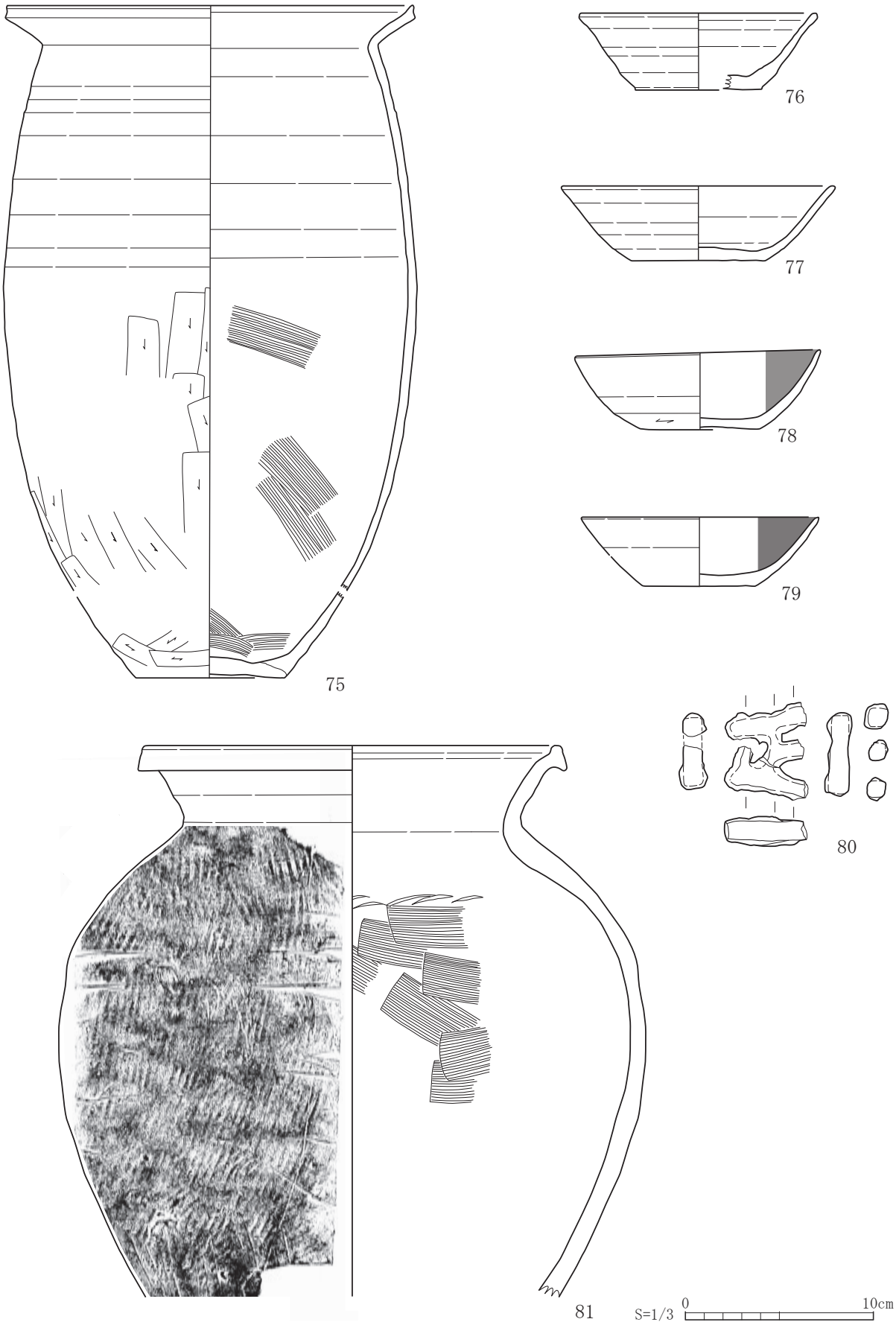
60

0　10　20cm
S=1/5

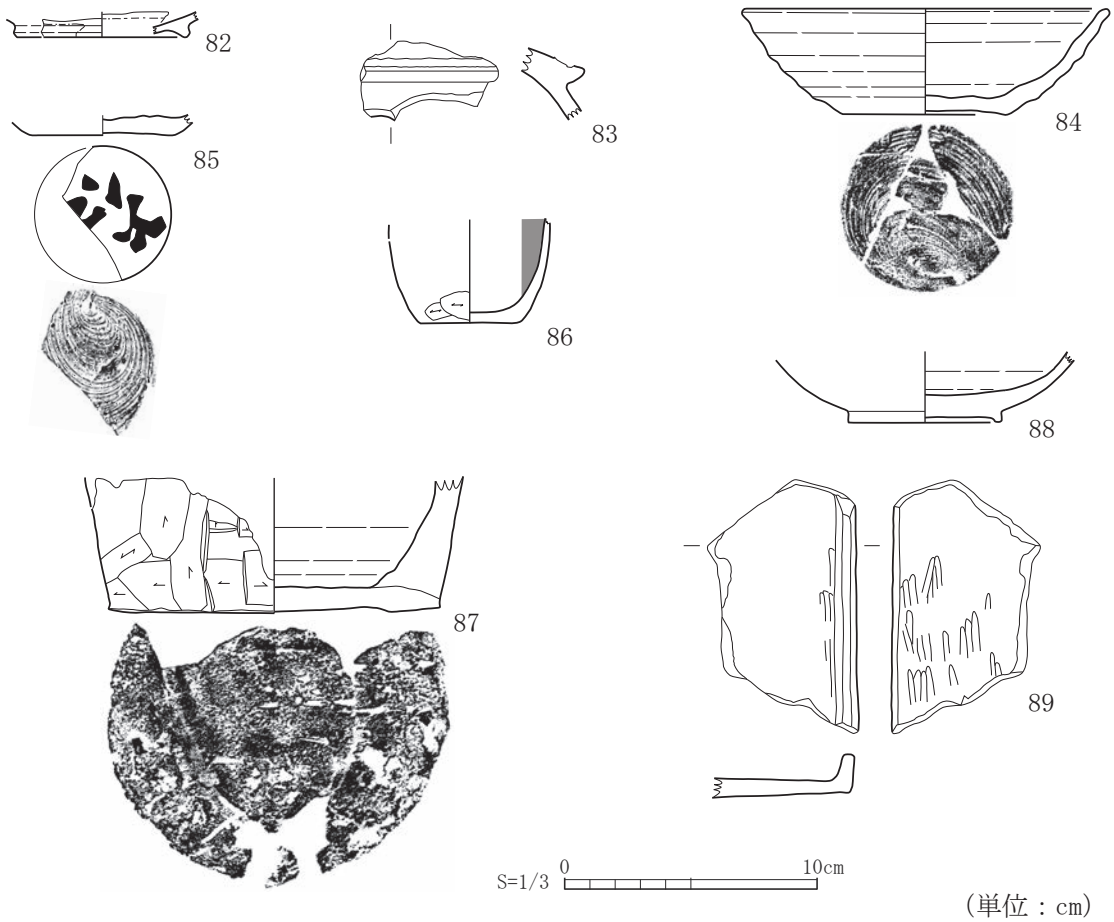
第８図　西沢遺跡第37次出土遺物８



第９図　西沢遺跡第37次出土遺物９



第10図　西沢遺跡第37次出土遺物９



（単位：cm）

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
1	須恵器 坏	SI620	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(13.3) 23/24	7.8	3.8	R70	
2	土師器 甕	SI620	1	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	(11.2) 16/24	-	(13.2)	R101	
3	土師器 甕	SI620	1	平行タタキ・ロクロナデ・回転ハケメ・ケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	ロクロナデ・ヘラナデ・回転ヘラナデ	(22.7) 8/24	(9.2) 22/24	32.0	R19	
4	土師器 坏	SI624	1	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(9.5) 3/24	(4.6) 18/24	4.5	R72	内面に漆付着
5	須恵器 坏	SI624	1	ロクロナデ 底部：静止糸切り・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(12.6) 4/24	(7.2) 5/24	3.9	R102	
6	須恵器 高台付坏	SI624	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(14.2) 6/24	(7.8) 6/24	5.3	R71	
7	須恵器 瓶	SI624	1	ロクロナデ 底部：不明	ロクロナデ	(4.2) 9/24	3.9	11.5	R1	
8	須恵器 横瓶	SI627	カマド	平行タタキ・ロクロナデ・ヘラナデ	ロクロナデ・回転ヘラナデ・ヘラナデ・シボリ	9.0	胴幅： 31.0	22.7	R2	
9	須恵器 坏	SI629	2	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(14.1) 13/24	8.0	4.3	R4	
10	須恵器 坏	SI629	2	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	14.2	7.4	4.1	R5	
11	須恵器 坏	SI629	8	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(14.6) 9/24	8.0	4.1	R6	
12	須恵器 坏	SI629	8	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(14.2) 3/24	7.6	4.2	R25	

第11図　西沢遺跡第37次出土遺物10・遺物観察表１

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
13	須恵器 坏	SI629	カマド 8	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(14.3) 8/24	8.2	4.3	R23	
14	須恵系土器 坏	SI629	カマド 8	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(13.0) 7/24	6.0	3.7	R7	
15	須恵系土器 高台付坏	SI629	カマド 3	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(16.1) 19/24	8.4	7.0	R22	
16	須恵器 長頸瓶	SI629	カマド 8	ロクロナデ、回転ヘラケズリ 底部：不明	ロクロナデ	－	8.8	(16.9)	R20	底部に線刻
17	石製品 砥石	SI629	溝			最大長： (4.9)	最大幅： (2.9)	厚： (1.4)	R26	2箇所に穿孔
18	土師器 甕	SI629	カマド 8	ロクロナデ・格子タタキ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ ヘラナデ	(22.4) 8/24	(9.0) 20/24	(33.6)	R21	
19	土師器 坏	SI630	1	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.8) 1/24	(7.6) 8/24	4.6	R33	
20	土師器 坏	SI630	1	ロクロナデ・ヘラケズリ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ・ 黒色処理	(12.4) 3/24	(6.6) 18/24	4.0	R34	
21	須恵器 坏	SI630	1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.2) 7/24	(6.4) 14/24	4.9	R32	
22	須恵器 長頸瓶	SI630	1	ロクロナデ	ロクロナデ	(5.6) 7/24	－	(5.3)	R31	
23	鉄製品 刀子	SI630	1			最大長： (10.1)	最大幅： (1.7)	厚： (0.8)	M2	
24	石製品 砥石	SI630	1			最大長： (5.8)	最大幅： (5.3)	厚： (4.1)	R40	
25	竈形土器	SI630	P1-1	平行タタキ・ロクロナデ	ハケメ	－	(50.8) 2/24	(18.5)	R27	
26	丸瓦	SI630	P1-1	縄タタキ・ロクロナデ	布目痕	長： (42.6)	最大幅： (18.1)	厚： (2.3)	R8	
27	丸瓦	SI630	P1-1	縄タタキ・ロクロナデ	布目痕	長： (41.2)	幅： (18.7)	厚： (2.2)	R43	
28	丸瓦	SI630	P1-1	縄タタキ・ロクロナデ	布目痕	最大長： (33.6)	最大幅： (19.2)	厚： (3.2)	R41	
29	丸瓦	SI630	P1-1	縄タタキ・ヘラナデ	布目痕	最大長： (27.5)	最大幅： (19.3)	厚： (2.2)	R42	
30	平瓦	SI630	P1-1	凹面：布目痕・ヘラナデ	凸面： 縄目タタキ	最大長： (18.5)	最大幅： (25.3)	厚： (2.3)	R44	
31	土師器 坏	SI632	1	ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ 黒色処理	(13.4) 1/24	6.3	3.8	R107	
32	土師器 坏	SI634	2	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(13.9) 14/24	6.2	5.1	R11	
33	土師器 坏	SI634	4	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(13.6) 3/24	5.9	4.5	R46	
34	土師器 坏	SI634	1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ヘラミガキ 黒色処理	(12.2) 1/24	6.6	4.2	R48	
35	土師器 高台付坏	SI634	K1-1	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(13.0) 2/24	(7.2) 20/24	5.2	R47	
36	土師器 耳皿	SI634	5	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	ロクロナデ・ 手持ちヘラケズリ	－	(6.0) 5/24	(2.6)	R50	
37	土師器 甕	SI634	6	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ ヘラナデ	(18.7) 12/24	－	(20.1)	R55	
38	須恵器 坏	SI634	6	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.6) 3/24	6.8	4.7	R45	
39	石製品 砥石	SI634	5			長：4.6	幅：3.5	厚：2.5	R51	
40	石製品 砥石	SI634	4			長：4.0	幅：2.1	厚：1.7	R52	
41	土師器 坏	SI635	2	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ヘラミガキ 黒色処理	(12.3) 11/24	7.3	3.1	R56	
42	土師器 蓋	SI635	5	ロクロナデ	ヘラミガキ 黒色処理	(12.0) 13/24	－	3.6	R13	

第12図　西沢遺跡第37次出土遺物観察表２

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
43	須恵器 坏	SI635	3	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(7.4) 3/24	(5.4) 10/24	3.9	R62	内外面に漆？付着
44	須恵器 坏	SI635	2	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(13.2) 11/24	(7.6) 18/24	3.3	R57	
45	須恵器 坏	SI635	2	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(13.6) 9/24	6.6	4.1	R59	
46	須恵器 坏	SI635	2	ロクロナデ・回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	ロクロナデ	(16.4) 1/24	6.6	5.6	R60	
47	須恵器 高台付坏	SI635	5	ロクロナデ 底部：不明	ロクロナデ	－	7.6	(2.4)	R61	底部に穿孔
48	丸瓦	SI635	2	ロクロナデ	布目痕・ヘラナデ	最大長： (22.7)	最大幅： (16.5)	厚： (2.7)	R63	
49	須恵器 甕	SI635	3	ロクロナデ・波状沈線文	クロナデ・波状沈線文	(47.4) 5/24	－	(7.7)	R111	
50	石製品 紡錘車	SI635	2			径： (3.9)	孔径： (0.8)	厚： 2.6	R12	
51	鉄製品 紡錘車	SI635	2			最大長： (8.6)	最大幅： (5.3)	軸厚： (1.0)	N1	
52	土師器 坏	SI636	1	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(6.1) 14/24	4.2	(3.8)	R14	
53	須恵器 円面硯	SI636	1	ロクロナデ・沈線文	ロクロナデ	－	－	(4.5)	R15	方形の透かし
54	須恵器 坏	SI637	2	ロクロナデ 底部：不明	ロクロナデ	(14.0) 6/24	(7.2) 4/24	4.1	R113	
55	須恵器 坏	SI637	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(13.6) 2/24	(6.6) 12/24	4.7	R114	
56	須恵器 蓋	SI637	P2-1	ロクロナデ	ロクロナデ	(13.8) 4/24	－	(2.6)	R115	
57	須恵器 蓋	SI637	2	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	ロクロナデ	(18.2) 4/24	－	(3.3)	R112	
58	丸瓦	SI638	D1-1	縄タタキ・ロクロナデ	布目痕	最大長： (24.1)	最大幅： (15.4)	厚： 1.9	R66	
59	平瓦	SI638	D1-1	凹面：布目痕・ヘラナデ	凸面：縄タタキ	最大長： (32.0)	最大幅： (19.0)	厚： 2.0	R64	
60	平瓦	SI638	D1-1	凹面：布目痕・ヘラケズリ	凸面：縄タタキ	最大長： (34.0)	最大幅： (25.1)	厚： 2.5	R65	
61	須恵器 高台付坏	SI638	P12-1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(11.4) 7/24	－	(4.5)	R116	
62	須恵器 坏	SI639	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(13.5) 18/24	8.0	4.6	R16	
63	須恵器 坏	SI639	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラケズリ	ロクロナデ	(13.8) 6/24	(7.6) 12/24	4.3	R78	
64	須恵器 坏	SI639	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	(13.4) 6/24	(6.4) 10/24	3.7	R79	
65	須恵器 蓋	SI639	1	ロクロナデ	ロクロナデ	(15.5) 16.5/24	－	3.8	R17	
66	須恵器 瓶	SI639	2	ロクロナデ 底部：不明	ロクロナデ	－	－	(4.8)	R117	
67	須恵器 長頸瓶	SI639	2	ロクロナデ・回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラ切り	ロクロナデ	－	(10.4) 12/24	(8.4)	R118	
68	須恵器 円面硯	SB656	P179-1	ロクロナデ・沈線文	ロクロナデ	－	－	(4.0)	R74	透かし
69	須恵器 坏	SB641	P9-1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.2) 6/24	5.8	4.3	R75	外面に墨書
70	須恵器 坏	SK699	1	ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(13.0) 20/24	(6.4) 16/24	4.1	R76	
71	竈形土器	SK699	1	ヘラケズリ	ヘラナデ	(26.0) 6/24	－	(7.6)	R80	
72	須恵器 瓶	SK699	1	ロクロナデ	ロクロナデ	(13.5) 3/24	－	(5.5)	R120	
73	土師器 甕	SK700	1	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	(21.3) 4/24	－	(5.4)	R124	

第13図　西沢遺跡第37次出土遺物観察表３

番号	種類	遺構	層位	特徴		口径 残存率	底径 残存率	器高	登録 番号	備考
				外面	内面					
74	須恵器 甕	SK702	2	平行タタキ・ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ・ナデ	同心円状アテ具・ナデ	－	(13.2) 13/24	(7.4)	R127	
75	土師器 甕	SK702	2	ロクロナデ・ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ	ロクロナデ・ヘラナデ	(21.5) 6/24	(8.0) 13/24	35.7	R128	
76	須恵器 坏	SK700	1	ロクロナデ 底部：回転ヘラケズリ	ロクロナデ	(12.0) 3/24	(6.6) 7/24	4.0	R123	
77	須恵器 坏	SK700	1	ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	(14.4) 4/24	(7.0) 11/24	3.9	R122	
78	土師器 坏	SK708	1	ロクロナデ・回転ヘラケズリ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(12.9) 12/24	6.4	4.1	R77	
79	土師器 坏	SK708	1	ロクロナデ 底部：摩滅	ヘラミガキ 黒色処理	(12.4) 1/24	5.8	3.7	R129	
80	鉄製品	SK702	2			最大長： (5.1)	最大幅： (4.9)	厚： 1.5	M3	
81	須恵器 甕	SD672	1	ロクロナデ・平行タタキ・ヘラケズリ	ロクロナデ・アテ具・ヘラナデ	(22.1) 12/24	－	(29.3)	R87	
82	灰釉陶器 皿	SX658	2	施釉	施釉	－	(6.8) 5/24	(1.0)	R658	
83	須恵器 円面硯	SX658	2	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	(2.8)	R93	透かし
84	須恵器 坏	SX714	1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	(14.5) 9/24	6.6	4.2	R98	
85	須恵器 坏	P164	1	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	－	(5.4) 11/24	(0.8)	R68	底部に墨書
86	土師器 坏	－	I	ヘラケズリ	ヘラミガキ 黒色処理	－	3.8	(4.1)	R95	
87	須恵器 甕	－	I	ロクロナデ・ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ	ロクロナデ	－	(13.0) 9/24	(5.3)	R97	
88	緑釉陶器 碗	－	I	施釉	施釉	－	6.0	(2.8)	R94	
89	土師器 風字硯	－	I	ヘラミガキ	ヘラミガキ 黒色処理	最大長： (10.0)	最大幅： (6.0)	(1.5)	R96	

第14図　西沢遺跡第37次出土遺物観察表３

1（R70）

2（R101）

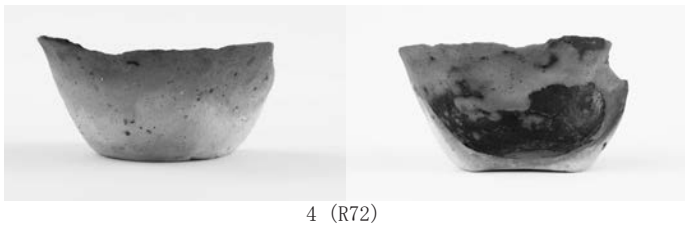
3（R19）

5（R102）

8（R2）

6（R71）

7（R1）



4（R72）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版１

9（R4）

10（R5）

11（R6）

12（R25）

13（R23）

14（R7）

15（R22）

16（R20）

18（R21）

19（R33）

20（R34）

25（R27）

21（R32）

17（右上・R26）・24（右下・R40）・
39（左下・R51）・40（左上・R52）

31（R107）

22（R31）

23（右下・M2）51（左・M1）・80（右上・M3）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版２

26（R8）

27（R43）

28（R41）

29（R42）

30（R44）

37（R55）

32（R11）

33（R46）

36（R50）

34（R48）

35（R47）

38（R45）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版３

41（R56）

42（R13）

44（R57）

45（R59）

46（R60）

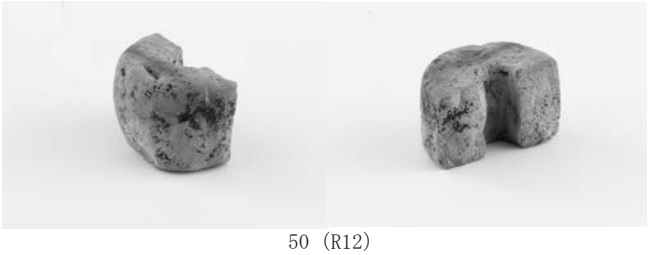
47（R61）

49（R111）

48（R63）

53（左・R15）・68（右上・R74）・83（右下・R93）

54（R113）



50（R12）

43（R62）

52（R14）

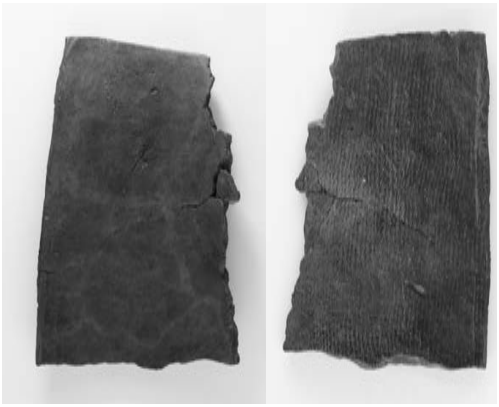
55（R114）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版４

56（R115）

57（R112）

61（R116）



59（R64）

60（R65）

58（R66）

62（R16）

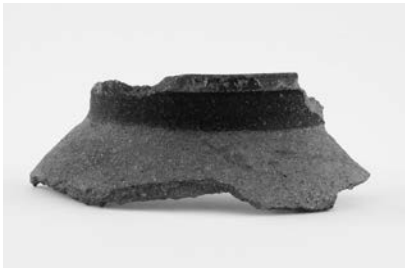
63（R78）

67（R118）

66（R117）

64（R79）

75（R17）



71（R120）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版５

67（R80）

72（R127）

78（R123）

77（R122）

78（R77）

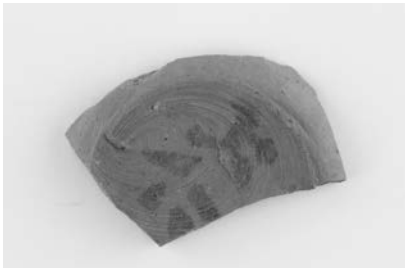
79（R129）

84（R98）

69（R75）

81（R87）

82（R92）



85（R68）

75（R128）

86（R95）

88（R94）

87（R97）

89（R96）

西沢遺跡第37次　遺物写真図版６

報告書抄録

ふりがな	にいだ・さんのう・たかさき・にしざわいせきほか
書名	新田・山王・高崎・西沢遺跡ほか
副書名	震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第146集
編著者名	菅原哲文　武田健市　赤澤靖章　齋藤健　大木丈夫　小原一成 佐藤純平
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒985-0873　宮城県多賀城市中央二丁目27－1　℡：022-368-0134
発行年月日	西暦2021年3月27日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新田遺跡（にいだいせき）（第84次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字西後13－1、14－1（にいだあざにしうしろ）	042099	18012	38度17分49秒	140度57分26秒	20120228～20120314	52㎡	中野堰復旧工事
新田遺跡（にいだいせき）（第93次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）山王字西町浦5－6（さんのうあざにしまちうら）	042099	18012	38度18分61秒	140度58分1秒	20130213～20130228	78㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第94次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字新後143－26、17－1、17－2、19－1、4外（にいだあざしんうしろ）	042099	18012	38度17分59秒	140度57分38秒	20130305～20130326	190㎡	共同住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第99次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）山王字南寿福寺51－6（さんのうあざみなみじゅふくじ）	042099	18012	38度18分3秒	140度57分55秒	20140730～20140807	62㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第116次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字上95－2、96－2（にいだあざかみ）	042099	18012	38度17分30秒	140度57分53秒	20170127	62㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第118次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字南安楽寺60－1（にいだあざみなみあんらくじ）	042099	18012	38度17分33秒	140度57分43秒	20170410～20170414	55㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第134次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字西後1－7、1－5（にいだあざにしうしろ）	042099	18012	38度17分58秒	140度57分25秒	20190520	44㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第137次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）南宮字庚申292、293－1、293－2（なんぐうあざこうしん）	042099	18012	38度18分4秒	140度57分47秒	20190912～20190921	49㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第139次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）新田字後103－1、103－11（にいだあざうしろ）	042099	18012	38度17分52秒	140度57分34秒	20191028～20191116	54㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第142次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）山王字南寿福寺1－1（さんのうあざみなみじゅふくじ）	042099	18012	38度17分56秒	140度57分46秒	20200408～20200501	112㎡	個人住宅建設
新田遺跡（にいだいせき）（第148次）	宮城県多賀城市（みやぎけんたがじょうし）山王字北寿福寺48－24（さんのうあざきたじゅふくじ）	042099	18012	38度18分3秒	140度57分54秒	20201006～20201023	68.9㎡	個人住宅建設

山王遺跡（第 107 次）	宮城県多賀城市山王字西町浦 92 － 1 、89 － 9	042099	18013	38 度 18 分 1 秒	140 度 58 分 18 秒	20120612 ～ 20120614	27 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 112 次）	宮城県多賀城市山王字中山王 44 － 2	042099	18013	38 度 17 分 49 秒	140 度 58 分 34 秒	20120913 ～ 20121012	47 ㎡	宅地造成
山王遺跡（第 119 次）	宮城県多賀城市山王字掃下し 2 － 1 、 2 － 9 、 2 － 10 の一部	042099	18013	38 度 17 分 57 秒	140 度 58 分 17 秒	20121026 ～ 20121128	303 ㎡	共同住宅建設
山王遺跡（第 123 次）	宮城県多賀城市山王字前田 28 － 3 ・ 29 、山王字山王四区 177 － 1 、 178 － 1	042099	18013	38 度 17 分 45 秒	140 度 58 分 37 秒	20130116 ～ 20130227	97 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 125 次）	宮城県多賀城市山王字山王一区の一部	042099	18013	38 度 18 分 0 秒	140 度 58 分 47 秒	20130307 ～ 20130319	123 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 135 次）	宮城県多賀城市山王字山王三区 56 － 6	042099	18013	38 度 17 分 54 秒	140 度 58 分 38 秒	20131001 ～ 20131204	36.7 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 140 次）	宮城県多賀城市山王字西町浦 34 － 16	042099	18013	38 度 18 分 0 秒	140 度 58 分 8 秒	20140115 ～ 20140117	7 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 141 次）	宮城県多賀城市山王字山王四区 185 － 8	042099	18013	38 度 17 分 45 秒	140 度 58 分 31 秒	20140204 ～ 20140227	45 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 142 次）	宮城県多賀城市山王字山王四区 92 － 1 他	042099	18013	38 度 17 分 47 秒	140 度 58 分 40 秒	20140418 ～ 20140909	570 ㎡	宅地造成
山王遺跡（第 146 次）	宮城県多賀城市山王字伊勢 70 番外 11 筆	042099	18013	38 度 18 分 10 秒	140 度 58 分 27 秒	20141029 ～ 20150114	226 ㎡	機械化センター建設
山王遺跡（第 148 次）	宮城県多賀城市山王字西町浦 34 － 77	042099	18013	38 度 17 分 58 秒	140 度 58 分 11 秒	20150518 ～ 20150601	28 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 149 次）	宮城県多賀城市南宮字町 28 － 1	042099	18013	38 度 18 分 4 秒	140 度 58 分 26 秒	20150715 ～ 20150731	53 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 158 次）	宮城県多賀城市山王字北寿福寺 76 － 11	042099	18013	38 度 18 分 2 秒	140 度 58 分 2 秒	20160226	9 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 159 次）	宮城県多賀城市南宮字町 56	042099	18013	38 度 18 分 4 秒	140 度 58 分 30 秒	20160229 ～ 20160317	88 ㎡	宅地造成
山王遺跡（第 162 次）	宮城県多賀城市山王字山王一区 16	042099	18013	38 度 18 分 0 秒	140 度 58 分 56 秒	20160516 ～ 20160615	144 ㎡	宅地造成

山王遺跡（第 168 次）	宮城県多賀城市 山王字山王四区 89 － 10、91 － 1	042099	18013	38 度 17 分 49 秒	140 度 58 分 40 秒	20160906 ～ 20161128	168 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 193 次）	宮城県多賀城市 南宮字町 52 の一部	042099	18013	38 度 18 分 4 秒	140 度 58 分 31 秒	20170818 ～ 20170901	180 ㎡	共同住宅建設
山王遺跡（第 194 次）	宮城県多賀城市 南宮字町 22 － 2	042099	18013	38 度 18 分 3 秒	140 度 58 分 19 秒	20171031 ～ 20171121	90 ㎡	個人住宅建設
山王遺跡（第 210 次）	宮城県多賀城市 南宮字町 180、西町浦 89 － 5	042099	18013	38 度 18 分 2 秒	140 度 58 分 17 秒	20190507 ～ 20190523	78 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 83 次）	宮城県多賀城市 城南２丁目 11 － 2	042099	18013	38 度 17 分 56 秒	140 度 59 分 25 秒	20120301 ～ 20120313	31 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 85 次）	宮城県多賀城市 城南２丁目２－６	042099	18013	38 度 17 分 52 秒	140 度 59 分 21 秒	20120425 ～ 20120526	96 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 87 次）	宮城県多賀城市 城南２丁目 19 － 7 、19 － 8	042099	18013	38 度 17 分 42 秒	140 度 59 分 28 秒	20121213 ～ 20121217	16 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 88 次）	宮城県多賀城市 城南１丁目８－３	042099	18013	38 度 17 分 59 秒	140 度 59 分 18 秒	20140213 ～ 20140227	60 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 89 次）	宮城県多賀城市 城南２丁目 17 － 1 ・20	042099	18013	38 度 17 分 45 秒	140 度 59 分 22 秒	20140918 ～ 20141010	16 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 90 次）	宮城県多賀城市 城南１丁目 13 － 4	042099	18013	38 度 17 分 58 秒	140 度 59 分 26 秒	20150831 ～ 20150901	4 ㎡	個人住宅建設
市川橋遺跡（第 99 次）	宮城県多賀城市 城南２丁目 16 － 1 、16 － 2 、16 － 3 、16 － 4、16 － 5	042099	18013	38 度 17 分 45 秒	140 度 59 分 29 秒	20200609 ～ 20200626	137 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 92 次）	宮城県多賀城市 留ヶ谷１丁目 22 － 18	042099	18013	38 度 17 分 57 秒	141 度 0 分 19 秒	20120216	4 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 94 次）	宮城県多賀城市 高崎２丁目 181 － 3 の一部	042099	18013	38 度 17 分 48 秒	140 度 59 分 47 秒	20120905	16 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 95 次）	宮城県多賀城市 高崎１丁目 95 番３、132 番 27 の一部	042099	18013	38 度 18 分 8 秒	140 度 59 分 59 秒	20120914	16 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 96 次）	宮城県多賀城市 高崎２丁目 35 － 1 、35 － 2 、36 － 2、42 － 2	042099	18013	38 度 17 分 44 秒	140 度 59 分 45 秒	20130620 ～ 20130920	900 ㎡	共同住宅建設
高崎遺跡（第 107 次）	宮城県多賀城市 高崎２丁目 81 － 10 ・32	042099	18013	38 秒 17 分 47 秒	140 度 59 分 38 秒	20150203 ～ 20150205	10 ㎡	個人住宅建設

高崎遺跡（第 108 次）	宮城県多賀城市留ヶ谷１丁目 106 － 6	042099	18013	38 度 18 分 1 度	141 度 0 分 14 秒	20150707 ～ 20150712	33 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 113 次）	宮城県多賀城市高崎２丁目 296 － 5	042099	18013	38 度 17 分 41 秒	140 度 59 分 48 秒	20180222	8 ㎡	個人住宅建設
高崎遺跡（第 115 次）	宮城県多賀城市高崎２丁目 63 － 2	042099	18013	38 度 17 分 42 秒	140 度 59 分 42 秒	20180927	1 ㎡	貸家建設
高崎遺跡（第 123 次）	宮城県多賀城市高崎２丁目 87 － 5、88 － 8	042099	18013	38 度 17 分 42 秒	140 度 59 分 34 秒	20200226	10 ㎡	個人住宅建設
高崎古墳群（第 13 次）	宮城県多賀城市高崎２丁目 232、234 － 1、234 － 6、230- 3、230- 9	042099		38 度 17 分 50 秒	140 度 59 分 37 秒	20190702 ～ 20190930	192 ㎡	個人住宅建築
大日南遺跡（第 12 次）	宮城県多賀城市高橋４丁目 20- 8、20-29	042099		38 度 17 分 20 秒	140 度 58 分 45 秒	20140410 ～ 20140424	63 ㎡	個人住宅建築
大日南遺跡（第 16 次）	宮城県多賀城市高橋４丁目 18- 7	042099		38 度 17 分 19 秒	140 度 58 分 42 秒	20190520	8 ㎡	個人住宅建築
西沢遺跡（第 31 次）	宮城県多賀城市浮島字沢前 20 －、20 － 1 の各一部、20 － 10	042099	18017	38 度 18 分 18 秒	140 度 59 分 35 秒	20170822	12 ㎡	集合住宅新築
西沢遺跡（第 36 次）	宮城県多賀城市市川字伊保石 55、浮島字西沢 60 － 1 の一部	042099	18017	38 度 18 分 35 秒	140 度 59 分 47 秒	20180724 ～ 20180801	350 ㎡	宅地造成
西沢遺跡（第 37 次）	宮城県多賀城市市川字伊保石 55、浮島字西沢 60 － 1 の一部	042099	18017	38 度 18 分 35 秒	140 度 59 分 47 秒	20190613 ～ 20200226	2500 ㎡	宅地造成
八幡館跡（第７次）	宮城県多賀城市八幡 371、372 － 1 の各一部	042099	18021	38 度 17 分 13 秒	140 度 0 分 3 秒	20130410 ～ 20130613	175 ㎡	共同住宅建築
八幡沖遺跡（第６次）	宮城県多賀城市明月１丁目 32・34 番地内	042099	18007	38 度 16 分 59 秒	141 度 0 分 37 秒	20120703 ～ 20120818	156 ㎡	個人住宅建築
八幡沖遺跡（第８次）	宮城県多賀城市宮内１丁目地内	042099	18007	38 度 16 分 57 秒	141 度 0 分 37 秒	20141202 ～ 20141219	1062 ㎡	宅地造成
八幡沖遺跡（第 10 次）	宮城県多賀城市宮内１丁目地内	042099	18007	38 度 16 分 54 秒	141 度 0 分 39 秒	20150310 ～ 20150313	7 ㎡	神社鳥居移設
八幡沖遺跡（第 11 次）	宮城県多賀城市宮内１丁目地内	042099	180007	38 度 16 分 57 秒	141 度 0 分 41 秒	20140508 ～ 20150630	789 ㎡	土地区画整理事業

八幡沖遺跡（第12次）	宮城県多賀城市 宮内１丁目地内	042099	18007	38度16分57秒	141度0分38秒	20150928～20151001	100㎡	下水道工事
八幡沖遺跡（第14次）	宮城県多賀城市 宮内１丁目地内178－１の一部（仮換地）２Ｂ－２Ｌ	042099	18007	38度16分56秒	141度0分40秒	20160609～20160619	180㎡	社務所新築
八幡沖遺跡（第15次）	宮城県多賀城市 宮内１丁目地内112－３、114－１、114－３、115－１、116－１（１Ｂ　２－１Ｌ）	042099	18007	38度16分56秒	141度0分33秒	20161018～20161109	586㎡	社屋及び作業場建設工事
八幡沖遺跡（第16次）	宮城県多賀城市 宮内１丁目地内	042099	18007	38度16分57秒	141度0分34秒	20161128～20161130	160㎡	公共雨水函線工事
八幡沖遺跡（第17次）	宮城県多賀城市 宮内１丁目地内70－１・２・４、71－２・３、147－２、150	042099	18007	38度16分51秒	141度0分42秒	20170629～20170628	18㎡	個人住宅建築
大代囲洞窟（第２次）	宮城県多賀城市 大代５丁目81－４	042099	18039	38度17分28秒	141度2分29秒	20140514～20140520	52㎡	個人住宅建築
大代遺跡（第３次）	宮城県多賀城市 大代６丁目４－１	042099	18039	38度17分42秒	141度2分14秒	20151020	25㎡	雨水ポンプ場新設
大代遺跡（第４次）	宮城県多賀城市 大代６丁目	042099	18039	38度17分25秒	141度2分18秒	20171219	30㎡	雨水ポンプ場新設
大代遺跡（第５次）	宮城県多賀城市 大代６丁目27－２、27－４の一部、27－５の一部	042099	18039	38度17分27秒	141度2分23秒	20201014～20201021	50㎡	宅地造成
東原遺跡（第１次）	宮城県多賀城市 栄３丁目185	042099		38度17分1秒	141度1分11秒	20191028	25㎡	雨水調整池工事
東原遺跡（第２次）	宮城県多賀城市 栄３丁目13－１の一部	042099		38度16分56秒	141分1分11秒	20200701～20200702	50㎡	工場新築
野田遺跡（第５次）	宮城県多賀城市 留ヶ谷２丁目14－２	042099	18023	38度18分15秒	141度0分8秒	20190128	6㎡	個人住宅建築
西原遺跡（第３次）	宮城県多賀城市 大代１丁目125－20、125－42	042099	18026	38度17分24秒	141度1分54秒	20130412	18㎡	個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新田遺跡（第84次）	集落・屋敷		－	－	
新田遺跡（第93次）	集落・屋敷	古代・中世	溝跡・土壙	－	
新田遺跡（第94次）	集落・屋敷		柱列跡・小溝群	－	

新田遺跡（第 99 次）	集落・屋敷	古代・中世	溝跡	―	
新田遺跡（第 116 次）	集落・屋敷		―	―	
新田遺跡（第 118 次）	集落・屋敷		―	―	
新田遺跡（第 134 次）	集落・屋敷		―	―	
新田遺跡（第 137 次）	集落・屋敷		溝跡	―	
新田遺跡（第 139 次）	集落・屋敷	古代	小溝群	土師器・須恵器	
新田遺跡（第 142 次）	集落・屋敷	古代・中世	区画溝跡・柱穴	土師器・須恵器・陶器	
新田遺跡（第 148 次）	集落・屋敷	古墳	竪穴建物跡・掘立柱建物・溝跡・土壙	土師器	
山王遺跡（第 107 次）	集落・都市		―	―	
山王遺跡（第 112 次）	集落・都市	古代	掘立柱建物跡	土師器・須恵器・須恵系土器	
山王遺跡（第 119 次）	集落・都市		水田跡・溝跡・小溝群・土器埋設遺構	土師器・須恵器・須恵系土器・瓦	
山王遺跡（第 123 次）	集落・都市	古代	道路跡・溝跡	土師器・須恵器・須恵系土器・灰釉陶器・瓦	西８道路跡を発見した。
山王遺跡（第 125 次）	集落・都市	古代	柱穴・小ピット	土師器・須恵器・鉄製品	
山王遺跡（第 135 次）	集落・都市	古代	溝跡・土壙・柱穴	土師器・須恵器	
山王遺跡（第 140 次）	集落・都市		―	―	
山王遺跡（第 141 次）	集落・都市	古代	道路跡・溝跡・井戸跡	土師器・須恵器・須恵系土器・石製模造品	西９道路跡を発見した。
山王遺跡（第 142 次）	集落・都市	古墳・古代	道路跡・掘立柱建物跡・柱列跡・溝跡・小溝群・土壙	土師器・須恵器・須恵系土器・瓦・木製品	西７道路跡を発見した。
山王遺跡（第 146 次）	集落・都市	古代	溝跡・土壙	土師器・須恵器・瓦	
山王遺跡（第 148 次）	集落・都市	中世	掘立柱建物跡・井戸跡・土壙	無釉陶器	
山王遺跡（第 149 次）	集落・都市	近世・近代	焼成遺構・土壙	―	
山王遺跡（第 158 次）	集落・都市		―	―	
山王遺跡（第 159 次）	集落・都市	近世	杭穴・ピット・土壙	―	

山王遺跡（第 162 次）	集落・都市	古代	道路跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	北 1 道路跡を発見した。
山王遺跡（第 168 次）	集落・都市	古代	溝跡・土壙	土師器・須恵器・須恵系土器・灰釉土器	
山王遺跡（第 193 次）	集落・都市		溝跡、土壙	―	
山王遺跡（第 194 次）	集落・都市		溝跡	―	
山王遺跡（第 210 次）	集落・都市	古代・近世	小溝・ピット・土壙	土師器・磁器	
市川橋遺跡（第 83 次）	集落・都市	古代	土壙	土師器・須恵器	
市川橋遺跡（第 85 次）	集落・都市	古代	掘立柱建物跡・溝跡・土壙	土師器・須恵器	
市川橋遺跡（第 87 次）	集落・都市		―	―	
市川橋遺跡（第 88 次）	集落・都市	古代	溝跡	須恵器・須恵系土器	
市川橋遺跡（第 89 次）	集落・都市	古代	溝跡・土壙	土師器・須恵器・須恵系土器	
市川橋遺跡（第 90 次）	集落・都市		―	―	
市川橋遺跡（第 99 次）	集落・都市		―	―	
高崎遺跡（第 92 次）	集落・城館	近代	建物跡	―	
高崎遺跡（第 94 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 95 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 96 次）	集落・城館	古代・中世	掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土壙・柱穴列・ピット群	土師器・須恵器・須恵系土器・瓷器系陶器・石臼・瓦	
高崎遺跡（第 107 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 108 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 113 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 115 次）	集落・城館		―	―	
高崎遺跡（第 123 次）	集落・城館		―	―	
高崎古墳群（第 13 次）	集落・古墳	古代	溝跡	―	
大日南遺跡（第 12 次）	集落		溝跡	砥石・羽口・鉄滓	

大日南遺跡（第 16 次）	集落	近世	―	―	
西沢遺跡（第 31 次）	集落・城館	古代	―	―	
西沢遺跡（第 36 次）	集落・城館	古代・近世	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝跡	―	
西沢遺跡（第 37 次）	集落・城館	古代・近代	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝跡・土壙	土師器・須恵器・鉄製品・石製品	
八幡館跡（第７次）	集落・城館	中世	掘切・整地遺構・土橋・堀跡・横穴簿	カワラケ・無釉陶器・瓦質土器	
八幡沖遺跡（第６次）	集落	古代・中世・近世	溝跡・柱穴	須恵系土器・無釉陶器・磁器	
八幡沖遺跡（第８次）	集落		掘立柱建物跡・区画溝跡・土壙	―	
八幡沖遺跡（第 10 次）	集落	古代	溝跡・土壙	土師器・須恵系土器	
八幡沖遺跡（第 11 次）	集落		―	―	
八幡沖遺跡（第 12 次）	集落		ピット	―	
八幡沖遺跡（第 14 次）	集落	古代	溝跡・土壙・柱穴	須恵系土器・瓦	
八幡沖遺跡（第 15 次）	集落	古代	溝跡・土壙	土師器・須恵器・須恵系土器	
八幡沖遺跡（第 16 次）	集落	近世	―	―	
八幡沖遺跡（第 17 次）	集落		土壙	―	
大代囲洞窟（第２次）	集落		溝跡	―	
大代遺跡（第３次）			―	―	
大代遺跡（第４次）			―	―	
大代遺跡（第５次）			―	―	
東原遺跡（第１次）			―	―	
東原遺跡（第２次）			―	―	
野田遺跡（第５次）			―	―	
西原遺跡（第３次）			―	―	

要　約	新田遺跡第 84 次調査では、遺構・遺物は確認できなかった。
	新田遺跡第 93 次調査では、古代・中世の溝跡を発見した。
	新田遺跡第 94 次調査では、時期不明の柱列跡、小溝群を発見した。
	新田遺跡第 99 次調査では、中世の溝跡、土壙を発見した。
	新田遺跡第 116 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	新田遺跡第 118 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	新田遺跡第 134 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった
	新田遺跡第 137 次調査では、年代不明の溝跡を発見した。
	新田遺跡第 139 次調査では、古代の小溝群を発見した。
	新田遺跡第 142 次調査では、中世の区画溝跡、柱穴を発見した。
	新田遺跡第 148 次調査では、古墳時代前期の竪穴建物跡、時期不明の掘立柱建物跡を発見した。
	山王遺跡第 107 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	山王遺跡第 112 次調査では、古代の掘立柱建物跡を発見した。
	山王遺跡第 119 次調査では、古墳時代前期の水田跡、古代の小溝群、土器埋設遺構を発見した
	山王遺跡第 123 次調査では、平安時代の西８道路と、南２道路に並行しより南側に位置する東西道路を発見した。
	山王遺跡第 125 次調査では、古代の柱穴を発見した。
	山王遺跡第 135 次調査では、９世紀の溝跡、土壙を発見した。
	山王遺跡第 140 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	山王遺跡第 141 次調査では、平安時代の西９道路跡を発見した。
	山王遺跡第 142 次調査では、平安時代の西７道路跡、古代の掘立柱建物跡、溝跡、小溝群、土壙を発見した。
	山王遺跡第 146 次調査では、古代の溝跡を発見した。
	山王遺跡第 148 次調査では、中世の掘立柱建物跡、井戸跡を発見した。
	山王遺跡第 149 次調査では、明治時代の火災の痕跡、土壙、江戸時代の焼成遺構を発見した。
	山王遺跡第 158 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	山王遺跡第 159 次調査では、江戸時代の杭穴、ピット、土壙を確認した。
	山王遺跡第 162 次調査では、平安時代の北１道路跡、掘立柱建物跡、小溝群を発見した。
	山王遺跡第 168 次調査では、古代の溝跡、土壙を発見した。
	山王遺跡第 193 次調査では、時期不明の溝跡、土壙を確認した
	山王遺跡第 194 次調査では、時期不明の溝跡を発見した。
	山王遺跡第 210 次調査では、近世の小溝、土壙を発見した。
	市川橋遺跡第 83 次調査では、古代の土壙を発見した。
	市川橋遺跡第 85 次調査では、古代の掘立柱建物跡を発見した。
	市川橋遺跡第 87 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	市川橋遺跡第 88 次調査では、古代の溝跡を発見した。
	市川橋遺跡第 89 次調査では、古代の溝跡、土壙を発見した。

要　約	市川橋遺跡第 90 次調査では、遺構・遺物は確認できなかった。
	市川橋遺跡第 99 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 92 次調査では、近代の建物跡を発見した。
	高崎遺跡第 94 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 95 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 96 次調査では、古代・中世の掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土壙・柱穴列を確認した。
	高崎遺跡第 107 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 108 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 113 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 115 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎遺跡第 123 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	高崎古墳群第 13 次調査では、古代の溝跡を発見した。
	大日南遺跡第 12 次調査では、時期不明の溝跡を確認した。
	大日南遺跡第 16 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	八幡館跡第７次調査では、中世の堀切、土橋、整地遺構、溝跡、時期不明の横穴墓を発見した。
	八幡沖遺跡第６次調査では、近世の溝跡、古代の土壙を発見した。
	八幡沖遺跡第８次調査では、古代・中世の掘立柱建物跡、区画溝跡、土壙を確認した。
	八幡沖遺跡第 10 次調査では、古代の溝跡、土壙を発見した。
	八幡沖遺跡第 11 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	八幡沖遺跡第 12 次調査では、時期不明のピットを発見した。
	八幡沖遺跡第 14 次調査では、古代の溝跡、柱穴、土壙を発見した。
	八幡沖遺跡第 15 次調査では、古代の溝跡、土壙を発見した。
	八幡沖遺跡第 16 次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	八幡沖遺跡第 17 次調査では、時期不明の土壙を発見した。
	大代囲洞窟遺跡第２次調査では、時期不明の溝跡を発見した。
	大代遺跡第３次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	大代遺跡第４次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	大代遺跡第５次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	東原遺跡第１次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	東原遺跡第２次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	野田遺跡第５次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。
	西原遺跡第３次調査では、遺構・遺物は発見できなかった。

多賀城市文化財調査報告書第146集
新田・山王・高崎・西沢遺跡ほか
－震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ－

令和３年３月27日　発行

編集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
　　多賀城市中央二丁目27番１号
電話　（０２２）３６８－０１３４
発行　多賀城市教育委員会
　　多賀城市中央二丁目１番１号
電話　（０２２）３６８－１１４１
印刷　凸版印刷株式会社
　　仙台市泉区明通三丁目30番
電話　（０２２）３７７－５２１１